道知事ノ命令第四十三條第一項第一號又ハ第三號ノ事項ノ變更ノ許可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ公告スベシ

第四十八條　漁業令第三十二條第一項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入リ又ハ障碍物ヲ變更若ハ除却スル場合ニ於テハ許可ノ指令書ヲ、前條第二項其ノ他ノ事由ニ因リ許可ノ指令書ヲ携帯スルコト能ハザルトキハ府尹、郡守又ハ島司ノ證明書ヲ携帶スベシ

第五章　補償及裁定

第四十八條ノ二　漁業令第三十三條第一項ノ規定ニ依ル公告ハ使用セントスル土地若ハ工作物其ノ他土地ノ定著物、立入ラントスル土地又ハ變更若ハ除却セントスル木竹其ノ他障碍物所在ノ府邑面ノ掲示場ニ通知スベキ事項ヲ掲示シテ之ヲ爲スベシ

第四十九條　漁業令第十二條第一號若ハ第二號ノ規定ニ依リ漁業ノ免許若ハ許可ヲ取消シタル場合、同令第十二條第一號乃至第三號ノ規定ニ依リ免許若ハ許可シタル漁業ヲ停止シタル場合又ハ同令第三十六條第二項ノ規定ニ依リ除害設備ヲ命ジタル場合ニ於テ其ノ處分ニ因リ損害ヲ受ケタル者アルトキハ朝鮮總督ハ損害ノ原因タル處分ニ因リ通常生ズベキ直接ノ損害ニ付其ノ全部又ハ一部ヲ補償スルコトヲ得

漁業令第十二條第三號ノ規定ニ依リ漁業ノ免許又ハ許可ヲ取消シタル場合ニ於テ其ノ處分ニ因リ損害ヲ受ケタル者アルトキハ朝鮮總督ハ損害ノ原因タル處分ニ因リ通常生ズベキ直接ノ損害ニ付之ヲ補償ス

第五十條　漁業令第十二條第一號乃至第三號ノ規定ニ依リ免許又ハ許可シタル漁業ヲ制限シタル場合ニ於テ其ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ損害ノ原因タル處分ニ因リ通常生ズベキ直接ノ損害ニ付其ノ一部ヲ補償スルコトヲ得

第五十一條　前二條ノ規定ニ依リ補償ノ申請ヲ爲サントスル者ハ漁業令第十二條第一號乃至第三號ノ規定ニ依ル處分ニ在リテハ其ノ處分アリタル日ヨリ、同令第三十六條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ在リテハ除害設備ノ完成シタル日ノ翌日ヨリ起算シ二月以内ニ左ニ掲ゲル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スベシ

一　免許又ハ許可ノ番號（漁業令第十二條第一號乃至第三號ノ規定ニ依リ處分ヲ受ケタル場合ニ限ル）又ハ除害設備ヲ命セラレタル年月日、工作物ノ所在ノ場所及種類（漁業令第三十六條第二項ノ規定ニ依リ處分ヲ受ケタル場合ニ限ル）

二　損害ノ事實

三　損害ノ見積金額、內譯及其ノ算定方法

前項ノ申請書ニハ證據書類ヲ添附スベシ

第一項ニ規定スル期間內ニ補償ノ申請ヲ爲シタル者ニ非ザレバ本令ニ依リ補償ヲ受クルコトヲ得ズ

第五十二條　漁業令第六十一條第三項ノ規定ニ依リ補償又ハ負擔ニ付裁定ヲ求メントスル者ハ補償又ハ其ノ負擔ノ決定書ノ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ二月以內ニ其ノ事由ヲ具シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スベシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ裁定ノ申請ニ之ヲ準用ス

第五十三條　漁業令第六十三條第二項ノ規定ニ依リ補償ニ付裁定ヲ求メントスル者ハ左ニ掲ゲル事項ヲ記載シタル申請書ヲ道知事ニ差出スベシ

一　使用若ハ除去制限又ハ立入リ若ハ變更、除却ノ許可ノ年月日

二　使用シ若ハ立入リタル土地ノ所在、地番、地目及面積又ハ除去ヲ制限シ若ハ變更、除却シタル物件ノ所在ノ場所、種類及數量

三　立入リ又ハ變更若ハ除却シタル時期及立入リタル期間

四　損害ノ事實

五　損害ノ見積金額、內譯及其ノ算定方法

六　對手方ノ氏名及住所

七　申請ノ目的及事由

第五十四條　漁業令第六十五條ノ規定ニ依リ專用漁業ノ漁場ニ於ケル漁業ニ關スル制限ニ付裁定ヲ求メントスル者ハ左ニ掲ゲル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スベシ

一　免許ノ番號

二　制限ヲ爲サントスル事項

三　制限ヲ爲サントスル時期又ハ期間

四　制限ヲ爲サントスル事由

五　對手方ノ氏名及住所

六　申請ノ事由

專用漁業ノ漁業權者又ハ入漁ヲ爲ス者二人以上アル場合ニ於テ其ノ一部ノ者ト協議調ハザルカ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザル爲漁業令第六十五條ノ規定ニ依リ裁定ヲ求メントスルトキハ前項ノ申請書ニ同意ヲ爲シタル者ノ同意ヲ添附スベシ

第五十五條　漁業令第六十六條ノ規定ニ依リ漁場ノ區域、漁業權ノ範圍、保護區域、漁業ノ方法又ハ入漁ノ慣行ニ付裁定ヲ求メントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スベシ

一　紛爭ノ事實

二　對手方ノ氏名及住所

三　申請ノ目的及事由

前項ノ申請書ニハ證據書類ヲ添附スベシ

第五十六條　前三條ノ申請書ニハ關係人ト交渉シタル顚末書又ハ交渉ヲ爲スコト能ハザル事由書竝ニ關係人ノ數ニ相當スル申請書及關係書類ノ副本ヲ添附スベシ

前三條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ朝鮮總督又ハ道知事ハ申請ニ對スル意見書ヲ差出スベキ旨ノ告知書及前項ノ副本ヲ關係人ニ送達スベシ

第五十七條　前條第二項ノ規定ニ依リ告知書ノ送達ヲ受ケタル場合ニ於テ意見書ノ差出期間ハ送達ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ二月以內トス

前項ノ期間內ニ意見書ヲ差出サザルトキハ意見ナキモノト看做ス

第五十八條　朝鮮總督又ハ道知事第五十一條乃至第五十五條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ第五十一條又ハ第五十二條ノ場合ニ在リテハ前條三條乃至第五十五條ノ場合ニ在リテハ前條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ在リテハ除害設備ノ完成シタル日ノ翌日ヨリ起算シ二月以內ニ裁定又ハ補償ノ決定ヲ爲スベシ

第五十九條　裁定又ハ補償若ハ負擔ノ決定ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲シ朝鮮總督又ハ道知事ハ遲滯ナク其ノ裁定書又ハ決定書ノ謄本ヲ關係人ニ送達スベシ

第六十條　漁業令第六十一條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル補償若ハ負擔ノ決定又ハ同令第六十一條第三項、第六十三條第二項若ハ第六十六條ノ規定ニ依ル裁定ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督又ハ道知事ハ鑑定人、事實參考人若ハ利害關係人ノ意見ヲ徵シ又ハ此等ノ者若ハ補償ヲ受クベキ者ヲ呼出シテ其ノ意見若ハ供述ヲ聽クコトヲ得

第六十一條　前條ノ規定ニ依リ鑑定人又ハ事實參考人ヲ呼出シタル場合ニ於テハ之ニ旅費及手當ヲ支給ス其ノ金額及支給方法ハ朝鮮總督之ヲ定ム

前條ノ規定ニ依リ利害關係人ヲ呼出シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ準ジ之ニ旅費及手當ヲ支給スルコトヲ得

第六章　罰則

第六十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第六條第六項ノ規定ニ依リ補償ニ付裁定ヲ求メントスル者ハ左ニ掲ゲル事項ヲ記載シタル申請書ヲ道知事ニ差出スベシ

一　使用若ハ除去制限又ハ立入リ若ハ變更、除却ノ許可ノ年月日

二　使用シ若ハ立入リタル土地ノ所在、地番、地目及面積又ハ除去ヲ制限シ若ハ變更、除却シタル物件ノ所在ノ場所、種類及數量

三　立入リ又ハ變更若ハ除却シタル時期及立入リタル期間

四　損害ノ事實

五　損害ノ見積金額、內譯及其ノ算定方法

六　對手方ノ氏名及住所

七　申請ノ目的及事由

第五十四條　漁業令第六十五條ノ規定ニ依リ專用漁業ノ漁場ニ於ケル漁業ニ關スル制限ニ付裁定ヲ求メントスル者ハ左ニ掲ゲル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スベシ

一　免許ノ番號

二　制限ヲ爲サントスル事項

三　制限ヲ爲サントスル時期又ハ期間

四　制限ヲ爲サントスル事由

五　對手方ノ氏名及住所

六　申請ノ事由

專用漁業ノ漁業權者又ハ入漁ヲ爲ス者二人以上アル場合ニ於テ其ノ一部ノ者ト協議調ハザルカ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザル爲漁業令第六十五條ノ規定ニ依リ裁定ヲ求メントスルトキハ前項ノ申請書ニ同意ヲ爲シタル者ノ同意ヲ添附スベシ

第五十五條　漁業令第六十六條ノ規定ニ依リ漁場ノ區域、漁業權ノ範圍、保護區域、漁業ノ方法又ハ入漁ノ慣行ニ付裁定ヲ求メントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スベシ

一　紛爭ノ事實

二　對手方ノ氏名及住所

三　申請ノ目的及事由

前項ノ申請書ニハ證據書類ヲ添附スベシ

第五十六條　前三條ノ申請書ニハ關係人ト交渉シタル顚末書又ハ交渉ヲ爲スコト能ハザル事由書竝ニ關係人ノ數ニ相當スル申請書及關係書類ノ副本ヲ添附スベシ

前三條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ朝鮮總督又ハ道知事ハ申請ニ對スル意見書ヲ差出スベキ旨ノ告知書及前項ノ副本ヲ關係人ニ送達スベシ

第五十七條　漁業令第八十一條又ハ同令第八十二條ノ規定ノ適用ニ付テハ左ノ上欄ニ掲ゲル舊令ニ依ル漁業ハ各相當下欄ニ掲ゲル本令ニ依ル漁業ニ該當スルモノトス

舊令ニ依ル漁業	本令ニ依ル漁業
第四種許可漁業	裸潛漁業
第五種許可漁業	海獸漁業
第六種許可漁業（螺旋推進器ヲ備フル漁船ヲ使用スルモノヲ除ク）、第七種許可漁業竝ニ第八種許可漁業中貝桁打瀨網漁業、海鼠桁打瀨網漁業及蝦漕網漁業	曳網漁業
第八種許可漁業中鮫鰊網漁業、中船網漁業、艤船網漁業、橋船網漁業及蝦柱木網漁業、第十種許可漁業中建干網漁業竝ニ第十一種許可漁業	敷網漁業
第八種許可漁業（鮫鰊網漁業、中船網漁業、艤船網漁業、橋船網漁業、蝦漕網漁業、蝦柱木網漁業及螺旋推進器ヲ備フル漁船ニ依リテ爲ス手繰網漁業ヲ除ク）	繰網漁業

第六十條　舊漁業令又ハ舊令ニ依リテ爲シタル免許、處分其ノ他ノ行爲ニ付テハ本令第十二條乃至第十四條、第二十九條第四項、第三十一條第三項、第三十七條及第三十八條第三項、第四項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

舊令ニ依ル漁業

第四種許可漁業

裸潛漁業

第五種許可漁業

海獸漁業

第六種許可漁業（螺旋推進器ヲ備フル漁船ヲ使用スルモノヲ除ク）、第七種許可漁業竝ニ第八種許可漁業中貝桁打瀨網漁業、海鼠桁打瀨網漁業及蝦漕網漁業

曳網漁業

第八種許可漁業中鮫鰊網漁業、中船網漁業、艤船網漁業、橋船網漁業及蝦柱木網漁業、第十種許可漁業中建干網漁業竝ニ第十一種許可漁業

敷網漁業

第八種許可漁業（鮫鰊網漁業、中船網漁業、艤船網漁業、橋船網漁業、蝦漕網漁業、蝦柱木網漁業及螺旋推進器ヲ備フル漁船ニ依リテ爲ス手繰網漁業ヲ除ク）

繰網漁業

附　則（昭和八年十二月總令第百四十一號）

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊第十五條第四號ニ該當スル漁業ニシテ機船ニ依リ漁網ヲ引旋シ網裾ヲ引締メテ爲スモノニ付爲シタル許可、處分其ノ他ノ行爲ハ之ヲ機船巾著網漁業ニ關シ本令ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

三條乃至第五十五條ノ場合ニ在リテハ前條第一項ノ期間ノ經過シタル日ノ翌日ヨリ起算シ三月以內ニ裁定又ハ補償ノ決定ヲ爲スベシ

第五十九條　裁定又ハ補償若ハ負擔ノ決定ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲シ朝鮮總督又ハ道知事ハ遲滯ナク其ノ裁定書又ハ決定書ノ謄本ヲ關係人ニ送達スベシ

第六十條　漁業令第六十一條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル補償若ハ負擔ノ決定又ハ同令第六十一條第三項、第六十三條第二項若ハ第六十六條ノ規定ニ依ル裁定ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督又ハ道知事ハ鑑定人、事實參考人若ハ利害關係人ノ意見ヲ徵シ又ハ此等ノ者若ハ補償ヲ受クベキ者ヲ呼出シテ其ノ意見若ハ供述ヲ聽クコトヲ得

第六十一條　前條ノ規定ニ依リ鑑定人又ハ事實參考人ヲ呼出シタル場合ニ於テハ之ニ旅費及手當ヲ支給ス其ノ金額及支給方法ハ朝鮮總督之ヲ定ム

前條ノ規定ニ依リ利害關係人ヲ呼出シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ準ジ之ニ旅費及手當ヲ支給スルコトヲ得

第六章　罰則

第六十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　使用若ハ除去制限又ハ立入リ若ハ變更、除却ノ許可ノ年月日

二　使用シ若ハ立入リタル土地ノ所在、地番、地目及面積又ハ除去ヲ制限シ若ハ變更、除却シタル物件ノ所在ノ場所、種類及數量

三　立入リ又ハ變更若ハ除却シタル時期及立入リタル期間

四　損害ノ事實

五　損害ノ見積金額、內譯及其ノ算定方法

六　對手方ノ氏名及住所

七　申請ノ目的及事由

第六十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第六條第六項ノ規定ニ依リ補償ニ付裁定ヲ求メントスル者ハ左ニ掲ゲル事項ヲ記載シタル申請書ヲ道知事ニ差出スベシ

一　使用若ハ除去制限又ハ立入リ若ハ變更、除却ノ許可ノ年月日

二　使用シ若ハ立入リタル土地ノ所在、地番、地目及面積又ハ除去ヲ制限シ若ハ變更、除却シタル物件ノ所在ノ場所、種類及數量

三　立入リ又ハ變更若ハ除却シタル時期及立入リタル期間

四　損害ノ事實

五　損害ノ見積金額、內譯及其ノ算定方法

六　對手方ノ氏名及住所

七　申請ノ目的及事由

第五十四條　漁業令第六十五條ノ規定ニ依リ專用漁業ノ漁場ニ於ケル漁業ニ關スル制限ニ付裁定ヲ求メントスル者ハ左ニ掲ゲル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スベシ

一　免許ノ番號

二　制限ヲ爲サントスル事項

三　制限ヲ爲サントスル時期又ハ期間

四　制限ヲ爲サントスル事由

五　對手方ノ氏名及住所

六　申請ノ事由

專用漁業ノ漁業權者又ハ入漁ヲ爲ス者二人以上アル場合ニ於テ其ノ一部ノ者ト協議調ハザルカ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザル爲漁業令第六十五條ノ規定ニ依リ裁定ヲ求メントスルトキハ前項ノ申請書ニ同意ヲ爲シタル者ノ同意ヲ添附スベシ

第五十五條　漁業令第六十六條ノ規定ニ依リ漁場ノ區域、漁業權ノ範圍、保護區域、漁業ノ方法又ハ入漁ノ慣行ニ付裁定ヲ求メントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スベシ

一　紛爭ノ事實

二　對手方ノ氏名及住所

三　申請ノ目的及事由

前項ノ申請書ニハ證據書類ヲ添附スベシ

第五十六條　前三條ノ申請書ニハ關係人ト交渉シタル顚末書又ハ交渉ヲ爲スコト能ハザル事由書竝ニ關係人ノ數ニ相當スル申請書及關係書類ノ副本ヲ添附スベシ

前三條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ朝鮮總督又ハ道知事ハ申請ニ對スル意見書ヲ差出スベキ旨ノ告知書及前項ノ副本ヲ關係人ニ送達スベシ

第五十七條　漁業令第八十一條又ハ同令第八十二條ノ規定ノ適用ニ付テハ左ノ上欄ニ掲ゲル舊令ニ依ル漁業ハ各相當下欄ニ掲ゲル本令ニ依ル漁業ニ該當スルモノトス

舊令ニ依ル漁業	本令ニ依ル漁業
第四種許可漁業	裸潛漁業
第五種許可漁業	海獸漁業
第六種許可漁業（螺旋推進器ヲ備フル漁船ヲ使用スルモノヲ除ク）、第七種許可漁業竝ニ第八種許可漁業中貝桁打瀨網漁業、海鼠桁打瀨網漁業及蝦漕網漁業	曳網漁業
第八種許可漁業中鮫鰊網漁業、中船網漁業、艤船網漁業、橋船網漁業及蝦柱木網漁業、第十種許可漁業中建干網漁業竝ニ第十一種許可漁業	敷網漁業
第八種許可漁業（鮫鰊網漁業、中船網漁業、艤船網漁業、橋船網漁業、蝦漕網漁業、蝦柱木網漁業及螺旋推進器ヲ備フル漁船ニ依リテ爲ス手繰網漁業ヲ除ク）	繰網漁業

第六十條　舊漁業令又ハ舊令ニ依リテ爲シタル免許、處分其ノ他ノ行爲ニ付テハ本令第十二條乃至第十四條、第二十九條第四項、第三十一條第三項、第三十七條及第三十八條第三項、第四項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

附　則（昭和八年十二月總令第百四十一號）

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊第十五條第四號ニ該當スル漁業ニシテ機船ニ依リ漁網ヲ引旋シ網裾ヲ引締メテ爲スモノニ付爲シタル許可、處分其ノ他ノ行爲ハ之ヲ機船巾著網漁業ニ關シ本令ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

朝鮮漁業保護取締規則

朝鮮漁業令（以下單ニ漁業令ト稱ス）第十六條ノ規定ニ依リ保護區域ヲ第一號表ノ通定ム

前項ノ保護區域內ニ於テハ免許ヲ受ケタル漁業ヲ爲ス者ノ就業中左ニ掲ゲル漁業ヲ爲スコトヲ禁止スル但シ免許ヲ受ケタル他ノ漁業、保護區域內ノ特定ノ場所ニ於テ爲ス慣行アル漁業ニシテ道知事ノ認メタルモノ及第二號ニ該當スル漁業ニシテ道知事ニ於テ支障ナシト認メタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　免許ヲ受ケタル漁業ノ採捕物ト同一種類ノモノヲ採捕スル漁業

二　漁網ヲ使用シテ爲ス漁業

三　火光ヲ利用シ其ノ他水產動物ヲ誘集スル方法ニ依リテ爲ス漁業

四　音響ヲ利用シ其ノ他水產動物ヲ逃驅スル方法ニ依リテ爲ス漁業

前項本文ノ規定ハ免許ヲ受ケタル漁業ヲ爲ス者ノ承認ヲ受ケテ漁業ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セズ

第二條「トロール」漁業ハ第二號表及其ノ附圖、機船底曳網漁業ハ第三號表及第四號表竝ニ其ノ附圖、打瀨網漁業（桁打瀨網ヲ使用シテ爲スモノヲ除ク）ハ第五號表及其ノ附圖ニ掲ゲル區域內ニ於テ之ヲ爲スコトヲ禁止ス

第二條ノ二　機船底曳網漁業ハ朝鮮漁業令施行規則第十七條ノ規定ニ依ル其ノ操業區域中第二區ニ於テハ一月十六日ヨリ三月三十一日ニ至ル期間日沒ヨリ日出迄操業ヲ禁止ス

第三條　水產動植物ヲ採捕スル爲漁業繼、藻打瀨網又ハ藻曳網ヲ使用スルコトヲ禁止ス

第四條　水產動植物ヲ採捕スル爲左ニ掲ゲル漁網ヲ使用スルコトヲ禁止ス但シ特別ノ事由アリテ道知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　打瀨網、手繰網、ぐち繰網、地曳網漕網、鮫鰊網、漏斗網、建干網其ノ他之ニ準ズル構造ノ漁網ニシテ網目十五ミリメートル以下ノモノ

二　綟子網其ノ他ノ織網地ニシテ十五センチメートルニ付二十六目ヲ超エルモノ又ハ細目網地ニシテ十五センチメートルニ付二十五節ヲ超エルモノヲ用ヒテ構造シタル漁網

第五條　左ニ掲ゲル水產動植物ハ第六號表又ハ第七號表ニ掲ゲル區域內ニ於テハ同表ニ掲ゲル期間之ヲ採捕スルコトヲ禁止ス但シ第四號ニ掲ゲル水產植物ニ付道知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　まず、まず、にしん及たらさけ、ます、あゆ、にしん及たら

二　あわび、いがい、はまぐり、あさり、たいらぎ及まて

三　なまこ、たらばがに、すわいがに、けがに及すっぽん

四　わかめ、ふのり、しようぶも、てんぐさ及ほんだわら

第六條　左ニ掲ゲル水產動物ニシテ其ノ下ニ掲ゲル體長（貝類ニ在リテハ殼ノ最長部ノ直徑、すっぽん、たらばがに、すわいがに及けがにニ在リテハ背甲ノ最長部ノ直徑、魚類ニ在リテハ吻端ヨリ尾端ニ至ル最長部ノ直徑）以下ノモノハ之ヲ採捕スルコトヲ禁止ス

一　あわび　七センチメートル（慶尙北道及黃海道ニ在リテハ八センチメートル、慶尙南道ニ在リテハ蔚山郡、東萊郡及釜山府ニ於テハ八センチメートル其ノ他ノ地ニ於テハ九センチメートル、全羅南道ニ在リテハ務安郡黑山面ニ於テハ九センチメートル）

二　たいらぎ　二十一センチメートル

三　すっぽん　九センチメートル

四　あげまき　四十五ミリメートル

五　たらばがに　十二センチメートル

朝鮮漁業保護取締規則

昭和四年十二月總令第百九號

改正　昭和五年一二第一〇二號、六年七第八號、七年一第六號、七年三第八號、七年五第四四號、八年一一第一三號

第一條　朝鮮漁業令（以下單ニ漁業令ト稱ス）第十六條ノ規定ニ依リ保護區域ヲ第一號表ノ通定ム

前項ノ保護區域內ニ於テハ免許ヲ受ケタル漁業ヲ爲ス者ノ就業中左ニ掲ゲル漁業ヲ爲スコトヲ禁止スル但シ免許ヲ受ケタル他ノ漁業、保護區域內ノ特定ノ場所ニ於テ爲ス慣行アル漁業ニシテ道知事ノ認メタルモノ及第二號ニ該當スル漁業ニシテ道知事ニ於テ支障ナシト認メタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　免許ヲ受ケタル漁業ノ採捕物ト同一種類ノモノヲ採捕スル漁業

二　漁網ヲ使用シテ爲ス漁業

三　火光ヲ利用シ其ノ他水產動物ヲ誘集スル方法ニ依リテ爲ス漁業

四　音響ヲ利用シ其ノ他水產動物ヲ逃驅スル方法ニ依リテ爲ス漁業

前項本文ノ規定ハ免許ヲ受ケタル漁業ヲ爲ス者ノ承認ヲ受ケテ漁業ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セズ

第二條「トロール」漁業ハ第二號表及其ノ附圖、機船底曳網漁業ハ第三號表及第四號表竝ニ其ノ附圖、打瀨網漁業（桁打瀨網ヲ使用シテ爲スモノヲ除ク）ハ第五號表及其ノ附圖ニ掲ゲル區域內ニ於テ之ヲ爲スコトヲ禁止ス

第二條ノ二　機船底曳網漁業ハ朝鮮漁業令施行規則第十七條ノ規定ニ依ル其ノ操業區域中第二區ニ於テハ一月十六日ヨリ三月三十一日ニ至ル期間日沒ヨリ日出迄操業ヲ禁止ス

第三條　水產動植物ヲ採捕スル爲漁業繼、藻打瀨網又ハ藻曳網ヲ使用スルコトヲ禁止ス

第四條　水產動植物ヲ採捕スル爲左ニ掲ゲル漁網ヲ使用スルコトヲ禁止ス但シ特別ノ事由アリテ道知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　打瀨網、手繰網、ぐち繰網、地曳網漕網、鮫鰊網、漏斗網、建干網其ノ他之ニ準ズル構造ノ漁網ニシテ網目十五ミリメートル以下ノモノ

二　綟子網其ノ他ノ織網地ニシテ十五センチメートルニ付二十六目ヲ超エルモノ又ハ細目網地ニシテ十五センチメートルニ付二十五節ヲ超エルモノヲ用ヒテ構造シタル漁網

第五條　左ニ掲ゲル水產動植物ハ第六號表又ハ第七號表ニ掲ゲル區域內ニ於テハ同表ニ掲ゲル期間之ヲ採捕スルコトヲ禁止ス但シ第四號ニ掲ゲル水產植物ニ付道知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　まず、まず、にしん及たらさけ、ます、あゆ、にしん及たら

二　あわび、いがい、はまぐり、あさり、たいらぎ及まて

三　なまこ、たらばがに、すわいがに、けがに及すっぽん

四　わかめ、ふのり、しようぶも、てんぐさ及ほんだわら

第六條　左ニ掲ゲル水產動物ニシテ其ノ下ニ掲ゲル體長（貝類ニ在リテハ殼ノ最長部ノ直徑、すっぽん、たらばがに、すわいがに及けがにニ在リテハ背甲ノ最長部ノ直徑、魚類ニ在リテハ吻端ヨリ尾端ニ至ル最長部ノ直徑）以下ノモノハ之ヲ採捕スルコトヲ禁止ス

一　あわび　七センチメートル（慶尙北道及黃海道ニ在リテハ八センチメートル、慶尙南道ニ在リテハ蔚山郡、東萊郡及釜山府ニ於テハ八センチメートル其ノ他ノ地ニ於テハ九センチメートル、全羅南道ニ在リテハ務安郡黑山面ニ於テハ九センチメートル）

二　たいらぎ　二十一センチメートル

三　すっぽん　九センチメートル

四　あげまき　四十五ミリメートル

五　たらばがに　十二センチメートル

朝鮮漁業保護取締規則

昭和四年十二月總令第百九號

改正　昭和五年一二第一〇二號、六年七第八號、七年一第六號、七年三第八號、七年五第四四號、八年一一第一三號

六　すわいがに　十二センチメートル
七　けがに　九センチメートル
八　たら　三十センチメートル（全羅南道、全羅北道、忠淸南道、京畿道、黃海道、平安南道及平安北道ニ在リテハ二十センチメートル）
九　めんたい　三十センチメートル
十　まだい、れんこだい　十五センチメートル
十一　つのざめ　三十センチメートル（江原道、慶尙北道及慶尙南道ニ限ル）

たらばがに、すわいがに及けがにノ雌ハ之ヲ採捕スルコトヲ禁止ス

第二項ノ規定ニ違反シテ採捕シタル物ハ之ヲ販賣又ハ交換ノ目的ヲ以テ讓受クルコトヲ禁止ス

第七條　前四條ノ規定ハ水產動植物ノ養殖ヲ爲ス者朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ其ノ養殖ニ必要ナル水產動植物ヲ採捕スル場合又ハ官公署ニ於テ爲ス試驗、調査ノ爲若ハ學術研究其ノ他特別ノ事由ニ因リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ水產動植物ヲ採捕スル場合ニ之ヲ適用セズ

前項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スベシ

一　採捕ノ目的及事由
二　採捕セントスル水面ノ位置及區域
三　採捕ノ方法
四　採捕物ノ種類及數量
五　採捕ノ時期
六　許可ヲ受ケントスル期間

前項ノ申請書ニハ採捕セントスル水面ノ位置及區域圖ヲ添附スベシ

第八條　捕鯨漁業ニ依リ捕獲シタル鯨ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル區域以外ノ場所ニ於テ之ヲ處理スルコトヲ禁止ス

第九條　道知事ノ指定スル地域ニ於テハ其ノ地域內ノ指定スル區域ニ非ザレバ漁獲物又ハ其ノ製品ノ陸揚、賣買、交換又ハ賣買若ハ交換ノ委託ヲ爲スコトヲ得ズ

道知事必要アリト認ムルトキハ前項ノ漁獲物ノ種類又ハ前項ノ規定ニ依リ禁止スル行爲ヲ限定スルコトヲ得

項二項ノ規定ニ依リ指定シタル區域ニ於テ賣買又ハ交換シタル物ノ賣買、交換及賣買又ハ交換ノ委託ニ付テハ之ヲ適用セズ

「トロール」漁業ノ漁獲物ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル地域以外ノ場所ニ陸揚ヲ爲スコトヲ禁止ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ道知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　工船漁業ニ使用スル船舶ニハ幅四十センチメートルノ黃色ノ橫線ヲ船首尾ヲ通ジ其ノ兩舷側ノ上端ニ近ク表示スベシ

機船底曳網漁業ニ使用スル機船ニハ三十センチメートルノ間隔ヲ置キタル幅二十センチメートルノ黑色ノ橫線二條ヲ其ノ操舵室ノ外面周圍ニ、第一號樣式ニ依ル許可ノ記號及番號ヲ其ノ船首部兩舷側ノ見易キ箇所ニ表示スベシ

第十一條　許可狀又ハ鐵札ハ漁業ニ從事スル間漁船ヲ使用スルモノニ在リテハ之ニ備附ケ、漁船ヲ使用セザルモノニ在リテハ漁業ニ從事スル者携帶スベシ但シ其ノ再交付ノ申請中ナルトキ又ハ官廳ニ提出中ナルトキハ府尹、郡守又ハ島司ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

許可狀、鐵札及前項ノ證明書ハ之ヲ讓渡シ又ハ貸付スルコトヲ得ズ

前二項ノ規定ハ第五條但書、第七條第一項、第十三條第一項又ハ第十四條ノ規定ニ依ル許可ノ指令書ニ之ヲ準用ス

第十二條　漁業ノ取締ニ從事スル船舶ヨリ左ニ揭グル方法ニ依ル信號ヲ受ケタルトキハ漁業ニ從事スル船舶ハ停船スベシ

一　晝間ニ在リテハ第二號樣式ノ停船信號旗（萬國船舶信號書ニ掲載セル停船信號）ヲ揭ゲ且約一秒時ノ間隙ヲ以テ汽笛（號角ヲ含ム）ノ長聲（約四秒時乃至六秒時ノ發聲）一發短聲（約一秒時ノ發聲）四發ヲ連發ス

二　夜間ニ在リテハ前號ニ規定スル晝間信號ヲ爲ス

第十三條　公共ノ用ニ供スル水面又ハ之ト連接シテ一體ヲ爲ス公共ノ用ニ供セザル水面ニ於テ水產動植物ノ採捕又ハ養殖ノ試驗又ハ調査ヲ爲サントスル者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ但シ官公署（朝鮮總督府、同水產試驗場及朝鮮外ノ官公署ヲ除ク）カ試驗若ハ調査ヲ爲サントスル場合ニ於テ道知事ノ免許又ハ許可ヲ爲ス漁業ニ該當スルモノニ在リテハ試驗又ハ調査ノ區域ガ二以上ノ道知事ノ管轄ニ屬スル場合ヲ除クノ外道知事ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督又ハ道知事ニ差出スベシ

一　試驗又ハ調査ノ目的及事由
二　試驗又ハ調査ヲ爲サントスル位置及區域
三　試驗又ハ調査ノ方法
四　採捕物又ハ養殖物ノ種類
五　試驗又ハ調査ノ時期
六　許可ヲ受ケントスル期間

前項ノ申請書ニハ試驗又ハ調査ノ計畫書及試驗又ハ調査ヲ爲サントスル水面ノ位置及區域圖ヲ添附スベシ

第十四條　前條ノ規定ハ學校、傳習所、講習所等ニ於テ教習ノ目的ヲ以テ水產動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　道知事ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ漁業令又ハ本令其ノ他ノ漁業令ニ基キテ發スル命令ニ規定スルモノヲ除クノ外水產動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條又ハ第二條ノ二ノ規定ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者及其ノ漁業ニ使用シタル船舶ノ船長又ハ船長ノ職務ヲ執リタル者

第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル者

二　第三條又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル者

第十七條　前條ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ物若ハ其ノ製品ノ種類又ハ前項ノ規定ニ依

又ハ所持スル採捕物、其ノ製品又ハ漁具（副漁具ヲ含ム）ニシテ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑法第十九條第一項ノ物ハ之ヲ沒收ス

前項ノ場合ニ於テ沒收スベキ物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第一項ニ規定スルモノヲ除クノ外前條ノ場合ニ於テハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑法第十九條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條第二項、第五條、第六條、第八條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者
二　第十一條第二項又ハ第三項ノ規定ニ違反シテ讓渡又ハ貸付ヲ爲シタル者
三　許可ヲ受ケズシテ第十三條第一項ノ試驗又ハ調査ヲ爲シタル者

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲サザル者

一　第十一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シ許可狀、許可ノ指令書、鐵札又ハ證明書ヲ備付ケズ又ハ携帶セザル者
二　第十二條ノ規定ニ違反シ停船ヲ爲サザリシ船舶ノ船長又ハ船長ノ職務ヲ執リタル者

附　則

本令ハ朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

漁業取締規則ハ之ヲ廢止ス

藻類網漁業、藻打瀨網漁業又ハ藻曳網漁業ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ本令施行ノ際未ダ其ノ有效期間滿了セザルモノニ付テハ其ノ期間滿了スルニ至ル迄第三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

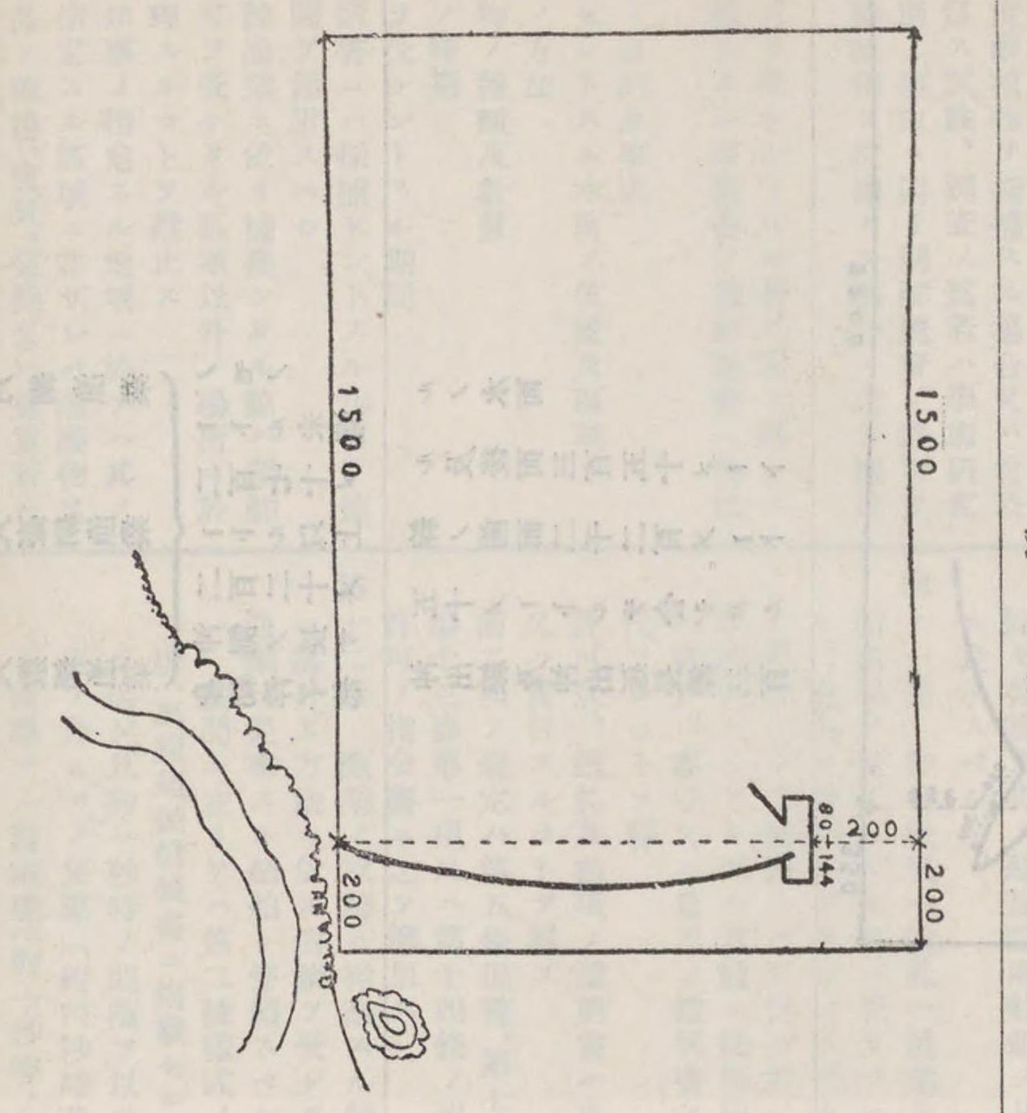
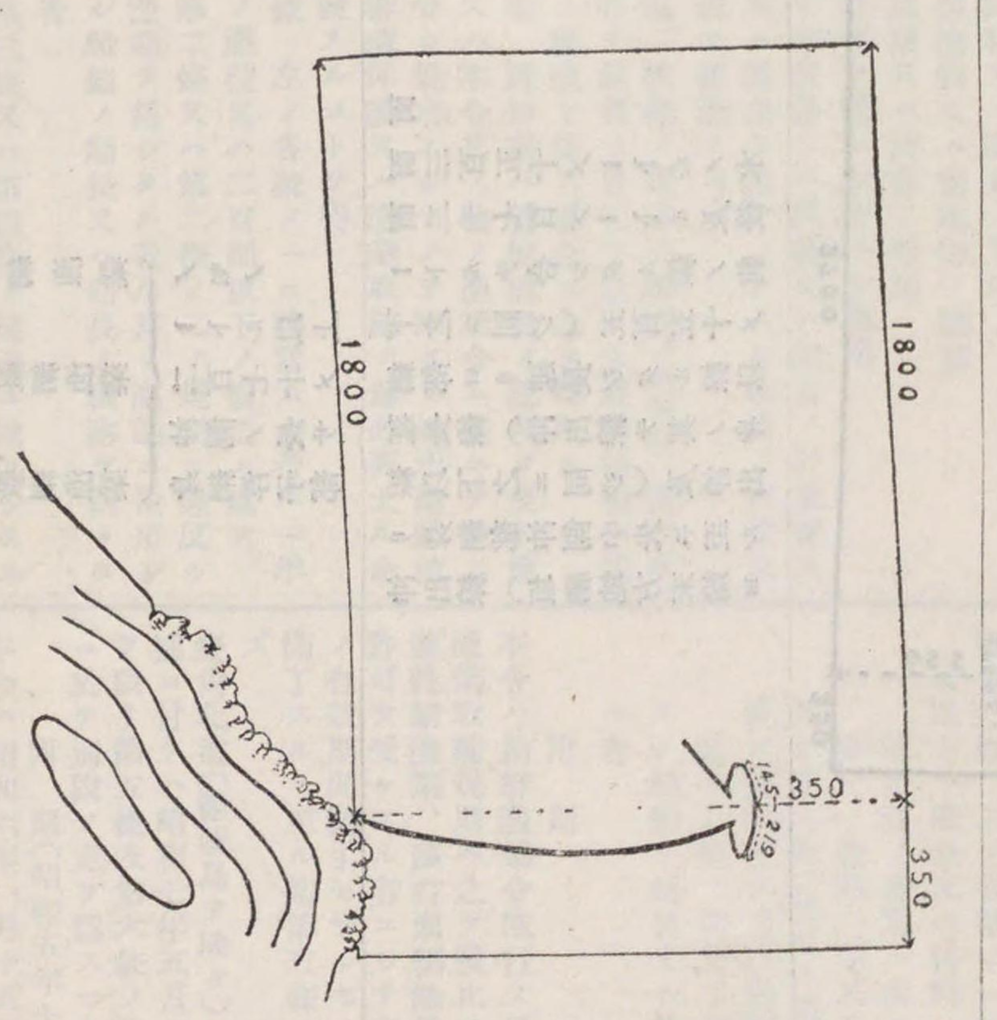
慶尙北道（鬱陵島ヲ除ク）ニ於ケルあわびノ採捕ニ付テハ昭和七年五月二十一日ヨリ二年間ヲ限リ第五條及第六條ノ規定ニ拘ラズ道知事ニ於テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

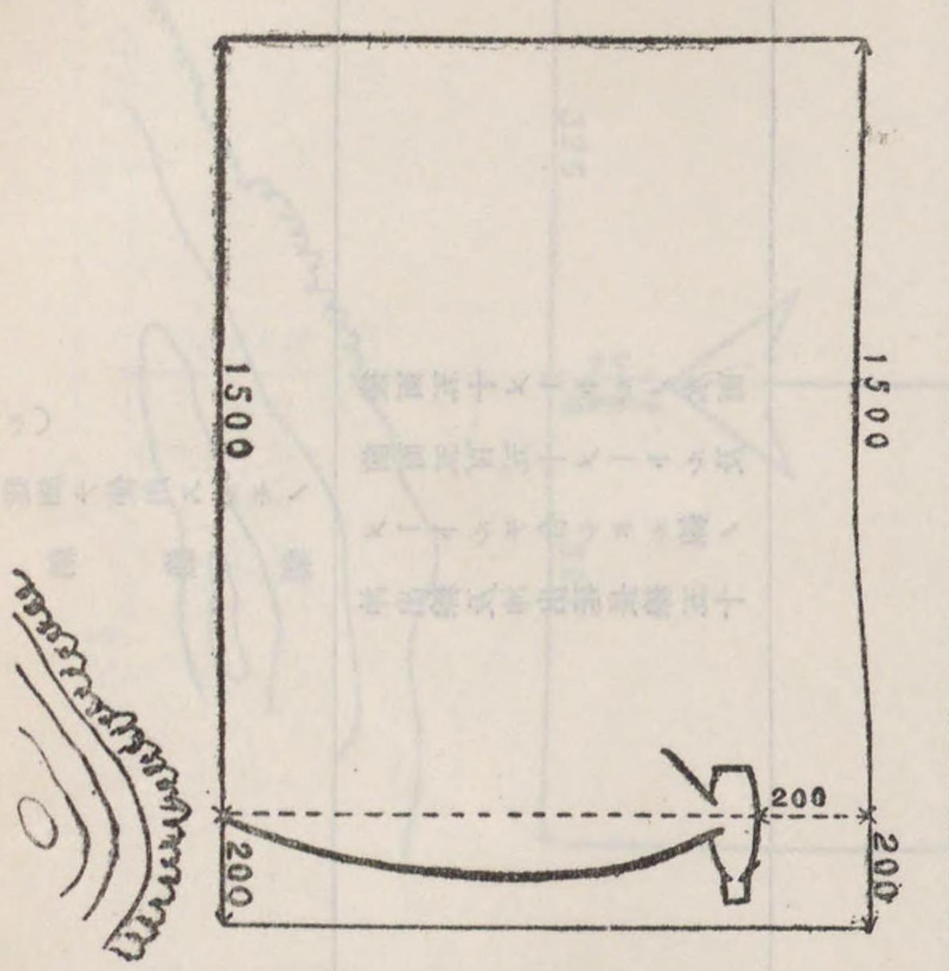
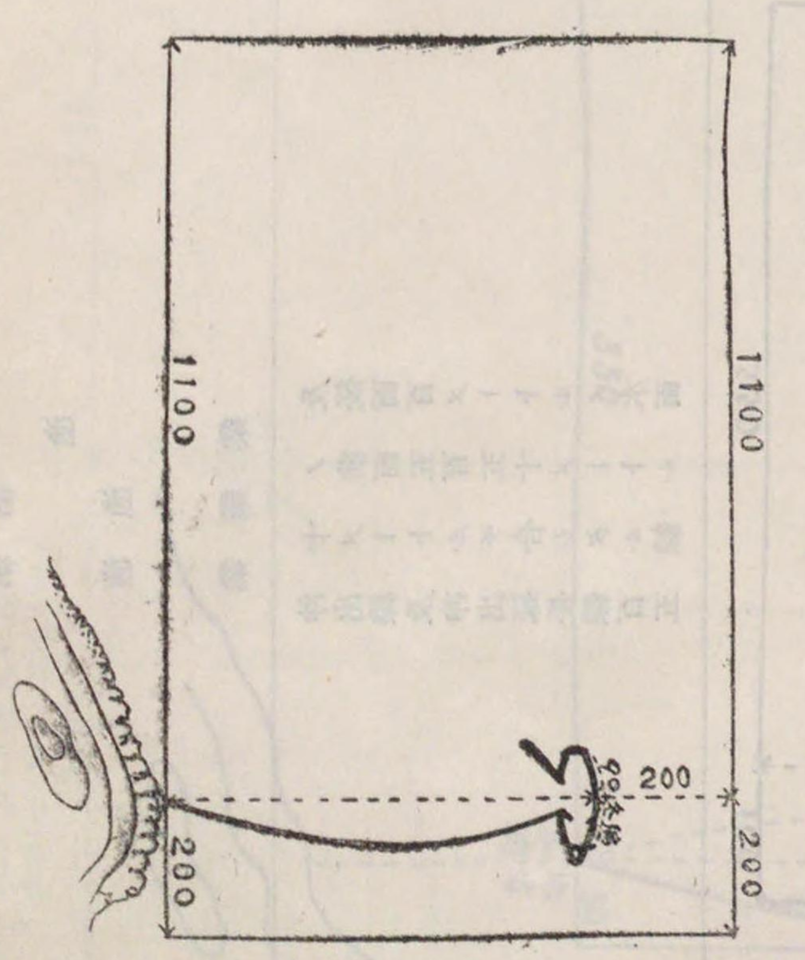
附則（昭和五年十二月總令第百二號）

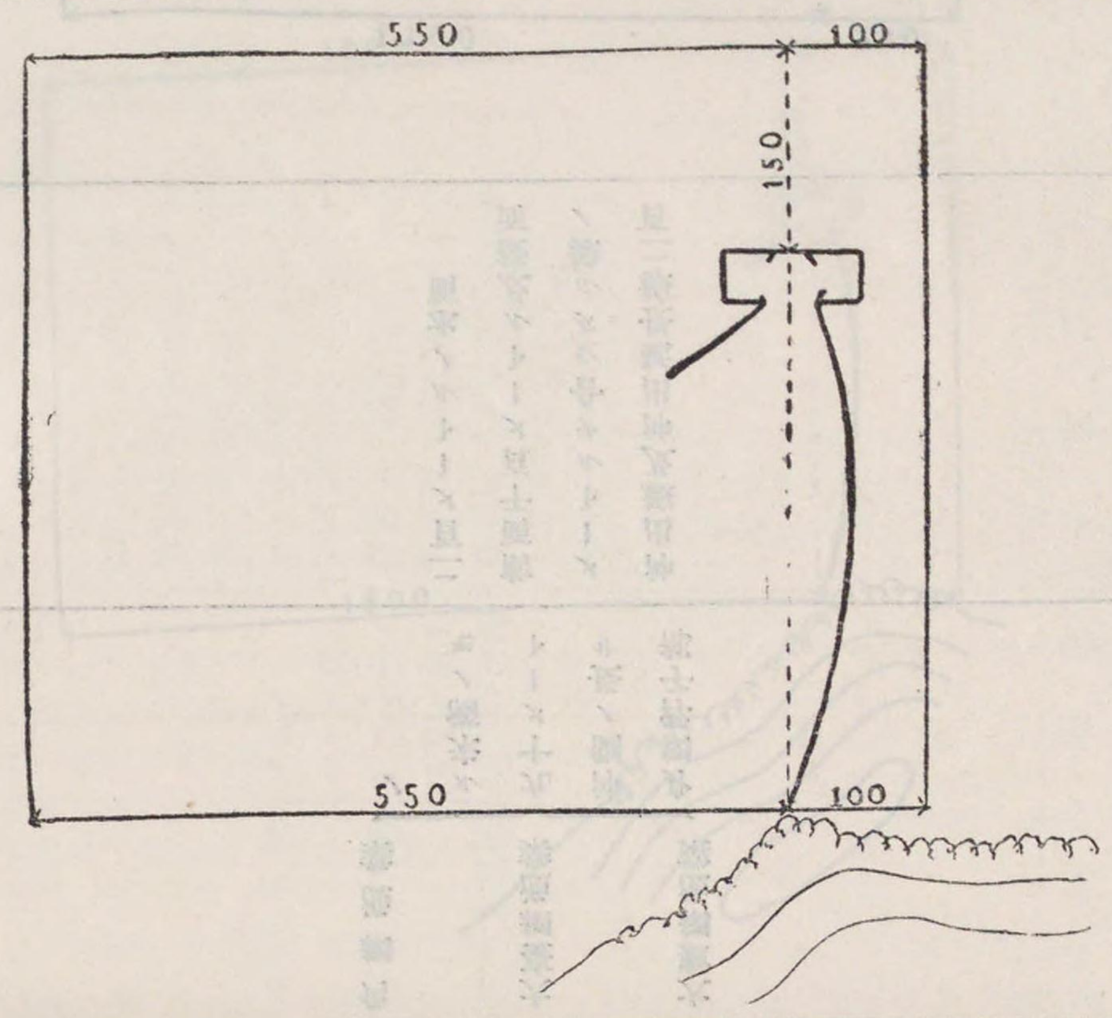
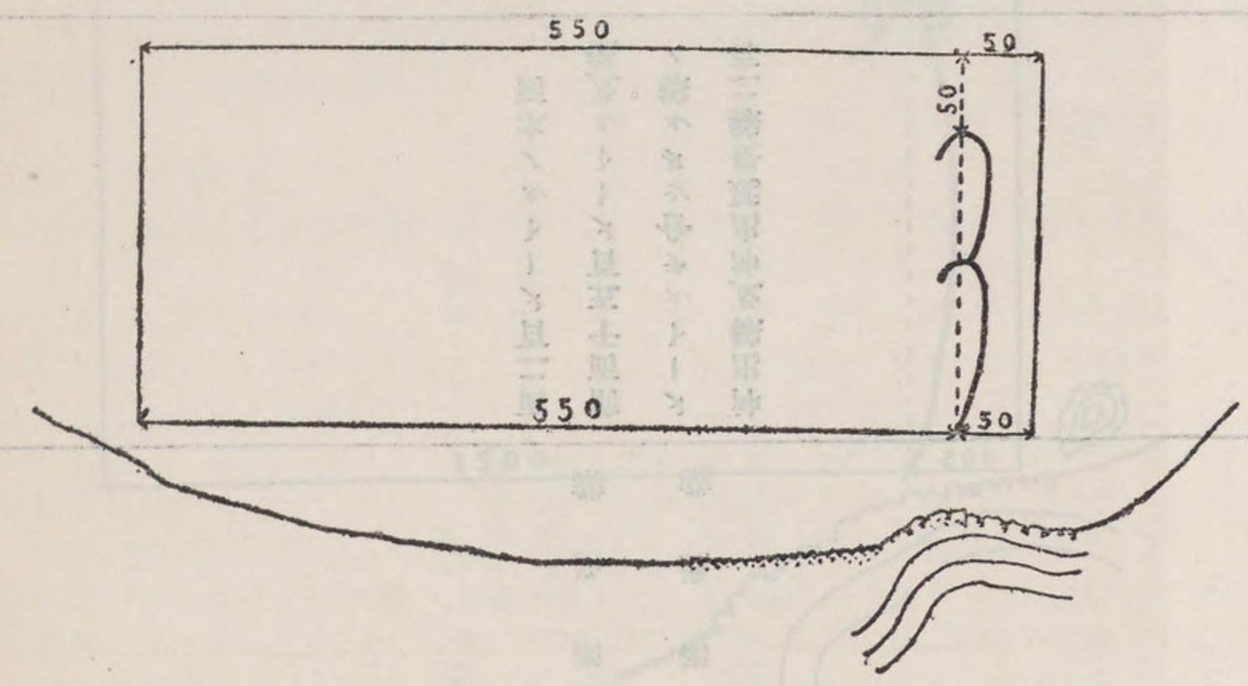
本令ハ昭和六年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和七年一月總令第六號）

本令ハ昭和七年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

漁業ノ名稱	保護區域	保護區域圖解
大敷網漁業 大臺網漁業 角網漁業 ノ身網浮子部沖側ノ長サ九十メートル以上四百五十メートル未満ノモノ	沖出線及沖出延長線二百メートル前面千五百メートルニ合シタル線ノ前面二百メートル及後面ノ水面	
大敷網漁業 大臺網漁業 角網漁業 ノ身網浮子部沖側ノ長サ四百五十メートル以上一千二百三十メートル未満ノモノ	沖出線及沖出延長線三百五十メートル前面千八百メートルニ合シタル線ノ前面三百五十メートル及後面ノ水面	

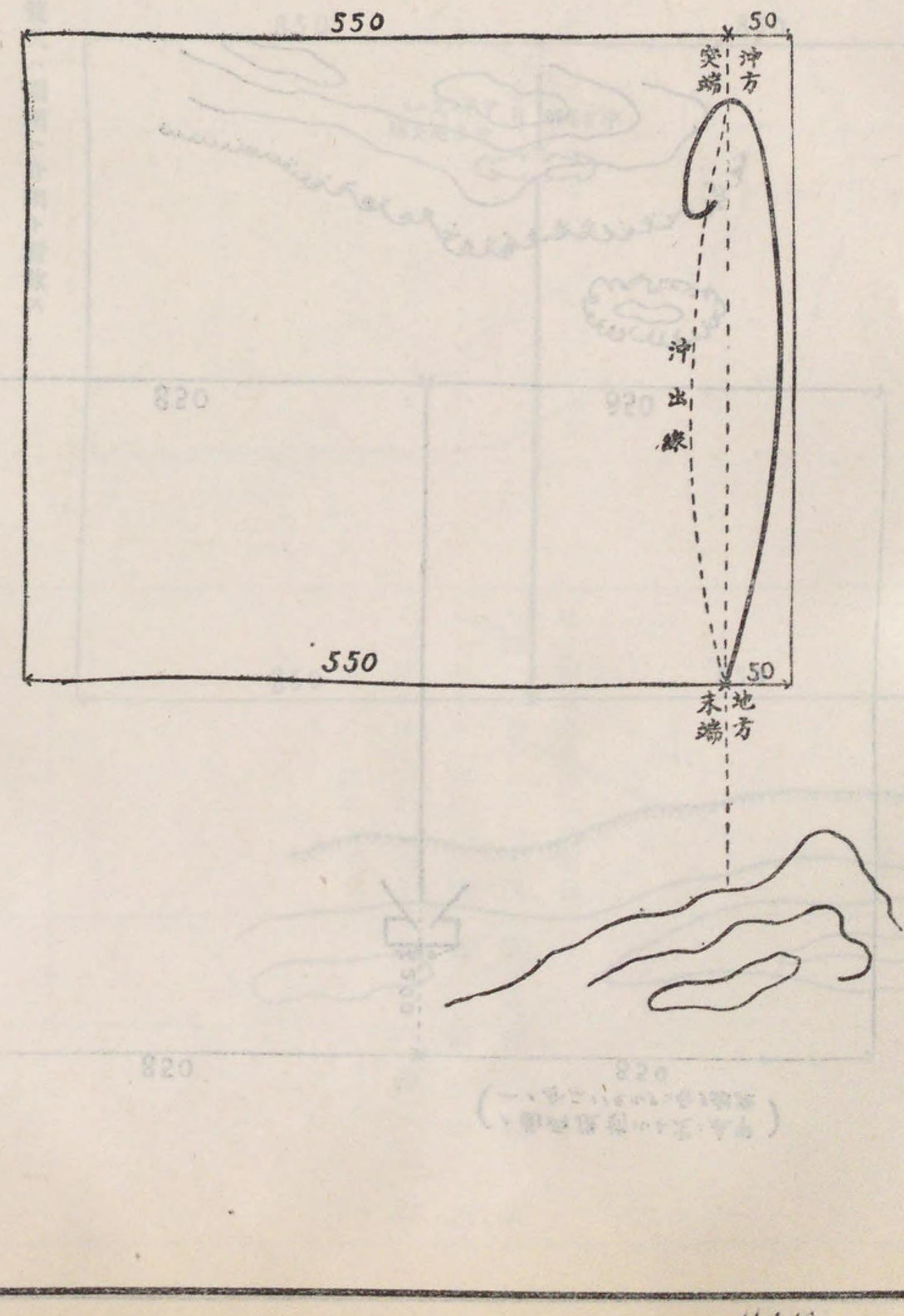
漁業ノ名稱	保護區域	保護區域圖解
小臺網漁業 行成網漁業	沖出線及沖出延長線二百メートル前面千五百メートルニ合シタル線ノ前面二百メートル及後面ノ水面	
大敷網漁業 大臺網漁業 角網漁業 ノ身網浮子部沖側ノ長サ九十メートル未満ノモノ	沖出線及沖出延長線二百メートル前面千百メートルニ合シタル線ノ前面二百メートル及後面ノ水面	

漁業ノ名称	落網漁業 桝網漁業 魞漁業	建網漁業 （曲建網ヲ使用スルモノニ限ル）
保護区域	沖出線及沖出延長線百五十メートルヲ合シタル線ノ前面五百五十メートル及後面百メートルノ水面	沖出線及沖出延長線五十メートルヲ合シタル線ノ前面五百五十メートル及後面五十メートルノ水面
保護区域図解		

備考

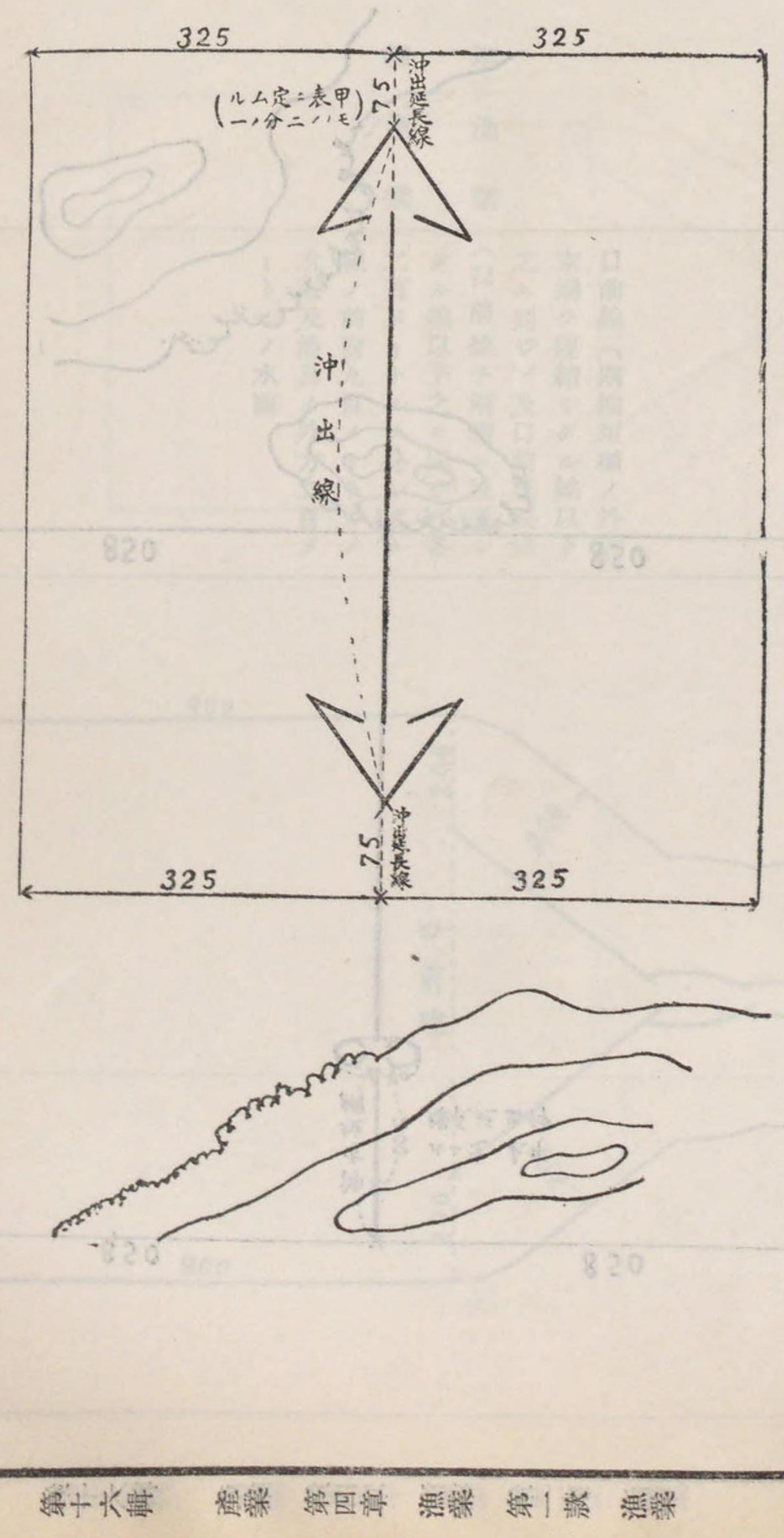
一　曲建網ノ沖出線ハ漁具ノ地方末端ヨリ沖方突端ニ至ル線トス

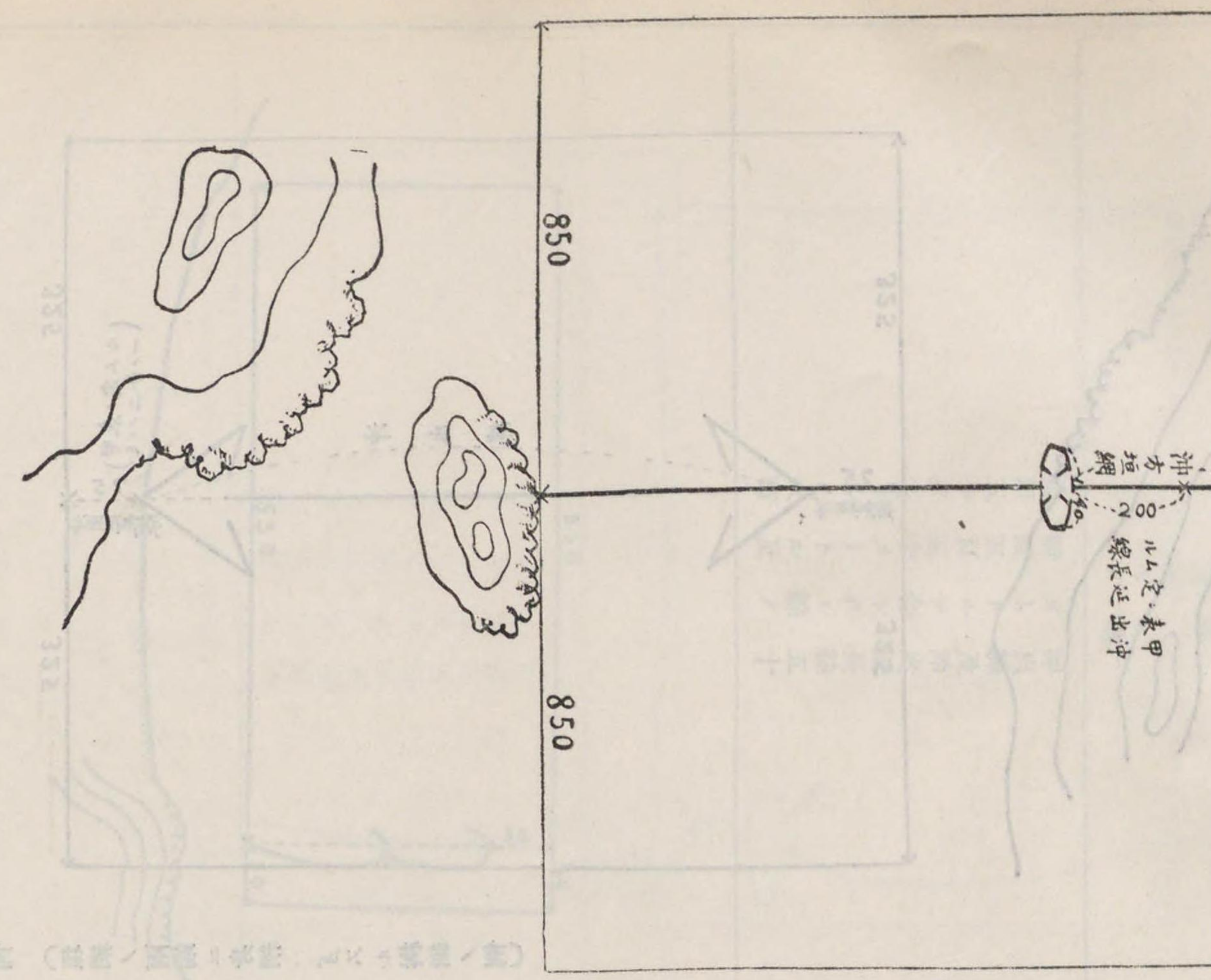
例



二　垣網ノ両端ニ身網ヲ有スルモノノ沖出線ハ両身網部外側中央ヲ連絡シタル線トシ各沖出延長線ハ甲表ニ定ムルモノノ二分ノ一トス

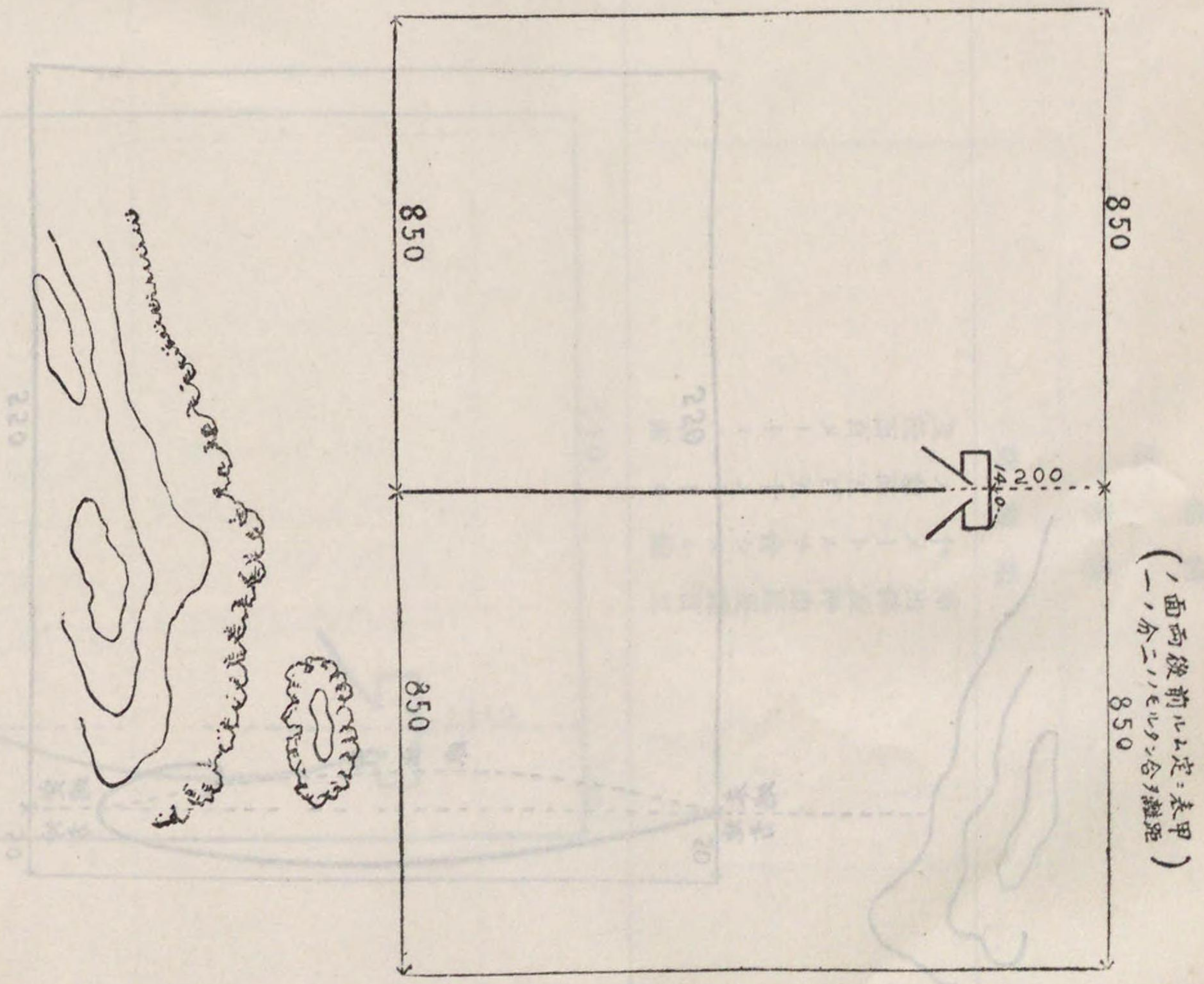
例（垣網ノ両端ニ身網ヲ有スル桝網ノ例）





例一　沖方垣網ガ沖出延長線ヨリ長キモノ（身網容子部沖側ノ長サ百四十メートルノ八角網ノ例）

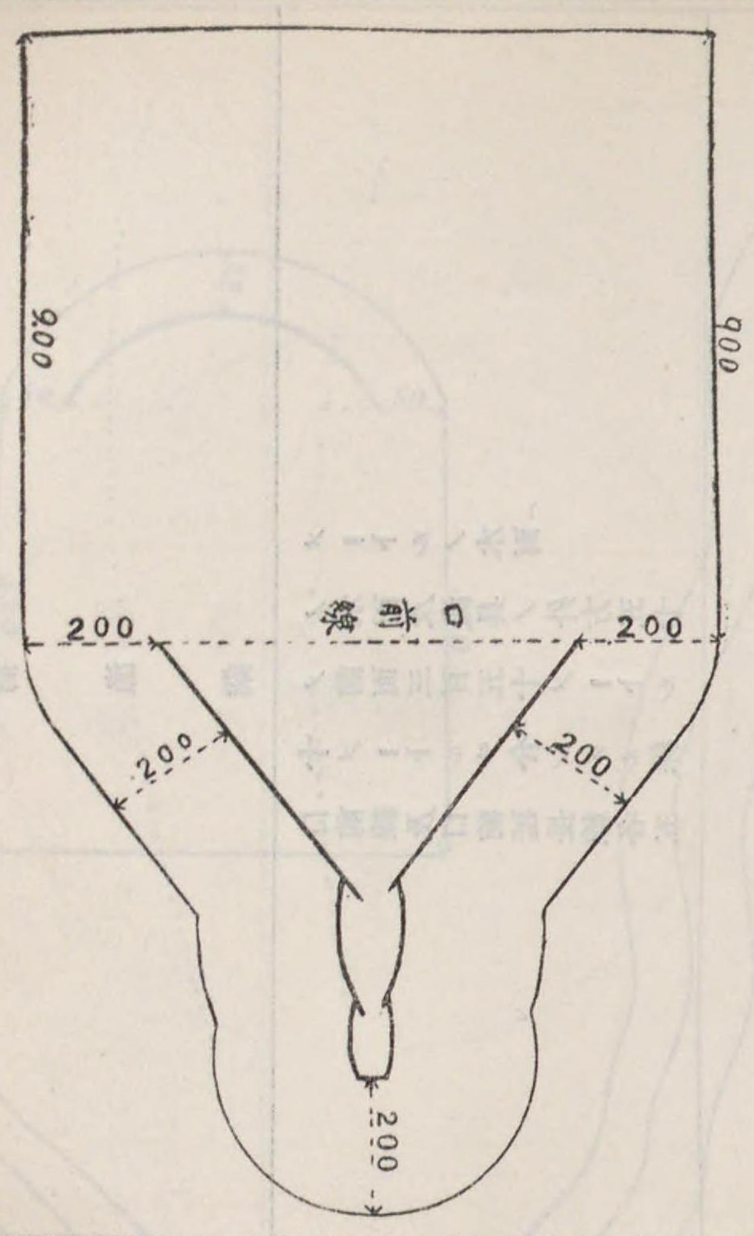
四　身網ニ地方垣網ノ外沖口及之ニ對スル垣網ヲ有スルモノハ沖方垣網ノ長サガ甲表ニ定ムル沖出延長線ヨリ長キトキハ其沖方垣網ノ末端ヨリ身網部沖側中央ニ至ル線ノ長サニ依リ短キトキハ甲表ニ依ル



三　垣網ノ左右ニ網口ヲ有スルモノニ在リテハ沖出線及沖出延長線ノ前後兩面ニ於テ甲表ニ定ムル前後兩面ノ距離ヲ合シタルモノノ二分ノ一ノ水面トス

例（身網容子部沖側ノ長サ百四十メートルノ角網ニシテ垣網ノ左右ニ網口ヲ備フルモノヲ使用シテ爲ス角網漁業ノ例）

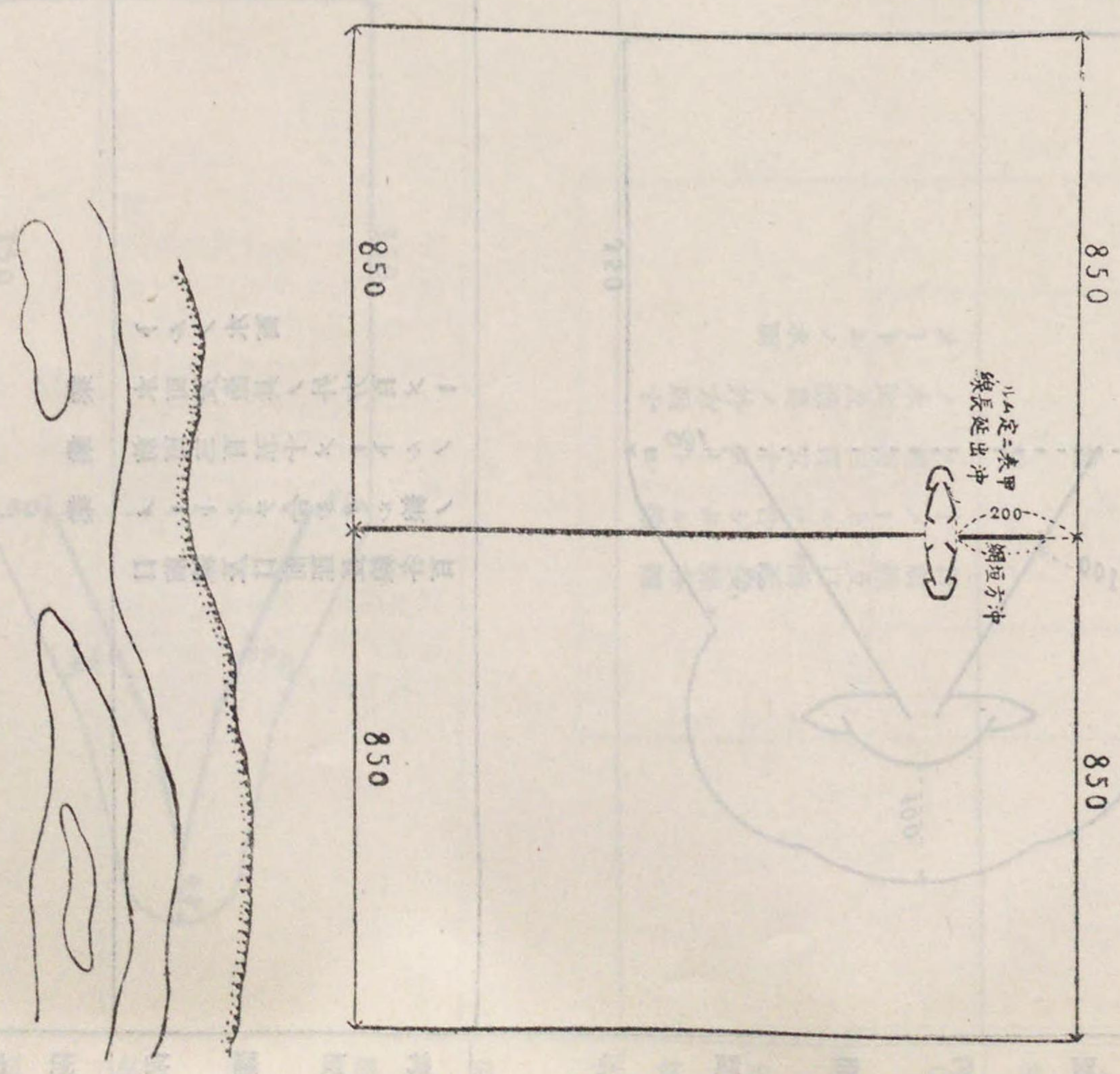
漁業ノ名稱	保護區域
小臺網漁業 行成網漁業	口前線（兩袖垣網ノ末端ヲ連結シタル線以下之ニ同ジ）ノ前面九百メートル及口前延長線（口前線ヲ兩側ニ延長シタル線以下之ニ同ジ）ノ外方各二百メートルノ水面及漁具ノ外方二百メートルノ水面



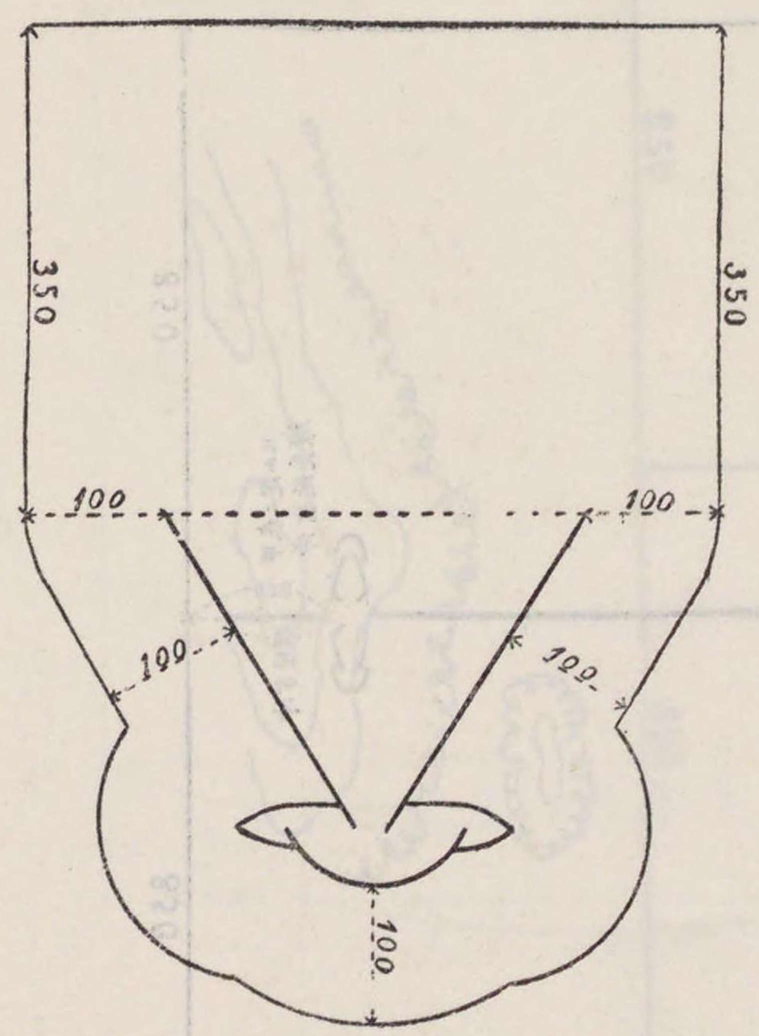
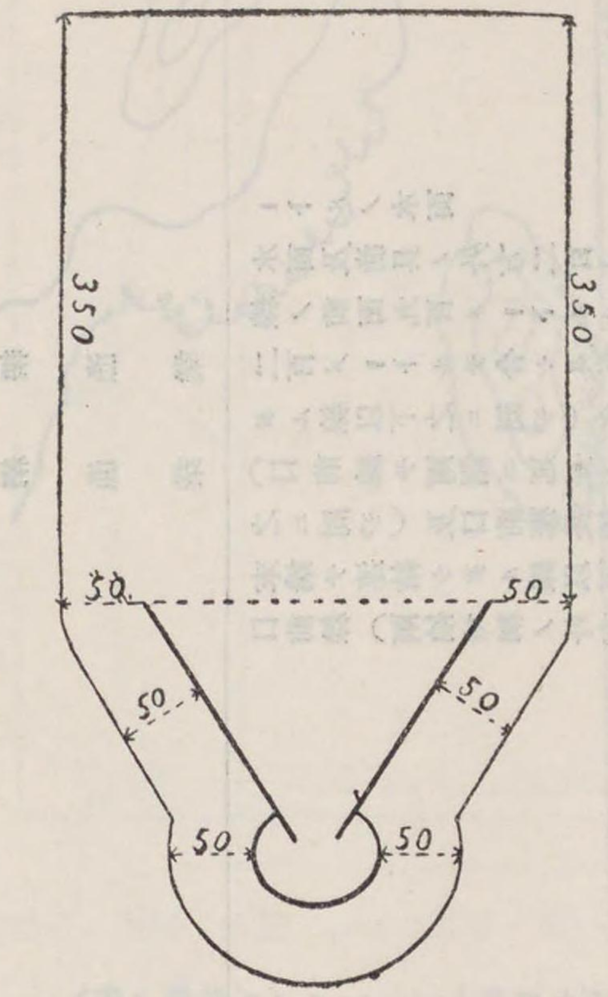
乙　袖垣網ノミヲ有スルモノ

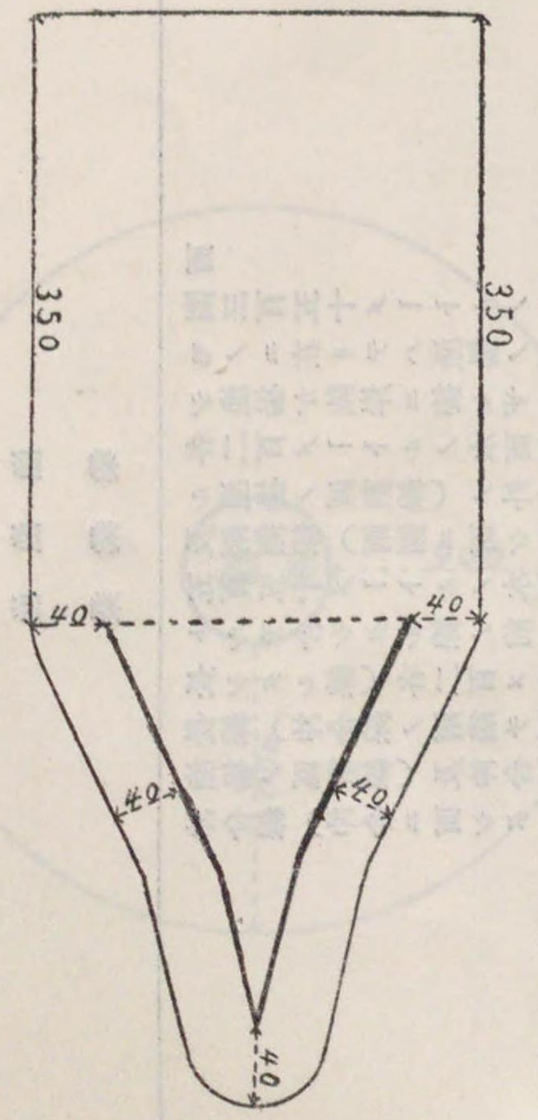
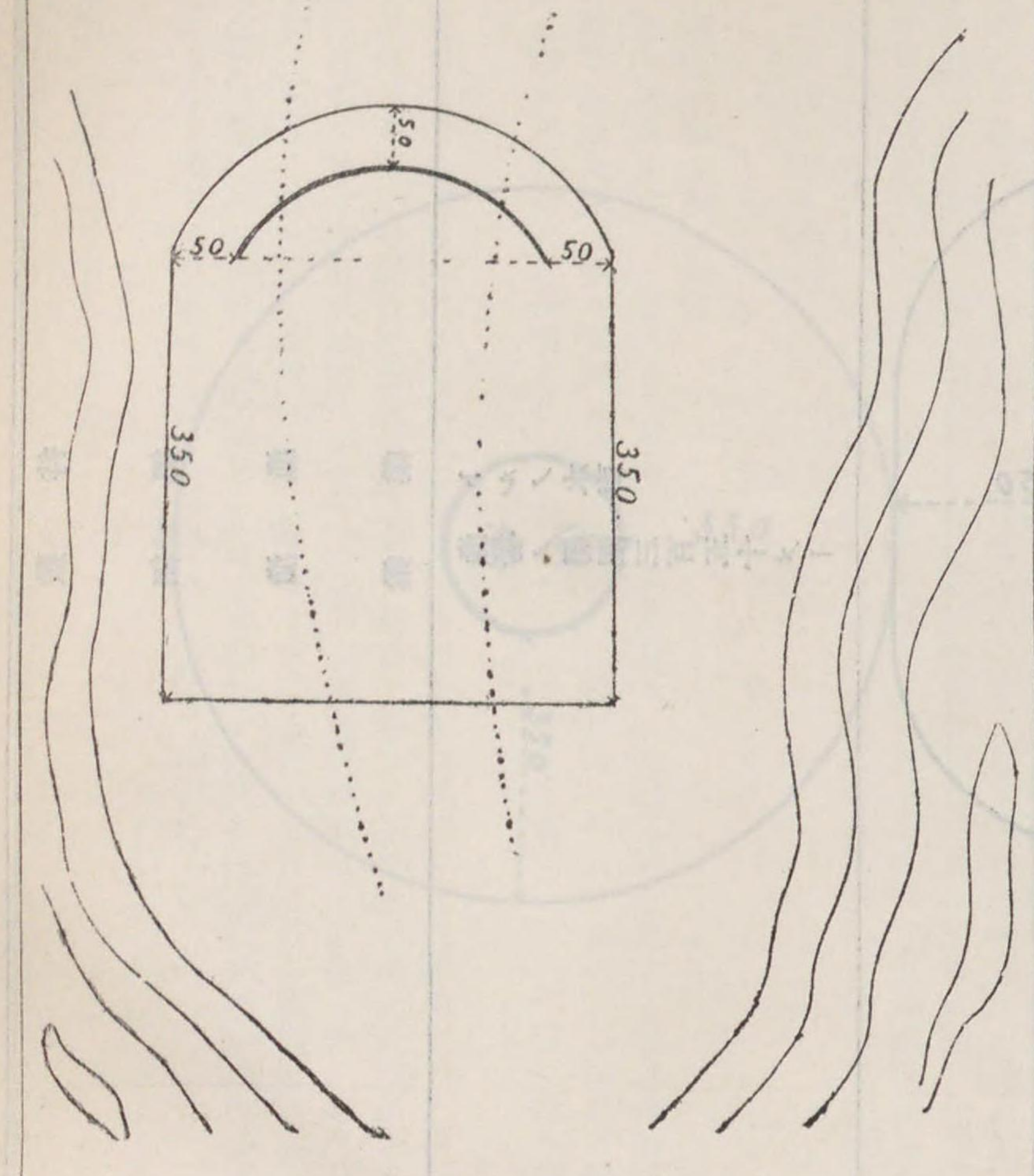
漁業ノ名稱	保護區域

五　魞ノ圍簀又ハ圍網ハ身網ト看做ス

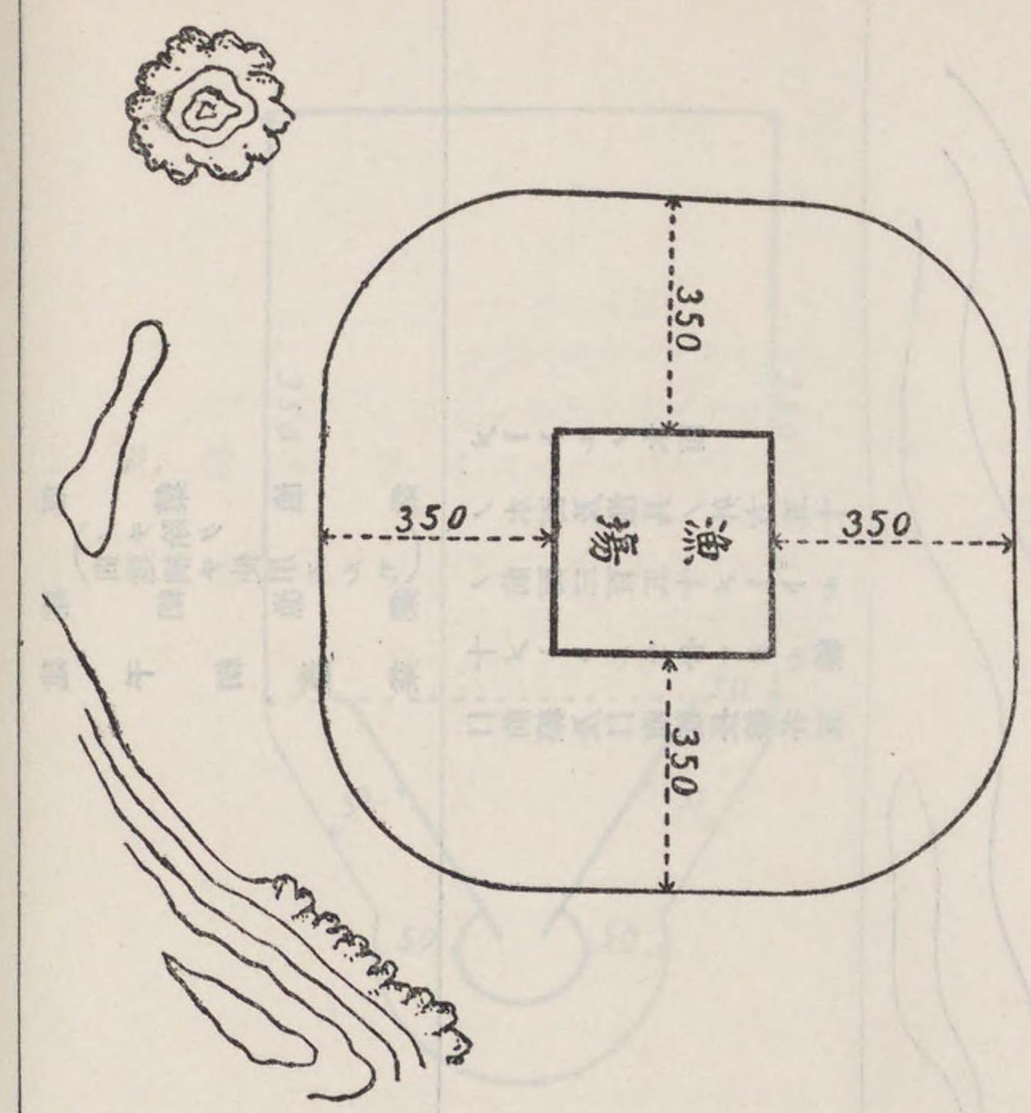
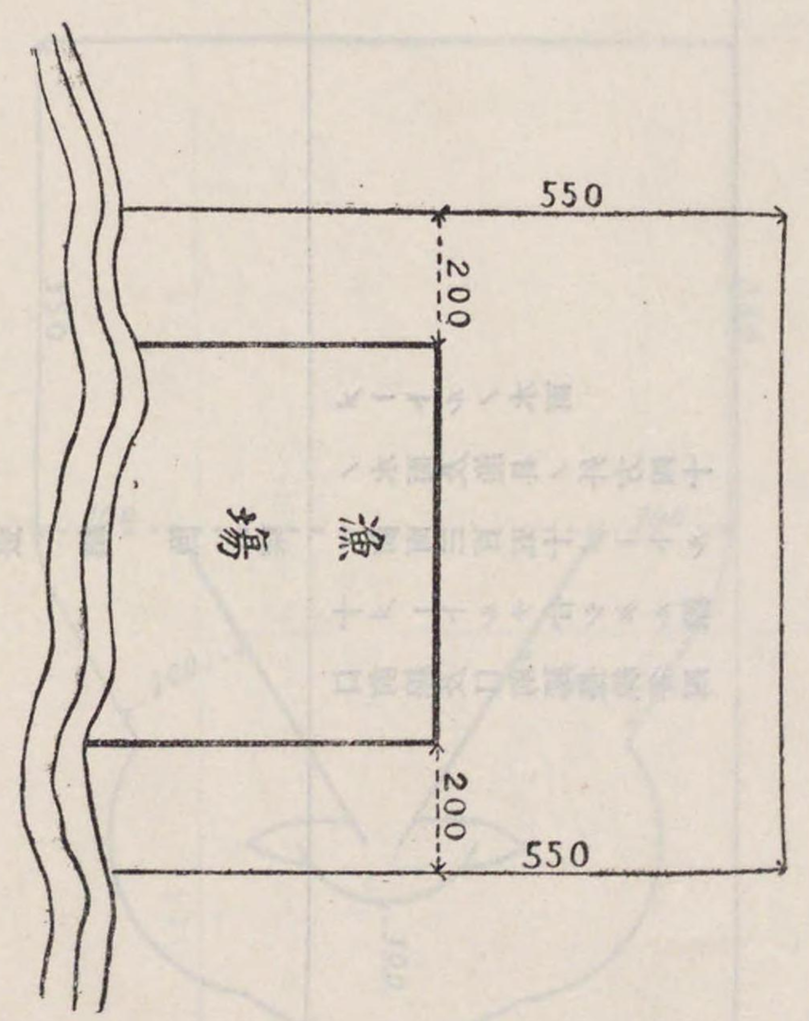


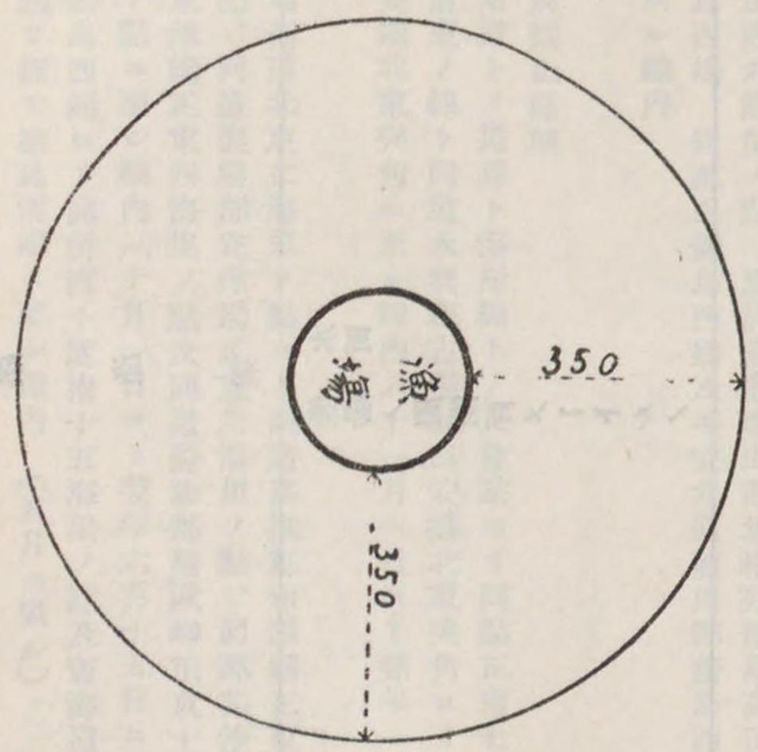
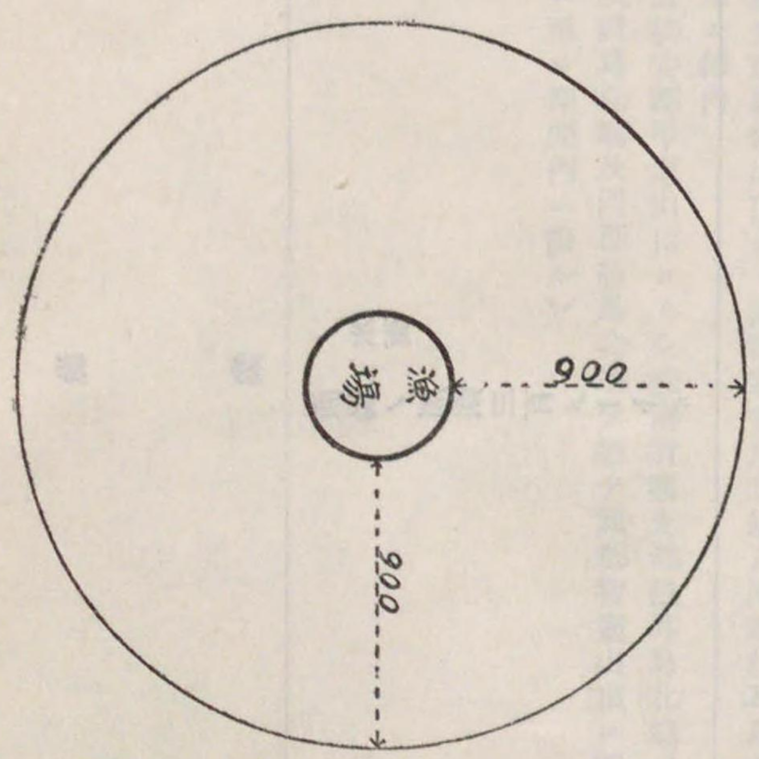
例二　沖側垣網ガ沖出延長線ヨリ短キモノ（小臺網ノ例）

漁業ノ名稱	保護區域	圖解
搭網漁業 耕網漁業 釣漁業	口前線及口前延長線各百メートルヲ合シタル線ノ前面三百五十メートルノ水面及漁具ノ外方百メートルノ水面	
魚簖漁業	口前線及口前延長線各五十メートルヲ合シタル線ノ前面三百五十メートルノ水面及漁具ノ外方五十メートルノ水面	

漁業ノ名稱	保護區域	圖解
嚢張網漁業	口前線及口前延長線各四十メートルヲ合シタル線ノ前面三百五十メートルノ水面及漁具ノ外方四十メートルノ水面	
建干網漁業 建網漁業（曲建網ヲ使用スルモノヲ除ク） 堰簗漁業	口前線及口前延長線各五十メートルヲ合シタル線ノ前面三百五十メートルノ水面及漁具ノ外方五十メートルノ水面	

丙　其ノ他ノモノ

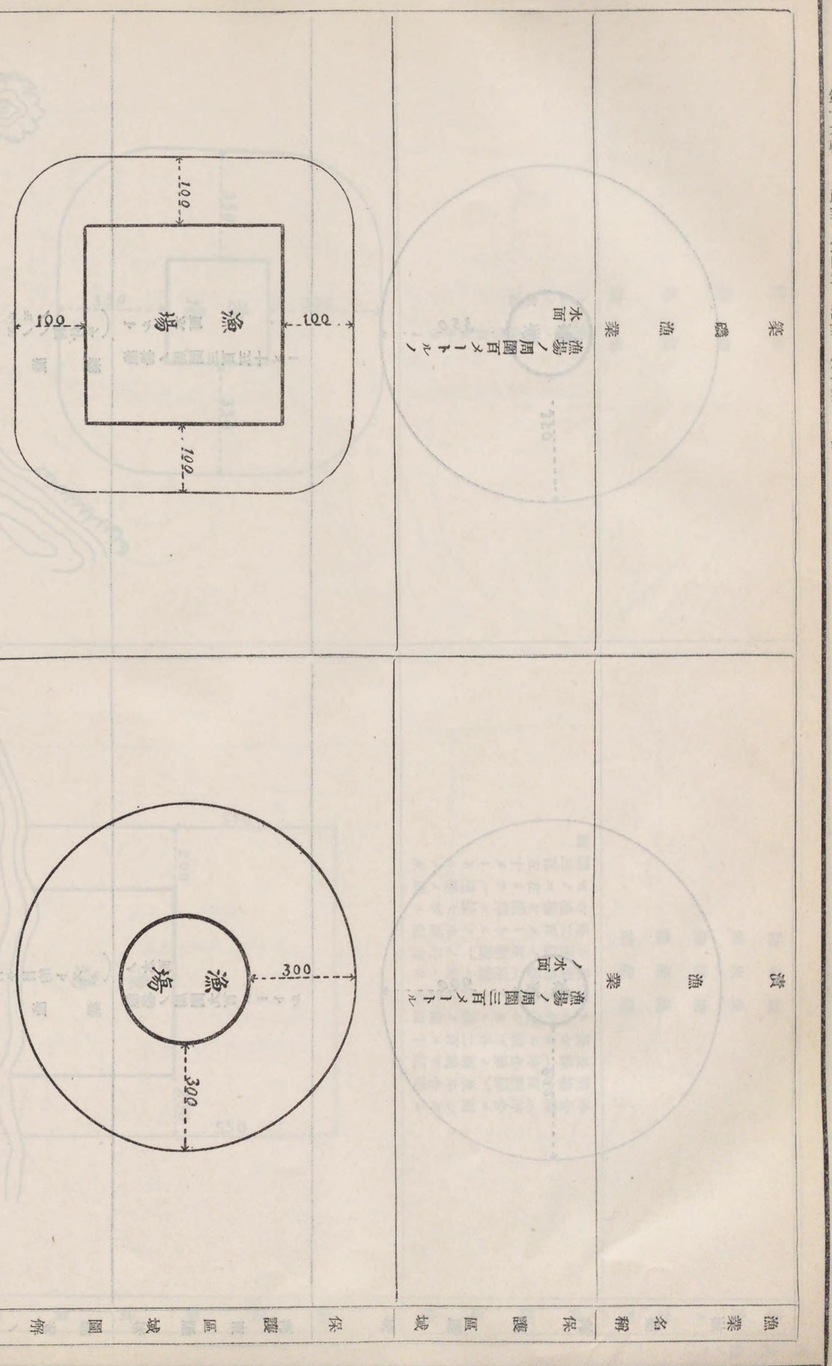
漁業ノ名稱	保護區域	圖解
敷網漁業 待網漁業	漁場ノ周圍三百五十メートルノ水面	
地曳網漁業 船曳網漁業 防陣網漁業	漁場ノ長線（沖合線）及兩側線ニ面シタル各五百五十メートル及二百メートルノ水面並ニ漁場ノ區劃線（沖合線）ノ兩端及沖合ニ延長シタル線ニ面スル水面但シ漁場ガ陸岸ニ接セザルモノニ在リテハ漁場ノ周圍三百五十メートルノ水面	

漁業ノ名稱	保護區域	圖解
飼付漁業（鰤以外ノモノノ飼付ヲ目的トスルモノ）	漁場ノ周圍三百五十メートルノ水面	
飼付漁業（鰤ノ飼付ヲ目的トスルモノ）	漁場ノ周圍九百メートルノ水面	

第二號表

「トロール」漁業禁止區域

咸鏡北道慶興郡牛岩嶺高頂ヨリ同所南六十度東三海里半ノ點、慶尙北道鬱陵島東端、東經三十度北緯三十五度ノ點、慶尙南道統營郡鴻島南端、全羅南道濟州島永魚串（ドカガル角）南東十五海里ノ點、同島墓瑟浦角（ロネー角）南西十五海里ノ點、全羅南道務安郡黑山島西端、黃海道長淵郡白翎島西端及平安北道龍川郡薪島西端ヲ經テ同郡龍川面梅老里南西突角ニ至ル線內



第三號表

機船底曳網漁業禁止區域

一　咸鏡北道慶興郡牛岩嶺高頂ヨリ同所南六十度東三海里半ノ點、同郡卵島高頂南東一海里ノ點、同道富寧郡花端南東一海里ノ點、同道清津府高抹山端南東一海里ノ點及同道鏡城郡鹽盆津佛岩正東一海里ノ點ヲ經テ同郡漁郎端ニ至ル線內

二　咸鏡北道鏡城郡漁郎端ヨリ明川郡雲門臺端ニ至ル線內

三　咸鏡北道明川郡舞水端ヨリ同郡江區伊島東端南東一海里ノ點、同道城津郡楡津端南東一海里ノ點、同郡靈臺峰南東一海里ノ點、咸鏡南道利原郡卵島高頂南東二海里ノ點、同郡黃丹端南東三海里ノ點、同道北青郡馬糞島嶺魚端南東三海里ノ點、同道咸興郡外洋島端南東三海里ノ點、同點ヨリ江原道通川郡國島高頂ニ至ル線ト咸鏡南道德源郡高島高頂ヨリ江原道通川郡卵島高頂北東二海里ノ點ニ至ル線ト咸鏡南道德源郡高島高頂北東二海里ノ點ヲ經テ同道高城郡水源端ニ至ル線內

四　江原道高城郡水源端ヨリ同道襄陽郡瓮津端正東一海里ノ點、同道江陵郡注文津端正東一海里ノ點、同郡正東津端正東一海里ノ點、同郡花母末正東一海里ノ點、慶尙北道盈德郡丑山浦東北端珍郡龍湫岬正東一海里ノ點、同道迎日郡長鬐岬正東二海里ノ點、慶尙南道蔚山郡蔚崎正東十海里ノ點、同道釜山府絕影島沖伊末南東八海里ノ點、同道統營郡鴻島高頂、全羅南道麗水郡白島高頂、同道濟州島牛島東端正東六海里ノ點、同島「ドカガル」角南東六海里ノ點、同島鮫島高頂正南六海里ノ點、同島麋羅島高頂南西一海里ノ點、同道務安郡黑山島西端、同郡梅加島西端正西六海里ノ點、同道靈光郡鞍馬群島橫島西端正西六海里ノ點、全羅北道沃溝郡於青島高頂正西六海里ノ點、忠淸南道端山郡北格列飛島高頂、黃海道長淵郡小靑島西端、同郡大靑島西端、同郡白翎島西端及平安北道龍川郡薪島西端ヲ經テ同郡龍川面梅老里南西突角ニ至ル線內

第四號表

機船底曳網漁業特別禁止區域

一　咸鏡北道ト咸鏡南道トノ道界ト海岸線トノ交會點ヨリ同點正南七海里ノ點及咸鏡南道北靑郡馬養島燈臺南東ノ線ト同道永興郡古寧頭白安端北東突角ヨリ北七十二度東ノ線トノ交會點ヲ經テ白安端北東突角ニ至ル線內（十一月一日ヨリ翌年一月十五日ニ至ル期間內ニ限ル）

二　江原道通川郡卵島高頂北東二海里ノ點ヨリ同道高城郡水源端正東三海里ノ點、同郡亘津端正東四海里ノ點、同道襄陽郡瓮津端正東三海里ノ點、同郡其沙門端正東四海里半ノ點、同道江陵郡正東津端正東四海里ノ點及同道蔚珍郡龍湫岬正東十海里ノ點ヲ經テ同郡花母末正東一海里ノ點ニ至ル線內（十月一日ヨリ翌年六月十五日ニ至ル期間內ニ限ル）

三　平安北道龍川郡薪島西端ヨリ同所西十度南十五海里ノ點及黃海道松禾郡椒島西端西十度北十三海里半ノ點ヲ經テ椒島西端ニ至ル線內（五月ニ限ル）

第五號表

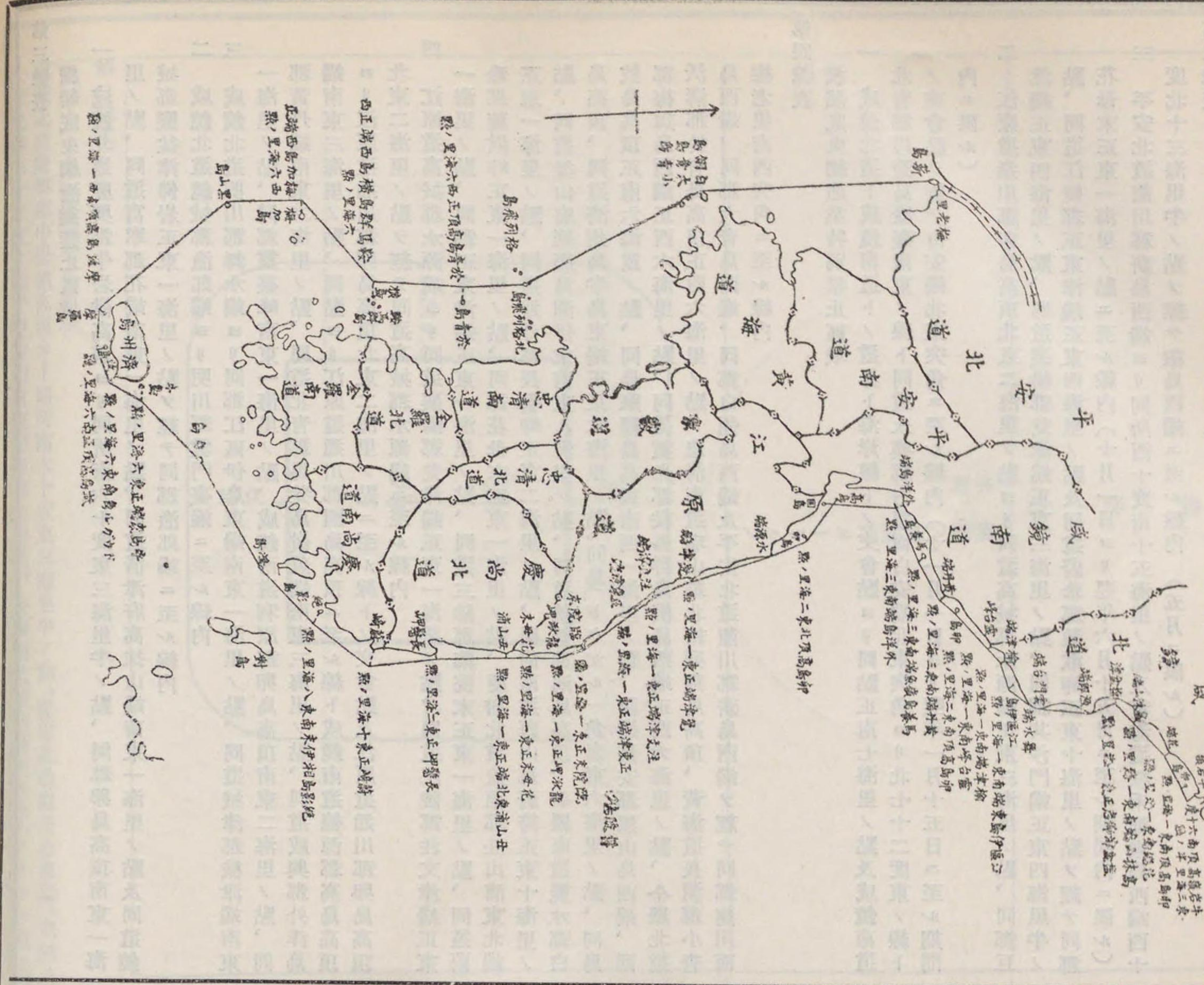
打瀨網漁業（桁打瀨網ヲ除ク）禁止區域

一　咸鏡北道慶興郡牛岩嶺高頂ヨリ同所南六十度東三海里半ノ點、同郡卵島高頂南東一海里ノ點、同道富寧郡花端南東一海里ノ點、同道清津府高抹山端南東一海里ノ點及同道鏡城郡鹽盆津佛岩正東一海里ノ點ヲ經テ同郡漁郎端ニ至ル線內

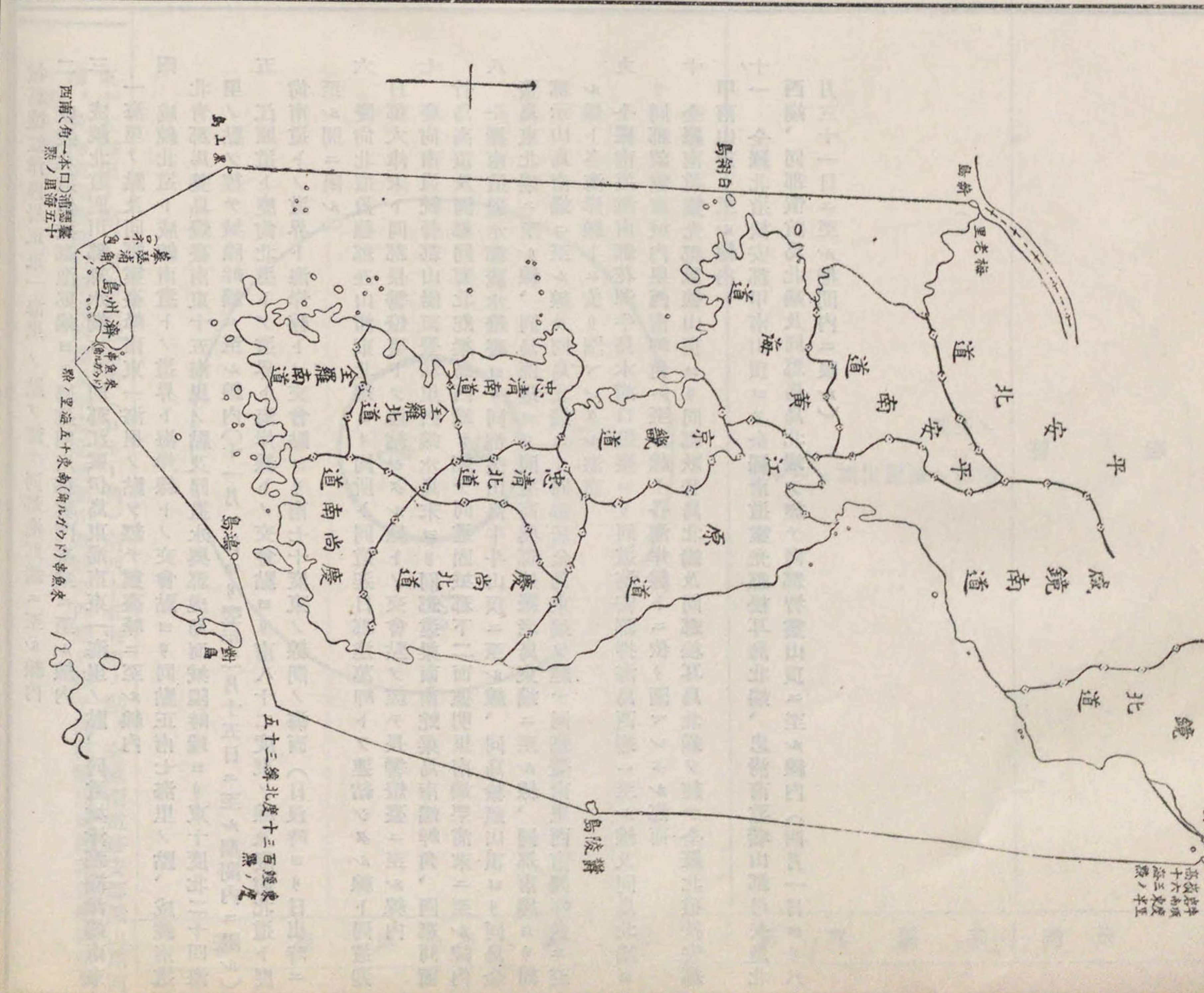
二　咸鏡北道鏡城郡漁郎端ヨリ明川郡雲門臺端ニ至ル線內

三　咸鏡北道明川郡舞水端ヨリ同郡江區伊島東端南東一海里ノ點、同道城津郡楡津端南東一海里ノ點、同郡靈臺峰南東一海里ノ點、咸鏡南道利原郡卵島高頂南東二海里ノ點、同郡黃丹端南東三海里ノ點、同道北靑郡馬糞島嶺魚端南東三海里ノ點、同道咸興郡外洋島端南東三海里ノ點、同點ヨリ江原道通川郡國島高頂ニ至ル線ト咸鏡南道德源郡高島高頂ヨリ江原道通川郡卵島高頂北東二海里ノ點ニ至ル線ト咸鏡南道德源郡高島高頂北東二海里ノ點ヲ經テ同道高城郡水源端ニ至ル線內

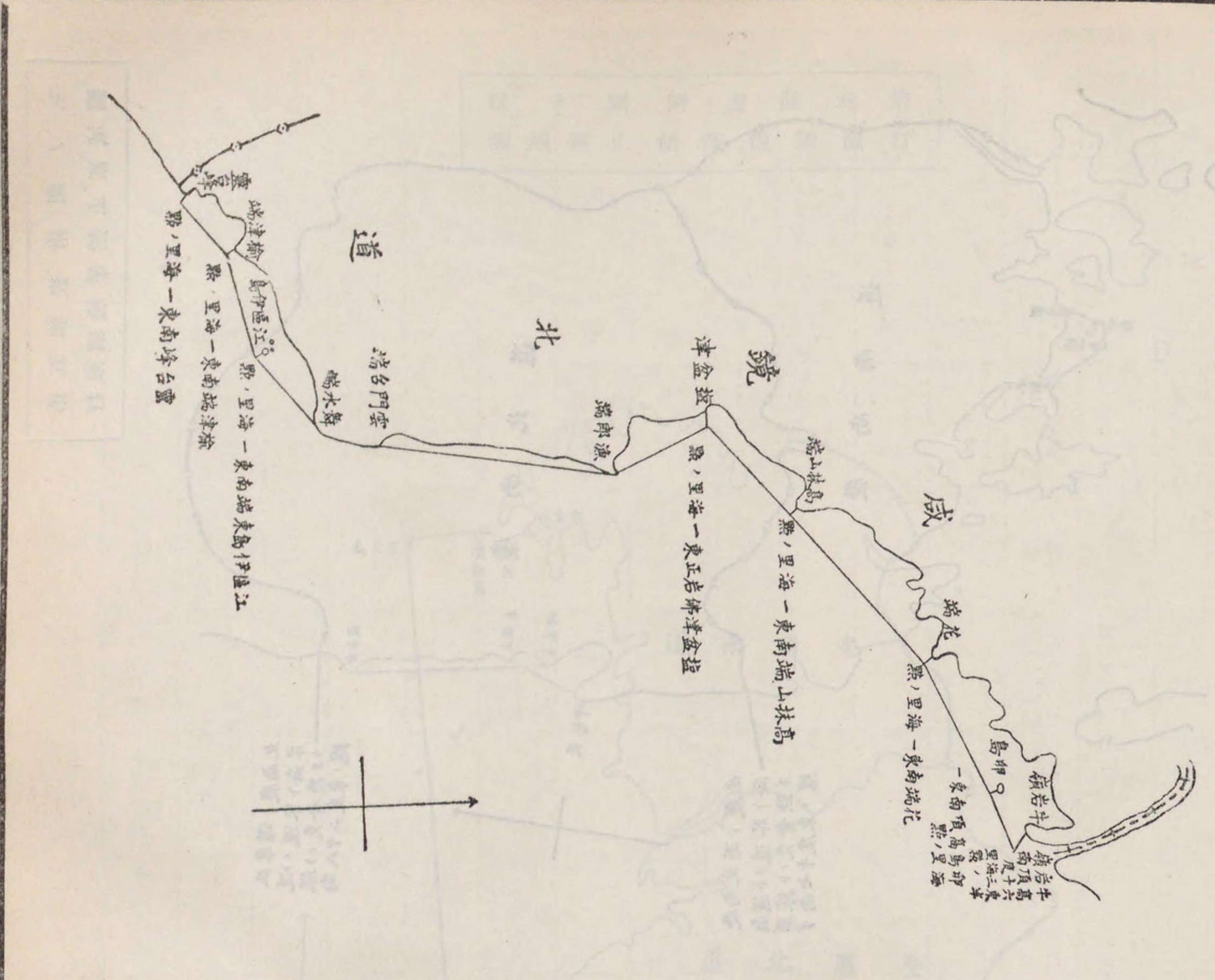
四　江原道高城郡水源端ヨリ同道襄陽郡瓮津端正東一海里ノ點、同郡正東津端正東一海里ノ點、同郡花母末正東一海里ノ點、慶尙北道盈德郡丑山浦東北端珍郡龍湫岬正東一海里ノ點、同道迎日郡長鬐岬正東二海里ノ點、慶尙南道蔚山郡蔚崎正東十海里ノ點、同道釜山府絕影島沖伊末南東八海里ノ點、同道統營郡鴻島高頂、全羅南道麗水郡白島高頂、同道濟州島牛島東端正東六海里ノ點、同島「ドカガル」角南東六海里ノ點、同島鮫島高頂正南六海里ノ點、同島麋羅島高頂南西一海里ノ點、同道務安郡黑山島西端、同郡梅加島西端正西六海里ノ點、同道靈光郡鞍馬群島橫島西端正西六海里ノ點、全羅北道沃溝郡於靑島高頂正西六海里ノ點、忠淸南道端山郡北格列飛島高頂、黃海道長淵郡小靑島西端、同郡大靑島西端、同郡白翎島西端及平安北道龍川郡薪島西端ヲ經テ同郡龍川面梅老里南西突角ニ至ル線內



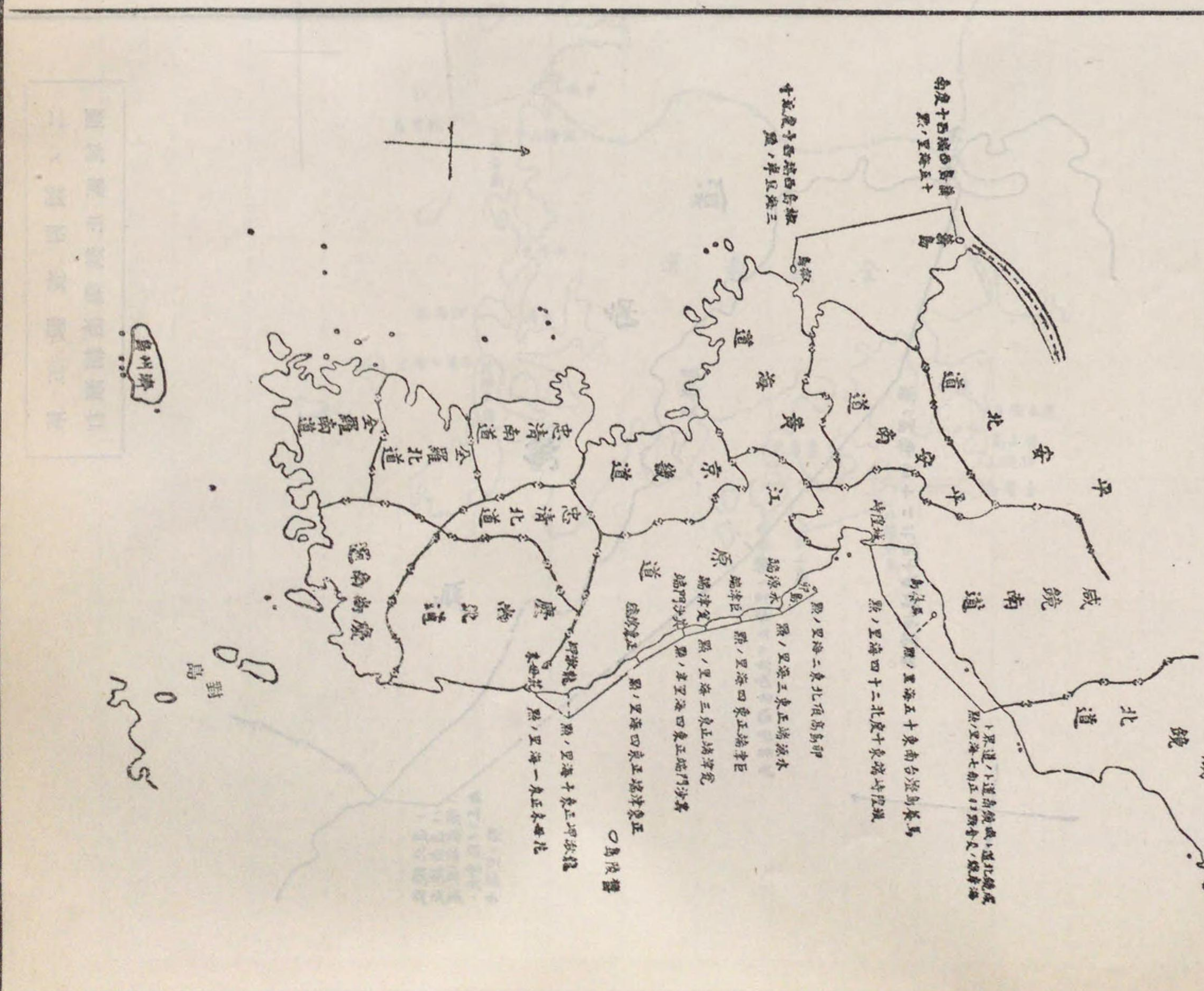
第三號表附圖
機船底曳網漁業禁止區域圖



第二號表附圖
「トロール」漁業禁止區域圖



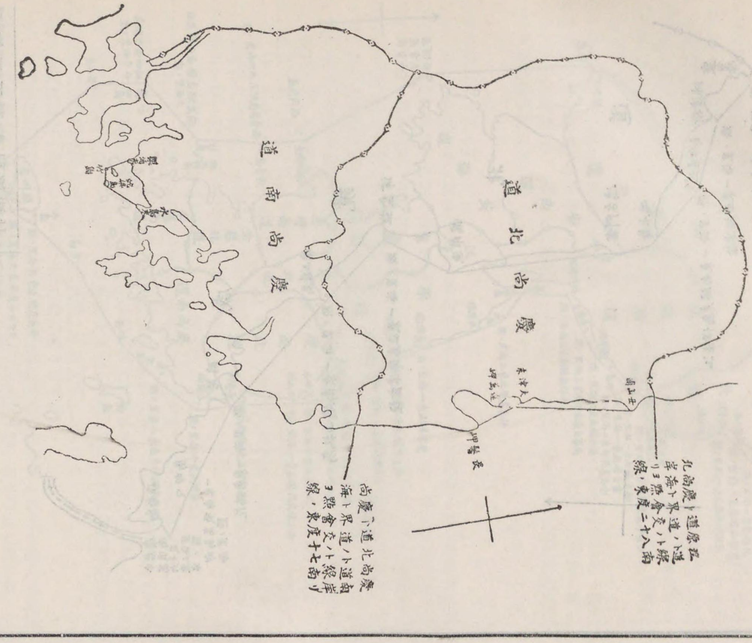
第五號表附圖ノ一
打瀬網漁業禁止區域圖



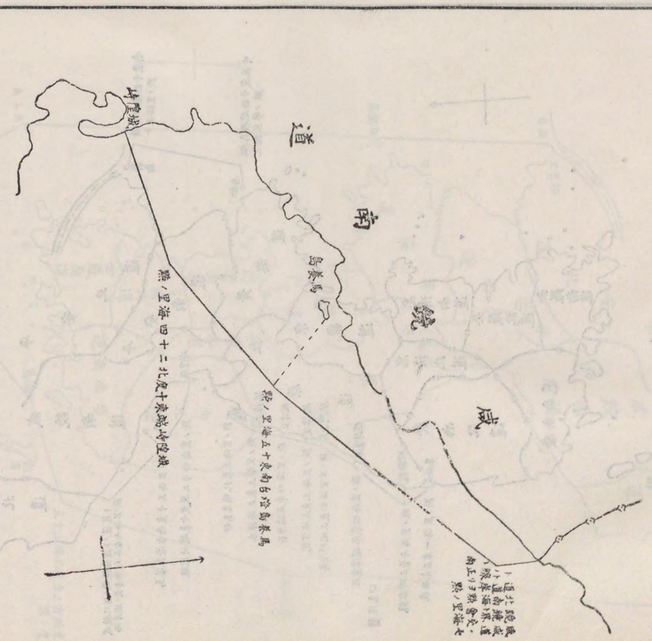
第四號表附圖
機船底曳網漁業特別禁止區域圖

第五號表附圖ノ四
打瀨網漁業禁止區域圖

三ノ圖附表號五第
圖域區止禁業漁網瀨打



二ノ圖附表號五第
圖域區止禁業漁網瀨打



第六號表

第五條ノ水產動植物ノ採捕禁止區域及期間

種別 ＼ 區域	咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	慶尚北道	慶尚南道	全羅南道	全羅北道	忠清南道	忠清北道	京畿道	黃海道	平安南道	平安北道
さけ（體長十二センチメートル以下）	自一月一日至六月末日同上												
ます（體長十二センチメートル以下）	自一月一日至十二月末日同上												
あゆ	自九月末日至翌年五月同上		自一月一日至五月末日同上										
にしん（體長九センチメートル以下			自五月一日至八月末日	自五月一日至七月末日	自五月一日至七月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至七月末日同上				
たら（體長十五センチメートル以下）			自十一月一日至翌年五月末日										
あわび	自九月一日至十二月五日同上		自九月一日至十一月末日同上										
いがい			自六月一日至八月末日同上										
はまぐり			自七月十六日至九月末日同上										
あさり			自八月十六日至十月末日										
たいらぎ			自六月十六日至九月十五日同上										
まてがい													
なまこ			自五月一日至八月末日	自五月一日至七月末日	自七月十六日至九月末日同上								
たらばがに			自五月一日至十月末日同上		自五月十六日至十月十五日同上								
すわいがに			自五月一日至十月末日同上										
けがに			自五月一日至十月末日同上										
すっぽん	自六月一日至七月末日		自六月一日至八月末日										
わかめ	自十二月一日至翌年二月末日同上		自十二月一日至翌年二月末日	自十二月一日至翌年二月末日	自十二月一日至翌年二月末日	自十二月一日至翌年二月末日	自十二月一日至翌年二月末日	自十二月一日至翌年三月末日	自十二月一日至翌年二月末日	自十二月一日至翌年二月末日	自十二月一日至翌年二月末日	自十二月一日至翌年四月末日	自十二月一日至翌年四月末日
ふのり	自十月一日至翌年二月末日同上		自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日
しようぶも	自六月一日至八月末日同上		自五月一日至八月末日	自五月一日至八月末日	自五月一日至八月末日	自五月一日至八月末日	自五月一日至八月末日	自五月一日至八月末日	自五月一日至八月末日	自五月一日至八月末日	自五月一日至八月末日	自五月一日至八月末日	自五月一日至八月末日
てんぐさ	自十月一日至翌年四月末日同上		自十月一日至翌年二月末日同上	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年二月末日	自十月一日至翌年四月末日	自十月一日至翌年四月末日
ほんだわら	自六月一日至八月末日同上		自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日	自六月一日至八月末日
備考　魚類ノ體長ハ吻端ヨリ尾端ニ至ル長サトス													

第七號表

第五條ノ水產動植物中特別採捕禁止區域及期間

種類 ＼ 區域	期間
あゆ	自九月十六日至翌年五月末日

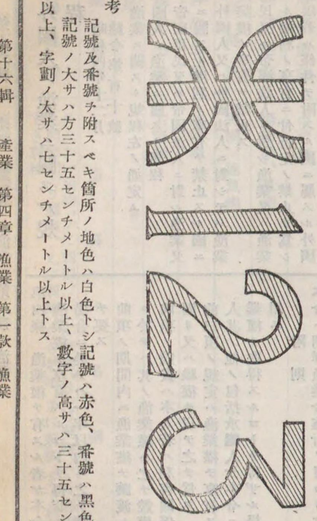
備考

一　記號及番號ヲ附スベキ箇所ノ地色ハ白色トシ記號ハ赤色、番號ハ黑色トス

二　記號ノ大サハ方三十五センチメートル以上、數字ノ高サハ三十五センチメートル以上、字劃ノ太サハ七センチメートル以上トス

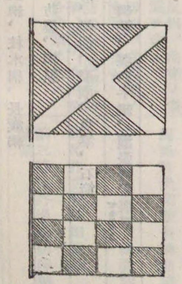
第一號樣式

機船底曳網漁業ニ使用スル機船ニ表示スベキ許可ノ記號及番號



第二號樣式

停船信號旗



直ニ止レ（M・N・）

斜線ノ部分ハ藍色
其ノ他ノ部分ハ白色

◉外國人ノ漁業ニ關スル規程

昭和四年十二月
總令第百十號

外國人ノ漁業ニ關スル規程左ノ通定ム

外國人ノ漁業ニ關スル規程

第一條　帝國臣民又ハ帝國法人ニ對シ漁業又ハ漁業ニ關スル權利ノ享有ヲ禁止スル國ニ屬スル外國人又ハ外國法人ニ對シテハ漁業又ハ漁業權ノ享有ヲ禁止ス

帝國臣民又ハ帝國法人ニ對シ漁業又ハ漁業ニ關スル權利ノ享有ニ付特定ノ禁止ヲ爲シ又ハ制限若ハ條件ヲ附スル國ニ屬スル外國人又ハ外國法人ニ對シテハ朝鮮總督ハ漁業又ハ漁業權ノ享有ニ付同一若ハ類似ノ禁止ヲ爲シ又ハ同一若ハ類似ノ制限若ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二條　外國ノ一部ニシテ漁業又ハ漁業ニ關スル權利ニ關シ特別ノ立法權ヲ有スルモノハ前條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ國ト看做ス

第三條　朝鮮總督ハ國防上必要ナル水面ニ付區域ヲ指定シ外國人又ハ外國法人ノ漁業又ハ漁業權ノ享有ニ付禁止ヲ爲シ又ハ制限若ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第四條　漁業權ヲ有スル者カ本令ニ依リ其ノ漁業權ヲ享有スルコトヲ得ザルニ至リタル場合ニ於テハ一年以内ニ之ヲ譲渡スルコトヲ要ス

前項ノ期間内ニ漁業權ハ之ヲ競賣ニ付ス

前項ノ競賣ハ本人若ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

前三項ノ規定ハ漁業權ヲ享有スル者ノ相續人其ノ他ノ包括承繼人カ本令ニ依リ其ノ漁業權ヲ取得スルコトヲ得ザル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮漁業令施行規則第九條及第十五條第二項ノ漁業ノ名稱

昭和四年十二月
總督第四百七十七號

朝鮮漁業令施行規則第九條及第十五條第二項ノ漁業朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ左ノ通定ム

明治四十四年朝鮮總督府告示第二百四十五號（漁業令施行規則第十七條及第二十六條第二項ノ漁業ノ名稱）ハ之ヲ廢止ス

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
大敷網漁業	大敷網
大臺網漁業	大謀網、北海道式改良大謀網
角網漁業	角網、八角網、楕形網、ぼら守網（ぼらよりあみ）
行成網漁業	行成網、臺網
小臺網漁業	小臺網
落網漁業	落網、機械網、鰮網、猪口網
桝網漁業	桝網、底入桝建網、底角網、壺網、三角網

免許ヲ受クベキ漁業

定置漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
大敷網漁業	大敷網
大臺網漁業	大謀網、北海道式改良大謀網
角網漁業	角網、八角網、楕形網、ぼら守網（ぼらよりあみ）
行成網漁業	行成網、臺網
小臺網漁業	小臺網
落網漁業	落網、機械網、鰮網、猪口網
桝網漁業	桝網、底入桝建網、底角網、壺網、三角網

定所敷網漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
敷網漁業	敷網、二艘張網、四艘張網、六艘張網、八艘張網
待網漁業	待網、追込網　受網

許可ヲ受クベキ漁業

曳網漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
地曳網漁業	地曳網、揮罹網、車曳網、地漕網
船曳網漁業	船曳網、櫂現網、船曳葛網、中曳網、瀬曳網
防陣網漁業	防陣網

定所曳網漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
漁業	漁具	名稱
建網漁業	建網、碇船網、張切網、曲建網
建干網漁業	建干網、掛網、立網網、設網、旺網
嚢張網漁業	嚢張網、柱木網、長嚢網
鮒漁業	鮒、防簗、網鮒
魚筒漁業	魚筒、網筒、羽瀬、魚筌、石筒
堰築漁業	築、網築、張四手網、瀬張堰、堰單（せきどう）

定所集魚漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
漁業	裝置ノ名稱
飼付漁業	
漬漁業	しいら漬
築磯漁業	

定所曳網漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
漁業	漁具ノ名稱
地曳網漁業	地曳網、揮罹網、車曳網、地漕網
船曳網漁業	船曳網、櫂現網、船曳葛網、中曳網、瀬曳網
防陣網漁業	防陣網

許可ヲ受クベキ漁業

曳網漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
漁業	漁具ノ名稱
地曳網漁業	地曳網、揮罹網、車曳網、地漕網
船曳網漁業	船曳網、櫂現網、船曳葛網、中曳網、瀬曳網、掬揮網（すくいぶり）

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
打瀨網漁業	打瀨網、漏斗網、桁打瀨網
漕網漁業	えび漕網

敷網漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
敷網漁業	敷網、二艘張網、四艘張網、六艘張網、八艘張網、焚寄抄網
柱木網漁業	柱木網
鮫鰊網漁業	鮫鰊網
中船網漁業	中船網、艀船網
弓船網漁業	弓船網
桝網漁業	桝網、壺網、三角網、底角網
掬網漁業	掬網
建干網漁業	建干網、掛網、立廻網、設網、旺網

繰網漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
漁業	漁具ノ名稱
手繰網漁業	手繰網、五智網
桁網漁業	桁網、海藻刈曳網

旋網漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
巾着網漁業	巾着網
揚繰網漁業	揚繰網、風網
縛網漁業	縛網、逐魚網
防陣網漁業	防陣網
石繰網漁業	石繰網

刺網漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
刺網漁業	めんたい刺網、かに刺網、にしん刺網、ほつけ刺網、くち刺網、いわし刺網、ぶり刺網、えび刺網、たら刺網、さけ刺網、ます刺網、すき刺網

旋刺網漁業	旋刺網、周網
流網漁業	さば流網、さわら流網、いわし流網、ひら流網、ぶり流網、さけ流網、ます流網、にべ流網
機船刺網漁業	
機船流網漁業	

空釣縄漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
漁業	裝置ノ名稱
空釣縄漁業	空釣延縄、空釣漕、引掛漕釣

柴漬漁業

漁業ノ名稱	漁具ノ名稱
漁業	裝置ノ名稱
柴漬漁業	いか柴漬、ほうづき縄

備考

一　稱呼ヲ異ニスルモ前記ノ漁具ト同一ノ漁具ハ前記ノ漁具ニ準ズベキ漁具ハ前記ノ漁具ニ包含セラルルモノトス

◉明治四十四年朝鮮總督府告示第二百四十五號ノ改正ニ伴フ漁業ノ免許及漁業權ノ效果

昭和五年一月
總令第七號

左ノ上欄ニ掲グル漁業ニ付從前ニ於テ爲シタル漁業ノ免許及其ノ免許ニ因リ發生シタル漁業權ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ各相當下欄ニ掲グル漁業ニ付爲シタル漁業ノ免許及其ノ漁業ノ漁業權ト看做ス

第四種免許漁業曲建網漁業	鱒建網、鯨曲網、鳥賊曲網ノ各漁業ヲ含ム
同免許漁業碇船網漁業	石首魚漁業ヲ含ム
同免許漁業鮒魚網漁業	八反網、曲網ノ各漁業ヲ含ム
同免許漁業建干網漁業	建切網、立囘網ノ各漁業ヲ含ム
同免許漁業掛網漁業	浦防網、浦塞網、防澪網、細網、全魚網ノ各漁業ヲ含ム
同免許漁業防陣網漁業	

第一種免許漁業曲建網漁業	鱒建網、鯨曲網、鳥賊曲網ノ各漁業ヲ含ム
同免許漁業碇船網漁業	石首魚漁業ヲ含ム
同免許漁業鮒魚網漁業	八反網、曲網ノ各漁業ヲ含ム
同免許漁業建干網漁業	建切網立囘網ノ各漁業ヲ含ム
同免許漁業掛網漁業	浦防網、浦塞網、防澪網、細網、全魚網ノ各漁業ヲ含ム
第三種免許漁業防陣網漁業	

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮漁業令施行規則第三十條第一項ノ規定ニ依ル

漁業ノ指定

昭和四年十二月
總督第四百八十一號

朝鮮漁業令施行規則第三十條第一項ノ規定ニ依リ朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ左ニ掲グル漁業ヲ指定ス

一　捕鯨漁業
二　工船漁業
三　機船底曳網漁業
四　打瀨網漁業
五　鮫鰐網漁業
六　巾着網漁業
七　揚繰網漁業
八　流網漁業
九　延繩漁業（機船ヲ使用シテ爲スモノニ限ル）

●捕鯨漁業ノ操業區域及許可ノ定限數

昭和四年十二月
總督第四百七十八號

朝鮮漁業令施行規則第十七條ノ規定ニ依ル捕鯨漁業ノ操業區域及許可ノ定限數朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ左ノ通定ム

大正六年朝鮮總督府告示第二百四十七號（漁業令規行規則第三十一條ニ依ル第一種許可漁業ノ船數ノ定限）ハ之ヲ廢止ス

捕鯨漁業ノ操業區域及許可ノ定限數表

操業區域	許可ノ定限數
朝鮮沿海及其ノ沖合	十二

●機船底曳網漁業ノ操業區域及許可ノ定限數

昭和八年十一月
總督第五百七十七號

朝鮮漁業令施行規則第十七條ノ規定ニ依ル機船底曳網漁業ノ操業區域及許可ノ定限數ハ左ノ通定ム

船底曳網漁業ノ操業區域及許可ノ定限船數昭和八年十一月二十八日ヨリ左ノ通定ム
昭和四年朝鮮總督府告示第四百七十九號（機船底曳網漁業ノ操業區域及許可ノ定限數）ハ之ヲ廢止ス

機船底曳網漁業ノ操業區域及許可ノ定限船數表

區別	操業區域	許可ノ定限船數
第一區	咸鏡北道ト咸鏡南道トノ道界ト海岸線トノ交會點南五十六度東ノ線以北ノ海面	五〇
第二區	咸鏡北道ト咸鏡南道トノ道界ト海岸線トノ交會點南五十六度東ノ線及江原道ト慶尙北道トノ道界ト海岸線トノ交會點南八十二度東ノ線間ノ海面	四五
第三區	江原道ト慶尙北道トノ道界ト海岸線トノ交會點南八十二度東ノ線及慶尙北道ト慶尙南道トノ道界ト海岸線トノ交會點南七十三度東ノ線間ノ海面	二〇
第四區	慶尙北道ト慶尙南道トノ道界ト海岸線トノ交會點南七十三度東ノ線竝ニ慶尙南道河東郡南面加引浦南岬ヨリ同面大島西端ヲ經テ同道南海島德山末ニ至ル線及南海島以里山頂ヨリ全羅南道麗水郡南面鵲島高頂ヲ見通シタル線間ノ海面	三〇
第五區	慶尙南道河東郡南面加引浦南岬ヨリ同面大島西端ヲ經テ同道南海島德山末ニ至ル線及南海島以里山頂ヨリ全羅南道麗水郡南面鵲島高頂ヲ見通シタル線竝ニ全羅北道沃溝郡米面甕餐島北端及同面於靑島北端ヲ見通シタル線間ノ海面	六五
第六區	全羅北道沃溝郡米面甕餐島北端及同面於靑島北端ヲ見通シタル線以北ノ海面	四五

●潛水器漁業ノ操業區域及許可ノ定限數

昭和四年十二月
總督第四百八十號

朝鮮漁業令施行規則第十七條ノ規定ニ依ル潛水器漁業ノ操業區域及許可ノ定限數朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ左ノ通定ム

潛水器漁業ノ操業區域及許可ノ定限數表

區別	操業區域	許可ノ定限數
第一區	江原道江陵郡新里面注文津端正東線竝ニ慶尙南道河東郡南面加引浦岬ヨリ同面大島西端ヲ經テ同道南海郡古縣面德山末ニ至ル線及同郡南面以里山頂ヨリ全羅南道麗水郡南面鵲島高頂ヲ見通シタル線以北ノ海面	四三
第二區	慶尙南道河東郡南面加引浦岬ヨリ同面大島西端ヲ經テ同道南海郡古縣面德山末ニ至ル線及同郡南面以里山頂ヨリ全羅南道麗水郡南面鵲島高頂ヲ見通シタル線間ノ海面	六一
第三區	慶尙南道河東郡南面加引浦岬ヨリ同面大島西端ヲ經テ同道南海郡古縣面德山末ニ至ル線及同郡南面以里山頂ヨリ全羅南道麗水郡南面鵲島高頂ヲ見通シタル線竝ニ全羅北道沃溝郡米面甕餐島北端及同面穀島北端ヲ見通シタル線間ノ海面	四七
第四區	全羅北道沃溝郡米面甕餐島北端及同面穀島北端ヲ見通シタル線以北ノ海面	一七

圖示區業操業漁器水清

●工船漁業ノ操業區域及許可ノ定限數

昭和五年四月
總督第百七十八號

朝鮮漁業令施行規則第十七條ノ規定ニ依ル工船漁業ノ操業區域及許可ノ定限數朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ左ノ通定ム

工船漁業ノ操業區域及許可ノ定限數表

操業區域	許可ノ定限數
朝鮮沿海及其ノ沖合	五

●漁業ニ關スル手數料規程

昭和四年十二月
總令第百十二號

改正　昭和六年五月第六二號

漁業ニ關スル手數料規程左ノ通定ム

第一條　漁業ニ關シ左ニ掲グル出願又ハ申請ヲ爲ス者ハ手數料トシテ各其ノ下ニ記載スル金額ヲ其ノ出願又ハ申請ヲ爲スベキ行政官廳ニ納付スベシ

一　朝鮮漁業令第六條第一項ノ規程ニ依ル漁業ノ免許願　每一件　五圓
二　朝鮮漁業令第八條第三項ノ規定ニ依ル漁業權ノ存續期間ノ延長ノ許可申請　每一件　三圓
三　朝鮮漁業令第十九條第一項ノ規定ニ依ル漁業權ノ分割其ノ他變更ノ許可申請　每一件　三圓
四　朝鮮漁業令第十九條第二項ノ規定ニ依ル專用漁業ノ漁業權ノ處分、擔保及貸付ノ認可申請　每一件　二圓
五　朝鮮漁業令施行規則第二十九條ノ規定ニ依ル免許ヲ受ケタル漁業ノ休業ノ許可申請　每一件　一圓
六　朝鮮漁業令第二十六條ノ規定ニ依ル入漁料請求ノ認可申請　每一件　二圓
七　朝鮮漁業令第三十一條第一項ノ規定ニ依ル土地物件ノ使用及除去制限ノ許可申請　每一件　二圓
八　朝鮮漁業令第三十二條第一項ノ規定ニ依ル土地ノ立入リ及障碍物ノ變更又ハ除却ノ許可申請　每一件　二圓
九　朝鮮漁業令第六十一條第三項、第六十三條第二項、第六十五條及第六十六條ノ規定ニ依ル裁定申請　每一件　五圓
十　朝鮮漁業登錄規則第十六條第一項ノ規定ニ依ル漁業權原簿ノ閱覽申請　每一件　十錢
十一　朝鮮漁業登錄規則第十六條第一項ノ規定ニ依ル漁業權原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付申請
漁業權原簿ノ謄本　每一件　一圓
漁場圖ヲ除キタル漁業權原簿ノ一部ノ抄本　每一件　五十錢
漁場圖ヲ除キタル漁業權原簿ノ一部ノ抄本　每一件　三十錢
漁場圖ノ謄本　每一件　五十錢

官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ以テ前項第十號又ハ第十一號ノ申請ヲ爲ス場合ニハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セズ道水產會ガ其ノ業務執行上ノ必要ニ因リ前項第十號ノ申請ヲ爲ス場合亦同ジ

第二條　手數料ハ收入印紙ヲ願書又ハ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムベシ

附　則

本令ハ朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年朝鮮總督府令第八十九號（漁業ニ關スル手數料ノ件）ハ之ヲ廢止ス

●朝鮮漁業令施行規則ニ依リ交付スベキ許可狀及鑑札ノ樣式

昭和四年十二月
總督第四百八十三號

朝鮮漁業令施行規則第十九條及第二十四條ノ規定ニ依リ交付スベキ許可狀及鑑札ノ樣式朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ左ノ通定ム

明治四十四年朝鮮總督府告示第二百四十八號（漁業令施行規則第九條ニ依リ下付スベキ漁業免許狀ノ許可狀及鑑札ノ樣式）ハ之ヲ廢止ス

許可狀樣式

第四面

注意

一　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ許可ヲ取消サルルコトアルベシ
(一)　水產動植物ノ蕃殖保護上必要アルトキ
(二)　國防其ノ他軍事上必要アルトキ
(三)　船舶ノ航行碇泊繫留、水底電線ノ敷設其ノ他公益上必要アルトキ
(四)　朝鮮漁業令若ハ同令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分若ハ其ノ制限、條件ニ違反シタルトキ

二　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可ヲ取消サルルコトアルベシ
(一)　行政官廳ノ許可ヲ受ケズシテ引續キ二年以上漁業ヲ爲サザルトキ
(二)　詐欺ノ手段ニ因ル錯誤ニ基キ許可ヲ爲シタルトキ

三　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ捕鯨漁業、「トロール」漁業又ハ工船漁業ニ付テハ五千圓以下ノ罰金ニ、機船底曳網漁業ニ付テハ二千圓以下ノ罰金ニ、潛水器漁業又ハ朝鮮漁業令施行規則第十五條ノ漁業ニ付テハ五百圓以下ノ罰金ニ處セラレ其ノ犯罰ニ係ル採捕物、其ノ製品及漁具ハ之ヲ沒收セラルベシ
(一)　許可ノ制限、條件又ハ停止ニ違反シテ漁業ヲ爲シタルトキ
(二)　詐欺ノ手段ヲ以テ漁業ノ許可ヲ受ケタルトキ

四　漁業監督官吏ガ漁業ノ監督上又ハ漁業ニ關スル犯罪ノ搜索上爲ス職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラレ犯罪ニ關シ取調ノ必要上爲シタル同行又ハ廻船ノ命ニ從ハザルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處セラルベシ

五　許可狀又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ讓渡シ又ハ貸付シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラルベシ

六　許可狀又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ漁船ニ備附ケズ又ハ携帶セザルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラルベシ

七　漁業ノ取締ニ從事スル船舶ヨリ停船ノ信號ヲ受ケタル場合ニ於テ停船ヲ爲サザリシトキハ其ノ船舶ノ船長又ハ船長ノ職務ヲ執リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラルベシ

八　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ科料ニ處セラルベシ
(一)　漁業廢止ノ届出ヲ怠リタルトキ
(二)　漁業ノ休業ノ許可ヲ受ケ其ノ期間滿了前漁業ニ著手シタル場合ニ於テ之ガ届出ヲ怠リタルトキ
(三)　氏名、名稱又ハ住所ヲ變更シタル場合ニ於テ之ガ届出ヲ怠リタルトキ
(四)　漁業ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ鑑札無效ニ歸シタル場合ニ於テ之ガ返納ヲ怠リタルトキ

九　營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ朝鮮漁業令又ハ同令ニ基キテ發スル命令ニ依ル罰則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第一面

花紋

許可第　年　漁業許可狀

住所
氏名

朝鮮總督（道知事）　名　印

折り目

第二面

漁業ノ種類	
漁業ノ名稱	
漁具又ハ裝置ノ名稱	
操業區域	
漁業ノ方法	
漁綱ノ長サ	
漁船ノ種類、名稱及積量（長サ、肩幅）	
漁船一隻毎ノ乘組人員	
機關ノ種類及馬力	
採捕物ノ種類	
漁業ノ時期	
許可ノ期間	
制限又ハ條件	

折り目

二十三センチメートル

三十三センチメートル

第三面

前記漁業ヲ許可ス

年　月　日

朝鮮總督府（道）名又ハ名印

注意　第三面空欄ニハ第二面記載ノ事項ヲ補充シ又ハ必要ノ事項ヲ記載ス

二十三センチメートル

三十三センチメートル

鑑札樣式

表面

鑑札

住所	
氏名	
漁業ノ名稱	
漁具ノ名稱又ハ漁業ノ方法	
漁船ノ種類、積量（長サ、肩幅）及乘組人員	
機關ノ種類及馬力	
採捕物ノ種類	
漁業ノ時期	
有效期間	

年　漁業届出第　號

花紋

年　月　日

道知事　名　印

十三センチメートル

十八センチメートル

裏面

注意

一　鑑札又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ讓渡シ又ハ貸付シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラルベシ

二　鑑札又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ漁船ニ備付ケズ又ハ携帶セザルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラルベシ

三　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ科料ニ處セラルベシ
(一)　漁業ノ届出ノ事項ヲ變更シタル場合ニ於テ之ガ届出ヲ怠リタルトキ
(二)　氏名又ハ住所ヲ變更シタル場合ニ於テ之ガ届出ヲ怠リタルトキ
(三)　漁業ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ鑑札無效ニ歸シタル場合ニ於テ之ガ返納ヲ怠リタルトキ

四　漁業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ朝鮮漁業令又ハ同令ニ依ル罰則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

十三センチメートル

十八センチメートル

朝鮮漁業令施行規則ニ依リ行政官廳ニ差出スベキ漁業ニ關スル願書、申請書、届書及圖面ノ調製心得竝ニ其ノ書式及圖式

昭和四年十二月
總督府令第四百八十二號

朝鮮漁業令施行規則ニ依リ行政官廳ニ差出スベキ漁業ニ關スル願書、申請書、届書及圖面ノ調製心得竝ニ其ノ書式及圖式朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ左ノ通定ム

明治四十四年朝鮮總督府告示第二百四十七號（漁業令施行規則ニ依リ行政官廳ニ差出スヘキ漁業ニ關スル願書、申請書及届書ノ書式）及同年朝鮮總督府告示第二百六十號（漁業令施行規則ニ依リ漁業ノ願書ニ添附スヘキ漁場圖及漁具圖ノ調製心得竝樣式）ハ之ヲ廢止ス

甲　願書、申請書及届書

イ　調製心得

一　書面數葉ニ亙リ接續スルトキハ每葉ノ綴目ニ契印ヲ押捺スベシ

二　貼附印紙ノ消印ハ當該官廳ニ於テ之ヲ押捺スベシ

三　採捕物又ハ養殖物ノ種類ハ其ノ主要ナル物ヨリ順次ニ記載スベシ

四　距離及面積ノ表示ハメートル法ニ據ルベシ

五　出願人、申請人又ハ届出人ガ漁業組合其ノ他ノ法人又ハ法人ニ非ザル社團ナルトキハ願書、申請書又ハ届書ニハ其ノ名稱ヲ記載スルノ外代表者記名捺印スベシ

六　法令ニ依リ添附ヲ要スル書類ノ外出願又ハ申請ニ關シ事實ノ證明ト爲ルベキ書類アルトキハ其ノ本書又ハ謄本ヲ添附スベシ

ロ　書式

第一號　朝鮮漁業令第二條ノ許可ノ申請書

朝鮮漁業令第二條ノ許可申請

一　利用ノ制限(禁止)ヲ爲サントスル水面ノ位置及區域
何道何郡(府)何面(町)何里(洞)何番地　別紙圖面ノ通
一　利用ノ制限ヲ爲サントスル事項
何　々
一　利用ノ制限(禁止)ヲ爲サントスル時期
何月何日ヨリ
何月何日迄
一　利用ノ制限(禁止)ヲ爲サントスル期間
何　年
一　利用ノ制限(禁止)ヲ爲サントスル水面ニ於ケル漁業ノ狀況
何　々
一　利用ノ制限(禁止)ヲ爲サントスル事由
何　々
前記ノ通水面ノ利用ノ制限(禁止)ノ許可相受ケタシ

年　月　日

住所
氏名　㊞

道知事宛

添附書類ノ表示

一　利用ノ制限(禁止)ヲ爲サントスル水面ノ位置及區域圖　一通
一　利用ノ制限(禁止)ヲ爲サントスル水面ノ占有者(敷地ノ所有者)タルコトヲ證スベキ書面　一通
(一)　漁業權ヲ有スル者(及登錄シタル權利者)ノ同意書(同意ヲ得ルコト能ハザル事由書)　一通

(注意)

一　朝鮮漁業令(以下注意事項中ニ於テハ單ニ漁業令ト稱ス)第二條及朝鮮漁業令施行規則(以下注意事項中ニ於テハ單ニ漁業令施行規則ト稱ス)第三條參照

第二號　朝鮮漁業令第二條ノ許可事項ノ變更ノ許可申請書

朝鮮漁業令第二條ノ許可事項ノ變更許可申請

一　利用ノ制限(禁止)ノ許可年月日及番號
何年何月何日附第何號
許可ヲ受ケタル水面ノ位置及區域
何道何郡何面何里何番地
一　變更セントスル水面ノ位置及區域
何道何郡何面何里何番地及何番地別紙圖面ノ通
一　變更セントスル事項
(何々ヲ何々ニ變更)
(制限(禁止)ノ時期何月何日ヨリヲ何月何日ヨリニ變更)
一　變更セントスル水面ニ於ケル漁業ノ狀況
何　々
一　變更セントスル事由
何　々
前記ノ通水面ノ利用ノ制限(禁止)ニ付變更ノ許可相受ケタシ

年　月　日

住所
氏名　㊞

道知事宛

添附書類ノ表
一　變更セントスル水面ノ位置及區域圖　一通
(一)　變更セントスル水面ノ占有者(敷地ノ所有者)タルコトヲ證スベキ書面　一通)
(一)　漁業權ヲ有スル者(及登錄シタル權利者)ノ同意書(同意ヲ得ルコト能ハザル事由書)　一通)

(注意)

一　本申請ハ許可ヲ受ケタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ
二　變更セントスル水面ノ位置及區域圖ハ許可ヲ受ケタル水面ノ位置及區域圖ニ朱記スベシ
三　漁業令施行規則第五條參照

第三號　漁業ノ免許ノ願書

(一)　定置漁業、定所曳網漁業及定所敷網漁業ノ例

漁業免許願

收入印紙
收入印紙　何圓貼附

一　漁業ノ種類　(定置漁業)
一　漁業及漁具ノ名稱　(大謀網漁業、大謀網)
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域
何道何郡何面何里地先　別紙圖面ノ通
一　採捕物ノ種類　何
一　漁業ノ時期　何月何日ヨリ
何月何日迄
一　免許ヲ受ケントスル期間　何年
一　漁獲物ノ見込年額　何キログラム、價額何圓
前記ノ通漁業ノ免許相受ケタシ

年　月　日

住所
持分何分ノ何　氏名　㊞
住所
持分何分ノ何　氏名　㊞
右二名代表者
住所
氏名　㊞
(住所
右代表者何某
代理人
氏名　㊞)

道知事宛

添附書類ノ表示
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖　一通
(一)　免許ヲ受ケントスル水面ノ占有者(敷地ノ所有者)ノ同意書(同意ヲ得ルコト能ハザル事由書)　何通)

(注意)

一　漁具ノ名稱ガ昭和四年朝鮮總督府告示第四百七十七號ニ揭ゲタル漁具ノ名稱ト異ルトキハ其ノ漁具圖及漁法ノ概要ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ
二　二人以上共同シテ出願スルトキハ免許アリタル場合ニ於ケル漁業權ノ持分ヲ各出願人ノ氏名ノ上ニ記載シ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第二百五十六條第一項但書ノ特約アルトキハ之ヲ附記スベシ
三　代表者ノ住所ガ免許ヲ受クベキ行政官廳ノ管轄區域內ニ在ラザルトキハ其ノ管轄區域內ニ住所ヲ有スル代理人ヲ定メ其ノ氏名及住所ヲ願書ニ附記スベシ
四　漁業令第六條、第八條、第九條、漁業令施行規則第一條、第二條、第九條、第十條、第十五條乃至第二十七條及昭和四年朝鮮總督府告示第四百七十七號參照

(一)　定所集魚漁業ノ例

漁業免許願

收入印紙
收入印紙　何圓貼附

一　漁業ノ種類　定所集魚漁業
一　漁業ノ名稱　(漬漁業)
一　裝置ノ名稱　(しいら漬)
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域
何道何郡何面何里沖合　別紙圖面ノ通
一　漁業ノ方法　(漁場內何所ニ何製漬木ヲ裝置シ之ニ集ル魚類ヲ旋網ニ依リテ採捕ス詳細別紙計畫書記載ノ通)
一　採捕物ノ種類　(しいら)
一　漁業ノ時期　何月何日ヨリ
何月何日迄
一　免許ヲ受ケントスル期間　何年
一　漁獲物ノ見込年額　何キログラム、價額何圓
前記ノ通漁業ノ免許相受ケタシ

年　月　日

住所
氏名　㊞
(住所
右代理人
氏名　㊞)

道知事宛

添附書類ノ表示
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖　一通
一　事業計畫書　一通

(注意)

一　前例注意三參照
二　參照條文前例ニ同シ
(三)　養殖漁業ノ例

漁業免許願

收入印紙
收入印紙　何圓貼附

一　漁業ノ種類　養殖漁業
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域
何道何郡何面何里地先何平方キロメートル別紙圖面ノ通
一　漁業ノ方法　石積畦立(築立)
一　養殖物ノ種類　まがき(のり)
一　漁業ノ時期　何月何日ヨリ
何月何日迄
一　免許ヲ受ケントスル期間　何年
一　漁獲物ノ見込年額　何キログラム、價額何圓
前記ノ通漁業ノ免許相受ケタシ

年　月　日

住所
氏名　㊞

朝鮮總督(道知事)宛

添附書類ノ表示
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖　一通
事業計畫書　一通
(一)　免許ヲ受ケントスル水面ノ占有者(及敷地ノ所有者)ノ同意書(同意ヲ得ルコト能ハザル事由書)　何通)

（注　意）
一　藻類ノ養殖漁業ニ在リテハ道知事ニ、其ノ他ノ養殖漁業ニ在リテハ朝鮮總督ニ出願スベシ
二　「免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域」ノ下ニ免許ヲ受ケントスル水面ノ面積ヲ附記スベシ
三　漁業令施行規則第七條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照其ノ他參照條文第一例ニ同ジ

（四）　專用漁業ノ例

漁業免許願

收入印紙

印紙　何圓貼附

一　漁業ノ種類　專用漁業
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域
何道何郡何面何里地先　別紙圖面ノ通
一　漁業ノ方法、採捕物ノ種類、漁業ノ時期及漁獲物ノ見込年額

漁業ノ方法	採捕物ノ種類	漁業ノ時期	漁獲物ノ見込年額 數量	價額
（壺　網）	（にしん）	何月何日ヨリ何月何日迄	何キログラム	何圓
漁業ノ方法	採捕物ノ種類	漁業ノ時期	漁獲物ノ見込年額 數量	價額
（竿　捲　取）	（わかめ）	何月何日ヨリ何月何日迄	何キログラム	何圓
（裸　潛）	（てんぐさ）	何月何日ヨリ何月何日迄	何キログラム	何圓
漁業ノ方法	採捕物ノ種類	漁業ノ時期	漁獲物ノ見込年額 數量	價額
（徒　手）	（はまぐり）	何月何日ヨリ何月何日迄	何キログラム	何圓

一　免許ヲ受ケントスル期間　何年
前記ノ通漁業ノ免許相受ケタシ
年　月　日

住所
持分何分ノ何　何漁業組合
組合長　氏名　職印

住所
理事　氏名　職印

持分何分ノ何　何里何組合
代表者　氏名　㊞
右二組合代表者
何漁業組合

朝鮮總督　宛

添附書類ノ表示
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖　一通
一　事業計畫書　一通
（一）　代表者ノ資格ヲ證スル書面　一通

（注　意）
一　第一例注意二參照
二　法人ニ非ザル社團ナルトキハ代表者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ
三　參照條文前例ニ同ジ

第四號　漁業權ノ存續期間延長ノ許可申請書

收入印紙
印紙　何圓貼附

何漁業免許第何號
延長期間　何年
前記ノ通漁業權ノ存續期間延長ノ許可相受ケタシ
年　月　日

住所
氏名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛
（添附書類ノ表示）
一　延長ノ許可ヲ受ケントスル水面ノ占有者（敷地ノ所有者）ノ同意書（同意ヲ得ルコト能ハザル事由書）　何通

（注　意）
一　本申請書ハ漁業權ノ存續期間滿了ノ日ヨリ三月以前ニ之ヲ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ差出スニ非ザレバ延長ノ許可ヲ受クルコトヲ得ズ
二　漁業權カ共有ナルトキハ其ノ代表者ヨリ申請スベシ
三　漁業令第八條、漁業令施行規則第一條、第二條、第七條、第十一條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第五號　漁業權ノ分割ノ許可申請書

收入印紙
印紙　收入印紙　何圓貼附

漁業權分割許可申請

何漁業免許第何號
一　分割セントスル漁場區域　別紙甲號及乙號圖面ノ通
（漁業ノ時期ニ依リ分割セントスル場合）

甲
一　漁業ノ時期　何月何日ヨリ何月何日迄

乙
一　漁業ノ時期　何月何日ヨリ何月何日迄

一　分割セントスル事由
一　何々
前記ノ通漁業權分割ノ許可相受ケタシ
年　月　日

住所
氏名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛
添附書類ノ表示
一　分割セントスル水面ノ位置及區域圖　甲號乙號各一通
（一）　漁業權ニ付登錄シタル權利者ノ同意書　何通

（注　意）
一　本申請ハ漁業ノ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ
二　申請書ニ添附スベキ漁場圖ハ分割ノ數ニ應ジ各一通トス
三　漁業令第十九條第一項、第二十條、漁業令施行規則第一條、第二條、第七條、第三十四條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第六號　漁業權ノ變更ノ許可申請

漁業權變更許可申請

收入印紙
印紙　收入印紙　何圓貼附

何漁業免許第何號
一　漁業（漁具）（裝置）ノ名稱ノ變更　何ヲ何ニ變更
（一）　漁場區域ノ變更　別紙圖面ノ通
一　漁業ノ方法ノ變更
イ　何ヲ何ニ變更
ロ　增加

漁業ノ方法	採捕物ノ種類	漁業ノ時期	漁獲物ノ見込年額 數量	價額
何々	何	何月何日ヨリ何月何日迄	何キログラム	何圓
何々	何	何月何日ヨリ何月何日迄	何キログラム	何圓

ハ　削減

何々	何	何月何日ヨリ何月何日迄	何キログラム	何圓

一　採捕物（養殖物）ノ種類ノ變更
イ　何ヲ何ニ變更
ロ　增加、削減

變更事項	漁業ノ方法	採捕物（養殖物）ノ種類	漁獲物ノ見込年額 數量	價額
增加	何々	何	何キログラム	何圓
削減	何々	何	何キログラム	何圓

二　漁業ノ時期ノ變更
イ　何月何日ヨリヲ何月何日迄ヲ何月何日迄ニ變更

漁業ノ方法	漁業ノ時期
何々	何月何日ヨリ何月何日迄

ロ

一　變更セントスル事由
何々
前記ノ通漁業權變更ノ許可相受ケタシ
年　月　日

住所
氏名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛
（添附書類ノ表示）
（一）　變更セントスル水面ノ位置及區域圖　一通
（一）　漁業權ニ付登錄シタル權利者ノ同意書　何通

第七號　專用漁業ノ漁業權ノ處分ノ認可申請書

（一）　專用漁業ノ漁業權（持分）賣渡ノ例

漁業權處分認可申請

收入印紙
印紙　收入印紙　何圓貼附

何漁業免許第何號
專用漁業免許ノ漁業權（持分）ノ賣渡
一　處分ノ種類　漁業權（持分）ノ賣渡

一　譲受人ノ氏名及住所
　何道何郡何面何里何番地
　何漁業組合（何里何組合）
一　賣買價格　何圓
（一）持分ノ賣渡ニ付他ノ共有者ノ同意ノ有無　別紙同意書ノ通）
　處分センントスル事由
一　何々
　前記ノ通漁業權（持分）處分ノ認可相受ケタシ
　年　月　日
　　住所　何漁業組合
　　組合長　氏　名　職印
　　理事　氏　名　職印
朝鮮總督宛
（添附書類ノ表示）
（一）共有者ノ同意書　何通）

（注　意）
一　漁業令第十九條第二項、第二十一條、漁業令施行規則第七條、第三十五條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照
（二）專用漁業ノ漁業權（持分）交換ノ例

漁業權（持分）處分認可申請

收入印紙	收入印紙　何圓貼附

專用漁業免許第何號
一　處分ノ種類　漁業權（持分）ノ交換
一　交換人ノ氏名及住所
　何道何郡何面何里何番地
　何漁業組合（何里何組合）
一　交換物件（何漁業免許第何號漁業權）
一　交換價格
　讓渡物件ノ價格　何圓
　讓受物件ノ價格　何圓
　補足金　何圓
（一）持分ノ交換ニ付他ノ共有者ノ同意ノ有無　別紙同意書ノ通）
一　何々
　前記ノ通漁業權處分ノ認可相受ケタシ
　年　月　日
　　住所　何漁業組合
　　組合長　氏　名　職印
　　理事　氏　名　職印
朝鮮總督宛
（注　意）
一　參照條文第一例ニ同ジ
（四）專用漁業ノ漁業權共有ノ例

漁業權處分認可申請

收入印紙	收入印紙　何圓貼附

專用漁業免許第何號
一　處分ノ種類　漁業權ノ共有
一　共有者ノ氏名及住所
　何道何郡何面何里何番地
　何漁業組合（何里何組合）
一　各共有者ノ持分　何漁業組合（十分ノ六）
　何漁業組合（十分ノ四）
　（何里何組合）
一　代償金額　何圓
一　債務ノ金額　何圓
一　同期間　何年
一　同利率　（年何分）
一　同償還方法
一　何々
　擔保ニ供センントスル事由
一　何々
　前記ノ通漁業權（持分）擔保ノ認可相受ケタシ
　年　月　日
　　住所　何漁業組合
　　組合長　氏　名　職印
　　理事　氏　名　職印
朝鮮總督宛
（添附書類ノ表示）
（一）共有者ノ同意書　何通）

（注　意）
一　參照條文第七號第一例ニ同ジ
第九號　專用漁業ノ漁業權（持分）貸付ノ認可申請書

漁業權（持分）貸付認可申請

收入印紙	收入印紙　何圓貼附

專用漁業免許第何號
一　貸付ノ種類（賃貸借）
一　借受人ノ氏名及住所
　何道何郡何面何里何番地　何漁業組合
一　貸付ノ期間　何年
（一）貸賃料　一年何圓）
一　貸付センントスル事由
一　何々
　前記ノ通漁業權（持分）貸付ノ認可相受ケタシ
　年　月　日
　　住所　何漁業組合
　　組合長　氏　名　職印
　　理事　氏　名　職印
朝鮮總督宛

（注　意）
一　參照條文第七號第一例ニ同ジ
第十號　漁業權（專用漁業ノ漁業權ヲ除ク）擔保ノ届書

一　處分センントスル事由
　何々
　前記ノ通漁業權處分ノ認可相受ケタシ
　年　月　日
　　住所　何漁業組合
　　組合長　氏　名　職印
　　理事　氏　名　職印
朝鮮總督宛

（注　意）
一　參照條文第一例ニ同ジ
（五）專用漁業ノ漁業權（持分）抛棄ノ例

漁業權（持分）處分認可申請

收入印紙	收入印紙　何圓貼附

專用漁業免許第何號
一　處分ノ種類　漁業權ノ抛棄
一　處分センントスル事由
一　何々
　前記ノ通漁業權處分ノ認可相受ケタシ
　年　月　日
　　住所　何漁業組合
　　組合長　氏　名　職印
　　理事　氏　名　職印
朝鮮總督宛

（注　意）
一　參照條文第一例ニ同ジ
第八號　專用漁業ノ漁業權（持分）擔保ノ認可申請書

漁業權（持分）擔保認可申請

收入印紙	收入印紙　何圓貼附

專用漁業免許第何號
一　擔保ノ種類（抵當權ノ設定）
一　債權者ノ氏名及住所
　何道何府何町何番地　何銀行

漁業權拋棄屆

何漁業免許第何號漁業權
前記ノ漁業權ヲ拋棄シタルニ付屆出ヅ

年　月　日

住所
氏名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

（添附書類ノ表示）

（一）漁業權ニ付登錄シタル權利者ノ同意書　何通）

（注　意）

一　本屆ハ漁業ノ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ
二　專用漁業ノ漁業權ハ拋棄ニ付朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタルトキハ別ニ拋棄屆ノ提出ヲ要セズ
三　漁業令第二十條、漁業令施行規則第一條、第二條、第七條、第三十八條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第十一號　入漁料請求認可申請

收入印紙

入漁料請求ニ關スル慣行

收入印紙　何圓貼附

專用漁業免許第何號
一　入漁料ノ額　一年何圓（一月何圓）（一回何錢）
一　入漁料ノ請求方法
一　入漁料ハ毎年入漁開始前一年分ヲ取纏メ請求ス（何々）
一　入漁ヲ爲ス者ノ數　何人
一　入漁料請求ニ關スル慣行
何々
一　入漁料ヲ請求セントスル事由
何々
前記ノ通入漁料請求ノ認可相受ケタシ

年　月　日

住所
何漁業組合
組合長　氏名　㊞
理事　氏名　㊞

朝鮮總督宛

（注　意）

一　「入漁料請求ニ關スル慣行」ニハ慣行ノ有無、入漁料ノ額其ノ他入漁ヲ爲サザル期間ニ於ケル入漁料ノ請求ニ關スル慣行等ヲ記載スベシ
二　漁業令第二十六條、漁業令施行規則第七條、第四十條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第十二號　專用漁業ノ漁場ニ於ケル漁業制限ノ協定ノ屆書

漁業制限協定屆

專用漁業免許第何號漁業權
一　制限ノ事項
漁場全部ニ付制限期間內漁業ヲ禁止ス（漁場ヲ何處ヨリ何處ヲ見通シタル線ニヨリ二分シ制限期間內每年輪番ニ漁業ヲ爲ス）
一　制限ノ（時期及）期間　（何月何日ヨリ何月何日迄）何年
一　協議調ヒタル年月日　何年何月何日
前記ノ通專用漁業ノ漁場ニ於ケル漁業制限ノ協定ヲ爲シタルニ付屆出ヅ

年　月　日

住所
漁業權者　何漁業組合
組合長　氏名　職印
理事　氏名　職印

朝鮮總督宛

住所
入漁者　氏名　㊞
同　氏名　㊞
同　氏名　㊞

（注　意）

一　漁業令第二十七條、漁業令施行規則第七條、第四十一條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第十三號　漁業ノ許可ノ申請書

（一）　捕鯨漁業、「トロール」漁業、工船漁業、機船底曳網漁業及機船巾著網漁業ノ例

漁業許可申請

一　漁業ノ種類（捕鯨漁業）
一　操業ノ區域　何々
一　漁業ノ方法
何々
一　漁船ノ種類（西洋型）
一　漁船ノ名稱　何丸（何年何月何日竣成）
一　漁船ノ積量　何トン
一　漁船ノ隻數　何隻
一　機關ノ種類及馬力　石油發動機、純何馬力
一　採捕物ノ種類　何
一　漁業ノ時期　何月何日ヨリ何月何日迄
一　許可ヲ受ケントスル期間　何年
一　漁獲物ノ見込年額　何キログラム（何頭）、何圓
前記ノ通漁業ノ許可相受ケタシ

年　月　日

住所
氏名　㊞

朝鮮總督宛

添附書類ノ表示
一　船舶國籍證書寫（船鑑札寫）　何通
（一）　船舶檢査證書寫　何通
（二）　事業計畫書　一通）

（注　意）

一　操業ノ區域ハ捕鯨漁業、工船漁業及機船底曳網漁業ニ付テハ漁業令施行規則第十七條ノ規定ニ依ル操業區域ニ依リ機船巾著網漁業ニ付テハ何道及何道沿海ノ如ク記載スベシ
二　工船漁業ニ在リテハ一隻毎ニ漁船ノ種類、積量及隻數竝ニ機關ノ種類及馬力ヲ記載シ且製造工場設備ヲ有スル機船及附屬漁船ノ區別ヲ明示スベシ
三　代表者ノ住所ガ許可ヲ爲スベキ行政官廳ノ管轄區域內ニ在ラザルトキハ其ノ管轄區域內ニ住所ヲ有スル代理人ヲ定メ其ノ氏名及住所ヲ申請書ニ附記スベシ
四　漁業令第十條、漁業令施行規則第一條、第七條、第十六條乃至第十八條、第二十六條、第二十七條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

（二）　潛水器漁業、煎網漁業、緯網漁業、旋網漁業、刺網漁業、空釣繩漁業、柴漬漁業及海獸漁業ノ例

漁業許可申請

一　漁業ノ種類（潛水器漁業）
一　操業ノ區域　第何區（何川）（何郡沿海）
一　漁業ノ方法
何々
一　漁船ノ種類（日本型帆船）
一　漁船ノ長サ及肩幅（積量）　長サ何メートル　肩幅何メートル（何トン）
一　漁船ノ隻數　一隻
（一）　機關ノ種類及馬力　石油發動機、純何馬力）
一　採捕物ノ種類　何
一　漁業ノ時期　何月何日ヨリ何月何日迄
一　許可ヲ受ケントスル期間　何年
一　漁獲物ノ見込年額　何キログラム、何圓
前記ノ通漁業ノ許可相受ケタシ

年　月　日

住所
氏名　㊞

道知事宛

（注　意）

一　操業ノ區域ハ漁業ヲ爲サントスル水面ノ名稱又ハ其ノ水面ニ近接セル陸地ノ名稱ニ依リ之ヲ表示スベシ
二　海獸漁業ニ在リテハ「漁具ノ名稱」ニ銃器ノ種類ヲ記載スベシ
三　漁具ノ名稱カ昭和四年朝鮮總督府告示第四百七十七號ニ揭ゲタル漁具ノ名稱ト異ルトキハ其ノ漁具圖及漁法ノ概要ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

四　漁業令施行規則第一條、第十五條、第十六條、第十八條及第二十五條參照

第十四號　漁業ノ許可事項變更ノ許可申請書

漁業許可事項變更許可申請

何年何漁業許可第何號

一　採捕物ノ種類ノ變更　何ヲ追加

（一）漁業ノ時期ノ變更　何月何日ヨリ　ヲ　何月何日迄ニ變更）

（一）何ノ變更　何ヲ何ニ變更）

一　變更セントスル事由

何々

前記ノ通漁業ノ許可事項變更ノ許可相受ケタシ

年　月　日　住所　氏名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

添附書類ノ表示

一　許可狀　一通

（注意）

一　本申請ハ漁業ノ許可ヲ受ケタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ

二　漁業令第十條、漁業令施行規則第一條、第七條、第十四條ノ二、第十五條、第二十條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第十五號　漁業廢止屆

漁業廢止屆

何年何漁業許可第何號

前記ノ漁業ヲ廢止シタルニ付屆出ヅ

年　月　日　住所　氏名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

添附書類ノ表示

一　許可狀　一通

（注意）

一　本屆ハ漁業ノ許可ヲ受ケタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ

二　漁業令施行規則第一條、第七條、第二十一條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第十六號　漁業ノ屆書

漁業屆

一　漁業ノ名稱（何漁業）

漁具ノ名稱（漁業ノ方法）　何々

（一）漁船ノ種類（日本型帆船）

一　漁船ノ長サ及肩幅（積量）　長サ何メートル　肩幅何メートル（何トン）

（一）漁船ノ乘組人員（何人）

（一）機關ノ種類及馬力　石油發動機、純何馬力）

一　採捕物ノ種類何

一　漁業ノ時期　何月何日ヨリ　何月何日迄

一　漁業ヲ爲スベキ期間　何年　何月何日迄

前記ノ通漁業ヲ爲サントスルニ付屆出ヅ

年　月　日　住所　氏名　㊞

道知事　宛

（注意）

一　漁船ノ乘組人員ハ總人員ヲ記載スルノ外直接採捕ヲ爲ス者ノ數ヲ明示スベシ

二　漁業令第十四條及漁業令施行規則第二十二條乃至第二十五條參照

第十七號　漁業ノ屆出事項變更屆

漁業ノ屆出事項變更屆

何年何漁業屆出第何號

一　採捕物ノ種類ノ變更　何ヲ何ニ變更

（一）何ノ變更　何ヲ何ニ變更）

前記ノ通屆出事項ヲ變更シタルニ付屆出ヅ

年　月　日　住所　氏名　㊞

道知事　宛

添附書類ノ表示

一　鑑札　一通

（注意）

一　漁業令第十四條、漁業令施行規則第二十二條及第三十二條第一項第三號、第三項參照

第十八號　代表者ニ關スル屆出

（一）共同出願又ハ共同申請ニ對シ漁業ノ免許又ハ許可アリタル場合ニ於ケル代表者選定ノ屆書

代表者選定屆

住所　氏名

何年何月何日附何漁業免許（何年何漁業許可）第何號ヲ以テ漁業ノ免許（許可）アリタルニ付前記ノ者ヲ代表者ニ選定シタリ

年　月　日　住所　氏名　㊞

住所　氏名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

（注意）

一　本屆ハ漁業ノ免許又ハ許可ヲ受ケタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ

二　漁業令施行規則第一條、第七條、第二十一條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

（二）漁業權ヲ共有シタル場合ニ於ケル代表者選定ノ屆書

代表者選定屆

住所　氏名

何年何月何日何漁業免許第何號漁業權ヲ共有シタルニ付前記ノ者ヲ代表者ニ選定シタリ

年　月　日　住所　氏名　㊞

住所　氏名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

（注意）

一　本屆ハ漁業ノ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ

二　參照條文前例ニ同ジ

（三）朝鮮漁業令施行規則第二十六條又ハ法人ニ非ザル社團ノ代表者變更ノ屆書

代表者變更屆

何年何月何日附何漁業ノ免許願（許可申請）

（何漁業免許（許可）何號漁業權）

（何年何漁業許可第何號）

住所　氏名　㊞

年　月　日　住所　舊代表者　氏名　㊞

住所　新代表者　氏名

前記ノ通代表者ヲ變更シタルニ付屆出ヅ

年　月　日　住所　氏名　㊞

住所　氏名　㊞

（住所　何里何組合　新代表者　氏名　㊞）

朝鮮總督（道知事）宛

（添附書類ノ表示）

（一）許可狀　一通）

（一）新代表者ノ資格ヲ證スル書面　一通）

（注意）

一　漁業令施行規則第七條、第三十二條第一項第一號、第二項、第三項及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

（四）朝鮮漁業令施行規則第二十六條又ハ法人ニ非ザル社團ノ代表者ノ氏名又ハ住所變更ノ屆書

氏名（住所）變更屆

何年何月何日附何漁業ノ免許願（許可申請）

（何漁業免許第何號漁業權）

（何年何漁業許可第何號）

舊氏名　氏名

新氏名　氏名（々）

（舊住所　何）

（新住所　々）

前記ノ通氏名（住所）ヲ變更シタルニ付屆出ヅ

年　月　日　住所　代表者　氏名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

（添附書類ノ表示）

（一）許可狀　一通）

（注意）

一　漁業令施行規則第七條、第三十二條第一項第五號、第三項及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第十九號　代理人選定屆

住所　氏名　㊞

何年何月何日何漁業免許第何號漁業權ヲ取得シタルニ付前記ノ者ヲ代理人ニ選定シタリ

年　月　日　住所　氏名　㊞

（住所　何某外何名代表者　氏名　㊞）

朝鮮總督（道知事）宛

（注意）

一　本屆ハ取得シタル漁業權ニ付免許ヲ爲シタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ

二　漁業令施行規則第七條、第二十七條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

（二）漁業ノ免許若ハ許可ノ出願若ハ申請ヲ爲シタル者、漁業權者又ハ漁業ノ許可ヲ

受ケタル者行政官廳ノ管轄區域内ニ住所ヲ有セザルニ至リタル場合ニ於ケル代理人選定ノ届書

代理人選定届
何年何月何日附何漁業ノ免許願（許可申請）
（何漁業免許第何號漁業權）
（何年何漁業許可第何號）

住所
氏名㊞

何年何月何日何道何郡何面何里何番地ニ住所ヲ變更シタルニ付前記ノ者ヲ代理人ニ選定シタリ

年　月　日

住所
氏名㊞
（住所
何某外何名代表者　氏名㊞）

朝鮮總督（道知事）宛

（注　意）
一　本届ハ出願若ハ申請ヲ爲シタル行政官廳又ハ漁業ノ免許若ハ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ
二　參照條文前例ニ同ジ
（三）　代理人變更ノ届書

代理人變更届
何年何月何日附何漁業ノ免許願（許可申請）
（何漁業免許第何號漁業權）
（何年何漁業許可第何號）

住所
舊代理人　氏名㊞
住所
新代理人　氏名㊞

前記ノ通代理人ヲ變更シタルニ付届出ヅ

年　月　日

住所
氏名㊞

朝鮮總督（道知事）宛

（注　意）
一　漁業令施行規則第七條、第三十二條第一項第一號及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照
（四）　代理人ノ氏名又ハ住所變更ノ届書

氏名（住所）變更届
何年何月何日附何漁業ノ免許願（許可申請）
（何漁業免許第何號漁業權）

何年何月何日ヨリ
何年何月何日迄

（何年何漁業許可第何號）

舊氏名
新氏名　氏名
（舊住所
新住所　何々）

前記ノ通氏名（住所）ヲ變更シタルニ付届出ヅ

年　月　日

住所
何某代理人　氏名㊞

朝鮮總督（道知事）宛

（注　意）
一　漁業令施行規則第七條、第三十二條第一項第五號及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照
第二十號　漁業ノ免許又ハ許可ニ關スル出願又ハ申請ヲ爲シタル者ノ死亡又ハ解散ノ届書

死亡（解散）届

住所
出願（申請）人　氏名

何年何月何日附何漁業ノ免許願（何漁業免許第何號漁業權ノ存續期間ノ延長ノ許可申請）（何漁業ノ許可申請）（何々）ニ關スル前記出願（申請）人何年何月何日死亡（解散）シタルニ付届出ヅ

年　月　日

住所
相續人（清算人）　氏名㊞

朝鮮總督（道知事）宛

添附書類ノ表示
一　戸籍簿ノ謄本（法人登記簿ノ謄本）（漁業組合登記簿ノ謄本）（何々）　一通

（注　意）
一　本届ハ死亡又ハ解散ノ日ヨリ一月以内ニ出願又ハ申請ヲ爲シタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ
二　漁業令施行規則第一條、第七條、第二十七條、第二十八條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照
第二十一號　免許又ハ許可ヲ受ケタル漁業ノ休業ノ許可申請書及就業ノ届書
（一）　休業ノ許可申請書

漁業休業許可申請
何漁業免許（何年何漁業許可）第何號
一　休業セントスル期間　何年何月何日ヨリ
何年何月何日迄

一　休業セントスル事由
何々

前記ノ通休業ノ許可相受ケタシ

年　月　日

住所
氏名㊞

朝鮮總督（道知事）宛

（添附書類ノ表示）
（一）　許可狀　一通

（注　意）
一　本申請ハ免許又ハ許可ヲ受ケタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ
二　漁業令第十三條第一項、漁業令施行規則第一條、第七條、第二十九條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照
（二）　就業ノ届書

漁業就業届
何漁業免許（何年何漁業許可）第何號
一　休業許可ノ年月日　何年何月何日
一　就業ノ年月日　何年何月何日
前記ノ通就業シタルニ付届出ヅ

年　月　日

住所
氏名㊞

朝鮮總督（道知事）宛

（注　意）
一　本届ハ休業ノ許可ヲ受ケタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ
二　參照條文前例ニ同ジ
第二十二號　許可狀又ハ鑑札ノ再交付ノ申請書

許可狀（鑑札）再交付申請
何年何漁業許可（何年何漁業届出）第何號
（一）　亡失ノ年月日　何年何月何日
（一）　亡失ノ事由
（何々）
（前記ノ通）許可狀（鑑札）亡失（毀損）シタルニ付再交付相受ケタシ

年　月　日

住所
氏名㊞

朝鮮總督（道知事）宛

（添附書類ノ表示）
（一）　許可狀（鑑札）一通

（注　意）
一　本申請ハ漁業ノ許可ヲ受ケ又ハ漁業ノ届出ヲ爲シタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ
二　漁業令施行規則第一條、第七條、第三十一條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照
第二十三號　漁業ノ免許又ハ許可ニ關スル出願人又ハ申請人ノ氏名又ハ住所變更ノ届書

氏名（住所）變更届
何年何月何日附何漁業ノ免許願（何漁業免許第何號漁業權ノ存續期間ノ延長ノ許可申請）（何々ノ申請）

舊氏名　何
新氏名　何
（舊住所　何々
新住所　何々）

前記ノ通何年何月何日氏名（住所）ヲ變更シタルニ付届出ヅ

年　月　日

住所
氏名㊞

朝鮮總督（道知事）宛

（注　意）
一　本届ハ出願又ハ申請ヲ爲シタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ
二　漁業令施行規則第一條、第七條、第三十二條第一項第二號及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照
第二十四號　漁業ノ許可ヲ受ケ又ハ漁業ノ届出ヲ爲シタル者ノ氏名又ハ住所變更ノ届書

氏名（住所）變更届
何年何漁業許可（何年何漁業届出）第何號

舊氏名　何
新氏名　何
（舊住所　某々
新住所　何々）

前記ノ通何年何月何日氏名（住所）ヲ變更シタルニ付届出ヅ

年　月　日

住所
氏名㊞

朝鮮總督（道知事）宛

（注　意）
一　本届ハ漁業ノ許可ヲ受ケ又ハ漁業ノ届出ヲ爲シタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ
二　漁業令施行規則第一條、第七條、第三十二條第一項第四號、第三項及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第二十五號　許可狀又ハ鑑札返納ノ届書

許可狀(鑑札)返納届

何年何漁業許可(何年何漁業届出)第何號

一無效ニ歸シタル事由及年月日

何年何月何日許可(届出)ノ期間滿了シタルニ因ル(何年何月何日許可ヲ受ケタル者(届出ヲ爲シタル者)死亡シタルニ因ル)

前記ノ通許可狀(鑑札)無效ニ歸シタルニ付返納ス

年　月　日

住所

名　㊞

(相續人　氏

名　㊞)

朝鮮總督(道知事)殿

添附書類ノ表示

一許可狀(鑑札)一通

(注　意)

一本届ハ漁業ノ許可ヲ受ケ又ハ漁業ノ届出ヲ爲シタル行政官廳ニ對シテ之ヲ爲スベシ

二　漁業令施行規則第一條、第七條、第三十三條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第二十六號　土地物件ノ使用又ハ除去制限ノ許可申請書

(一)　土地物件ノ使用ノ許可申請書

土地(工作物)(何々)使用許可申請

收入印紙	收入印紙何圓貼附

一使用スベキ土地ノ所在、地番、地目及面積

何道何郡何面何里何番地原野何平方キロメートル

(一)使用スベキ工作物(何々)ノ所在ノ場所、種類及數量

何道何郡何面何里何番地石垣(何々)何平方メートル(何程)

一使用スベキ土地(工作物)(何々)ノ所有者ノ氏名及住所

何道何郡何面何里何番地何某

一使用スベキ土地(工作物)(何々)ノ占有者ノ氏名及住所

何道何郡何面何里何番地何某(所有者ニ同ジ)

一使用スベキ土地(工作物)(何々)ニ付登記シタル權利者ノ氏名及住所

何道何郡何面何里何番地何某(登記シタル權利者ナシ)

一使用スベキ時期及期間　何月何日ヨリ何年

何月何日迄

一使用ヲ必要トスル事由

何々

一使用ヲ必要トスル施設ノ計畫

何々

一許可ヲ申請セントスル事由

(注　意)

一　漁業令第三十一條及漁業令施行規則第四十五條參照

第二十八號　土地ノ立入リ又ハ障碍物ノ變更若ハ除却ノ許可申請書

(一)　土地ノ立入リノ許可申請書

土地立入リ許可申請

收入印紙	收入印紙何圓貼附

一立入ルベキ土地ノ所在、地番、地目及區域

何道何郡何面何里何番地原野何所ヨリ何所迄ノ區域

一立入ルベキ土地ノ所有者ノ氏名及住所

何道何郡何面何里何番地何某

一立入ルベキ土地ノ占有者ノ氏名及住所

何道何郡何面何里何番地何某(所有者ニ同ジ)

一立入ルベキ時期(及期間)　何月何日ヨリ(何年間)

立入リヲ必要トスル事由

何月何日迄

一何々ノ許可ヲ申請セントスル事由

前記ノ通土地ノ立入リノ許可相受ケタシ

年　月　日

住所

氏名　㊞

道知事宛

(注　意)

一　許可ヲ申請セントスル事由ニハ立入リニ付協議ヲ爲シタル顚末、協議調ハザル事由等ヲ詳細ニ記載スベシ

一　漁業令第三十二條及漁業令施行規則第四十六條參照

(二)　障碍物ノ變更又ハ除却ノ許可申請書

何々ノ前記ノ通土地(工作物)(何々)使用ノ許可相受ケタシ

年　月　日

住所

氏名　㊞

道知事宛

(注　意)

一　注意事項前例ニ同ジ

第二十七號　土地物件ノ使用又ハ除去制限ノ廢止ノ届書

(注　意)

一　注意事項前例ニ同ジ

土地(何々)使用(除去制限)廢止届

一使用(除去制限)許可ノ年月日及番號　何年何月何日附許可第何號

一使用(除去制限)廢止ノ年月日　何年何月何日

前記ノ通土地(何々)ノ使用(除去制限)ヲ廢止シタルニ付届出ヅ

年　月　日

住所

氏名　㊞

道知事宛

(注　意)

一　漁業令第三十一條及漁業令施行規則第四十五條參照

第二十八號　土地ノ立入リ又ハ障碍物ノ變更若ハ除却ノ許可申請書

(一)　土地ノ立入リノ許可申請書

收入印紙	收入印紙何圓貼附

一立入ルベキ土地ノ所在、地番、地目及區域

何道何郡何面何里何番地原野何所ヨリ何所迄ノ區域

一立入ルベキ土地ノ所有者ノ氏名及住所

何道何郡何面何里何番地何某

一立入ルベキ土地ノ占有者ノ氏名及住所

何道何郡何面何里何番地何某(所有者ニ同ジ)

一立入ルベキ時期(及期間)　何月何日ヨリ(何年間)

立入リヲ必要トスル事由

何月何日迄

一何々ノ許可ヲ申請セントスル事由

前記ノ通土地ノ立入リノ許可相受ケタシ

年　月　日

住所

氏名　㊞

道知事宛

(注　意)

一　許可ヲ申請セントスル事由ニハ立入リニ付協議ヲ爲シタル顚末、協議調ハザル事由等ヲ詳細ニ記載スベシ

一　漁業令第三十二條及漁業令施行規則第四十六條參照

(二)　障碍物ノ變更又ハ除却ノ許可申請書

障碍物ノ變更(除却)許可申請

收入印紙	收入印紙何圓貼附

一變更(除却)スベキ障碍物ノ所在ノ場所、種類、數量及見積價額

何道何郡何面何里何番地雜木(何)何本何圓

一變更(除却)スベキ障碍物ノ所有者ノ氏名及住所

何道何郡何面何里何番地何某

一變更(除却)スベキ障碍物ノ占有者ノ氏名及住所

何道何郡何面何里何番地何某(所有者ニ同ジ)

一變更(除却)スベキ時期　何月何日ヨリ

何月何日迄

一變更(除却)ヲ必要トスル事由

何々

一許可ヲ申請セントスル事由

何々

前記ノ通障碍物變更(除却)ノ許可相受ケタシ

年　月　日

住所

氏名　㊞

道知事宛

(注　意)

一　注意事項前例ニ同ジ

第二十九號　朝鮮漁業令第三十一條第一項(第三十二條第一項)ノ許可事項變更ノ許可申請書

朝鮮漁業令第三十一條第一項(第三十二條第一項)ノ許可事項變更ノ許可申請

一使用(除去制限)(立入リ)(變更)(除却)許可ノ年月日及番號

何年何月何日附許可第何號

一變更セントスル事項

使用スベキ土地何道何郡何面何里何番地何使用許可面積何平方キロメートルヲ別紙圖面ノ通何平方キロメートルニ擴張(何ヲ何ニ變更)

一變更セントスル事由

一何々ノ許可ヲ申請セントスル事由

前記ノ通土地ノ使用(何々)ニ付變更ノ許可相受ケタシ

年　月　日

住所

氏名　㊞

道知事宛

添附書類ノ表示

(一)　許可ノ指令書　一通

（注　意）
一　本申請ハ當初許可ヲ受ケタル事ニ對シテ之ヲ爲スベシ
二　土地ノ面積又ハ物件ノ所在面積ノ變更ニ在リテハ圓面ヲ以テ之ヲ表示スベシ
三　漁業令施行規則第四十三條、第四十六條及第四十七條參照

第三十號　朝鮮漁業令第十二條第一號乃至第三號又ハ第三十六條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ因ル損害ノ補償ノ申請書

（一）　朝鮮漁業令第十二條第一號乃至第三號ノ規定ニ依ル處分ニ因ル損害ノ補償ノ申請書

朝鮮漁業令第十二條第一號（第二號）（第三號）ノ規定ニ依ル處分ニ因ル損害補償申請

一　免許（許可）ノ番號　何漁業免許（何年何漁業許可）第何號
一　損害ノ事實
　何々
一　損害ノ見積金額及其ノ內譯
　金何圓　損害見積金額
　內　譯
　金何圓　何々
　金何圓　何々
一　損害見積金額內譯ノ算定方法
　何々
前記ノ通朝鮮漁業令第十二條第一號（第二號）（第三號）ノ規定ニ依ル處分ニ因リ損害ヲ受ケタルニ付其ノ補償相受ケタシ

年　月　日

住所　氏名　㊞

朝鮮總督宛

添附書類ノ表示
一　何々　何通

（注　意）
一　本申請書ハ處分ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ二月以內ニ之ヲ朝鮮總督ニ差出スニ非ザレバ補償ヲ受クルコトヲ得ズ
二　損害ノ事實ハ成ルベク詳細ニ記載シ且事實ヲ立證スベキ書類アルトキハ申請書ニ之ヲ添附スベシ
三　漁業令第十二條第一號乃至第三號、第六十一條、漁業令施行規則第七條、第四十九條乃至第五十一條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

（二）　朝鮮漁業令第三十六條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ因ル損害ノ補償ノ申請書

朝鮮漁業令第三十六條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ因ル損害補償申請

一　除害設備ヲ命ゼラレタル年月日　何年何月何日
一　除害設備ヲ命ゼラレタル工作物ノ所在ノ場所及種類
　何道何郡何面何里何々
一　損害ノ事實
　何々
一　損害ノ見積金額及其ノ內譯
　金何圓　損害見積金額
　內　譯
　金何圓　何々
　金何圓　何々
一　損害見積金額內譯ノ算定方法
　何々
前記ノ通朝鮮漁業令第三十六條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ因リ損害ヲ受ケタルニ付其ノ補償相受ケタシ

年　月　日

住所　氏名　㊞

朝鮮總督宛

添附書類ノ表示
一　何々　何通

（注　意）
一　本申請書ハ除害設備ノ完成シタル日ノ翌日ヨリ起算シ二月以內ニ之ヲ朝鮮總督ニ差出サザルニ於テハ補償ヲ受クルコトヲ得ズ
二　前例注意二參照
三　漁業令第三十六條、第六十一條、漁業令施行規則第七條、第四十九條乃至第五十一條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第三十一號　朝鮮漁業令第六十一條第三項ノ規定ニ依ル裁定ノ申請書

收入印紙	收入印紙　何圓貼附

一　補償（負擔）ノ種別
一　朝鮮漁業令第十二條第何號（第三十六條第二項）ノ規定ニ依ル處分ニ因ル損害ノ補償（損害保償金ノ負擔）
一　補償（負擔）決定ノ年月日　何年何月何日
一　補償（負擔）決定書ノ謄本ノ交付ヲ受ケタル年月日　何年何月何日
一　申請ノ目的
　補償金額ヲ何圓ト裁定ヲ受ケントス（補償金ノ負擔免除ノ裁定ヲ受ケントス）
一　申請ノ事由
　何々
前記ノ通裁定相受ケタシ

年　月　日

住所　氏名　㊞

朝鮮總督宛

添附書類ノ表示
一　何々　何通

（注　意）
一　前號第一例及第二例ノ注意一參照
二　申請ノ事由ハ成ルヘク詳細ニ記載シ且事實ヲ立證スベキ書類アルトキハ申請書ニ之ヲ添附スベシ
三　漁業令第六十一條、漁業令施行規則第七條、第五十二條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第三十二號　朝鮮漁業令第六十三條第二項ノ規定ニ依ル裁定申請書

收入印紙	收入印紙　何圓貼附

一　使用（除去制限）（立入リ）（變更）（除却）許可ノ年月日　何年何月何日
一　使用（立入リ）スベル土地ノ所在、地番、地目及面積
　何道何郡何面何里何番地原野（何々）　何平方キロメートル
（一）　除去ヲ制限（變更）（除却）シタル物件ノ所在ノ場所
　何道何郡何面何里何番地山林）
（一）　除去ヲ制限（變更）（除却）シタル物件ノ種類及數量　松何十本）
（一）　立入リ（變更シ）（除却シ）タル時期及立入リタル期間　何月何日ヨリ　何月何日迄　何年）
一　損害ノ事實
　何々
一　損害ノ見積金額及內譯
　金何圓　損害見積金額
　內　譯
　金何圓　何々
　金何圓　何々
一　損害見積金額內譯ノ算定方法
一　何道何郡何面何里何番地何某
同　所何某
一　申請ノ事由
（漁業ノ制限ニ付協議調ハザルニ依ル）
前記ノ通裁定相受ケタシ

年　月　日

住所　氏名　㊞

朝鮮總督宛

添附書類ノ表示
（一）　漁業制限ノ同意書　何通）
一　關係人ト交渉シタル顚末書（交渉ヲ爲スコト能ハザル事由書）　一通
一　申請書ノ副本　何通
一　何々　何通

朝鮮總督宛

添附書類ノ表示
一　何々　何通

（注　意）
一　前號第一例及第二例ノ注意一參照
二　申請ノ事由ハ成ルヘク詳細ニ記載シ且事實ヲ立證スベキ書類アルトキハ申請書ニ之ヲ添附スベシ
三　漁業令第六十一條、漁業令施行規則第七條、第五十二條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第三十二號　朝鮮漁業令第六十三條第二項ノ規定ニ依ル裁定申請書

收入印紙	收入印紙　何圓貼附

一　使用（除去制限）（立入リ）（變更）（除却）許可ノ年月日　何年何月何日
一　使用（立入リ）スベル土地ノ所在、地番、地目及面積
　何道何郡何面何里何番地原野（何々）　何平方キロメートル
（一）　除去ヲ制限（變更）（除却）シタル物件ノ所在ノ場所
　何道何郡何面何里何番地山林）
（一）　除去ヲ制限（變更）（除却）シタル物件ノ種類及數量　松何十本）
（一）　立入リ（變更シ）（除却シ）タル時期及立入リタル期間　何月何日ヨリ　何月何日迄　何年）
一　損害ノ事實
　何々
一　損害ノ見積金額及內譯
　金何圓　損害見積金額
　內　譯
　金何圓　何々
　金何圓　何々
一　損害見積金額內譯ノ算定方法
一　何道何郡何面何里何番地何某
同　所何某
一　申請ノ事由
（漁業ノ制限ニ付協議調ハザルニ依ル）
前記ノ通裁定相受ケタシ

年　月　日

住所　氏名　㊞

朝鮮總督宛

添附書類ノ表示
（一）　漁業制限ノ同意書　何通）
一　關係人ト交渉シタル顚末書（交渉ヲ爲スコト能ハザル事由書）　一通
一　申請書ノ副本　何通
一　何々　何通

道知事宛

添附書類ノ表示
一　關係人ト交渉ヲ爲スコト能ハザル事由書（關係人ト交渉ヲ爲シタル顚末書）　一通
一　申請書ノ副本　何通
一　何々　何通

（注　意）

一　漁業令第二十七條第一項、第六十五條、漁業令施行規則第七條、第五十四條、第五十六條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

第三十四號　朝鮮漁業令第六十六條ノ規定ニ依ル裁定ノ申請書

收入印紙	收入印紙 何圓貼附

朝鮮漁業令第六十六條ノ規定ニ依ル裁定申請

一　紛爭ノ事實

何　々

一　對手方ノ氏名及住所

何道何郡何面何里何番地何某

一　申請ノ目的及事由

何々ノ事由ニ因リ何々ト裁定ヲ受ケントス

前記ノ通裁定相受ケタシ

年　月　日

住所

氏　名　㊞

朝鮮總督　宛

添附書類ノ表示

一　關係人ト交渉シタル顛末書　一通

一　申請書ノ副本　何通

一　何々　何通

（注　意）

一　漁業令第六十六條、漁業令施行規則第七條、第五十五條、第五十六條及明治四十三年朝鮮總督府令第五號參照

乙　圖面

イ　調製心得

一　漁業ノ免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖ハ左ニ揭グル方法ニ依リ調製スベシ

（一）漁業ノ免許ヲ受ケントスル水面ノ區域ハ左ニ揭グル區分ニ依リ定ムベシ

養殖漁業　區劃其ノ他ノ施設ヲ爲シテ養殖ヲ爲ス區域

定置漁業　漁具ヲ定置シテ採捕ヲ爲スニ必要ナル區域

定所集魚漁業　水產動物ヲ集合セシムル裝置ヲ施シテ採捕ヲ爲スニ必要ナル區域

定所曳網漁業　漁網ヲ曳揚ゲ又ハ曳寄セテ採捕ヲ爲スニ必要ナル區域

定所敷網漁業　漁網ヲ敷設シ又ハ建設シテ採捕ヲ爲スニ必要ナル區域

專用漁業　專用シテ漁業ヲ爲ス區域

（二）位置及區域圖ノ調製ハ左ニ揭グル方法ニ依ルベシ

(1) 基點ヲ定メ方位及距離ニ依リ免許ヲ受ケントスル水面ノ位置ヲ示スニハ其ノ基點、方位及距離ヲ記入スベシ

基點ハ免許ヲ受ケントスル水面ニ最モ接近スル顯著ナル不動物體ヲ選ブベシ若シ適當ナル不動物體ナキトキハ標木又ハ標石ヲ建設シ其ノ位置ヲ明示スベシ

(2) 山見法（山立トモ謂ヒ二箇ノ顯著ナル目標ノ見通線ト同一方法ニ依レル他ノ見通線トノ交叉ニ依リ基點ノ位置ヲ定ムル方法ヲ謂フ）ニ依リ免許ヲ受ケントスル水面ノ位置ヲ示スニハ目標及見通線ヲ記入シ見通狀態ヲ明示スル對景圖（見取圖）ヲ添附スベシ磁針ヲ併用シタルトキハ其ノ方位ヲ併記スベシ

(3) 方位ハ磁針ニ取リ分度法（三百六十度ニ分ツモノ）ニ依ルベシ

(4) 距離、面積及水深ノ測定ハメートル法ニ依ルベシ

(5) 沿岸線及水深ヲ定ムルニハ朔望滿潮ノ時ヲ以テ標準ト爲スベシ

(6) 免許ヲ受ケントスル水面ハ赤色ノ實線ニテ表示シ且其ノ附近ノ沿岸線竝ニ山丘、河川、部落等ノ位置及名稱、面里（洞）ノ境界線、南北線及縮尺ノ定アルモノハ其ノ縮尺ヲ記入スベシ

(7) 養殖漁業ノ免許願ニ付免許ヲ受ケトンスル水面ノ面積ノ算出ヲ三斜法ニ依リタル場合ニ於テハ圖面ニ面積算出線ヲ記入シ計算器ニ依リタル場合ニ於テハ之ニ其ノ旨ヲ記載スベシ

(8) 免許ヲ受ケントスル水面ノ附近ニ他ノ漁場アルトキハ成ルベク其ノ漁具ノ名稱、漁場ノ位置及其ノ漁場ト免許ヲ受ケントスル水面トノ距離ノ概略ヲ圖示スベシ

(9) 圖面ニハ出願人記名捺印スベシ（漁業組合其ノ他ノ法人又ハ法人ニ非ザル社團ニ在リテハ其ノ名稱ヲ記載スルノ外代表者記名捺印スベシ）

二　漁業ニ關スル願書、申請書又ハ屆書ニ添附スベキ漁具圖ハ左ノ各號ニ依リ調製スベシ

(一) 漁具ノ全形ヲ示シ其ノ名稱、材料、大サ、網目ノ寸法等ヲ記入シ曳網ヲ有スル漁網ニ在リテハ其ノ曳網ノ長サヲ附記スベシ

(二) 定所集魚漁業ニシテ特別ノ裝置ヲ爲サントスルモノニ在リテハ前號ノ事項ノ外其ノ裝置ノ全形ヲ前號ニ準ジ圖示スベシ

ロ　圖式

一　漁業ノ免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖

第一號　養殖漁業ノ例

免許ヲ受ケトスル水面ノ位置及區域圖

一　漁業ノ種類及漁業ノ方法

養殖漁業、石撒畦立

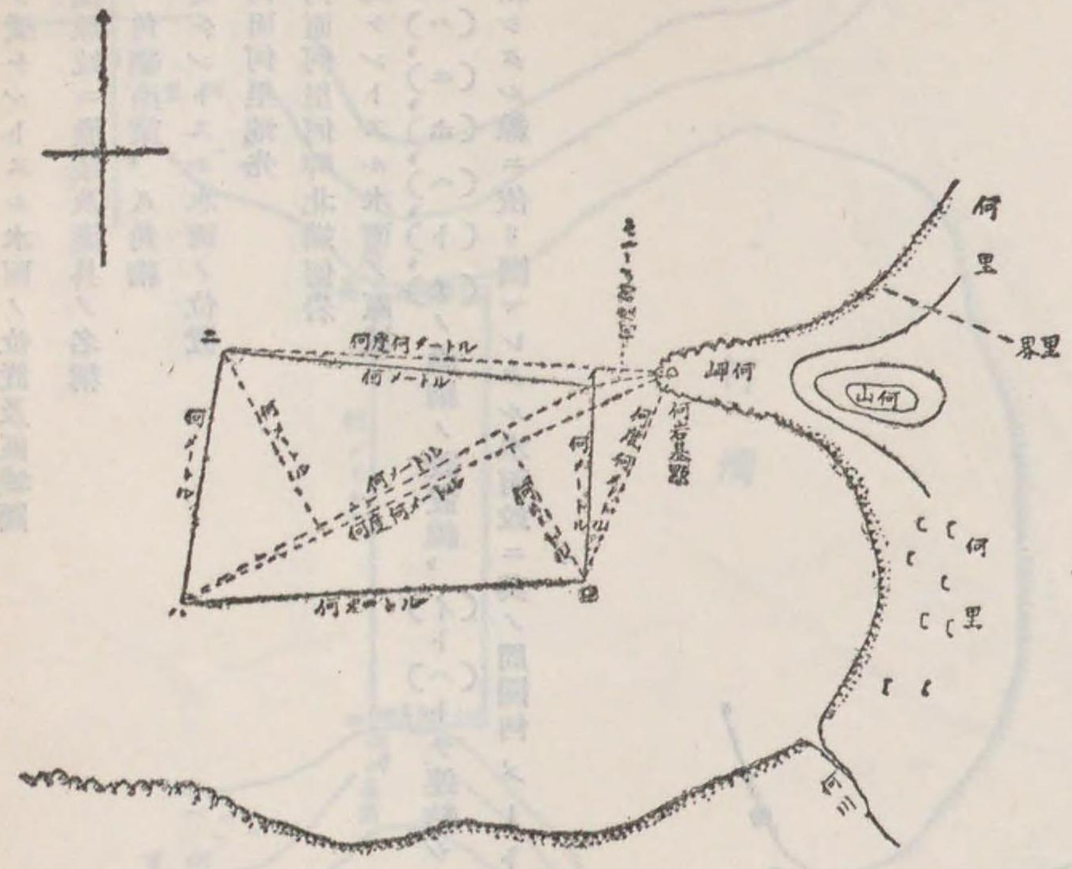
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置

何道何郡何面何里地先

一　基點　何面何里何岬東北端何岩

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ區域

左圖ニ於テイ(　)、ロ(　)、ハ(　)、ニ(　)、イノ各點ヲ順次ニ連結シタル線ニ依リ圍マレタル水面此ノ面積何平方キロメートル



出願人　氏　名　㊞

第二號　定置漁業ノ例

（一）大敷網漁業ノ例

免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖

一　漁業ノ種類竝ニ漁業及漁具ノ名稱

定置漁業、大敷網漁業、大敷網

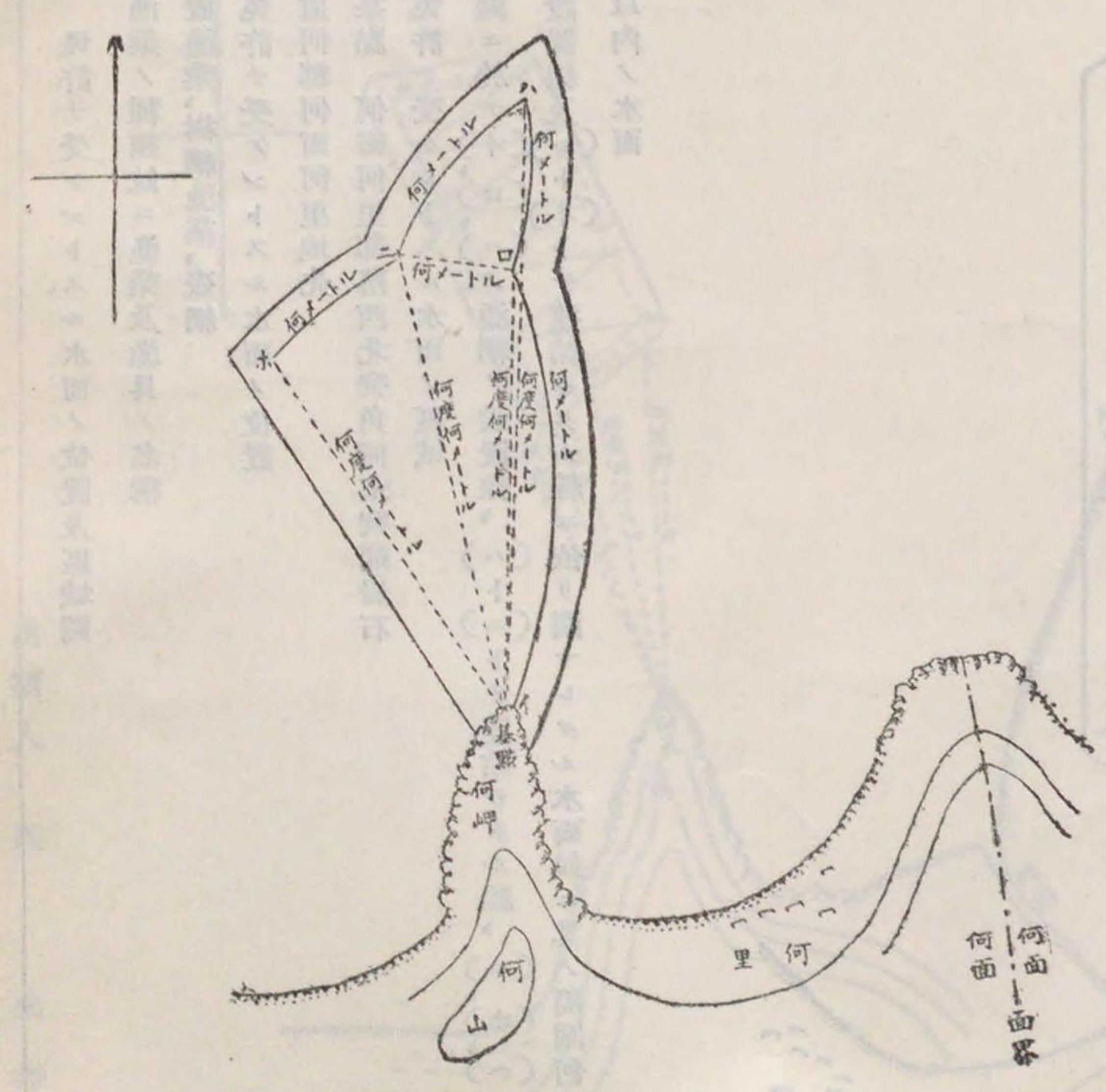
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置

何道何郡何面何里地先

一　基點　何面何里何岬北端何岩

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ區域

左圖ニ於テイ(　)、ロ(　)、ハ(　)、ニ(　)、ホノ漁網ノ設置線及イ(　)ト ホ(　)トヲ連結シタル線ニ依リ圍マレタル水面竝ニ其ノ周圍何メートル以内ノ水面

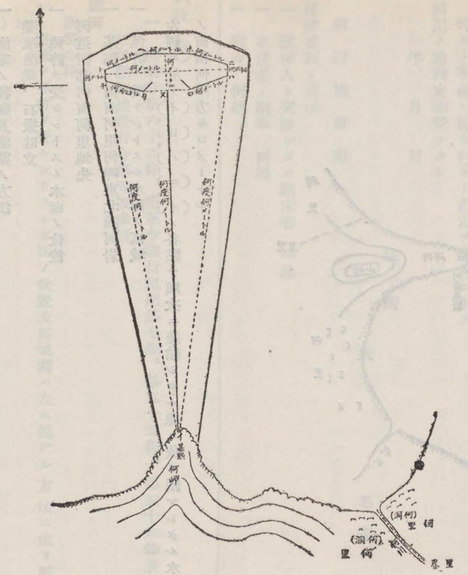


出願人　氏　名　㊞

（二）角網漁業ノ例

免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖

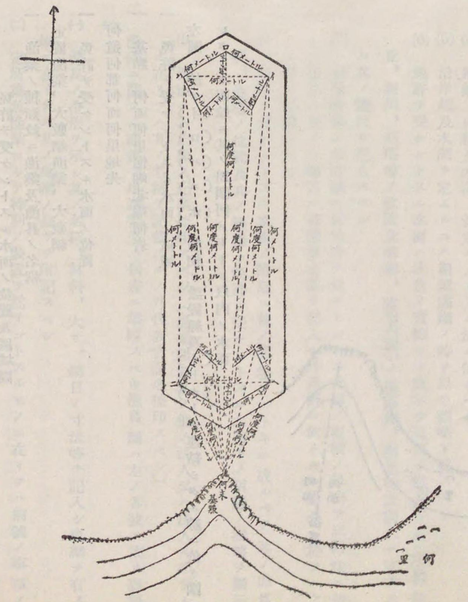
一　漁業ノ種類竝ニ漁業及漁具ノ名稱
定置漁業、角網漁業、八角網
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置
何道何郡何面何里地先
一　基點　何面何里何岬北端何岩
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ區域
左圖ニ於テ(ハ)、(ニ)、(ホ)、(ヘ)、(ト)、(チ)ノ漁網ノ設置線、(イ)(ハ)(ト)(チ)ト連結シタル線及(イ)(チ)ト連結シタル線ニ依リ圍マレタル水面竝ニ其ノ周圍何メートル以内ノ水面



（三）桝網漁業ノ例

免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖

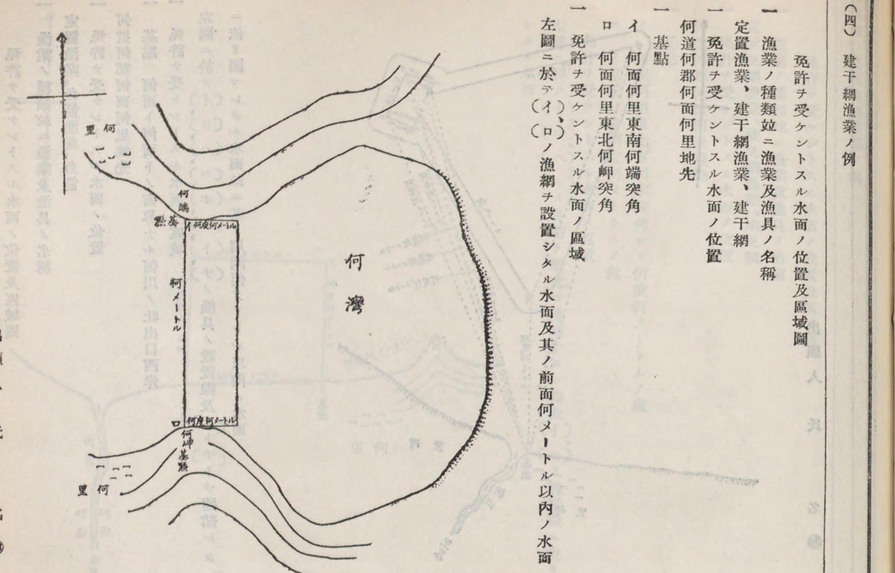
一　漁業ノ種類竝ニ漁業及漁具ノ名稱
定置漁業、桝網漁業、壺網
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置
何道何郡何面何里地先
一　基點　何面何里部落西北突角何末突端岩石
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ區域
左圖ニ於テ(イ)、(ロ)、(ハ)ノ漁網ノ設置線、(ハ)(ニ)(ト)(チ)ト連結シタル線、(ニ)、(ホ)、(ヘ)ノ漁網ノ設置線及(ヘ)(イ)(ト)(チ)ト連結シタル線ニ依リ圍マレタル水面竝ニ其ノ周圍何メートル以内ノ水面



（四）建干網漁業ノ例

免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖

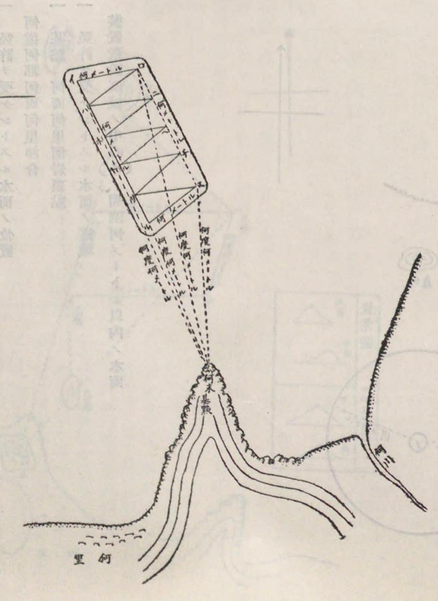
一　漁業ノ種類竝ニ漁業及漁具ノ名稱
定置漁業、建干網漁業、建干網
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置
何道何郡何面何里地先
一　基點
イ　何面何里東南何端突角
ロ　何面何里東北何岬突角
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ區域
左圖ニ於テ(イ)、(ロ)ノ漁網ヲ設置シタル水面及其ノ前面何メートル以内ノ水面



（五）嚢張網漁業ノ例

免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖

一　漁業ノ種類竝ニ漁業及漁具ノ名稱
定置漁業、嚢張網漁業、柱木網
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置
何道何郡何面何里地先
一　基點　何面何里何末突角岩石
一　免許ヲ受ケントスル水面ノ區域
左圖ニ於テ(イ)、(ロ)、(ヌ)、(ル)、(イ)ノ各點ヲ順次ニ連結シタル線内ノ水面及其ノ周圍何メートル以内ノ水面



（六）　魚筒漁業ノ例

免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖

一　漁業ノ種類竝ニ漁業及漁具ノ名稱

定置漁業、魚筒漁業、魚筒

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置

何道何郡何面何里地先

一　基點　何面ト何面トノ面界ナル何川ノ吐出口西岸

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ區域

左圖ニ於テ(イ)、(ロ)、(ハ)、(ニ)、(ホ)、(ヘ)、(ト)、(チ)ノ漁具ノ設置線及(イ)(ト)(チ)ヲ連結シタル線ニ依リ圍マレタル水面竝ニ其ノ周圍何メートル以内ノ水面

第三號　定所集魚漁業ノ例

免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖

一　漁業ノ種類及名稱竝ニ裝置ノ名稱

定所集魚漁業、潰漁業、しいら潰

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置

何道何郡何面何里沖合

一　基點　何面何里何岩頂點

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ區域

裝置敷設區域ノ中心(イ)ノ周圍何メートル以内ノ水面

第四號　定所曳網漁業ノ例

免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖

一　漁業ノ種類竝ニ漁業及漁具ノ名稱

定所曳網漁業、地曳網漁業、地曳網

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置

何道何郡何面何里地先

一　基點

イ　何面何里東北方何米突角ヨリ何度何メートルノ處

ニ　イ基點ヨリ何度何メートルノ處

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ區域

左圖ニ於テ(イ)、(ロ)、(ハ)、(ニ)ノ各點ヲ順次ニ連結シタル線及(イ)、(ニ)ノ海岸線ニ依リ圍マレタル水面

第五號　定所敷網漁業ノ例（山見法ニ依ル場合）

免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖

一　漁業ノ種類竝ニ漁業及漁具ノ名稱

定所敷網漁業、敷網漁業、敷網

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置

何道何郡何面何里地先

一　基點

イ　戊島頂點及乙島頂點見通線ト甲山頂點及丙島頂點見通線トノ交叉點

ハ　戊島頂點及丙島南鼻ノ見通線ト甲山頂點及乙島頂點見通線トノ交叉點

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ區域

左圖ニ於テ(イ)、(ロ)、(ハ)、(ニ)ノ各點ヲ順次ニ連結シタル線ニ依リ圍マレタル水面

第六號　専用漁業ノ例

免許ヲ受ケントスル水面ノ位置及區域圖

一　漁業ノ種類　専用漁業

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ位置

何道何郡何面何里地先

一　基點

イ　何里ト何里トノ里界ナル何末突角岩石

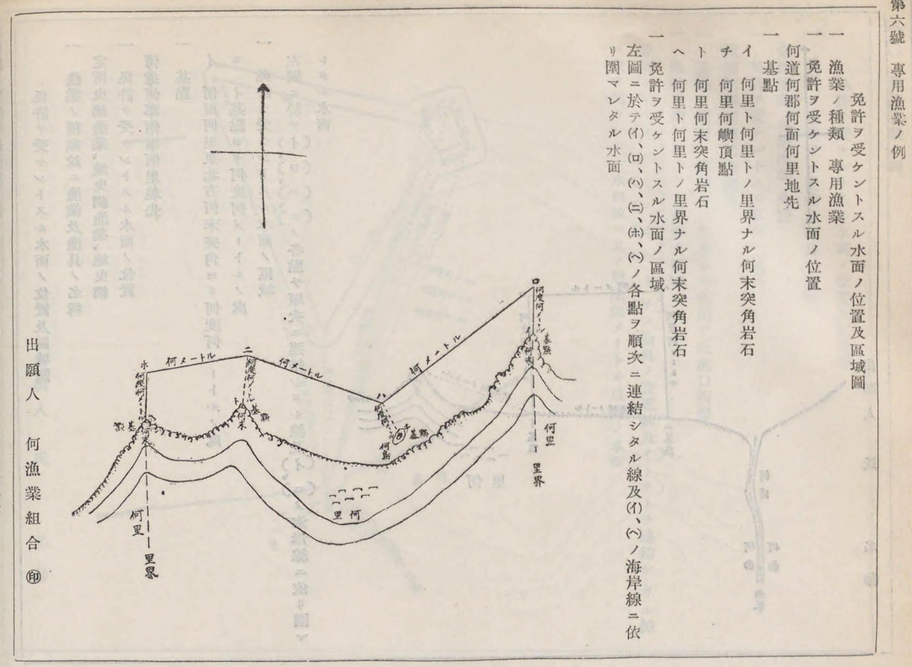
チ　何里何嶺頂點

ト　何里何末突角岩石

ヘ　何里ト何里トノ里界ナル何末突角岩石

一　免許ヲ受ケントスル水面ノ區域

左圖ニ於テ(イ)、(ロ)、(ハ)、(ニ)、(ホ)、(ヘ)ノ各點ヲ順次ニ連結シタル線及(イ)、(ヘ)ノ海岸線ニ依リ圍マレタル水面



出願人　何漁業組合　㊞

（昭和八年十二月總督第六百三十七號ヲ昭和九年三月一日ヨリ施行）

●漁業監督官吏ニ關スル規程

昭和四年十二月
總令第百十一號

漁業監督官吏ニ關スル規程左ノ通定ム

漁業監督官吏ニ關スル規程

第一條　朝鮮漁業令第四十條ノ規定ニ依リ左ニ揭グル者ヲ漁業監督官吏ニ指定ス

一　朝鮮總督府及道府郡島ニ於テ水產ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル官吏

二　道府郡島ニ於テ水產ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル朝鮮地方待遇職員

第二條　前條ノ漁業監督官吏ノ携帶スベキ證票ハ朝鮮總督府ノ官吏ニ付テハ朝鮮總督、其ノ他ノ者ニ付テハ道知事之ヲ交付ス

第三條　第一條ノ漁業監督官吏ノ携帶スベキ證票ハ別記樣式ニ依ルベシ

第四條　朝鮮漁業令第四十條ノ臨檢竝ニ同令第四十一條第一項ノ搜索、搜索ニ必要ナル處分、尋問及差押ニ關シテハ朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則第六條乃至第八條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年朝鮮總督府告示第二百四十九號（漁業令第十五條ニ依ル漁業監督官吏ノ指定）ハ之ヲ廢止ス

別記樣式

漁業監督官吏證票

表

第　號

漁業監督官吏證票

官廳印

官（職）氏名

裏

面

割印

年　月　日交付

用紙厚紙、縱十センチメートル、橫七センチメートル

●朝鮮漁業令施行規則ニ依ル鑑定人、事實參考人及利害關係人旅費手當支給規程

昭和四年十二月
總令第百十三號

朝鮮漁業令施行規則第六十一條ノ規定ニ依ル鑑定人、事實參考人及利害關係人旅費手當支給規程左ノ通定ム

朝鮮漁業令施行規則第六十一條ノ規定ニ依ル鑑定人、事實參考人及利害關係人旅費手當支給規程

第一條　朝鮮漁業令施行規則第六十一條第一項ノ規定ニ依リ鑑定人及事實參考人ニ支給スル旅費及手當ハ左ノ範圍內ニ於テ其ノ都度朝鮮總督又ハ道知事之ヲ定ム

旅費

汽車賃及船賃　鐵道又ハ汽船ヲ通ズル水路ニ在リテハ一等以下ノ汽車賃又ハ船賃ニシテ朝鮮總督又ハ道知事ノ相當ト認ムルモノ、汽船ヲ通ゼザル水路ニ在リテハ一海里五錢

車馬賃

一里三十錢以上七十錢以下

手當

一日六十錢以上六圓以下

第二條　朝鮮漁業令施行規則第六十一條第二項ノ規定ニ依リ利害關係人ニ支給スル旅費及手當ハ朝鮮總督又ハ道知事ニ於テ呼出期間ノ長短、旅行程ノ遠近等ヲ參酌シ前條ノ規定ニ準ジ之ヲ定ム

附　則

本令ハ朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮漁業登錄規則

昭和四年十二月
總令第百八號
改正　昭和六年一一第一四五號

朝鮮漁業登錄規則左ノ通定ム

朝鮮漁業登錄規則

第一章　總　則

第二章　登錄ニ關スル帳簿

第三章　登錄手續

第一節　通　則

第二節　職權ニ依ル登錄手續

第三節　申請ニ依ル登錄手續

第一款　申請人

第二款　申請書類

第三款　申請書ノ記載事項

第四款　登錄稅

第五款　登錄手續

第四節　囑託ニ依ル登錄手續

第四章　滅失漁業權原簿回復登錄手續

附　則

朝鮮漁業登錄規則

第一章　總　則

第一條　朝鮮總督ノ免許ニ依リテ生ズル漁業權及之ヲ目的トスル權利竝ニ入漁ニ關スル事項ニ付テハ朝鮮總督、道知事ノ免許ニ依リテ生ズル漁業權及之ヲ目的トスル權利ニ關スル事項ニ付テハ道知事登錄ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲ス官廳ヲ登錄官廳ト謂フ

第二條　假登錄ハ左ニ揭グル場合ニ於テ之ヲ爲スベシ

一　登錄ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件ガ具ハラザルトキ

二　漁業權竝ニ之ヲ目的トスル先取特權、抵當權及賃借權ノ設定、移轉、變更及消滅ノ請求權（始期附、停止條件附其ノ他將來ニ於テ確定スベキモノヲ含ム）ヲ保全セントスルトキ

第三條　豫告登錄ハ登錄原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登錄ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲スベシ但シ登錄原因ノ取消ニ因ル訴ニ付テハ其ノ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

第四條　左ニ揭グル事項ニ付登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ベキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リテ之ヲ爲スベシ

一　先取特權、抵當權及賃借權ノ變更

二　登錄ノ更正（漁業權登錄簿及信託登錄簿ノ表示欄ニ爲シタル登錄ノ更正ヲ除ク）

三　一部抹消登錄ノ回復

第五條　左ニ揭グル事項ノ登錄ハ附記ニ依リテ之ヲ爲スベシ

一　登錄名義人ノ表示ノ變更及代表者ノ變更

二　先取特權及抵當權ノ移轉及其ノ處分ノ制限竝ニ順位ノ變更ニ因ル先取特權及抵當權ノ變更

第六條　同一漁業權ニ關シ登錄ヲ爲シタル權利ノ順位ハ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外登錄ノ前後ニ依ル

登錄ノ前後ハ登錄用紙中同區ニ爲シタル登錄ニ付テハ順位番號ノ順位ニ依リ別區ニ爲シタル登錄ニ付テハ受付番號ノ順位ニ依ル

假登錄ヲ爲シタルモノニ付本登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ順位ハ假登錄ノ順位ニ依ル

附記登錄ノ順位ハ主登錄ノ順位ニ依リ附記登錄間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル

第七條　詐欺又ハ强迫ニ因リテ登錄ノ申請ヲ妨ゲタル第三者ハ登錄ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

他人ノ爲登錄ヲ申請スル義務アル者ハ其ノ登錄ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ズ但シ其ノ登錄ノ原因ガ自己ノ登錄ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條　登錄官廳ニ變更ヲ生ジタル場合ニ於テハ舊登錄官廳ハ其ノ漁業權及之ヲ目的トスル權利竝ニ入漁ニ關スル登錄ガ漁業權登錄簿、漁場圖綴込帳、漁業權共有者名簿、入漁登錄簿又ハ信託登錄簿ノ一冊又ハ數冊ノ全部ナルトキハ其ノ一冊又ハ數冊及其ノ一部ノ一部ナルトキハ其ノ部分ノ謄本及其ノ關係書類又ハ其ノ謄本ヲ新登錄官廳ニ移送スベシ

第二章　登錄ニ關スル帳簿

第九條　漁業權原簿ト稱スルハ左ニ揭グル書類ヲ謂フ

一　漁業權登錄簿

二　漁場圖綴込帳

三　漁業權共有者名簿

四　入漁登錄簿

五　信託登錄簿

漁業權登錄簿ハ專用漁業ノ漁業權ニ付テハ第一號樣式、其ノ他ノ漁業ノ漁業權ニ付テハ第二號樣式、漁業權共有者名簿ハ第三號樣式、入漁登錄簿ハ第四號樣式、信託登錄簿ハ第五號樣式ニ依リ之ヲ調製スベシ

漁業權登錄簿及漁業權共有者名簿ハ一漁業權ニ付一用紙ヲ、入漁登錄簿ハ一漁業者一人ニ付一用紙ヲ、信託登錄簿ハ一漁業權及一信託ニ付一用紙ヲ備フベシ

漁場圖綴込帳ニハ漁場圖ヲ免許ノ番號ノ順序ニ綴込ミ丁數ヲ附スベシ

第十條　登錄官廳ハ第六號樣式ニ依リ登錄受付簿ヲ調製スベシ

登錄受付簿ニ於ケル受付番號ハ每年之ヲ更新スベシ

第十一條　登錄官廳ニハ漁業權原簿及登錄受付簿ノ外左ニ揭グル帳簿ヲ備フベシ

一　見出帳

二　代表者名簿

三　登錄申請書、囑託書其ノ他關係書類綴込帳

四　申請却下原議綴込帳

五　謄本抄本交付閱覽申請事件簿

六　謄本抄本交付閱覽申請書綴込帳

七　通知簿

八　漁業權原簿謄本綴込帳

前項第三號乃至第六號ノ帳簿ハ一年每ニ別冊ト爲スベシ但シ分冊スルコトヲ妨ゲズ

第十二條　漁業權登錄簿ノ免許番號欄ニハ免許ノ番號ヲ記載スベシ

表示欄ニハ漁業權ノ表示ヲ爲シ且朝鮮漁業令（以下單ニ漁業令ト稱ス）第十一條ノ規定ニ依ル制限又ハ條件ノ解除、同令第十二條

又ハ第二十七條第二項ノ規定ニ依ル免許シタル漁業ノ制限、停止及其ノ變更、解除、取消並ニ漁業權ノ存續期間ノ延長、分割其ノ他變更及其ノ取消ニ付記載スベシ

表示番號欄ニハ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スベシ

甲區事項欄ニハ漁業權ノ設定、消滅、回復、移轉及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載スベシ

乙區事項欄ニハ先取特權ニ關スル事項ヲ記載スベシ

丙區事項欄ニハ抵當權ニ關スル事項ヲ記載スベシ

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載スベシ

戊區事項欄ニハ入漁ニ關スル事項ヲ記載スベシ

順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スベシ

第十三條　漁業權共有者名簿ノ免許番號欄ニハ免許ノ番號ヲ記載スベシ

持分欄ニハ持分ヲ記載スベシ

甲區事項欄ニハ共有者ノ氏名（法人又ハ法人ニ非ザル社團ニ在リテハ名稱以下之ニ同ジ）及住所（法人ニ非ザル社團ニ在リテハ事務所ノ所在地以下之ニ同ジ）竝ニ持分ノ移轉其ノ他變更、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載スベシ

乙區事項欄ニハ持分ノ先取特權ニ關スル事項ヲ記載スベシ

丙區事項欄ニハ持分ノ抵當權ニ關スル事項ヲ記載スベシ

丁區事項欄ニハ持分ノ賃借權ニ關スル事項ヲ記載スベシ

順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スベシ

第十四條　入漁登錄簿ノ表示欄ニハ入漁慣行ノ表示ヲ爲シ且漁業令第二十七條第二項又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依ル入漁ノ制限及停止竝ニ其ノ變更、解除及取消ニ付記載スベシ

入漁登錄番號欄ニハ入漁登錄簿ニ登錄ヲ爲シタル登錄ノ順序ヲ記載シ免許番號欄ニハ專用漁業ノ漁業權ノ免許ノ番號ヲ記載スベシ

第十四條ノ二　信託登錄簿ノ免許番號欄ニハ信託財産ニ屬スル漁業權又ハ信託財産ニ屬スル權利ノ目的タル漁業權ノ免許ノ番號ヲ記載スベシ

表示欄ニハ信託財産ノ表示ヲ爲シ且其ノ變更及回復ニ關スル事項ヲ記載スベシ

表示番號欄ニハ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スベシ

事項欄ニハ信託及其ノ登錄ノ抹消竝ニ信託ノ變更及回復ニ關スル事項ヲ記載スベシ

順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スベシ

第十五條　見出帳ハ漁業權登錄簿見出帳及入漁登錄簿見出帳ノ二種トシ索出ニ便ナル方法ヲ以テ分類シ漁業權登錄簿見出帳ニハ免許ノ番號、漁業權共有者名簿、漁場圖綴込帳及信託登錄簿ノ册數及丁數ヲ、入漁者ノ氏名及入漁登錄簿ノ册數及丁數ヲ記載スベシ

漁業權登錄簿見出帳ニ漁業權者ノ氏名ヲ記載スベキ場合ニ於テ共有ノ漁業權ニ付テハ代表者ノ氏名ノミヲ記載シ其ノ他ノ者ニ付テハ人員ノミヲ記載スベシ

代表者名簿ニハ免許ノ番號、代表者ノ氏名及住所ヲ記載スベシ

謄本抄本交付閱覽申請事件簿ニハ事件名、申請人ノ氏名、受付年月日、受付番號及交付年月日ヲ記載シ交付スベキ謄本又ハ抄本ニ契印スベシ

通知簿ニハ第二十九條、第五十三條第二項及第三項、第五十四條第二項乃至第四項、第九十七條第四項及第五項、第百三條、第百十八條竝ニ第百二十條第一項ノ規定ニ依ル通知事項、通知ヲ受ケベキ者及通知ヲ登スル年月日ヲ記載シ通知書ト契印スベシ

漁業權原簿謄本竝ニ第八條ノ規定ニ依リ漁業權原簿ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ第五十五條第一項ノ規定ニ依リ登錄ヲ移シタルトキ其ノ送付ヲ受ケタル漁業權原簿ノ謄本ヲ綴込ムベシ

第十六條　漁業權原簿ノ閱覽シ又ハ漁業權原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

漁業權原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ受ケントスル者ハ手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

第十七條　漁業權原簿ノ謄本ハ漁業權原簿ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ調製シ漁業權登錄簿、漁業權共有者名簿、入漁登錄簿及信託登錄簿ニ付テハ餘白アルトキハ朱線ヲ施シ之ニ漁業權原簿ト相違ナキコトヲ認證スル旨ノ認證文、登錄官廳名及年月日ヲ記載シテ登錄官廳ノ印ヲ押捺シタル書面ヲ添附シ各用紙間ニハ登錄官廳ノ印ヲ以テ契印ヲ爲スベシ

前項ノ規定ハ漁業權原簿ノ抄本ヲ調製スル場合ニ之ヲ準用ス

第三章　登錄手續

第一節　通則

第十八條　登錄ハ登錄官廳其ノ職權ヲ以テ之ヲ爲ス場合ヲ除クノ外申請又ハ囑託アルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十九條　朝鮮漁業令施行規則第二十六條第二項乃至第五項ノ規定ニ依ル漁業權ニ關スル代表者ハ本令ニ依ル登錄ニ關スル代表者ト看做ス

第二十條　漁業權原簿ノ表示欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ第二十三條第三項ノ場合ヲ除クノ外順位番號欄ニ番號ヲ記載スベシ

表示欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ、事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ第二十三條第二項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃シ餘白ヲ分界スベシ

第二十一條　前條第一項ノ場合ニ於テ第八十六條第二項但書又ハ第九十九條ノ規定ニ依リ同一ノ受付番號ヲ附シ同一ノ事項欄ニ登錄ヲ爲スモノニ付テハ同一ノ順位番號ヲ記載スベシ

第二十二條　附記ニ依ル登錄ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登錄ノ順位番號ヲ用ヒ其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スベシ

前項ノ場合ニ於テハ主登錄ノ順位番號ノ左側ニ附記登錄番號ヲ追記スベシ

前二項ノ規定ハ第三十七條ノ二第二項、第四十三條第二項、第四十四條第三項、第四十五條第一項、第九十五條及第百五條ノ五ノ規定ニ依リ追記ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　假登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲スベシ

假登錄ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登錄ヲ爲シ得ベキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃スベシ

假登錄ヲ爲シタル後本登錄ノ申請アリタルトキハ假登錄ノ左側ノ餘白ニ其ノ登錄ヲ爲スベシ假登錄ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同ジ

第二十四條　漁業權登錄簿ノ甲區事項欄ニ登錄ヲ爲スベキ場合ニ於テ漁業權ガ共有ナルトキハ漁業權者ノ氏名及住所ハ代表者ニ付テノミ記載シ共有者ノ他ノ者ニ付テハ其ノ人員ヲ記載シ共有者全員ノ氏名及住所ハ漁業權共有者名簿ニ之ヲ記載スベシ

第二十五條　漁業權共有者名簿ニ前條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲スニハ免許番號欄ニ免許ノ番號ヲ、甲區事項欄ニ共有者全員ノ氏名及住所ヲ記載シ持分ノ定アルトキハ持分欄ニ其ノ持分ヲ記載スベシ

第二十六條　漁業權登錄簿ノ甲區事項欄ニ登錄ヲ爲スベキ場合ニ於テ漁業權ガ共有ナルトキハ漁業權者ノ氏名及住所ハ代表者ニ付テノミ記載シ共有者全員ノ氏名及住所ハ漁業權共有者名簿ニ之ヲ記載スベシ

第二十七條　漁業權ノ持分ノ移轉、變更及處分ノ制限ノ登錄ヲ爲スニハ漁業權共有者名簿ニ之ヲ爲スベシ持分ヲ目的トスル先取特權、抵當權及質借權ノ保存、設定、移轉、變更、消滅及處分ノ制限ノ登錄ニ付亦同ジ

前項ノ規定ハ持分ノ移轉ニ依リ漁業權カ一人ニ歸屬シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十七條ノ二　漁業權及之ヲ目的トスル權利ノ信託ニ關スル登錄ハ漁業權及之ヲ目的トスル權利ノ移轉ニ關スル事項ニ本令ニ別段ノ定アル事項ヲ除クノ外信託登錄簿ニ之ヲ爲スベシ

第二十八條　登錄ヲ抹消スルニハ第五十四條第一項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外登錄原因及其ノ日附、抹消スベキ事項竝ニ抹消ヲ登錄ヲ朱抹スベシ

前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登錄アルトキハ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登錄ヲ抹消スルニ因リテ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載シ抹消スベキ登錄ヲ朱抹スベシ

第二十九條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ其ノ錯誤又ハ遺漏ガ漁業權ノ表示ニ關スル登錄以外ノ登錄ニシテ登錄官廳ノ過誤ニ出デタルモノニ係リ且登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキハ登錄官廳ハ職權ヲ以テ登錄ノ更正ヲ爲シ其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者又ハ登錄名義人ニ通知スベシ

前項ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ其ノ錯誤又ハ遺漏ガ漁業權ノ表示ニ關スル登錄ニ係ルトキハ登錄官廳ハ其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者又ハ登錄名義人ニ通知スベシ

第三十條　登錄更正ノ登錄ヲ爲スニハ更正スベキ登錄ノ相當表示欄又ハ事項欄ニ登錄ノ原因及其ノ日附、更正スベキ事項竝ニ更正ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載スベシ

前項ノ更正ノ登錄ヲ爲シタルトキハ更正セラレタル事項ノ之ヲ朱抹スベシ

第三十一條　漁業權消滅ノ登錄ヲ爲シタル後職權又ハ申請ニ依リ登錄同復ノ登錄ヲ爲スニハ消滅ノ登錄ヲ朱抹スベシ

前項ノ場合ニ於テハ新ニ登錄用紙ヲ起シ漁業權登錄簿ニ於ケル漁場圖綴込帳、漁業權共有者名簿、入漁登錄簿又ハ信託登錄簿ノ册數及丁數ノ記載、入漁登錄簿ニ於ケル入漁登錄番號及漁業權登錄簿ノ册數丁數ノ記載竝ニ信託登錄簿ニ於ケル漁業權登錄簿ノ册數及丁數ノ記載スルノ外消滅前ノ登錄ト同一ノ登錄ヲ爲シ漁業權登錄簿ノ甲區事項欄ニ申請書ノ受付年月日及受付番號（申請ニ依ル場合ニ限ル）、回復ノ原因及其ノ日附竝ニ回復ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載スベシ

前項ノ場合ヲ除クノ外職權又ハ申請ニ依リ登錄ヲ同復スルニハ同復ノ登錄ヲ爲シタルト同一ノ順序ニ從ヒ登錄ヲ爲スベシ

第三十二條　行政區劃若ハ行政區劃內ノ町、洞、里、大字、字又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ漁業權原簿ニ記載シタル行政區劃若ハ行政區劃內ノ町、洞、里、大字、字又ハ其ノ名稱ハ之ヲ變更シタルモノト看做ス

第三十三條　漁業權原簿ノ表示欄又ハ事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ末尾ニ登錄年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スベシ

第三十四條　登錄用紙中表示欄又ハ事項欄ガ登錄ノ全部又ハ一部ヲ爲スベキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中免許番號欄ニ前用紙ニ記載シアル免許ノ番號ヲ轉寫シ前用紙ヲ編綴セル漁業權登錄簿、漁業權共有者名簿、入漁登錄簿又ハ信託登錄簿ノ册數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ追記スベシ

前項ノ場合ニ於テハ新用紙中免許ノ番號ノ左側ニ第二ノ記載シ前用紙中免許ノ番號ノ左側ニ第一ト追記スベシ

第二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ハ之ヲ準用ス

第三十五條　漁業權原簿ノ登錄用紙ヲ綴ルニハ漁業權登錄簿ノ表示欄ニ閉鎖ノ事由及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印シ登錄用紙ニ記載シタル事項全部ヲ朱抹スベシ

第三十六條　漁業權原簿ニ金錢其ノ他ノ物ノ數量、年月日及番號ヲ記載スルニハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用フベシ

漁業權原簿ノ文字ニ之ヲ改竄スルコトヲ得ズ訂正、挿入又ハ削除ニ之ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ倘讀ミ得ベキ爲字體ヲ存スベシ

第二節　職權ニ依ル登錄手續

第三十七條　左ニ揭グル事項ハ登錄官廳職權ヲ以テ之ヲ登錄スベシ

一　漁業權ノ設定竝ニ漁業令第十一條ノ規定ニ依ル制限又ハ條件ノ解除及同令第十二條ノ規定ニ依ル制限、停止及其ノ變更、解除、取消

二　漁業權ノ存續期間ノ延長及其ノ取消

三　漁業權ノ分割其ノ他變更及其ノ取消

四　漁業權ノ消滅

五　漁業令第二十七條第二項及第二十九條第二項ノ規定ニ依ル制限、停止及其ノ變更、解除、取消竝ニ入漁ノ禁止

六　漁業權ニ關スル取消處分ノ取消及入漁ノ禁止處分ノ取消ニ因ル登錄ノ回復

七　代表者ノ變更

八　行政區劃若ハ行政區劃內ノ町、洞、里、大字、字又ハ其ノ名稱ノ變更ニ因ル漁業權原簿ノ漁業權ノ表示ノ變更

第三十七條ノ二　第百五條ノ二乃至第百五條ノ四ノ場合ニ於テ主務官廳カ登錄官廳ナルトキハ登錄官廳職權ヲ以テ其ノ登錄ヲ爲スベシ

前項ノ場合ニ於テ受託者ノ解任ニ付登錄ヲ爲シタルトキハ登錄官廳ハ職權ヲ以テ漁業權登錄簿ニ其ノ旨ヲ追記スベシ

第三十八條　漁業權設定ノ登錄ハ免許ノ番號、漁業權ノ種類、漁業及漁具又ハ裝置ノ名稱、漁業ノ方法、採捕物又ハ養殖物ノ種類、漁業ノ時期、漁業權ノ存續期間、制限又ハ條件竝ニ登錄ヲ爲ス旨ヲ、甲區事項欄ニ漁業權者ノ氏名及住所竝ニ漁業權ノ設定ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載スベシ

漁業令第十一條ノ規定ニ依ル制限又ハ條件ノ解除ノ登錄ヲ爲スニハ漁業權登錄簿ノ表示欄ニ登錄ノ原因及其ノ日附、解除スベキ事項竝ニ解除ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載シ解除

帳簿ノ册數及丁數ヲ漁業權登錄簿ノ相當欄ニ爲シタル登錄ノ末尾ニ記載スベシ

第二十七條　漁業權ノ持分ノ移轉、變更及處分ノ制限ノ登錄ヲ爲スニハ漁業權共有者名簿ニ之ヲ爲スベシ持分ヲ目的トスル先取特權、抵當權及質借權ノ保存、設定、移轉、變更、消滅及處分ノ制限ノ登錄ニ付亦同ジ

前項ノ規定ハ持分ノ移轉ニ依リ漁業權カ一人ニ歸屬シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十七條ノ二　漁業權及之ヲ目的トスル權利ノ信託ニ關スル登錄ハ漁業權及之ヲ目的トスル權利ノ移轉ニ關スル事項ニ本令ニ別段ノ定アル事項ヲ除クノ外信託登錄簿ニ之ヲ爲スベシ

第二十八條　登錄ヲ抹消スルニハ第五十四條第一項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外登錄原因及其ノ日附、抹消スベキ事項竝ニ抹消ヲ登錄ヲ朱抹スベシ

前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登錄アルトキハ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登錄ヲ抹消スルニ因リテ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載シ抹消スベキ登錄ヲ朱抹スベシ

第二十九條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ其ノ錯誤又ハ遺漏ガ漁業權ノ表示ニ關スル登錄以外ノ登錄ニシテ登錄官廳ノ過誤ニ出デタルモノニ係リ且登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキハ登錄官廳ハ職權ヲ以テ登錄ノ更正ヲ爲シ其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者又ハ登錄名義人ニ通知スベシ

前項ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ其ノ錯誤又ハ遺漏ガ漁業權ノ表示ニ關スル登錄ニ係ルトキハ登錄官廳ハ其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者又ハ登錄名義人ニ通知スベシ

第三十條　登錄更正ノ登錄ヲ爲スニハ更正スベキ登錄ノ相當表示欄又ハ事項欄ニ登錄ノ原因及其ノ日附、更正スベキ事項竝ニ更正ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載スベシ

前項ノ更正ノ登錄ヲ爲シタルトキハ更正セラレタル事項ノ之ヲ朱抹スベシ

第三十一條　漁業權消滅ノ登錄ヲ爲シタル後職權又ハ申請ニ依リ登錄同復ノ登錄ヲ爲スニハ消滅ノ登錄ヲ朱抹スベシ

前項ノ場合ニ於テハ新ニ登錄用紙ヲ起シ漁業權登錄簿ニ於ケル漁場圖綴込帳、漁業權共有者名簿、入漁登錄簿又ハ信託登錄簿ノ册數及丁數ノ記載、入漁登錄簿ニ於ケル入漁登錄番號及漁業權登錄簿ノ册數丁數ノ記載竝ニ信託登錄簿ニ於ケル漁業權登錄簿ノ册數及丁數ノ記載スルノ外消滅前ノ登錄ト同一ノ登錄ヲ爲シ漁業權登錄簿ノ甲區事項欄ニ申請書ノ受付年月日及受付番號（申請ニ依ル場合ニ限ル）、回復ノ原因及其ノ日附竝ニ回復ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載スベシ

前項ノ場合ヲ除クノ外職權又ハ申請ニ依リ登錄ヲ同復スルニハ同復ノ登錄ヲ爲シタルト同一ノ順序ニ從ヒ登錄ヲ爲スベシ

第三十二條　行政區劃若ハ行政區劃內ノ町、洞、里、大字、字又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ漁業權原簿ニ記載シタル行政區劃若ハ行政區劃內ノ町、洞、里、大字、字又ハ其ノ名稱ハ之ヲ變更シタルモノト看做ス

第三十三條　漁業權原簿ノ表示欄又ハ事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ末尾ニ登錄年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スベシ

第三十四條　登錄用紙中表示欄又ハ事項欄ガ登錄ノ全部又ハ一部ヲ爲スベキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中免許番號欄ニ前用紙ニ記載シアル免許ノ番號ヲ轉寫シ前用紙ヲ編綴セル漁業權登錄簿、漁業權共有者名簿、入漁登錄簿又ハ信託登錄簿ノ册數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ追記スベシ

前項ノ場合ニ於テハ新用紙中免許ノ番號ノ左側ニ第二ノ記載シ前用紙中免許ノ番號ノ左側ニ第一ト追記スベシ

第二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ハ之ヲ準用ス

第三十五條　漁業權原簿ノ登錄用紙ヲ綴ルニハ漁業權登錄簿ノ表示欄ニ閉鎖ノ事由及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印シ登錄用紙ニ記載シタル事項全部ヲ朱抹スベシ

第三十六條　漁業權原簿ニ金錢其ノ他ノ物ノ數量、年月日及番號ヲ記載スルニハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用フベシ

漁業權原簿ノ文字ニ之ヲ改竄スルコトヲ得ズ訂正、挿入又ハ削除ニ之ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ倘讀ミ得ベキ爲字體ヲ存スベシ

第二節　職權ニ依ル登錄手續

第三十七條　左ニ揭グル事項ハ登錄官廳職權ヲ以テ之ヲ登錄スベシ

セラレタル事項ヲ朱抹スベシ

第四十條　漁業令第十二條ノ規定ニ依ル制限若ハ停止又ハ其ノ變更、解除若ハ取消ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ登錄ノ原因及其ノ日附、登錄スベキ事項及其ノ事項ニ付期間ノ定アルトキハ其ノ期間竝ニ制限若ハ停止又ハ其ノ變更、解除若ハ取消ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載シ解除及取消ノ登錄ニ付テハ解除又ハ取消サレタル事項ヲ朱抹スベシ

第四十條ノ二　前二條ノ登錄ヲ爲ス場合ニ於テ漁業ノ制限又ハ停止ニ付圖面ヲ以テ表示シアルトキハ其ノ圖面ヲ當該漁業權ノ漁場圖ニ貼附スベシ

第四十一條　漁業權ノ存續期間ノ延長ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ延長許可ノ旨及其ノ年月日、延長シタル存續期間及延長ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載スベシ

第四十二條　漁業權ヲ分割シテ甲及乙ノ二ノ漁業權ト爲シタル場合ニ於テ分割ノ登錄ヲ爲スニハ乙漁業權ニ對シ新ニ登錄用紙ヲ起シ免許番號欄ニ乙漁業權ノ免許ノ番號ヲ記載シ表示欄ニ第三十九條第一項ノ規定ニ準ジ乙漁業權ノ表示ヲ爲シ且原漁業權ノ表示欄ニ記載セラレタル事項中抹消ニ係ラザルモノニシテ乙漁業權ニ關係アル事項ヲ移シ其ノ末尾ニ分割許可ノ旨及其ノ年月日竝ニ分割ニ因リテ第何册何丁ヨリ移シタルコトヲ登錄スル旨ヲ記載スベシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ原漁業權ノ登錄用紙中免許番號欄ニ甲漁業權ノ免許ノ番號ヲ記載シ表示欄ニ甲漁業權ノ表示ヲ爲シ且分割許可ノ旨及其ノ年月日、乙漁業權ノ免許ノ番號竝ニ分割ニ因リテ第何册何丁ニ移シタルニ因リ變更ヲ登錄スル旨ヲ記載シ原漁業權ノ免許ノ番號及表示ヲ朱抹スベシ

第四十三條　前條第一項ノ場合ニ於テハ乙漁業權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ原漁業權ノ登錄用紙ヨリ漁業權其ノ他ノ權利及入漁ニ關スル登錄ヲ轉寫シ且漁業權以外ノ權利ニ關スル登錄中ニ甲漁業權ト共ニ其ノ權利ノ目的タル旨、分割許可ノ旨及其ノ年月日竝ニ分割ニ因リテ免許第何號順位何番ヨリ轉寫シタル旨ヲ、入漁ニ關スル登錄中ニ分割許可ノ旨及其ノ年月日竝ニ分割ニ因リテ免許第何號順位何番ヨリ轉寫シタル旨ヲ記載スベシ

原漁業權ノ登錄用紙ヨリ乙漁業權ノ登錄用紙ニ漁業權以外ノ權利ニ關スル登錄ヲ轉寫シタルトキハ甲漁業權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ノ表示ヲ爲シ且分割許可ノ旨及其ノ年月日竝ニ分割ニ因リテ第何册何丁ニ移シタル乙漁業權ト共ニ其ノ權利ノ目的タル旨ヲ追記スベシ

第四十四條　第四十二條第一項ノ場合ニ於テ分割許可前ニ漁業權以外ノ權利又ハ入漁ニ關スル登錄名義人ガ其ノ權利又ハ入漁慣行ノ消滅ヲ承認シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ベキ裁判ノ謄本、和解、認諾ノ調書ノ謄本若ハ漁業令第六十六條ノ規定ニ依ル裁定書ノ謄本ヲ差出シタルトキハ其ノ權利又ハ入漁ニ關スル登錄ヲ抹消スベシ此ノ場合ニ於テハ乙漁業權ノ登錄用紙中ニ其ノ權利又ハ入漁ニ關スル登錄ヲ移スコトヲ要セズ

前項ノ場合ニ於テ甲漁業權ニ對シ登錄名義人ガ登錄上入漁ノ慣行ナキトキ又ハ權利若ハ入漁慣行ノ消滅ヲ證スル書面ヲ差出シタルトキハ乙漁業權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ原漁業權ノ登錄用紙ヨリ其ノ權利又ハ入漁ニ關スル登錄ヲ移シ且分割許可ノ旨及其ノ年月日竝ニ分割ニ因リテ免許第何號順位何番ヨリ移シタル旨ヲ記載シ原漁業權ノ登錄用紙ニ於ケル其ノ權利又ハ入漁ニ關スル登錄ヲ抹消スベシ

第一項ノ場合ニ於テ乙漁業權ニ對シ登錄名義人ガ登錄上入漁ノ慣行ナキトキ又ハ權利若ハ入漁慣行ノ消滅ヲ證スル書面ヲ差出シタルトキハ原漁業權ノ登錄用紙中其ノ權利又ハ入漁ニ關スル登錄ニ其ノ旨ヲ追記スベシ此ノ場合ニ於テハ乙漁業權ノ登錄用紙中ニ其ノ權利又ハ入漁ニ關スル登錄ヲ移スコトヲ要セズ

第四十五條　共有ノ漁業權ヲ分割シテ甲及乙ノ二ト爲シタル場合ニ於テ共有者ニ變更ナキトキハ前三條ノ手續ヲ爲スノ外乙漁業權ニ對シ新ニ漁業權共有者名簿ノ登錄用紙ヲ起シ免許番號欄ニ乙漁業權ノ免許ノ番號ヲ、持分欄、順位番號欄及事項欄ニ原登錄用紙ノ各相當欄ニ記載シタル事項ヲ記載シ原漁業權共有者名簿ニハ免許番號欄ニ甲漁業權ノ免許ノ番號ヲ記載シテ原漁業權ノ免許ノ番號ヲ朱抹シ且甲漁業權及乙漁業權ノ漁業權共有者名簿ノ登錄用紙中ニ持分ヲ目的トスル權利ニ關スル登錄アルトキハ前二條ノ規定ニ準ジ登錄ヲ爲スベシ

前項ノ場合ニ於テ分割ニ因リ各漁業權ノ共有者ニ變更ヲ生ジタルトキハ前三條ノ手續ヲ爲スノ外乙漁業權ニ對シ新ニ漁業權共有者名簿ノ登錄用紙ヲ起シ第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シ且原漁業權共有者名簿ノ登錄用紙中ニ持分ヲ目的トスル權利ニ關スル登錄アルトキハ乙漁業權ノ共有者ノ持分ニ關スルモノヲ相當區事項欄ニ移シ分割許可ノ旨及其ノ年月日竝ニ分割ニ因リ免許第何號順位何番ヨリ移シタル旨ヲ記載スベシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ原漁業權共有者名簿ノ登錄用紙中免許番號欄ニ甲漁業權ノ免許ノ番號ヲ、甲漁業權ノ共有者間ニ持分ノ定アルトキハ其ノ共有者ニ關スル持分欄ニ持分ヲ、甲區事項欄中甲漁業權ノ共有者ニ關スル登錄欄ニ分割許可ノ旨及其ノ年月日、乙漁業權ノ免許ノ番號竝ニ分割ニ因リテ第何册何丁ニ移シタルニ因リ變更ヲ登錄スル旨ヲ、甲區事項欄中乙漁業權ノ共有者ト爲リタル者ニ關スル登錄欄ニ分割許可ノ旨及其ノ年月日、乙漁業權ノ免許ノ番號竝ニ分割ニ因リテ第何册何丁ニ移シタルコトヲ登錄スル旨ヲ記載シ原漁業權ノ免許ノ番號、甲漁業權ノ持分欄ニ於ケル前登錄及乙漁業權ノ共有者ニ關スル前登錄ヲ朱抹スベシ

前三項ノ手續ヲ爲シタルトキハ乙漁業權ノ漁業權登錄簿ノ甲區事項欄中漁業權ノ設定登錄ノ末尾ニ乙漁業權共有者名簿ノ册數及丁數ヲ記載シ原漁業權共有者名簿ノ册數及丁數ヲ朱抹スベシ

第二項ノ場合ニ於テ分割ニ因リ各漁業權ガ各一人ニ歸屬シタルトキハ前三條ノ手續ヲ爲スノ外原漁業權ノ持分ヲ目的トスル權利ニ付テハ前二條ノ規定ニ準ジ原漁業權共有者名簿ノ登錄用紙中ヨリ各相當漁業權登錄簿ノ相當區事項欄ニ登錄ヲ移シ漁業權共有者名簿ノ記載事項全部ヲ朱抹スベシ

第四十六條　第四十二條第一項又ハ前條ノ場合ニ於テ其ノ漁業權ガ專用漁業ノ漁業權ニシテ且入漁ニ關スル登錄アルモノナルトキハ前四條ノ手續ヲ爲スノ外乙漁業權ニ對シ新ニ入漁登錄簿ノ登錄用紙ヲ起シ入漁登錄番號欄ニ新番號ヲ、免許番號欄ニ乙漁業權ノ免許ノ番號ヲ、表示欄ニ原登錄用紙ノ表示欄ニ記載シタル事項ヲ記載シ且乙漁業權ノ漁業權登錄簿ノ戊區事項欄中入漁慣行保存ノ登錄ノ末尾ニ新入漁登錄簿ノ册數及丁數ヲ記載シ原入漁登錄簿ノ册數及丁數ヲ朱抹スベシ但シ登錄名義人ガ乙漁業權ニ關シ登錄上入漁ノ慣行ナキトキ又ハ分割許可前ニ入漁慣行ノ消滅ヲ承認シタルコトヲ證スル書面又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ベキ裁判ノ謄本、和解、認諾ノ調書ノ謄本若ハ漁業令第六十六條ノ規定ニ依ル裁定書ノ謄本ヲ差出シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ原入漁登錄簿ノ免許番號欄ニ甲漁業權ノ免許ノ番號ヲ記載シ原漁業權ノ免許ノ番號ヲ朱抹スベシ

第四十七條　漁業權ヲ分割シタル場合ニ於ケル分割シタル漁業權ノ漁場圖ハ漁場圖綴込帳ノ末尾ニ綴込ミ原漁場圖ハ之ヲ朱抹シ之ニ分割ニ因リテ第何册何丁ニ移シタル旨ヲ記載スベシ

第四十八條　前六條ノ規定ハ漁業權ヲ三以上ニ分割シタル場合ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第四十九條　分割ノ場合ヲ除クノ外漁業權ノ變更ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ變更許可ノ旨及其ノ年月日、變更シタル事項竝ニ變更ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載シ變更セラレタル事項ヲ朱抹スベシ漁場ノ變更ニ因ル漁業權變更ノ場合ニ於テハ新漁場圖ヲ漁場圖綴込帳ノ末尾ニ綴込ミ原漁場圖ヲ朱抹シ之ニ變更ニ因リテ第何册何丁ニ移シタル旨ヲ記載スベシ

第五十條　漁業權ノ消滅ノ登錄ヲ爲スニハ漁業權登錄簿ノ甲區事項欄ニ登錄ノ原因及其ノ日附竝ニ漁業權ノ消滅ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載シ第五十一條第一項ノ場合ヲ除クノ外漁業權原簿ノ登錄用紙ヲ閉鎖スベシ

第五十一條　先取特權又ハ抵當權ノ登錄アル漁業權ニ付漁業令第十二條第四號又ハ第十三條第一項ノ規定ニ依リ漁業ノ免許ノ取消アリタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ漁業權消滅ノ登錄ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ漁業令第二十四條第一項ノ規定ニ依リ競賣ノ請求アリタル場合ニ於テハ漁業權ハ競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍存續スル旨及競落ノ決定確定シタルトキハ漁業ノ免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生ゼザリシモノト看做ス旨ヲ記載スベシ

漁業令第二十四條ノ規定ニ依リ爲シタル競賣ニ因ル漁業權移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テ第百七條ノ規定ニ依リ移轉ノ登錄ヲ爲シタルトキハ職權ヲ以テ漁業權登錄簿ノ前登錄用紙ノ甲區事項欄ニ新登錄用紙ニ登錄ヲ移シタル旨ヲ記載シ漁業權原簿ノ登錄用紙ヲ閉鎖スベシ

先取特權者又ハ抵當權者漁業令第二十四條第一項ニ規定スル期間內ニ競賣ノ請求ヲ爲サザルトキ又ハ競賣申立ノ登錄アリタル場合ニ於テ其ノ登錄抹消ノ囑託アリタルトキハ其ノ旨ヲ登錄シタル後職權ヲ以テ第一項ノ記載ヲ抹消シ漁業權原簿ノ登錄用紙ヲ閉鎖スベシ

第五十二條　漁業令第二十七條第二項又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依ル制限若ハ停止又ハ其ノ變更、解除若ハ取消ノ登錄ニ付テハ第四十條及第四十條ノ二ノ規定ヲ準用ス

漁業令第二十七條第二項又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依ル入漁ノ禁止ノ登錄ヲ爲スニハ漁業權登錄簿ノ戊區事項欄ニ登錄ノ原因及其ノ日附竝ニ入漁慣行ノ消滅ヲ登錄スル旨ヲ記載シテ前登錄ヲ抹消シ且入漁登錄簿ノ登錄用紙ヲ閉鎖スベシ

第五十三條　第三十七條第一號乃至第三號、第五號若ハ第六號ニ規定スル事項ノ登錄ヲ完了シタルトキ又ハ朝鮮漁業令第十九條第二項ノ認可ニ依リ第三十七條第四號ニ規定スル事項ノ登錄ヲ完了シタルトキハ其ノ處分ノ指令書ニ登錄年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ登錄官廳ノ印ヲ押捺シ之ニ漁業ノ免許又ハ漁業權ノ分割若ハ漁場ノ變更ニ因ル漁業權ノ變更ノ許可ノ場合ニ在リテハ漁場圖一通ヲ添附シテ契印シ漁業權者又ハ入漁者ニ交付スベシ

前項ノ事項ヲ除クノ外第三十七條ニ規定スル事項ノ登錄ヲ完了シタルトキハ登錄濟ノ旨ヲ登錄名義人ニ通知スベシ

第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ登錄ヲ完了シタルトキハ其ノ處分ノ指令書ニ登錄年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ登錄官廳ノ印ヲ押捺シ信託管理人ノ選任又ハ受託者ノ解任ノ場合ニ在リテハ其ノ處分ヲ受ケタル者ニ、信託ノ條項ノ變更ノ場合ニ在リテハ受託者ニ之ヲ交付シ且登錄濟ノ旨ヲ委託者及受益者又ハ信託管理人ニ通知スベシ

第五十四條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ガ第八十八條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノナルコトヲ發見シタルトキハ職權ヲ以テ其ノ登錄ヲ抹消スベシ此ノ場合ニ於テ登錄ヲ抹消スルニハ抹消スベキ事項、抹消ノ事由及抹消ヲ登錄スル旨ヲ記載シ抹消スベキ登錄ヲ朱抹スベシ

前項ノ規定ニ依リ登錄ヲ抹消シタルトキハ登錄權利者及登錄義務者又ハ登錄名義人竝ニ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ其ノ旨及抹消ノ事由ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ハ第七十二條第一項ノ場合ニ於テハ債權者ニモ亦之ヲ爲スベシ

前項ノ規定ハ第五十七條ノ三又ハ第五十七條ノ五第二項ノ申請ニ依リ登錄ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條　第八條ノ規定ニ依リ漁業權原簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタルトキハ登錄官廳ハ其ノ謄本ニ依リ漁業權原簿ニ登錄ヲ移スベシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ漁業權原簿ノ謄本ニ依リ登錄ヲ移シタルコトヲ登錄スル旨ヲ記載スベシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ漁業權原簿ノ謄本ハ漁業權原簿謄本綴込帳ニ之ヲ綴込ムベシ

第八條ノ規定ニ依リ漁業權原簿ノ謄本ヲ他ノ登錄官廳ニ移送シタルトキハ前登錄用紙ハ之ヲ閉鎖スベシ

第三節　申請ニ依ル登錄手續

第一款　申請人

第五十六條　登錄ノ申請ハ第五十七條乃至第六十二條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外登錄權利者及登錄義務者ヨリ之ヲ爲スベシ

漁業權及之ヲ目的トスル權利ノ信託ノ登錄ニ付テハ受託者ヲ登錄權利者トシ委託者ヲ登錄義務者トス

登錄ノ申請ハ代理人ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　相續、判決、裁判上ノ和解若ハ認諾又ハ漁業令第六十六條ノ規定ニ依ル裁定ニ基ク登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得合併又ハ分割ニ因リテ消滅シタル法人ノ權利承繼ノ登錄ニ付亦同ジ

第五十七條ノ二　朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬シタル漁業權又ハ漁業權ヲ目的トスル權利ノ信託ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第二十七條ノ規定ニ依ル信託財産ノ復舊ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條ノ三　受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第五十七條ノ四　受託者ノ任務ガ死亡、破産禁治産、準禁治産又ハ裁判所若ハ主務官廳ノ解任命令ニ因リテ終了シタルトキハ第六十六條ノ二ノ登錄ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務ガ解散ニ因リテ終了シタルトキ亦同ジ

第五十七條ノ五　第三十七條ノ二第一項及第百五條ノ二乃至第百五條ノ四ノ場合ヲ除クノ外第七十二條ノ二ニ揭グル事項ノ變更ニ關スル登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正又ハ漁業權ヲ目的トスル權利若ハ入漁ノ意思ノ拋棄ニ因ル登錄ノ抹消ハ登錄名義人ヨリ之ガ申請ヲ爲スベシ

登錄名義人ノ死亡又ハ解散ニ因ル入漁ノ登錄ノ抹消ハ登錄名義人ノ相續人又ハ清算人ヨリ之ガ申請ヲ爲スベシ

漁業權ヲ目的トスル權利ノ拋棄又ハ入漁慣

行ノ消滅ニ因ル登錄ノ抹消ニ付申請書ニ登錄名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本、和解若ハ調書ノ謄本若ハ漁業令第六十六條ノ規定ニ依ル裁定書ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登錄上利害關係ヲ有スル者ヨリ之カ申請ヲ爲スコトヲ得登錄名義人ノ死亡又ハ解散ニ因リ入漁慣行消滅シタル場合ニ於テ其ノ死亡ヲ證スル戸籍ノ謄本若ハ抄本其ノ他之ニ相當スル書面又ハ解散ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附シタルトキ亦同シ

第五十九條　登錄シタル權利カ或者ノ死亡又ハ或法人ノ解散ニ因リテ消滅スルコトヲ登錄シタル場合ニ於テ申請書ニ其ノ死亡ヲ證スル戸籍ノ謄本若ハ抄本其ノ他之ニ相當スル書面又ハ法人ノ解散ヲ證スル書面ヲ添附スルトキハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第六十條　登錄權利者カ登錄義務者ノ住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ之ト共ニ登錄抹消ノ申請ヲ爲スコト能ハサルトキハ登錄官廳ノ所在地ヲ管轄スル裁判所ニ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添附シ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書竝ニ債權金額及最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ先取特權又ハ抵當權ニ關スル登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第六十一條　假登錄ノ假登錄義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書ヲ添附シテ假登錄權利者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第六十二條　假登錄ノ抹消ハ假登錄名義人ヨリ之カ申請ヲ爲スヘシ

申請書ニ假登錄名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本若ハ和解若ハ調書ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登錄上利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ假登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第二款　申請書

第六十三條　登錄ヲ申請スルニハ登錄申請人又ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ニ依リ申請書ヲ登錄官廳ニ差出スヘシ

書留郵便ニ依リ申請書ヲ差出ス場合ニ於テハ郵便物ノ表面ニ漁業ニ關スル登錄申請ナルコトヲ朱書スヘシ

第六十四條　同一登錄官廳ノ管轄ニ屬スル數箇ノ漁業權ニ關シ先取特權ノ保存、抵當權ノ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ登錄原因及登錄ノ目的カ同一ナルトキニ限リ一申請書ヲ以テ登錄ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第六十四條ノ二　信託ノ登錄ノ申請ハ漁業權又ハ漁業權ヲ目的トスル權利カ移轉ニ因リ信託財産ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託ノ登錄抹消ノ登錄申請ハ移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ信託ノ終了ニ因リ信託財産ニ屬シタル漁業權又ハ漁業權ヲ目的トスル權利カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　申請書ニハ左ニ掲ケル書類ヲ添附スヘシ

一　登錄原因ヲ證スル書面

二　登錄原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

三　代理人（法人又ハ法人ニ非サル社團ノ代表者ヲ含ム）ニ依リ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

四　登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證又ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ニ依リ申請書ヲ登錄官廳ニ差出スヘシ

前項第一號ノ書面カ初ヨリ存在セサルトキ又ハ之ヲ添附スルコト能ハサルトキ若ハ第五項ノ規定ニ依リ之ヲ添附セサルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ且申請書ノ副本ヲ添附スヘシ

第六十四條　同一登錄官廳ノ管轄ニ屬スル數箇ノ漁業權ニ關シ先取特權ノ保存、抵當權ノ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ登錄原因及登錄ノ目的カ同一ナルトキニ限リ一申請書ヲ以テ登錄ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第六十四條ノ二　信託ノ登錄ノ申請ハ漁業權又ハ漁業權ヲ目的トスル權利カ移轉ニ因リ信託財産ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託ノ登錄抹消ノ登錄申請ハ移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ信託ノ終了ニ因リ信託財産ニ屬シタル漁業權又ハ漁業權ヲ目的トスル權利カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　申請書ニハ左ニ掲ケル書類ヲ添附スヘシ

一　登錄原因ヲ證スル書面

二　登錄原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

三　代理人（法人又ハ法人ニ非サル社團ノ代表者ヲ含ム）ニ依リ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

四　登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證又ハ其ノ代理人出頭シ又ハ書留郵便ニ依リ申請書ヲ登錄官廳ニ差出スヘシ

五項ノ規定ニ依リ之ヲ添附セサルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ且申請書ノ副本ヲ添附スヘシ

第七十二條　第一項ノ規定ニ依リ登錄ヲ申請スルトキハ第一項各號ノ書面ノ外代位原因ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第五十七條ノ三及第五十七條ノ五第二項ノ規定ニ依リ登錄ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス第五十七條ノ三ノ規定ニ依リ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ尚登錄ノ目的タル漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利ノ移轉ノ登錄ノ申請ヲ爲スニ付之ヲ準用ス

第七十二條ノ二　受託者更迭ノ場合ニ於テ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利ノ移轉ノ登錄ヲ申請スルトキハ申請書ニ其ノ更迭ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第十六條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登錄ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第七十三條　申請書ニハ登錄原因ヲ證スル書面ノ外左ノ書面ヲ添附スヘシ

一　登錄原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

二　申請人カ登錄權利者又ハ登錄義務者ノ相續人ナルトキ

三　登錄名義人ノ表示ノ變更ノ登錄ヲ申請スルトキ

第七十四條　同一登錄官廳ノ管轄ニ屬スル數箇ノ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利ノ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ登錄原因カ同一ナルトキニ限リ一申請書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬シタル漁業權又ハ漁業權ヲ目的トスル權利ノ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條　先取特權ノ保存、登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權額（漁場工事ノ先取特權ノ保存ニ付テハ其ノ工事費用ノ豫算額）ヲ記載シ且登錄原因ニ辨濟時期ノ定アルトキ、利息ノ定アルトキ又ハ其ノ發生時期若ハ支拂時期ノ定アルトキハ之ヲ記載スヘシ

第七十六條　抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ且登錄原因ニ辨濟時期ノ定アルトキ、利息ノ定アルトキ、其ノ發生時期若ハ支拂時期ノ定アルトキ又ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第三百七十條ノ規定ニ依ル別段ノ定アルトキハ之ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ先順位ノ抵當權ノ登錄アルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第七十七條　抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第一項ノ申請書ニハ抵當權ノ設定者カ債務者ニ非サルトキハ債務者ノ表示ヲ爲スヘシ

第七十七條　抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スヘシ

第七十八條　一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保ヲ先取特權ノ保存又ハ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價格ヲ記載スヘシ

第七十九條　債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ依ル先取特權若ハ抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スヘシ

第八十條　先取特權ノ保存若ハ移轉又ハ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登錄原因ニ因ル先取特權ノ保存、抵當權ノ設定又ハ先取特權若ハ抵當權ノ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

一　委託者及受託者ノ氏名及住所

二　信託ノ目的

三　受益者ノ氏名及住所又ハ資格

前項ニ掲ケル事項ノ外漁業權ヲ目的トスル權利ヲ信託シタルトキハ其ノ權利ヲ表示シ信託財産ノ管理方法、信託終了ノ事由其ノ他信託行爲ヲ以テ定メタル事項アルトキハ之ヲ記載シ尚信託行爲ヲ以テ信託管理人ヲ指定シタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ記載スヘシ

第八十一條　入漁スヘキ漁業權ノ免許ノ番號

二　入漁スヘキ水面ノ區域

三　入漁スヘキ漁業ノ方法其ノ他漁船漁具又ハ從業者ノ數若ハ資格ニ付慣行アルトキハ其ノ事項

四　入漁スヘキ採捕物ノ種類

五　入漁スヘキ時期

六　前各號ニ掲ケルモノノ外權利義務ニ關スル慣行アルトキハ其ノ事項

第八十三條　登錄申請書ニハ登錄原因ニ因ル申請人ノ權利カ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八十四條　數箇ノ登錄ノ申請ヲ爲スニハ登錄ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

第七十四條　登錄權利者カ多數ナル場合ニ於テ登錄原因ニ持分ノ定アルトキ又ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第二百五十六條第一項但書ノ規定ニ依ル定アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ登錄官廳ハ登錄ヲ申請スヘキ登錄官廳ノ數ニ應シ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

第七十五條　先取特權ノ保存ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權額（漁場工事ノ先取特權ノ保存ニ付テハ其ノ工事費用ノ豫算額）ヲ記載シ且登錄原因ニ辨濟時期ノ定アルトキ、利息ノ定アルトキ又ハ其ノ發生時期若ハ支拂時期ノ定アルトキハ之ヲ記載スヘシ

第七十六條　抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ且登錄原因ニ辨濟時期ノ定アルトキ、利息ノ定アルトキ、其ノ發生時期若ハ支拂時期ノ定アルトキハ之ヲ記載スヘシ

第七十七條　抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スヘシ

第七十八條　一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保ヲ先取特權ノ保存又ハ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價格ヲ記載スヘシ

第七十九條　債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ依ル先取特權若ハ抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スヘシ

第八十條　先取特權ノ保存若ハ移轉又ハ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登錄原因ニ因ル先取特權ノ保存、抵當權ノ設定又ハ先取特權若ハ抵當權ノ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

一　委託者及受託者ノ氏名及住所

二　信託ノ目的

三　受益者ノ氏名及住所又ハ資格

前項ニ掲ケル事項ノ外漁業權ヲ目的トスル權利ヲ信託シタルトキハ其ノ權利ヲ表示シ信託財産ノ管理方法、信託終了ノ事由其ノ他信託行爲ヲ以テ定メタル事項アルトキハ之ヲ記載シ尚信託行爲ヲ以テ信託管理人ヲ指定シタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ記載スヘシ

第八十一條　入漁スヘキ漁業權ノ免許ノ番號

二　入漁スヘキ水面ノ區域

三　入漁スヘキ漁業ノ方法其ノ他漁船漁具又ハ從業者ノ數若ハ資格ニ付慣行アルトキハ其ノ事項

四　入漁スヘキ採捕物ノ種類

五　入漁スヘキ時期

六　前各號ニ掲ケルモノノ外權利義務ニ關スル慣行アルトキハ其ノ事項

第八十三條　登錄申請書ニハ登錄原因ニ因ル申請人ノ權利カ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八十四條　數箇ノ登錄ノ申請ヲ爲スニハ登錄ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

第七十四條　登錄權利者カ多數ナル場合ニ於テ登錄原因ニ持分ノ定アルトキ又ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第二百五十六條第一項但書ノ規定ニ依ル定アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ登錄官廳ハ登錄ヲ申請スヘキ登錄官廳ノ數ニ應シ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

第八十六條　左ニ掲ケル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ事實ヲ證スル戸籍ノ謄本若ハ抄本又ハ之ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

一　登錄原因カ相續ナルトキ

二　申請人カ登錄權利者又ハ登錄義務者ノ相續人ナルトキ

三　登錄名義人ノ表示ノ變更ノ登錄ヲ申請スルトキ

第八十六條ノ二　受託者更迭ノ場合ニ於テ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利ノ移轉ノ登錄ヲ申請スルトキハ申請書ニ其ノ更迭ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登錄ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第八十七條　同一登錄官廳ニ數箇ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ前三條ノ規定ニ依リ添附スヘキ書面カ一箇ヨリ存セサルモノナルトキハ其ノ一ノ申請書ニ之ヲ添附シ他ノ申請書ニハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八十八條　登錄ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ抹消ニ付登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第八十九條　抹消シタル登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第九十條　申請書ニ添附シタル書類ノ原本ノ還付ヲ請求セントスル場合ニ於テハ申請人ハ其ノ原本ト共ニ原本ニ相違ナキ旨ヲ記載シタル謄本ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三款　申請書ノ記載事項

第九十一條　申請書ニハ左ニ掲ケル事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

一　免許ノ番號

二　登錄原因及其ノ日附

三　登錄ノ目的

四　年月日

五　申請人ノ氏名及住所

六　代理人ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ氏名及住所

七　登錄官廳ノ表示

第七十二條　債權者カ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權者ノ氏名、住所及代位ノ原因ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第五十七條ノ三及第五十七條ノ五第二項ノ規定ニ依リ登錄ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條ノ二　信託ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ニ掲ケル事項ヲ記載スヘシ

一　委託者及受託者ノ氏名及住所

二　信託ノ目的

三　受益者ノ氏名及住所又ハ資格

前項ニ掲ケル事項ノ外漁業權ヲ目的トスル權利ヲ信託シタルトキハ其ノ權利ヲ表示シ信託財産ノ管理方法、信託終了ノ事由其ノ他信託行爲ヲ以テ定メタル事項アルトキハ之ヲ記載シ尚信託行爲ヲ以テ信託管理人ヲ指定シタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ記載スヘシ

第七十三條　登錄原因ニ買戻ノ特約其ノ他登錄ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

第七十四條　登錄權利者カ多數ナル場合ニ於テ登錄原因ニ因ル先取特權ノ保存、抵當權ノ設定又ハ先取特權若ハ抵當權ノ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

第七十五條　先取特權ノ保存、登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權額（漁場工事ノ先取特權ノ保存ニ付テハ其ノ工事費用ノ豫算額）ヲ記載シ且登錄原因ニ辨濟時期ノ定アルトキ、利息ノ定アルトキ又ハ其ノ發生時期若ハ支拂時期ノ定アルトキハ之ヲ記載スヘシ

第七十六條　抵當權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ債權額ヲ記載シ且登錄原因ニ辨濟時期ノ定アルトキ、利息ノ定アルトキ、其ノ發生時期若ハ支拂時期ノ定アルトキハ之ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ先順位ノ抵當權ノ登錄アルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第七十七條　抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スヘシ

第一項ノ申請書ニハ抵當權ノ設定者カ債務者ニ非サルトキハ債務者ノ表示ヲ爲スヘシ

第七十七條　抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スヘシ

第七十八條　一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保ヲ先取特權ノ保存又ハ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價格ヲ記載スヘシ

第七十九條　債權ノ一部ノ讓渡又ハ代位辨濟ニ依ル先取特權若ハ抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スヘシ

第八十條　先取特權ノ保存若ハ移轉又ハ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登錄原因ニ因ル先取特權ノ保存、抵當權ノ設定又ハ先取特權若ハ抵當權ノ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

一　委託者及受託者ノ氏名及住所

二　信託ノ目的

三　受益者ノ氏名及住所又ハ資格

前項ニ掲ケル事項ノ外漁業權ヲ目的トスル權利ヲ信託シタルトキハ其ノ權利ヲ表示シ信託財産ノ管理方法、信託終了ノ事由其ノ他信託行爲ヲ以テ定メタル事項アルトキハ之ヲ記載シ尚信託行爲ヲ以テ信託管理人ヲ指定シタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ記載スヘシ

第八十一條　入漁スヘキ漁業權ノ免許ノ番號

二　入漁スヘキ水面ノ區域

三　入漁スヘキ漁業ノ方法其ノ他漁船漁具又ハ從業者ノ數若ハ資格ニ付慣行アルトキハ其ノ事項

四　入漁スヘキ採捕物ノ種類

五　入漁スヘキ時期

六　前各號ニ掲ケルモノノ外權利義務ニ關スル慣行アルトキハ其ノ事項

第八十三條　登錄申請書ニハ登錄原因ニ因ル申請人ノ權利カ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八十四條　數箇ノ登錄ノ申請ヲ爲スニハ登錄ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

第七十四條　登錄權利者カ多數ナル場合ニ於テ登錄原因ニ因ル先取特權ノ保存、抵當權ノ設定又ハ先取特權若ハ抵當權ノ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

一　委託者及受託者ノ氏名及住所

二　信託ノ目的

三　受益者ノ氏名及住所又ハ資格

前項ニ掲ケル事項ノ外漁業權ヲ目的トスル權利ヲ信託シタルトキハ其ノ權利ヲ表示シ信託財産ノ管理方法、信託終了ノ事由其ノ他信託行爲ヲ以テ定メタル事項アルトキハ之ヲ記載シ尚信託行爲ヲ以テ信託管理人ヲ指定シタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ記載スヘシ

第八十一條　入漁スヘキ漁業權ノ免許ノ番號

二　入漁スヘキ水面ノ區域

三　入漁スヘキ漁業ノ方法其ノ他漁船漁具又ハ從業者ノ數若ハ資格ニ付慣行アルトキハ其ノ事項

四　入漁スヘキ採捕物ノ種類

五　入漁スヘキ時期

六　前各號ニ掲ケルモノノ外權利義務ニ關スル慣行アルトキハ其ノ事項

第八十三條　登錄申請書ニハ登錄原因ニ因ル申請人ノ權利カ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八十四條　數箇ノ登錄ノ申請ヲ爲スニハ登錄ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スヘシ

第七十四條　登錄權利者カ多數ナル場合ニ於テ登錄原因ニ持分ノ定アルトキ又ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第二百五十六條第一項但書ノ規定ニ依ル定アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ登錄官廳ハ登錄ヲ申請スヘキ登錄官廳ノ數ニ應シ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

第八十六條　申請書ノ提出アリタルトキハ登錄受付簿ニ登錄ノ目的、申請人ノ氏名、受付年月日及受付番號ヲ記載シ申請書ニ受付年月日及受付番號ヲ記載スヘシ但シ申請人カ郵便ニ依リ申請シタル場合ニ於テ郵便物ノ到達カ執務時間外ニ係ルトキハ第六十三條第二項ノ規定ニ依リ之ヲ爲シタル場合ニ限リ其ノ到達ノ時ヲ以テ受付ノ時ト看做ス

前項ノ受付番號ハ受付ノ順序ニ依リ之ヲ附スヘシ但シ同一ノ漁業權ニ關シ同時ニ數箇ノ申請アリタルトキハ同一ノ受付番號ヲ附スヘシ

第八十七條　前條ノ規定ニ依リ登錄受付簿ニ申請人ノ氏名ヲ記載スル場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者カ二人以上ニシテ代表者ノ定アルトキハ其ノ氏名ノミヲ記載シ其ノ他ノ者ニ付テハ其ノ人員ノミヲ記載スヘシ

第八十八條　左ニ掲ケル場合ニ於テハ登錄ノ

申請ハ理由ヲ附シ之ヲ却下スベシ
一　事件ガ其ノ登錄官廳ノ管轄ニ屬セザルトキ
二　事件ガ登錄スベキモノニ非ザルトキ
三　申請書ガ本令ノ規定ニ適合セザルトキ
四　申請書ニ揭グル漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利ノ表示ガ漁業權原簿ノ登錄ト牴觸スルトキ
五　第六十六條第二號ノ場合ヲ除クノ外申請書ニ揭グル登錄義務者ノ表示ガ漁業權原簿ノ登錄ト符合セザルトキ
六　申請人ガ登錄名義人ナル場合ニ於テ氏名及住所ノ變更ノ登錄申請ノ場合ヲ除クノ外其ノ表示ガ漁業權原簿ノ登錄ト符合セザルトキ
七　申請書ニ揭グル事項ガ登錄原因ヲ證スル書面ト牴觸スルトキ
八　申請書ニ必要ナル書類ヲ添附セザルトキ
九　登錄稅ヲ納付セザルトキ

第八十九條　登錄ハ受付番號ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スベシ

第九十條　漁業權登錄簿ノ表示欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書ノ受付年月日、受付番號、登錄原因及其ノ日附、登錄ノ目的其ノ他申請書ニ揭グル事項ニシテ漁業權ノ表示ニ關スルモノ竝ニ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載スベシ

信託登錄簿ノ表示欄ニ信託財產ノ表示ノ登錄ヲ爲スニハ申請書ノ受付年月日及受付番號、信託ノ目的タル漁業ノ免許ノ番號又ハ信託ノ目的タル漁業權ヲ目的トスル權利ノ順位番號及權利ノ種類竝ニ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載シ尙其ノ末尾ニ漁業權登錄簿ノ册數及丁數ヲ記載スベシ

第九十一條　漁業權原簿ノ事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書ノ受付年月日及受付番號、登錄權利者ノ氏名、住所、登錄原因及其ノ日附、登錄ノ目的其ノ他申請書ニ揭グル事項ニシテ登錄スベキ權利及入漁ニ關スルモノ竝ニ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載スベシ

第九十一條ノ二　漁業權登錄簿ニ信託ニ因ル漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利ノ移轉ノ登錄ヲ爲シタルトキハ登錄ノ末尾ニ信託登錄簿ノ册數及丁數ヲ記載スベシ

第九十一條ノ三　受託者更迭シ又ハ任務終了シタル場合ニ於テ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利ノ移轉ノ登錄ヲ爲シタルトキハ登錄官廳ハ職權ヲ以テ信託登錄簿ノ登錄ヲ爲スベシ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第九十二條　第七十二條第一項ノ申請アリタル場合ニ於テ表示欄又ハ事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ第九十條第一項及第九十一條ノ規定ニ依ルノ外債權者ノ氏名、住所及代位原因ヲ記載スベシ

前項ノ規定ハ第五十七條ノ三又ハ第五十七條ノ五第二項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第九十三條　入漁慣行ノ保存ノ登錄ニ關シテハ第九十一條ノ記載事項中入漁慣行ノ表示ハ入漁登錄簿ニ之ヲ記載スベシ

入漁慣行ノ表示ニ付登錄ノ更正又ハ變更ノ登錄アリタルトキハ入漁登錄簿ノ備考欄ニ漁業權登錄簿ニ爲シタル登錄ノ順位番號、册數及丁數ヲ記載スベシ

第九十四條　一箇ノ債權ヲ擔保スル爲數箇ノ漁業權ヲ目的トスル先取特權ノ保存又ハ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ一箇ノ漁業權ニ付先取特權ノ保存又ハ抵當權ノ設定ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ漁業權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ他ノ漁業權ノ免許ノ番號ヲ記載シ其ノ漁業權ト共ニ先取特權又ハ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スベシ

第九十五條　追加抵當權設定ノ登錄ヲ爲シタルトキハ同一債權ニ依リ抵當權ノ目的タル他ノ漁業權ノ登錄用紙中丙區事項欄ニ追加抵當權ノ目的タル漁業權ノ免許ノ番號ヲ記載シ其ノ漁業權ト共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ追記スベシ

第九十六條　登錄名義人ノ表示ノ變更、漁業權ヲ目的トスル權利ノ變更又ハ第七十二條ノ二ニ揭グル事項ノ變更ノ登錄ヲ爲シタルトキハ變更セラレタル事項ヲ朱抹スベシ但シ順位ノ變更ニ因ル先取特權又ハ抵當權ノ變更ノ登錄ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九十七條　登錄ヲ完了シタルトキハ登錄原因ヲ證スル書面又ハ申請書ノ副本ニ免許ノ番號、申請書ノ受付年月日、受付番號、順位番號、登錄年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ入漁慣行ノ保存ニ關スル登錄ニ付テハ尙入漁登錄番號ヲ記載シ登錄官廳ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者又ハ登錄名義人ニ還付シ申請書ニ添附シタル登錄濟證又ハ第六十五條第十項ノ書面ニハ申請書ノ受付年月日、受付番號、順位番號、登錄權利者ノ氏名及住所、登錄原因及其ノ日附、登錄ノ目的、登錄年月日竝ニ登錄濟ノ旨ヲ記載シ登錄官廳ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄義務者ニ還付スベシ

登錄名義人多數ニシテ其ノ一部ガ登錄義務者ナルトキハ前項ノ登錄義務者ニ還付スベキ書面ニハ前項ニ規定スル事項ノ外登錄義務者ノ氏名及住所ヲ記載スベシ

前二項ノ場合ニ於テ登錄權利者又ハ登錄義務者多數ナルトキハ其ノ氏名及住所ノ記載ニ付テハ代表者ノ定アルモノハ其ノ氏名及住所ノミヲ記載シ其ノ他ノ者ニ付テハ其ノ人員ノミヲ記載スベシ

第七十二條第一項ノ申請ニ依ル登錄ヲ完了シタル場合ニ於テハ代位ノ原因ヲ證スル書面ニ第一項ノ規定ニ準ジテ記載ヲ爲シ登錄官廳ノ印ヲ押捺シ第一項ノ規定ニ依リ登錄權利者又ハ登錄名義人ニ還付スベキ書類ト共ニ之ヲ債權者ニ還付シ且登錄濟ノ旨ヲ登錄權利者又ハ登錄名義人ニ通知スベシ

前項ノ規定ハ第五十七條ノ三又ハ第五十七條ノ五ノ申請ニ依リ登錄ヲ完了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九十八條　登錄ヲ完了シタル場合ニ於テ申請書ニ添附シタル書類ノ原本ヲ還付スルトキハ登錄官廳ハ第七十條ノ規定ニ依リテ添附シタル謄本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スベシ

第四節　囑託ニ依ル登錄手續

第九十九條　囑託ニ依ル登錄ノ手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外申請ニ依ル登錄ニ關スル規定ヲ準用ス

第百條　左ニ揭グル事項ニ關スル登錄ニ付テハ官公署ヨリ遲滯ナク囑託書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登錄官廳ニ囑託スベシ
一　處分ノ制限又ハ其ノ解除
二　公賣處分ニ因ル漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利ノ移轉

第百一條　假登錄ハ第五十六條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ申請スル場合ヲ除クノ外假登錄權利者ノ申請ニ依リ裁判所ヨリ囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ之ヲ登錄官廳ニ囑託スベシ

前項ノ假處分命令ハ假登錄權利者ガ假登錄ノ原因ヲ疏明シタルトキハ裁判所之ヲ發スベシ

第一項ノ申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ卽時抗告ニ付テハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第百二條　競賣開始ノ登錄又ハ滯納處分ニ因ル差押ノ登錄ヲ囑託スル場合ニ於テ必要アルトキハ官公署ハ職權ヲ以テ登錄名義人又ハ相續人其ノ他ノ包括承繼人ニ代ハリ登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ相續其ノ他ノ包括承繼ニ因ル權利移轉ノ登錄ヲ登錄官廳ニ囑託スベシ

第百三條　第二十九條第三項、第六十五條第三項、第七十二條第一項、第九十二條第一項及第九十七條第四項ノ規定ハ前條ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第百四條　豫告登錄ハ第三條ニ揭グル訴ヲ受理シタル裁判所ヨリ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ之ヲ登錄官廳ニ囑託スベシ

第百五條　第三條ニ揭グル訴ノ提起アリタル場合ニ於テ訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シ敗訴ヲ言渡シタル裁判ガ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄若ハ認諾アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄、認諾若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登錄ノ抹消ヲ登錄官廳ニ囑託スベシ

第百五條ノ二　裁判所ガ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ遲滯ナク囑託書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ其ノ登錄ヲ登錄官廳ニ囑託スベシ主務官廳ガ信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同ジ

第百五條ノ三　前條ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳ガ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百五條ノ四　裁判所ガ信託財產ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク囑託書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ其ノ登錄ヲ登錄官廳ニ囑託スベシ

前項ノ規定ハ主務官廳ガ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百五條ノ五　第百五條ノ三ノ場合ニ於テ受託者ノ解任ニ付登錄ヲ爲シタルトキハ登錄官廳ハ職權ヲ以テ漁業權登錄簿ノ相當區事項欄ニ其ノ旨ヲ追記スベシ

第百六條　公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登錄ノ囑託アリタル場合ニ於テハ職權ヲ以テ滯納處分ニ關スル處分ノ制限ノ登錄ヲ抹消シ其ノ權利ヲ目的トスル先取特權又ハ抵當權ノ登錄アルトキハ職權ヲ以テ其ノ登錄ヲ抹消スベシ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル競賣法ノ規定ニ依ル競賣ニ基ク登錄ヲ爲ス場合亦同ジ

第百七條　第五十一條第一項ノ記載アル漁業權ニ付競賣ニ因ル漁業權移轉ノ登錄ノ囑託アリタルトキハ第三十一條第一項ノ規定ニ準ジ登錄ヲ爲シタル後移轉ノ登錄ヲ爲スベシ

第百八條　豫告登錄ハ登錄用紙中表示欄又ハ相當區事項欄ニ之ヲ爲スベシ

第百九條　囑託ニ依ル登錄ヲ完了シタル場合ニ於テハ登錄官廳ハ第九十七條第一項ノ書面ヲ登錄ヲ囑託シタル官公署ニ送付シ之ガ送付ヲ受ケタル官公署ハ遲滯ナク之ヲ登錄權利者ニ交付スベシ

第四章　滅失漁業權原簿回復登錄手續

第百十條　漁業權原簿ノ全部又ハ一部ガ滅失シタル場合ニ於テハ登錄官廳ハ其ノ定ムル期間內ニ爲シタル申請ニ依リ登錄ノ回復ヲ爲スベシ

回復シタル登錄ハ滅失前ノ登錄ト看做ス

第一項ノ期間ハ第百十一條第一項ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ起算シ三月以上六月以下ニ於テ之ヲ定ムベシ

第百十一條　漁業權原簿ノ全部又ハ一部ガ滅失シタル場合ニ於テハ登錄官廳ハ遲滯ナク左ニ揭グル事項及登錄ノ回復ヲ申請スベキ旨ヲ公告スベシ
一　滅失ノ事由
二　滅失ノ年月日
三　滅失シタル書類ノ種類
四　登錄ノ回復ヲ申請スベキ期限
五　其ノ他必要ナル事項

登錄官廳ハ前項ノ公告ヲ爲スノ外其ノ所在地又ハ所在地ノ屬スル道ノ區域內ニ於テ發行スル日刊ノ新聞紙ノ一ニ、日刊ノ新聞紙ノ發行ナキ道ニ在リテハ隣接セル一ノ道ノ區域內ニ於テ發行スル日刊ノ新聞紙ノ一ニ登錄ノ回復ヲ申請スベキ期間竝ニ前項第一號乃至第三號ノ事項ヲ揭載スベシ

第百十二條　登錄回復ノ申請ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得

第百十二條ノ二　受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ登錄回復ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第百十三條　登錄回復ノ申請書ニハ原登錄ノ順位番號、申請書ノ受付年月日、申請書ノ受付番號及登錄年月日ヲ記載シ之ニ原登錄ノ登錄濟證ヲ添附スベシ

第七十二條第一項若ハ前條ノ場合、朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル信託法第八條第二項ノ規定ニ依リ信託管理人ヨリ申請スル場合又ハ滅失、紛失其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ登錄濟證ヲ添附スルコト能ハザル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面及漁業權原簿ノ謄本、抄本其ノ他證憑ト爲ルベキ書面ヲ申請書ニ添附スベシ

第百十四條　登錄回復ノ申請アリタル場合ニ於テハ假設漁業權原簿ニ登錄スベシ

假設漁業權原簿ハ漁業權原簿ト看做ス

第百十五條　假設漁業權原簿ト稱スルハ左ニ揭グル書類ヲ謂フ
一　假設漁業權登錄簿
二　假設漁場圖綴込帳
三　假設漁業權共有者名簿
四　假設入漁登錄簿
五　假設信託登錄簿

假設漁業權原簿ニ付テハ第九條第二項乃至第四項ノ規定ヲ準用ス

第百十六條　第百十四條ノ規定ニ依ル登錄ヲ爲スニハ第十二條乃至第十四條ノ二ノ規定ニ準ジ滅失前ノ登錄ト同樣ノ登錄ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ假設漁業權登錄簿、假設漁業權共有者名簿若ハ假設信託登錄簿ノ表示欄若ハ事項欄又ハ假設漁場圖綴込帳ニ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ登錄中ニ、假設入漁登錄簿ニ登錄ヲ爲シタルトキハ備考欄ニ回復登錄ノ申請書受付年月日及受付番號、回復ノ原因及其ノ日附、回復ノ登錄ヲ爲ス旨竝ニ回復登錄ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スベシ

第一項ノ場合ニ於テ漁業權登錄簿、漁場圖綴込帳、漁業權共有者名簿、入漁登錄簿若ハ信託登錄簿ノ册數若ハ丁數又ハ入漁登錄番號ニ異動ヲ生ジタルトキハ新册數若ハ丁數又ハ新番號ヲ記載シ原册數若ハ丁數又ハ原番號ノ記載アルトキハ之ヲ朱抹スベシ

前三項ノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ原登錄ノ登錄濟證ニ申請書ノ受付年月日、受付番號、順位番號、登錄原因及其ノ日附、登錄ノ目的、登錄年月日及假設漁業權原簿ニ登錄濟ノ旨ヲ記載シ入漁慣行ノ保存ニ關スル登錄ニ付テハ尙入漁登錄番號ヲ記載シ登錄官廳ノ印ヲ押捺シテ登錄權利者又ハ登錄名義人ニ還付スベシ

第百十七條　第百十條ノ規定ニ依リ定メタル期間中滅失シタル漁業權原簿ニ登錄シタル漁業權若ハ之ヲ目的トスル權利又ハ入漁慣行ニ付新ニ登錄ノ申請アリタルトキハ第三章ノ規定ニ準ジ假設漁業權原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ順位番號欄ニ記載スベキ順位番號ハ新登錄ノミノ順序ニ從ヒ新ナル番號ヲ附シ之ニ新登錄ナル文字ヲ冠スベシ

前項ノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ登錄濟證ニ假設漁業權原簿ニ登錄シタル旨ヲ記載スベシ

第百十八條　前條ノ規定ニ依リ新ニ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ登錄ガ第八十八條第一號、第二號又ハ第四號乃至第六號ニ該當スルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登錄官廳ハ遲滯ナク職權ヲ以テ第二十八條ノ規定ニ準ジ抹消ノ登錄ヲ爲シ登錄權利者及登

錄義務者又ハ登錄名義人竝ニ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ其ノ旨理由ヲ附シテ通知スベシ

第百十九條　第百十四條及第百十七條ノ規定ニ依リ假設漁業權原簿ニ爲シタル登錄ハ第百十條ノ規定ニ依リ定メタル期間滿了ノ後遲滯ナク之ヲ新ニ調製シタル漁業權原簿ニ移記スベシ

前項ノ規定ニ依リ登錄ノ移記ヲ爲スニハ回復シタル登錄ヲ移シ之ヲ完了シタル後新登錄ヲ移スベシ此ノ場合ニ於テ回復シタル登錄間ノ順序ハ滅失前ノ登錄ノ順序ニ、新登錄間ノ順序ハ假設漁業權原簿ニ於ケル登錄ノ順序ニ從ヒ、回復シタル登錄ノ順位番號ハ主登錄ニ付テハ回復シタル登錄ノミノ滅失前ノ登錄ノ順位番號ノ順序ニ依リ新ナル番號ヲ附シ附記登錄ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ニ依リ新ニ之ヲ附シ附記登錄番號又ハ入漁登錄番號ハ主登錄ノ順位番號ヲ定メタル方法ニ準ジ之ヲ附シ第百十七條ノ規定ニ依リ新ニ爲シタル主登錄ノ順位番號若ハ入漁登錄番號又ハ附記登錄ノ登錄番號ハ登錄ノ順序ニ從ヒ回復シタル登錄ノ順位番號又ハ番號ヲ追ヒ新ナル番號ヲ附シ附記登錄ノ順位番號ハ第二十二條第一項ノ規定ニ依リ新ニ之ヲ附スベシ。

第一項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ假設漁業權原簿第何册何丁ヨリ登錄ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員之ニ捺印スベシ

漁業權原簿ニ登錄ヲ移シタルトキハ假設漁業權原簿ノ登錄用紙ヲ閉鎖スベシ

第百二十條　假設漁業權原簿ノ登錄ヲ漁業權原簿ニ移記シタルトキハ登錄權利者又ハ登錄名義人ニ對シ之ニ本登錄濟證ヲ交付スベキ旨ヲ通知スベシ

登錄權利者又ハ登錄名義人ガ本登錄濟證ノ交付ヲ申請スル場合ニ於テハ假設漁業權原簿ニ於ケル登錄ノ登錄濟證ヲ提出スベシ

前項ノ登錄濟證ヲ提出シタルトキハ之ニ第百十六條第四項ノ規定ニ準ジ記載ヲ爲シ登錄權利者又ハ登錄名義人ニ交付スベシ

第百二十一條　登錄ノ回復ニ關スル手續ニ付テハ本章ニ規定スルモノノ外第三章ノ規定ニ依ル

第百二十二條　假設漁業權原簿ガ滅失シタル場合ニ於ケル登錄ノ回復ニ付テハ本章ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ第百十條ノ規定ニ依ル登錄回復ノ申請期間ハ假設漁業權原簿ノ登錄回復申請期間ト同一ニ更ニ之ヲ定ムベシ

第一項ノ場合ニ於テ新假設漁業權原簿ニ於ケル新登錄ニハ第二回假設ナル文字ヲ冠スベシ

前項ノ規定ハ第三回以後ノ假設漁業權原簿ニ於ケル新登錄ニ之ヲ準用ス

第百二十三條　第百十條又ハ前條ノ規定ニ依ル登錄回復ノ申請ヲ爲サザル漁業權ニ付テハ滅失ノ際ニ於ケル漁業權ノ登錄名義人ハ登錄回復ノ申請期間經過後其ノ漁業權ニ付設定ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタルトキハ登錄官廳ハ滅失ノ際登錄上ニ於テ存シタル漁業權ニ付設定ノ登錄ヲ爲スベシ

前項ノ登錄ニ付テハ第三十九條及第百十三條ノ規定ヲ準用スルノ外第三章ノ規定ニ依ル

第百二十四條　漁業權原簿又ハ其ノ附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ登錄官廳ハ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和六年十一月總令第百四十五號）

本令ハ昭和六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

免許番號欄　第　號

表題部
- 表示番號欄
- 表示欄
  - 漁場ノ位置及區域
  - 漁業ノ種類
  - 漁業ノ方法　採捕物ノ種類　漁業ノ時期　制限又ハ條件
  - 免許年月日
  - 存續期間
- 表示番號欄
- 表示欄

甲區：順位番號欄／事項欄
乙區：順位番號欄／事項欄
丙區：順位番號欄／事項欄
丁區：順位番號欄／事項欄
戊區：順位番號欄／事項欄

第二號樣式

免許番號欄　第　號

表題部：表示番號欄／表示欄
甲區：順位番號欄／事項欄
乙區：順位番號欄／事項欄
丙區：順位番號欄／事項欄
丁區：順位番號欄／事項欄

表題部：表示番號欄／表示欄
甲區：順位番號欄／事項欄
乙區：順位番號欄／事項欄
丙區：順位番號欄／事項欄
丁區：順位番號欄／事項欄

第三號樣式

免許番號欄　第　號　漁業權登錄簿ノ冊數及丁數欄

持分欄
甲區：順位番號欄／事項欄
乙區：順位番號欄／事項欄
丙區：順位番號欄／事項欄
丁區：順位番號欄／事項欄
備考欄

持分欄
甲區：順位番號欄／事項欄
乙區：順位番號欄／事項欄
丙區：順位番號欄／事項欄
丁區：順位番號欄／事項欄
備考欄

第四號樣式

入漁スベキ水面ノ區域	入漁權登錄番號	免許番號	第　號	從業者ノ資格及員數	漁業ノ方法	漁船	漁具	採捕物ノ種類	漁業ノ時期

表示欄

備考欄	其ノ他ノ權利義務

第五號樣式

表示番號欄	表示欄	順位番號欄	事項欄	順位番號欄	事項欄	順位番號欄	事項欄	順位番號欄	事項欄	順位番號欄	事項欄
	免許番號欄										

第六號樣式

受付年月日	受付番號	登錄ノ目的	申請人ノ氏名又ハ名稱	備考
昭和　年　月　日	第　號			
昭和　年　月　日	第　號			
昭和　年　月　日	第　號			
昭和　年　月　日	第　號			
昭和　年　月　日	第　號			
昭和　年　月　日	第　號			

● 朝鮮漁業登錄規則ニ依リ登錄官廳ニ差出スベキ漁業ニ關スル登錄申請書ノ調製心得及書式

昭和五年四月
總督府令第百八十五號

朝鮮漁業登錄規則ニ依リ登錄官廳ニ差出スベキ漁業ニ關スル登錄申請書ノ調製心得及書式ヲ昭和五年五月一日ヨリ左ノ通定ム

甲　調製心得

乙　書式

第一號　漁業權（持分）移轉ノ登錄申請書

（一）相續ニ因ル移轉ノ例
（二）相續ニ因ル移轉ニ付代位申請ノ例
（三）法人ノ合併ニ因ル移轉ノ例
（四）賣買ニ因ル移轉ノ例
（五）共有ノ例
（六）現物出資ニ因ル移轉ノ例
（七）贈與（遺贈）ニ因ル移轉ノ例
（八）判決ニ因ル移轉ノ例

第二號　持分チ處分シ又ハ擔保ニ供スルニ付共有者ニ對スル同意ノ催告順末書

第三號　先取特權保存ノ登錄申請書

（一）漁業權保存又ハ賣買ノ先取特權保存ノ例
（二）漁場工事ノ先取特權保存ノ例

第四號　先取特權移轉ノ登錄申請書

第五號　先取特權變更ノ登錄申請書

第六號　先取特權抹消ノ登錄申請書

（一）全部抹消ノ例
（イ）債務辨濟ニ因ル抹消ノ例
（ロ）權利ノ拋棄ニ因ル抹消ノ例
（二）一部抹消ノ例

第七號　抵當權設定ノ登錄申請書

第八號　根抵當權設定ノ登錄申請書

第九號　委任狀

第十號　抵當權移轉ノ登錄申請書

（一）相續ニ因ル移轉ノ例
（二）會社合併ニ因ル移轉ノ例
（三）債權（一部）讓渡ニ因ル移轉ノ例
（四）債權（一部）代位辨濟ニ因ル移轉ノ例
（五）債權（一部）轉付命令ニ因ル移轉ノ例
（六）讓渡ニ因ル移轉ノ例

第十一號　抵當權變更ノ登錄申請書

（一）契約事項ノ變更ニ因ル變更ノ例
（二）順位ノ變更ニ因ル變更ノ例
（三）抵當權拋棄ニ因ル變更ノ例

第十二號　抵當權抹消ノ登錄申請書

（一）全部抹消ノ例
（イ）債務ノ辨濟ニ因ル抹消ノ例
（ロ）抵當權ノ拋棄又ハ債務ノ免除ニ因ル抹消ノ例
（二）一部抹消ノ例

第十三號　賃借權設定ノ登錄申請書

第十四號　漁業權轉貸ノ登錄申請書

第十五號　賃借權移轉ノ登錄申請書

第十六號　賃借權變更ノ登錄申請書

第十七號　賃借權抹消ノ登錄申請書

第十八號　入漁慣行保存ノ登錄申請書

第十九號　入漁慣行抹消ノ登錄申請書

（一）入漁意思ノ拋棄ニ因ル抹消ノ例
（二）入漁者ノ死亡又ハ解散ニ因ル抹消ノ例
（三）入漁ノ拒絕又ハ入漁慣行ノ中斷ニ因ル抹消ノ例

第二十號　假登錄申請書（假登錄義務者ノ承諾アル場合）

漁業權移轉ノ假登錄申請ノ例

第二十一號　假登錄抹消ノ登錄申請書

漁業權移轉ノ假登錄抹消ノ登錄申請ノ例

第二十二號　登錄名義人表示ノ變更ノ登錄申請書

第二十三號　登錄ノ錯誤（遺漏）ニ因ル更正ノ登錄申請書

第二十四號　登錄回復ノ登錄申請書

（一）承諾ニ因ル回復登錄申請ノ例
（二）判決ニ因ル回復登錄申請ノ例
（三）漁業權原簿ノ滅失ニ因ル回復登錄申請ノ例

第二十五號　漁業登錄囑託書

（一）滯納處分ニ因ル漁業權差押ノ登錄

囑託ノ例

(二) 公賣處分ニ因ル漁業權移轉ノ登錄囑託ノ例

(三) 滯納處分ニ因ル差押ノ解除登錄囑託ノ例

第二十六號　漁業權原簿ノ謄本ノ交付請求書

第二十七號　漁業權原簿ノ抄本ノ交付請求書

甲

調製心得

一　申請書ハ各漁業權ニ付申請セントスル事件毎ニ之ヲ調製スベシ但シ同一登錄官廳ノ管轄ニ屬スル數箇ノ漁業權ニ關シ先取特權ノ保存、抵當權ノ設定又ハ先取特權若ハ抵當權ノ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ登錄原因及登錄ノ目的カ同一ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　申請書ニ金錢其ノ他ノ物ノ數量、年月日及番號ヲ記載スルニハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用ユベシ

申請書ノ文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ズ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尙讀ミ得ベキ爲字體ヲ存スベシ

三　申請人ガ漁業組合其ノ他ノ法人又ハ法人ニ非ザル社團ナルトキハ申請書ニハ其ノ名稱ヲ記載スルノ外代表者記名捺印スベシ

四　登錄原因ヲ證スル書面ニハ印紙稅令第二條竝ニ印紙稅法第四條、第六條及第九條ノ規定ニ依リ印紙稅ヲ納ムベシ

五　登錄稅ハ朝鮮登錄稅令第六條及朝鮮登錄稅令施行規則第一條ノ規定ニ依リ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムベシ此ノ場合ニ於テハ貼附印紙ヲ印章又ハ署名ヲ以テ消スベカラズ

朝鮮登錄稅令施行規則第二條ノ規定ニ依リ現金ヲ以テ登錄稅ヲ納ムルトキハ其ノ領收證書ヲ申請書ニ添附スベシ

乙　書式

第一號　漁業權(持分)移轉ノ登錄申請書

(一)　相續ニ因ル移轉ノ例

漁業權(持分)移轉登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日家督相續(遺産相續)

一　登錄ノ目的　漁業權(持分)ノ移轉

一　各相續人ノ相續分　何某　何分ノ何

一　添附書類

登錄原因ヲ證スル書面竝ニ戶籍(戶籍謄本)ノ謄本(各)　一通

(何某ノ相續分ヲ證スル書面　各一通)

(何某ノ相續ノ拋棄ヲ證スル書面　各一通)

右登錄申請ス

年　月　日

住所

亡何某家督相續人

登錄申請人　氏　名　㊞

亡何某遺産相續人

住所

(注意)

一　遺産相續ニ付數人ニ於テ漁業權ノ相續ヲ爲シタル場合ニ於テハ各登錄申請人ノ氏名ノ上ニ其ノ各持分ヲ記載シ漁業權ノ持分ノ相續ヲ爲シタル場合ニ於テハ登錄ノ目的ノ次ニ各相續人ノ相續分ヲ、各登錄申請人ノ氏名ノ上ニ漁業權ノ各持分ヲ記載スベシ

二　遺産相續ニ付相續ノ拋棄ヲ爲シタル者又ハ相續權ナキ者アルトキハ之ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スベシ

三　遺産相續ニ付相續人ノ關係ガ戶籍ノ謄本ノミニテ不明ナルトキハ除籍ノ謄本ヲモ申請書ニ添附スベシ

四　朝鮮漁業登錄規則(以下注意事項中ニ於テハ單ニ漁業登錄規則ト稱ス)第一條、第五十六條、第五十七條、第六十三條、第六十五條乃至第六十七條、第七十二條、第七十四條及第八十三條參照

(二)　相續ニ因ル移轉ニ付代位申請ノ例

漁業權移轉登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日家督相續

一　登錄ノ目的　漁業權ノ移轉

一　代位ノ原因

何年何月何日金錢貸借契約ニ基ク債權者何道何郡何面何里何番地何某ノ債務者何道何郡何面何里何番地何某ニ對スル債權ノ保全

一　添附書類

登錄原因ヲ證スベキ書面初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本　一通

戶籍ノ謄本　一通

金錢借用證書　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住所

亡何某家督相續人

右代位申請人　氏　名

住所

債權者　氏　名　㊞

朝鮮總督(道知事)宛

登錄稅　何程

收入印紙

(注意)

一　漁業權又ハ其ノ持分ヲ移轉シタル場合ニ於テ買戻ノ特約アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スベシ

二　登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證ガ滅失シタルトキハ其ノ登錄名義人又ハ登錄義務者ノ本人ナルコトヲ證スル府尹、面長又ハ市町村長ノ證明書ヲ添附スベシ

三　同一登錄官廳ニ數箇ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ登錄原因ヲ證スル書面又ハ登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證ガ一箇ヨリ存セザルトキ他ノ登錄申請書ニ之ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ申請書ニ記載スベシ

四　漁業權ノ持分ヲ移轉シタルトキハ其ノ共有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スベシ共有者ノ住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ之ガ同意ヲ求ムルコト能ハザル爲朝鮮漁業令第二十二條第一項ノ規定ニ依リ同意ノ催告ヲ爲シ同條第二項ノ期間內ニ異議ノ申立ナカリシトキハ第二號樣式ニ依ル同意催告顚末書ヲ添附スベシ

五　申請人ガ登錄權利者又ハ登錄義務者ノ相續人ナル場合ニ於テハ其ノ相續ヲ證スル戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ之ヲ證スルニ足ルベキ書面ヲ申請書ニ添附スベシ

六　朝鮮漁業令第十九條第二項、第二十二條、漁業登錄規則第一條、第五十六條、第五十七條、第六十三條、第六十五條乃至第六十七條、第七十一條乃至第七十四條及第八十三條參照

收入印紙

(注意)

一　債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ノ氏名、住所及代位ノ原因ヲ記載シ尙代位原因ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

二　參照條文前例ニ同ジ

(三)　法人ノ合併ニ因ル移轉ノ例

漁業權移轉登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日漁業組合ノ合併

一　登錄ノ目的　漁業權ノ移轉

一　合併ニ因リ消滅シタル法人ノ名稱及住所　何道何郡何面何里何番地何漁業組合(何會社)

一　添附書類

漁業組合合併認可ノ指令書(登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附セザルニ付申請書ノ副本)　一通

(何々)　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住所

登錄申請人　何漁業組合

組合長　氏　名　職印

理事　氏　名　職印

住所

登錄申請人ノ權限ヲ證スル書面　一通

右登錄申請人

住所

何　會社

登錄申請人

代表者　氏　名　㊞

朝鮮總督(道知事)宛

登錄稅　何程

收入印紙

(注意)

一　登錄原因ヲ證スル書面ガ登錄官廳タルル行政官廳ノ許可又ハ認可ノ指令書ナルトキハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

一　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第五十七條、第六十三條、第六十五條、第六十六條、第七十一條、第七十二條及第八十三條參照

(四)　賣買ニ因ル移轉ノ例

漁業權(持分)移轉登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日賣買

一　登錄ノ目的　漁業權(持分)ノ移轉

(一)　特約アリ)

一　何年何月何日ヲ期限トスル買戻ノ特約アリ(契約ノ日ヨリ何年間不分割ノ特約アリ)

一　添附書類

賣渡證書　一通

登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證(登錄義務者ノ本人ナルコトヲ證スル面長ノ證明書)　一通

(登錄原因ヲ證スル書面及登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證ハ何漁業免許第何號漁業權移轉登錄申請書ニ添附セリ)

(共有者ノ同意書(同意催告顚末書)　一通)

(戶籍ノ謄本　一通)

右登錄申請ス

年　月　日

住所

賣渡人　氏　名　㊞

住所

買受人　氏　名　㊞

(買受人亡何某家督相續人)

朝鮮總督(道知事)宛

登錄稅　何程

收入印紙

(注意)

一　漁業權又ハ其ノ持分ヲ移轉シタル場合ニ於テ買戻ノ特約アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スベシ

（五）　共有ノ例

漁業權共有登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日契約（何某ノ有スル漁業權ノ持分ノ何分ノ何竇買）
一　登錄ノ目的　漁業權ノ共有
一　各共有者ノ持分　何某　何分ノ何
何某　何分ノ何
何某　何分ノ何
一　特約　契約ノ日ヨリ何年間不分割ノ特約アリ
一　添附書類
漁業權共有契約證書（漁業權ノ持分ノ一部讓渡契約證書）一通
登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證（共有者ノ同意書（同意儘告願末書））一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
登錄義務者　氏　名　㊞
住　所
登錄權利者　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　漁業權ヲ共有ト爲シタル場合ニ於テ民法第二百五十六條第一項但書ノ規定ニ依ル不分割ノ特約アルトキハ之ヲ申請書ニ記載スベシ
二　前例注意一乃至五參照
三　參照條文前例ニ同ジ

（六）　現物出資ニ因ル移轉ノ例

漁業權移轉登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日現物出資
一　登錄ノ目的　漁業權ノ移轉
一　添附書類
現物出資提供證　一通
登錄權利者ノ權限ヲ證スル商業登記簿ノ謄本　一通
登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
讓渡人　氏　名　㊞
住　所
讓受人　何　會　社
右代表者　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　第四例注意二、三及五參照
二　參照條文第四例ニ同ジ

（七）　贈與（遺贈）ニ因ル移轉ノ例

漁業權移轉登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日贈與（遺贈）
一　登錄ノ目的　漁業權ノ移轉
一　添附書類
贈與證書　一通
（公正證書（裁判所ノ檢認調書ノ謄本）一通）
登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通
（戶籍ノ謄本　一通）

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
贈與者　氏　名　㊞
住　所
受贈者　氏　名　㊞
住　所
遺贈者亡　氏　名　㊞
住　所
右遺贈義務者　氏　名　㊞
住　所
受遺者　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　遺言書ガ公正證書ナルトキハ其ノ公正證書ヲ、其ノ他ノ書面ナルトキハ裁判所ノ檢認調書ノ謄本ヲ申請書ニ添附スベシ
二　第四例注意二、三及五參照
三　參照條文第四例ニ同ジ

（八）　判決又ハ裁判上ノ和解若ハ認諾ニ因ル移轉ノ例

漁業權移轉登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日竇買（何法院ノ漁業權移轉ノ登錄手續ヲ命ズル確定判決）
一　登錄ノ目的　漁業權ノ移轉
一　登錄義務者ノ氏名及住所　何道何郡何面何里何番地　何某
一　添附書類
裁判（和解調書）（認諾調書）ノ謄本　一通
（判決確定證明書　一通）

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
讓受人　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　第四例注意五參照
二　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第五十七條、第六十三條、第六十五條乃至第六十七條、第七十一條及第八十三條參照

同意儘告願末書

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　儘告ヲ受ケタル共有者ノ住所及氏名
何道何郡何面何里何番地　何某
一　儘告ノ事由
共有者何某ノ住所（居所）（相續人）不明ノ爲前記漁業權ノ持分ノ竇買ニ付同意ヲ求ムルコト能ハザルニ因ル
一　儘告ノ顚末
朝鮮漁業令施行規則第三十九條ノ規定ニ依リ何道何府何新聞社ノ發行ニ係ル何新聞ニ何年何月何日公告ヲ爲シタルモ何年何月何日迄ニ異議ノ申立ナシ

前記ノ通相違ナシ

年　月　日

住　所
同意儘告者　氏　名　㊞

第三號　先取特權保存ノ登錄申請書

（一）　漁業權保存又ハ竇買ノ先取特權保存ノ例

先取特權保存登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日漁業權ノ保存費支出（漁業權ノ竇買）
一　登錄ノ目的　漁業權保存（竇買）ノ先取特權ノ保存
一　債權額　保存費（未拂竇買代金）何圓
一　登錄原因ニ定メアル事項
辨濟時期　何年何月何日
（利息　年何分）
（利息發生時期　何年何月何日）
（利息支拂時期　毎月末日）
（一）　先取特權ノ目的タル他ノ漁業權ノ免許ノ番號何漁業免許第何號、何漁業免許第何號）
一　添附書類
登錄原因ヲ證スル書面初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本（漁業權竇買契約書）　一通
登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通
（登錄稅ノ受領證　一通）

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
債務者　氏　名　㊞
住　所
先取特權者　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　課稅標準價格　何圓
一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　漁業權保存ノ先取特權ノ保存ノ登錄申請ハ保存行爲完了後直ニ、漁業權竇買ノ先取特權ノ保存ノ登錄申請ハ竇買契約ト同時ニ之ヲ爲スベシ
二　同一登錄官廳ノ管轄ニ屬スル數箇ノ漁業權ニ關シ先取特權ノ保存又ハ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ登錄ノ原因カ同一ナルトキニ限リ一申請書ヲ以テ申請スルコトヲ得
三　登錄原因ニ辨濟時期ノ定アルトキ利息ノ定アルトキ又ハ其ノ發生時期若ハ支拂時

期ノ定アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スベシ

四　一箇ノ債権ヲ擔保スル爲數箇ノ登錄官廳ノ管轄ニ屬スル數箇ノ漁業權ヲ目的トスル先取特權ノ保存ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ各登錄官廳ニ差出スベキ申請書ニ同一先取特權ノ目的タル他ノ漁業權ノ免許ノ番號ヲ記載スベシ

五　數箇ノ登錄官廳ノ管轄ニ屬スル數箇ノ漁業權ニ關シ同一ノ登錄原因ニ因ル先取特權ノ保存又ハ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ最初ニ登錄ヲ申請スル登錄官廳ニ登錄稅ノ全額ヲ納付シ交付ヲ受ケタル受領證ハ他ノ登錄官廳ニ登錄ヲ申請スルトキ申請書ニ之ヲ添附スベシ

六　同一ノ債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記又ハ登錄ヲ受クル場合ニ於テ既ニ登記所又ハ登錄官廳ニ於テ登記又ハ登錄ヲ受ケタルトキハ申請書ニ其ノ登記所又ハ登錄官廳ノ交付シタル登錄稅ノ受領證ヲ添附スベシ

七　第一號第四例注意二及五參照

八　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第五十七條、第六十三條乃至第六十七條、第七十一條、第七十二條、第七十五條、第七十八條、第八十條、第八十三條乃至第八十五條、朝鮮登錄稅令第五條、第五條ノ三及朝鮮登錄稅令施行規則第三條ノ二參照

（二）漁場工事ノ先取特權保存ノ例

先取特權保存登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日工事請負契約

一　登錄ノ目的　漁場工事ノ先取特權ノ保存

一　工事費用ノ豫算額　何圓

一　登錄原因ニ定メアル事項

一　辨濟時期　工事竣成引渡ト同時

一　添附書類

一　工事請負契約書　一通

一　登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
債務者　氏　名　㊞

住　所
先取特權者　氏　名　㊞

（注　意）

一　前號第一例注意一及五參照

二　漁業登錄規則第一條、第五條、第五十六條、第五十七條、第六十三條乃至第六十五條、第六十七條、第七十一條、第七十二條、第七十四條、第七十九條、第八十條、第八十三條、第八十四條及朝鮮登錄稅令第五條參照

第五號　先取特權變更ノ登錄申請書

先取特權變更登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日債務ノ一部辨濟

一　登錄ノ目的　先取特權ノ變更

一　變更スベキ事項

何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番先取特權保存ノ登錄事項中債權額何圓ヲ何圓ニ變更

一　添附書類

債務辨濟金受取證書　一通

登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
亡何某家督相續人
登錄申請人　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　課稅標準價格　何圓

一　登錄稅　何程

牧入印紙

（注　意）

一　前號第一例注意一及五參照

二　漁場工事ノ先取特權ノ保存ノ登錄申請ハ工事ヲ初ムル前ニ之ヲ爲スベシ

三　參照條文前例ニ同ジ

第四號　先取特權移轉ノ登錄申請書

先取特權移轉登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日家督相續

一　登錄ノ目的　先取特權ノ移轉

一　移轉シタル先取特權

何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番先取特權

一　添附書類

登錄原因ヲ證スル書面ノ謄本　一通

戸籍抄本　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
亡何某家督相續人
登錄申請人　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　課稅標準價格　何圓

一　登錄稅　何程

牧入印紙

朝鮮總督（道知事）宛

一　登錄稅　何程

牧入印紙

住　所
先取特權者　氏　名　㊞

住　所
債務者　氏　名　㊞

（注　意）

一　第一號第四例注意二、三及五參照

二　漁業登錄規則第一條、第四條、第五十六條、第五十七條、第六十三條、第六十五條、第六十七條、第七十一條、第七十二條及第八十三條參照

第六號　先取特權抹消ノ登錄申請書

（一）全部抹消ノ例

債務ノ辨濟ニ因ル抹消ノ例

先取特權抹消登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日債務辨濟

一　登錄ノ目的　先取特權ノ抹消

一　抹消スベキ登錄

何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番先取特權

一　添附書類

債務辨濟金受取證書（債權證書竝ニ債權金額及最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書）各一通

（登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通）

（除權判決ノ謄本　一通）

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
先取特權者　氏　名　㊞

住　所
債務者（登錄申請人）氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　登錄稅　何程

牧入印紙

（注　意）

一　登錄權利者ガ登錄義務者ノ住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ之ト共ニ登錄ノ抹消ノ申請ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テ除權判決ノ謄本又ハ債權證書竝ニ債權金額及最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ申請書ニ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

二　第一號第四例注意二、三及五參照

三　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第六十條、第六十三條、第六十五條乃至第六十七條、第七十二條及第八十三條參照

（四）權利ノ拋棄ニ因ル抹消ノ例

先取特權抹消登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日先取特權拋棄

一　抹消スベキ登錄

何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番先取特權

一　添附書類

登錄原因ヲ證スル書面ノ謄本　一通

（登錄名義人ノ承諾書（裁判ノ謄本又ハ和解若ハ認諾ノ調書ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登錄上利害ノ關係ヲ有スル者ヨリノ之ガ申請ヲ爲スコトヲ得）各一通）

（登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通）

（除權判決ノ謄本　一通）

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
登錄申請人　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　登錄稅　何程

牧入印紙

（注　意）

一　漁業權ヲ目的トスル權利ノ拋棄ニ因ル登錄ノ抹消ニ付申請書ニ登錄名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ベキ裁判ノ謄本又ハ和解若ハ認諾ノ調書ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登錄上利害ノ關係ヲ有スル者ヨリノ之ガ申請ヲ爲スコトヲ得

二　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第五十八條、第六十三條、第六十五條、第六十七條、第七十一條及第八十三條參照

（二）一部抹消ノ例

先取特權一部抹消登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日先取特權

一　部抹消契約

一　登錄ノ目的　先取特權ノ一部抹消

一　抹消スベキ登錄

何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番先取特權保存ノ登錄事項中利息何年何分、利息發生時期何年何月何日、利息支拂時期毎月末日

一　添附書類

先取特權一部抹消契約證書　一通

登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
先取特權者　氏　名　㊞
住　所
債務者　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　第一例(ヰ)注意一及二參照

二　漁業登錄規則第七十條ノ規定ヲ除クノ外參照條文第一例ニ同シ

第七號　抵當權設定ノ登錄申請書

抵當權設定登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日金錢（何々）貸借抵當權設定契約（追加抵當權設定契約）

一　登錄ノ目的　抵當權ノ設定（何年何月何日受付第何號ヲ以テ何漁業免許第何號漁業權ニ對シテ設定シタル順位何番抵當權ニ關スル追加抵當權設定）

一　債權額（債權ノ價格）　何圓

一　登錄原因ニ定メアル事項

辨濟時期　何年何月何日

利息　年何割（無利息）

利息發生時期　何年何月何日

利息支拂時期　每年何月何日
何月何日

債權ニ附シタル條件　利息ノ支拂ヲ怠リタルトキハ債務者ハ期限ノ利益ヲ失フ

（一）同一抵當權ノ目的タル他ノ漁業權ノ免許ノ番號

何漁業免許第何號、何漁業免許第何號）

（二）先順位ノ登錄

一番及二番ノ抵當權ノ登錄アリ）

（一）債務者ノ氏名及住所

何道何郡何面何里何番地　何某）

一　添附書類

抵當權設定契約證書（追加抵當權設定契約證書）　一通

登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住所
住所　抵當權設定者　氏　名　㊞
住所　抵當權者　株式會社何々銀行
住所　右取締役　氏　名　㊞
住所　右代理人　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　課稅標準價格　何圓

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　「登錄原因」中ニハ取引ノ方法モ記載スベシ

二　債權額ハ其ノ最高限度額ヲ記載スベシ

三　代理人（法人又ハ法人ニ非ザル社團ノ代表者ヲ含ム）ニ依リ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ委任狀（代表者ノ權限ヲ證スル書面）ヲ添附スベシ

四　前例注意一及三乃至九參照

五　參照條文前號ニ同シ

第九號　委任狀

收入印紙

何道何郡何面何里何番地何某ニ左記漁業ニ關スル登錄申請ニ係ル一切ノ行爲ヲ委任ス但シ復代理人ヲ選任スルコトヲ許諾ス

年　月　日

住　所
株式會社何々銀行取締役　氏　名　㊞

記

一　根抵當權ノ目的タル漁業權ノ免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　利息支拂期日　每月何日

一　添附書類

根抵當權設定契約證書　一通

登錄權利者ノ代表者ノ權限ヲ證スル書面　一通

（委任狀　一通）

登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住所
根抵當權設定者　氏　名　㊞
住所
根抵當權者　株式會社何々銀行
住所　右取締役　氏　名　㊞
住所　右代理人　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　課稅標準價格　何圓

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　「登錄原因」中ニハ取引ノ方法モ記載スベシ

二　債權額ハ其ノ最高限度額ヲ記載スベシ

三　代理人（法人又ハ法人ニ非ザル社團ノ代表者ヲ含ム）ニ依リ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ委任狀（代表者ノ權限ヲ證スル書面）ヲ添附スベシ

四　前例注意一及三乃至九參照

五　參照條文前號ニ同シ

第九號　委任狀

收入印紙

何道何郡何面何里何番地何某ニ左記漁業ニ關スル登錄申請ニ係ル一切ノ行爲ヲ委任ス但シ復代理人ヲ選任スルコトヲ許諾ス

年　月　日

住　所
株式會社何々銀行取締役　氏　名　㊞

記

一　根抵當權ノ目的タル漁業權ノ免許ノ番號　何漁業免許第何號

第十號　抵當權移轉ノ登錄申請書（一）　相續ニ因ル移轉ノ例

抵當權移轉登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日家督相續（遺產相續）

一　登錄ノ目的　抵當權ノ移轉

移轉シタル抵當權

一　何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ヲ係ル順位何番抵當權但シ右抵當權ハ債權ト共ニ移轉ス

一　添附書類

登錄原因ヲ證スル書面初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本　一通

戶籍（戶籍及除籍）ノ謄本　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
亡何某家督（遺產）相續人
登錄申請人　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ抵當權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スベシ

二　第一號第一例注意一乃至三竝ニ第七號注意一及八參照

三　漁業登錄規則第一條、第五條、第五十六條、第五十七條、第六十三條乃至第六十五條、第六十七條、第七十一條、第七十二條、第七十四條、第七十七條、第八十三條及第八十四條參照

（二）法人ノ合併ニ因ル移轉ノ例

抵當權移轉登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號

一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日會社合併

一　登錄ノ目的　抵當權ノ移轉
一　移轉シタル抵當權
　何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權但シ右抵當權ハ債權ト共ニ移轉ス
一　合併ニ因リ消滅シタル會社ノ名稱及住所
　何道何府何町何番地　何會社
一　添附書類
　會社ノ合併ニ關スル社員總會ノ決議錄ノ謄本　一通
　登錄申請人ノ代表者ノ權限ヲ證スル書面　一通
右登錄申請ス
　年　月　日

住　所
登錄申請人　名　稱
住　所
右代表者　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）ノ宛
一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　會社ノ合併ニ因ル抵當權ノ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ名稱及住所ヲ記載スベシ
二　第七號注意一及八竝ニ前例注意一參照
三　漁業登錄規則第六十七條及第七十四條ヲ除クノ外參照條文前例ニ同ジ

（三）　債權（一部）讓渡ニ因ル移轉ノ例

抵當權（一部）移轉登錄申請
一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日債權（一部）讓渡
一　登錄ノ目的　抵當權ノ（一部）移轉
一　移轉シタル抵當權
　何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權但シ右抵當權ハ債權ト共ニ移轉ス
（一）　讓渡ノ目的タル債權額　何圓）
一　添附書類
　債權（一部）讓渡證書　一通
　登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通
右登錄申請ス
　年　月　日

住　所
讓渡人　氏　名　㊞
住　所
讓受人　氏　名　㊞

（注　意）
一　債權ノ一部ノ代位辨濟ニ依ル抵當權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スベシ
二　民法第四百九十九條ノ規定ニ依ル任意ノ代位ニ因ル場合ハ債權者ノ代位ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スベシ

朝鮮總督（道知事）ノ宛
一　登錄稅　何程

收入印紙

（四）　債權（一部）代位辨濟ニ因ル移轉ノ例

抵當權（一部）移轉登錄申請
一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日債權（一部）代位辨濟
一　登錄ノ目的　抵當權ノ（一部）移轉
一　移轉シタル抵當權
　何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權但シ右抵當權ハ債權ト共ニ移轉ス
（一）　代位辨濟ノ目的タル債權額　何圓）
一　添附書類
　債務（一部）辨濟金受取證書　一通
　登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通
（債權者ノ代位ヲ承諾シタルコトヲ證スル書面　一通）
右登錄申請ス
　年　月　日

住　所
抵當權者　氏　名　㊞
住　所
代位辨濟者　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛
一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　同一債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲ニ非ザレバ抵當權ノミヲ讓渡スルコトヲ得ズ
二　第一號第四例注意二、三及五、第七號注意一及八竝ニ本號第一例注意一參照
三　參照條文第三例ニ同ジ

第十一號　抵當權變更ノ登錄申請書

（一）　契約事項ノ變更ニ因ル變更ノ例

抵當權變更登錄申請
一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日抵當權變更契約（債務一部辨濟）
一　登錄ノ目的　抵當權ノ變更
一　變更スベキ事項
　何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權設定ノ登錄事項中辨濟時期何年何月何日トアルヲ何年何月何日、利息年何割トアルヲ年何割トス（債權額何圓トアルヲ何圓トス）
一　添附書類
　抵當權變更契約證書（債務一部辨濟金受取證書）　一通
　登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通
（登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書（裁判ノ謄本及判決確定證明書）一通）
右登錄申請ス
　年　月　日

住　所
抵當權設定者　氏　名　㊞
住　所
抵當權者　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛
一　登錄稅　何程

收入印紙

三　第一號第四例注意二、三及五、第七號一及八竝ニ本號第一例注意一參照
四　參照條文前例ニ同ジ

（五）　債權轉付命令ニ因ル移轉ノ例

抵當權移轉登錄申請
一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日債權轉付命令
一　登錄ノ目的　抵當權ノ移轉
一　移轉シタル抵當權
　何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權但シ右抵當權ハ債權ト共ニ移轉ス
一　添附書類
　債權轉付命令正本　一通
（登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通）
右登錄申請ス
　年　月　日

（住　所
登錄義務者　氏　名　㊞）
住　所
登錄權利者　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛
一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　轉付命令ニ債務者ニ抵當權移轉ノ登錄ノ申請ヲ命ズル記載アルトキハ登錄權利者ノミヨリ申請スルコトヲ得
二　第一號第四例注意二、第七號注意一及八竝ニ本號第一例注意一參照
三　漁業登錄規則第七十三條ノ規定ヲ除クノ外參照條文第三例ニ同ジ

（六）　讓渡ニ因ル移轉ノ例

抵當權移轉登錄申請
一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日抵當權讓渡
一　登錄ノ目的　抵當權ノ移轉
一　移轉シタル抵當權
　何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權但シ抵當權ノミヲ移轉ス
一　添附書類
　抵當權讓渡證書　一通
　登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通
右登錄申請ス
　年　月　日

住　所
讓渡人　氏　名　㊞
住　所
讓受人　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）宛
一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナキトキ又ハ申請書ニ登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ之ニ對抗スルコトヲ得ベキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リ登錄ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ主登錄ヲ爲スモノトス
二　債權額ヲ增加スル場合ハ抵當權ノ變更ニアラズ其ノ增加額ニ對シ新規ニ抵當權ノ設定登錄ヲ爲スベシ
三　第一號第四例注意二、三及五參照
四　漁業登錄規則第一條、第四條、第五十六條、第五十七條、第六十三條、第六十五條乃至第六十七條、第七十一條及第八十三條參照

（二）順位ノ變更ニ因ル變更ノ例

抵當權變更登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日抵當權順位讓渡契約（抵當權順位拋棄）
一　登錄ノ目的　抵當權ノ變更
一　變更スベキ事項
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權ノ順位ヲ何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權者ニ讓渡（順位何番抵當權者ノ利益ノ爲ニ拋棄）
一　添附書類
抵當權順位讓渡證書（抵當權順位拋棄證書）　一通
登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
讓渡人（拋棄者）　氏　　名　㊞
住　所
讓受人（拋棄ノ利益ヲ受クル者）　氏　　名　㊞

朝鮮總督（道知事）殿

登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　同一ノ債務者ニ對スル他ノ抵當權者ノ利益ノ爲ニ非ザレバ其ノ順位ヲ讓渡シ又ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ズ
二　第一號第四例注意二、三及五參照
三　漁業登錄規則第一條、第五條、第五十六條、第五十七條、第六十三條、第六十五條乃至第六十七條、第七十一條及第八十三條參照

（三）抵當權ノ拋棄ニ因ル變更ノ例

抵當權拋棄登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日抵當權拋棄（債務免除）
一　登錄ノ目的　抵當權ノ抹消
一　抹消スベキ登錄
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權

添附書類
一　登錄原因ヲ證スル書面　一通
（債務免除證書）
（登錄名義人ノ承諾書（裁判ノ謄本及判決確定證明書）（和解調書ノ謄本））　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
朝鮮總督（道知事）殿　　登錄申請人　氏　　名　㊞

登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　第六號第一例（ロ）注意一參照
二　漁業登錄規則第一條、第五十六條乃至第五十八條、第六十三條、第六十五條乃至第六十八條、第七十一條及第八十三條參照

（二）一部抹消ノ例

抵當權一部抹消登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日抵當權拋棄（債務免除）
一　登錄ノ目的　抵當權ノ抹消
一　抹消スベキ登錄
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權

添附書類
一　登錄原因ヲ證スル書面　一通
（債務免除證書）
（登錄名義人ノ承諾書（裁判ノ謄本及判決確定證明書）（和解調書ノ謄本））　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
朝鮮總督（道知事）殿　　登錄申請人　氏　　名　㊞

登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　第一號第四例注意二、三及五並ニ第六號第一例（イ）注意一參照
二　漁業登錄規則第六十條參照其ノ他參照條文前號第一例ニ同ジ

（ロ）抵當權ノ拋棄又ハ債務ノ免除ニ因ル抹消ノ例

抵當權抹消登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日抵當權拋棄（債務免除）
一　登錄ノ目的　抵當權ノ抹消
一　抹消スベキ登錄
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權

添附書類
一　登錄原因ヲ證スル書面　一通
（債務免除證書）
（登錄名義人ノ承諾書（裁判ノ謄本及判決確定證明書）（和解調書ノ謄本））　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
朝鮮總督（道知事）殿　　抵當權者　氏　　名　㊞
住　所
抵當權設定者　氏　　名　㊞

登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　第六號第一例（ロ）注意一參照
二　漁業登錄規則第一條、第五十六條乃至第五十八條、第六十三條、第六十五條乃至第六十八條、第七十一條及第八十三條參照

（二）一部抹消ノ例

抵當權一部抹消登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日抵當權拋棄（債務免除）
一　登錄ノ目的　抵當權ノ抹消
一　抹消スベキ登錄
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番抵當權

添附書類
一　登錄原因ヲ證スル書面　一通
（債務免除證書）
（登錄名義人ノ承諾書（裁判ノ謄本及判決確定證明書）（和解調書ノ謄本））　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住　所
朝鮮總督（道知事）殿　　抵當權者　氏　　名　㊞
住　所
抵當權設定者　氏　　名　㊞

登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　第一號第四例注意二、三及五並ニ第六號第一例（ロ）注意一參照
二　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第五十七條、第六十三條、第六十五條乃至第六十八條、第七十一條及第八十三條參照

第十三號　賃借權設定登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日賃貸借契約
一　登錄ノ目的　賃借權ノ設定
一　借賃　壹年（何々）何圓
一　登錄原因ニ定メアル事項
存續期間　何年
借賃支拂時期　毎年何月何日
特約　權利ノ移轉及轉貸ヲ承諾ス（賃貸人ノ承諾ヲ得ズシテ賃借人壹年間漁業ヲ爲サザルトキハ賃借權ハ消滅ス）（賃借人死亡シタルトキハ賃借權ハ消滅ス）
（二）處分ノ能力（權限）賃借權設定者ノ處分ノ能力（權限）ヲ有セズ）
一　添附書類
賃貸借契約書　一通
登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住所
貸借權設定者　氏　名　㊞
住所
貸借權者　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）殿

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　登錄原因ニ存續期間若ハ借貸ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ貸借權ノ移轉若ハ轉貸ヲ承諾セラレタルトキハ之ヲ記載シ貸貸借ヲ爲ス者ガ處分ノ能力又ハ權限ヲ有セザル者ナルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スベシ

登錄原因ニ登錄ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其ノ事項ヲ記載スベシ

二　第一號第四例注意二、三及五參照

三　漁業登錄規則第七十三條及第八十一條參照其ノ他參照條文前例ニ同ジ

第十四號　漁業權轉貸ノ登錄申請書

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日漁業權轉貸契約
一　登錄ノ目的　貸借シタル漁業權ノ轉貸
一　借貸　壹年（何々）何圓
一　登錄原因ニ定メアル事項
一　存續期間　何年
借貸支拂時期　毎年何月何日
一　添附書類
漁業權轉貸契約書　一通
登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通
（貸貸人ノ承諾書　一通）

右登錄申請ス

年　月　日

住所
轉貸人　氏　名　㊞
住所
轉借人　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）殿

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　貸借權ノ移轉ヲ承諾シタル旨ノ登錄アラザル場合ニ於テハ申請書ニ貸貸人ノ承諾書ヲ添附スベシ

二　第一號第四例注意二、三及五參照

三　漁業登錄規則第七十三條ノ規定ヲ除クノ外參照條文第十三號ニ同ジ

第十六號　貸借權變更ノ登錄申請書

貸借權變更登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日貸借權變更契約
一　登錄ノ目的　貸借權ノ變更

一　變更スベキ事項
貸借權設定ノ登錄事項中存續期間何年ヲ何年ニ變更

一　添附書類
貸借權變更契約書　一通
登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通
（登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書（裁判ノ謄本及判決確定證明書）一通）

右登錄申請ス

年　月　日

住所
貸借權設定者　氏　名　㊞
住所
貸借權者　氏　名　㊞

朝鮮總督（道知事）殿

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　第一號第四例注意二、三及五及第十一號第一例注意一參照

二　漁業登錄規則第一條、第四條、第五十六條、第五十七條、第六十三條、第六十五條乃至第六十七條、第七十一條、第七十二條及第八十三條參照

第十七號　貸借權抹消登錄申請書

貸借權抹消登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日存續期間滿了（貸貸借契約解除）
一　登錄ノ目的　貸借權ノ抹消
一　添附書類
登錄原因ヲ證スル書面（何處ヨリ何處ヲ見通シタル線以東ノ漁場）
一　登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通
（戶籍ノ抄本　一通）
（除權判決ノ謄本　一通）

右登錄申請ス

年　月　日

住所
貸借權者　氏　名　㊞
住所
貸借權設定者　氏　名　㊞
住所
轉借人　氏　名　㊞

右貸借權ノ抹消ヲ承諾ス

（貸貸借契約解除證書）一通
一　登錄原因ヲ證スル書面ハ初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本

朝鮮總督（道知事）殿

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）

一　登錄シタル權利カ或者ノ死亡ニ因リテ消滅スルコトヲ登錄シタル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ死亡ヲ證スル戶籍ノ謄本又ハ抄本其ノ他之ニ相當スル書面ヲ添附スルトキハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

二　登錄權利者カ登錄義務者ノ住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ之ト共ニ登錄抹消ノ申請ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添附シ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

三　登錄ノ抹消ニ付登錄上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ベキ裁判ノ謄本及判決確定證明書ヲ添附スベシ此ノ場合ニ於テ承諾ヲ爲シタル第三者ヲシテ申請書ニ承諾ノ旨ヲ記載シテ署名捺印セシメ承諾書ニ代フルコトヲ得

四　第一號第四例注意二、三及五參照

五　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第五十七條、第五十九條、第六十條第一項第二項、第六十三條、第六十五條乃至第六十八條、第七十一條、第七十二條及第八十三條參照

第十八號　入漁慣行保存ノ登錄申請書

入漁慣行保存登錄申請

一　入漁スベキ漁業權ノ免許ノ番號　專用漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月以降ノ入漁慣行（從來ノ入漁慣行ニ因ルモノニシテ日附不明）
一　登錄ノ目的　入漁慣行ノ保存
一　入漁スベキ水面ノ區域
專用漁業ノ漁場全部（何處ヨリ何處ヲ見通シタル線以東ノ漁場）
一　入漁スベキ漁業ノ方法（竝ニ漁船、漁具、從業者ノ數及資格ニ關スル慣行）
何々
一　入漁スベキ採捕物ノ種類　何々
一　入漁スベキ時期　何月何日ヨリ何月何日迄
一　其ノ他ノ權利義務ニ關スル慣行
何々
一　添附書類
登錄原因ヲ證スル書面初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本（朝鮮漁業令第六十六條ノ規定ニ依ル裁定書ノ謄本）一通
（登錄義務者ノ代表者ノ權限ヲ證スル漁業組合登記簿ノ謄本　一通）
登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證　一通

右登錄申請ス

年　月　日

住所
貸借權者　氏　名　㊞
住所
貸借權設定者　氏　名　㊞
住所
轉借人　氏　名　㊞

右貸借權ノ抹消ヲ承諾ス

朝鮮總督宛

住所
漁業權者　何漁業組合
組合長　氏　名　職印
理事　氏　名　職印
住所
入漁者　氏　名　㊞

（注　意）
一　朝鮮漁業令第六十六條ノ規定ニ依ル裁定ニ基ク登錄ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得
二　第一號第四例注意二、三及五參照
三　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第五十七條、第六十三條、第六十五條、第七十一條、第八十二條及第八十三條參照

第十九號

入漁慣行抹消ノ登錄申請書

（一）入漁意思ノ拋棄ニ因ル抹消ノ例

入漁慣行抹消登錄申請

一　入漁シタル漁業權ノ免許ノ番號　專用漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日入漁意思ノ拋棄
一　登錄ノ目的　入漁慣行ノ抹消
一　抹消スベキ登錄
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番入漁慣行
一　添附書類
登錄原因ヲ證スル書面初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本（入漁意思拋棄證書）一通
（登錄名義人ノ承諾書（裁判ノ謄本及判決確定證明書）（和解調書ノ謄本）一通）
右登錄申請ス
年　月　日
住所
登錄申請人　氏　名　㊞
朝鮮總督宛
一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　申請書ニ登錄名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ベキ裁判ノ謄本若ハ和解若ハ認諾ノ調書ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登錄上利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ申請ヲ爲スコトヲ得
二　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第五十八條、第六十三條、第六十五條、第七十一條及第八十三條參照

（二）入漁者ノ死亡又ハ解散ニ因ル抹消ノ例

入漁慣行抹消登錄申請

一　入漁シタル漁業權ノ免許ノ番號　專用漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日入漁者ノ死亡（解散）
一　登錄ノ目的　入漁慣行ノ抹消
一　抹消スベキ登錄
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番入漁慣行
一　添附書類
登錄原因ヲ證スル書面初メヨリ存在セザル（登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附セザルニ付申請書ノ副本　一通
戶籍ノ抄本（漁業組合登記簿ノ謄本）　一通
右登錄申請ス
年　月　日
住所
亡何某家督相續人（何漁業組合淸算人）
登錄申請人　氏　名　㊞
朝鮮總督宛
一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　登錄原因ヲ證スル書面ガ登錄官廳タル行政官廳ノ認可ノ指令書ナルトキハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ此ノ場合ニ於テハ申請書ニ之ヲ添附セザル旨ヲ記載シ且申請書ノ副本ヲ添附スベシ
二　法人ノ解散ニ因ル場合ニ於テハ其ノ解散シタル法人ノ登記簿ノ謄本ヲ添附スベシ
三　登錄名義人ノ死亡又ハ解散ニ因リ入漁慣行消滅シタル場合ニ於テ其ノ死亡ヲ證スル戶籍ノ謄本若ハ抄本其ノ他之ニ相當スル書面又ハ解散ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附シタルトキハ登錄上利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ之ガ申請ヲ爲スコトヲ得
四　漁業登錄規則第六十七條參照其ノ他參照條文前例ニ同シ

（三）入漁ノ拒絕又ハ入漁慣行ノ中斷ニ因ル抹消ノ例

入漁慣行抹消登錄申請

一　入漁シタル漁業權ノ免許ノ番號　專用漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日入漁拒絕（入漁慣行中斷）
一　登錄ノ目的　入漁慣行ノ抹消
一　抹消スベキ登錄
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番入漁慣行
一　添附書類

登錄原因ヲ證スル書面初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本（裁判ノ謄本）（和解調書）（認諾調書）（朝鮮漁業令第六十六條ノ規定ニ依ル裁定）一通
登錄權利者ノ代表者ノ權限ヲ證スル漁業組合登記簿ノ謄本　一通
（登錄義務者ノ權利ニ關スル登錄濟證一通）
右登錄申請ス
年　月　日
住所
入漁者　氏　名　㊞
住所
漁業權者　何漁業組合
組合長　氏　名　職印
理事　氏　名　職印
朝鮮總督宛
一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　入漁ノ拒絕又ハ入漁慣行ノ中斷ニ因ル入漁慣行ノ抹消登錄申請ニ付登錄義務者カ之ニ同意セザルトキハ判決、裁判上ノ和解若ハ認諾又ハ朝鮮漁業令第六十六條ノ規定ニ依ル裁定ニ因リ登錄權利者ノミニテ申請スルコトヲ得
二　第一號第四例注意二及五參照
三　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第五十七條、第六十條、第六十三條、第六十五條、第七十一條及第八十二條參照

第二十一號

漁業權移轉假登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日賣買ノ豫約
一　登錄ノ目的　漁業權移轉請求權保全ノ假登錄
一　添附書類
漁業權賣買豫約證書　一通
假登錄義務者ノ承諾書　一通
右登錄申請ス
年　月　日
住所
假登錄權利者　氏　名　㊞
朝鮮總督（道知事）宛
一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　假登錄名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ベキ裁判ノ謄本若ハ和解若ハ認諾ノ調書ノ謄本ヲ申請書ニ添附シタルトキハ登錄上利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ申請スルコトヲ得
二　第一號第四例注意三及五參照
三　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第五十九條、第六十二條、第六十三條、第六十五條乃至第六十七條、第七十一條及第八十三條參照

第二十二號

登錄名義人表示ノ變更ノ登錄申請書

朝鮮總督宛

一　登錄稅　何程

收入印紙

（注　意）
一　假登錄義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書ヲ添附シテ假登錄權利者ヨリ申請スルコトヲ得
二　第一號第四例注意三參照
三　漁業登錄規則第一條、第五十六條、第六十一條、第六十三條、第六十五條乃至第六十七條、第七十一條及第七十四條、第八十三條及第百一條參照

第二十一號

假登錄抹消ノ登錄申請書

漁業權移轉假登錄抹消登錄申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附　何年何月何日賣買豫約ノ解除
一　登錄ノ目的　漁業權移轉請求權保全ノ假登錄ノ抹消
一　抹消スベキ登錄
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登錄ニ係ル順位何番漁業權移轉請求權保全ノ假登錄
一　添附書類
登錄原因ヲ證スル書面初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本（漁業權賣買豫約解約證書）一通
（假登錄名義人ノ承諾書（裁判ノ謄本及判決確定證明書）（和解調書ノ謄本）一通）
右登錄申請ス
年　月　日
住所
登錄申請人　氏　名　㊞
朝鮮總督（道知事）宛
一　登錄稅　何程

一　登録名義人表示變更登録申請
一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登録原因及其ノ日附　何年何月何日轉居
一　登録ノ目的　登録名義人表示ノ變更
一　變更シタル事項
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登録ニ係ル順位何番漁業權取得ノ登録事項中漁業權者何某ノ住所ヲ何道何郡何面何里何番地ニ變更
一　添附書類
登録原因ヲ證スル書面初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本　一通
府尹（面長）ノ證明書（戸籍ノ抄本）　一通
右登録申請ス
年　月　日
住所
登録申請人　氏　名㊞
朝鮮總督（道知事）殿
一　登録稅　何程
收入印紙

（注　意）
一　登録名義人ノ表示ノ更正ハ登録名義人ヨリ之カ申請ヲ爲スベシ
二　錯誤又ハ遺漏ニ依ル登録ニ關スル登録原因ヲ證スル書面アルトキハ申請書ニ之ヲ添附スベシ
三　第一號第四例注意二及三參照
四　登録ノ錯誤又ハ遺漏ガ登録官廳ノ過誤ニ出デタルトキハ其ノ更正ノ登録ニ付テハ登録稅ヲ要セズ
五　漁業登録規則第一條、第四條、第五十六條、第五十八條、第六十三條、第六十五條乃至第六十七條、第七十一條、第七十二條及第八十三條竝ニ朝鮮登録稅令第七條ノ二參照

第二十四號　登録回復ノ登録申請書
（一）　承諾ニ因ル回復登録申請ノ例

（住所
登録名義人　氏　名㊞）

朝鮮總督（道知事）殿
一　登録稅　何程
收入印紙

（注　意）
一　漁業登録規則第一條、第五條、第五十六條、第五十八條、第六十三條、第六十五條、第六十七條、第七十一條及第八十三條參照

第二十三號　登録ノ錯誤（遺漏）ニ因ル更正ノ登録申請書

登録更正登録申請
一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登録原因及其ノ日附　何年何月何日登録ノ錯誤（遺漏）
一　登録ノ目的　登録ノ更正
一　更正スベキ事項
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登録ニ係ル順位何番抵當權設定ノ登録事項中債權額何圓ヲ何圓ニ更正（利息年何割ヲ遺漏シタルニ付更正）（漁業權設定ノ登録事項中漁業權者ノ氏名何某ヲ何某ニ更正）
一　添附書類
登録原因ヲ證スル書面初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本　一通
抵當權設定契約證書（戸籍ノ抄本）　一通
（登録義務者ノ權利ニ關スル登録濟證　一通）
右登録申請ス
年　月　日
住所
抵當權設定者　氏　名㊞
住所
抵當權者　氏　名㊞

第二十四號　登録回復ノ登録申請書
（二）　抵當權設定登録回復（一部回復）登録申請

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登録原因及其ノ日附　何年何月何日登録ノ錯誤（遺漏）
一　登録ノ目的　登録ノ更正
一　更正スベキ事項
何年何月何日受付第何號ヲ以テ登録ニ係ル順位何番抵當權設定ノ登録事項中債權額何圓ヲ何圓ニ更正（利息年何割ヲ遺漏シタルニ付更正）（漁業權設定ノ登録事項中漁業權者ノ氏名何某ヲ何某ニ更正）
一　添附書類
登録原因ヲ證スル書面初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本　一通
抵當權設定契約證書（戸籍ノ抄本）　一通
（登録義務者ノ權利ニ關スル登録濟證　一通）
右登録申請ス
年　月　日
住所
抵當權設定者　氏　名㊞
住所
抵當權者　氏　名㊞

（注　意）
一　登録ノ目的　漁業權設定登録ノ回復
一　回復スベキ登録
何年何月何日受付第何號ヲ以テ申請ニ係リ何年何月何日登録シタル表示壹番ノ漁業權表示ノ登録及順位壹番ノ漁業權設定ノ登録
一　添附書類
登録原因ヲ證スル書面初メヨリ存在セザルニ付申請書ノ副本　一通
原登録ノ登録濟證　一通
右登録申請ス
年　月　日
住所
登録申請人　氏　名㊞
朝鮮總督（道知事）殿

（注　意）
一　債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登録ヲ申請スル場合又ハ滅失、紛失其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ登録濟證ヲ添附スルコト能ハザル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面及漁業權原簿ノ謄本・抄本其ノ他證憑ト爲ルベキ書面ヲ申請書ニ添附スベシ
二　漁業登録規則第一條、第五十六條、第六十三條、第六十七條、第七十一條、第八十三條、第百十條乃至第百十三條、第百二十一條及第百二十三條參照

第二十五號　滯納處分ニ因ル漁業權差押ノ登録囑託ノ例
（一）　漁業登録囑託

一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登録原因及其ノ日附　何年何月何日國稅滯納處分ノ爲ノ差押
一　登録ノ目的　漁業權ノ處分ノ制限
一　漁業權者ノ氏名及住所
何道何郡何面何里何番地　何某
一　添附書類
差押調書　一通
右登録囑託ス
年　月　日
朝鮮總督（道知事）殿
道知事　名　職印

（注　意）
一　漁業登録規則第一條、第六十三條、第七十一條、第九十九條及第百條參照

（二）　公賣處分ニ因ル漁業權移轉ノ登録囑託ノ例
漁業登録囑託
一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登録原因及其ノ日附　何年何月何日公賣處分
一　登録ノ目的　漁業權ノ移轉

一　登錄權利者ノ氏名及住所
何道何郡何面何里何番地　何某
一　登錄義務者ノ氏名及住所
何道何郡何面何里何番地　何某
一　添附書類
公賣決定通知書　一通
公賣代金領收書　一通
右登錄囑託ス
年　月　日
道知事名　職印
朝鮮總督（道知事ノ）宛
登錄稅　何程
收入印紙

（注意）
一　參照條文前例ニ同ジ

（三）滯納處分ニ因ル差押ノ解除登錄囑託ノ例

漁業登錄囑託
一　免許ノ番號　何漁業免許第何號
一　登錄原因及其ノ日附
何年何月何日國稅徵收令施行規則第二十六條第何號ニ依ル差押解除
一　登錄ノ目的　漁業權ノ處分ノ制限ノ抹消
一　漁業權者ノ氏名及住所
何道何郡何面何里何番地　何某
一　添附書類
差押解除調書　一通
右登錄囑託ス
年　月　日
朝鮮總督（道知事）宛
道知事名　職印

（注意）
一　參照條文前例ニ同ジ

第二十六號　漁業權原簿ノ謄本ノ交付請求書

漁業權原籍謄本交付請求
何漁業免許第何號漁業權
右漁業權原簿ノ謄本何通交付相成リタク手數料何圓添附請求ス
年　月　日
住所
請求者　氏名　㊞

第二十七號　漁業權原簿ノ抄本ノ交付請求書

漁業權原簿抄本交付請求
何漁業權免許第何號漁業權
一　請求ノ範圍　漁業權登錄簿（漁業權共有者名簿）（漁場圖綴込帳）（入漁登錄簿）ノ謄本（抄本）
右漁業權原簿ノ抄本何通交付相成リタク手數料何圓添附請求ス
年　月　日
住所
請求者　氏名　㊞
朝鮮總督（道知事）宛
收入印紙　收入印紙　何程貼附

（注意）
一　漁業登錄規則第十六條參照
一　參照條文前例ニ同ジ

●朝鮮總督府水產試驗場分析及鑑定規則

昭和七年十一月
總令第百十五號

朝鮮總督府水產試驗場分析及鑑定規則左ノ通定ム

朝鮮總督府水產試驗場分析及鑑定規則

第一條　朝鮮總督府水產試驗場（以下單ニ水產試驗場ト稱ス）ニ水產物及水產用物料ノ分析又ハ鑑定ノ依賴ヲ爲サントスル者ハ第一號樣式ノ依賴書ヲ差出スベシ

第二條　前條ノ依賴アリタルトキハ朝鮮總督府水產試驗場長（以下單ニ水產試驗場長ト稱ス）ハ分析又ハ鑑定ノ爲必要ナル分量ヲ定メ現品ヲ差出サシム

第三條　第一條ノ規定ニ依リ分析又ハ鑑定ノ依賴ヲ爲サントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムベシ

一　定性分析
每一件一成分一圓、一成分ヲ增ス每ニ五十錢ヲ加フ
二　定量分析
每一件一成分二圓、一成分ヲ增ス每ニ一圓ヲ加フ
三　鑑定
其ノ都度水產試驗場長之ヲ定ム

第四條　水產試驗場長ニ於テ分析若ハ鑑定ノ必要ナシト認ムルトキ又ハ分析若ハ鑑定ヲ爲スコト能ハズト認ムルトキハ依賴ニ應ゼザルコトヲ得

第五條　分析又ハ鑑定ノ結果ニ付テハ其ノ成績書ヲ依賴者ニ交付ス

第六條　分析又ハ鑑定ノ依賴ヲ爲ス者前條ノ成績書ノ複本ノ交付ヲ請求セントスルトキハ第二號樣式ノ願書ヲ差出スベシ
前項ノ請求ヲ爲ストキハ複本一件每ニ二十錢ノ手數料、外國語ニ依ル複本ノ請求ヲ爲ストキハ一件每ニ五十錢以上五圓以下ノ範圍內ニ於テ水產試驗場長ノ定ムル手數料ヲ納ムベシ

第七條　手數料ハ收入印紙ヲ依賴書又ハ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムベシ
收入印紙ノ消印ハ水產試驗場ニ於テ之ヲ押捺ス

第八條　分析又ハ鑑定ノ爲差出シタル現品ハ之ヲ返還セズ但シ差出ノ際豫メ申出アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項但書ノ場合ニ於テ現品還付ニ要スル費用ハ依賴者ノ負擔トス

第九條　本令ノ手數料ハ官廳ノ請求ニ係ルモノニ付テハ之ヲ徵收セズ公共團體其ノ他督利ヲ目的トセザル法人又ハ組合ノ依賴ニ係ルモノニ付テハ之ヲ半減ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

分析（鑑定）依賴書

收入印紙　貼附シタル收入印紙ノ額

一　供試品名
二　產地又ハ製造地名及製造者名
三　製造方法（製品ニ限ル）
四　定性又ハ定量スベキ物質名（鑑定ノ項目）
右分析（鑑定）及依賴候也
年　月　日
住所又ハ營業所
依賴者　氏名又ハ名稱　㊞
朝鮮總督府水產試驗場長　宛

第二號樣式

分析（鑑定）成績書複本下付願

收入印紙　貼附シタル收入印紙ノ額

何年何月何日第何號
品名　何種
右成績書複本（英文）何通下付相成度及依賴候也
年　月　日
住所又ハ營業所
依賴者　氏名又ハ名稱　㊞
朝鮮總督府水產試驗場長　宛

第二款　水產製品及水產物

●水產製品檢查規則

大正七年五月
總令第五十六號

改正　大正九年六月第八五號、十二年九月第一〇七號、十三年一月第六一號、十三年一二月第八四號、昭和二年四月第三八號、四年五月第四四號、五年六月第七一號、五年一〇月第九二號、六年六月第七一號、六年七月第八四號、六年一〇月第一二八號、七年一月第一五號、八年六月第四三號、八年八月第八〇號

水產製品檢查規則左ノ通定ム

水產製品檢查規則

第一條　本令ニ於テ水產製品ト稱スルハ左ノ食用乾製品、食用罐詰品、肥料、海藻及魚油ヲ謂フ

食用乾製品
海參、鱶鰭、乾蝦、乾玉筋魚、鰯、乾鰑、乾鮑、乾牡蠣、淡菜、乾貽貝、乾竹蟶、乾北寄貝、乾鳥貝、乾貝柱、乾海苔（在來式製品ヲ除ク）

食用罐詰品
鮑罐詰、鯖罐詰、鰛罐詰、鰕罐詰、蟹罐詰、貝柱罐詰、北寄貝罐詰、鰻罐詰、螺螄罐詰、鰯トマト漬罐詰

肥料
鰯搾粕、鰯粉末肥料、鍊搾粕、太刀魚搾粕、鱈荒粕、干鱚、干鰯、干鍊、鍊卵其ノ他ノ水產肥料

海藻
石花菜、海蘿、銀杏草、櫻草、小凝草、礒草、於期菜

魚油
鰯油

第二條　幣利ノ目的ヲ以テ水產製品ヲ輸出又ハ移出セントスル者ハ本令ニ依リ稅關ノ檢查ヲ受クベシ
前項ノ規定ニ依リ檢查ヲ受クベキ場合ニ於テ鰯油、鰯搾粕、鰯粉末肥料、蟹罐詰又ハ鰯トマト漬罐詰ニ付テハ其ノ製造ヲ爲ス者ノ組織スル水產組合（以下單ニ水產組合ト稱ス）若ハ漁業組合聯合會ニ販賣ヲ委託シタルモノ又ハ水產組合若ハ漁業組合聯合會ヨリ買受ケタルモノニ限リ檢查ヲ請求スルコトヲ得

第三條　前條ノ檢查ヲ行フ檢查所ノ名稱及位置ハ別ニ之ヲ告示ス
特別ノ事由アル場合ニ於テ檢查ヲ受ケントスル者ノ請求アルトキハ現品所在地ニ就キ檢查ヲ行フコトヲ得

第四條　檢查ヲ受ケントスル者ハ水產製品ノ品名、箇數、數量、價格、生產地、仕向地及製造人ノ氏名、住所（法人ニ在リテハ名稱、事務所ノ所在地及代表者ノ氏名）竝ニ檢查ノ合格シタルモノニ在リテハ其ノ旨ヲ記載シタル第一號樣式ノ檢查請求書ヲ檢查所ニ差出スベシ
輸出セントスル水產製品ノ檢查ニ付テハ輸出申告書ニ前項ノ事項及檢查ヲ請求スル旨ヲ記載シ檢查請求書ニ代フルコトヲ得
檢查ヲ受ケントスル者代理人ナルトキハ檢查請求書ニ其ノ權限ヲ證スル書類ヲ添附スベシ

第五條　檢查ヲ受ケントスル者ハ左ノ檢查手數料ヲ納ムベシ

一　鰯油、石油罐入　一箇ニ付三錢
石油罐二箇同　六錢
箱入ドラム罐又ハ洋樽入　同　三十錢

皮附蝦（特別小箱入）、鯖罐詰及肥料　一箇ニ付五錢
二　（鯖搾粕ヲ除ク）、粉末肥料ヲ除ク）　一箇ニ付　二錢
乾海苔ニシテ道ノ檢査ニ合格シタルモノニ
第一項但書ノ規定ニ該當スルモノヲ除ク）、鯖トマト漬罐詰（鯖搾粕ヲ除ク）及鯖粉末肥料　一箇ニ付　十錢
三　前各號ニ該當セザルモノ　一箇ニ付　十錢
四　包裝ヲ爲サザルモノ
一　鯖油　一噸又ハ其ノ端數ニ付　一圓八十錢
包裝ヲ爲サザル鯖油ニシテ合格品ノミヲ混合シタルモノナルコトヲ稅關ニ於テ認定シタルモノノ檢査手數料ハ一噸又ハ其ノ端數ニ付十錢トス
檢査手數料ハ收入印紙ヲ檢査請求書又ハ輸出申告書ニ貼附シ納ムベシ
第五條ノ二　前條第二項ノ認定ヲ受ケントスル者ハ第三號樣式ノ認定請求書ヲ檢査所ニ差出シ混合ニ付稅關官吏ノ認定ヲ求ムベシ
第六條　檢査ハ品質、結束、重量、製纏、容量、包裝竝第八條及第九條ノ規定ニ依リ表示スベキ事項ニ付之ヲ行ヒ合格不合格ヲ定ム
第七條　檢査ノ標準ハ品質、結束、重量及製纏ニ付テハ第一號表ニ、容量及包裝ニ付テハ第二號表ニ依ル但シ容量及包裝ニ付テハ特別ノ事由アル場合ニ限リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ右ノ標準ニ依ラザルコトヲ得
前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ稅關ヲ經由シテ之ヲ申請スベシ
第七條ノ二　包裝ヲ爲サザル魚油ニ付檢査ヲ受ケントスルトキハ一定ノ貯油槽ニ之ヲ收容スベシ
前項ノ貯油槽ノ位置及設備ハ稅關ニ之ヲ届出ヅベシ
第八條　檢查ヲ受ケントスル食用罐詰品ノ罐ニハ朝鮮水產物罐詰製造營業取締規則ニ依ル營業許可ノ番號ヲ剔印ニ依リ表示シ罐又ハ罐ノ票紙ニハ內容物ノ品名及正味量ヲ表示スベシ
第九條　檢查ヲ受ケントスル水產製品（魚油ヲ除ク）ノ包裝ニハ其ノ品名及原產地名ヲ表示スベシ
前項ノ外乾海苔ニ在リテハ一箱ノ枚數及例ノ種類ヲ、食用罐詰品ニ在リテハ一箱ノ罐數及一罐ノ內容物ノ正味量ヲ、蟹肩肉罐詰ニ在リテハ肩肉タルコトヲ表示スベキ文字ヲ表示スベシ
檢查ヲ受ケントスル魚油ニシテ石油罐入ノモノニ在リテハ其ノ口金ニ品名、原產地名及製造人ノ氏名（法人ニ在リテハ名稱以下同ジ）又ハ一定ノ記號ヲ表示シ、其ノ他ノ包裝ヲ爲シタルモノニ在リテハ一定ノ紙票ニ品名、原產地名及製造人ノ氏名又ハ一定ノ記號ヲ表示シ之ヲ其ノ包裝ニ附スベシ
第九條ノ二　第八條竝ニ前條第一項及第二項ノ表示ハ特別ノ事由アル場合ニ限リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ之ヲ省略スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ稅關ヲ經由シテ之ヲ申請スベシ
第九條ノ三　他人ノ製造シタル水產製品ニ自己ヲ製造人トシテ表示スル者ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ製造人ト看做ス
第十條　第七條ニ規定スル標準ニ適合セズ又ハ第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反スルモノハ不合格トス
不合格品ハ輸出又ハ移出スルコトヲ得ズ
蟹罐詰ニシテ崩肉及毛蟹ノ三等合格品ハ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ但シ支那ニ輸出スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第十一條　合格品ニハ等級ヲ附ス但シ海參、乾鮑及乾玉筋魚ニ在リテハ其ノ形態ニ依リ大中小ニ區別シテ等級ヲ附ス
等級ノ標準ハ第三號表ニ依ル
乾海苔ニシテ道ノ檢查ニ合格シタルモノニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラズ但シ磨滅、汚損其ノ他ノ事由ニ因リ道ノ檢查ニ於テ附シタル檢查證印、等級證印、封印若ハ大小別ノ表示ノ識別シ難キニ至リタルモノ又ハ道ノ檢查（再檢查ヲ除ク）後火入乾海苔ニ在リテハ六月、其ノ他ノ乾海苔ニ在リテハ二箇月ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
第十二條　檢查ハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ行フ但シ第三條第二項ノ規定ニ依ル檢查ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第十三條　檢查ハ包裝及第九條ノ規定ニ依リ表示スベキ事項ニ付テハ包裝一箇毎ニ之ヲ行フ
前項以外ノ事項ニ付テハ左ノ方法ニ依ル
一　食用乾製品、肥料及海藻ニ在リテハ包裝三十箇迄毎ニ三箇以上、魚油ニ在リテハ包裝五十箇迄毎ニ五箇以上ノ割合ヲ以テ其ノ內容物ニ付抽出檢查ヲ行フ
二　食用罐詰品ニ在リテハ包裝三十箇迄毎ニ三箇以上ノ割合ヲ以テ抽出シ其ノ包裝ヲ開キ一罐毎ニ付檢查ヲ行ヒ更ニ包裝三十箇迄毎ニ一罐以上五罐以下ノ割合ヲ以テ其ノ抽出品ニ付罐ヲ開キ一罐毎ニ其ノ內容物ニ付檢查ヲ行フ
第十四條　前條第二項ノ場合ニ於テ抽出品ノ全部ガ檢查ノ標準ニ適合シ且第八條ノ規定ニ違反セザルトキハ檢查請求品ノ全部ヲ檢查ノ標準ニ適合シ且第八條ノ規定ニ違反セザルモノト看做シ抽出品中檢查ノ標準ニ適合セザルモノ又ハ第八條ノ規定ニ違反スルモノアルトキハ檢查請求品ノ全部ヲ檢查ノ標準ニ適合セザルモノ又ハ第八條ノ規定ニ違反スルモノト看做ス
合格品ニ附スベキ等級ハ前條第二項ノ規定ニ依リ檢查ヲ行ヒタル抽出品中ノ最低位ノ等級ニ依ル
第十四條ノ二　乾海苔ニシテ道ノ檢查ニ合格シタルモノハ第十三條第二項ニ規定スル事項ニ付テハ檢查ノ標準ニ適合シタルモノニ付テハ檢查ノ際之ヲ適用セズ但シ磨滅、汚損其ノ他ノ事由ニ因リ道ノ檢查ニ於テ附シタル檢查證印、等級證印、封印若ハ大小別ノ表示ノ識別シ難キニ至リタルモノ又ハ道ノ檢查（再檢查ヲ除ク）後火入乾海苔ニ在リテハ六月、其ノ他ノ乾海苔ニ在リテハ二箇月ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
第十五條　稅關ニ於テ合格品ノ內容物ニ付異狀アリト認ムルトキハ再檢查ヲ行フコトヲ得
第十六條　合格品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ更ニ檢查ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ輸出又ハ移出スルコトヲ得ズ
一　包裝ニ異狀ヲ呈シタルモノ
二　磨滅、汚損其ノ他ノ事由ニ因リ檢查證印、等級證印、大小別證印、封印又ハ檢查票ノ識別シ難キニ至リタルモノ
三　檢查（再檢查ヲ除ク）後食用乾製品及魚油ニ在リテハ二月、火入乾海苔、食用罐詰品、肥料及海藻ニ在リテハ六月ヲ經過シタルモノ
四　道ノ檢查ニ合格シタル乾海苔ニシテ其ノ檢查後火入品ニ在リテハ六月、其ノ他（第十四條ノ二第一項但書ノ規定ニ該當スルモノニシテ稅關ノ檢查ニ合格シタルモノ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル檢查ニ合格シタルモノヲ除ク）
第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ稅關ハ檢查ヲ取消スコトヲ得
一　第十五條ノ規定ニ依リ再檢查ヲ受ケシテ
二　第十六條ノ規定ニ依リ檢查ヲ受ケシテ
三　不正ノ手段ニ依リ檢查ニ合格シタルトキ又ハ合格品ニ不正ノ手段ヲ施シタルトキ
第十八條　檢查ヲ行ヒタル水產製品（魚油及鯖トマト漬罐詰ノ合格品ヲ除ク）ニハ其ノ包裝ニ檢查證印ヲ押捺シ且合格品ニハ等級證印及大小別證印ヲ押捺シテ封印ヲ施ス但シ道ノ檢查ニ合格シタル乾海苔ニ在リテハ第十一條第三項但書ノ規定ニ依リ等級ヲ附スルモノヲ除クノ外等級證印ハ之ヲ押捺セズ
檢查ニ合格シタル魚油ニシテ包裝ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ包裝ニ檢查票ヲ貼付シ貯油槽及容器ニ檢查票ヲ貼付シ封印ヲ施ス
鯖トマト漬罐詰ニシテ檢查ニ合格シタルモノニ付テハ合格證ヲ交付ス
第十五條ノ規定ニ依リ再檢查ヲ行ヒ檢查ノ標準ニ適合シタルモノニ付テハ鯖トマト漬罐詰ヲ除クノ外其ノ包裝（包裝ヲ爲サザル魚油ニ在リテハ貯油槽及容器）ニ再檢查ノ封印ヲ施ス
第十六條ノ規定ニ依リ更ニ檢查ヲ行ヒタルトキハ魚油ニ在リテハ前檢查ニ基ク檢查票ヲ破棄シ鯖トマト漬罐詰ニ在リテハ前檢查ニ基ク合格證ヲ破棄シ又ハ相當訂正シ其ノ他ノ水產製品ニ在リテハ前檢查ニ基ク證印ニ消印ヲ押捺ス
前項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ檢查ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス
前各項ノ證印、消印、封印、檢查票及合格證ハ第二號樣式ニ依ル
第十九條　前條ノ規定ニ依ル證印ヲ押捺シタル包裝材料ハ其ノ印影ヲ抹消スルニ非ザレバ更ニ水產製品ノ輸出又ハ移出ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ
第二十條　檢查ヲ受ケントスル者ハ檢查ニ立會ヒ且檢查請求品ノ取扱ニ付テハ檢查官吏ノ指揮ニ從フベシ
前項ノ規定ハ第十五條ノ規定ニ依ル再檢查ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二十一條　檢查ノ決定ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ
第二十二條　輸出又ハ移出セントスル水產品ノ包裝ニハ檢查證印、等級證印、大小別證印、消印又ハ檢查票ニ類似スル商標、記號其ノ他ノ標記ヲ附スルコトヲ得ズ
第二十二條ノ二　鯖トマト漬罐詰ヲ輸出又ハ移出シタルトキハ遲滯ナク船荷證券、貨物引換證其ノ他出荷ヲ證明シ得ベキ書面ヲ添附シテ合格證ヲ稅關ニ提出シ之ニ出荷證明ヲ受クベシ
第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス
一　第二條ノ規定ニ依ル檢查ヲ受ケズシテ水產製品ヲ輸出又ハ移出シタル者
二　第十條第二項、第三項又ハ第十六條ノ規定ニ違反シタル者
三　不正ノ手段ニ依リ檢查又ハ第五條第二項ノ認定ヲ受ケタル者
四　檢查濟ノ水產製品又ハ其ノ容器、包裝、檢查證印、等級證印、大小別證印、封印、檢查票若ハ合格證ニ不正ノ手段ヲ施シタル者
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二十四條　再檢查ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者又ハ第十九條、第二十條若ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
附　則
本令ハ大正七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
海藻檢查規則ハ之ヲ廢止ス
本令施行前海藻檢查規則ニ依リ檢查ヲ受ケタルモノニシテ本令施行ノ日以後ニ於テ輸出セムトスルモノハ本令ニ依ル檢查ヲ受ケタルモノト看做ス
本令ハ大正九年六月總令第八十五號）
本令ハ大正九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
附　則（大正十三年十月總令第六十一號）
本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
當分ノ內海參、鱶鰭、乾鮑、淡菜、乾蠣、乾竹蠣、乾烏貝、貝柱、鰾搾粕、鰾搾粕、干鱈、干鰊、其ノ他ノ水產肥料、銀杏草、櫻草、小凝菜、毬草及於期菜ニ付テハ本令第十一條ヲ適用セズ
附　則（昭和二年四月總令第三十八號）
本令ハ昭和二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ當分ノ內滿洲ニ輸出スル乾蝦ニ限リ之ヲ適用セズ
附　則（大正九年六月總令第八十五號）
本令ハ昭和二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ當分ノ內海參、鱶鰭、乾鮑、乾鳥貝、貝柱、水產肥料（鰾搾粕、鰊搾粕、太刀魚搾粕、鰐荒粕、干鰊、干鱈、鰊卵ヲ除ク）、銀杏草、櫻草、小凝草、毬草及於期菜ニ之ヲ適用セズ
從前ノ規定ニ依ル合格品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
從前ノ規定ニ依ル封印ハ當分ノ內仍之ヲ使用スルコトヲ得
附　則（昭和四年五月總令第四十四號）
本令施行ノ期日ハ別ニ之ヲ定ム（昭和四年六月總令第五十六號ヲ以テ昭和四年七月一日ヨリ施行）
第一號表第二號中鮑ノ罐詰ニ關スル重量標準及蟹ノ罐詰ニ關スル製纏標準ハ昭和四年十二月三十一日迄ニ檢查ヲ受ケタルモノニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
附　則（昭和六年十月總令第百二十八號）
本令ハ昭和六年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス
附　則（昭和七年一月總令第十五號）
本令ハ昭和七年二月十日ヨリ之ヲ施行ス
第十一條第一項ノ規定ハ當分ノ內鯖トマト漬罐詰ニハ之ヲ適用セズ
本令施行前檢查ヲ受ケタルモノノ檢查有效期間ニ付テハ第十六條ノ改正規定ニ依ル
附　則（昭和六年七月總令第八十四號）
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第二條第二項及第四條第四項ノ規定ハ昭和六年三月三十一日以前ニ製造シタル鰮油、鰯搾粕又ハ鰯粉末肥料ニシテ水產組合ノ證明アルモノニ付テハ之ヲ適用セズ
附　則（昭和六年十月總令第百二十八號）
本令ハ昭和六年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス
附　則（昭和七年一月總令第十五號）
本令ハ昭和七年二月十日ヨリ之ヲ施行ス
第十一條第一項ノ規定ハ當分ノ內鯖トマト漬罐詰ニハ之ヲ適用セズ
本令施行前檢查ヲ受ケタルモノノ檢查有效期間ニ付テハ第十六條ノ改正規定ニ依ル
附　則（昭和六年十月總令第百二十八號）
本令ハ昭和六年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス
附　則（昭和七年一月總令第十五號）
本令ハ昭和七年二月十日ヨリ之ヲ施行ス
第十一條第一項ノ規定ハ當分ノ內鯖トマト漬罐詰ニハ之ヲ適用セズ
本令施行前檢查ヲ受ケタルモノノ檢查有效期間ニ付テハ第十六條ノ改正規定ニ依ル
附　則（昭和七年七月總令第百二十八號）
本令ハ昭和七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
第一號表第二號中鮑ノ罐詰ニ關スル重量標準及蟹ノ罐詰ニ關スル製纏標準ハ昭和四年十二月三十一日迄ニ檢查ヲ受ケタルモノニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
附　則（昭和七年十月總令第百二十八號）
本令ハ昭和七年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス
附　則（昭和八年一月總令第一號）
本令ハ昭和八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第一號表
一　食用乾製品

品名	質	結束	重量

第二　不正ノ手段ニ依リ檢查ニ合格シタルトキ又ハ合格品ニ不正ノ手段ヲ施シタルトキ
第十八條　檢查ヲ行ヒタル水產製品（魚油及鯖トマト漬罐詰ノ合格品ヲ除ク）ニハ其ノ包裝ニ檢查證印ヲ押捺シ且合格品ニハ等級證印及大小別證印ヲ押捺シテ封印ヲ施ス但シ道ノ檢查ニ合格シタル乾海苔ニ在リテハ第十一條第三項但書ノ規定ニ依リ等級ヲ附スルモノヲ除クノ外等級證印ハ之ヲ押捺セズ
檢查ニ合格シタル魚油ニシテ包裝ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ包裝ニ檢查票ヲ貼付シ貯油槽及容器ニ檢查票ヲ貼付シ封印ヲ施ス
鯖トマト漬罐詰ニシテ檢查ニ合格シタルモノニ付テハ合格證ヲ交付ス
第十五條ノ規定ニ依リ再檢查ヲ行ヒ檢查ノ標準ニ適合シタルモノニ付テハ鯖トマト漬罐詰ヲ除クノ外其ノ包裝（包裝ヲ爲サザル魚油ニ在リテハ貯油槽及容器）ニ再檢查ノ封印ヲ施ス
第十六條ノ規定ニ依リ更ニ檢查ヲ行ヒタルトキハ魚油ニ在リテハ前檢查ニ基ク檢查票ヲ破棄シ鯖トマト漬罐詰ニ在リテハ前檢查ニ基ク合格證ヲ破棄シ又ハ相當訂正シ其ノ他ノ水產製品ニ在リテハ前檢查ニ基ク證印ニ消印ヲ押捺ス
前項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ檢查ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス
前各項ノ證印、消印、封印、檢查票及合格證ハ第二號樣式ニ依ル
第十九條　前條ノ規定ニ依ル證印ヲ押捺シタル包裝材料ハ其ノ印影ヲ抹消スルニ非ザレバ更ニ水產製品ノ輸出又ハ移出ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ
第二十條　檢查ヲ受ケントスル者ハ檢查ニ立會ヒ且檢查請求品ノ取扱ニ付テハ檢查官吏ノ指揮ニ從フベシ
前項ノ規定ハ第十五條ノ規定ニ依ル再檢查ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二十一條　檢查ノ決定ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ
第二十二條　輸出又ハ移出セントスル水產品ノ包裝ニハ檢查證印、等級證印、大小別證印、消印又ハ檢查票ニ類似スル商標、記號其ノ他ノ標記ヲ附スルコトヲ得ズ
第二十二條ノ二　鯖トマト漬罐詰ヲ輸出又ハ移出シタルトキハ遲滯ナク船荷證券、貨物引換證其ノ他出荷ヲ證明シ得ベキ書面ヲ添附シテ合格證ヲ稅關ニ提出シ之ニ出荷證明ヲ受クベシ
第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス
一　第二條ノ規定ニ依ル檢查ヲ受ケズシテ水產製品ヲ輸出又ハ移出シタル者
二　第十條第二項、第三項又ハ第十六條ノ規定ニ違反シタル者
三　不正ノ手段ニ依リ檢查又ハ第五條第二項ノ認定ヲ受ケタル者
四　檢查濟ノ水產製品又ハ其ノ容器、包裝、檢查證印、等級證印、大小別證印、封印、檢查票若ハ合格證ニ不正ノ手段ヲ施シタル者
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二十四條　再檢查ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者又ハ第十九條、第二十條若ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
附　則
本令ハ大正七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
海藻檢查規則ハ之ヲ廢止ス
本令施行前海藻檢查規則ニ依リ檢查ヲ受ケタルモノニシテ本令施行ノ日以後ニ於テ輸出セムトスルモノハ本令ニ依ル檢查ヲ受ケタルモノト看做ス
本令ハ大正九年六月總令第八十五號）
本令ハ大正九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
附　則（大正十三年十月總令第六十一號）
本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
當分ノ內海參、鱶鰭、乾鮑、淡菜、乾蠣、乾竹蠣、乾烏貝、貝柱、鰾搾粕、鰾搾粕、干鱈、干鰊、其ノ他ノ水產肥料、銀杏草、櫻草、小凝菜、毬草及於期菜ニ付テハ本令第十一條ヲ適用セズ
附　則（昭和二年四月總令第三十八號）
本令ハ昭和二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ當分ノ內滿洲ニ輸出スル乾蝦ニ限リ之ヲ適用セズ
附　則（大正九年六月總令第八十五號）
本令ハ昭和二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ當分ノ內海參、鱶鰭、乾鮑、乾鳥貝、貝柱、水產肥料（鰾搾粕、鰊搾粕、太刀魚搾粕、鰐荒粕、干鰊、干鱈、鰊卵ヲ除ク）、銀杏草、櫻草、小凝草、毬草及於期菜ニ之ヲ適用セズ
從前ノ規定ニ依ル合格品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
從前ノ規定ニ依ル封印ハ當分ノ內仍之ヲ使用スルコトヲ得
附　則（昭和四年五月總令第四十四號）
本令施行ノ期日ハ別ニ之ヲ定ム（昭和四年六月總令第五十六號ヲ以テ昭和四年七月一日ヨリ施行）
第一號表第二號中鮑ノ罐詰ニ關スル重量標準及蟹ノ罐詰ニ關スル製纏標準ハ昭和四年十二月三十一日迄ニ檢查ヲ受ケタルモノニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
附　則（昭和六年十月總令第百二十八號）
本令ハ昭和六年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス
附　則（昭和七年一月總令第十五號）
本令ハ昭和七年二月十日ヨリ之ヲ施行ス
第十一條第一項ノ規定ハ當分ノ內鯖トマト漬罐詰ニハ之ヲ適用セズ
本令施行前檢查ヲ受ケタルモノノ檢查有效期間ニ付テハ第十六條ノ改正規定ニ依ル
附　則（昭和六年七月總令第八十四號）
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第二條第二項及第四條第四項ノ規定ハ昭和六年三月三十一日以前ニ製造シタル鰮油、鰯搾粕又ハ鰯粉末肥料ニシテ水產組合ノ證明アルモノニ付テハ之ヲ適用セズ
附　則（昭和六年十月總令第百二十八號）
本令ハ昭和六年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス
附　則（昭和七年一月總令第十五號）
本令ハ昭和七年二月十日ヨリ之ヲ施行ス
第十一條第一項ノ規定ハ當分ノ內鯖トマト漬罐詰ニハ之ヲ適用セズ
本令施行前檢查ヲ受ケタルモノノ檢查有效期間ニ付テハ第十六條ノ改正規定ニ依ル
附　則（昭和七年七月總令第百二十八號）
本令ハ昭和七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
第一號表第二號中鮑ノ罐詰ニ關スル重量標準及蟹ノ罐詰ニ關スル製纏標準ハ昭和四年十二月三十一日迄ニ檢查ヲ受ケタルモノニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
附　則（昭和七年十月總令第百二十八號）
本令ハ昭和七年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス
附　則（昭和八年一月總令第一號）
本令ハ昭和八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第一號表
一　食用乾製品

品名	質	結束	重量

品質	原料適當ニシテ固有ノ色澤ヲ有シ形態(乾海苔ニ在リテハ大判ハ長七寸五分幅六寸五分小判ハ長六寸八分幅六寸)整正ニシテ大小ニ著シキ不同ナク且煮熟(鱶鰭、乾鱈、鯣、素乾蝦及鯡、乾海苔ヲ除ク)鹽分(鯣、乾海苔ヲ除ク)及乾燥適度ニシテ夾雜物(海參、乾鮑、鱶鰭、鯣、乾鱈ヲ除ク)少キモノ
	鯣(甲附鯣ヲ除ク)及乾海苔ニ在リテハ適正ナルモノ 乾海苔ニ在リテハ十枚ヲ一帖トシ、十帖毎ニ紙質強靱ナル帯紙ヲ以テ結束シタルモノ

品名		重量
乾鮑	エゾ鮑類	一粒ノ重量 一匁以上
	マダカ	同 四匁以上
	其ノ他ノ鮑	同 二匁八分以上
海參		同 二匁以上
淡菜		同 一匁以上
乾蟶		同 一分三厘以上
乾海苔	大判	百枚ノ重量 六十五匁以上
	小判	同 五十匁以上

二　食用罐詰品

品質	原料及材料適當、香味及色澤佳良、加熱適度ニシテ装塡良好ナルモノ

重量			
鮑	エゾ鮑類		一粒ノ重量 二匁以上
	マダカ		同 七匁五分以上
	其ノ他ノ鮑		同 五匁五分以上
水煮	鯖、鰆	一封度罐	肉量 九十匁以上
		半封度罐	同 四十匁以上
	タラバ蟹(一名イバラ蟹)	一封度罐	肉量 百匁以上 崩肉罐詰以外ノモノニ在リテハ右肉量中一番脚肉二十八匁以上、崩肉三十匁未滿ノモノ
		半封度罐及四分ノ一封度罐	右ニ準ズ
	其ノ他ノ蟹	一封度罐	肉量 百匁以上
		半封度罐及四分ノ一封度罐	右ニ準ズ
	蝦	一封度罐	肉量 五十匁以上
		半封度罐	同 二十五匁以上
	鮑	一封度罐	肉量 四十匁以上
	貝柱		同 七十匁以上
	北寄貝		同 六十匁以上
鰯トマト漬罐詰		一封度楕圓罐	肉量 九十四匁以上 液量 十八匁以上
		半封度楕圓罐	肉量 四十八匁以上 液量 十二匁以上

製罐	完全ナルモノ但シ鯖、鰆及蝦ノ水煮罐詰ニ在リテハ製罐法ハ巻締又ハ外嵌トシ罐材ハ錻力板一箱ノ重量八十五封度以上トス蟹罐詰ニ在リテハ製罐法ハ巻締トシ罐材ハ米國製チャーコール又ハ之ニ相當スル良質ノ錻力板ニシテ適度ノ厚サヲ有シ且塗漆完全ナルモノ鮑、貝柱及北寄貝ノ水煮罐詰ニ在リテハ製罐法ハ適宜トシ罐材ハ錻力板一箱ノ重量八十五封度以上トス鰯トマト漬罐詰ニ在リテハ適當ノ厚サヲ有スル良質ノ錻力板ヲ使用シタル打拔巻締罐ニシテ脱氣孔跡ヲ有セザルモノ

三　肥料

品質	原料適當ニシテ過度ニ變色セズ且鹽分(落肥料ヲ除ク)少ク乾燥適度ニシテ苦汁、鋸屑又ハ糠ヲ混入セズ土砂其ノ他ノ夾雜物少キモノ

四　海藻

品質	產地及採取ノ季節ヲ異ニセズ藻體ノ發育適當乾燥及晒白(原藻ヲ晒白シタルモノニ限ル)適度ニシテ鹽分、苦汁及土砂ヲ混入セズ異種ノ海藻其ノ他ノ夾雜物少ク形態整正(抄製品ニ限ル)ナルモノ

五　魚油

品質	固有ノ色澤及臭氣ヲ有シ水分殘滓其ノ他ノ夾雜物百分ノ二ヲ超エザルモノ

第二號表　容量及包裝標準

一　食用乾製品

品名	容量(風袋込重量)	包裝 種類	材料	荷造方法
乾海苔		大箱(內規) 長二尺八寸 幅一尺三寸 高一尺六寸	松其ノ他適材ニテ板ノ厚サ正四分以上、鐵帶ノ幅五分以上、鐵線ノ太サ十三番乃至十五番、掛繩ノ徑三分以上、莚ハ適當ナルモノ	吸濕ヲ防護シ箱ノ兩緣ヲ鐵帶又ハ鐵線(鐵線荷造機ヲ使用スルモノニ限ル)ヲ以テ緊縛シ(之ヲ莚包ト爲スコトヲ得)更ニ縦二箇所、横三箇所及側面一箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス
		小箱(內規) 長二尺 幅一尺三寸 高一尺六寸	同右	掛繩ヲ横二箇所トスル外同右
		小包郵便ト爲スモノ	金屬製、厚紙製又ハ木製ノ適當ナル箱	吸濕ヲ防護スル外適宜
海參、鱶鰭、乾蝦、乾玉筋魚、鯣、乾鱈、乾鮑、牡蠣、淡菜、乾蟶、乾竹蟶、乾北寄貝、乾鳥貝、乾貝柱		大箱(內規) 長二尺九寸 幅一尺四寸 高一尺七寸	松其ノ他ノ適材ニテ板ノ厚サ正六分(乾鳥貝及皮附蝦ニ在リテハ正四分)以上、掛繩ノ徑三分以上、莚ハ適當ナルモノ	箱ノ外部ヲ莚包トシ縦二箇所、横四箇所及側面二箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス但シ皮附蝦ニ限リ箱ノ兩棲板ニ棧木ヲ附シ莚包ト爲サザルコトヲ得
		中箱(內規) 長二尺七寸 幅一尺四寸 高一尺五寸	同右	横ノ掛繩ヲ三箇所トスル外同右
		小箱(內規) 長二尺七寸 幅一尺四寸 高一尺一寸	同右	縦、横各二箇所及側面一箇所ニ掛繩ヲ施ス外同右
皮附蝦(櫻蝦及乾鯡ヲ含ム)		特別小箱(內規) 甲 長一尺六寸五分 幅一尺一寸五分 高七寸五分 乙 長一尺七寸 幅九寸 高六寸七分	松其ノ他ノ適材ニテ棲板ノ厚サ正四分以上蓋、底及胴板ノ厚サ正三分以上、掛繩ノ徑三分以上	蓋又ハ底部ニ於テ二箱ヲ合シ縦一箇所及横、側面各二箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス
鯣 甲附鯣及於多福鯣	百十斤	莚包	莚ハ適當ナルモノ、掛繩ノ徑三分以上、風袋重量十斤以上	莚二重包トシ兩小口ニ口莚ヲ當テ横三箇所及縦四方掛トシ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス
其ノ他ノ鯣	百五十斤			

品名	容量(風袋込重量)	包裝 種類	材料	荷造方法
乾鱈 開鱈	二百十斤	同右	同右	角造莚一重包トシ横三箇所、縦ノ一面二箇所及縦ノ他面一箇所ニ掛繩ヲ施ス外同右
乾鱈 棒鱈	百三十斤			
乾玉筋魚 小羽	百三十斤又ハ百斤	同右	百三十斤及百五十斤入ニ在リテハ風袋重量八斤以上、百斤入ニ在リテハ内紙袋外莚トシ風袋重量六斤以上トスル外鯣ニ同ジ	百三十斤及百五十斤入ニ在リテハ丸造トシ百斤入ニ在リテハ角造トシ共ニ莚一重包トスル外鯣ニ同ジ但シ角造ニ在リテハ乾鱈ト同様ノ掛繩ヲ施スコトヲ得
乾玉筋魚 中羽及大羽	百五十斤又ハ百斤			
海參、剝蝦、乾鮑、乾牡蠣、淡菜、乾鳥貝、乾貝柱		同右	鯣ニ同ジ但シ麻袋(乾鳥貝ニ在リテハ麻袋又ハ紙袋)ヲ以テ内莚ニ代用スルコトヲ得其ノ風袋重量六斤以上	丸造(内紙袋外莚包トスルトキハ角造)トスル外鯣ニ同ジ但シ角造ニ在リテハ乾鱈ト同様ノ掛繩ヲ施スコトヲ得
鱶鰭		同右	風袋重量九斤以上トスル外鯣ニ同ジ	莚一重包トスル外鯣ニ同ジ
皮附蝦(櫻蝦及乾鯡ヲ含ム)		同右	風袋重量八斤(内紙袋外莚トスルトキハ六斤)以上トスル外鯣ニ同ジ	丸造(内紙袋外莚包トスルトキハ角造)莚一重包トスル外鯣ニ同ジ但シ丸造ニ在リテハ横四箇所、角造ニ在リテハ乾鱈ト同様ノ掛繩ヲ施スコトヲ得
乾蟶、乾竹蟶、乾北寄貝	八十斤乃至百五十斤	麻袋入又ハ叺入	麻袋入ニ在リテハ麻織物(ドンゴロス)掛繩ノ徑三分以上風袋重量二斤半以上、叺入ニ在リテハ叺ハ適當ナルモノ、掛繩ノ徑三分以上、風袋重量四斤以上	縦及横各二箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス

二　食用罐詰品

品名	容量(一箱ノ罐數)	包裝 種類	材料	荷造方法
鮑、鯖、鰆、蝦、蟹、貝柱、北寄貝、鰻、蠑螺罐詰、鰯トマト漬罐詰	一封度罐四打、半封度罐、四分ノ一封度罐及角罐六打又ハ八打	箱入	松其ノ他ノ適材ニテ棲板ノ厚サ正六分以上(鰯トマト漬罐詰ニ在リテハ正三分三厘以上)蓋底及胴板ノ厚サ正五分以上(鰯トマト漬罐詰ニ在リテハ正三分三厘以上)但シ鰯トマト漬罐詰ノ包装ヲ除クノ外棲板ノ兩端ニ添ヒ適當ナル棧木ヲ施シテ補強シタルモノニ限リ板ノ厚サヲ各一分ヅツ低減スルコトヲ得鐵帯ノ幅五分以上、鐵線ノ太サ十三番乃至十五番、掛繩ノ徑二分以上	箱ノ兩緣ヲ鐵帶又ハ鐵線(鐵線ハ荷造機ヲ使用スルモノニ限ル)ヲ以テ緊縛ス但シ右ノ外縦一箇所及横二箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施スコトヲ得

三　肥料

品名	容量又ハ風袋込重量	包裝 種類	材料	荷造方法
鰯搾粕	百六十斤	莚包	莚ハ適當ナルモノ、掛繩ノ徑三分以上、風袋重量八斤以上	丸造莚一重包トシ兩小口ニ口莚ヲ當テ中貫繩ヲ施シ横三箇所及縦四方掛トシ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス
	六十三斤	叺入	叺ハ叺檢查規則ニ定ムル穀用四斗入叺ノ規格又ハ朝鮮總督ノ承認ヲ受ケ道知事ノ定ムル規格ニ該當スルモノ、掛繩ノ徑三分以上	縦三箇所及横二箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス
鰯粉末肥料	(小袋)七十五斤 (大袋)百十三斤	麻袋入	麻袋ハ強靱ニシテ內容物脫漏ノ虞ナキモノ	麻絲ヲ以テ口縫ヲ爲シ其ノ兩端ニ耳ヲ殘ス
	六十三斤	叺入	鰯搾粕ニ同ジ	鰯搾粕ニ同ジ
鰊搾粕、太刀魚搾粕、鱈荒粕、鰊卵	百六十斤	莚包	鰯搾粕ニ同ジ	鰯搾粕ニ同ジ
干鰯、干鰊、干鰺	百三十斤	同右	風袋重量六斤以上トスル外同右	同右
干玉筋魚、胴鰊	百十斤	同右	同右	干玉筋魚ニ在リテハ同右、胴鰊ニ在リテハ角造トシ中貫繩ヲ施サザル外同右
其ノ他水產肥料	百斤乃至百七十斤(粉末肥料ヲ除ク)	莚包、麻袋入又ハ叺入	莚包ニ在リテハ同右、麻袋入及叺入ニ在リテハ鰯粉末肥料ニ同ジ	莚包ニ在リテハ中貫繩ヲ施サザルコトヲ得ルノ外干鰯ニ同ジク麻袋入及叺入ニ在リテハ鰯粉末肥料ニ同ジ

四　海藻

品名	容量(風袋込重量)	包裝 種類	材料	荷造方法
石花菜、海蘿、銀杏草、櫻草	百二十斤	莚包又ハ箱入	莚包ニ在リテハ莚ハ適當ナルモノ、掛繩ノ徑三分以上、風袋重量九斤以上箱入ニ在リテハ箱ハ松其ノ他ノ適材、掛繩ノ徑同右、麻袋入ニ在リテハ食用乾製品乾蟶ニ同ジ	莚包ニ在リテハ丸造一重包トシ兩小口ニ口莚ヲ當テ横四箇所及縦四方掛トシ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス箱入ニ在リテハ箱ノ外部ヲ莚包トセザル外食用乾製品ノ中箱ニ同ジ麻袋入ニ在リテハ横三箇所及縦二箇所ニ各二條以上ノ掛繩ヲ施ス
	五十斤乃至七十斤	麻袋入		
小凝草、礒草、於期菜	百十斤	莚包又ハ箱入	同右	同右
	五十斤乃至七十斤	麻袋入		

抄製海藿以	百三十斤	麻袋入ノ規定ヲ除キ且同右
内	莚包又ハ箱入	麻袋入ノ規定ヲ除ク外莚包ニ在リテハ角造トシ適當ノ掛繩ヲ施スコトヲ得ルノ外同右
抄製銀杏草及櫻草	百五十斤	箱入及麻袋入ノ規定ヲ除キ且角造トスル外石花菜ニ同ジ
晒海藻	百斤	同右

五　魚油

品名	容量	種類	包装	材料	荷造方法
鰯油	二十七斤半以上	油槽（五カロン入）	鉄力板製ニテ漏出ノ虞ナク錆及凹凸ノ僅少ナル掛繩ノ徑三分以上ノ五ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	槽ノ口金ヲ完全ニ封蠟シ繩二條ヲ以テ縦四方一條ヲ以テ横一條ヲ施シ但シ掛繩ノ箇所ニ掛繩ヲ施スモノニ在リテハ箱入ト爲スモノニ在リテハ箱ハ堅牢ナルモノ	
	二百八十斤（三百八十封度入）乃至三百斤（相當スルモノ）	樽（鐵枠製ニテ漏出ノ虞ナキモノ）	木製ニテ漏出ノ虞ナキ		

備考

一　本表ニ依リ包装シタルモノニ更ニ適當ノ掛繩ヲ施シテ二箇合ト爲スコトヲ得

二　鰯搾粕及鰯粉末肥料ノ容量ニ在リテハ三斤以内ノ過剰アルヲ妨ゲズ

三　風袋込重量ニ付テハ乾海苔、食用罐詰品及鰯油ヲ除クノ外十斤以内ノ過不足アルヲ妨ゲズ

第三號表

等級標準

品名	等級 一等	二等	三等	四等
海參	形態ノ大小（一斤ノ粒數）大（二十箇以内）中（同四十箇以内）小（同四十一箇以上）	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ炭末ノ附著又ハ異物ノ除去完全且内臓ノ分少ク且内臓ノ除去完全煮熟適度ナルモノ			
乾鮑	形態ノ大小 大（一斤ノ粒數十五箇以内）中（同三十箇以内）小（同三十一箇以上）	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ内臓異物ノ除去完全煮熟適度ナルモノ			

品名	等級 一等	二等	三等	四等
乾鰹	形態ノ大小（體長二寸四分（分ヲ超エタルモノ）ヲ超エ三寸以内）大	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ蟲害ナク且分ヲ少ク開鰹ニ在リテハ體長一尺四寸以上ノモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ蟲害ナク且分ヲ少ク開鰹ニ在リテハ體長一尺四寸以下一尺以上ノモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ蟲害ナク且分ヲ少ク開鰹ニ在リテハ體長一尺以下ノモノ	
乾牡蠣	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項一等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項二等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項三等ニ次グモノ		
乾玉筋魚	形態ノ大小 大（體長二寸四分（分ヲ超エタルモノ）ヲ超エ三寸以内）中（同二寸四分以下同一寸九分以上）小（同一寸九分以下）	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ蟲害ナク且分ヲ少ク開鰹ニ在リテハ體長一尺四寸以上ノモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ蟲害ナク且分ヲ少ク開鰹ニ在リテハ體長一尺四寸以下一尺以上ノモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ蟲害ナク且分ヲ少ク開鰹ニ在リテハ體長一尺以下ノモノ	
鰯	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項一等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項二等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項三等ニ次グモノ		
淡菜	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項一等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項二等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項三等ニ次グモノ		
乾蠣	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項一等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項二等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項三等ニ次グモノ		
皮附蝦	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項一等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項二等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項三等ニ次グモノ		
剝蝦	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ蟲害ナク且分ヲ少ク開鰹ニ在リテハ體長一尺四寸以上ノモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ蟲害ナク且分ヲ少ク開鰹ニ在リテハ體長一尺四寸以下一尺以上ノモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ蟲害ナク且分ヲ少ク開鰹ニ在リテハ體長一尺以下ノモノ		
鱶鰭	ヤジ、マブカ及之ニ類スルモノニシテ形態及乾燥優良ナル鱶鰭ニ在リテハ同上、小鱶ノ肛鰭ニ付テハ同上、其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	鱶鰭ノ形態及乾燥優良ナル鱶鰭ニ在リテハ同上、其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	鱶鰭ノ形態及乾燥優良ナル鱶鰭ニ在リテハ同上、其ノ他ノ事項三等ニ次グモノ		

乾竹輪	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入ノ百箇ヲ超エ一千箇ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入ノ二百箇ヲ超エ一千箇ヲ超エズ其ノ他ノ事項三等ニ次グモノ
乾北寄貝	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入ノ百箇ヲ超エ一千箇ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入ノ二百箇ヲ超エ一千箇ヲ超エズ其ノ他ノ事項三等ニ次グモノ
乾鳥貝	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入セズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入セズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ
乾貝柱	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入セズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入セズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ
鮨水煮罐詰	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入セズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入セズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ
乾海苔	原料色澤及乾燥優良形態及結束ニシテ夾雑物ナキモノ	原料色澤及乾燥優良形態及結束ニシテ夾雑物ナキモノ
蠣水煮罐詰	原料香味色澤及充填優良ニシテ脚肉有害物殘流性ノ反應及有害物ノ除去性ニシテ夾雑物ナキモノ	原料香味及色澤優良ニシテ脚肉ノ反應及有害物ノ除去性ニシテ夾雑物ナキモノ
蠣水煮罐詰	原料香味色澤及充填優良ニシテ脚肉有害物殘流性ノ反應及有害物ノ除去性ニシテ夾雑物ナキモノ	原料香味及色澤優良ニシテ脚肉ノ反應及有害物ノ除去性ニシテ夾雑物ナキモノ
鮨水煮罐詰	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項一等ニ次グモノ	形態及結束ニ付テハ同上ノ事項二等ニ次グモノ
乾海苔	原料色澤及乾燥良ニシテ夾雑物ナキモノ	原料色澤及乾燥良ニシテ夾雑物ナキモノ
獺水煮罐詰	原料香味色澤及充填優良ニシテ脚肉有害物殘流性ノ反應及有害物ノ除去性ニシテ夾雑物ナキモノ	原料香味及色澤優良ニシテ脚肉ノ反應及有害物ノ除去性ニシテ夾雑物ナキモノ
蝦水煮罐詰	原料香味色澤及充填優良ニシテ脚肉有害物殘流性ノ反應及有害物ノ除去性ニシテ夾雑物ナキモノ	原料香味及色澤優良ニシテ脚肉ノ反應及有害物ノ除去性ニシテ夾雑物ナキモノ

其ノ他ノ水煮罐詰	原料香味色澤及充填優良ニシテ夾雑物ナキモノ	原料香味及色澤優良ニシテ夾雑物ナキモノ
味附罐詰	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入セズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	原料色澤及乾燥優良形態整正等大ニシテ夾雑物及肉片ノ混入セズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ
鰯トマト漬罐詰	原料材料香味色澤及充填優良ニシテ適當ナル濃度及分量ノトマトパルプヲ使用シ液汁良好ナルモノ	上記ノ事項一等ニ次グモノ
素干肥料	原料色澤及乾燥優良ニシテ異種ノ魚體（雜魚）ヲ混入セズ其ノ他ノ夾雑物極メテ少ナルモノ	異種ノ魚體（雜魚）素干除ク）ヲ混入セズ其ノ他ノ夾雑物少ク其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ
石花菜及海藿	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上ノ事項一等ニ次グモノ	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上ノ事項二等ニ次グモノ

肥料	搾粕	鰯搾粕	原料色澤及乾燥優良ニシテ異種ノ魚肉（雜魚）搾粕除ク）ノ混入セズ其ノ他ノ夾雑物ナキモノ
		其ノ他	同右
	其ノ他ノ肥料	其ノ他ノ水産肥料	原料香味色澤及乾燥優良ニシテ異種ノ魚體（雜魚）搾粕除ク）ノ混入セズ其ノ他ノ夾雑物ナキモノ
		其ノ他ノ水産肥料	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上ノ事項一等ニ次グモノ
		其ノ他ノ水産肥料	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上ノ事項二等ニ次グモノ

四　消印

各片ノ長サ三寸
肉幅　三分

五　封印

食用乾製品、肥料及海藻

一寸角

食用鑵詰品

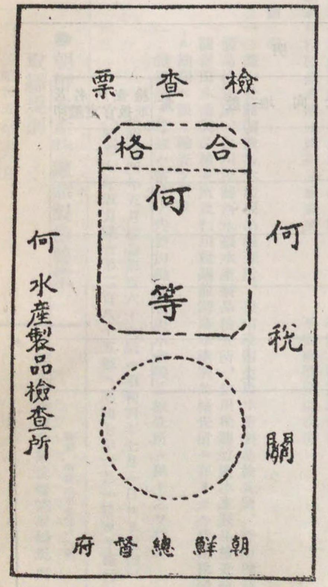
長徑二寸
徑一寸

同上再檢査品

上同

上同

六　檢査票



縱三寸三分　橫一寸七分

包裝ヲ爲サザル魚油

直徑八分

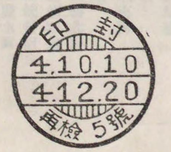
同上再檢査品

直徑同上

包裝ヲ爲シタル魚油

直徑八分

同上再檢査品



直徑同上

第一號様式

番號

水産製品檢査請求書

下記水産製品檢査規則第四條ノ規定ニ依リ此段及請求候也

檢査請求年月日

收入印紙貼付欄

向地	産地	人造所製住氏名	箇數	裝種類	包裝記號	品名	數量	價格	檢査手數料	檢査成績	備考
1								圓	圓		
2											
3											
4											
5											
檢査請求人住所氏名捺印								合計	圓	檢査年月日 檢査官吏認印	

用紙寸法　縱七寸　横一尺二寸

注意
一　品名中品質ノ種類ヲ分チ又ルモノニ在リテハ各欄ニ區別シテ記載スベシ
二　乾海苔ニシテ道ノ檢査ニ合格シタルモノノ檢査ヲ請求スルトキハ「包裝記號」ノ欄ノ次ニ「道檢査成績」ノ欄ヲ設ケ之ニ「合格」ト記載スベシ
三　雙線内ニハ記入スベカラズ

種別	産地及採取ノ季節	産地及採取ノ季節	産地及採取ノ季節
其ノ他ノ海藻	藻體ノ發育及乾燥ノ良ニシテ夾雜物ナキモノ	藻體ノ發育及乾燥ノ良ニシテ夾雜物ナキモノ	藻體ノ發育及乾燥ノ良ニシテ夾雜物ナキモノ
	産地及採取ノ季節ヲ異ニセズ藻體ノ發育及乾燥ノ良ニシテ夾雜物ナキモノ	産地及採取ノ季節ヲ異ニセズ藻體ノ發育及乾燥ノ良ニシテ夾雜物ナキモノ	産地及採取ノ季節ヲ異ニセズ藻體ノ發育及乾燥ノ良ニシテ夾雜物ナキモノ
	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上
	夾雜物百分ノ三（櫻草ニ限リ百分ノ五）ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物百分ノ二ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	夾雜物百分ノ一ヲ超エズ其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ
	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上	産地及採取ノ季節ニ付テハ同上
	夾雜物百分ノ三ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	夾雜物百分ノ二ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ	夾雜物百分ノ一ヲ超エズ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ
晒海藻	藻體ノ發育及乾燥ノ良ニシテ晒白ノ程度同ジク夾雜物ナキモノ	藻體ノ發育及乾燥ノ良ニシテ晒白ノ程度同ジク夾雜物ナキモノ	藻體ノ發育及乾燥ノ良ニシテ晒白ノ程度同ジク夾雜物ナキモノ
	夾雜物ナク其ノ他ノ事項一等ニ次グ項二等ニ次グモノ	夾雜物ナク其ノ他ノ事項一等ニ次グ項二等ニ次グモノ	夾雜物ナク其ノ他ノ事項一等ニ次グ項二等ニ次グモノ
海藻ノ抄製品（乾海苔ヲ除ク）	原料抄製晒白色澤及乾燥優良ニシテ夾雜物ナキモノ	原料抄製晒白色澤及乾燥優良ニシテ夾雜物ナキモノ	原料抄製晒白色澤及乾燥優良ニシテ夾雜物ナキモノ
	夾雜物ナク其ノ他ノ事項一等ニ次グ項二等ニ次グモノ	夾雜物ナク其ノ他ノ事項一等ニ次グ項二等ニ次グモノ	夾雜物ナク其ノ他ノ事項一等ニ次グ項二等ニ次グモノ
鰯油	固有ノ色澤及臭氣ヲ有シ酸價百分ノ二ヲ超エズ水、殘滓其ノ他ノ夾雜物ナク其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	酸價百分ノ六ヲ超エズ水、殘滓其ノ他ノ夾雜物ナク其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ	酸價百分ノ十ヲ超エズ水、殘滓其ノ他ノ夾雜物少ク其ノ他ノ事項一等ニ次グモノ
	酸價百分ノ十以上ニシテ其ノ他ノ事項二等ニ次グモノ		

第二號様式

一　檢査證印

合格品

直徑三寸
肉幅三分

不合格品

二　等級證印

一等

直徑三寸
肉幅三分

二等

同上

三等

直徑三寸
肉幅三分

四等

同上

三　大小別證印

大

直徑三寸
肉幅三分

中

同上

小

直徑三寸
肉幅三分

七　合格證

（表　面）

名官印所扱認取及吏	番號	合格證						
	數有在現	ノ數除條六控十査檢第	査數除檢再控	量數	日期査檢	地向仕	名品
	箱打	箱打	箱打	箱打				
	〃	〃	〃	〃				
	〃	〃	〃	〃				
	〃	〃	〃	〃				
	〃	〃	〃	〃				
				〃	人名 求氏 請査 檢所 査住		許號 業番 營可	

上記ノ魚油ハ水産製品檢査規則第五條第二項ノ規定ニ依リ檢査ヲ合格シタルモノナルコトヲ證ス

年　月　日

府　督　總　鮮　朝

何　稅　關

用紙寸法　縦五寸　横七寸

備考

一　乾海苔合格品中小包郵便ト爲スモノニ在リテハ檢査證印及等級證印ハ直徑一寸五分肉幅一分五厘トス

二　檢査證印、六小別證印及消印ノ肉色ハ黒色、等級證印ノ肉色ハ一等ニ在リテハ紫色、

（裏　面）

及名印證	明證荷出						
査取扱官所吏檢	量數	向地仕	名車船載積	地荷出	月日荷出	月日査檢

二　等ニ在リテハ青色、三等ニ在リテハ紅色、四等ニ在リテハ褐色トス

三　封印ノ文字、模様及輪廓ハ赤色トス但シ再檢査品ノ分ハ青色トスノトス

四　魚油ノ合格品ニ附スベキ檢査票ノ紙色ハ一等黄色二等青色三等紅色四等褐色トシ文字ハ黒色トス

第三號樣式

番號

水産製品檢査規則第五條第二項ノ認定請求書

下記ノ魚油ノ混合ニ依リ水産製品檢査規則第五條第二項ノ認定相受度此段及請求候也

請求年月日

品名	包裝種類又ハ檢査番號	査檢年月日	等級	個數	容量

檢査豫定年月日

請求人住所氏名捺印

摘要

認定年月日

認定官庫氏名捺印

注意

一　包裝ヲ爲シタルモノニ在リテハ包裝ノ種類ヲ包裝ヲ爲サザルモノニ在リテハ檢査番號ヲ當該欄ニ記入スベシ

二　檢査ノ合格査年月日ノ等級別ニ區別シテ之ヲ記入スベシ

三　容量ニ付テハ其合計ヲ記入スベシ

四　檢査所ニ於テ認定ヲ受ケントスル時ハ檢査豫定年月日ヲ當該欄ニ記入スベシ

五　請求人記入スベカラズ

六　備考欄内ニハ請求人ニ於テ認定ヲ受ケントスル時ハ檢査豫定年月日ヲ當該欄ニ記入スベシ

◉水産製品檢査所ノ名稱及位置

大正十三年十二月
總告第二百七十八號

名稱	位置
仁川稅關仁川水産製品檢査所	京畿道仁川府

水産製品檢査所ノ名稱及位置左ノ通定ム

◉朝鮮水産物罐詰製造營業取締規則

昭和五年九月
總令第七十九號

改正　昭和六年七第八六號

朝鮮水産物罐詰製造營業取締規則左ノ通定ム

朝鮮水産物罐詰製造營業取締規則

改正　昭和二年四第二一三號、同年五第一六九號、五年七第二一四號、六年四第二〇七號、六年七第三一八號、七年五第二八五號、八年五第一三八號

第一條　水産製品檢査所ノ名稱及位置ハ總督之ヲ定ム

第二條　水産製品檢査所ニ於テハ檢査ヲ爲シ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ交付ス

第三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第二十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第二十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第二十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第二十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第二十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第二十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第二十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第二十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第二十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第二十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第三十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第三十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第三十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第三十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第三十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第三十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第三十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第三十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第三十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第三十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第四十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第四十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第四十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第四十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第四十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第四十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第四十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第四十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第四十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第四十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第五十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第五十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第五十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第五十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第五十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第五十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第五十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第五十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第五十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第五十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第六十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第六十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第六十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第六十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第六十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第六十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第六十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第六十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第六十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第六十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第七十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第七十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第七十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第七十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第七十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第七十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第七十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第七十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第七十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第七十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第八十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第八十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第八十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第八十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第八十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第八十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第八十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第八十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第八十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第八十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第九十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第九十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第九十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第九十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第九十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第九十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第九十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第九十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第九十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第九十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百二十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百二十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百二十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百二十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百二十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百二十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百二十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百二十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百二十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百二十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百三十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百三十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百三十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百三十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百三十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百三十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百三十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百三十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百三十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百三十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百四十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百四十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百四十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百四十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百四十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百四十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百四十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百四十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百四十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百四十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百五十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百五十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百五十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百五十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百五十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百五十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百五十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百五十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百五十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百五十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百六十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百六十一條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百六十二條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百六十三條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百六十四條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百六十五條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百六十六條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百六十七條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百六十八條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百六十九條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出スベシ

第百七十條　檢査ヲ受ケントスル者ハ檢査ヲ受ケントスル水産製品ニ檢査證印ヲ押捺シ檢査證ヲ添ヘ檢査所ニ提出

第一條　水産物ノ罐詰ノ製造又ハ醫業ト爲サントスル者ハ製造工場毎ニ左ニ掲グル事項ヲ具シ朝鮮總督ニ申請シ許可ヲ受クベシ

一　住所、氏名及生年月日（法人ニ在リテハ主タル事務所ノ所在地及名稱若ハ稱號竝ニ代表者ノ住所及氏名）

二　製造セントスル罐詰ノ種類

三　製造ノ時期

四　製造工場ノ名稱

五　製造工場ノ位置

六　製造工場ノ敷地ノ面積及建物ノ坪數

七　製造工場ノ建築仕樣及設備ノ概要

八　主ナル機械ノ名稱、員數及各其ノ最高能力

九　用水ノ性質及分量

十　製造原料ノ蒐集方法、製造工程及一年間ノ種類別製造豫定數量

十一　許可ヲ受ケントスル期間

十二　水産物以外ノ罐詰ノ製造ヲモ爲サントスルモノニ在リテハ其ノ罐詰ノ種類、原料ノ蒐集方法、製造工程及一年間ノ種類別製造豫定數量

前項ノ規定ニ依リ申請書ニハ製造工場ノ建物、機械其ノ他ノ設備ノ配置圖及製造工場ノ場所附近ノ見取圖ヲ添附スベシ

第二條　前條第一項ノ許可ノ期間ハ許可ノ日ヨリ十年以内ニ於テ許可ノ際朝鮮總督之ヲ定ム

第三條　朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ第一條第一項ノ許可ヲ爲スニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ朝鮮總督ハ許可ヲ取消スコトヲ得

一　朝鮮漁業令又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ採捕シタル物ヲ原料トシテ製造セラレタルモノヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏シ若ハ運搬シタルトキ

二　本令又ハ本令ニ依リテ爲ス處分若ハ其ノ制限、條件ニ違反シタルトキ

◎水産物冷藏奬勵補助規則

昭和二年八月
總令第七十九號

水産物冷藏奬勵補助規則左ノ通定ム

水産物冷藏奬勵補助規則

第一條　水産物冷藏奬勵補助ハ製氷工場又ハ貯氷庫（以下單ニ製氷工場又ハ貯氷庫ト稱ス）ノ新設又ハ增設ヲ爲ス者ニ對シテハ水産物ノ冷藏ヲ奬勵スル爲本令ニ依リ每年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ノ額ハ工事費精算額ノ三分ノ一以内ト但シ漁業組合ノ施設ニ對シテハ工事費精算額ノ二分ノ一以内トス

第三條　補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ氏名、住所及職業（法人ニ在リテハ名稱、主タル事務所ノ所在地、營業ノ種類及代表者ノ氏名）ヲ記載シタル申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ前年度三月末日迄ニ朝鮮總督ニ之ヲ提出スベシ

一　製氷工場又ハ貯氷庫ノ工事計畫書（第一號樣式）及工事仕樣書

二　製氷工場又ハ貯氷庫ノ事業目論見書（第二號樣式）

第四條　朝鮮總督前條ノ規定ニ依ル申請ニ依リ補助金ヲ交付スベキモノト認メタルトキハ補助金ノ交付スベキモノト認メタル旨及必要ナル條件ヲ定メ指令書ヲ交付ス

第五條　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付死亡又ハ法人ノ合併アリタル場合ニ於テハ補助金ノ交付ヲ受クベキ權利ハ其ノ相續人又ハ合併後存續又ハ成立シタル法人ニ之ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ權利ヲ承繼シタル者ハ遲滯ナク其ノ旨朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第六條　補助金ノ交付ヲ受クベキ權利ヲ讓渡セントスル者ハ讓渡ノ事由ヲ具シ讓受ケントスル者ト連署シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

第七條　前二條ノ規定ニ依ル權利ノ承繼アリタル場合ニ於テハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ヲ以テ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ト看做ス

第八條　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル製氷工場又ハ貯氷庫ノ工事ヲ計畫又ハ工事仕樣ヲ變更セントスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

第九條　工事竣功シタルトキハ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ工事費精算書ヲ添ヘ遲滯ナク其ノ旨朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

補助金ハ工事竣功後檢査ノ上之ヲ交付ス

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ朝鮮總督ハ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ對シ補助金ノ全部又ハ一部ヲ交付セザルコトヲ得

一　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ於テ本令又ハ補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

二　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ於テ補助金ノ交付ヲ受クルニ付虚僞ノ申出其ノ他ノ不正ノ行爲アリタルトキ

三　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ノ工事竣功ノ見込ナキニ至リタルトキ

第十一條　補助金ノ交付ヲ受ケタル者製氷工場若ハ貯氷庫ヲ讓渡若ハ貸付シ又ハ其ノ使用ノ目的ヲ變更シ若ハ其ノ設備ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

第十二條　製氷工場又ハ貯氷庫ノ所有權ヲ承繼シタル者ハ遲滯ナク其ノ旨朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ於テ補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ還付セザルコトヲ得

一　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ於テ本令又ハ補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

二　補助金ノ交付ヲ受ケタル者ニ於テ補助金ノ交付ヲ受クルニ付虚僞ノ申出其ノ他ノ不正ノ行爲アリタルトキ

三　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ノ工事竣功ノ見込ナキニ至リタルトキ

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第八條ノ規定ニ依リ表示ヲ爲サザル者又ハ虚僞ノ表示ヲ爲シタル者

二　許可ヲ受ケズシテ第一條第一項第二號、第五號又ハ第八號ノ事項ヲ變更シタル者

三　第十一條ノ規定ニ依ル物件ノ提出又ハ報告ヲ怠リタル者

四　第十二條ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ命令ニ從ハザル者

第十五條　第十條第一項乃至第三項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サザル者ハ科料ニ處ス

第十六條　營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令ノ罰則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十七條　本令ノ罰則ヲ營業者ノ業務ニ關シ之ニ適用スベキ場合ニ於テ營業者法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ第一條第一項ノ營業ヲ爲ス者其ノ營業ヲ繼續セントスルトキハ本令施行ノ日ヨリ一月以内ニ第一條ノ規定ニ準ジ許可ノ申請ヲ爲スベシ

本令施行ノ際現ニ前項ノ營業ヲ爲ス者ハ前項ノ期間仍ホ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ許可ノ申請ヲ爲シタル者ニ付前項ノ期間經過後其ノ申請ノ許否アル迄ノ間亦同ジ

本令施行ノ際現ニ第一條第一項ノ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業ヲ繼續スルモノニ對シテハ本令施行ノ日ヨリ第六條ノ規定ニ在リテハ一年間、第八條ノ規定ニ在リテハ六月間ハ之ヲ適用セズ

第一條　水産物ノ罐詰ノ製造ト營業ト爲サントスル者ハ製造工場毎ニ左ニ掲グル事項ヲ具シ朝鮮總督ニ申請シ許可ヲ受クベシ

一　住所、氏名及生年月日（法人ニ在リテハ主タル事務所ノ所在地及名稱若ハ稱號竝ニ代表者ノ住所及氏名）

二　製造セントスル罐詰ノ種類

三　製造ノ時期

四　製造工場ノ名稱

五　製造工場ノ位置

六　製造工場ノ敷地ノ面積及建物ノ坪數

七　製造工場ノ建築仕樣及設備ノ概要

八　主ナル機械ノ名稱、員數及各其ノ最高能力

九　用水ノ性質及分量

十　製造原料ノ蒐集方法、製造工程及一年間ノ種類別製造豫定數量

十一　許可ヲ受ケントスル期間

十二　水産物以外ノ罐詰ノ製造ヲモ爲サントスルモノニ在リテハ其ノ罐詰ノ種類、原料ノ蒐集方法、製造工程及一年間ノ種類別製造豫定數量

前項ノ規定ニ依リ申請書ニハ製造工場ノ建物、機械其ノ他ノ設備ノ配置圖及製造工場ノ場所附近ノ見取圖ヲ添附スベシ

第二條　前條第一項ノ許可ノ期間ハ許可ノ日ヨリ十年以内ニ於テ許可ノ際朝鮮總督之ヲ定ム

第三條　朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ第一條第一項ノ許可ヲ爲スニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ朝鮮總督ハ許可ヲ取消スコトヲ得

一　朝鮮漁業令又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ採捕シタル物ヲ原料トシテ製造セラレタルモノヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏シ若ハ運搬シタルトキ

二　本令又ハ本令ニ依リテ爲ス處分若ハ其ノ制限、條件ニ違反シタルトキ

第五條　朝鮮總督ハ水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ亦前項ニ同ジ

第六條　第一條第一項ノ許可ヲ受クル者引續キ二年以上營業ヲ爲サザルトキハ朝鮮總督ハ其ノ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

前項ノ期間中ニハ前條ノ規定ニ依リ營業ヲ停止セラレタル期間及第九條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ營業ヲ爲サザル期間ハ之ヲ算入セズ

第七條　製造工場ノ構造及設備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　場屋内ノ採光及換氣充分ナルコト

二　原料ノ處理場及罐ノ肉詰場ノ床ハ「コンクリート」打又ハ石其ノ他ノ不滲透質ノ材料ヲ以テ水密張ト爲スコト

三　水道又ハ揚水「ポンプ」ヲ設クルコト

四　工場内外ノ排水完全ニスルコト

五　工場ヨリ相當ノ距離ヲ存スル場所ニ廢棄物ノ處置ヲ爲スニ適當ナル設備ヲ設クルコト

かに罐詰ノ製造工場ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ルノ外原動機、浸罐、高熱寒暖計ヲ有スル加壓殺菌釜竝ニ卷締機及「エキゾースト」、ボツクス」又ハ「パキユーム、シーマー」ヲ備附クベシ

第八條　罐材ハかに罐詰ニ在リテハ「チャーコール」、「ブライム、コックス」又ハ之ニ相當スル良質ノ鍼力板ニシテ一箱ノ重量九十封度以上ヲ有シ内面ノ塗漆完全ナルモノ、其ノ他ノモノニ在リテハ錆ナキ良質ノ鍼力板ニシテ一箱ノ重量八十五封度以上ノモノヲ使用スベシ

第九條　罐ノ蓋ニハ營業許可ノ番號ヲ刻印ニ依リ表示スベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ限リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ之ヲ省略スルコトヲ得

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第一條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督ニ申請シ許可ヲ受クベシ

一　第一條第一項第二號、第五號又ハ第八號ノ事項ヲ變更セントスルトキ

二　一定ノ期間休業ヲ爲サントスルトキ

三　水産物冷藏奬勵補助規則左ノ通定ム

水産物冷藏奬勵補助規則

第一條　水産物冷藏奬勵補助ハ製氷工場又ハ貯氷庫（以下單ニ製氷工場又ハ貯氷庫ト稱ス）ノ新設又ハ增設ヲ爲ス者ニ對シテハ水産物ノ冷藏ヲ奬勵スル爲本令ニ依リ每年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ノ額ハ工事費精算額ノ三分ノ一以内ト但シ漁業組合ノ施設ニ對シテハ工事費精算額ノ二分ノ一以内トス

第三條　補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ氏名、住所及職業（法人ニ在リテハ名稱、主タル事務所ノ所在地、營業ノ種類及代表者ノ氏名）ヲ記載シタル申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ前年度三月末日迄ニ朝鮮總督ニ之ヲ提出スベシ

一　製氷工場又ハ貯氷庫ノ工事計畫書（第一號樣式）及工事仕樣書

二　製氷工場又ハ貯氷庫ノ事業目論見書（第二號樣式）

第四條　朝鮮總督前條ノ規定ニ依ル申請ニ依リ補助金ヲ交付スベキモノト認メタルトキハ補助金ノ交付スベキモノト認メタル旨及必要ナル條件ヲ定メ指令書ヲ交付ス

第五條　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付死亡又ハ法人ノ合併アリタル場合ニ於テハ補助金ノ交付ヲ受クベキ權利ハ其ノ相續人又ハ合併後存續又ハ成立シタル法人ニ之ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ權利ヲ承繼シタル者ハ遲滯ナク其ノ旨朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第六條　補助金ノ交付ヲ受クベキ權利ヲ讓渡セントスル者ハ讓渡ノ事由ヲ具シ讓受ケントスル者ト連署シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

第七條　前二條ノ規定ニ依ル權利ノ承繼アリタル場合ニ於テハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ヲ以テ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ト看做ス

第八條　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル製氷工場又ハ貯氷庫ノ工事ヲ計畫又ハ工事仕樣ヲ變更セントスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

第九條　工事竣功シタルトキハ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ工事費精算書ヲ添ヘ遲滯ナク其ノ旨朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

補助金ハ工事竣功後檢査ノ上之ヲ交付ス

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ朝鮮總督ハ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ對シ補助金ノ全部又ハ一部ヲ交付セザルコトヲ得

一　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ於テ本令又ハ補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

二　補助金ノ交付ヲ受ケタル者ニ於テ補助金ノ交付ヲ受クルニ付虚僞ノ申出其ノ他ノ不正ノ行爲アリタルトキ

三　補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ノ工事竣功ノ見込ナキニ至リタルトキ

第十一條　補助金ノ交付ヲ受ケタル者製氷工場若ハ貯氷庫ヲ讓渡若ハ貸付シ又ハ其ノ使用ノ目的ヲ變更シ若ハ其ノ設備ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

第十二條　製氷工場又ハ貯氷庫ノ所有者又ハ貸付ヲ受ケタル者ノ變更アリタルトキ

三　製氷工場又ハ貯氷庫ノ所有者又ハ貸付ヲ受ケタル者ノ災害又ハ事變ニ因リ使用スルコト能ハザルニ至リタルトキ

第十四條　補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ每事業年度終了後三月以内ニ事業報告書（第三號樣式）ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第十五條　朝鮮總督ハ補助金ノ交付ヲ受ケタル製氷工場又ハ貯氷庫ノ工事ニ關シ報告ヲ爲サシメ帳簿、物件又ハ業務執行ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十六條　補助金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ製氷工場若ハ貯氷庫ノ貸付ヲ受ケタル者本令、本令ニ基キテ爲ス命令又ハ補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキハ朝鮮總督ハ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ對シ補助金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

第十七條　第十一條及第十三條乃至前條ノ規定ハ補助金交付ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ適用セズ

第十八條　第十一條、第十三條乃至第十五條及前條ノ規定ハ補助金ノ交付ヲ受ケタル者ノ製氷工場又ハ貯氷庫ノ貸付ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中前年度三月末日迄トアルハ昭和二年度ニ限リ昭和二年九月末日迄トス

第一號樣式

製氷工場工事計畫書

一　建設ノ場所

二　製氷工場及附屬建物ノ敷地坪數及建物坪數

三　外部建築材料ノ種類

四　製氷室、機械室、貯氷室、事務室等ノ各坪數

五　製氷機械及附屬機械、原動機及製氷裝置ノ要綱

六　工事著手豫定年月日及工事竣功豫定年月日

七　工事費豫算明細書

備　考

一　製氷機械及附屬機械、原動機及製氷裝置ノ要綱ニハ機械ノ製作所名、箇數、種類及樣式、製氷能力、氷罐數、馬力其ノ他機械ノ重要部分ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スベシ

二　工事費豫算明細書ニハ建物ニ在リテハ製氷室、機械室、貯氷室、附屬室每ニ基礎及床工事費、周壁及天井工事費、階上及屋根工事費、雜工事費ニ區分シ製氷設備ニ在リテハ製氷機、原動機、製氷裝置、用水設備等ニ機械費、基礎工事費、据附費ニ區分シ各其ノ内譯金額（算出ノ基礎ヲ明記スルコト）ヲ記載スベシ

三　本計畫書ニハ左ノ圖面ヲ添附スベシ

（イ）製氷工場ノ位置圖（附近ノ鐵道、道路等ノ關係ヲ示スベシ）

（ロ）建物圖（平面圖、各階平面圖、基礎伏圖、小屋伏圖、立面圖、斷面圖、製氷裝置圖、動力設備圖）

（ハ）製氷設備圖（製氷裝置ニ關スル機械、原動機、補助機械、傳導裝置、水設備等ノ配置ノ概略ヲ示ス）

四　增設ノ場合ニ於テハ現在、增設ノ部分ニ區別シテ記載スベシ

貯氷庫工事計畫書

一　建設ノ場所

貯氷庫及附屬建物ノ敷地坪數及建物坪數

外部建築材料ノ種類

貯氷室ノ數竝各貯氷室ノ面積、容積及貯藏量

工事著手豫定年月日及工事竣功豫定年月日

六　工事費豫算明細書

備考

一　工事費豫算明細書ニハ貯氷室、附屬室毎ニ基礎及床工事費、周壁及天井工事費、屋根工事費、雜工事費ニ區分シ各其ノ内譯金額（算出ノ基礎ヲ明記スルコト）ヲ記載スヘシ

二　本計畫書ニハ左ノ圖面ヲ添附スヘシ

（イ）貯氷庫ノ位置圖（貯氷等ト船車發着場、魚市場、道路等トノ關係ヲ示スヘシ）

（ロ）建物圖（平面圖、姿圖、基礎伏圖、小屋伏圖、排水裝置圖、防熱設備斷面圖ノ各別ニ調製シ其ノ重要部分ノ大サ及寸法ヲ記載スヘシ）

三　增設ノ場合ニ於テハ現在、增設ノ部分ニ區別シテ記載スヘシ

第二號樣式

製氷工場事業目論見書

一　事業計畫ノ概要（製氷工場ヲ新設又ハ增設セントスル漁方ニ於ケル（一）鮮魚集散ノ盛期及其ノ數量（二）現在鮮魚處理用氷ノ需給狀況等製氷工場ノ新設又ハ增設ヲ必要トスル理由竝其ノ工場ノ用水源、一年ノ製氷見込數量、氷供給ノ用途別數量及範圍其ノ他事業施行ノ計畫ヲ記載スヘシ）

二　製氷期間

三　事業費收支豫算

貯氷庫事業目論見書

一　事業計畫ノ概要（貯氷庫ヲ新設又ハ增設セントスル地方ニ於ケル（一）鮮魚集散ノ盛期及其ノ數量（二）現在鮮魚處理用水ノ需給狀況等貯氷庫ノ新設又ハ增設ヲ必要トスル理由竝其ノ貯氷庫ニ對スル貯藏品ノ扱取又ハ製造ノ場所、貯藏品ノ種類別見込數量及貯藏品供給ノ用途別數量及範圍其ノ他事業施行ノ計畫ヲ記載スヘシ）

二　貯藏品ノ種類及貯藏又ハ貯氷方法

三　事業費收支豫算

第三號樣式

製氷工場事業報告書

一　所有者及貸付ヲ受ケタル者ノ氏名又ハ名稱

二　製氷工場所在ノ場所

三　事業概要

四　製氷數量

五　製氷ノ販賣數量（用途別）、自家用數量（用途別）及販賣價額（卸小賣別、季節別）

六　事業費收支決算

貯氷庫事業報告書

一　所有者及貸付ヲ受ケタル者ノ氏名又ハ名稱

二　貯氷庫所在ノ場所

三　事業ノ概要

四　貯藏品又ハ氷藏品ノ種類別數量

五　貯藏品ノ販賣數量（用途別）、自家用數量（用途別）及販賣價額（卸小賣別、季節別）竝氷藏品保管料（種類別、期間別、季節別）

六　事業費收支決算

第三款　水産會

●朝鮮水産會令

大正十二年一月
制令第一號
改正　昭和八年八第一八號

朝鮮水産會令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮水産會令

第一條　水産會ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外水産會法ニ依ル但シ同法第七條乃至第十條、第二十條第二項乃至第五項、第二十七條、第三十條乃至第三十二條竝第三十七條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

水産會法中郡市水産會トアルハ道水産會トス

第二條　水産會ハ道水産會及朝鮮水産會トス

水産會ノ地區ハ道水産會ニ在リテハ道、朝鮮水産會ニ在リテハ朝鮮ノ區域ニ依ル

第三條　水産會ノ名稱ニハ道水産會又ハ朝鮮水産會ナル文字ヲ用ヰルヘシ

本令ニ依リ設立シタル水産會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲クル文字ヲ用ヰルコトヲ得ス

第四條　水産會ハ道水産會ニ在リテハ別ニ朝鮮總督ノ定ムル者ヲ除クノ外其ノ地區内ニ於テ漁業又ハ水産物ノ製造、取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者及其ノ地區内ニ於ケル漁業權ヲ有スル者、朝鮮水産會ニ在リテハ道水産會ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　水産會ハ經費又ハ過怠金ノ徵收ヲ府邑面ニ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ水産會ハ府邑面ノ徵收シタル金額ノ百分ノ五ヲ其ノ府邑面ニ交付スヘシ

避クヘカラサル災害ニ因リ府邑面既收ノ前項ニ規定スル經費又ハ過怠金ヲ失ヒタルトキハ水産會ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ府邑面ニ對シ其ノ納入ノ義務ヲ免除スヘシ

第六條　經費又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立及裁決ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第七條　經費及過怠金ノ督促、滯納處分、追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ府邑面ノ徵收金ニ次クモノトス

第八條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ使用料及手數料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手數料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條　水産會解散ヲ爲サムトスルトキハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ規定スル會員ノ員數ノ計算ニ付テハ水産會法第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム（大正十二年二月總令第二十六號ニ依リ大正十二年四月一日ヨリ施行）

本令施行ノ際現ニ存スル朝鮮水産組合各道支部ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケ之ヲ本令ニ依ル道水産會ト爲スコトヲ得

●水産會法

大正十年四月
法律第六十號
改正　昭和八年五第五六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル水産會法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

水産會法

第一條　水産會ハ水産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　水産會ハ法人トス

第三條　水産會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　政府ハ其ノ定ムル條件ヲ具備スル水産會ニ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第五條　水産會ハ水産業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

第六條　水産會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

水産會ハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ水産會ニ對シ水産業ニ關スル報告書ノ提出及水産業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第七條　水産會ハ郡市水産會、道府縣水産會及帝國水産會トス

第八條　水産會ノ地區ハ郡市水産會ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外郡市、道府縣水産會ニ在リテハ道府縣、帝國水産會ニ在リテハ内地ノ區域ニ依ル

第九條　水産會ノ名稱ニハ郡若ハ市水産會、道、府若ハ縣水産會又ハ帝國水産會ナル文字ヲ用ヰルヘシ但シ郡市水産會ノ地區カ郡市ノ區域ニ依ラサルトキハ其ノ名稱中ニ郡又ハ市ノ文字ヲ用ヰサルコトヲ得

本法ニ依リ設立シタル水産會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲クル文字ヲ用ヰルコトヲ得ス

第十條　水産會ハ郡市水産會ニ在リテハ命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除クノ外其ノ地區内ニ於テ漁業又ハ水産物ノ製造、取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者及其ノ地區内ニ於ケル漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者、道府縣水産會ニ在リテハ其ノ地區内ノ郡市水産會、帝國水産會ニ在リテハ道府縣水産會ヲ以テ之ヲ組織ス

第十一條　水産會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ行政官廳ノ認可ヲ申請スヘシ

郡市水産會ノ設立ニ關シ前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ漁業權又ハ入漁權ノ共有ノ場合ニ於テハ其ノ漁業權者又ハ入漁權者ハ之ヲ一人ト看做シ、一人ニシテ前條ニ掲クル二以上ノ資格ヲ有スル者ハ之ヲ一人トス

第十二條　水産會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十三條　水産會成立シタルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　郡市水産會ニ總代會、其ノ他ノ水産會ニ總會ヲ置ク

總代會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル水産會ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十五條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ置クコトヲ得

行政官廳ハ水産會ノ特別議員ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　左ニ掲クル事項ハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

一　收支豫算

二　經費ノ分賦收入方法

三　事業報告及收支決算ノ承認

四　豫算ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負ヒ又ハ權利ヲ失フヘキ行爲

五　基金ノ造成、管理及處分

六　不動産ニ關スル權利ノ得喪及變更

七　會則ノ變更

八　役員及特別議員ノ選任及解任

九　訴願、訴訟及和解

前項第一號、第二號、第四號及第七號ニ揭クル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十七條　總代會又ハ總會ハ會長之ヲ招集ス但シ第一回ノ總代會又ハ總會ハ水産會成立シタルトキ遲滯ナク設立申請者之ヲ招集スヘシ

議員又ハ特別議員ハ議員及特別議員ノ總數ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總代會又ハ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

會長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後十四日以内ニ總代會又ハ總會ヲ招集セサルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條　議員及特別議員ハ總代會又ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス

第十九條　總代會及總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十條　會則ノ變更ハ總代會又ハ總會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

郡市水産會ノ會則ノ變更カ地區ノ增減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依ル議決ノ外新ニ編入又ハ削除セラルヘキ區域内ノ會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　水産會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長

副會長

評議員　數人

役員ハ郡市水産會ニ在リテハ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ總會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依ル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十二條　會長ハ水産會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ竝會務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

第二十三條　總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總代會又ハ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ專決處分スルコトヲ得但シ第十六條第二項ノ事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總代會又ハ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十四條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ委員會ヲ置クコトヲ得

左ニ揭クル者ヲ以テ委員トス

一　會長

二　副會長

三　會則ニ定メタル方法ニ依リ選任シタル者

第二十五條　委員會ハ仲裁判斷其ノ他會則ニ定ムル事項ニ關シ審議決定ス

第二十六條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

郡市水産會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ會長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ水産會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

市町村カ前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セス又ハ九十日以内ニ之ヲ完了セサルトキハ會長ハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村制第百十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次キ其ノ時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　帝國水産會ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國ニ於テ設立シタル水産會ニ準スル法人其ノ他ノ團體ヲ會員ト爲スコトヲ得

第二十八條　行政官廳ハ水産會ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ會則、收支豫算又ハ經費ノ分賦及收入ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　行政官廳ハ水産會ノ總代會、總會若ハ委員會ノ決議又ハ役員若ハ委員ノ行爲ニシテ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員若ハ委員ヲ解任シ、議員ノ改選ヲ命シ水産會ノ事業ヲ停止シ又ハ水産

會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十條　水產會解散又ハ合併若ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ其ノ事由ヲ具シ倘分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各水產會ノ會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且水產會ノ權利義務ノ限度ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ規定スル會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　水產會ハ債權者ノ同意ヲ得又ハ異議アル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ水產會ノ解散、合併若ハ分割ヲ爲シ又ハ地區ノ增減ニ關スル會則ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條　合併後存續スル水產會又ハ合併ニ因リテ設立シタル水產會ハ合併ニ因リテ消滅シタル水產會ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル水產會ハ第三十條ノ規定ニ依リテ定リタル限度ニ於テ從前ノ水產會ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十三條　水產會ハ解散ノ後ト雖淸算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ倘存續スルモノト看做ス

第三十四條　水產會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ淸算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總代會若ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ淸算人タル者ナキトキハ行政官廳淸算人ヲ選任ス淸算人闕ケタルトキ亦同シ

第三十五條　淸算人ハ水產會ヲ代表シ淸算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

淸算ノ方法及財產處分ニ付テハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ淸算ノ方法及財產處分ノ變更ヲ命シ又ハ淸算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十七條　本法ニ於テ郡市町村トアルハ郡制市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ存スル水產組合及水產組合聯合會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ本法ニ依ル水產會ト爲スコトヲ得

●朝鮮水產會令施行規則

大正十二年二月　總令第二十七號

朝鮮水產會令施行規則左ノ通定ム

朝鮮水產會令施行規則

第一條　左ニ掲クル者ハ道水產會ノ會員ヨリ之ヲ除外ス

一　國及公共團體
二　鹽業者
三　小賣ヲ主タル目的トスル製造業者及販賣業者
四　水產物ノ保管ヲ主タル目的トセサル保管業者

前項ニ掲クル者ノ外道知事ニ於テ特ニ道水產會ノ會員ヨリ除外スルノ必要アリト認ムル者アルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二條　水產會ヲ設立セムトスルトキハ道水產會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者三十人以上、朝鮮水產會ニ在リテハ二以上ノ道水產會發起人ト爲リ會員タル資格ヲ有スル者ニ事業ノ概目、創立費用及收支ノ概算竝經費分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

第三條　發起人創立總會ヲ招集セムトスルトキハ朝鮮水產會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、道水產會ニ在リテハ少クトモ二十日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ會員タル資格ヲ有スル者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

第四條　創立總會ノ議事ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

道水產會ノ創立總會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者ハ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十五條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス

第五條　水產會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第六條　創立總會終了シタルトキハ發起人ハ遲滯ナク設立認可申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條　會則ニハ朝鮮水產會令又ハ本令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　目的
二　名稱
三　主タル事務所ノ所在地
四　役員ノ定數及任期ニ關スル規定
五　議員ノ任期、選任及解任ニ關スル規定
六　會議ニ關スル規定
七　會計ニ關スル規定

第八條　水產會成立シタルトキハ朝鮮總督ハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及認可ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條　水產會ノ議員ノ定數ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ道水產會ニ在リテハ二十人、朝鮮水產會ニ在リテハ三十五人ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　道水產會ノ議員ハ會員中ヨリ道知事ノ任命シタル選擧人ノ投票ニ依リ之ヲ選任ス但シ選擧人ノ定數ハ議員定數ノ三倍ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ選擧人ノ住所氏名及職業ハ少クトモ投票期日三十日前ニ道知事之ヲ公示スヘシ

朝鮮水產會ノ議員ハ道水產會ノ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ之ヲ選任ス

第十一條　道水產會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員ヲ業種及區域ニ分チ各別ニ所定ノ議員ヲ選任セシムルコトヲ得

第十二條　水產會ノ議員ノ選任ニ關スル事務ハ會長之ヲ管理ス但シ第一回ノ選任ニ付テハ設立申請者中ノ一人之ヲ管理ス

前項但書ノ規定ニ依ル管理者ハ設立申請者ノ互選ニ依リ之ヲ定メ行政官廳ニ屆出ツヘシ

第十三條　總代會又ハ總會ヲ招集セムトスルトキハ朝鮮水產會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、道水產會ニ在リテハ少クトモ二十日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ議員及特別議員ニ通知スヘシ

前項ノ期間ハ會則ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第十四條　總代會又ハ總會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ會則ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　總代會又ハ總會ノ議長ハ議事錄ヲ作リ左ニ掲クル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名スヘシ

一　開會ノ日時及場所
二　議員及特別議員ノ定數
三　出席者ノ員數
四　議事ノ要領
五　議決シタル事項及贊否ノ數

第十六條　水產會ノ事業年度ハ每年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條　收支豫算及經費分賦收入方法ノ認可申請書ハ少クトモ每事業年度開始三十日前ニ之ヲ差出スヘシ但シ初年度ニ在リテハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

第十八條　事業報告及收支決算ハ每事業年度經過後一年內ニ總代會又ハ總會ノ承認ヲ受ケ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ差出スヘシ

第十九條　役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附シ倘會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ役員ヲ選任シタル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十條　水產會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ主事、技師、水產製品檢査員其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

主事及技師ノ命免ハ之ヲ行政官廳ニ屆出ツ

ヘシ

水產製品檢査員ノ命免ニ關シテハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　道水產會ハ總代會ノ決議ヲ經テ會員ノ製造ニ係ル水產製品ノ檢査ニ關スル規程ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規程ニハ檢査スヘキ製品ノ種類、檢査ノ方法、檢査手數料竝製品ニ附スヘキ水產會ノ證票及檢査證ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

第一項ノ規程ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條　經費ヲ徵收セムトスルトキハ會長ハ納入義務者ニ對シ納金額、納期限及納付ノ場所ヲ記載シタル納入告知書ヲ發スヘシ

第二十三條　經費ヲ滯納シタル者アルトキハ會長ハ更ニ期限ヲ指定シテ其ノ納入ヲ催告スルコトヲ得

第二十四條　經費又ハ過怠金ノ徵收ヲ府面ニ囑託セムトスルトキハ會長ハ各納入義務者ノ納金額及納期限ヲ記載シタル書面ヲ府面ニ交付スヘシ

第二十五條　第二十二條及第二十三條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル府面ニ之ヲ準用ス

府面ニ於テ徵收シタル金額ハ其ノ月分ヲ翌月中ニ之ヲ道水產會ニ送納スヘシ

第二十六條　朝鮮水產會令第五條第二項ニ依リ收入金納入義務ノ免除ヲ受ケムトスルトキハ府面ハ其ノ事由ヲ詳具シ道水產會ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ道水產會ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其ノ免除ヲ爲ササルトキハ府面ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日內ニ朝鮮總督ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第二十七條　經費及過怠金ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ納入告知書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ會長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ニ對シ會長ノ爲シタル決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日內ニ行政官廳ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條　會則ノ施行又ハ事業ノ執行ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢セムトスルトキハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十九條　朝鮮水產會令又ハ本令ニ於テ行政官廳ト稱スルハ水產會法第六條ノ場合ヲ除クノ外朝鮮水產會ニ付テハ朝鮮總督、道水產會ニ在リテハ道知事トス但シ水產會ノ設立及解散、會則ノ變更竝役員ノ選任及解任ニ關スル事項ニ在リテハ朝鮮總督トシ道水產會ニ關スル水產會法第二十八條及第二十九條中役員ノ解任及水產會ノ解散以外ノ事項ニ在リテハ朝鮮總督及道知事トス

第三十條　朝鮮水產會令及本令ノ規定ニ依リ道知事ニ於テ處分シタル事項ハ其ノ都度之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第三十一條　第二十一條ニ規定スル水產會ノ證票若ハ檢査證ヲ不正ニ使用シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢査證ヲ使用シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ朝鮮水產會令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮水產組合各道ノ支部ヲ道水產會ト爲サムトスルトキハ支部長ハ會則ヲ定メ其ノ區域內ニ於テ漁業ヲ營ム者及其ノ區域內ニ於ケル漁業權ヲ有スル者ヲ除クノ外道水產會ノ會員タル資格ヲ有スル者三分ノ一以上ノ同意ヲ得本令施行後六十日內ニ朝鮮總督ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アルコトヲ證スル書面及初年度經費收支豫算ヲ添附スヘシ

第二項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ハ道知事ノ認定ニ依ル

第二項ノ規定ニ依リ設立シタル道水產會ニ在リテハ第十二條ニ規定スル第一回ノ議員選任ニ關スル事務ハ支部長之ヲ管理ス

第五章　狩獵

●狩獵規則

明治四十四年四月　總令第四十六號
改正　大正元年九第一九號、四年九第九九號、一四年九第八四號、昭和二年八第八四號

狩獵規則左ノ通定ム

狩獵規則

第一條　野生鳥獸ハ左ニ掲クルモノヲ除クノ外銃器、網、黐繩、擌又ハ鷹ヲ使用シテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

鳩、鶸、黃道眉、千鳥、尾長鳥、鷲、雁、鴨（鴛鴦、冠筑紫鴨ヲ除ク）、鴉、鵲、椋鳥、鶫（虎鶫、黑鶫ヲ除ク）、鶉、鷽、鋸嘴鴨、秋鷄、花鷄、蒿雀、雉、鷸、蠟嘴、鵯、鶸、鵙、雀

鼬、猪、豹、虎、栗鼠、狼（ヌクテヲ含ム）、牡鹿、羚羊、獺、狸、兎、獐、熊、山猫、貂（黑貂ヲ除ク）、貛、狐、羆

鶴ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

野生鳥類ノ巢、卵又ハ雛ハ之ヲ採取スルコトヲ得ス

第二條　道知事ハ鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲必要アリト認ムルトキハ區域ヲ定メ鳥獸ノ捕獲ヲ禁止スルコトヲ得

左ノ場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

一　公園
二　社寺、陵、園、廟又ハ祠ノ境內
三　公道

第三條　爆發物、劇藥、毒藥、据銃、陷穽又ハ危險ナル罠ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第四條　日出前、日沒後又ハ市街其ノ他人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　欄、柵、圍障若ハ作物植付アル他人ノ占有地ニ於テハ占有者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第六條　學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事由ニ依リ野生鳥獸ヲ捕獲シ又ハ野生鳥類ノ巢、卵若クハ雛ヲ採取スル必要アルトキハ道知事ハ道內ニ限リ第一條乃至第四條及第七條ノ規定竝第八條ノ二ノ期間ニ拘ラス特ニ之ヲ許可シ又ハ地域ヲ定メ第一條乃至第四條及第八條ノ二ノ制限又ハ禁止ヲ解除スルコトヲ得

道知事前項ノ規定ニ依リ許可シタルトキハ許可證ヲ下付ス

許可證ハ他人ヲシテ之ヲ使用セシムルコトヲ得ス

第六條ノ二　前條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ノ各號ニ掲クル事項ヲ記載シ捕獲又ハ採取セムトスル地ヲ管轄スル道知事ニ之ヲ提出スヘシ

一　本籍、住所（朝鮮內ニ住所ヲ有セサル者ニ在リテハ住所ノ外假住所以下同シ）、氏名、職業及生年月日
二　目的、期間、地域及方法
三　捕獲スヘキ野生鳥獸又ハ採取スヘキ野生鳥類ノ巢、卵若ハ雛ノ名稱及員數
四　第一條乃至第四條ノ規定又ハ第八條ノ二ノ期間ニ依リ難キ場合ニ於テハ其ノ事由
五　第三條ノ規定ニ依リ難キ事由アル場合ニ於テハ危害豫防ノ方法

第七條　銃器、網、黐繩、擌又ハ鷹ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲セムトスル者ハ道知事ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ但シ欄、柵其ノ他ノ圍障アル邸宅地域內ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

免狀ハ他人ヲシテ之ヲ使用セシムルコトヲ得ス

第七條ノ二　前條ノ銃器、網、黐繩及擌ノ種類左ノ如シ

一　銃器　裝藥銃其ノ他瓦斯力ニ因リ彈丸ヲ發射スル銃器及散彈ヲ使用シ得ヘキ空氣銃
二　網　羅罠、霞網其ノ他ノ張網、突網及投網
三　黐繩　流黐及張黐繩
四　擌　高擌及千本擌

第八條　免狀ヲ分チテ甲種、乙種及特別ノ三種トス

甲種免狀ハ網、鵰繩、撲又ハ鷹ヲ使用シテ野生鳥獸ヲ捕獲セムトスル者ニ、乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ野生鳥獸ヲ捕獲セムトスル者ニ、特別免狀ハ藥用材料採取ノ爲銃器ヲ使用シテ牡鹿、熊其ノ他一定ノ野生獸類ヲ捕獲セムトスル者ニ之ヲ下付ス

第八條ノ二　甲種及乙種免狀ノ有效期間ハ九月十五日ヨリ翌年四月末日迄トス但シ虎、豹、熊、羆、山猫、狼（ヌクテ）、猪及獐以外ノ獸類竝雌ノ捕獲ニ在リテハ十一月一日ヨリ翌年二月末日迄、牡鹿ノ捕獲ニ在リテハ二月一日ヨリ四月末日迄トス

特別免狀ノ有效期間ハ一年トス但シ牡鹿ノ捕獲ニ在リテハ二月一日ヨリ八月末日迄トス

第八條ノ三　第七條第一項ノ規定ニ依リ免狀ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ノ各號ニ掲クル事項ヲ記載シ住所地（（朝鮮内ニ住所ヲ有セサル者ニ在リテハ假住所地ヲ下同シ）ヲ管轄スル道知事ニ之ヲ提出スヘシ

一　本籍、住所、氏名、職業及生年月日

二　免狀ノ種類

三　特別免狀ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ捕獲セムトスル野生獸類ノ名稱

乙種又ハ特別免狀ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ前項ノ願書ニ寫眞（半身、無臺紙、大サ凡ソ縦二寸横一寸三分）一葉ヲ添付スヘシ

第八條ノ四　免狀ハ第一號樣式ニ依ル

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

一　十七歳未滿ノ者

二　白痴瘋癲者

三　第十五條第一項第一號乃至第五號又ハ第七號ノ處罰ヲ受ケ滿一年ヲ經過セサル者

第十條　第八條ニ規定スル免狀ヲ受クル者ハ左ノ免許手數料ヲ納付スヘシ

甲種免狀　金七圓

乙種免狀　金二十圓

特別免狀　金七十圓

第十一條　免狀又ハ許可證ハ出獵ノ際之ヲ攜帶スルコト

二　注意事項

一　捕獲シ得ヘキ鳥獸

鳧（ホホジロ）、鶫（アカハラ）、鶇（ソシガン）、鴛鴦、冠鵐（カラス）、鵲（カササギ）、鳩（ケクス、ツグミ）、鳶、鵯（虎鶫）、黄道眉、千鳥、尾長鳥、鷲、雁、鴨、紫鴨（シノリガモ）、鴛鴦（ウソ）、鷭（クイナ）、鷸（アトリ）、鷓鴣（ヤマドリ）、鶉、鷓鴣（ウズラ）、鵜、鷺、鸕（ウミウ）、鷁、秧鶏、花鶏、鵞雀、雉（キジ）、鷸（シギ）、鷆（ヒシクイ）、鶴、鸛（コウノトリ）、鸛（オホカミ）、鵰（カモシカ）、鵰（カワウソ）、鵰（タヌキ）、鵰（ウサギ）、鵰（ノロ）、鵰（クマ）、鵰（ヤマネコ）、豹、虎、栗鼠、狼（ヌクテ）、牡鹿、羚鹿、獺、狸、兎、獐、熊、山猫、貂（黒貂ヲ除ク）、獾（ハクビシン）、狐、羆

野生鳥類ノ巣、卵又ハ雛ハ之ヲ採取セサルコト

二　左ノ場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲セサルコト

一　公園

二　社寺、陵、園、廟又ハ祠ノ境内

三　公道

三　日出前、日沒後又ハ市街地其ノ他人家稠密ノ場所、乘人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲ササルコト

四　虎、豹、熊、羆、山猫、狼（ヌクテ）、猪及獐以外ノ獸類竝雌ノ捕獲ハ十一月一日ヨリ翌年二月末日迄、牡鹿ノ捕獲ハ二月一日ヨリ四月末日迄トス

五　免狀ハ出獵ノ際之ヲ携帶スルコト

六　警察官吏又ハ森林官吏ハ免狀及捕獲シタル野生鳥獸ヲ檢査シ得ルモノトス

七　住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ其ノ旨ヲ道知事ニ届出テ免狀ノ書換ヲ請求スルコト

住所ヲ他ノ道ニ變更シタルトキハ十日以内ニ免狀ノ種類、番號及之ヲ下付シタル道知事名竝本籍、住所、氏名、職業及生年月日ヲ其ノ地ヲ管轄スル道知事ニ届出テ免狀ノ書換ヲ請求スルコト

八　免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク道知事ニ届出ツルコト

九　免狀カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ之ヲ下付シタル道知事ニ返納スルコト

十　道知事ニ提出スベキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スルコト

第二號樣式（用紙白色厚紙二折）

表

狩獵許可證	
番號	
本籍	
住所	
氏名	
生年月日	
職業	
目的	
地域	
方法	

二寸五分

三寸五分

裏

昭和　年　月　日

「何」道印

内

注意事項

一　捕獲シ得ヘキ鳥獸

鳧（ホホジロ）、鶫（アカハラ）、鶇（ソシガン）、鴛鴦、冠鵐（カラス）、鵲（カササギ）、鳩（ケクス、ツグミ）、鳶、鵯（虎鶫）、黄道眉、千鳥、尾長鳥、鷲、雁、鴨、紫鴨（シノリガモ）、鴛鴦（ウソ）、鷭（クイナ）、鷸（アトリ）、鷓鴣（ヤマドリ）、鶉、鷓鴣（ウズラ）、鵜、鷺、鸕（ウミウ）、鷁、秧鶏、花鶏、鵞雀、雉（キジ）、鷸（シギ）、鷆（ヒシクイ）、鶴、鸛（コウノトリ）、鸛（オホカミ）、鵰（カモシカ）、鵰（カワウソ）、鵰（タヌキ）、鵰（ウサギ）、鵰（ノロ）、鵰（クマ）、鵰（ヤマネコ）、豹、虎、栗鼠、狼（ヌクテ）、牡鹿、羚鹿、獺、狸、兎、獐、熊、山猫、貂（黒貂ヲ除ク）、獾（ハクビシン）、狐、羆

野生鳥類ノ巣、卵又ハ雛ハ之ヲ採取セサルコト

二　左ノ場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲セサルコト

一　公園

二　社寺、陵、園、廟又ハ祠ノ境内

三　公道

三　日出前、日沒後又ハ市街地其ノ他人家稠密ノ場所、乘人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲ササルコト

第二號樣式（用紙白色厚紙二折）

表

狩獵許可證	
番號	
本籍	
住所	
氏名	
生年月日	
職業	
目的	
地域	
方法	

二寸五分

三寸五分

面

寫眞欄

一寸三分

特別免狀ニ在リテハ道印、乙種免狀ニ在リテハ署印

警察官吏又ハ森林官吏ハ免狀若ハ許可證、捕獲シタル野生鳥獸又ハ採取シタル野生鳥類ノ巣、卵若ハ雛ヲ檢査スルコトヲ得

第十一條ノ二　免狀又ハ許可證ヲ受ケタル者住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ其ノ旨道知事ニ届出テ住所又ハ氏名ノ書換ヲ請求スヘシ

前項ノ場合ニ於テ新住所地カ他ノ道知事ノ管轄ニ屬スルトキハ十日以内ニ免狀ノ種類、免狀又ハ許可證ノ番號及之ヲ下付シタル道知事名竝本籍、住所、氏名、職業及生年月日ヲ其ノ地ヲ管轄スル道知事ニ届出テ前項ノ書換ヲ請求スヘシ

第十一條ノ三　免狀又ハ許可證ヲ受ケタル者之ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク之ヲ下付シタル道知事ニ届出ツヘシ

第十二條　免狀又ハ許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ之ヲ下付シタル道知事ニ其ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免狀ノ再下付ヲ受ケムトスル者ハ手數料金一圓ヲ納付スヘシ

第十三條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

第十三條ノ二　免狀及許可證カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ之ヲ下付シタル道知事ニ返納スヘシ

前項ノ規定ニ依リ許可證ヲ返納スル場合ニ於テハ捕獲シタル野生鳥獸又ハ採取シタル野生鳥類ノ巣、卵若ハ雛ノ種類及員數ヲ届出ツヘシ

第十四條　野生鳥類又ハ其ノ剝製品若ハ羽毛ノ輸出又ハ移出ノ警察ヲ爲サムトスル者ハ道知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條ノ二　本令ニ違反シテ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ巣、卵若ハ雛ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第十四條ノ三　道知事ニ提出スヘキ書類ハ住所地ヲ管轄スル警察署ヲ經由スヘシ

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第三號ノ場合ニ在リテハ告訴ヲ待テ之ヲ處斷ス

一　第一條、第二條第二項、第三條、第四條、第八條ノ二第一項及第二項但書ニ違反シタル者

二　第二條第一項ノ禁止區域ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シタル者

三　第五條ニ違反シタル者

四　免狀又ハ許可證ヲ有セシテ銃器、網、鵰繩、撲又ハ鷹ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲シタル者

五　不實ノ申告ヲ爲シテ免狀又ハ許可證ヲ受ケタル者

六　第十四條ニ違反シタル者

七　第十四條ノ二ニ違反シタル者

前項第一號乃至第五號又ハ第七號ノ所爲ハ未遂罪ヲ罰ス

第一項第一號乃至第五號又ハ第七號ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀又ハ許可證ハ其ノ效力ヲ失フ

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一　第六條第三項、第七條第二項、第十一條第一項、第十一條ノ二又ハ第十三條ノ二第一項ニ違反シタル者

二　第十一條第二項ノ檢査ヲ拒ミタル者

三　第十一條ノ三又ハ第十三條ノ二第二項ノ届出ヲ爲ササル者又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者

附　則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ施行ス

附　則（大正十四年九月總令第八十四號）

本令ハ大正十四年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ免許手數料額ニ關スル改正規定ハ大正十四年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ受ケタル免狀ハ本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス

附　則（昭和二年八月總令第八十四號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年警務總監部令第十號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ效力ヲ有スル許可證又ハ免狀ハ本令ニ依リ之ヲ下付シタルモノト看做ス

第二號樣式（用紙厚紙二折）

表

狩獵免狀								
番號	捕獲セムトスル野生獸類名	本籍	住所	職業	氏名	生年月日	有效期間	印
							自昭和　年　月　日 至昭和　年　月　日	甲種 乙種 （特別）

二寸五分

三寸五分

一　甲種　赤色紙

乙種　青色紙

一　特別　白色紙

一　表面輪廓ヲ唐草模樣トス

一　甲種及乙種免狀ノ表面ニハ「捕獲セムトスル野生獸類名」ノ欄ヲ除ク

裏面

昭和　年　月　日

「何」道

印

内面

鳥獣等ノ種類員數	
有效期間	自昭和　年　月　日 至昭和　年　月　日
許可條件	

注意事項

一　許可證ハ出獵ノ際之ヲ携帶スルコト

二　警察官吏又ハ森林官吏ハ許可證、捕獲シタル野生鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ巢、卵若ハ雛ヲ檢査シ得ルモノトス

三　住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ十日以內ニ其ノ旨ヲ道知事ニ屆出テ許可證ノ書換ヲ請求スルコト

住所ヲ他ノ道ニ變更シタルトキハ十日以內ニ許可證ノ番號及之ヲ下付シタル道知事名並本籍、住所、氏名、職業及生年月日ヲ其ノ地ヲ管轄スル道知事ニ屆出テ許可證ノ書換ヲ請求スルコト

四　許可證ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シテ遲滯ナク道知事ニ屆出ツルコト

五　許可證カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以內ニ之ヲ下付シタル道知事ニ返納スルコト

六　許可證返納ノ際ハ捕獲又ハ採取シタル鳥獸等ノ種類、員數ヲ屆出ツルコト

七　道知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スルコト

狩獵規則取扱手續

昭和二年九月
總訓第二十三號

道知事
警察署長

狩獵規則取扱手續左ノ通定ム

第一條　狩獵規則（以下單ニ規則ト稱ス）第六條ノ規定ニ依ル許可ノ有效期間ハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外一般狩獵期間ニ亙ラザル範圍內ニ於テ之ヲ定ムベシ

第二條　道知事ハ學術研究ノ爲既ニ他ノ道ニ於テ規則第六條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外學術研究ノ爲同一期間內ニ於ケル同一種類ノ野生鳥獸ノ捕獲又ハ野生鳥類ノ巢、卵若ハ雛ノ採取ノ許可ヲ爲スベカラズ

第三條　道知事ハ學術研究ノ爲許可證ヲ下付シタルトキハ第一號樣式狩獵許可證下付臺帳ニ記載スベキ事項（第六條第一項ヲ除ク）其ノ他必要ナル事項ヲ其ノ都度免狀若ハ許可證ノ番號並本籍、新住所、氏名、職業、生年月日其ノ他必要ナル事項ヲ其ノ都度免狀若ハ許可證ヲ下付シタル道知事又ハ之ニ關スル事項ヲ專行シタル警察署長ニ報告又ハ通報スベシ

第七條　道ニハ第一號樣式、第二號樣式及第四號樣式ノ帳簿ヲ備フベシ

第八條　免狀又ハ許可證ノ返納ヲ受ケタルトキハ消印又ハ抹消ニ依リ失效免狀又ハ失效許可證ナルコトヲ明ニシ臺帳ニ返納年月日ヲ記入シタル後之ヲ破棄スベシ

第九條　警察署長ハ第五號樣式ニ依リ六月三十日迄ニ狩獵免狀受拂及其ノ年度所要概算高ヲ道知事ニ報告スベシ

第十條　警察署長ハ甲種及乙種免狀亡失ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ者ノ本籍、住所、氏名及生年月日、免狀ノ種類、番號、下付年月日並亡失ノ日時及場所ヲ道知事ニ報告スベシ

第十一條　道知事ハ前條ノ規定ニ依ル報告又ハ特別免狀若ハ許可證ノ亡失ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ亡失ニ付公告スベシ

第十二條　道知事ハ規則第六條ノ規定ニ依リ地域ヲ定メ規則第一條乃至第四條及第八條ノ二ノ制限又ハ禁止ヲ解除セントスルトキハ獵メ其ノ期間及地域、捕獲又ハ採取シ得ベキ野生鳥獸ノ巢、卵若ハ雛ノ種類並制限又ハ禁止ヲ解除スベキ事由ヲ具シ猶鮮總督ノ指揮ヲ受クベシ

第十三條　本手續ニ於ケル年度ハ其ノ年五月一日ヨリ翌年四月末日迄トス

第一號樣式（手續第十條）

狩獵許可證下付臺帳

下付年月日	昭和　年　月　日	許可番號	第　號	返納年月日	昭和　年　月　日
本籍		氏名 生年月日 職業			
住所					

契印	下付年月日	免狀ノ種類	免狀ノ番號	本籍、住所	氏名、生年月日、職業	返納年月日	備考

注意

一　本帳簿ハ免狀ノ種類別ニ各口座ヲ設ケ整理スルコト

二　本帳簿ニハ住所變更ニ依リ所轄外ヨリ轉入アリタル場合ニ於テハ下付ニ準ジ之ヲ記載シ其ノ旨備考欄ニ記入スルコト

第二號樣式（手續第七條）

特別狩獵免狀下付臺帳

目的		鳥獸ノ種類員數	
地域			
有效期間	自昭和　年　月　日 至昭和　年　月　日		
方法			
許可條件			
備考			

第三號樣式（手續第七條）

狩獵免狀下付臺帳

下付年月日	昭和　年　月　日	免狀ノ番號	第　號	返納年月日	昭和　年　月　日
本籍		氏名 生年月日 職業			
住所					
野生鳥獸類名					
備考					

第四號樣式（手續第七條）

狩獵免狀用紙受拂簿

年月日	免狀ノ種類	受入高	下付高	破棄高	現在高	備考

注意

一　本帳簿ハ免狀ノ種類別ニ各口座ヲ設ケ整理スルコト

二　受入高及下付高欄ニハ一日間ニ受拂ヲ爲シタル合計數ヲ記載スルコト

三　破棄高欄ニハ書損其ノ他汚損等ニ依リ破棄シタル數ヲ記載シ且備考欄ニ其ノ事由ヲ明記シ置クコト

第五號樣式（手續第九條）

狩獵免狀受渡及本年度所要概算高報告

昭和　年　月　日

「何」警察署

免狀ノ種類	越高	受入高	下付高	破棄高	殘高	本年度使用見込高	請求高
甲種							
乙種							

注意

一　越高欄ニハ前年度ノ狩獵終期後ノ五月一日ニ於ケル現在高ヲ記載スルコト

二　受入高欄ニハ前年五月一日ヨリ其ノ年四月三十日迄ノ間ニ受入タル數ヲ記載スルコト

三　下付高欄ニハ前號ノ期間内ニ下付シタル數ヲ記載スルコト

四　破棄高欄ニハ書損、汚損其ノ他ノ事由ニ因リ使用ニ堪ヘズシテ破棄シタル數ヲ記載スルコト（返納ヲ受ケ破棄シタルモノヲ含マズ）

五　殘高欄ニハ越高ト受入高トヲ合算シタル數ヨリ下付高ト破棄高トヲ合算シタル數ヲ差引キタル殘高ヲ記載スルコト

六　本年度使用見込高欄ニハ其ノ年五月一日ヨリ翌年四月三十日迄ノ下付見込數ヲ記載スルコト

七　請求高欄ニハ其ノ年度使用見込高ヨリ前年度殘高ヲ差引キタル不足見込數ヲ記載スルコト

●明治四十五年法律第二十一號ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件

明治四十五年六月
勅令第百三十五號

朕明治四十五年法律第二十一號ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治四十五年四月十五日

内閣總理大臣　侯爵　桂　太郎

樞密院議長　伯爵　伊東巳代治

明治四十五年法律第二十一號ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件

明治四十五年六月
法律第二十一號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル臘虎腊肭獣獵獲禁止ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　白令海、勘察加海、オコック海及日本海ヲ包含スル北緯三十度以北ノ北太平洋ニ於テハ臘肭獣ノ獵獲ヲ爲スコトヲ得ス

帝國ノ海岸ヨリ三海里ヲ超ユル前項ノ海面ニ於テハ臘虎ノ獵獲ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　臘肭獣ノ陸上獵獲及帝國ノ海岸ヨリ三海里ヲ超エサル幅員内ニ於ケル臘虎ノ獵獲ハ政府ニ專屬ス

第三條　臘虎腊肭獣又ハ其ノ獣皮ハ之ヲ帝國内ニ輸入又ハ移致スルコトヲ得ス但シ命令ヲ以テ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　海軍艦艇乘組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ必要アリト認ムルトキハ船舶店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ、帳簿物件ヲ檢査シ又ハ本法ニ違反スル行爲アリト認ムルトキハ船舶船具獵具船舶證書若ハ獵獲物ヲ差押ヘ、船員ヲ拘留シ若ハ之ヲ相當官吏ニ引致スルコトヲ得

第五條　第一條ノ規定ニ違反シ又ハ私ニ第二條ノ獵獲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ犯罪若ハ其ノ準備ノ爲土地家屋船舶其ノ他ノ物件ヲ使用シ若ハ使用セシメタル者又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ罰前項ニ同シ

第六條　前條第一項ノ犯罪行爲ニ供シタル船舶船具獵具及本法ニ違反シテ獵獲輸入又ハ移致シタル臘虎腊肭獣又ハ其ノ獣皮ニシテ犯人ノ所有スルモノハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第七條　第四條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八條　本法ハ命令ノ定ムル所ニ依リ「アイノ」人ニ之ヲ適用セサルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臘虎腊肭獣獵法ハ之ヲ廢止ス

第六章　組合

●朝鮮産業組合令

大正十五年一月
制令第一號

朝鮮産業組合令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮産業組合令

第一章　總　則

第一條　本令ニ於テ産業組合ト稱スルハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲左ニ揭クル事項ノ全部又ハ一部ヲ目的トシテ設立スル社團法人ヲ謂フ

一　組合員ノ生産シタル物ニ加工又ハ加工セシテ之ヲ賣却スルコト

二　産業若ハ經濟ニ必要ナル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣却シ又ハ産業若ハ經濟ニ必要ナル物ヲ生産シテ組合員ニ賣却スルコト

三　組合員ヲシテ産業又ハ經濟ニ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト

第二條　産業組合ノ組合員ハ組合ノ區域内ニ居住スル者ニ限ル

第三條　産業組合ノ住所ハ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條　産業組合ノ名稱中ニハ産業組合ナル文字ヲ用フヘシ

産業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第五條　産業組合ニハ本令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條　本令ニ規定スルモノノ外産業組合ノ業務ノ取締ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二章　設　立

第七條　産業組合ヲ設立セムトスル者ハ定款ヲ作リ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　定款ニハ本令ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

一　目的
二　名稱
三　區域
四　主タル事務所ノ所在地
五　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
六　第一回拂込ノ金額
七　剩餘金處分ニ關スル規定
八　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
九　組合員タル資格ニ關スル規定
十　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定
十一　組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定
十二　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第九條　産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十條　出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ

出資一口ノ金額ノ最高限ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十一條　産業組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十二條　前條ノ拂込アリタルトキハ二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スヘシ

一　第八條第一號乃至第三號、第五號及第十二號ニ揭クル事項

二　主タル事務所
三　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
四　設立許可ノ年月日
五　組合長、理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ揭クル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

但シ前項第三號ノ事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ年度終了後一月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十三條　前條ノ登記前ニ在リテハ組合ノ設立ニ關スル法律ノ規定ニ依リ設立ノ登記ヲ爲スヘキ事項ノ變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條　行政區畫又ハ土地ノ名稱ニ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

前項ノ變更アリタルトキハ産業組合ハ遲滯ナク之ヲ登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知アリタルトキハ登記簿ノ記載ヲ變更スヘシ

第一項ノ規定ハ組合ノ區域及事務所所在地ニ關スル定款ノ規定ニ之ヲ準用ス

第十五條　民法第四十七條及第四十八條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス但シ同法第四十八條中一週間トアルハ二週間トス

第三章　組合員ノ權利義務

第十六條　組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

第十七條　組合員ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

第十八條　組合員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條　組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ

組合員ノ持分ハ質權ノ目的トスコトヲ得ス

第二十條　組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條　持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十二條　組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

組合長ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ組合長ハ二週間内ニ總會招集ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條　組合員總會招集ノ手續又ハ其ノ決議ノ方法カ本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ定款ニ違反シ又ハ之ヲ認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ道知事ニ請求スルコトヲ得

第四章　管　理

第二十四條　産業組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長

理事

一人又ハ數人

監事

二人以上

組合長ハ理事及監事ノ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス

組合長及理事ノ選任ハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

産業組合設立當時ノ組合長、理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十五條　組合長、理事及監事ノ選任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十六條　組合長及理事ノ任期ハ三年ヲ超エサル範圍内ニ於テ定款ヲ以テ之ヲ定ム但シ定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ決算期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ル迄其ノ任期ヲ伸長スルコトヲ得

監事ノ任期ハ二年ヲ超エサル範圍内ニ於テ定款ヲ以テ別段ニ定ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　組合長ハ産業組合ヲ代表ス

組合長ハ總會ノ議長ト爲ル

組合長事故アル場合又ハ闕員ノ場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依リ理事之ヲ代理シ又ハ其ノ職務ヲ行フ

第二十八條　組合長及理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ産業組合ノ業務ヲ執行ス

第二十九條　民法第四十四條第一項、第五十一條第一項ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス但シ同條中理事トアルハ組合長トス

第三十條　監事ハ其ノ他ノ役員又ハ組合ノ職員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第三十一條　民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　組合長及理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合ヲ代表スル權限ヲ有スル者ニ對シ組合ノ業務ニ關スル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ニ付委任ヲ爲スコトヲ得

第三十三條　組合長ハ總會ノ招集ヲ決スルトキハ會日ヨリ少クトモ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ揭クル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十四條　組合長ハ前條第一項ニ揭クル書類及監事ノ意見書ヲ定時總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

組合長ハ前項ノ承認ヲ得タルトキハ二週間内ニ其ノ書類ヲ道知事ニ提出シ且貸借對照表ヲ公告スヘシ

第三十五條　産業組合カ其ノ組合員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル組合員ノ住所又ハ其ノ者カ組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第三十六條　民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス

第三十七條　組合員ノ住所又ハ其ノ者カ組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第三十八條　組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　各組合員ノ氏名及住所
二　各組合員ノ出資口數
三　出資各口ニ付拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日

四　出資各口ノ取得ノ年月日

組合員及組合ノ債權者ハ第一項ニ揭クル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十九條　組合長ハ定時總會ノ會日ヨリ少クトモ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

第四十條　民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス

第四十一條　定款ノ變更ハ總會ノ決議ヲ經朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ決議ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條　産業組合ハ定款ヲ各事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　各組合員ノ氏名及住所
二　各組合員ノ出資口數
三　出資各口ニ付拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日

四　出資各口ノ取得ノ年月日

組合員及組合ノ債權者ハ第一項ニ揭クル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得ス

第四十三條　産業組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ

産業組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アルトキハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スヘシ

但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十四條　債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十五條　組合員カ出資ノ拂込ヲ終ヘ迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ

前項ノ配當スヘキ剰餘金ノ計算ニ付テハ計算上不便ナル拂込金ノ端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得

第四十六條　産業組合ハ損失ヲ塡補シタル後ニ非サレハ剰餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス剰餘金配當ニ關スル制限ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四十七條　産業組合ハ定款ヲ以テ定ムル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剰餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十八條　産業組合ハ組合員ノ持分ヲ取得スルコトヲ得ス

第五章　加入及脫退

第四十九條　新ニ組合員ト爲リタル者ハ持分ノ讓受ニ依ル場合ヲ除クノ外定款ノ定ムル所ニ依リ遲滯ナク第一回ノ出資拂込ヲ爲スヘシ

第五十條　組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脫退スルコトヲ得但シ三月前ニ其ノ豫告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十一條　組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脫退ス

一　組合員タル資格ノ喪失

二　死亡

三　破産

四　禁治産

五　除名

第五十二條　除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ評議員ヲ置ク組合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ評議員會ノ決議ヲ以テ總會ノ決議ニ代フルコトヲ得

除名ハ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十三條　脫退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ拂戻ノ請求權ハ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第五十四條　脫退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脫退シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム但シ定款ノ定ムル所ニ依リ脫退當時ノ財産ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十五條　持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完濟スルニ足ラサルトキハ脫退シタル組合員ハ出資額ヲ限度トシテ其ノ負擔ニ歸スヘキ金額ヲ拂込ムヘシ

第五十六條　脫退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完濟スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第六章　監督

第五十七條　産業組合ハ朝鮮總督及道知事之ヲ監督ス

第五十八條　監督官廳ハ何時ニテモ産業組合ヲシテ其ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシメ又ハ之ヲ檢査スルコトヲ得

監督官廳ハ産業組合ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ組合ノ供託ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

道知事必要アリト認ムルトキハ府尹、郡守又ハ島司ヲシテ第一項ノ規定スル監督權ノ一部ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十九條　組合長及理事ノ闕ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ道知事ハ假ニ組合長又ハ理事ヲ選任スルコトヲ得

第六十條　産業組合カ本令、本令ニ基キテ發スル命令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、定款ニ違反シタルトキ、公益ヲ害スルノ虞アルトキ又ハ組合ノ事業ノ繼續困難ナルトキハ監督官廳ハ總會ノ決議ヲ取消シ、組合長、理事若ハ監事ノ改選ヲ命シ又ハ組合ノ事業ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ朝鮮總督ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第六十一條　産業組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　定款ニ定ムル存立時期ノ滿了又ハ事由ノ發生

二　總會ノ決議

三　合併

四　組合員ノ缺亡

五　破産

六　前條第二項ノ命令

第六十二條　解散及合併ノ決議ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス

前項ノ決議ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第六十三條　産業組合カ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十四條　合併ニ因リテ組合ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十二條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル選任ニ之ヲ準用ス

第六十五條　第四十三條及第四十四條ノ規定ハ産業組合ノ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十六條　産業組合カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ合併後存續スル組合ニ在リテハ變更ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ在リテハ解散ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ在リテハ第十二條第一項ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十七條　合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第六十八條　産業組合カ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ組合長若ハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ組合長ハ遲滯ナク破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第六十九條　解散シタル産業組合債務ヲ完濟シ殘餘ノ財産アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處分ス

第七十條　第八章　清　算

第七十一條　清算人ハ就職後遲滯ナク組合財産ノ狀況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作リ總會ヲ招集シ之ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條　清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合ノ財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十三條　清算事務終了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作リ總會ヲ招集シ之ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十四條　清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ道知事ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十四條　監督官廳ハ清算事務及財産ノ狀況ヲ檢査シ、財産ノ供託ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ道知事ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十五條　清算人ハ就職後二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名及住所ノ登記ヲ爲スヘシ

前項ノ登記事項ニ變更アリタルトキハ清算人ハ二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第七十六條　清算結了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク主タル事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ清算人ハ清算ノ顚末ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

第七十七條　民法第七十三條、第七十四條、第七十八條乃至第八十一條及非訟事件手續法第百三十八條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス但シ民法第七十四條中理事トアルハ組合長トス

第九章　登　記

第七十八條　産業組合ノ登記ニ付テハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方法院又ハ其ノ支廳若ハ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第七十九條　登記所ニ産業組合登記簿ヲ備フ

第八十條　第十二條第一項ノ登記申請書ニハ定款ヲ添附スヘシ

第八十一條　登記事項變更ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第八十二條　出資一口ノ金額減少ノ登記申請書ニハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第八十三條　産業組合ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ總會ノ決議錄ヲ添附スヘシ

前條ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

第八十四條　産業組合ノ朝鮮總督ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ其ノ嘱託ニ因リテ登記ヲ爲スヘシ

第八十五條　産業組合ニ關シ登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スヘシ

第八十六條　非訟事件手續法第百四十一條乃至第百四十三條、第百四十七條乃至第百四十九條、第百五十條ノ二、第百五十一條乃至第百五十二條ノ四、第百五十四條乃至第百五十七條及第百七十五條乃至第百七十八條ノ規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十章　産業組合聯合會

第八十七條　産業組合ハ左ニ掲クル事項ノ全部又ハ一部ヲ目的トシテ道ノ區域ニ依リ産業組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

一　所屬組合ノ販賣斡旋ノ物ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ販賣斡旋スルコト

二　所屬組合ノ購買スル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セシテ所屬組合ニ販賣斡旋シ又ハ所屬組合ノ購買スル物ヲ生產シテ所屬組合ニ販賣斡旋スルコト

三　所屬組合ヲシテ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト

產業組合聯合會ハ所屬組合ニ對シ業務上ノ指導ヲ爲シ並所屬組合相互ノ聯絡及事業上ノ斡旋ヲ爲スコトヲ得

第八十八條　産業組合聯合會ハ社團法人トス

第八十九條　産業組合聯合會ニ左ノ役員ヲ置ク

理事長

理事　一人又ハ數人

監事　二人以上

理事長及理事ハ所屬產業組合ノ組合長及理事ノ中ヨリ、監事ハ所屬產業組合ノ監事ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス

理事長及理事ノ選任ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

產業組合聯合會設立當時ノ理事長、理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九十條　理事長ハ產業組合聯合會ヲ代表シ其ノ業務ヲ執行ス

理事長ハ總會ノ議長ト爲ル

理事ハ理事長ヲ輔佐シ理事長事故アル場合又ハ闕員ノ場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務ヲ代理シ又ハ其ノ職務ヲ行フ

第九十一條　產業組合カ產業組合聯合會ニ加入シ又ハ脫退セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第六十二條第一項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第九十二條　產業組合聯合會ハ朝鮮總督之ヲ監督ス

朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ道知事ヲシテ其ノ監督權ノ一部ヲ行ハシムルコトヲ得但シ第五十八條第二項及第六十條ノ規定ニ依ル監督權ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十三條　第三條乃至第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十九條乃至第三十三條、第三十五條乃至第四十二條、第四十四條乃至第五十六條、第五十八條乃至第六十一條、第六十三條乃至第六十五條、第五十八條第一項、第二項、第五十九條乃至第六十一條及第八十三條乃至第八十六條ノ規定ハ產業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第二十三條、第三十八條、第七十三條及第七十四條中道知事トアルハ朝鮮總督、第十二條、第二十二條、第二十五條、第二十六條、

増口金ヲ償還スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脱退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ殘額ニ付亦同シ

第八條　組合ノ業務上ノ餘裕金ハ一時國債證券若ハ地方債證券ヲ買入レ、郵便貯金ト爲シ又ハ朝鮮總督ノ指定スル銀行若ハ金融組合若ハ金融組合聯合會ニ預入ヲ爲スノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第九條　組合ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　組合ノ役員ハ定款ノ規定又ハ總會ノ決議ニ依リ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　組合借入金ヲ爲サムトスルトキハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ借入金額、利率、期限償還方法及借入先ヲ記載スヘシ

第十二條　左ノ場合ニ於テハ組合ハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　業務、給與、服務及懲戒ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ之ヲ變更セムトスルトキ

二　毎事業年度ノ業務上ノ計畫及經費豫算ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキ

三　準備金其ノ他ノ積立金ヲ使用セムトスルトキ

四　業務用ノ土地若ハ建物ヲ取得シ又ハ業務用建物ヲ新築、改築若ハ移築セムトスルトキ

五　國債證券又ハ地方債證券ヲ買入レ又ハ之ヲ賣却セムトスルトキ

六　財産目錄ニ揭クル財産ノ價額ヲ增加セムトスルトキ

第十三條　役員ニ異動アリタルトキハ朝鮮産業組合令第二十四條第三項ノ場合ヲ除クノ外其ノ登記前ニ遲滯ナク其ノ事由、氏名及住所ヲ道知事ニ届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ總會ノ決議ニ依ラサル場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十四條　組合總會ヲ開カムトスルトキハ少クトモ十日前ニ會議ノ目的タル事項、開會ノ日時及場所ヲ道知事ニ届出ツヘシ

評議員　數人

役員ハ組合員中ヨリ之ヲ選任スヘシ但シ組合長又ハ組合副長ハ特別ノ事由アル場合ニ限リ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

役員ノ選任及解任ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

役員ノ選任又ハ解任ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

同業組合ハ役員ノ選任ヲ朝鮮總督ニ申請スルコトヲ得

同業組合設置ノ認可後役員ノ就職前ニ於ケル同業組合ノ必要ナル事務ハ發起人之ヲ行フ

第十五條　組合ハ同業組合ヲ代表シ同業組合一切ノ事務ヲ擔任ス

組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス組合副長數人アル場合ニ於ケル代理順序ハ定款ノ定ムル所ニ依ル

評議員ハ組合長ノ諮問ニ應シ又ハ業務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

組合副長又ハ評議員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ組合長及組合副長事故アルトキ定款ノ定ムル順序ニ依リ組合長ノ職務ヲ代理ス

第十六條　同業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ生産、製造又ハ販賣ニ係ル物品ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

朝鮮總督必要ト認ムルトキハ同業組合ニ對シ前項ノ檢査ヲ命スルコトヲ得

同業組合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ物品檢査ノ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第十七條　同業組合ハ前條ノ檢査ニ從事セシムル爲特ニ檢査員ヲ置クコトヲ得

第十八條　同業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ請求ニ因リ物品ノ加工ヲ爲シ又ハ物品ノ販賣若ハ原料品ノ購入ヲ媒介スルコトヲ得

第十九條　道知事ハ朝鮮産業組合令第五十八條第二項、第五十九條又ハ第六十條第一項ノ規定ニ依リ命令又ハ歲分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨朝鮮總督ニ報告スヘシ

第二十條　組合カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第二十一條　朝鮮産業組合令第六十一條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ解散當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ道知事ニ届出ツヘシ

第二十二條　合併ノ認可申請書ニハ合併契約書、財産目錄、貸借對照表及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款竝朝鮮産業組合令第六十四條第一項ノ場合ニ於テハ申請者カ同條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條　組合ノ清算人ハ朝鮮産業組合令第七十條ノ規定ニ依リ總會ノ承認ヲ得タルトキハ財産目錄及貸借對照表ヲ朝鮮總督ニ届出スヘシ

第十四條　組合ハ毎月實際報告表ヲ調製シ翌月五日迄ニ道知事ニ之ヲ提出スヘシ

第十六條　組合ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合員ノ職業別ノ數及出資口數ノ異動

二　拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額

三　借入又ハ償還シタル金額及借入金ノ利率

四　損益ノ計算

五　準備金其ノ他ノ積立金

六　總會ノ決議及評議員ヲ置ク組合ニ在リテハ評議員會ノ決議

七　事業ノ狀況

第十七條　組合ノ公告ハ所轄道廳ノ發行スル道報及組合事務所ニ於ケル揭示場ニ之ヲ爲スヘシ

第十八條　組合ノ出資一口ノ金額ノ減少ノ認可申請書及總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十九條　道知事朝鮮産業組合令第五十八條第二項、第五十九條又ハ第六十條第一項ノ規定ニ依リ命令又ハ歲分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨朝鮮總督ニ報告スヘシ

第二十條　組合カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第二十一條　朝鮮産業組合令第六十一條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ解散當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ道知事ニ届出ツヘシ

第二十二條　合併ノ認可申請書ニハ合併契約書、財産目錄、貸借對照表及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款竝朝鮮産業組合令第六十四條第一項ノ場合ニ於テハ申請者カ同條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條　組合ノ清算人ハ朝鮮産業組合令第七十條ノ規定ニ依リ總會ノ承認ヲ得タルトキハ財産目錄及貸借對照表ヲ朝鮮總督ニ届出スヘシ

第十五條　組合ハ毎月實際報告表ヲ調製シ翌月五日迄ニ道知事ニ之ヲ提出スヘシ

第十六條　組合ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合員ノ職業別ノ數及出資口數ノ異動

二　拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額

三　借入又ハ償還シタル金額及借入金ノ利率

四　損益ノ計算

五　準備金其ノ他ノ積立金

六　總會ノ決議及評議員ヲ置ク組合ニ在リテハ評議員會ノ決議

七　事業ノ狀況

第十七條　組合ノ公告ハ所轄道廳ノ發行スル道報及組合事務所ニ於ケル揭示場ニ之ヲ爲スヘシ

第十八條　組合ノ出資一口ノ金額ノ減少ノ認可申請書及總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

第十九條　道知事朝鮮産業組合令第五十八條第二項、第五十九條又ハ第六十條第一項ノ規定ニ依リ命令又ハ歲分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨朝鮮總督ニ報告スヘシ

第二十條　組合カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第二十一條　朝鮮産業組合令第六十一條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ解散當時ニ於ケル監事ノ證明書ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ道知事ニ届出ツヘシ

第二十二條　合併ノ認可申請書ニハ合併契約書、財産目錄、貸借對照表及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款竝朝鮮産業組合令第六十四條第一項ノ場合ニ於テハ申請者カ同條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條　組合ノ清算人ハ朝鮮産業組合令第七十條ノ規定ニ依リ總會ノ承認ヲ得タルトキハ財産目錄及貸借對照表ヲ朝鮮總督ニ届出スヘシ

第二十四條　組合ノ清算人ハ毎月清算事務報告書及貸借對照表ヲ調製シ翌月十日迄ニ朝鮮總督ニ差出スヘシ

第二十五條　産業組合聯合會ニ以下聯合ノ出資一口ノ金額ハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十六條　組合ノ加入ヲ承諾シタルトキハ聯合會ハ遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第二十七條　左ノ場合ニ於テハ聯合會ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

一　業務、給與、服務及懲戒ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ之ヲ變更セムトスルトキ

二　毎事業年度ノ業務上ノ計畫及經費豫算ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキ

三　準備金其ノ他ノ積立金ヲ使用セムトスルトキ

四　國債證券又ハ地方債證券ヲ買入レ又ハ之ヲ賣却セムトスルトキ

第十二條　左ノ場合ニ於テハ組合ハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　業務用ノ土地若ハ建物ヲ取得シ又ハ業務用建物ヲ新築、改築若ハ移築セムトスルトキ

二　財産目錄ニ揭クル財産ノ價額ヲ增加セムトスルトキ

第二十九條　聯合會ハ毎年一回以上所屬組合ニ就キ業務ノ調査ヲ爲シタルトキハ其ノ調査ノ要領ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第三十條　所屬組合カ法令又ハ定款ニ違反シ其ノ他道知事又ハ朝鮮總督ノ處分ヲ必要トスル場合ニ於テハ聯合會ハ其ノ事由ヲ道知事又ハ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第三十一條　本令又ハ朝鮮産業組合令ニ依リ朝鮮總督又ハ道知事ニ提出スル書類ニシテ總會ノ決議ヲ經ヘキ事項ニ係ルモノハ其ノ決議錄ヲ添附スヘシ

定款ノ定ムル所ニ依リ評議員會ノ決議ヲ經ヘキ事項ニ係ルモノニ付亦同シ

第三十二條　第一條、第四條乃至第十一條、第十三條乃至第十八條及第二十條乃至第二十四條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第一條、第六條、第十一條、第十三條乃至第十五條及第二十一條中道知事トアルハ朝鮮總督トス

附　則

本令ハ朝鮮産業組合令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮重要物産同業組合令

大正四年七月

制令第三號

朝鮮重要物産同業組合令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮重要物産同業組合令

第一條　重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル業ヲ營ム者ハ其ノ生産、製造又ハ販賣ヲ以テ同種ノ業ヲ營ム者又ハ之ニ密接ノ關係ヲ有スル業ヲ營ム者相集リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

重要物産及密接ノ關係ヲ有スル業ノ種類ハ朝鮮總督ノ認定ニ依ル

第二條　同業組合ハ法人トス

第三條　同業組合ヲ設置セムトスルトキハ組合員タルヘキ者五人以上發起人ト爲リ定款ヲ作リ地區及業ノ種類ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ其ノ業ヲ營ム者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ但シ業ノ種類ヲ異ニスル者同業組合ヲ設置セムトスルトキハ業種毎ニ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第四條　同業組合ハ設置ノ認可ヲ受ケタルトキ成立ス

第五條　同業組合ノ地區内ニ於ケル同業者ハ其ノ組合員トス但シ特別ノ事由ニ因リ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　同業組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長　一人

組合顧長　一人又ハ數人

評議員　數人

役員ハ組合員中ヨリ之ヲ選任スヘシ但シ組合長又ハ組合副長ハ特別ノ事由アル場合ニ限リ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

役員ノ選任及解任ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

役員ノ選任又ハ解任ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

同業組合ハ役員ノ選任ヲ朝鮮總督ニ申請スルコトヲ得

同業組合設置ノ認可後役員ノ就職前ニ於ケル同業組合ノ必要ナル事務ハ發起人之ヲ行フ

第十七條　組合長ハ同業組合ヲ代表シ同業組合一切ノ事務ヲ擔任ス

組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス組合副長數人アル場合ニ於ケル代理順序ハ定款ノ定ムル所ニ依ル

評議員ハ組合長ノ諮問ニ應シ又ハ業務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

組合副長又ハ評議員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ組合長及組合副長事故アルトキ定款ノ定ムル順序ニ依リ組合長ノ職務ヲ代理ス

第十八條　同業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ生産、製造又ハ販賣ニ係ル物品ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

朝鮮總督必要ト認ムルトキハ同業組合ニ對シ前項ノ檢査ヲ命スルコトヲ得

同業組合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ物品檢査ノ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第十九條　同業組合ハ前條ノ檢査ニ從事セシムル爲特ニ檢査員ヲ置クコトヲ得

第二十條　同業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ請求ニ因リ物品ノ加工ヲ爲シ又ハ物品ノ販賣若ハ原料品ノ購入ヲ媒介スルコトヲ得

第二十一條　同業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ生産、製造又ハ販賣ニ係ル物品ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

朝鮮總督必要ト認ムルトキハ同業組合ニ對シ前項ノ檢査ヲ命スルコトヲ得

同業組合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ物品檢査ノ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第二十二條　同業組合ハ第一條、第三條、第五條、第六條第一項及第十五條第二項ノ規定ヲ除クノ外之ヲ聯合會ニ準用ス但シ第六條第二項及第八條第一項中組合員トアルハ同業組合聯合會ヲ組織スル組合ノ組合員第十條及第十一條中組合員トアルハ同業組合聯合會ヲ組織スル組合又ハ其ノ組合員トス

第二十六條　同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證票若ハ檢査證ヲ不正ニ使用シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢査證ヲ使用シタル者又ハ其ノ情ヲ知リテ之ヲ行使シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　同業組合又ハ同業組合聯合會ノ役員若ハ檢査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコトヲ能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第二十八條　前條第一項ニ揭クル者ニ對シ賄賂ヲ交附、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　役員又ハ檢査員ニシテ定款ニ違反スル行爲アリタルトキハ其ノ所有ニ屬スル違反物品ヲ沒收スルコトヲ得

第二十條　同業組合ノ經費ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

第二十一條　同業組合ノ經費ノ收支豫算及其ノ徵收方法ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條　組合總會、手數料又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條　同業組合定款ノ變更ヲ爲シ又ハ解散、合併若ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ分割ノ場合ニ於テハ分割後ノ各組合ノ組合員タルヘキ者ニ付其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

同業組合地區ノ擴張又ハ業ノ種類ノ增加ヲ爲サムトスルトキハ定款變更ノ手續ニ依ル

外新ニ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十六條　同業組合合併シタルトキハ合併ニ因リテ解散シタル同業組合ノ權利義務ハ合併後存續スル同業組合又ハ合併ニ因リ設置シタル同業組合之ヲ承繼ス

第二十七條　同業組合分割シタルトキハ其ノ定款ヲ作リ其ノ認可ヲ朝鮮總督ニ申請スルコトヲ得

前項ノ認可アリタルトキハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ハ本令ニ依リ設置シタルモノト看做ス

◉朝鮮重要物産同業組合令施行期日

大正四年八月

總令第八十號

朝鮮重要物産同業組合令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮重要物産同業組合令施行規則

大正四年八月

總令第八十一號

改正　大正一四年五月六日號

朝鮮重要物産同業組合令施行規則左ノ通定ム

朝鮮重要物産同業組合設置ノ認可申請書ニハ定款ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　設置理由書

二　組合員タルヘキ者ノ數ヲ記載シタル書面但シ業ノ種類二以上ヲ包含スル場合ニ於テハ業ノ種類毎ニ其ノ數ヲ記載スヘシ

三　創立費豫算、一年度經費ノ豫算額及其ノ徵收ノ豫定方法ヲ記載シタル書面

四　法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書面

第二條　同業組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　目的及事業

二　名稱及事務所ノ所在地

書類ヲ添附スヘシ
一　理由書
二　財産目録及貸借對照表
三　合併若ハ分割ニ因リテ設置スル同業組合又ハ合併若ハ分割後存續スル同業組合ノ定款、一年度經費ノ豫定額、其ノ徴收ノ豫定方法及組合員ノ數ヲ記載シタル書面但シ業ノ種類二以上ヲ包含スル場合ニ於テハ業種毎ニ其ノ數ヲ記載スヘシ
四　法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書面

五　分割ノ場合ニ於テハ權利義務ノ分割ノ方法ヲ記載シタル書面

第九條　第四條ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因ル組合設置ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　同業組合解散シタルトキハ組合長及組合副長ヲ以テ其ノ清算人ト爲シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項但書ニ依ル清算人ハ其ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
第一項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ地方長官之ヲ選任ス

第十一條　清算人ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ行爲ヲ停止シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第十二條　清算結了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク其ノ結果ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第十三條　左ノ事項ハ朝鮮總督之ヲ告示ス
一　同業組合ノ設置
二　同業組合ノ地區又ハ業ノ種類ノ變更
三　同業組合ノ解散、合併又ハ分割

第十四條　同業組合聯合會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　第二條第一號第二號及第五號乃至第九號ニ掲ケタル事項
二　聯合會ヲ組織スル組合ノ名稱及其ノ權利義務ニ關スル規定
三　加入脫退ニ關スル規定

第十五條　同業組合聯合會設置ノ認可申請書ニハ定款ノ外創立費豫算、一年度經費ノ豫定額及其ノ徴收ノ豫定方法ヲ記載シタル事項ヲ添附スヘシ

第十六條　左ノ事項ハ地方長官之ヲ處理スヘシ但シ第三號ノ報告及檢査ニ關スル事項ハ事宜ニ依リ朝鮮總督之ヲ行フ
一　役員又ハ檢査員ノ選任又ハ解任ニ關スル事項
二　經費ノ收支豫算及其ノ徴收方法ノ認可ニ關スル事項
三　朝鮮重要物産同業組合令第十九條第一項ノ規定ニ依ル業務ニ關スル報告及業務又ハ財産狀況ノ檢査ニ關スル事項但シ本令第六條第三項ノ規定ニ依ル事業成績報告ヲ除ク

第十七條　本令ニ規定スル地方長官ノ職權ハ同業組合ノ地區カ二道以上ニ亙ル場合ニ於テハ朝鮮總督之ヲ行フ

第十八條　第三條乃至第十三條、第十六條及第十七條ノ規定ハ之ヲ同業組合聯合會ニ準用ス

第十九條　朝鮮重要物産同業組合令ニ依ル同業組合又ハ同業組合聯合會ニ非スシテ其ノ名稱中同業組合又ハ同業組合聯合會ナル文字ヲ用ヰタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ朝鮮重要物産同業組合令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮重要物産同業組合令附則第二項ノ規定ニ依ル同業組合又ハ同業組合聯合會設置ノ認可申請書ニハ定款ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ
一　同業組合ニ付テハ現ニ組合員タル者ノ數及新ニ組合員タルヘキ者ノ數ヲ記載シタル書面但シ業ノ種類二以上ヲ包含スルモノニ在リテハ業種毎ニ其ノ數ヲ記載スヘシ
二　一年度經費ノ豫算額及其ノ徴收ノ豫定方法ヲ記載シタル書面
三　同業組合又ハ同業組合聯合會設置ニ關シ官廳ノ認可アリタルコトヲ證スル書面
四　財産目録及貸借對照表
五　同業組合ニ付テハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書面

朝鮮漁業組合規則

昭和四年十二月
總令第百十四號
改正　昭和八年二第二五號

朝鮮漁業組合規則左ノ通定ム

第一章　總則

第一條　漁業組合ノ名稱中ニハ漁業組合ナル文字ヲ、漁業組合聯合會ノ名稱中ニハ漁業組合聯合會ナル文字ヲ用フヘシ
漁業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ漁業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ、漁業組合聯合會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ漁業組合聯合會タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第二條　漁業組合（以下單ニ組合ト稱ス）又ハ漁業組合聯合會（以下單ニ聯合會ト稱ス）ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第三條　行政區劃、府邑面内ノ部落ノ區域又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ組合ノ規約ニ記載シタル行政區劃、府邑面内ノ部落ノ區域又ハ其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第二章　組合ノ設立

第四條　組合ヲ設立セントスルトキハ組合ノ地區タルヘキ區域内ニ居住スル組合員タルヘキ漁業者五人以上發起人ト爲リ設立認可ノ申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ
前項ノ申請書ニハ左ニ掲ケル書類ヲ添附スヘシ
一　設立理由書
二　規約竝ニ組合員タルヘキ漁業者ノ同意書及組合員タルヘキ漁業者ノ數ヲ證スル府尹、邑長又ハ面長ノ證明書
三　初年度及次年度ニ於ケル事業計畫書及經費豫算書
四　地區タルヘキ區域及其ノ附近ノ連絡見取圖（行政區劃、府邑面内ノ部落ノ區域及其ノ名稱竝ニ鐵道、道路及航路ヲ表示シ且地區内ニ於ケル交通ノ狀況及漁港ノ狀態ヲ記載スヘシ）

三　地區及業ノ種類
四　組合ノ權利義務ニ關スル規定
五　役員ノ定數、權限、任期、選任及解任ニ關スル規定
六　會計ニ關スル規定
七　定款違反者ノ處分ニ關スル規定
八　決議ノ方法ニ關スル規定
九　朝鮮重要物産同業組合令第八條又ハ第十條ニ規定スル事業ヲ爲サムトスルトキハ之ニ關スル規定

第三條　朝鮮重要物産同業組合令ニ依リ設置スル同業組合ノ名稱ニハ同業組合ナル文字ヲ用ウヘシ

第四條　同業組合設置ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク組合員ノ集會ヲ開キ其ノ執行シタル事務ヲ報告シ且創立費ノ承認ヲ求ムヘシ
前項ノ集會ニ於テハ役員ノ選任ヲ行ヒ經費ノ豫算及其ノ徴收方法ノ決議ヲ爲スヘシ
發起人第一項ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第五條　役員又ハ檢査員選任ノ認可申請書ニハ重任ノ場合ヲ除クノ外履歷書、其ノ解任ノ認可申請書ニハ理由書ヲ添附スヘシ
役員又ハ檢査員ノ退任アリタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及氏名ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第六條　經費ノ收支豫算及其ノ徴收方法ノ認可申請書ハ同業組合ノ會計年度開始一月前ニ之ヲ差出スヘシ但シ設置ノ年度ニ於テハ第四條第二項ノ決議後七日内ニ差出スヘシ
經費ノ收支決算ハ會計年度經過後三月内ニ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ
同業組合ノ事業成績ハ前項ノ期間内ニ地方長官ヲ經テ之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第七條　組合ノ規約ニハ左ニ掲ケル事項ヲ記載スヘシ
一　目的
二　名稱
三　地區及組合員タル資格（組合員タル資格ニ付テハ一部ノ漁業者ヲ以テ組合員トスルモノニ限ル）
四　主タル事務所ノ所在地
五　役員ニ關スル事項
六　會議ニ關スル事項
七　會計及財産ニ關スル事項
八　組合ノ取得シ又ハ貸付ヲ受ケタル漁業權ノ行使ニ關スル事項
九　共同施設事業ノ執行ニ關スル事項
十　違約者ノ處分ニ關スル事項

第三章　組合ノ會議

第六條　組合ニハ總代會ヲ置ク
總代會ハ議長及議員ヲ以テ之ヲ組織ス
議員ハ通常議員及特別議員トス
通常議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選擧シ特別議員ハ道知事之ヲ命ズ
特別議員ノ任期ハ曆年ニ從ヒ四年トス
特別議員ノ數ハ通常議員ノ定數ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ通常議員ノ定數ノ減少ニ依リ特別議員ノ數カ通常議員ノ定數ノ三分ノ一ヲ超ユルニ至リタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
通常議員ノ定數、任期、選擧其ノ他ニ關スル事項ハ規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第七條　左ニ掲ケル事項ニ付テハ總代會ノ議決ヲ經ヘシ但シ第六號中基本財産ニ關スル事項ニ付テハ法定ノ同意者アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
一　組合ノ解散
二　經費ノ賦課徴收方法
三　事業ノ計畫及經費ノ豫算ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負ヒ又ハ權利ヲ失フヘキ行爲
四　起債及其ノ償還方法
五　漁業權又ハ不動産ノ得喪及變更
六　漁業權ノ借受又ハ組合員ニ非ザル者ニ對スル漁業權ノ貸付
七　基本財産ノ管理及處分
八　規約ノ變更
九　諸規程ノ設定、變更及廢止
十　聯合會ノ設立、加入及脫退
十一　組合ノ解散、合併又ハ分割及分割ニ因リ設立スル組合ノ承繼スヘキ權利義務ノ限度
十二　其ノ他重要ナル事項

第八條　總代會ハ本令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外組合長之ヲ招集ス
總代會ハ少クトモ每年一回之ヲ招集スヘシ

第九條　組合長ハ理事ヲ招集セントスルトキハ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ定メ規約ノ定ムル所ニ依リ議員ニ通知ヲ發スヘシ
總代會ニ於テ前項ノ規定ニ依リ通知ヲ發シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得
但シ規約ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　總代會ハ通常議員ノ定數ノ半數以上及特別議員ノ數ノ半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ但シ同一事項ニ付再度招集シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
議員ハ總代會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス
總代會ノ議事ハ出席シタル議員ノ過半數ノ同意ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十一條　第七條第四號、第八號、第十號及第十二號ニ掲ケル事項ノ議決ハ通常議員ノ定數ノ三分ノ二以上及特別議員ノ數ノ三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十二條　總代會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ輕易ナルモノニ付テハ會議ヲ開カズ書面ヲ以テ議員ノ意見ヲ聽キ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルトキハ之ヲ總代會ノ決議ト看做スコトヲ得但シ議員中ヨリ總代會ノ議決ヲ經ヘキ旨ノ申出アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條　組合員ノ少數ナル組合ニ在リテハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ總會ヲ以テ總代會ニ代フルコトヲ得
組合員ハ代理人ヲ以テ總會ニ於ケル議決權ヲ行フコトヲ得但シ總會ニ於テハ其ノ組合員ハ之ヲ出席者ト看做ス
代理人ハ組合員又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナルコトヲ要ス
代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ
本令中總代會ニ關スル規定ハ前條ノ規定ヲ除クノ外組合ノ總會ニ之ヲ準用ス

第四章　組合ノ役員

第十四條　組合ニハ左ニ掲ケル役員ヲ置クヘシ
一人　組合長
一人　理事
三人以上　監事

第十五條　役員ハ總代會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任スヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ組合員ニ非ザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得
組合設立當時ノ役員ハ規約中ニ之ヲ定ムヘシ

朝鮮總督ノ指定スル組合ノ理事ハ前二項ノ規定ニ拘ラズ道知事之ヲ任免シ其ノ給料ハ道知事之ヲ指定ス
前項ノ朝鮮總督ノ指定アリタルトキハ從前ノ理事ハ其ノ身分ヲ失フ

第十六條　役員ハ其ノ組合ノ他ノ役員又ハ職員ヲ兼スルコトヲ得ズ

第十七條　組合長及道知事ノ任免スル理事以外ノ理事ノ任期ハ三年トシ監事ノ任期ハ二年トス
補闕ニ依リ就任シタル監事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職スル迄仍其ノ職務ヲ行フヘシ

第十八條　組合長ハ理事ハ共同シテ組合ノ業務ヲ執行シ組合長及理事ハ共同シテ組合ノ常務ヲ執行シ組合ヲ代表ス但シ常務ニ付テハ理事單獨ニテ之ヲ執行シ代表シ得ルモノトス
組合長又ハ理事ニ對シテ爲シタル意思表示ハ組合ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス

組合長ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外總代會ノ議長ト爲ル

組合長事故アルトキハ理事之ヲ代理シ闕員ノ場合ハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ組合ノ財産及業務執行ノ狀況ニ付報告ヲ爲ス爲總代會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組合長ハ遲滯ナク之ヲ招集スヘシ

第十九條　組合長ハ總代會ノ共同施設ヲ爲サザル組合ニ在リテハ事業計畫書ハ之ヲ調製セザルコトヲ得

第二十一條　組合長及理事ハ事業年度終了後決算ヲ調製シ監事ノ監査ヲ受ケ次ノ總代會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十二條　組合ハ不動産、積立金等ヲ以テ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ
組合ハ每事業年度ノ剩餘金ノ十分ノ三以上ヲ基本財産ニ編入スヘシ
基本財産ハ天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ費消スルコトヲ得ズ

第六章　組合ノ合併、分割、解散及清算

第二十三條　組合ガ合併又ハ分割ヲ爲シタルトキハ合併後存續スル組合又ハ合併若ハ分割ニ因リテ設立シタル組合ハ合併又ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十四條　組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
一　總代會ノ議決

二　合併又ハ分割
三　組合員ノ缺亡
四　破產
五　朝鮮總督ノ解散ノ處分

第二十五條　組合ガ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハザルニ至リタルトキハ裁判所ハ組合長及理事若ハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破產ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テハ組合長及理事ハ直ニ破產宣告ノ請求ヲ爲スベシ

第二十六條　組合ガ解散シタルトキハ清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ其ノ清算ヲ結了スルニ至ル迄組合ハ仍存續スルモノト看做ス

第二十七條　組合ガ解散シタルトキハ合併、分割又ハ破產ノ場合ヲ除クノ外組合長及理事ハ其ノ清算人ト爲ル但シ總代會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

清算人ハ解散シタル組合ノ役員トス

第二十八條　清算人ノ職務ハ左ノ如シ
一　現務ノ結了
二　債權ノ取立及債務ノ辨濟
三　殘餘財產ノ處分

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二月以內ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間內ニ其ノ請求ノ申出ヲ爲スベキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ公告ニハ債權者ガ期間內ニ申出ヲ爲サザルトキハ其ノ債權ハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但シ清算人ハ知レタル債權者ヲ除斥スルコトヲ得ズ

清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其ノ申出ヲ催告スルコトヲ要ス

第三十條　清算人ハ前條第一項ノ規定ニ依ル債權申出ノ期間經過シタルトキハ遲滯ナク財產目錄及貸借對照表ヲ調製シ殘餘財產ノ處分方法ヲ定メ總代會ヲ招集シテ之ニ提出シ財產目錄及貸借對照表ニ付テハ其ノ承認ヲ求メ殘餘財產ノ處分方法ニ付テハ其ノ議決ヲ經ベシ

第三十一條　清算人ハ組合ノ債務ヲ完濟シ又ハ完濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非ザレバ殘餘財產ヲ處分スルコトヲ得ズ

第三十二條　第二十九條第一項ニ規定スル債權申出ノ期間經過後ニ於テ申出デタル債權者ハ組合ノ債務完濟ノ後未ダ處分ヲ爲サザル財產ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十三條　清算人ハ組合ノ財產ガ其ノ債務ヲ完濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ直ニ破產宣告ノ請求ヲ爲シ且其ノ旨ヲ公告スベシ

清算人ハ破產管財人ニ其ノ事務ヲ引渡シタルトキハ其ノ任務ヲ終リタルモノトス

清算人ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破產管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得

第三十四條　第二十九條第一項又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル公告ハ組合ノ主タル事務所ノ所在地ノ屬スル道ノ區域內ニ於テ發行スル日刊ノ新聞紙ノ一ニ、日刊ノ新聞紙ノ發行ナキ道ニ在リテハ組合ノ主タル事務所ノ所在地ニ最近キ道ノ區域內ニ於テ發行スル日刊ノ新聞紙ノ一ニ揭載シテ之ヲ爲スベシ

第三十五條　清算人ハ清算結了後遲滯ナク清算報告書ヲ調製シ總代會ヲ招集シ之ニ提出シテ承認ヲ求ムベシ

第七章　組合ノ登記

第三十六條　本令ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十七條　登記ニ付テハ組合ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方法院又ハ其ノ支廳若ハ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第三十八條　登記所ニ漁業組合登記簿ヲ備フ

第三十九條　本令ニ依リ登記ヲ爲スベキ事項ニシテ行政官廳ノ認可ヲ要スルモノノ登記ノ期間ハ認可ノ指令書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

前項ノ規定ハ道知事ノ任免スル組合ノ役員ノ登記ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第四十條　登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

登記ノ申請書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載シ申請人又ハ其ノ代理人之ニ記名捺印スベシ
一　登記ノ目的及事由
二　登記申請ノ年月日
三　組合ノ名稱及主タル事務所
四　代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其ノ氏名及住所
五　登記所ノ表示

第四十一條　組合ヲ設立シタルトキハ二週間以內ニ左ニ揭グル事項ノ登記ヲ爲スベシ
一　第五條第一號乃至第三號ニ揭グル事項
二　主タル事務所
三　設立認可ノ年月日
四　組合長、理事及監事ノ氏名及住所

前項ノ規定ニ依ル登記ノ申請書ニハ規約ヲ添附スベシ

第四十二條　前條第一項第一號、第二號及第四號ノ事項ニ變更アリタルトキハ二週間以內ニ其ノ登記ヲ爲スベシ

前項ノ場合ニ於テ主タル事務所ノ所在地ノ變更ニ付テハ舊所在地ト新所在地ト登記所ノ事務取扱區域ヲ異ニスルトキハ舊所在地ニ於テ移轉ノ登記ヲ、新所在地ニ於テ前條第一項ニ揭グル事項ノ登記ヲ爲スベシ

第一項ノ規定ニ依ル登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第四十三條　組合ガ解散シタルトキハ清算人ハ二週間以內ニ左ニ揭グル事項ノ登記ヲ爲スベシ
一　解散ノ原因
二　解散ノ年月日
三　清算人ノ氏名及住所

組合ガ朝鮮總督ノ處分ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ前項第一號及第二號ノ事項ノ登記ハ朝鮮總督ノ囑託ニ依リ登記所之ヲ爲スベシ

第一項第三號ノ事項ニ變更アリタルトキハ二週間以內ニ其ノ登記ヲ爲スベシ

第四十四條　組合ガ合併又ハ分割ヲ爲シタルトキハ二週間以內ニ左ノ登記ヲ爲スベシ
一　合併又ハ分割後存續スル組合ニ在リテハ變更ノ登記
二　合併又ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合ニ在リテハ解散ノ登記（前條第一項第三號ノ事項ヲ除ク）
三　合併又ハ分割ニ因リテ設立シタル組合ニ在リテハ設立ノ登記

前項第二號ノ登記ハ權利義務ヲ承繼シタル組合ニ於テ之ヲ爲スベシ

第四十五條　前四條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スベキ事項ニシテ行政官廳ノ認可ヲ要スルモノニ付テハ登記ノ申請書ニ其ノ認可ノ指令書又ハ行政官廳ノ認證アル其ノ謄本ヲ添附シ且其ノ餘白ニ其ノ認可ノ指令書ノ到達シタル年月日ヲ記載スベシ

前項ノ規定ハ道知事ノ任免スル組合ノ役員ノ登記ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第四十六條　清算結了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依ル登記ノ申請書ニハ第三十五條ノ規定ニ依リ總代會ノ承認ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第四十七條　組合ニ關シ登記シタル事項ハ裁判所ハ遲滯ナク之ヲ公告スベシ

第四十八條　行政區劃、府邑面內ノ部落ノ區域又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ登記所ニ通知スベシ

前項ノ通知アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ記載ヲ變更スベシ

第四十九條　朝鮮民事令ニ於テ據ルコトヲ定メタル非訟事件手續法第百四十一條乃至第百四十八條ノ二、第百五十一條乃至第百五十一條ノ四、第百五十一條ノ六及第百五十四條乃至第百五十七條ノ規定ハ組合ノ登記ニ之ヲ準用ス但シ商法、本法又ハ本章トアルハ朝鮮漁業令又ハ本令トス

第八章　聯合會

第五十條　聯合會ノ地區ハ道ノ區域ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第五十一條　聯合會ヲ設立セントスルトキハ其ノ設立セントスル組合ハ共同シテ聯合會ノ規約ヲ定メ設立認可ノ申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スベシ

前項ノ申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ
一　設立理由書
二　規約及設立ニ關スル總代會ノ決議錄ノ謄本
三　初年度及次年度ニ於ケル事業計畫書及經費豫算書

第五十二條　聯合會ニハ總會ヲ置ク

聯合會ノ總會ハ議長及議員ヲ以テ之ヲ組織ス

議員ハ所屬組合及特別議員トス

特別議員ハ道知事之ヲ命ズ

特別議員ノ任期ハ曆年ニ從ヒ四年トス

特別議員ノ數ハ所屬組合ノ數ノ三分ノ一以內トス但シ五人ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ所屬組合ノ減少ニ依リ特別議員ノ數ガ所屬組合ノ數ノ三分ノ一ヲ超ユルニ至リタルトキハ之ヲ適用セズ

本令中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外聯合會ノ總會ニ關スル事項ハ規約中ニ之ヲ定ムベシ

第五十三條　組合ノ聯合會ヘノ加入及聯合會ヨリノ脫退ニ付テハ聯合會ノ總會ノ議決ヲ經ベシ

第五十四條　聯合會ニハ左ノ役員ヲ置クベシ
理事長　一人
理事　一人
監事　三人以上

第五十五條　理事長及理事ハ朝鮮總督之ヲ任免シ其ノ給料ハ朝鮮總督之ヲ指定ス

監事ハ總會ニ於テ所屬組合ノ役員中ヨリ之ヲ選任スベシ

第五十六條　理事長ハ聯合會ノ業務ヲ執行シ聯合會ヲ代表ス

理事長ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外總會ノ議長ト爲ル

理事ハ理事長ヲ補佐シ理事長事故アルトキハ之ヲ代理シ闕員ノ場合ハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ聯合會ノ財產及業務執行ノ狀況ヲ監查ス

第五十七條　第五條、第十六條、第十七條及第十九條乃至第四十九條ノ規定ハ聯合會ニ、第七條乃至第十二條及第十三條第二項乃至第四項ノ規定ハ聯合會ノ總會ニ之ヲ準用ス

但シ組合長、組合長及理事トアルハ理事長トス

第九章　組合及聯合會ノ監督

第五十八條　組合及聯合會竝ニ其ノ清算ハ朝鮮總督及道知事之ヲ監督ス

第五十九條　朝鮮總督又ハ道知事ハ何時ニテモ組合又ハ聯合會ノ業務及財產ニ關シ報告書ヲ徵シ又ハ其ノ狀況ヲ檢查スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル組合ニ關スル道知事ノ職權ハ其ノ一部ヲ府尹、郡守又ハ島司ニ委任スルコトヲ得

第六十條　朝鮮總督又ハ道知事ハ組合又ハ聯合會ノ業務及財產ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十條ノ二　朝鮮漁業令第五十八條第一號及第二號ノ規定ニ依ル朝鮮總督ノ職權ハ漁業組合ニ關スルモノニ限リ道知事之ヲ行フ

第六十一條　清算人又ハ道知事ノ任免スル理事以外ノ組合ノ理事闕員ノ爲其ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ道知事ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ任命スルコトヲ得

第六十二條　第七條第四號、第八號、第十一號及第五十三條ニ揭グル事項ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ組合ノ地區ノ擴張又ハ縮小ニ關スル規約ノ變更ノ認可ヲ申請セントスル場合ニ於テハ其ノ擴張ニ在リテハ擴張スル區域內ニ居住スル組合員タルベキ漁業者、其ノ縮小ニ在リテハ縮小スル區域及縮小後存續スル組合ノ區域毎ニ其ノ區域內ニ居住スル組合員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得申請書ニ其ノ同意書及其ノ組合員タルベキ漁業者又ハ組合員ノ數ヲ證スル府尹、邑長又ハ面長ノ證明書ヲ添附スベシ

前項ノ規定ハ組合ノ組合員タル資格ニ關スル規約ノ變更及組合ノ分割ノ認可ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條　左ニ揭グル事項ニ付テハ道知事ノ認可ヲ受クベシ
一　第七條第一號乃至第三號、第七號及第九號ニ揭グル事項
二　組合若ハ聯合會ノ役員ノ選任及解任
三　組合又ハ聯合會ノ殘餘財產ノ處分方法

第六十四條　前二條ノ規定ニ依ル認可ノ申請書ニハ組合ノ總代會又ハ聯合會ノ總會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附スベシ

第六十五條　行政區劃、府邑面內ノ部落ノ區域又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第六十六條　左ニ揭グル場合ニ於テハ遲滯ナク道知事ニ屆出ヅベシ
一　組合又ハ聯合會ノ役員ノ氏名又ハ住所ニ變更アリタルトキ
二　組合又ハ聯合會ノ役員死亡シ又ハ任期滿了ニ因リ退任シタルトキ
三　通常議員タル者確定シタルトキ
四　組合ノ總代會又ハ聯合會ノ總會ニ於テ第二十一條又ハ第五十七條ノ規定ニ依リ決算ヲ承認シタルトキ
五　組合又ハ聯合會ノ清算結了シタルトキ

第十章　罰則

第六十七條　第一條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十八條　組合又ハ聯合會ノ行爲ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス
一　本令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
二　監督官廳ニ對シ不實ノ申告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
三　本令ニ依ル監督官廳ノ命令ニ從ハズ又ハ其ノ檢查ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタルトキ
四　本令ニ依ル認可ノ申請、屆出、通知又ハ書類ノ提出ヲ怠リタルトキ
五　文書帳簿ニ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ故意ニ必要ノ事項ヲ記載セザルトキ
六　本令ニ依ル總代會又ハ總會ノ招集ヲ怠リタルトキ
七　監事ノ監查ヲ妨ゲタルトキ
八　本令ニ違反シテ破產ノ宣告ヲ請求セザルトキ
九　本令ニ違反シテ殘餘財產ノ處分ヲ爲シタルトキ
十　清算ノ場合ニ於テ債權申出期間滿了前ニ債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シタルトキ
十一　本令ニ依ル催告又ハ公告ヲ怠リタルトキ

附　則

第六十九條　本令ハ朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十條　漁業組合規則ハ之ヲ廢止ス

第七十一條　舊漁業令ニ依リ設立シタル組合ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ本令施行後六月以內ニ第四十一條第一項各號ノ事項ノ登記ヲ爲スベシ

前項ノ組合ハ前項ニ規定スル期間內ニ限リ登記ナキモ他人ニ對抗スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル登記ノ申請書ニハ第四十一條第二項及第四十五條ノ規定ヲ準用ス但シ第四十五條ノ規定ニ依ル書類ヲ添附スルコト能ハザル場合ニ於テハ其ノ認可又ハ任命ニ關スル行政官廳ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七十二條　本令施行ノ際現ニ存スル組合ノ諸規程ハ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

附　則（昭和八年二月總令第二十五號）

本令ハ昭和八年三月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ特別議員ニ關スル規定ハ昭和八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル總代ハ之ヲ本令ニ依ル通常議員ト看做ス

本令施行ノ際現ニ事業年度ノ中途ニ在ル組合ノ財務ニ關シテハ其ノ年度終了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

第一號樣式

地區內居住者戶口表

漁業者　（昭和　年　月　日現在）

部落名	專業者			兼業者			漁業者			その他の漁業者			合計		
	同上中組合員タルベキ者			同上中組合員タルベキ者			同上中組合員タルベキ者								
何	戶數	人數	數量	戶數	人數	數量	戶數	人數	數量	戶數	人數	數量	戶數	人數	數量
計															

備考

一　「專業者」トハ漁業ヲ主タル業トスル者ヲ謂フ

二　「兼業者」トハ漁業以外ノ業ヲ主タル業トシ漁業ヲ兼營スル者ヲ謂フ

三　「其ノ他ノ業者」トハ漁業ヲ爲サザル者ヲ謂フ

四　地區內居住漁業者全部ヲ組合員トスル場合ハ同上中組合員タルベキ者ノ欄ニハ記載ヲ要セズ

五　戶數ハ一世帶ヲ一戶トシテ記載スベシ

六　人數欄ニハ業者數ヲ記載スベシ

第二號樣式

地區內居住漁業者ノ漁業狀態表　（昭和　年）

漁業ノ名稱	漁獲高	業主數	從業船數	使用漁業ノ數量時期	平均一業主漁獲高	平均一隻漁獲高	組合員タルベキ者ノ漁業資金ノ概況
何漁業	數量	人	隻	自何月至何月	數量	數量	(1)資金供給系統 (2)(1)自己資金ノ約圖 (2)借入資金約圖 二　資金借入狀況 (1)主ナル借入先 (2)(1)償還方法 (3)(2)利率又ハ借入者負擔
	價額				數量	數量	
	圓				圓	圓	
計							

備考

一　本表ニ曆年ニ依リ最近ノ一年分ニ付記載スベシ

二　漁獲高以外ニ付テハ計欄ノ記載ヲ要セズ

第三號樣式

地區內居住漁業者ノ漁獲高表　（昭和　年）

漁業ノ名稱	魚種名	いわし	さば	にしん	何						計	
	漁獲高	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
何漁業			圓		圓		圓		圓		圓		圓
計													

備考

一　本表ハ最近三年間ノ漁獲高ニ付曆年別ニ調製スベシ

◉朝鮮漁業組合業務規程

昭和四年十二月
總令第百十五號
改正　昭和七年一月一號、九年二第三號、八年二第二六號、九年二第一三號

朝鮮漁業組合業務規程左ノ通定ム

朝鮮漁業組合業務規程

第一章　總則

第一條　漁業組合（以下單ニ組合ト稱ス）、組合ノ組合長及理事、漁業組合聯合會（以下單ニ聯合會ト稱ス）竝ニ聯合會ノ理事長及理事ノ印章ハ第一號樣式ニ依ルベシ

第二條　組合ヨリ朝鮮總督又ハ道知事ニ差出スベキ書類ハ府尹、郡守又ハ島司ヲ、聯合會ヨリ朝鮮總督又ハ道知事ニ差出スベキ書類ハ道知事ヲ經由スベシ

前項ノ場合ニ於テ組合ヨリ朝鮮總督ニ差出スベキ書類ニ付テハ副本二通ヲ、道知事ニ差出スベキ書類ニ付テハ副本一通ヲ、聯合會ヨリ朝鮮總督ニ差出スベキ書類ニ付テハ副本一通ヲ添附スベシ

第三條　役員ノ選任ノ認可申請書ニハ被選任者ノ職氏名、住所及職業ヲ記載シ且其ノ履歷書ヲ添附スベシ

定ニ依リ役員ヲ選任シタル場合ニ在リテハ前項ノ事項ノ外其ノ事由ヲ申請書ニ附記スベシ

役員ノ解任ノ認可申請書ニハ解任セントスル者ノ職氏名及解任セントスル事由ヲ記載スベシ

第四條　起債ノ認可申請書ニハ左ニ揭ゲル事項ヲ記載スベシ

一　起債ノ目的
二　借入先
三　借入金額
四　借入金ノ利率
五　借入期間
六　償還方法

前項ノ申請書ニハ別ニ法令ニ規定スルモノノ外左ニ揭ゲル書類ヲ添附スベシ

一　起債ヲ要スル理由書（借替ノ場合ニ在リテハ其ノ借替金額及借替ヲ要スル理由ヲ記載シタルモノ）

二　起債ニ依ル事業ノ計畫書（漁業資金貸付ノ爲起債ヲ爲サントスル場合ニ在リテハ漁業ノ種別毎ノ貸付人員貸付口數、一口ニ對スル貸付限度、貸付總額、貸付利率其ノ他貸付事業計畫ノ詳細ヲ記載シタルモノ）

三　償還ノ年次表（年賦償還ノ方法ニ依リ

起債ヲ爲サントスル場合ニ限ル）

四　償還財源ノ調書（起債ノ認可申請當時現ニ借入金ヲ有スル場合ニ在リテハ其ノ償還財源ト認可ヲ受ケントスル起債ノ償還財源トノ關係ヲ、漁業資金貸付ノ爲起債ヲ爲サントスル場合ニ在リテハ漁業ノ種別每ノ收支關係ノ詳細及貸付金回收ノ方法ヲ、其ノ貸付金回收ノ方法ニシテ被貸付者ノ漁獲物又ハ其ノ製品ノ委託販賣代金中ヨリ回收ヲ爲サントスル場合ニ在リテハ最近三年間ニ於ケル被貸付者ノ漁業別魚種別漁獲高及委託販賣高竝ニ貸付年度ニ於ケル其ノ見込高ヲ記載シタルモノ）

五　組合員ノ漁業狀態ノ調書（組合員ノ數、組合員ノ漁業經營狀況竝ニ最近三年間ニ於ケル每事業年度ノ組合員ノ漁業種別魚種別漁獲高及委託販賣高ヲ記載シタルモノ）

六　申請ノ日ノ前日現在ニ依ル合計殘高試算表及借入金運用狀況表（第一號樣式ノ二）

第五條　起債ヲ爲シ又ハ起債ノ一部若ハ全部ヲ償還シタルトキハ聯合會ヨリ借入レタル場合ヲ除クノ外第二號樣式ニ依リ遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ届出ヅベシ

第六條　總代會又ハ總會ヲ招集セントスルトキハ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ遲滯ナク道知事ニ届出ヅベシ

第七條　總代會又ハ總會ノ會議ノ決議錄ニハ左ニ揭ゲル事項ヲ記載シ議長及出席シタル議員又ハ組合員二人以上之ニ記名捺印スベシ

一　開會ノ日時及場所
二　通常議員ノ定數及特別議員ノ數又ハ組合員ノ總數
三　出席シタル議員ノ氏名又ハ組合員ノ數
四　出席シタル役員及臨監官吏ノ職氏名
五　附議事項
六　議事ノ要領
七　決議事項及贊否ノ數
八　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第八條　本令中別ニ規定スルモノノ外組合ニ關シ左ニ揭ゲル帳簿ヲ備ヘ異動ノ都度之ヲ整理スベシ

一　組合員名簿（第三號樣式）
二　役員、職員及議員名簿（第四號樣式）
三　規約、諸規程及例規臺帳
四　規約違反者處分簿（第五號樣式）

第九條　文書ノ保存期間ハ左ニ揭ゲル區分ニ依ルベシ

甲種　永久保存スベキモノ
一　組合ノ設立及沿革ニ關スル書類
二　規約、諸規程其ノ他官廳ノ令達等ニシテ例規ト爲ルベキ書類
三　事業計畫書、經費豫算書、經費決算書、財產目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分書
四　會計ニ關スル諸帳簿
五　總代會又ハ總會ノ議案、決議錄及其ノ關係書類
六　役員及職員ノ任免及賞罰ニ關スル書類
七　組合員ノ違約處分ニ關スル書類
八　共同施設事業ニ關スル書類
九　永久參照ノ必要アリト認ムル文書及統計

乙種　十年間保存スベキモノ
一　償還債務ニ關スル證還書類ニシテ決算ヲ終リタルモノ
二　通常議員ノ選擧ニ關スル書類
三　甲種以外ノ會計ニ關スル一切ノ書類
四　調査書及甲種以外ノ統計
五　前各號ノ外參照ノ必要アリト認ムル照會往復其ノ他一切ノ書類

丙種　三年間保存スベキモノ
一　甲種及乙種ニ屬セザル書類

前項ノ保存期間ハ文書完結ノ翌年度ヨリ之ヲ起算ス

第三章　組合ノ共同施設

第一節　通則

第十條　組合ニ於テ行フ共同施設ノ概目左ノ如シ

一　組合員ノ漁獲物及其ノ製品ノ委託販賣
二　組合員ノ漁業ノ經營ニ必要ナル物品ノ販賣及購入
三　甲種以外ノ會計ニ關スル一切ノ書類
四　調査書及甲種以外ノ統計
五　會往復其ノ他一切ノ書類

丙種　三年間保存スベキモノ
一　甲種及乙種ニ屬セザル書類

前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル組合ノ貸付ニ於テハ第二十八條第二項及第三十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十七條　資金ノ貸付ヲ行フ組合員ノ信用狀態ヲ調査シ信用程度表（第六號樣式）ヲ備フベシ

第二十八條　貸付スベキ金額ハ一組合員ニ付五百圓ヲ超エルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由ニ因リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

貸付スベキ金額ハ前項ノ規定ニ依ルノ外貸

販賣手數料ハ販賣價格ノ百分ノ十ヲ超エルコトヲ得ズ但シ再委託ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

販賣手數料ニ關シ必要アル事項ハ規約中ニ之ヲ定ムベシ

第二十四條　共同購入ヲ爲シタル物品ハ其ノ代金及共同購入手數料ノ全部ヲ納付セシムルニ非ザレバ之ヲ引渡スコトヲ得ズ但シ特別ノ事由ニ因リ道知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四節　貸付金

第二十五條　組合ハ組合員ノ漁業其ノ他經濟ノ衰退ニ必要ナル資金ヲ除クノ外之ヲ貸付スルコトヲ得ズ

第二十六條　資金ノ貸付ハ委託販賣ヲ行フ組合ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ特別ノ事由ニ因リ道知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條　資金ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ在リテハ其ノ貸付ニ於テハ第二十八條第二項及第三十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十七條　資金ノ貸付ヲ行フ組合ハ組合員ノ信用狀態ヲ調査シ信用程度表（第六號樣式）ヲ備フベシ

第二十八條　貸付スベキ金額ハ一組合員ニ付五百圓ヲ超エルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由ニ因リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

貸付スベキ金額ハ前項ノ規定ニ依ルノ外貸

付ヲ受ケントスル者ノ委託販賣ニ附スベキ物ノ年額ノ十分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十九條 貸付スベキ金額ハ前條ノ規定ノ範圍內ニ於テ其ノ用途ヲ斟酌シ保證貸ニ在リテハ信用程度表ニ基キ之ヲ定メ擔保貸ニ在リテハ擔保物件評價額ノ十分ノ八以內ニ於テ之ヲ定ムベシ

第三十條 貸付ハ漁獲物及其ノ製品ノ全部又ハ大部分ヲ組合ノ委託販賣ニ附シ且販賣ノ都度其ノ販賣代金ノ一割以上ヲ貸付金ノ償還ニ充當シ又ハ貸付金償還準備金トシテ組合ノ指定スル方法ニ依リ積立ツル組合員ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十一條 貸付期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル用途ニ充ツル場合ニ於テハ三年以內ト爲スコトヲ得

一 漁船ノ建造、購入若ハ大修繕又ハ水産物ノ製造設備ニ要スル資金

二 水産動植物ノ養殖設備ニ要スル資金

三 前各號ノ資金ニ充テタル舊債(組合ニ對スル債務ヲ除ク)ノ償還ニ要スル資金

已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ借受金ノ一部ヲ償還シ且利子ノ支拂ヲ怠ラザル者ニ對シテハ前項但書ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外貸付期間ヲ更新スルコトヲ得

第三十二條 貸付ヲ爲ス場合ハ確實ナル連帶保證人二人以上ヲ立テシメ又ハ擔保物ヲ供セシムルコトヲ要ス

組合員ヲ連帶保證人ト爲ス場合ハ其ノ連帶保證人ト爲ルベキ者ノ組合ニ對スル主タル債務ト保證債務トヲ合セ第二十七條ノ規定ニ依ル信用程度表ノ信用程度ヲ超過セザルコトヲ要ス

第三十三條 不動産ヲ擔保トシテ徵スル場合ハ抵當權設定ノ登記ヲ爲スベシ

前項ノ登記ハ第一順位タルコトヲ要ス但シ組合ヨリ借入スル新債ヲ以テ其ノ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ第一順位ト爲ルコトヲ得ベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條 左ニ揭グルモノノ評價ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ決スベシ

一 土地ハ實地ニ就キ其ノ所在、等級、面積、收穫高等ヲ調査シ且土地臺帳又ハ林野臺帳ノ地價及附近ノ實際賣買價格等ヲ參酌スルコト

二 建物、工場又ハ登錄シタル船舶ハ實地ニ就キ其ノ構造、將來使用ニ堪ユベキ年限等ヲ參酌スルコト

三 漁業權ハ其ノ漁場ニ於ケル最近三年以上ノ漁獲高及漁業ニ要シタル經費ヲ調査シ平均一年ノ純益ノ五倍以下ニ於テスルコト

第三十五條 建物、工場又ハ登錄シタル船舶ハ保險ニ付シタルモノニ非ザレバ擔保トシテ之ヲ徵スルコトヲ得ズ

擔保物ガ第三者ノ提供ニ係ルトキハ提供者ヨリ承諾書ヲ徵スベシ

第三十六條 擔保トシテ徵シタル動産ハ組合ニ於テ之ヲ保管シ又ハ確實ナル第三者ヲシテ保管セシムルコトヲ要ス

第三十七條 組合ハ貸付ヲ受ケタル者、連帶保證人又ハ擔保ヲ供シタル第三者ヨリ印鑑證明規則ニ依ル印鑑證明書ヲ徵シ印鑑簿ヲ備ヘ貸付其ノ他必要ノ都度印章ヲ照合スベシ

第三十八條 貸付金ノ利率ハ元金百圓ニ付日歩五錢ヲ超ユルコトヲ得ズ貸付金ノ利率ニ關シ必要ナル事項ハ規約中ニ之ヲ定ムベシ

第三十九條 貸付金ノ利子ハ日割ヲ以テ計算シ毎月之ヲ徵收スベシ但シ年賦償還ノ方法ニ依リ貸付シタルモノ又ハ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十條 貸付金及其ノ利子ニ對スル延滯利子ハ貸付金ノ利率ニ其ノ十分ノ三以上ヲ加ヘタル割合ニ依リ規約中ニ之ヲ定ムベシ

第四十一條 貸付ヲ受ケタル者貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用シタルトキ又ハ組合員タル資格ヲ喪失シタルトキハ組合ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ請求スベシ

第四十二條 貸付ヲ受ケタル者償還期限前ニ貸付金ノ全部又ハ一部ヲ償還セントスルトキハ組合ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第五節 預リ金

第四十三條 組合ハ組合員ノ漁業其ノ他經濟ノ發達ニ必要ナル貸付資金ニ充ツル目的ヲ以テスル場合ヲ除クノ外組合員ヨリ預リ金ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十四條 預リ金ハ定期預リ金及貯蓄預リ金(貯蓄銀行令第一條第一項第一號及第二號ニ該當スル預リ金)ヲ除クノ外之ヲ取扱フコトヲ得ズ

第四十五條 定期預リ金ハ金額二十圓以上ニシテ期間六月以上ノモノニ限ルベシ

第四十六條 貯蓄預リ金ノ一回ノ最低額ハ五十錢ト爲スベシ

第四十七條 預リ金ノ利率、利子ノ計算方法及利子元加ニ關スル事項ハ組合ノ規程中ニ之ヲ定ムベシ

第四十八條 組合ハ預リ金ノ拂戾準備金トシテ預リ金總額ノ十分ノ二以上ヲ備ヘ置クベシ

前項ノ拂戾準備金ハ國債證券若ハ地方債證券ヲ買入レ又ハ確實ナル銀行、聯合會若ハ金融組合聯合會ニ預ケ入ルベシ

第四十九條 定期預リ金ヲ爲シタル者組合員タル資格ヲ喪失シタルトキハ組合ハ期限前ト雖其ノ請求ニ依リ之ヲ拂戾スベシ

第六節 共同設備

第五十條 組合員ノ爲ニスル設備ハ多數ノ組合員ニ使用セシムルノ目的及方法ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第五十一條 使用者組合ノ設備又ハ物品ヲ紛失又ハ毀損シタルトキハ組合ハ之ヲシテ其ノ代價又ハ修繕料ヲ辨償セシムベシ

第四章 組合ノ財務

第五十二條 組合ハ道知事ノ認可ヲ受ケ特別會計ヲ設クルコトヲ得

特別會計ヲ設ケタルトキハ事業年度毎ニ事業ノ計畫及經費ノ豫算ヲ定ムベシ

第五十三條 事業計畫書(第七號樣式)、經費豫算書(第七號樣式ノ二、事業計畫書ヲ調製セザル組合ニ在リテハ第七號樣式ノ三)及經費ノ賦課徵收方法ヲ記載シタル書面ハ事業年度開始一月前迄ニ之ヲ道知事ニ差出スベシ

第五十四條 經費ノ豫算ニハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クベシ

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケザルコトヲ得

第五十四條ノ二 組合ハ經費豫算內ノ支出ヲ爲ス爲一時借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ當該年度ノ收入ヲ以テ之ヲ償還スベシ

第五十四條ノ三 事業ノ計畫等ニ依リ使途ノ定リタル收入ハ其ノ使途以外ニ支出スルコトヲ得ズ

第五十五條 組合ハ事業ノ計畫ニ於テ特ニ定メタルモノヲ除クノ外事業ノ計畫ヲ以テ定メタル定額ヲ超エテ運用ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十六條 經費ノ豫算各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ズ

第五十七條 賦課金、使用料、手數料、入漁料其ノ他ノモノニシテ期日ヲ指定シ納入ヲ爲サシムルモノハ納入告知書(第八號樣式)ヲ發スベシ

第五十八條 支拂ヲ爲シタルトキハ總テ領收證ヲ徵スベシ

第五十九條 役員及職員ノ旅費又ハ訴訟費用ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

第六十條 前金ヲ支拂フニ非ザレバ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 誤納、過納、誤拂若ハ過渡トナリタル金額又ハ概算拂若ハ前金拂ノ返納ハ其ノ收入又ハ支出シタル科目ニ於テ之ヲ整理スベシ

第六十一條ノ二 事業計畫書ヲ調製セザル組合ニ在リテハ其ノ一事業年度所屬ノ歲入歲出ノ出納ニ關スル事務ハ當該年度終了後二月以內ニ之ヲ完結スベシ

第六十一條ノ三 組合決算ヲ調製スルトキハ財産目錄(第十號樣式)、貸借對照表(第十號樣式ノ二)、經費決算書(第七號樣式ノ二)、事業報告書(第十一號樣式)及剩餘金處分案(第十二號樣式)ヲ作製スベシ

事業計畫書ヲ調製セザル組合ニ在リテハ前項ノ規定ニ拘ラズ經費決算書(第七號樣式ノ三)、財産目錄(第十號樣式ノ三)、財産目錄(第十號樣式ノ三)及剩餘金處分案(第十二號樣式ノ二)ヲ作製スベシ

第六十二條 組合ハ毎月ノ收入、支出及財産ノ狀況ニ付月計表(第九號樣式)ヲ調製シ翌月五日迄ニ道知事ニ之ヲ差出スベシ但シ事業計畫書ヲ調製セザル組合ニ在リテハ經理現況表(第九號樣式ノ二)ヲ以テ月計表ニ代フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ道知事ニ差出スベキ月計表又ハ經理現況表ニシテ年度末ノ分ニ付テハ之ヲ朝鮮總督ニモ差出スベシ

第六十三條 財産ノ管理及處分竝ニ會計ニ關スル書類及帳簿ハ第十三號樣式乃至第三十六號樣式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第六十四條 一件百圓以上ノ工事ノ請負、物件ノ賣買貸借及勞力ノ供給ハ競爭入札ニ付スベシ但シ特別ノ事由アルトキハ指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第五章 聯合會

第六十五條 聯合會ニ於テ行フ施設ノ概目左ノ如シ

一 所屬組合ニ必要ナル資金ノ貸付

二 所屬組合ヨリノ預リ金

三 所屬組合ヨリ委託スル漁獲物及其ノ製品ノ販賣

四 所屬組合ノ業務上ノ指導

五 前各號ニ揭グルモノノ外所屬組合ノ目的ヲ達成セシムル爲必要ナル施設

第六十六條 資金ノ貸付期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ組合ノ業務執行上必要ナル設備ニ要スル資金ニシテ年賦償還ノ方法ニ依ルトキハ十年以內ト爲スコトヲ得

第六十六條ノ二 資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ貸付金ノ一部若ハ全部ヲ回收シタルトキハ第二號樣式ノ二ニ依リ遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第六十七條 聯合會ハ少クトモ每年一回以上所屬組合ニ付業務ノ調査指導ヲ爲スベシ

前項ノ調査指導ヲ爲シタルトキハ其ノ要領ヲ道知事及朝鮮總督ニ報告スベシ

第六十八條 所屬組合ニシテ法令又ハ組合ノ規約若ハ規程ニ違反シ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ヲ必要トスル場合ニ於テハ聯合會ハ其ノ事由ヲ具シ道知事ニ報告スベシ

第六十九條 第三條乃至第九條、第十一條乃至第二十四條、第三十八條乃至第四十二條、第四十四條乃至第六十一條、第六十一條ノ三第一項、第六十二條第一項、第六十三條及第六十四條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ道知事トアルハ朝鮮總督トス

附 則

本令ハ朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際事業年度ガ其ノ中途ニ在ル組合ノ財務ニ關シテハ其ノ年度終了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

本令ニ依リ規約又ハ規程ヲ以テ定ムベキ事項ニシテ本令施行ノ際現ニ之ニ關スル定メナキモノニ付テハ本令施行ノ日ヨリ六月以內ニ規約ノ變更又ハ規程ノ變更若ハ設定ノ認可ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受クルニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

附 則(昭和七年一月總令第五號)

本令ハ昭和七年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(昭和八年二月總令第二十六號)

本令ハ昭和八年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ事業年度ノ中途ニ在ル組合ノ財務ニ關シテハ其ノ年度ノ終了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

第一號樣式

組合印 方二五ミリメートル

何漁業組合之印

組合長(理事)印 方一五ミリメートル

何漁業組合長(理事)之印

聯合會印 方三センチメートル

何道漁業組合聯合會之印

聯合會理事長印 方二センチメートル

何道漁業組合聯合會理事長之印

聯合會理事印 方一五ミリメートル

何道漁業組合聯合會理事之印

第一號樣式ノ二

借入金運用狀況表(昭和 年 月 日)

認可月日	認可額	使途	借入先	借入月日	借入額	償還額	未償還額 延滯額	未償還額 本年度償還スベキ額	未償還額 來年度以後償還スベキ額	未償還額 計	運用額 期限經過額	運用額 期限未到來額	運用額 前渡金又ハ共同購入金	運用額 計	殘高 預金	殘高 現金
	圓				圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
計																

備考

一 運用額ノ欄ノ「期限」トハ貸付金ノ貸付期限、立替金ノ仲買人ニ對スル猶豫期限ヲ謂フ

二 本表ニハ前渡金ヲ爲シタル物品及共同購入ヲ爲シタル物品ニシテ現ニ保管中ニ屬スルモノノ品目、數量及其ノ保管ノ概況ヲ附記スベシ

三 延滯未償還額アル場合ハ其ノ延滯ト爲リタル理由ノ詳細ヲ附記スベシ

第二號樣式

起債又ハ起債償還報告表

漁業組合起債表 昭和 年 月 日 組合名

起債認可年月日	借入年月日	起債ノ目的	借入金額	借入先	利率	償還期限	利子支拂期日	摘要

備考 「償還期限及利子支拂期日」ハ年賦償還ニ在リテハ年次表ニ其ノ償還元金、利子、償還期日ヲ記載シ別表トシテ添附スベシ

漁業組合起債償還表 昭和 年 月 日 組合名

起債認可年月日	借入年月日	償還豫定期日	償還年月日	元金償還額	利子支拂額	計	摘要

第二號樣式ノ二

資金貸付又ハ貸付金回収報告表

資金貸付							昭和　年　月　日	
貸付先ノ起債認可ノ年月日	貸付年月日	貸付金ノ使途	貸付金額 圓	貸付先利率	貸付期限	利子受入期	摘要

備考　「貸付期限」及「利子受入期日」ハ年賦回收ニ在リテハ年次表ニ其ノ回收元金、利子、回收期日ヲ記載シ別表トシテ添附スベシ

貸付金回收表							昭和　年　月　日	
貸付先ノ起債認可ノ年月日	貸付年月日	貸付先	回收約定年月日	回收又ハ回收元金額 圓	利子受入額 圓	計 圓	摘要

第三號樣式

組合員名簿

本籍地						番地	
居住地			町里	洞			
漁業ノ種類	職業	專業	氏名				
		兼業					
			生年月日				
組合員タル資格取得ノ年月日及其ノ事由							
組合員タル資格喪失ノ年月日及其ノ事由							

第四號樣式

役員、職員及議員名簿

本籍地							
居住地							
職名	組合長（書記又ハ通常議員）	氏名					

摘要							

備考　本簿ハ役員、職員及議員ニ區別シ各別ニ口座ヲ設クベシ

第五號樣式

規約違反者處分簿

年月日	違反事項	處分ノ顚末	住所	氏名	就任又ハ當選 年 月 日	任期滿了 年 月 日	退任又ハ解任 年 月 日

第六號樣式

組合員信用程度表　　昭和　年　月　日調査

住所	那	面	里	職業	從業者 男 人 女 人 計 人									
何年齡	某	歲		兼業	家族非從業者 男 人 女 人									
資産	種別	數量	時價 圓	收入	一年平均收入支出				信用狀態					
	土地				漁獲高				種別	得點數	查定種別			
	建物				其ノ他				資産	點（甲）	（乙）			
	漁船				計				性行勤勞及技能	點（甲）	（乙）			
	漁具			支出	漁業經費				得點總數	點				
	漁業權				其ノ他				信用程度額	圓				
	其ノ他				計				特別信用程度額	圓				
	計			收入支出差額										
負債額														

備考　一　「一年平均收入支出」ハ著シキ變化ナシト認ムルトキハ三年目毎ニ更新シ其ノ他ノ事項ハ異動ノ都度整理スベシ

二　「信用狀態」ハ百點ヲ滿點（內資産二十點、性行勤勞及技能八十點）トシ各人ノ得點數ヲ査定シ其ノ信用程度額ハ一點ヲ十圓トスベシ

三　資産中「負債額」ハ組合ニ對スル負債ヲ除キタルモノヲ記載スベシ

四　信用狀態中「資産」ノ得點ハ純資産（資産ヨリ負債ヲ控除シタル額）カ五百圓以上ニシテ一年ノ收支關係ニ於テ缺損ナキモノヲ二十點トシ甲二十點、乙十點、丙零點ノ三種ニ區分スベシ

同上中「性行勤勞及技能」ハ其ノ優良ナルモノヲ八十點トシ甲八十點、乙六十點、丙四十點、丁二十點、戊零點ノ五種ニ區分スベシ

六　「信用程度額」ヲ以テ主タル債務及保證債務ノ最高限度トスベシ

七　「特別信用程度額」ハ純資産ヨリ「信用程度額」ヲ控除シタルモノノ半額トシ保證債務ノ專業又ハ兼業ニ從事スル漁業ノ主タル漁業ニ對スル最高限度トスベシ

八　「一年平均收入支出」ノ漁業ノ種類ヲ記載スベシ

九　收入中「其ノ他」ハ漁獲高以外ノ一切ノ收入ヲ、支出中「其ノ他」ハ漁業經費以外ノ一切ノ支出（漁業以外ノ業務上ノ經費及生活費等）ヲ記載スベシ

第七號樣式

一　收支計畫表　何漁業組合昭和　年度事業計畫書

區分	收入			支出		
項目	金額 圓	使途	摘要	金額 圓	使途	摘要
一　前年度繰越金		前年度剩餘金ノ何分ノ何				
二　前年度繰越金						
一　漁業資金貸付資金		漁業資金貸付金、漁業資金借入金償還金、預リ金拂戻金、事業資金假入金戻入、何				
二　委託販賣代金前渡及立替資金		委託販賣代金前渡及立替金、委託販賣前渡及立替資金借入金償還金、何				
三　共同購入資金		共同購入品代金、何				
四　設備資金		委託販賣所建設費、繫船場建設費、何				
五　役職員身元保證金						
六　何						
三　賦課金						
一　賦課金		組合員一人ニ付何十錢何人分				
四　財產收入						
一　漁業權行使料		何專用漁業權行使料一人ニ付何錢何人分何圓何漁業權行使料何圓				
二　寄附金		何漁業權組合員外貸付料何圓				
三　漁業權貸付料						
三　入漁料		何專用漁場入漁者一人ニ付何錢何人分何圓				
四　共同設備使用料		倉庫使用料一日ニ付何錢何日分 何圓 設備使用料一回ニ付何錢何回分 何錢				
五　共同設備貸付料		漁船貸付料一隻ニ付何圓				
六　何		何				
五　利子收入						
一　基本財產積立金利子		積立金額何圓利率年何分				
二　事業資金積立金利子		何				
三　救恤資金積立金利子		何				
四　預リ金拂戻準備積立金利子		何				
五　貸付金利子		貸付金何圓、日歩何錢何日分				
六　委託販賣代金前渡金利子		前渡金何圓、日歩何錢何日分				
七　役員及職員身元保證金利子		身元保證金何圓、日歩何錢何日分				
八　一般預金利子		預金ノ額何圓、日歩何錢何日分				
九　何		何				
六　手數料收入						
一　委託販賣手數料		鮮魚取扱高何圓ノ何分ノ何何圓 製品取扱高何圓ノ何分ノ何何圓				
二　共同購入手數料		共同購入取扱高何圓ノ何分ノ何何圓				
三　檢査手數料		何檢査一箇ニ付何錢、何箇分何圓				
四　何		何				
七　補助金						
一　國庫補助金		共同施設費補助金何圓 理事給料補助金何圓				
二　地方費補助金		何補助金何圓				
八　寄附金						
一　寄附金		何				
九　所有物賣却代						

一	土地賣却代	沓何平方メートル、一平方メートルニ付何圓
二	什器賣却代	金庫　何箇
三	不用品賣却代	机一箇ニ付何圓、何箇分何圓
四	何賣却代	何圓　何圓
十	借入金	
一	漁業資金貸付資金借入金	漁業資金貸付金、漁業資金貸付資金借入金償還金、何 借入先何漁業組合聯合會、利率年何分何厘、借入期間何年、定期償還（年賦均等償還）
二	委託販賣代金前渡及立替資金借入金	委託販賣前渡及立替金、何
三	共同購入資金借入金	共同購入品代金　何
四	共同設備資金借入金	何建設費、何
五	何借入金	何　何
十一	預り金	
一	定期預り金	貸付金、預り金拂戻金　組合員ヨリノ預り金
二	貯蓄預り金	貸付金、預り金拂戻金　組合員ヨリノ預り金
五	何預り金	何　何
十二	事業資金積立金假入金	
一	漁業事業資金トシテ假入	漁業資金貸付金、事業資金積立金戻入金、何　假入期間何箇年
二	委託販賣事業資金トシテ假入	委託販賣代金前渡及立替金、何　假入期間何箇月
三	共同購入資金トシテ假入	共同購入品代金、何　假入期間　年　月　日迄
十三	預り金拂戻準備積立金	
一	預り金拂戻準備積立金假入金	預り金拂戻金、預り金拂戻準備積立金戻入金　假入期間　本年度末日迄
十四	貸付金回收金	
一	過年度貸付金回收金	漁業資金貸付資金借入金償還金、預り金拂戻金、漁業資金貸付金、事業資金積立金假入金戻入、何圓　擔保貸付金　何人、何口、保證貸付金　何人、何口、
二	本年度貸付金回收金	何　何圓
十五	委託販賣代金前渡及立替金回收金	何　何圓

一	委託販賣所建設費	木造瓦葺平家建　何坪方メートル
二	棧橋架設費	何　何
三	何	何　何
五	遭難救恤金及遭難救恤資金積立金	
一	遭難救恤金及遭難救恤資金積立金	何
六	預り金拂戻金	
二	預り金拂戻金	定期預り金拂戻　何圓
	（不足ノ生ジタル場合ハ増額スルコトヲ問ヒ）	貯蓄預り金拂戻　何圓
七	借入金償還金	
一	漁業資金貸付資金借入金償還金	何年借入何圓中本年度分償還金　何圓
二	委託販賣代金前渡及立替資金借入金償還金	本年借入何圓定期償還　何圓　何圓
三	共同購入資金借入金償還	何　何圓
四	共同設備資金借入金償還	何　何圓
八	事業資金積立金戻入金	
一	事業資金積立金戻入金	前年度假入金何圓ノ中本年度分戻入金　何圓　何圓
九	預り金拂戻準備積立金戻入金	
一	預り金拂戻準備積立金戻入金	
十	役員及職員身元保證金拂戻金	
一	役員及職員身元保證金拂戻金	役員　何人分　職員　何人分　何圓　何圓
十一	支拂利子	
一	借入金利子	何借入金利子　何圓　何圓
二	預り金利子	何　何圓　何圓
三	役員及職員身元保證金利子	何　何圓
十二	歩戻金	
一	仲買人歩戻金	歩戻率　何ノ何分ノ何
	（不足ノ生ジタル場合ハ増額スルコトヲ問ヒ）	
二	何歩戻金	何

十三	什器購入費	
一	什器購入費	金庫一箇　何圓
十四	基本財産積立金	
一	基本財産積立金	
十五	預り金拂戻準備積立金	
一	預り金拂戻準備積立金	
十六	經費	
一	經費	內譯　經費豫算書ノ通
十七	翌年度繰越資金	
一	漁業資金貸付資金	借入金償還期未到來ニ付繰越
二	委託販賣代金前渡及立替資金	何　何圓
三	共同購入資金	何　何圓
四	設備資金	何　何圓
五	役員及職員身元保證金	何　何圓
六	何	何　何圓
十八	何	
一	何	何　何圓
十九	雜支出	
一	雜支出	何　何圓　何圓
二十	本年度餘裕金	
一	餘裕金	
	合計	

備考

一　收入ノ部中「前年度繰越資金」、「借入金」、「預り金」、「事業資金積立金假入金」、「預り金準備積立金假入金」、「貸付金回收金」、「委託販賣代金前渡及立替金回收金」、「積立金繰入金」ニ付テハ其ノ使途ヲ明定スベシ

二　本表ノ項目中事業計畫上必要ナキモノハ之ヲ削除スベシ

三　本表ノ項目以外ニ必要ナルモノアルトキハ更ニ項目ヲ增設スベシ

二　事業計畫概略書

備考　一　事業毎ニ其ノ實施ヲ必要トスル理由、實施ノ方法、實施上必要ナル財源其ノ他事業ノ内容ニ付詳細ニ記載スベシ

第七號樣式ノ二

何漁業組合昭和　年度經費豫算書

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較 増	比較 減	附記
款 項	圓	圓	圓	圓	
一　事務費					
一　役員手當及報酬					組合長年手當　何圓 監事一人年報酬何圓何人分　何圓
二　役員給料					理事給料月額何圓何箇月分
三　書記給料					書記何人一人平均月額何圓何箇月分
四　技術員給料					技術員何人一人平均月額何圓何箇月分
五　旅費					役員旅費　何圓 職員旅費　何圓
六　備品費					別紙明細書ノ通（何、何圓）
七　修繕費					棚破損修理　何圓
八　消耗品費					別紙明細書ノ通（何、何圓）
九　通信運搬費					通信費　何圓 運搬費　何圓
十　雜給					小使一人月額何圓何箇月分、備人何人一日何錢何日分、理事年末賞與何圓、書記技術員年末賞與何圓、小使年末賞與何圓
十一　雜費					何圓
十二　雜費					何圓
二　會議費					
一　會議費					總代會費（總會費）
三　諸稅及負擔					
一　諸稅					何圓
二　負擔					何圓
四　遭難救恤金					
一　遭難救恤金					
計					

備考

一　前揭各款項中ノ必要ナキモノハ之ヲ削除シ必要ナルモノハ之ヲ增設スベシ

二　經費決算書ハ前揭豫算中「豫算書」ヲ「決算書」、「本年度豫算額」ヲ「決算額」、「前年度豫算額」ヲ「豫算額」ト シ調製スベシ

第七號樣式ノ三

何漁業組合昭和　年度經費豫算書

收入

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
款 項	圓	圓	圓	圓	
一　前年度繰越金					
一　前年度事業費繰越金					前年度何事業繰越ニ因ル繰越金
二　前年度繰越金					
二　賦課金					
一　賦課金					組合員何百人一人何十錢
三　財産收入					
一　漁業權行使料					何專用漁業權行使料一人何錢何人分 何漁業權行使料　何圓
二　漁業權貸付料					何漁業權組合員外貸付料
三　入漁料					何專用漁場入漁者人一人何錢
四　使用料					倉庫使用料一人何圓何人分　何圓 何使用料　何圓
五　貸付料					土地貸付料　何圓 何貸付料　何圓
四　利子收入					

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
款 項	圓	圓	圓	圓	
一　利子收入					基本財産積立金利子何圓、事業費積立金利子何圓、救恤資金積立金利子何圓、一般預金利子何圓
五　補助金					
一　國庫補助金					經費補助金　何圓
二　地方費補助金					何　何圓
六　所有物賣却代					
一　所有物賣却代					建物何平方メートル賣却代 不用品賣却代　何圓
七　雜收入					
二　雜收入					
八　救恤資金積立金ヨリ繰入金					
二　救恤資金積立金ヨリ繰入金					
九　事業資金積立金ヨリ繰入金					
一　事業資金積立金ヨリ繰入金					
計					

支出

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較 增	比較 減	附記
款 項	圓	圓	圓	圓	
一　事務費					
一　役員手當及報酬					組合長年手當　何圓 監事一人年報酬何圓何人分　何圓
二　役員給料					理事給料月額何圓何箇月分
三　書記給料					書記何人一人平均月額何圓何箇月分
四　技術員給料					技術員何人一人平均月額何圓何箇月分
五　旅費					役員旅費　何圓 職員旅費　何圓
六　備品費					別紙明細書ノ通（何、何圓）
七　修繕費					棚破損修理　何圓
八　消耗品費					別紙明細書ノ通（何、何圓）
九　通信運搬費					通信費　何圓 運搬費　何圓
十　雜給					小使一人月額何圓何箇月分、備人何人一日何錢何日分、理事年末賞與何圓、書記技術員年末賞與何圓、小使年末賞與何圓
十一　雜費					何　何圓
二　會議費					
一　會議費					總代會費（總會費）
三　諸稅及負擔					
一　諸稅					何　何圓
二　負擔					何　何圓
四　事業費					
一　魚付林設定費					苗木何本代　一本何錢ノ割
二　浚渫費					何　何圓
三　道路擴張費					何　何圓
四　何					
五　遭難救恤金					
一　遭難救恤金					
二　何					
六　雜費					
一　雜費					
七　豫備費					
一　豫備費					
計					

備考

一　前揭各款項中ノ必要ナキモノハ之ヲ削除シ必要ナルモノハ之ヲ增設スベシ

二　經費決算書ハ前揭豫算中「豫算書」ヲ「決算書」、「本年度豫算額」ヲ「決算額」、「前年度豫算額」ヲ「豫算額」ト シ調製スベシ

第八號様式

納入告知書

第　　號

一金「何程」何々

右　年　月　日限リ當組合ニ納付セラルベシ

年　月　日

何漁業組合印

殿

領收證

第　　號

一金「何程」何々

右領收ス

年　月　日

何漁業組合理事印

殿

第九號様式

組合長

理事

月計表

昭和　年　月　日

何漁業組合

借方 金額	借方 殘高	元丁	科目	貸方 殘高	貸方 金額
圓	圓		正味財産勘定	圓	圓
			基本財産積立金		
			事業資金積立金		
			救恤資金積立金		
			預リ金拂戻準備積立金		
			一般正味財産		
			前年度剩餘金		
			前年度繰越金		
			所有物勘定		
			漁業權		
			土地建物		
			建物		
			船舶		
			工作物		
			什器		
			預リ金勘定		
			役職員身元保證金		
			仲買人保證金		
			定期預リ金		
			貯蓄預リ金		
			借入金勘定		
			貸付資金借入金		
			前渡及立替資金借入金		
			共同購入資金借入金		
			設備資金借入金		
			一時借入金		
			事業資金積立金假入金勘定		
			貸付資金ニ假入		
			前渡及立替資金ニ假入		
			共同購入資金ニ假入		
			貸付金勘定		
			過年度擔保貸付金		
			過年度保證貸付金		
			本年度擔保貸付金		
			本年度保證貸付金		
			委託販賣勘定		
			荷主		
			仲買人		
			受託未販賣品		
			積送品		
			前渡金		
			共同購入勘定		
			購入申込金		
			購入品		
			金融組合聯合會勘定		
			金融組合聯合會出資金		
			預ケ金勘定		
			定期預金		
			當座預金		
			郵便貯金		
			振替貯金		
			未決算勘定		
			假受金		
			假拂金		
			損益勘定		
			事業資金積立金繰入		
			救恤資金積立金繰入		
			賦課金		
			漁業權收入		
			共同設備收入		
			貸付金利子		
			預金利子		
			委託販賣手數料		
			共同購入手數料		
			檢查手數料		
			金融組合聯合會配當金		
			補助金		
			雜收入		
			事務費		
			會議費		
			諸稅負擔		
			事業費		
			遭難救恤金		
			借入金利子		
			預リ金利子		
			歩戻金		
			雜支出		
			現金		
			現金		
			總計		

貸付金現況

區分	貸付現在額 口數	貸付現在額 金額	期限未到來額 口數	期限未到來額 金額	延滯額 口數	延滯額 金額
過年度擔保貸付金		圓		圓		圓
過年度保證貸付金						
本年度擔保貸付金						
本年度保證貸付金						
計						

未決算勘定内譯

區分	假受金	假拂金	何	何
何	圓	圓	圓	圓

計					

備考　一　本様式ニ掲ケタル科目中必要ナキモノハ之ヲ省キ必要ナルモノハ追加スベシ
　　　二　未收金又ハ未拂金アル場合ハ「未決算勘定内譯」ニ記載スベシ

第九號様式ノ二

昭和　年度經理現況表

收入（支出）

（昭和　年　月　日現在）

科目 款	科目 項	豫算額	收入額（支出額） 前月迄累計	收入額（支出額） 本月ノ分	收入額（支出額） 累計	差額
		圓	圓	圓	圓	圓

第十號様式

財産目録

（昭和　年　月　日現在）

資産

種類	摘要		金額	
漁業權			圓	（　）
定置漁業	何	何件	何圓	
	何	何件	何圓	
何				
土地				（　）
敷地	事務所用	何平方メートル	何圓	
	倉庫用	何平方メートル	何圓	
何	何	何平方メートル	何圓	
建物				（　）
事務所	木造瓦葺平家建	何平方メートル	何圓	
倉庫	何	何平方メートル	何圓	
	何	何平方メートル	何圓	
何	何	何平方メートル	何圓	
船舶				（　）
發動機船	何隻		何圓	
帆船	何隻		何圓	
何	何隻		何圓	
工作物				（　）
棧橋	何箇所		何圓	
何			何圓	
什器	何	何箇	何圓	（　）
	何	何箇	何圓	
貸付金	擔保貸付金	何口何人	何圓	（　）
	保證貸付金	何口何人	何圓	
委託販賣代金前渡及立替金	前渡金	何人分	何圓	（　）
	立替金	何人分（仲買人何人）	何圓	
共同購入品	何	何點	何圓	（　）
	何	何點	何圓	
金融組合聯合會出資金	出資スベキ金額何圓ノ内拂込濟額		何圓	（　）
預ケ金				（　）
定期預ケ金	何銀行	何口	何圓	
當座預ケ金	何銀行	何口	何圓	
何			何圓	
假拂金	何		何圓	（　）
	何		何圓	
何			何圓	（　）
現金				（　）
計				

負債

種類	摘要		金額	
基本財産積立金	田	何平方メートル	何圓	（　）
	定期預ケ金		何圓	
事業資金積立金				（　）
救恤資金積立金				（　）
預り金拂戻準備積立金				（　）
役員及職員身元保證金	現役員	何名	何圓	（　）
	元役員	何名	何圓	
仲買人保證金	仲買人	何人	何圓	（　）
定期預り金	何口		何圓	（　）
貯蓄預り金	何口		何圓	（　）
事業資金積立金假入金				（　）
貸付資金ニ假入			何圓	
委託販賣代金前渡及立替資金ニ假入			何圓	
共同購入資金ニ假入			何圓	
借入金				（　）
定期償還借入金	何資金　年　月　日借入、償還期日　年　月　日		何圓	
	何、何		何圓	
年賦償還借入金	何資金　年　月　日借入、借入期間何年		何圓	
	何		何圓	
共同購入前受金	何口	何人	何圓	（　）
假受金	何		何圓	（　）
	何		何圓	
前年度繰越金				（　）
本年度剩餘金				（　）
計				

第十號様式ノ二

貸借對照表

（昭和　年　月　日現在）

資産	金額	負債	金額
漁業權	圓	基本財産積立金	圓
土地		事業資金積立金	
建物		救恤資金積立金	
船舶		預り金拂戻準備積立金	
工作物		役員及職員身元保證金	
什器		仲買人保證金	
貸付金		定期預り金	
委託販賣代金前渡及立替金		貯蓄預り金	
共同購入品		事業資金積立金假入金	
金融組合聯合會出資金		借入金	
預ケ金		共同購入前受金	
假拂金		假受金	
現金		前年度繰越金	
		本年度剩餘金	
合計		合計	

第十號様式ノ三

財産目録

（昭和　年　月　日現在）

種類	摘要		金額	
漁業權			圓	（　）
定置漁業	何	何件	何圓	
	何	何件	何圓	
何			何圓	
土地				（　）
田	何平方メートル		何圓	
林野	何平方メートル		何圓	
何	何平方メートル		何圓	
建物				（　）
事務所	木造瓦葺平家建	何平方メートル	何圓	
倉庫	何		何圓	
何	何		何圓	
船舶				（　）
發動機船	何隻		何圓	
帆船	何隻		何圓	
何	何隻		何圓	

種別	摘要	金額	
工作物	網染釜　何箇所　釜數　何箇	何圓	（　）
	何	何圓	
什器	何　何箇	何圓	（　）
	何　何箇	何圓	（　）
預ケ金	定期預ケ金　何銀行　何口	何圓	（　）
	當座預ケ金　何銀行　何口	何圓	
何			（　）
何			
計			

第十一號様式

事業報告書

一　事業ノ概要

二　組合員

前年度末現在	本年度末現在	比較 増	比較 減	増減理由

三　組合ノ積立金

種別	前年度末現在	本年度末現在	比較 増	比較 減	摘要
	圓	圓	圓	圓	
計					

四　組合ノ所有物

種別		前年度末現在 數量	前年度末現在 金額	本年度末現在 數量	本年度末現在 金額	摘要
基本財産	田					
	何々					
	計					
其ノ他ノ財産	垈					
	田					
	林野					
	建物					
	備品					
	何々					
	計					
合計						

五　組合ノ享有スル漁業權

漁業ノ種類及名稱	免許ヲ受ケタル漁獲物ノ種類	本年度漁獲高 數量	本年度漁獲高 金額	行使人員 入漁人員	摘要
			圓		
計					

六　賦課金

前年度末現在	本年度調定額	本年度徴收額	本年度末未收額	未收額處理方法
圓	圓	圓	圓	

七　組合員共同貯金及貸付金回收準備金

種別	前年度末現在 口數	前年度末現在 金額	本年度末現在 口數	本年度末現在 金額	比較 増 口數	比較 増 金額	比較 減 口數	比較 減 金額	摘要
		圓		圓		圓		圓	
計		圓		圓		圓		圓	

八　組合員ノ漁獲高

漁業別 數量	價格	魚種別 數量	價格	摘要
	圓		圓	
計				

九　委託販賣

魚種別	組合員 數量	組合員 價額	組合員外 數量	組合員外 價額	計 數量	計 價額
		圓		圓		圓
計						

十　委託販賣前渡金及立替金

前年度末現在 口數	前年度末現在 金額	本年度中前渡及立替 口數	本年度中前渡及立替 金額	精算 口數	精算 金額	本年度末未精算 口數	本年度末未精算 金額	摘要
	圓		圓		圓		圓	

十一　共同購入

品名	前年度末現在 數量	前年度末現在 價格	本年度購入 數量	本年度購入 價格	本年度配付 數量	本年度配付 價格	本年度末現在 數量	本年度末現在 價格	摘要
		圓		圓		圓		圓	
計									

十二　共同購入前受金

前年度末現在 口數	前年度末現在 金額	本年度受入 口數	本年度受入 金額	精算 口數	精算 金額	本年度末未精算 口數	本年度末未精算 金額	摘要
	圓		圓		圓		圓	

十三　預リ金

種別	前年度末現在	本年度受入	本年度拂戻	本年度末現在	同上口數	前年度末ニ對スル口數増
定期預リ金	圓	圓	圓	圓		
貯蓄預リ金						
計						

十四　貸付金

種別	前年度末現在 口數	前年度末現在 金額	本年度貸付高 口數	本年度貸付高 金額	本年度回收高 口數	本年度回收高 金額	本年度末現在 口數	本年度末現在 金額	本年度末利子未收入高 口數	本年度末利子未收入高 金額	摘要
擔保貸付金		圓		圓		圓		圓		圓	
保證貸付金											
計											

十五　借入金

種別	借入先	前年度末現在	本年度借入額	期限内償還額	期限後償還額	未償還額	支拂利子	摘要
		圓	圓	圓	圓	圓	圓	
計								

十六　遭難救恤

遭難種類	救恤件數	救恤金額	摘要
		圓	
計			

十七　損益

利益 項目	利益 金額	損失 項目	損失 金額
	圓		圓
計			

十八　未決算勘定

假受金（未拂金）

種別	前年度末現在	本年度受入	本年度拂出	本年度末現在
	圓	圓	圓	圓
計				

假拂金（未收金）

種別	前年度末現在	本年度支拂	本年度受入	本年度末現在

計					

十九　繰約余剰分

種別	件数	人員	摘要
計			

二十　總會又ハ總代會ノ決議事項

二十一　其ノ他參考トナルベキ事項

第十二號樣式

昭和　年度損益剰餘金處分案

本年度總損益金	
差引總損益金	
內譯 一般正味財産ニ繰入スベキモノ	
內譯 積立金	
內譯 繰越金	
內譯 何	
本年度剰餘金トシテ處分スベキモノ	
前年度繰越金	
計	

之ヲ處分スルコト左ノ如シ

基本財産積立金	何分ノ何
事業資金積立金	何分ノ何
福祉施設資金積立金	何分ノ何
次年度繰越金	

右ノ通

昭和　年　月　日

何漁業組合

理事　組合長　氏名　印

理事　氏名　印

昭和　年度決算ニ依ル借貸對照表、財産目錄、事業報告及剰餘金處分案ノ監査ノ正ニ確ナルヲ認ム

昭和　年　月　日

監事　氏名　印

第十二號樣式ノ二

昭和　年度剰餘金處分案

本年度總收入	
差本年度總支出	
引內事業資金トシテ翌年度へ繰越スベキモノ	
本年度剰餘金トシテ處分スベキモノ	

之ヲ處分スルコト左ノ如シ

基本財産積立金	何分ノ何
事業資金積立金	何分ノ何
福祉施設資金積立金	何分ノ何
次年度繰越金	

右ノ通

昭和　年　月　日

何漁業組合

理事　組合長　氏名　印

理事　氏名　印

昭和　年度決算ニ依ル繰越決算書、財産目錄及剰餘金處分案ノ監査ノ正ニ確ナルヲ認ム

昭和　年　月　日

監事　氏名　印

第十三號樣式

昭和　年度豫算差引簿

月日	摘要	豫算額	收入(○)額	支出(●)額	差額	摘要
	何項何					
		圓	圓	圓	圓	

備考　豫算ノ項毎ニ口座ヲ設クベシ

第十三號樣式ノ二

基本財産臺帳

備考

一　本簿ハ第十四號乃至第十九號樣式ニ準ジ調製スベシ

二　本簿ハ一加トシ各種類毎ニ口座ヲ設クベシ

第十四號樣式

漁業權臺帳

種別	摘要
免許番號	
漁業ノ種類	
漁業及漁具ノ名稱	
漁場ノ位置及區域	
漁業ノ方法	
採捕物又ハ養殖場ノ種類	
漁業ノ時期	
存續ノ期間	
採捕物又ハ養殖物ノ見込年額	
制限又ハ條件	
免許ノ年月日	
備考	

年月日	摘要	評價 增價	減價	價額
		圓	圓	圓

備考　漁業權ハ一件毎ニ一用紙ニ記載スベシ

第十五號樣式

土地臺帳

所在及地番	
地目及面積	

年月日	摘要	法定地價	評價 增價	減價	價額
		圓	圓	圓	圓

備考　土地ハ一筆毎ニ一用紙ニ記載スベシ

第十六號樣式

建物臺帳

名稱及用途	
所在地	
構造	

年月日	摘要	棟數	總建坪	建坪	評價 增價	減價	價額
					圓	圓	圓

備考　一　建物ハ事務所、倉庫等ニ分チ附屬建具ヲモ併セ一件毎ニ一用紙ニ記載スベシ

二　構造ハ建方、葺方、造方等ヲ記載スベシ

第十七號樣式

船舶臺帳

船名	

船　種類	
積量及馬力	
長サ及肩幅	
用途	

年月日	摘要	評價 増價	評價 減價	評價 價額
		圓	圓	圓

備考　一　船舶ハ附屬船具ヲモ併セ一隻毎ニ一用紙ニ記載スヘシ
　　　二　積量ニ依リ稱ヘザルモノニ在リテハ長サ及肩幅ヲ記載スヘシ

第十八號様式

工作物臺帳

名稱及用途	
所在地	
構造	

年月日	摘要	數量	單價	評價 増價	評價 減價	評價 價額
			圓	圓	圓	圓

備考　工作物ハ棧橋、鹽藏タンク等ニ分チ附屬設備ヲモ併セ一件毎ニ一用紙ニ記載スヘシ

第十九號様式

積立金臺帳

種類	
保管方法	
通帳番號	

年月日	摘要	積立額	支出額	現在額
		圓	圓	圓

備考　積立金ハ種類毎ニ口座ヲ設クヘシ

第二十號様式

備品臺帳

品名	

年月日	摘要	數量	單價	價額
			圓	圓

備考　品名毎ニ口座ヲ設クヘシ

第二十號様式ノ二

什器臺帳

品名	

年月日	摘要	數量	單價	價額	評價 増價	評價 減價	評價 價額
			圓	圓	圓	圓	圓

備考　品名毎ニ口座ヲ設クヘシ

第二十一號様式

徴收簿

告知書番號	告知年月日	收納月日	金額	氏名	摘要
			圓		

備考　本簿ハ經費賦課金、漁業料、入漁料等科目毎ニ各別冊ノ帳簿ヲ備フヘシ但シ合冊ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ口座ヲ設クヘシ

第二十二號様式

日記帳

借方 振替摘要	借方 摘要	借方 元丁	借方 振替金額	借方 現金收入	借方 合計	年月日	貸方 振替摘要	貸方 摘要	貸方 元丁	貸方 振替金額	貸方 現金支出	貸方 合計
			圓	圓	圓					圓	圓	圓

第二十三號様式

總勘定元帳

年月日	摘要	日記帳丁數	借方	貸方	借或ハ貸	殘高
			圓	圓		圓

備考　本簿ノ口座ハ第九號様式ニ依ル月計表ノ科目毎ニ區分スヘシ但シ損益勘定ニ屬スルモノハ豫算ノ科目毎ニ區分スヘシ

第二十四號様式

委託販賣前渡金臺帳

荷主氏名	

年月日	摘要	前渡額	受入額	殘額
		圓	圓	圓

備考　一　本簿ハ組合員毎ニ口座ヲ設クヘシ
　　　二　利子ヲ徴スル場合ニ於テハ適宜欄ヲ設ケ記載スヘシ

第二十五號様式

委託販賣臺帳

荷主氏名	

年月日	販賣價額	控除金額 手數料	控除金額 貯金	控除金額 貸付金回收準備金	控除金額 前渡金	控除金額 計	拂渡スベキ金額	拂渡額	殘額	摘要
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	

備考　本簿ハ荷主毎ニ口座ヲ設クヘシ

第二十六號様式

委託販賣掛金臺帳

仲買人氏名	
貸越限度	
猶豫期限	
保證又ハ擔保ノ種類	

年月日	摘要	販賣額	受入額	殘額
		圓	圓	圓

備考　一　本簿ハ仲買人毎ニ口座ヲ設クヘシ
　　　二　延滯金ニ付利子ヲ徴スル場合ニ於テハ適宜欄ヲ設ケ記載スヘシ

第二十七號様式

借入金臺帳

起債ノ目的		借入年月日	
借入先		償還期日	
利率		償還方法	
認可年月日		擔保	

月日	摘要	借入額	償還額	現在額	利子 計算期間	利子 金額	利子 支拂額	利子 殘額	償還方法 期	償還方法 期日	償還方法 元金	償還方法 利子	償還方法 計
		圓	圓	圓		圓	圓	圓			圓	圓	圓

備考　本簿ハ起債一件毎ニ記載スヘシ

第二十八號樣式

貸付金臺帳

借主氏名		住所		信用程度 / 特別信用程度	

年月日	摘要	使途	擔保物 品名	擔保物 數量	擔保物 評價額	未利子收入額	利子收納額	利子 金額	利子 積數	利子 日數	保證人 住所	保證人 氏名	利率	期限	在現貸付額	回收額	貸付額	書號證番
					圓	圓	圓	圓							圓	圓	圓	

借主氏名		住所		信用程度 / 特別信用程度	

年月日	摘要	使途	擔保物 品名	擔保物 數量	擔保物 評價額	未利子收入額	利子收納額	利子 金額	利子 積數	利子 日數	保證人 住所	保證人 氏名	利率	期限	在現貸付額	回收額	貸付額	書號證番
					圓	圓	圓	圓							圓	圓	圓	

備考　本簿ハ組合ニ於テ口座ヲ設ケタル者ニ貸付ケタル場合ニ之ヲ使用スベシ但シ合併ノ場合ニ得タル貸付金ニシテ別ニ一冊ト爲スコトヲ得

第二十九號樣式

貯蓄預リ金臺帳

預入者氏名								
年月日	摘要	預金額	拂戻額	現在額	日數	積數		
		圓	圓	圓				

備考　本簿ハ預入者毎ニ口座ヲ設ケベシ

第三十號樣式

定期預リ金臺帳

預入者氏名						
年月日	證書番號	期間	端期日	利率	預金額	積數	利子額	支拂年月日	摘要
					圓				

備考　本簿ハ預入者毎ニ口座ヲ設ケベシ

第三十一號樣式

共同勝入品臺帳

品名										
年月日	摘要	住入先引渡人	勝入 數量	勝入 價額	引渡 數量	引渡 價額	現在 數量	現在 價額	手數料額	摘要
				圓		圓		圓	圓	

備考　本簿ハ品名毎ニ口座ヲ設ケベシ

第三十二號樣式

入金傳票

何漁業組合

年　月　日

摘要	金額	理事
	圓	出納
		記帳
合計		

備考　一　本票ハ總テ現金受入際調製スベシ

二　本簿ハ之ヲ使用セザルコトヲ得

第三十三號樣式

出金傳票

何漁業組合

年　月　日

摘要	金額	理事
	圓	出納
		記帳
合計		

備考　一　本票ハ總テ現金ヲ支拂フ際調製スベシ

二　本簿ハ之ヲ使用セザルコトヲ得

第三十四號樣式

振替傳票

年　月　日

何漁業組合

理事	主任	記帳

借方 科目	借方 金額	摘要	貸方 科目	貸方 金額
	圓			圓
差引現金出			差引現金入	
合計			合計	

備考　本傳票ハ之ヲ使用セザルコトヲ得

第三十五號樣式

（貸付金回收準備金臺帳）

組合員共同貯金臺帳

氏名	
通帳番號	

月日	摘要	受入額	拂出額	殘額
		圓	圓	圓

備考　本簿ハ組合員毎ニ口座ヲ設クベシ

第三十六號樣式

保證積立金臺帳

氏名	

月日	摘要	積立額	拂戻額	殘額
		圓	圓	圓

備考　一　本簿ハ積立人毎ニ口座ヲ設クベシ

二　本簿ハ理事ノ身元保證金及仲買人ノ保證金等ヲ記載スベシ

●朝鮮漁業組合規則第十五條第三項ノ規定ニ依ル漁業組合

昭和四年一月

總告第一號

改正　昭和四年四第一四八號、四年九第三一一
三號、四年一〇第三八四號、四年一一第四
六五號、五年三第一〇四號、五年六第二六
〇號、五年八第二九號、五年一〇第四〇
九號、第四二二號、六年一二第五三號、六年
三第一〇八號、六年五第一六五號、第二九
七號、六年六第三一三號、第三五號、六
年九第四三五號、六年一二第五九一號、七

京畿道

德積面漁業組合、北島面漁業組合、江華漁業組合

忠淸南道

西面漁業組合

安興漁業組合

全羅北道

衣服里漁業組合

於靑島漁業組合

古群山漁業組合

邊山漁業組合

全羅南道

光陽郡海苔漁業組合

高興郡海苔漁業組合

鹿島里漁業組合

康津郡海苔漁業組合

莞島郡海苔漁業組合

高敞漁業組合

北平漁業組合

夢灘漁業組合

群山漁業組合

楸子島漁業組合

西歸漁業組合

鳶島漁業組合

安島漁業組合

心張里漁業組合

麗水漁業組合

蛸島丈里漁業組合

羅老島漁業組合

黃山漁業組合

務安郡海苔漁業組合

蒼右面漁業組合

華月漁業組合

靑山漁業組合

金日漁業組合

慶尙北道

甘浦漁業組合

迎日漁業組合

江口漁業組合

淸河漁業組合

長鬐漁業組合

寧海漁業組合

松羅漁業組合

慶尙南道

方魚津漁業組合

訥次里漁業組合

溫山漁業組合

知足海峽漁業組合

長承浦漁業組合

靑海郡東部漁業組合

欲知漁業組合

洛東江海苔漁業組合

河東海苔漁業組合

長生浦漁業組合

鎭東面漁業組合

開山面漁業組合

九龍浦漁業組合

丑山漁業組合

鳥保漁業組合

西生面漁業組合

三千浦漁業組合

泗川灣漁業組合

巨濟漁業組合

熊東漁業組合

三山面漁業組合

朝鮮漁業組合規則第十五條第三項ノ規定ニ依ル漁業組合ヲ左ノ通指定ス

年一第三三號●第三六號、七年三第四四號、第六三號、七年八第四一九號●第五三號、七年一〇第五四九號、七年一一第五九三號、八年二第六〇號、八年四第一八九號、八年九第二〇三號、第二五三號、八年八第三七六號、第四〇三號、八年一二第四一九號、第四三七號、九年三第六一〇號、第七〇號、九年三第一五五號、第一五三號、九年五第二九一號

釜山漁業組合
機張漁業組合
龍湖島漁業組合
漢川面漁業組合
獐島漁業組合
扶西面漁業組合
龍川漁業組合
大浦漁業組合
三陟漁業組合
平海面漁業組合
亙津漁業組合
高城漁業組合
浿潮漁業組合
新浦漁業組合
遮湖漁業組合
雄基漁業組合
漁大津漁業組合
梨津漁業組合
日新漁業組合
造山灣漁業組合
山陽面漁業組合
西浦面漁業組合
黃海道
漁化島漁業組合
平安南道
貴林漁業組合
平安北道
艾島漁業組合
觀興漁業組合
鐵山漁業組合
江原道
注文里漁業組合
遠德漁業組合
長箭漁業組合
庫底漁業組合
咸鏡南道
前津漁業組合
新昌漁業組合
群仙漁業組合
咸鏡北道
城津灣漁業組合
溫大津漁業組合
泗浦漁業組合
鶴城面漁業組合
良化漁業組合
鎭海漁業組合
蛇梁島漁業組合
椒島漁業組合
清川漁業組合
身彌島漁業組合
宣川漁業組合
薪島漁業組合
慶尚北道
曇湖漁業組合
箕城面漁業組合
竹邊漁業組合
遠近漁業組合
慶尚南道
六坮漁業組合
三洲漁業組合
元德漁業組合
全羅北道
證豐漁業組合
獨津漁業組合
浦下洞漁業組合
下古面漁業組合

◉朝鮮漁業組合規則ニ依リ朝鮮總督ノ指定シタル漁業組合ノ理事竝ニ漁業組合聯合會ノ理事長及理事ノ身元保證ニ關スル件

昭和六年五月
總令第六十一號

朝鮮漁業組合規則第十五條第三項ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ指定シタル漁業組合ノ理事竝ニ漁業組合聯合會ノ理事長及理事ノ身元保證ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　漁業組合（以下單ニ組合ト稱ス）ノ理事ハ其ノ給料ノ二年分以上五年分以下ニ於テ道知事ノ定ムル金額ノ身元保證金ヲ組合ニ提供スベシ

漁業組合聯合會（以下單ニ聯合會ト稱ス）ノ理事長及理事ハ其ノ給料ノ五年分ニ相當スル金額ノ身元保證金ヲ聯合會ニ提供スベシ

前二項ノ身元保證金ノ全部又ハ一部ハ時價相當ノ國債證券又ハ地方債證券ヲ以テ現金ニ代フルコトヲ得

前項ノ證券ガ記名ノモノナルトキハ其ノ記名者ノ委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條　前條ノ身元保證金ヲ一時ニ提供スルコト能ハザル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ハ給料月額ノ百分ノ十以上、賞與金ノ百分ノ二十以上ヲ其ノ受領ノ都度分割シテ之ヲ提供スルコトヲ得

第三條　身元保證金ノ提供定額ニ達セザル者ハ資產信用確實ナル連帶保證人二人以上ヲ定メ別紙樣式ニ依リ身元保證書ヲ組合又ハ聯合會ニ提出スベシ

第四條　組合ノ理事他ノ組合ノ理事又ハ聯合會ノ理事長若ハ理事ヲ命セラレタルトキ、聯合會ノ理事長若ハ理事他ノ聯合會ノ理事長若ハ理事又ハ組合ノ理事ヲ命ゼラレタルトキハ前組合又ハ前聯合會ヨリ還付ヲ受ケタル身元保證金ニ相當スル金額又ハ國債證券若ハ地方債證券ヲ新ニ就職シタル組合又ハ聯合會ノ身元保證金ニ充當スベシ

第五條　身元保證金現金ナルトキハ確實ナル銀行、所屬聯合會若ハ金融組合聯合會ニ預入レ又ハ郵便貯金ト爲シ證券ナルトキハ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲スベシ

第六條　身元保證金ハ組合ノ理事又ハ聯合會ノ理事長若ハ理事ノ故意又ハ過失ニ因リ組合又ハ聯合會ニ於テ損害ヲ受ケタルトキノ辨償ニ充當スベシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ヲ充當シ尙不足アルトキハ組合又ハ聯合會ハ本人又ハ連帶保證人ニ其ノ不足額ヲ請求スベシ但シ連帶保證人ノ賠償責任額ハ第一條第一項ノ規定ニ依リ道知事ノ定メタル金額又ハ同條第二項ノ金額ヨリ本人カ既ニ辨償シタル金額ヲ控除シタル額ヲ限度トス

第七條　身元保證金ハ本人ノ在職中之ヲ擔保ニ供シ又ハ之カ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ズ

第八條　身元保證金及身元保證書ハ本人ノ退職又ハ死亡後六月ヲ經過スルニ非ザレバ之ヲ還付スルコトヲ得ズ但シ道知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　身元保證金ニ對スル利息ハ組合又ハ聯合會ニ於テ之ヲ本人ニ支拂フベシ但シ身元保證金ノ提供定額ニ達セザルトキハ之ヲ身元保證金中ニ編入スベシ

第十條　第一條又ハ第二條ノ身元保證金ノ提供アリタルトキ又ハ之ヲ還付シタルトキハ其ノ都度提供又ハ還付ノ年月日、種類及金額ヲ道知事ニ報告スベシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年五月總令第六十一號）

朝鮮漁業組合規則

大正十一年四月
總令第七十四號

改正　大正一四年四月第四八號、一四年七第七四號、昭和四年五第四一號、五年七第四一號、六年五第五六號、八年五第五八號

漁業組合補助規則左ノ通定ム

朝鮮漁業組合補助規則

第一條　漁業組合ニシテ組合員ノ漁獲物及其ノ製品ノ委託販賣其ノ他著シク組合員ノ利益ヲ增進スヘキ共同施設ヲ爲スモノ及漁業組合聯合會ニ對シテハ本令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スベシ

組合規則第十五條第三項ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ指定シタル漁業組合ノ理事ノ身元保證ニ關スル件）ハ之ヲ廢止ス

本令施行前舊令ニ依リテ爲シタル行爲ハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

別記樣式

身元保證書

右者今回貴漁業組合理事（貴漁業組合聯合會理事長）（貴漁業組合聯合會理事）ニ任命セラレタルニ付テハ左記各項ヲ誓約ス

年　月　日

住所　何某

住所　連帶保證人　氏名㊞

住所　連帶保證人　氏名㊞

何々漁業組合（何々漁業組合聯合會）御中

記

一　連帶保證人ハ本人カ何々漁業組合理事（何々漁業組合聯合會理事長）（何々漁業組合聯合會理事）在任中故意又ハ過失ニ因リ組合（聯合會）ニ對シ損害ヲ與ヘタルトキハ昭和六年朝鮮總督府令第六十一號（朝鮮漁業組合規則第十五條第三項ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ指定シタル漁業組合ノ理事竝ニ漁業組合聯合會ノ理事長及理事ノ身元保證ニ關スル件）第六條第二項ノ辨償ノ責ニ任ズベシ

二　連帶保證人ハ何々漁業組合理事（何々漁業組合聯合會理事長）（何々漁業組合聯合會理事）ノ職務權限ノ異動、組合地區ノ變更（所屬漁業組合數ノ增減）又ハ事業ノ增減ニ關セズ前項ノ責ニ任ズベシ

左ノ各號ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

一　組合員數百人以上タルコト

二　總組合員一年ノ漁獲高二萬圓ニ達シ又ハ達スル見込アルコト

朝鮮總督特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ補助金ヲ交付スルコトアルベシ

第三條　組合員ノ漁獲物及其ノ製品ノ委託販賣ヲ行フ漁業組合ニ對シテハ理事者一人ノ給料豫算年額以内ノ補助金ヲ交付ス但シ其ノ年度ノ委託販賣價額カ一萬圓以上ニ達シ又ハ達スル見込アルモノニ限ル

前項ノ補助金ハ一組合ニ付五百四十圓ヲ限度トス

第一項ノ補助金交付期間ハ一組合ニ付三年ヲ超エルコトヲ得ス

第三條ノ二　朝鮮漁業組合規則第十五條第三項ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ指定スル漁業組合ニ對シテハ理事見習タル職員一人ニ付給料年額ノ全額ヲ補助スルコトヲ得但シ補助金ハ一人ニ付千圓ヲ限度トス

前項ノ補助金交付期間ハ一人ニ付二年ヲ超エルコトヲ得ズ

第四條　前二條ニ規定スルモノノ外署シク組合員ノ利益ヲ增進スヘキ共同施設ヲ爲ス漁業組合ニ對シテハ其ノ施設費豫算年額ノ半額以内ノ補助金ヲ交付ス

前項ノ補助金ハ一組合ニ付二千圓ヲ限度トス

第四條ノ二　漁業組合聯合會ニ對シテハ理事長及理事ノ給料豫算年額以内ノ補助金ヲ交付ス

前項ノ補助金ハ一聯合會ニ付五千圓ヲ限度トス

第五條　漁業組合補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ道知事ヲ經テ毎年四月末日迄ニ朝鮮總督ニ申請スヘシ

一　組合員ノ漁業狀態（漁獲高金ノ關係、過去三年度間ニ於ケル組合員ノ漁獲數量及價格ノ關係ヲ明瞭ニスルモノ）

二　組合員ノ漁業計畫書及經費豫算書

三　事業計畫書及經費豫算書

四　第三條ノ補助金ノ交付ヲ申請スル場合ニ在リテハ最近三年度間ニ於ケル魚種別委託販賣數量、價格及本年度同見込額、漁獲物全部ヲ委託販賣ニ附スルコト能ハザルトキハ其ノ理由、第四條ノ補助金ノ交付ヲ申請スル場合ニ在リテハ施設ヲ必要トスル理由及施設ノ設計ノ詳細

漁業組合聯合會組合補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ事業計畫書及經費豫算書ヲ具シ每年四月末日迄ニ朝鮮總督ニ申請スベシ

第六條　第四條ノ規定ニ依リ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル漁業組合共同施設事業ニ著手シタルトキハ其ノ期日及完了豫定期日ヲ具シ道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

前項ノ共同施設事業完了シタルトキハ其ノ施設費決算書及事業ノ經過ヲ具シ遲滯ナク道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第七條　第三條、第四條又ハ第四條ノ二ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル漁業組合又ハ漁業組合聯合會ハ事業年度經過後遲滯ナク左ノ事項ヲ詳具シ道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ事業計畫書ヲ調製セザル組合ニ在リテハ貸借對照表ヲ報告スルコトヲ要セズ

一　經費決算書

二　財產目錄及貸借對照表

三　事業報告書及剩餘金處分書

四　同施設事業ノ實施成績

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ朝鮮總督ハ補助金ヲ受クルモノニ對シ補助金ノ全部若ハ一部ノ交付ヲ停止若ハ廢止シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命スルコトアルヘシ

一　組合又ハ聯合會解散シタルトキ

二　組合又ハ聯合會法令又ハ補助金交付ノ條件ニ違背シタルトキ

三　組合又ハ聯合會事業ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキ

四　補助金額決定ノ基礎ト爲リタル事項ニ著シキ異動ヲ生シタルトキ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十四年七月總令第七十四號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ補助金ノ交付ヲ申請スル場合ニ在リテハ施設ヲ必要トスル理由及施設ノ設計ノ詳細

漁業組合聯合會組合補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ事業計畫書及經費豫算書ヲ具シ每年四月末日迄ニ朝鮮總督ニ申請スベシ

第六條　第四條ノ規定ニ依リ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル漁業組合共同施設事業ニ著手シタルトキハ其ノ期日及完了豫定期日ヲ具シ道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

前項ノ共同施設事業完了シタルトキハ其ノ施設費決算書及事業ノ經過ヲ具シ遲滯ナク道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第七條　第三條、第四條又ハ第四條ノ二ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル漁業組合又ハ漁業組合聯合會ハ事業年度經過後遲滯ナク左ノ事項ヲ詳具シ道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ事業計畫書ヲ調製セザル組合ニ在リテハ貸借對照表ヲ報告スルコトヲ要セズ

一　經費決算書

二　財產目錄及貸借對照表

三　事業報告書及剩餘金處分書

四　同施設事業ノ實施成績

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ朝鮮總督ハ補助金ヲ受クルモノニ對シ補助金ノ全部若ハ一部ノ交付ヲ停止若ハ廢止シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命スルコトアルヘシ

一　組合又ハ聯合會解散シタルトキ

二　組合又ハ聯合會法令又ハ補助金交付ノ條件ニ違背シタルトキ

三　組合又ハ聯合會事業ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキ

四　補助金額決定ノ基礎ト爲リタル事項ニ著シキ異動ヲ生シタルトキ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十四年七月總令第七十四號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ補助金ノ交付ヲ申請スル場合ニ在リテハ施設ヲ必要トスル理由及施設ノ設計ノ詳細

漁業組合聯合會組合補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ事業計畫書及經費豫算書ヲ具シ每年四月末日迄ニ朝鮮總督ニ申請スベシ

第六條　第四條ノ規定ニ依リ補助金交付ノ指令ヲ受ケタル漁業組合共同施設事業ニ著手シタルトキハ其ノ期日及完了豫定期日ヲ具シ道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

前項ノ共同施設事業完了シタルトキハ其ノ施設費決算書及事業ノ經過ヲ具シ遲滯ナク道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第七條　第三條、第四條又ハ第四條ノ二ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル漁業組合又ハ漁業組合聯合會ハ事業年度經過後遲滯ナク左ノ事項ヲ詳具シ道知事ヲ經テ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ事業計畫書ヲ調製セザル組合ニ在リテハ貸借對照表ヲ報告スルコトヲ要セズ

一　經費決算書

二　財產目錄及貸借對照表

三　事業報告書及剩餘金處分書

四　同施設事業ノ實施成績

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ朝鮮總督ハ補助金ヲ受クルモノニ對シ補助金ノ全部若ハ一部ノ交付ヲ停止若ハ廢止シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命スルコトアルヘシ

一　組合又ハ聯合會解散シタルトキ

二　組合又ハ聯合會法令又ハ補助金交付ノ條件ニ違背シタルトキ

三　組合又ハ聯合會事業ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキ

四　補助金額決定ノ基礎ト爲リタル事項ニ著シキ異動ヲ生シタルトキ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和四年五月總令第四十一號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ規定ニ依リ補助金交付ノ申請期日ハ昭和四年ニ限リ六月三十日迄トス

附　則（昭和五年五月總令第四十一號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和四年度ニ於テ補助ヲ受ケタル漁業組合ノ爲ス第七條ノ報告ニシテ昭和四年度ノ補助ニ關スルモノニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則（昭和六年五月總令第五十六號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條第二項ノ規定ニ依ル補助金交付ノ申請期日ハ昭和六年ニ限リ六月三十日迄トス

附　則（昭和六年五月總令第五十八號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年ニ限リ朝鮮漁業組合補助規則ニ定ムル補助金交付ノ申請期限ヲ六月三十日迄トス

◉朝鮮水產組合規則

昭和四年十二月
總令第百十七號

改正　昭和五年八第六六號、六年四第四一號

朝鮮水產組合規則左ノ通定ム

朝鮮水產組合規則

第一章　總　則

第一條　水產組合ノ名稱中ニハ水產組合ナル文字ヲ、水產組合聯合會ノ名稱中ニハ水產組合聯合會ナル文字ヲ用フベシ

水產組合ニ非ズシテ其ノ名稱中ニ水產組合ナルコトヲ示スベキ文字ヲ、水產組合聯合會ニ非ズシテ其ノ名稱中ニ水產組合聯合會ナルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第二條　水產組合（以下單ニ組合ト稱ス）又ハ水產組合聯合會（以下單ニ聯合會ト稱ス）ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第三條　行政區劃、府若ハ面內ノ部落ノ區域又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ組合ノ規約ニ記載シタル行政區劃、府若ハ面內ノ部落ノ區域又ハ其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第二章　組合ノ設立

第四條　組合ヲ設立セントスルトキハ組合ノ地區タルベキ區域內ニ居住スル組合員タルベキ漁業者五人以上發起人ト爲リ規約ヲ定メ組合員タルベキ者ノ業種每ニ其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立認可ノ申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スベシ

前項ノ申請書ニハ左ニ掲ゲル書類ヲ添附スベシ

一　設立理由書

二　規約竝ニ組合員タルベキ者ノ業種每ノ同意書及組合員タルベキ者ノ資格ヲ有スル者ノ數ヲ證スル道知事、府尹、郡守、島司又ハ面長ノ證明書

三　初年度ニ於ケル事業ノ計畫書（事業計畫ノ大要竝ニ經費ノ豫算及賦課徵收方法ノ豫定書）

四　組合員タルベキ者ノ資格ヲ有スル者ノ數（地區カ數府面ニ跨ル場合ハ府面每ニ組合員タルベキ者ノ資格ヲ有スル者ノ業種別ニ依リ記載スベシ）及最近三年間ニ於ケル漁獲高、製造高又ハ取扱高（漁獲高ニ在リテハ漁業別ノ魚種別數量價額、製造高ニ在リテハ種類別數量價額、取扱高ニ在リテハ取引ニ付テハ種類別販賣數量價額、保管ニ付テハ種類別保管數量ヲ記載スベシ）

第五條　組合ノ規約ニハ左ニ掲ゲル事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　地區及組合員タルベキ資格

四　主タル事務所ノ所在地

五　役員ニ關スル事項

六　會議ニ關スル事項

七　會計及財產ニ關スル事項

八　事業ノ執行ニ關スル事項

九　違約者ノ處分ニ關スル事項

第三章　組合ノ會議

第六條　組合ニハ組合員ノ總會ヲ置ク

第七條　左ニ掲ゲル事項ニ付テハ總會ノ議決ヲ經ベシ

一　經費ノ賦課徵收方法

二　經費ノ豫算

三　經費ノ豫算ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負ヒ又ハ權利ヲ失フベキ事項

四　主タル事務所ノ所在地ノ變更

五　解散

六　他ノ組合ト合併スルコト

第八條　總會ハ通常總會及臨時總會ノ二トス

通常總會ハ每年一回之ヲ開キ臨時總會ハ必要アル場合ニ之ヲ開ク

第九條　總會ハ組合員ノ半數以上出席スルニ非ザレバ開會スルコトヲ得ズ

第十條　總會ノ議事ハ出席組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十一條　組合員ハ各一箇ノ議決權ヲ有ス

第十二條　組合員ハ書面又ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得

代理人ハ組合員ノ家族又ハ同一事業ニ從事スル者ニ限ル

第十三條　組合員ハ總會ノ議決ニ付利害關係ヲ有スルトキハ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得ズ

第十四條　組合ニ總代會ヲ置クコトヲ得

總代會ニ關スル事項ハ組合ノ規約ヲ以テ之ヲ定ム

第四章　組合ノ役員

第十五條　組合ニ組合長一人、理事若干人及監事若干人ヲ置ク

第十六條　組合長、理事及監事ハ總會ニ於テ組合員ノ中ヨリ之ヲ選擧ス

第十七條　組合長ハ組合ヲ代表シ組合ノ事務ヲ總理ス

理事ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ組合長缺ケタルトキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ組合ノ會計ヲ監査ス

第十八條　組合長、理事及監事ノ任期ハ三年ヲ超エルコトヲ得ズ

第十九條　組合長、理事及監事ハ總會ノ議決ヲ經テ其ノ職ヲ解クコトヲ得

第二十條　組合長、理事及監事ハ無給トス

第五章　會計及財產

第二十一條　組合ノ會計年度ハ每年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十二條　組合ノ經費ハ賦課徵收金、使用料、手數料、財產ヨリ生ズル收入其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第二十三條　賦課徵收金ハ組合員ニ對シ其ノ所有スル漁船ノ噸數、漁獲高又ハ漁獲物ノ價額ニ應シ之ヲ賦課徵收ス

第二十四條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第二十五條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第二十六條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第二十七條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第二十八條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第二十九條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第三十條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第三十一條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第三十二條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第三十三條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第三十四條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第三十五條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第三十六條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第三十七條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第三十八條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第三十九條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第四十條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第四十一條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第四十二條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第四十三條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第四十四條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第四十五條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第四十六條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第四十七條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第四十八條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第四十九條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第五十條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第五十一條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第五十二條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第五十三條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第五十四條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第五十五條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第五十六條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第五十七條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第五十八條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第五十九條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第六十條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第六十一條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第六十二條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第六十三條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第六十四條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第六十五條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第六十六條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第六十七條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第六十八條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第六十九條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第七十條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第七十一條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第七十二條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第七十三條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第七十四條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第七十五條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第七十六條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第七十七條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第七十八條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第七十九條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第八十條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第八十一條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第八十二條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第八十三條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第八十四條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第八十五條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第八十六條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第八十七條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第八十八條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第八十九條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第九十條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第九十一條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第九十二條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第九十三條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第九十四條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第九十五條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第九十六條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第九十七條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第九十八條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第九十九條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

第百條　組合ハ其ノ經費ノ豫算ニ不足ヲ生ジタルトキハ豫算ヲ更正シ追加豫算ヲ調製スルコトヲ得

廃ゼザルトキ、合議ヲ開クコト能ハザルトキ又ハ議決スベキ事件ヲ議決セザルトキハ組合長ハ朝鮮総督ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スベキ事件ヲ処分スルコトヲ得朝鮮漁業令第五十八條ノ規定ニ依リ決議ノ取消アリタルトキ亦同ジ

第十三條　組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ総代会ヲ以テ総会ニ代フルコトヲ得

総代会ハ組合員中ヨリ選挙スル総代ヲ以テ之ヲ組織ス

総代ノ定数、任期、選挙其ノ他ニ関スル事項ハ規約中ニ之ヲ定ムベシ

本令中組合ノ総会ニ関スル規定ハ第十二條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ総代会ニ準用ス

第十四條　総代会ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ議決ヲ経ベキ事項ニシテ軽易ナルモノニ付テハ会議ヲ開カズ書面ヲ以テ総代ノ意見ヲ聴キ其ノ定数ノ三分ノ二以上ノ同意アルトキハ之ヲ総代会ノ決議ト看做スコトヲ得但シ総代中ヨリ総代会ノ議決ヲ経ベキ旨ノ申出アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四章　組合ノ役員

第十五條　組合ニハ左ニ掲グル役員ヲ置クベシ但シ必要アル場合ニ於テハ二人以上ノ理事ヲ置クコトヲ得

組合長　一人

副組合長　一人

理事　一人

監事　三人以上

第十六條　役員ハ総会ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任スベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ組合員ニ非ザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

組合設立当時ノ役員ハ規約中ニ之ヲ定ムベシ

第十七條　役員ハ其ノ組合ノ他ノ役員又ハ職員ヲ兼ヌルコトヲ得ズ

第十八條　組合長、理事及監事ハ清算人関員ノ場合ニ於テ其ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ道知事ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ任命スルコトヲ得

第十九條　役員ハ其ノ組合ノ債務ヲ完済シ若ハ完済ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非ザレバ残余財産ヲ処分シ又ハ清算ヲ結了スルコトヲ得ズ

第二十條　組合カ解散シタルトキハ合併又ハ分割ノ場合ヲ除クノ外組合長ハ其ノ清算人ト為ルベシ但シ総会ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

清算人ハ解散シタル組合ノ役員トス

第二十一條　清算人ハ解散シタル組合長ヲ以テ之ニ充ツ但シ総会ニ於テ他ノ者ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　清算人ハ現務ノ結了ノ為ニ必要ナル一切ノ行為ヲ為スコトヲ得

二　債権ノ取立及債務ノ弁済

三　残余財産ノ処分

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ為ニ必要ナル一切ノ行為ヲ為スコトヲ得

第二十三條　清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二月以内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債権者ニ対シ一定ノ期間内ニ其ノ請求ヲ申出ヲ為スベキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ公告ニハ債権者カ期間内ニ申出ヲ為サザルトキハ其ノ債権ハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但シ清算人ハ知レタル債権者ヲ除斥スルコトヲ得ズ

清算人ハ知レタル債権者ニハ各別ニ其ノ申出ヲ催告スルコトヲ要ス

第二十四條　組合ノ解散シタルトキハ合併又ハ分割ノ場合ヲ除クノ外組合長ハ其ノ清算人ト為ル但シ総会ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

清算人ハ前條第一項ノ規定ニ依ル債権申出ノ期間経過シタルトキハ遅滞ナク財産目録ヲ調製シ残余財産ノ処分方法ヲ定メ総会ヲ招集シテ之ニ提出シ財産目録ニ付テハ其ノ承認ヲ求メ残余財産ノ処分方法ニ付テハ其ノ議決ヲ経ベシ

第二十五條　清算人ハ前條第一項ノ規定ニ依ル債権申出ノ期間経過後ニ於テ申出アリタル債権者ハ組合ノ債務完済後未タ処分ヲ為サザル

財産ニ対シテノミ請求ヲ為スコトヲ得

第三十二條　清算人ハ清算結了後遅滞ナク清算報告書ヲ調製シ総会ヲ招集シ之ニ提出シテ承認ヲ求ムベシ

第七章　聯合会

第三十三條　聯合会ヲ設立セントスルトキハ其ノ設立セントスル組合ハ共同シテ聯合会ノ規約ヲ定メ設立認可ノ申請書ヲ朝鮮総督ノ指揮ヲ経テ道知事ニ差出スベシ

前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一　設立理由書

二　規約及設立ニ関スル組合ノ総会ノ決議ノ謄本

三　初年度ニ於ケル事業ノ計画書（事業計画ノ大要竝ニ経費ノ予算及賦課徴収方法ノ予定ヲ記載スベシ）

第三十四條　聯合会ニハ総会ヲ置ク

聯合会ノ総会ハ組合ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス

本令中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外聯合会ノ総会ニ関スル事項ハ規約中ニ之ヲ定ムベシ

第三十五條　組合ノ聯合会ヘノ加入及聯合会ヨリノ脱退ニ付テハ聯合会ノ総会ノ議決ヲ経ベシ

第三十六條　聯合会ニハ左ノ役員ヲ置クベシ

理事長　一人

理事　三人以上

監事　二人

第三十七條　役員ハ聯合会ノ総会ニ於テ之ヲ選任スベシ

第三十八條、第五條、第十六條第二項及第十七條乃至第三十二條ノ規定ハ聯合会ニ、第七條乃至第十二條及第十四條ノ規定ハ聯合会ノ総会ニ之ヲ準用ス但シ組合長トアルハ理事長トス

第八章　組合及聯合会ノ監督

第三十九條　組合及聯合会竝ニ其ノ清算人ノ朝鮮総督及道知事之ヲ監督ス但シ組合又ハ聯合会ニシテ其ノ地区カ二以上ノ道ノ区域ニ跨ルモノニ付テハ朝鮮総督之ヲ監督ス此ノ場合ニ於テハ第四十四條及第四十七條中道知事トアルハ朝鮮総督トス

第四十條　朝鮮総督又ハ道知事ハ何時ニテモ組合又ハ聯合会ノ業務及財産ニ関シ報告書類ヲ徴シ又ハ其ノ状況ヲ検査スルコトヲ得

第四十一條　朝鮮総督又ハ道知事ハ組合又ハ聯合会ノ業務及財産ニ関シ監督上必要ナル命令ヲ発シ又ハ処分ヲ為スコトヲ得

第四十二條　組合長、理事長又ハ清算人関係ノ場合ニ於テ其ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ道知事ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ任命スルコトヲ得

第四十三條　第七條第四號、第六號、第九號及第三十五條ニ掲グル事項ノ決議ハ朝鮮総督ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ組合ノ地区ノ擴張又ハ縮小ニ関スル規約ノ変更ノ認可ヲ申請セントスル場合ニ於テハ其ノ擴張ニ在リテハ擴張スル者ノ業種毎ニ、其ノ縮小ニ在リテハ縮小スル区域及縮小後存続スル組合ノ区域ニ依リ其ノ区域内ニ居住スル組合員ノ業種毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ得申請書ニ其ノ同意書及其ノ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員ノ業種別ノ数ヲ証スル府尹又ハ面長ノ証明書ヲ添附スベシ

前項ノ規定ハ組合ノ組合員タル資格ニ関スル規約ノ変更及組合ノ分割ノ認可ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條　左ニ掲グル事項ニ付テハ道知事ノ認可ヲ受クベシ

一　第七條第一號乃至第三號及第七號ニ掲グル事項ノ決議

二　組合若ハ聯合会ノ役員又ハ組合ノ総代ノ選任及解任

三　組合又ハ聯合会ノ残余財産ノ処分方法

第四十五條　前二條ノ規定ニ依リ認可ノ申請書ニハ組合又ハ聯合会ノ総会ノ決議録ノ謄本ヲ添附スベシ

第四十六條　行政区劃、府若ハ面内ノ部落ノ区域又ハ其ノ名称ニ変更アリタルトキハ遅滞ナク之ヲ朝鮮総督ニ届出ヅベシ

第四十七條　左ニ掲グル場合ニ於テハ遅滞ナク其ノ事由ニ関シ組合又ハ聯合会ノ役員ノ氏名又ハ住所一組合又ハ聯合会ノ役員ノ氏名又ハ住所ニ変更アリタルトキ

二　組合又ハ聯合会ノ役員死亡シ又ハ任期満了ニ因リ退任シタルトキ

三　組合又ハ聯合会ノ総会ニ於テ第二十二條ノ規定ニ依リ経費決算書及事業報告書ヲ承認シタルトキ

四　組合又ハ聯合会ノ清算結了シタルトキ

第八章　罰則

第四十八條　第一條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ処ス

第四十九條　組合又ハ聯合会ノ行為ニシテ左各號ノ一ニ該当スルトキハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ処ス

一　監督官廳ニ対シ不実ノ申告ヲ為シ又ハ事実ヲ隠蔽シタルトキ

二　本令ニ依ル監督官廳ノ命令ニ従ハズ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタルトキ

三　本令ニ依ル認可ノ申請、届出又ハ書類ノ提出ヲ怠リタルトキ

四　主務官廳ノ必要ノ事項ヲ記載セザルトキ

五　本令ニ依ル総会ノ招集ヲ怠リタルトキ

六　監事ノ監査ヲ妨ゲタルトキ

七　本令ニ違反シテ残余財産ノ処分ヲ為シタルトキ

八　清算人ノ場合ニ於テ債権申出期間満了前九ニ債権者ニ対シ弁済ヲ為シタルトキ

本令ニ依ル催告又ハ公告ヲ怠リタルトキ

附　則

本令ハ朝鮮漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水産組合規則ハ之ヲ廃止ス

本令施行ノ際現ニ存スル組合ノ諸規程ハ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第七章　移住　拓殖

㊟東洋拓殖株式會社法

明治四十一年八月
法律第六十三號

改正　明治四三年四月第九號、大正六年七第二三號、昭和三年五第七號

第一條　東洋拓殖株式會社ハ朝鮮及外國ニ於ケル拓殖資金ノ供給其ノ他拓殖事業ノ経営ニ関シ報告書

地ノ取得、經營、處分

三　拓殖ノ爲必要ナル移住民ノ募集及分配

四　移住民ノ爲必要ナル建築物ノ築造、賣買及貸借

五　移住民又ハ農業者ニ對シ拓殖ノ爲必要ナル物品ノ供給及其ノ生産シタル物品ノ分配

六　委託ニ因ル土地ノ經營及管理

七　其ノ他拓殖ノ爲必要ナル事業ノ經營

前項第七號ノ事業ヲ經營シ又ハ外國ニ於テ前項第一號乃至第六號ノ事業ヲ營マムトスルトキハ其ノ事業及地域ニ付豫メ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　政府ハ必要ト認ムルトキハ前條第一項第一號以外ノ業務ニ使用スル資金ノ額ヲ制限スルコトヲ得

第十三條　第十一條第一項第一號ノ資金供給ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

一　移住民ニ對シ二十五年以内ノ年賦償還又ハ五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル移住費ノ貸付

二　生産者ニ對シ其ノ生産物ヲ擔保トスル一年以内ノ貸付

三　三十年以内ノ年賦償還又ハ五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル不動産、鑛道、鑛業權其ノ他不動産上ノ權利ヲ擔保トスル貸付

四　公共團體又ハ特別ノ法令ニ依リ組織シタル産業ニ關スル組合ニ對シ三十年以内ノ年賦償還又ハ五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル無擔保貸付

五　農業者ニ二十人以上連帶シテ債務ヲ負フ者ニ對シ五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル無擔保貸付

六　移民取扱業其ノ他拓殖事業ヲ營ムコトヲ目的トスル會社ノ株券又ハ債權ノ應募、引受

七　移民取扱業其ノ他拓殖事業ヲ營ムコトヲ目的トスル會社ノ株券又ハ債券ヲ買トスル五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル貸付

八　法令ノ規定ニ依リ設定シタル財團其ノ他確實ナル物件ヲ擔保トスル三十年以内ノ年賦償還又ハ五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依ル貸付

前項第三號ノ場合ニ於テ其ノ收用カ一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十條　擔保物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十四條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ增擔保ヲ要求シ又ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條　營業上ノ餘裕金ハ一時國債證券若ハ政府ノ認可ヲ受ケタル有價證券ヲ買入レ又ハ政府若ハ政府ノ指定シタル銀行ニ預ケ金ヲ爲スノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十二條　東洋拓殖株式會社ハ營業上必要アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二十二條ノ二　東洋拓殖株式會社ハ日本勸業銀行ノ代理店タルコトヲ得

東洋拓殖株式會社ハ日本勸業銀行ノ貸付ヲシ債務者ノ爲ニ於テハ日本勸業銀行ニ對シ債務者ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得

第四章　東洋拓殖株式會社ハ拂込資本額ノ十倍ヲ限リ東洋拓殖債券ヲ發行スルコトヲ得

東洋拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第百九十九條ノ規定ヲ適用セス

第二十四條　東洋拓殖債券ヲ發行セムトスル場合ニ於テハ每回其ノ金額、條件竝發行及償還ノ方法ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條　東洋拓殖債券ヲ發行スル場合ニ於テハ數回ニ分チ拂込ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十六條　東洋拓殖債券ハ全額拂込ノ後ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式トス爲スコトヲ得

第二十七條　東洋拓殖債券ハ所有者ハ東洋拓殖株式會社ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第二十八條　東洋拓殖株式會社ハ社債借換ノ爲一時第二十三條ノ制限ニ依ラス東洋拓殖債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ準ス

第二十九條　東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前條ノ債券ヲ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊東洋拓殖債券ヲ償還スヘシ

第二十九條ノ二　東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ第二十三條ノ債券ヲ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊東洋拓殖債券ヲ償還スヘシ

第三十條　東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ第二十三條ノ債券ヲ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊東洋拓殖債券ヲ償還スヘシ

第三十一條　東洋拓殖株式會社ハ每營業期ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章　政府ノ監督及補助

第三十二條　政府ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三十三條　政府ハ東洋拓殖株式會社監理官ヲ置キ東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ監視セシム

東洋拓殖株式會社監理官ハ何時ニテモ東洋拓殖株式會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ檢査スルコトヲ得

東洋拓殖株式會社監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ東洋拓殖株式會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

第三十四條　政府ハ東洋拓殖株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第三十五條　東洋拓殖株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條　東洋拓殖株式會社ニ於テ移住規則其ノ他ノ規定ヲ定ムルトキハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條ノ二　東洋拓殖株式會社ノ貸付金ノ利子及割引料ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十八條　東洋拓殖株式會社ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十九條　政府ハ東洋拓殖株式會社ニ對シ設立登記ノ日ヨリ起算シ八年間ヲ限リ每年金三十萬圓ヲ每營業期ニ於ケル利益配當カ拂込資本額ニ對シ年八分ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル金額ヲ補給金ノ內ヨリ控除ス

第四十條　利益配當カ拂込資本額ニ對シ年一割ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ先ツ之ヲ前條補給金ノ償還ニ充ツヘシ

前項ノ償還ヲ終ヘタルトキハ該超過金額ハ其ノ半額ヲ特別積立金トスヘシ

第四十條ノ二　政府ノ所有スル株式ニ對シテハ昭和二年度以降昭和六年度迄ノ每營業期ノ利益配當ニ限リ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對スル配當ノ割合ヨリ年五分ヲ低下シタル割合ヲ以テ配當ヲ爲スコトヲ得

第七章　罰則

第四十一條　東洋拓殖株式會社ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル理事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ其ノ事犯理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一　本法ニ於テ政府ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二　第十一條ノ規定ニ依ラス業務ヲ營ミタルトキ

三　第十二條又ハ第三十四條ノ規定ニ基キ發シタル命令ニ違反シタルトキ

三ノ二　第十七條ノ二第二項ノ規定ニ違反シ貸付金ヲ使用シタルトキ

四　第二十一條ノ規定ニ違反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

五　第二十三條ノ規定ニ違反シ東洋拓殖債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

六　第二十八條ノ規定ニ違反シ東洋拓殖債券ヲササルトキ

七　第三十一條、第四十條又ハ第四十條ノ二ノ規定ニ違反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十二條　東洋拓殖株式會社ノ總裁又ハ理事第十條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條　前二條ニ規定セル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附　則

第四十四條　政府ハ設立委員ヲ命シ韓國政府ノ命ジタル設立委員ト共同シテ東洋拓殖株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十五條　設立委員ハ定款ヲ作リ政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スヘシ

第四十六條　設立委員ハ株主ノ募集終リタルトキハ株式申込書ヲ政府ニ差出シ東洋拓殖株式會社設立ノ認可ヲ申請スヘシ

第四十七條　設立認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第四十八條　創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ東洋拓殖株式會社總裁ニ引渡スヘシ

第四十九條　第一期ノ理事及監事ハ株主總會ノ選舉ニ依ラス之ヲ任命ス其ノ他ノ條件ニ付テハ第九條ノ例ニ依リ但シ第九條ノ任期滿了後最近ノ定時株主總會會日迄留任スルコトヲ得

附　則（大正六年七月法律第二十三號）

本法ハ大正六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ理事タル者ノ任期ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

●土地改良施行地移住奬勵補助規則

昭和七年一月
總令第十四號

土地改良施行地移住奬勵補助規則左ノ通定ム

土地改良事業補助規則ニ依リ補助金ノ交付ヲ受ケ事業ヲ施行スル土地ノ所有者ニシテ其ノ土地ノ耕作ニ從事スル移住者ニ十戶以上ヲ招致シ其ノ旅費、住宅費、農具費其ノ他直接移住ニ必要ナル費用ノ全部又ハ一部ヲ給與シタル者ニ對シテハ本令ノ定ムル所ニ依リ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條　左ニ揭ケル者ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ土地ノ所有者ト看做ス

一　國有未墾地ニシテ光武十一年法律第四號國有未墾地利用法ニ依リ貸付ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ貸付ヲ受ケタル者

二　公有水面ニシテ朝鮮公有水面埋立令ニ依リ埋立ノ免許ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ免許ヲ受ケタル者

三　驛屯土ニシテ驛屯土特別處分令ニ依リ賣拂ノ契約ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ買受ノ契約ヲ爲シタル者

第三條　補助金ハ移住者一戶ニ付五十圓以內

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ招致シタル場合ハ補助金ヲ交付セズ

一　朝鮮外ヨリ移住スル者

二　單身移住スル者其ノ他定住ノ見込ナキ者

三　農業ニ經驗ナキ者

四　前住地ヨリ一里以內ノ地ニ移住スル者

第五條　補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ豫メ移住者招致計畫書（樣式第一號）ヲ提出シ朝鮮總督ノ承認ヲ受クヘシ

移住者招致計畫書ヲ變更セントスルトキ亦前項ニ同シ

朝鮮總督第一項ノ承認ヲ爲サシタルトキハ其ノ要領ヲ朝鮮總督府官報ニ公示ス

第六條　前條第一項又ハ第二項ノ承認ヲ受ケタル者每年豫定ノ移住者ヲ招致シタルトキハ翌年一月三十一日迄ニ補助金交付申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ朝鮮總督ニ之ヲ提出スヘシ

一　移住者調書（樣式第二號）

二　給與シタル移住奬ニ對スル移住者ノ領收書

三　移住地ノ府尹邑面長ノ移住證明書

第七條　朝鮮總督ハ第五條第一項ノ承認ヲ受ケタル者ニ對シ移住者ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏若ハ吏員ヲシテ書類物件ノ檢查ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ朝鮮總督ハ補助金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ補助金ノ返納ヲ命ズルコトアルヘシ

一　前條ノ規定ニ依ル檢查ヲ拒ミ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキ

二　詐欺ノ手段ニ因リ補助金ノ交付ヲ受ケタルトキ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

開墾干拓地移住奬勵補助規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前開墾干拓地移住奬勵補助規則ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本令ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス

本令施行前開墾干拓地移住奬勵補助規則ニ依リ爲シタル申請其ノ他ノ手續ハ本令ニ抵觸セザル限リ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

樣式第一號

移住者招致計畫書

一 事業經營者名
二 地區ノ所在、事業ノ種類
三 事業ノ概要
四 既往ニ於ケル移住者招致ノ狀況
五 招致セントスル移住者ノ年別豫定數
六 移住者募集選定ノ方法及移住セシムル時期
七 移住者待遇保護ノ方法
(イ) 移住ノ爲必要ナル費用ノ負擔關係
(ロ) 耕作ノ條件(小作契約ノ內容、耕地取得ノ方法等)
(ハ) 其ノ他移住者ノ社會上經濟上ノ福利ヲ增進セシムル爲ノ施設方法
八 移住後五年間ノ年別移住者收支概算書
九 移住者ヲ以テ組織スル產業組合其ノ他團體的組織アラバ其ノ規約及成績、ナシトセバ將來之ガ組織計畫ノ有無
十 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

樣式第二號

移住者調書

移住者 氏名 年月日生

一 本籍地
二 前住地
三 前住地ニ於ケル職業
四 同伴移住シタル家族ノ氏名、年齡及本人トノ關係
五 移住年月日
六 移住ニ關スル契約
七 移住ノ爲要シタル費用明細書

備考
一 本調書ハ移住者各別調製スルコト
二 第六項ニハ移住ノ爲要シタル費用ノ負擔關係ノ小作契約ノ內容、耕地取得ノ方法等詳細記述スルコト
三 第七項ハ旅費、住宅費、農具費等ニ區分掲記スルコト

第八章 勸業

第一款 商工奬勵館

●朝鮮總督府商工奬勵館規則

昭和四年十二月 總告第四百六十七號

朝鮮總督府商工奬勵館規則左ノ通定ム

朝鮮總督府商工奬勵館規則

第一章 總則

第一條 朝鮮總督府商工奬勵館ハ商品ノ改良及販路ノ擴張ヲ圖ル爲左ニ掲グル業務ヲ行フ
一 商品ノ見本及參考品ノ蒐集及陳列
二 商品ノ試賣
三 商品及商取引ニ關スル各種ノ調查及紹介
四 商工業ニ關スル圖書其ノ他ノ刊行物ノ發行、蒐集及供覽
五 商品ノ意匠及圖案ニ關スル調查及研究
六 鮮內重要物產ニ關スル技術上ノ研究
七 產業發達上適切ナル諸集會ノ開催
八 其ノ他商品ノ改良及販路ノ擴張ニ關スル施設

第二條 本館ノ陳列品ハ參考品及普通出品ノ二種トス
見本又ハ參考トシテ本館ニ於テ購入シ又ハ當業者其ノ他ヨリ出品又ハ寄贈シタル陳列品ヲ參考品トス
當業者ヨリ販賣ノ爲出品シタル陳列品ヲ普通品トス

第三條 本館ハ祭日、祝日及朝鮮總督府始政記念日ノ翌日、月曜日竝ニ十二月二十五日ヨリ翌年一月三日迄休館スル外每日左ノ通開閉ス但シ時宜ニ依リ開閉時限ヲ變更シ、臨時開館若ハ休館シ又ハ一時觀覽若ハ閱覽ヲ停止スルコトアルベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ都度之ヲ公示ス
三月一日ヨリ六月三十日迄
午前九時開館 午後五時閉館
七月一日ヨリ八月三十一日迄
午前八時開館 午後三時閉館
九月一日ヨリ十月三十一日迄
午前九時開館 午後五時閉館
十一月一日ヨリ翌年二月末日迄
午前十時開館 午後四時閉館
閉館中ト雖官公署、學校、團體等ヨリ豫メ申込アルトキハ特ニ觀覽又ハ閱覽ヲ許可スルコトアルベシ

第二章 出品及寄贈

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ外出品又ハ寄贈ハ之ヲ受諾セズ
一 朝鮮內ノ生產品ニシテ現ニ取引大ナルモノ
二 朝鮮內ノ生產品ニシテ取引未ダ大ナラザルモ前途發達ノ見込アルモノ
三 朝鮮外ノ生產品ニシテ鮮內ノ生產發達ニ資スベキモノ
四 其ノ他本館ニ於テ必要アリト認ムルモノ

第五條 出品又ハ寄贈セントスル者ハ第一號樣式ニ依ル申込書(本館ニ於テ交付ス)ニ必要ナル事項ヲ記入シ本館宛之ヲ提出スベシ
現品ハ出品又ハ寄贈受諾書到達ノ上出品者又ハ寄贈者ニ於テ入記目錄ヲ添ヘ之ヲ本館ニ送付スベシ但シ出品者又ハ寄贈者ニ於テ現品ヲ持參スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ出品又ハ寄贈ハ之ヲ拒絕スルコトアルベシ
一 危險アリト認ムルモノ
二 腐敗ノ虞アリト認ムルモノ
三 風俗又ハ秩序ヲ紊ルノ虞アリト認ムルモノ
四 衞生上有害ト認ムルモノ
五 他ノ物品ニ妨害ヲ與フル虞アリト認ムルモノ
六 種類、性質、容積等ノ關係上本館ノ陳列ニ適セズト認ムルモノ

第七條 出品人ハ生產者、製造業者又ハ卸賣商人ナルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 出品ノ荷造及運送ニ要スル費用ハ出品人ノ負擔トス但シ返送ニ要スル費用ハ時宜ニ依リ本館ニ於テ支辨スルコトアルベシ

第九條 寄贈品ノ荷造及運送ニ要スル費用ハ本館ノ負擔トス
寄贈者ハ荷造及運送ニ要スル費用(不明ノ向ハ其ノ見込額)ヲ申込書摘要欄ニ成ル可ク詳細ニ記載スベシ

第十條 出品ノ預證及寄贈品ノ領收證ハ第二號樣式ニ依ル到着通知書ヲ以テ之ニ代フ

第十一條 陳列ハ無料トス但シ出品ノ容器、裝飾等ニ付本館ノ承認ヲ受ケ特別ノ裝置ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトアルベシ

第十二條 普通出品ハ確實ナル引受人ヲ指定シ賣店ニ於テ之ヲ販賣セシム
前項ノ販賣ニ付テハ價額ノ百分ノ七ノ販賣手數料ヲ徵ス

第十三條 普通出品ノ賣上代金ハ送金料、關稅及手數料ヲ控除シ前月分ヲ翌月送金ス但シ五圓未滿ハ五圓ニ達スル每ニ之ヲ送付ス

第十四條 本館ニ於テ必要アルトキハ出品人ニ對シ出品ノ處分又ハ變更ヲ要求スルコトアルベシ
前項ノ場合ニ於テ出品人之ニ應セザルトキ又ハ緊急ヲ要スルトキハ本館ニ於テ適宜之ヲ處分ス

第十五條 出品ニ關シ天災事變、盜難其ノ他避クベカラザル事由ニ因リテ生ジタル損害ニ付テハ之ガ賠償ノ責ニ任セズ

第三章 觀覽

第十六條 本館ノ觀覽時間ハ第三條ノ開館時間內トス

第十七條 本館ノ觀覽ハ無料トス

第十八條 瘋癲、白痴、醉狂其ノ他秩序風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムル者ニ對シテハ觀覽ヲ拒絕ス

第十九條 觀覽者ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
一 館員ノ許諾ナクシテ陳列品ニ手ヲ觸ルルコトヲ得ズ
二 館員ノ許諾ナクシテ陳列品ヲ撮影又ハ模寫スルコトヲ得ズ
三 危險ナル物品ヲ携帶スルコトヲ得ズ
四 館內ニ於テ弄火、喧噪又ハ雜沓スベカラズ
五 喫煙ハ指定ノ場所以外ニ於テ之ヲ爲スベカラズ
六 陳列品ニ關シ說明又ハ紹介ヲ求メントスルトキハ館員ニ申出ヅベシ
七 掲示ノ事項及館員ノ注意ニ從フベシ

第二十條 陳列品ヲ破壞又ハ汚損シタル者ニハ之ガ辨償ヲ爲サシムルコトアルベシ

第二十一條 觀覽人本館規則ニ違背シ又ハ館員ノ指圖ニ從ハザルトキハ觀覽ヲ拒絕シ館外ニ退出セシムルコトアルベシ

第四章 圖書閱覽

第二十二條 圖書ヲ閱覽セントスル者ハ係員ニ申込ミ備附ノ帳簿ニ圖書名、冊數及自己ノ住所、氏名ヲ記入シ圖書ヲ借受ケ閱覽後ハ之ヲ返還スベシ

第二十三條 圖書閱覽人ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
一 圖書ヲ室外ニ持チ出スコトヲ得ズ
二 閱覽中ハ喫煙、音讀、雜談其ノ他他人ノ妨害ト爲ルベキ擧動アルベカラズ

第二十四條 第十六條乃至第十八條、第二十條及第二十一條ノ規定ハ圖書閱覽ニ之ヲ準用ス

第五章 調查紹介及圖案調製

第二十五條 商工業ニ關スル調查又ハ紹介ヲ望ム者ハ其ノ事項ヲ具シ本館ニ申出ヅベシ本館ハ調查又ハ紹介ノ事項ニ依リテハ其ノ依賴ニ應ゼザルコトアルベシ

第二十六條 調查又ハ紹介ハ無料トス但シ特ニ必要ナル費用ハ依賴者ノ負擔トス

第二十七條 鮮內當業者ニシテ業務上必要ナル圖案ノ調製ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ本館ニ申出ヅベシ但シ本館ニ於テ調製ノ必要ナシト認ムルトキ又ハ事故アルトキハ其ノ依賴ニ應ゼザルコトアルベシ
一 圖案ヲ應用スベキ物品ノ名稱、品質、色彩、寸法、用途及調製スベキ圖案ノ豫定價額
二 其ノ他必要ナル事項

第二十八條 圖案ハ本館ニ於テ必要ト認ムルモノノ外同一人ニ付同時ニ二以上ノ調製ノ依賴ニ應ゼズ

第二十九條 圖案ハ無料ニテ之ヲ交付ス但シ必要アルトキハ之ガ作製ニ要スル材料又ハ參考品ヲ提供セシムルコトアルベシ

第三十條 材料又ハ參考品ノ荷造及運送ニ要スル費用ハ依賴者ノ負擔トス

第三十一條 參考品ニ關シテハ第十五條ノ規定ヲ準用ス

第六章 講演室及陳列室ノ貸與

第三十二條 產業ニ關スル諸集會其ノ他特ニ有益ト認ムル各種ノ催シニ對シテハ陳列室ノ一部又ハ講演室ノ使用ヲ許可ス

第三十三條 陳列室ノ一部及講演室ノ使用時間ハ特ニ認ムル場合ノ外第三條ノ開館時間內トス

第三十四條 陳列室ノ一部又ハ講演室ヲ借受ケ使用セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ本館ニ申出デ許可ヲ受クベシ
一 使用ノ日時
二 使用ノ目的及方法
三 使用責任者ノ住所、氏名

第三十五條 陳列室ノ一部及講演室ノ使用ハ無料トス但シ時間外ノ使用ヲ許可セラレタル者ハ點燈、暖房及掃除ニ要スル費用ヲ負擔スベシ

第三十六條 陳列室ノ一部又ハ講演室ノ使用ヲ許可セラレタル者鋲、釘、糊其ノ他建物ヲ破毀又ハ汚染スル虞アルモノヲ使用セントスル場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ申出デ館員ノ指圖ヲ承クベシ

第三十七條 室內備附品、本館ヨリ貸與シタル什器等ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ之ガ辨償ヲ爲サシムルコトアルベシ

第三十八條 陳列室ノ一部又ハ講演室ノ使用ヲ許可セラレタル者本館規則ニ違背シ又ハ館員ノ指圖ニ從ハザルトキハ其ノ使用ヲ禁止又ハ停止スルコトアルベシ

(第一號樣式)

表面

一 續紙ハ別紙ト爲スモ妨ゲズ
一 出品者ハ必ズ本書摘要欄ニ賣品、非賣品ノ區分ヲ記スベシ賣品ハ販賣ノ依賴アリタルモノト認ム

出品/寄贈 申込書

昭和 年 月 日

住所
申込人

朝鮮總督府商工奬勵館 御中

左記出品/寄贈致度此段及申込候也

番號	品名	形狀地質又ハ模樣	員數	單位(一箇又ハ一組)價格 小賣價格	單位(一箇又ハ一組)價格 卸賣價格	摘要

裏面

解說 (解說多岐ニ渉ルトキハ別紙ト爲スモ妨ゲズ)
一 品名
一 商號商標及製造人
一 製造所販賣所代理販賣店ノ位置

一　品質及用途
一　一箇年製産額、數量、
一　一箇年販賣額　　價額
一　主ナル販路
一　開業年月
一　其ノ他參考事項

（注意）一　價額ハ關稅、運賃、販賣手數料其ノ他諸掛ヲ計上シ京城ニ於テ卸賣及小賣シ得ベキモノタルヲ要ス
一　價額ハ徒ラニ低廉ニ失シ將來販路等ニ惡影響ナキ樣注意スベシ披露廣告等ノ爲割引販賣ヲ爲サントスルモノハ其ノ理由及歩合ヲ摘要欄ニ記スベシ

取扱者認印

（第二號樣式）

由品
寄贈品　到著通知書

昭和　年　月　日

殿

朝鮮總督府商工奬勵館

左記出品寄贈品　年　月　日到著致候ニ付及通牒候也

番號	品名	數量	單價	價額	事故	摘要

第二款　奬勵

●製鐵業奬勵法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

大正十五年四月
勅令第五十九號

第一條　製鐵業奬勵法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

昭和八年法律第四十八號附則第二項及第三項ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附　則

本令ハ昭和八年法律第四十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●製鐵業奬勵法施行令

大正十五年四月
勅令第五十八號
改正　昭和七年六月八日號、九年一月一二號

朕製鐵業奬勵法施行令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

製鐵業奬勵法施行令

第一條　製鐵業奬勵法第一條乃至第四條ニ規定スル製鐵事業ハ銑鐵、鋼鐵、壓延鋼材（軌條及繼目板ヲ含ム）、鍛鋼製品若ハ鑄鋼製品ノ素材又ハ商工大臣ノ指定シタル副生物ノ製造ニ關スル事業トス

製鐵業奬勵法第一條乃至第三條ニ規定スル製鐵事業ハ製銑ニ在リテハ一ノ爐ニ付一日ノ製銑量百噸以上ノ能力ヲ有スル設備ヲ有スルモノ、製鋼ニ在リテハ一ノ爐ニ付一回ノ製鋼量平爐ニ在リテハ二十五噸以上、轉爐ニ在リテハ五噸以上ノ能力ヲ有スル設備ヲ有スルモノトス

製鐵業奬勵法第四條第二項ノ低燐銑鐵製造事業ハ燐ノ標準含有量萬分ノ三以下ノ銑鐵ノ製造事業トス

第二條　製鐵業奬勵法第二條乃至第四條ノ期間ハ製鐵能力一年三萬五千噸未滿ノ場合ニ在リテハ二年以内、十萬噸未滿ノ場合ニ在リテハ三年以内、二十萬噸未滿ノ場合ニ在リテハ五年以内、二十萬噸以上ノ場合ニ在リテハ七年以内ニ於テ商工大臣之ヲ定ム

前項ノ期間ハ商工大臣災害其ノ他已ムヲ得サル事由アリト認ムルトキハ三年ヲ限リ之ヲ延長スルコトヲ得

第三條　所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ所得ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ免除ヲ受クヘキ事業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トノ存スルトキハ之ヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第四條　營業稅又ハ營業收益稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ營業稅法第十三條ノ規定ニ依リ營業名及課稅標準ヲ申告スルトキ又ハ營業收益稅法第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ免除ヲ受クヘキ事業ト其ノ他ノ事業トノ存スルトキハ之ヲ區別シタル內譯書ヲ添附スヘシ

第五條　削除

第六條　削除

第七條　製鐵業奬勵法第九條ノ奬勵金ハ左ニ揭クル鋼材ニシテ本令施行後ノ製造ニ係リ其ノ製造者又ハ其ノ製造者ヨリ之ヲ讓受ケタル者カ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用シタルモノニ付之ヲ交付ス但シ國ノ工場ニ於テ製造セラレタル鋼材ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　鋼塊及鋼片（鍛造用ノモノ）
二　條及竿（テー形、アングル形等ノ形狀ヲ有スルモノ及タービンブレーディングヲ含ム）
三　板
四　筒及管（鑄ルモノヲ除ク）

前項第一號ニ揭クル鋼材ヲ其ノ製造者カ加工シテ讓渡シタルトキハ其ノ素材タル鋼材ニ付奬勵金ヲ交付ス

第八條　前條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ者カ鋼材ヲ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用セムトスル場合ニ在リテハ其ノ使用ノ前、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ前ニ其ノ鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場ヲ記載シタル屆書ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

前項ノ屆書ニハ其ノ鋼材カ海軍艦船以外ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラルル場合ニ於テハ造船者又ハ船舶修繕者カ商工大臣ノ定ムル事項ニ付管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第九條　第一項ノ屆書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付遲滯ナク商工大臣ニ屆出ツヘシ

第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受ケタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付造船者又ハ船舶修繕者カ管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ遲滯ナク商工大臣ニ屆出ツヘシ

第十條　第七條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲シタル鋼材カ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ海軍官憲ノ鋼材使用證明書ヲ添附シ、其ノ他ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ鋼材使用證明書及造船者又ハ船舶修繕者カ受ケタル管海官廳ノ竣工承認書ヲ添附シ奬勵金交付申請書ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

第十一條　第七條ノ奬勵金ノ金額ハ左ノ區別ニ依ル

一　鋼塊及鋼片　其ノ價額ノ一割五分以內
二　條及竿　其ノ價額ノ一割五分以內
三　板
　一瓲ニ付三十一圓五十錢以內
　甲　厚三粍ヲ超エサルモノ
　一瓲ニ付二十四圓六十六錢以內
　乙　其ノ他
四　筒及管
　甲　內徑百五十粍ヲ超エサルモノ　其ノ價額ノ一割八分以內
　乙　其ノ他　其ノ價額ノ一割五分以內

五　關稅定率法別表輸入稅表第四六二號ノ二特殊鋼ニ該當スルモノ　其ノ價額ノ一割八分以內

前項第一號、第四號及第五號ノ價額ハ第八條第一項ノ使用又ハ引渡ノ時ニ於ケル其ノ鋼材同種ノ鋼材ノ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ト擇率トシテ商工大臣之ヲ定ム

第十一條　輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ器具、機械其ノ他ノ材料ノ種類ハ第一條ニ規定スル製鐵事業ノ爲必要ナル物ニシテ商工大臣ノ指定シタルモノニ限ル

第十二條　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ

ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ十五年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第十二條　本法ニ依リ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ主務官廳ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年四月勅令第五十七號ヲ以テ大正十五年四月十日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ土地收用法ノ適用ヲ受ケ又ハ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニシテ第一條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ本法施行後十年間仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニ付テハ仍從前ノ規定ニ於テ開業ノ年又ハ能力增加ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間（其ノ十五年ノ期間カ昭和十年迄ニ滿了スルモノニ在リテハ昭和十一年迄）トシ營業稅トアルハ營業稅及營業收益稅トシ第六條第二項ノ規定ハ國ノ製鐵事業カ前項ノ製鐵事業ニ相當スルモノナル場合ニ之ヲ準用ス

附　則（昭和八年四月法律第四十八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ第八條ノ規定ニ依リ奬勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業者カ本法施行前ニ製造シタル銑鐵ノ奬勵金ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前第八條ノ規定ニ依リ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ第十條ノ規定ヲ適用ス

（昭和九年一月勅令第九號ヲ以テ昭和九年二月一日ヨリ施行）

●昭和八年法律第四十八號製鐵業奬勵法中改正法律ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

昭和九年一月
勅令第十號

朕昭和八年法律第四十八號製鐵業奬勵法中改正法律ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

昭和八年法律第四十八號附則第二項及第三項ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附　則

本令ハ大正十五年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

●製鐵業奬勵法

大正十五年三月
法律第四十九號
改正　昭和六年三月三號、八年四月八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル製鐵業奬勵法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

製鐵業奬勵法

第一條　一ノ場所ニ於テ一年三萬五千噸以上ノ製銑能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第二條　主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ前條ニ規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事業者ニハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス

前項ノ製鐵事業者ノ設備ニ付テハ其ノ設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間內ニ設備ヲ完成セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　第一條ノ規定ニ該當セサル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ第一條ノ規定ニ該當スルニ至ルヘキ設備ヲ增設シタルトキハ其ノ增設シタル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

第一條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者作業上必要ナル場合ニ於テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ其ノ場所ニ於テ製銑又ハ製鋼ノ設備ヲ增設シタルトキ亦前項ニ同シ

第四條　主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ場所ニ於テ一年五千二百五十噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル鍛鋼品又ハ鑄鋼品製造事業者ニ付テハ第二條ノ規定ノ準用ス

主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間內ニ一ノ場所ニ於テ一年二千五百噸以上ノ製銑能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル低燐銑鐵製造事業者、坩堝製鋼事業者及電氣製鋼事業者ニ付亦前項ニ同シ

第五條　第一條乃至前條ニ規定スル製鐵事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　製鐵ノ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムヘキ事實アル者ハ前事業者カ本法ニ依ル營業稅、營業收益稅及所得稅免除期間內ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ繼承ス

國カ前項ノ前事業者ナル場合ニ於テ其ノ事業カ第二條乃至第四條ノ製鐵事業ニ相當スルモノナルトキハ之ヲ本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ノ免除ヲ受クル製鐵事業ト看做ス

第七條　北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル資本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得但シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ特別ノ事情ニ基キ主務官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　削除

第九條　帝國內ニ於テ製造シタル鋼材カ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ鋼材ノ製造者ニ對シ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十條　詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ償還セシム

前項ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十一條　第一條ニ規定スル製鐵事業ノ爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ主務官廳

輸入申告ヲ爲ス場合ニ於テ商工大臣ノ輸入認可書ヲ添附スヘシ
前項ノ輸入申告ハ製鐵事業者ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス
第十三條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物ヲ目的タル用途ニ供セサルトキハ其ノ輸入稅ヲ追徵ス但シ其ノ物ヲ製鐵業奬勵法ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケルコトヲ得ヘキ他ノ用途ニ使用セムトスル場合ニ於テ商工大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ旨稅關ニ申告シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第十四條　商工大臣必要ト認ムルトキハ營業稅、營業收益稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ニ對シ製鐵事業ニ關スル書類又ハ製鐵原料若ハ製品ノ試料ノ提出ヲ命シ又ハ當該官吏ヲシテ製鐵事業ニ關スル設備、帳簿其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得
輸入稅ノ免除ヲ受ケ又ハ受ケムトスル者ニ對シ亦同シ
商工大臣必要ト認ムルトキハ奬勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトスル者ニ對シ前項ノ書類又ハ試料ノ提出ヲ命シ、當該官吏ヲシテ前項ノ檢査ヲ爲サシメ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
第十五條　收稅官吏又ハ稅關官吏必要ト認ムルトキハ前條第一項ノ檢査ヲ爲スコトヲ得
第十六條　第二條、第八條乃至第十條及第十四條中商工大臣トアルハ製鐵業奬勵法ヲ朝鮮ニ施行スル範圍ニ於テハ朝鮮總督トス

附　則

本令ハ大正十五年四月十日ヨリ之ヲ施行ス
製鐵業奬勵法附則第二項ニ規定スル製鐵事業ニ付テハ土地ノ收用使用又ハ輸入稅ノ免除ニ關シ仍舊製鐵業奬勵法施行令ニ依ル
製鐵業奬勵法附則第三項ニ規定スル製鐵事業ニ付テハ第一條第一項第三項及第二條ノ規定ヲ準用ス
本令施行前大正十年七月二十日以後ノ製造ニ係ル第七條ノ鋼材ニシテ第八條第一項ノ使用又ハ引渡カ本令施行前ナルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第九章　特許　意匠　商標

第一款　特許

●特許法等ヲ朝鮮ニ施行スル件

明治四十三年八月
勅令第三百三十五號

朕特許法等ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
左ニ揭ル法律ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス
一　特許法
二　意匠法
三　實用新案法
四　商標法
五　著作權法

（三）生産及販賣ノ數量及價額
（四）收支決算
（五）其ノ他營業概況ヲ明ニスヘキ事項

二　設備概況
（一）敷地面積
（二）工場建物ノ棟數及建坪
（三）銑鐵、鋼鐵及鋼材ノ製造ノ設備及能力
（四）原動機ノ種類、用途、數及實馬力
（五）輸送設備
（六）其ノ他主要ナル設備

三　作業概況（製鐵ヲナル場合ニ限ル）
（一）操業開始ノ時期
（二）操業日數
（三）勞働者數及其ノ延工數
（四）生産額
（五）主要ナル原料及燃料ノ使用額（生產地別ニ記載スヘシ）

附　則

本令ハ大正十五年四月十日ヨリ之ヲ施行ス
第七條ノ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項ニ付テハ大正十五年五月十四日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特許法

大正十年四月
法律第九十六號
改正　昭和四年四月第四七七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル特許法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

特許法

第一章　總則

第一條　新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルコトヲ得
第二條　特許權者又ハ特許出願者ハ其ノ發明ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付獨立ノ特許ヲ受クルコトヲ得
第三條　左ニ揭クル發明ニ付テハ之ヲ特許セス

一　飮食物又ハ嗜好物
二　醫藥又ハ其ノ調合法
三　化學方法ニ依リ製造スヘキ物質
四　秩序若ハ風俗ヲ素リ又ハ衞生ヲ害スル虞アルモノ
第四條　本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ發明カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　特許出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用ヰラレタルモノ
二　特許出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ
第五條　特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者ノ發明ヲ前條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以內ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス但シ特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者ノ發明ヲ前條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テハ出願公告ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス
第六條　特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ハ其ノ特許ヲ無效トスル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ其ノ特許ノ出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ無效ト爲リタル特許ノ出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ出願公告ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ノ出願又ハ其ノ審決確定シ若ハ判決アリタル日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス
第七條　特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス
特許ヲ受クルノ權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス
特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人カ特許出願前ニ在リテハ特許ヲ出願シ特許出願後ニ在リテハ出願人名義ノ變更ヲ屆出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但同日ノ出願又ハ屆出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第十三條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル法定又ハ指定ノ期間ノ計算ハ左ノ規定ニ依ル

一　期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始ルトキハ此ノ限ニ在ラス
二　期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒ月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス
特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付テノ法定又ハ指定ノ期間ノ末日カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルヘキトキハ其ノ日ノ翌日ヲ以テ其ノ期間ノ末日トス
第十四條　被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニ付テハ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル事務所所在地
二　工場ノ名稱及位置
三　船舶ノ製造番號
四　船舶ノ建造ニ使用スヘキ鋼材ニシテ奬勵金ノ交付ヲ受クヘキモノノ種類及數量
五　起工及竣工ノ期日

乙　船舶修繕ノ場合
一　船舶修繕者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地
二　工場ノ名稱及位置
三　特定ノ船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱、其ノ他ノ場合ニ在リテハ一年ヲ超エサル一定ノ期間
四　前號ノ船舶修繕ノ爲使用スヘキ鋼材又ハ前號ノ期間內ニ船舶修繕ノ爲使用スヘキ鋼材ニシテ奬勵金ノ交付ヲ受クヘキモノノ種類及數量

第八條　製鐵業奬勵法施行令第九條ノ鋼材使用說明書ニハ左ニ揭ル事項ヲ記載スヘシ

一　鋼材ノ使用者及使用工場
二　船舶ノ建造ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ製造番號、船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱
三　使用鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場
四　鋼材ノ製造者カ鋼材ヲ使用シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ時期

第九條　奬勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトスル者ハ原料及燃料ノ取得及消費、製品ノ生產及販賣又ハ引渡其ノ他事業ノ狀況ヲ明ニスヘキ書類帳簿ヲ其ノ工場ニ備ヘ置クヘシ
第十條　奬勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケムトスル者ハ其ノ製鐵事業ニ付每年一月三十一日迄ニ其ノ前年ノ事業報告書ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ
前項ノ事業報告書ニハ左ニ揭ル事項ヲ記載スヘシ

一　營業概況
（一）事業資金ノ總額及內譯
（二）從業者數（內地人ト朝鮮人トヲ區別シテ記載スヘシ）

府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖內ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品ノ爲其ノ者ノ發明ヲ第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ開會ノ日ヨリ六月以內ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス
前項ニ揭クル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖內ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル發明ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第七條　特許出願ハ一發明每ニ之ヲ爲スヘシ但シ二以上ノ發明ヲ牽連シテ利用上一發明ト爲スモノト認メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第八條　同一發明ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ特許ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ特許シ協議調ハサルトキハ共ニ特許セス
第九條　二以上ノ發明ヲ包含スル特許出願ヲ二以上ノ出願ニ分チ又ハ各出願ハ最初出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
追加ノ特許出願ヲ獨立ノ特許出願ニ、獨立ノ特許出願ヲ追加ノ特許出願ニ變更シタルトキ亦前項ニ同シ
第十條　特許出願カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ノ共有者ノナルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ特許出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ出願公告ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス
第十一條　特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ政

認シタル者ノ受ケタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無效トスル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ其ノ特許ノ出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ無效ト爲リタル特許ノ出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ出願公告ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ノ出願又ハ其ノ審決確定シ若ハ判決アリタル日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス
第十二條　特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス
特許ヲ受クルノ權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス
特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人カ特許出願前ニ在リテハ特許ヲ出願シ特許出願後ニ在リテハ出願人名義ノ變更ヲ屆出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但同日ノ出願又ハ屆出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第十三條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル法定又ハ指定ノ期間ノ計算ハ左ノ規定ニ依ル

一　期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始ルトキハ此ノ限ニ在ラス
二　期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒ月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス
特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付テノ法定又ハ指定ノ期間ノ末日カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルヘキトキハ其ノ日ノ翌日ヲ以テ其ノ期間ノ末日トス
第十四條　被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニ付テハ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リ

タル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノヲ除クノ外豫メ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ承繼セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勤務規程ノ條項ハ之ヲ無效トス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ハ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニシテ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノニ付其ノ被用者、法人ノ役員若ハ公務員カ特許ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ者ノ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ特許ヲ受ケタルトキハ其ノ發明ニ付實施權ヲ有ス

被用者、法人ノ役員又ハ公務員ハ前項ノ發明ニ付テノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ豫メ定メタル契約又ハ勤務規程ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ承繼セシメタル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ謂ヒ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第十五條　特許出願ニ係ル發明カ軍事上祕密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許ヲ與ヘス、特許ヲ受クルノ權利ヲ政府ニ於テ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ與ヘス、權利ヲ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フル場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ支給ス

收用及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　帝國内ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル者ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國内ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ルニ非サレハ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ出願若ハ請求又ハ主張ヲ爲ス代理人ハ特ニ授ケラレタル權限ノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル手續竝民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表ス

特許權者又ハ特許權ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ノ代理人ニシテ第一項ノ規定ニ依リ手續又ハ主張ヲ爲スモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條　特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ代理人ニシテ前條第三項ニ規定スル代理人ニ非サルモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ特許局ニ屆出ツルニ非サレハ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條ノ二　特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ委任ニ因ル代理人ノ代理權ハ本人ノ死亡若ハ能力ノ喪失、本人タル法人ノ合併ニ因ル消滅、本人タル受託者ノ信託ノ任務終了又ハ法定代理人ノ死亡、能力ノ喪失若ハ代理權ノ變更消滅ニ因リテ消滅セス

第十八條　特許ニ關スル代理人數人アルトキハ特許局ニ對シテハ各別ニ本人ヲ代表ス

第十九條　特許局長官ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

特許局長官又ハ審判長ニ於テ當事者、參加人若ハ特許異議申立人又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト認ムルトキハ辨理士ヲ以テ代理セシムヘキコトヲ命スルコトヲ得

前二項ニ規定スル命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ前項ノ當事者、參加人、特許異議申立人若ハ代理人ノ特許局ニ對シ爲シタル行爲ハ之ヲ無效ト爲スコトヲ得

第二十條　特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理業ハ辨理士ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二十一條　數人共同シテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ特許權ノ共有者ハ特許局ニ對シ各人互ニ代表スルモノトス但シ特ニ代表者ヲ定メ特許局ニ屆出テタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條ノ規定ハ前項但書ノ代表者ニ付之ヲ準用ス

第二十二條　特許權者帝國内ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサルトキハ第十六條第二項ノ代理人ノ住所又ハ居所、其ノ代理人ナキモノニ在リテハ特許局ノ所在地ヲ以テ民事訴訟法第八條ノ財產所在地ト看做ス

第二十三條　特許局長官ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許局又ハ裁判所ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十四條　出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者之ニ關スル爾後ノ行爲ニ付指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキ又ハ登錄ヲ受クル際納付スヘキ特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外特許局長官ハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無效ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無效ト爲シタル場合ニ於テ其ノ期間ノ懈怠カ宥恕スヘキ障礙ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間滿了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長官ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得

第二十五條　特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ第百九條、第百十五條、第百二十二條第一項又ハ本法ニ於テ準用スル民事訴訟法第四百十五條ニ規定スル期間ヲ遵守スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ且其ノ期間滿了後一年以内ニ限リ懈怠シタル手續ノ追完ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生スヘキ時期ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ爲シタル又ハ其ノ者ニ對シ爲サレタル手續ノ效力ハ其ノ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ承繼人ニ及フ

第二十八條　特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ特許局ハ承繼人ニ對シ手續ヲ續行スルコトヲ得

第二十九條　本法ニ規定スルモノノ外特許局ニ繫ル手續ノ中斷中止及中斷中止シタル手續ノ續行ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條　特許ニ關シ證明、特許證ノ複本、書類ノ謄本若ハ圖面ノ調製ヲ求メ又ハ書類ノ閱覽若ハ謄寫ヲ爲サムトスル者ハ特許局長官ニ之ヲ申請スルコトヲ得但シ特許局長官ニ於テ祕密ヲ要スト認ムルモノニ付テハ之ヲ許可セス

第三十一條　軍事上祕密ヲ要スル發明ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十二條　外國人ニシテ帝國內ニ住所ヲモ營業所ヲモ有セサルモノハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ヲ除クノ外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

第三十三條　特許ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章　特許權

第三十四條　特許權ハ登錄ニ依リ發生ス

第三十五條　特許權者ハ物ノ特許發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ特許發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其ノ方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

新規ナル同一ノ物ハ同一ノ方法ニ依リテ製作シタルモノト推定ス

特許權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用

新案權ト牴觸スル場合又ハ特許發明カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登錄實用新案ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ特許權者ハ實用新案權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ特許發明ヲ實施スルコトヲ得ス

第三十六條　特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一　研究又ハ試驗ノ爲ニスル特許發明ノ實施

二　單ニ帝國内ヲ通過スルニ過キサル運輸具又ハ其ノ裝置

三　特許出願ノ際ヨリ帝國内ニ在ル物

第三十七條　特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十八條　特許ノ無效審判請求ノ登錄前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

一　同一發明ニ對スル二以上ノ特許中其ノ一カ無效ト爲リタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原特許權者

二　特許ヲ無效トシ同一發明ニ付正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原特許權者

三　前二號ニ揭クル場合ニ於テ其ノ無效ト爲リタル特許權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登錄ヲ受ケタル者但シ實施權カ登錄ナキモ第五十二條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ特許發明ニ付原實施權ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登錄ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

特許權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三十九條　特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間滿了後ニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ特許發明ニ付原權利ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第四十條　特許發明カ軍事上祕密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ制限シ若ハ政府ニ於テ收用シ、特許ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ハ消滅ス

第一項ノ規定ニ依ル制限、收用、取消又ハ實施ノ場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ實施權者ニ支給ス

收用、實施及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條　特許アリタル後ニ於テ引續キ三年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國內ニ適當ニ實施セラレサル場合ニ於テ公益上必要アルトキハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ其ノ實施權ヲ許與シ若ハ其ノ特許ヲ取消シ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

特許權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル實施權許與若ハ特許取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ實施權ヲ許與スル場合ニ於テハ特許局長官ハ補償金ニ付テモ亦之カ決定ヲ爲スヘシ

第四十二條　前條ノ規定ニ依リ實施權ヲ取得シタル者適當ニ其ノ特許發明ヲ實施セサル場合ニ於テハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ實施權ヲ取消スコトヲ得

實施權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四十三條　特許權ノ存續期間ハ出願公告アリタル場合ニ在リテハ其ノ出願公告ノ日ヨリ、出願公告ナカリシ場合ニ在リテハ特許ノ日ヨリ十五年ヲ以テ終了ス

第十條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ニ付出願公告アリタルトキハ前項ノ十五年ノ期間ハ其ノ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタルトキハ第一項ノ十五年ノ期間ハ無效ト爲リタル特許ノ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタルトキハ其ノ存續期間ハ原特許權ノ殘期間トス

特許權ノ存續期間ニ付亦同シ

第五十三條第二項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ存續期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下之ヲ延長スルコトヲ得

第四十四條　特許權ハ制限ヲ附シ又ハ附セスシテ之ヲ移轉スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第四十五條　特許權ノ移轉、拋棄ニ依ル消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十六條　追加ノ特許權ハ原特許權ニ附隨ス

第四十七條　特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ契約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ他ノ共有者ノ同意ヲ要セスシテ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

第四十八條　特許權者ハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得ス

第四十九條　特許權者ハ他人ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ特許發明ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ他人ノ特許發明ノ實施ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ實施セラルヘキ發明ノ特許權發生ノ日ヨリ三年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ特許發明ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第五十條　第四十一條又ハ前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ特許權者又ハ實用新案權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得ス但シ第四十一條ノ決定、審決又ハ判決ノ確定前ト雖決定、審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第五十一條　第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ特許權ニ附隨ス

特許發明ノ實施權ニシテ前項ノ實施權ニ非サルモノハ其ノ實施ノ事業ト共ニスル場合又ハ特許權者ノ承諾アル場合ニ於テハ之ヲ移轉スルコトヲ得

第五十二條　特許發明ノ實施權ハ之ヲ登錄シタルトキハ其ノ特許權ヲ爾後取得シタル者及其ノ特許權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第十四條第二項又ハ第三十七條乃至第三十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第五十三條 特許權者ハ特許發明ノ明細書又ハ圖面カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ掲クル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得
一 特許請求範圍ノ減縮
二 誤記ノ訂正
三 不明瞭ナル記載ノ釋明
特許權者ハ錯誤ニ因リ二以上ノ發明ヲ一特許出願ニ包含セシメタルコトヲ疏明シタル場合ニ限リ各發明毎ニ各別ノ特許權ト爲スノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得
第一項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部、前項ノ場合ニ於テハ其ノ各發明カ特許出願ノ際獨立シテ新規ノ發明ナルコトヲ要ス
第五十四條 前條ノ場合ニ於テハ特許請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス
第五十五條 特許權者ハ制限附移轉ノ特許權ヲ有スル者、質權者又ハ第十四條第二項若ハ第四十八條ノ規定ニ依ル實施權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ特許權ヲ拋棄シ又ハ第五十三條ノ規定ニ依ル許可ノ審判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
第五十六條 先取特權又ハ質權ハ本法ニ依リ受クヘキ補償金其ノ他特許權ノ對價又ハ特許發明ノ實施ニ對シテ受クヘキ金錢若ハ金錢以外ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スヘシ
第五十七條 特許カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ
一 特許カ第一條乃至第三條、第八條又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シテ與ヘラレタルトキ
二 特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シテ與ヘラレタルトキ
三 特許發明ノ明細書又ハ圖面ニ其ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ記載セス又ハ其ノ實施ヲ不能若ハ困難ナラシムル爲必要ナラサル事項ヲ故意ニ記載シタルトキ
四 特許カ第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ與ヘラレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ
五 特許カ第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許カ第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ
第五十三條ノ許可カ同條第三項又ハ第五十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ
特許又ハ第五十三條ノ許可ハ特許權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ
第五十八條 特許カ無效ト爲リタルトキハ特許權ハ初ヨリ存在セサリシモノト看做ス但シ前條第一項第五號ノ規定ニ依リ特許カ無效ト爲リタルトキハ特許權ハ特許カ同號ニ該當スルニ至リタル時ヨリ存在セサリシモノト看做ス
第五十三條ノ許可カ無效ト爲リタルトキハ初ヨリ許可ナカリシモノト看做ス
第五十九條 特許ノ取消又ハ第四十二條ノ規定ニ依ル實施權ノ取消アリタルトキハ特許權又ハ實施權ハ爾後其ノ效力ナキモノトス
第六十條 特許カ取消サレ若ハ無效ト爲リ又ハ特許權カ消滅シタル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ノ特許權ト爲ル第六十九條第二項ノ規定ニ依リ特許權カ消滅シタルトキハ同條第一項ニ規定スル追納期間ノ滿了ノ時獨立ノ特許權ト爲ル
前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係ル追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ト爲リタル特許權ノ追加ノ特許權ト爲ル

第三章 登錄、特許證、公報及明細書、特許標記竝特許料

第六十一條 特許局ニ特許原簿ヲ備ヘ特許權及實施權竝之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス
登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第六十二條 特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付ス第五十三條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ
第六十三條 特許局ハ特許公報及特許發明明細書ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他特許發明ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上祕密ヲ要スル特許發明ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第六十四條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質ニ依リ其ノ物ニ附スルコト能ハサルトキハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ之ヲ附スヘシ
特許權者ハ實施權者又ハ第三十六條第一號ノ實施ヲ爲ス者ニ對シ特許標記ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得
特許標記ヲ附セサリシ爲特許ニ係ル物ナルコトヲ知ラスシテ特許權ヲ侵害シタル者ニ對シテハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
前三項ノ規定ハ特許ニ係ル物ノ要部ヲ分離シテ販賣又ハ擴布スル場合ニ之ヲ準用ス
第六十五條 特許權ノ登錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ特許料トシテ第四十三條第一項ニ規定スル十五年ノ各年ニ付毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ
一 第一年乃至第三年 毎年 十圓
二 第四年及第五年 毎年 十五圓
三 第六年乃至第九年 毎年 二十五圓
四 第十年乃至第十二年 毎年 三十五圓
五 第十三年乃至第十五年 毎年 五十圓
特許權存續期間延長ノ登錄ヲ受クル者又ハ其ノ特許證主ハ特許料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ
一 第一年乃至第三年 毎年 百圓
二 第四年乃至第六年 毎年 百五十圓
三 第七年乃至第十年 毎年 二百圓
追加ノ特許權ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時特許料トシテ毎件一時ニ三十圓ヲ納付スヘシ特許權存續期間延長ノ場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ登錄ヲ受クル時特許料トシテ毎件一時ニ六十圓ヲ納付スヘシ
第五十三條第二項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ登錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ各別ノ特許權ニ付原特許權ノ當該年分ヨリノ特許料ヲ納付スヘシ但シ既納ノ特許料ノ金額ハ納付スヘキ特許料ノ金額中ニ之ヲ充當ス
追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタル場合又ハ第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テハ特許權ノ登錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ原特許權ノ當該年分ヨリノ特許料ヲ納付スヘシ
前六項ノ規定ハ國ニ屬スル特許權ニ付之ヲ適用セス
第六十六條 前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ特許料ハ一時ニ之ヲ前納シ其ノ第四年以後ノ特許料及前條第二項ノ規定ニ依ル特許料ハ前年ニ之ヲ納付スヘシ但シ數年分ヲ前納スルコトヲ妨ケス
特許局長官ハ前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ特許料又ハ前條第三項ノ規定ニ依ル特許料ヲ納付スヘキ者カ其ノ特許發明ノ發明者又ハ其ノ相續人ナル場合ニ於テ之ヲ納付スルノ資力ナシト認ムルトキハ二年以內之カ納付ヲ猶豫シ又ハ之ヲ減免スルコトヲ得
第六十七條 利害關係人ハ特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ納付スルコトヲ得
第六十八條 既納ノ特許料ハ之ヲ還付セス
第六十九條 特許證主ハ特許料ヲ納付スヘキ期限ヲ經過シタル後ト雖六月間ヲ限リ特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ニ規定スル特許料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ特許料トシテ納付スヘシ
前項ニ規定スル追納期間內ニ特許料ヲ追納セサルトキハ特許料ヲ納付スヘキ期限經過ノ時ニ遡リ特許權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四章 審査

第七十條 特許ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム
第七十一條 第九十一條ノ規定ハ審査官ノ審査ノ干與ヨリノ除斥ニ付之ヲ準用ス
第七十二條 審査官ハ出願ヲ拒絕スヘキモノト認メタルトキハ出願人ニ對シ拒絕ノ理由ヲ示シ期間ヲ指定シテ之ニ意見書提出ノ機會ヲ與フヘシ
第七十三條 審査官ハ出願拒絕ノ理由ヲ發見セサルトキハ出願公告ヲ爲スヘキモノト決定スヘシ
前項ノ規定ニ依ル決定アリタルトキハ特許局ハ出願年月日、發明者ノ氏名、出願人ノ氏名名稱及住所竝出願ノ要旨ヲ特許公報ニ掲載シテ出願公告ヲ爲スヘシ
出願公告アリタルトキハ其ノ出願ニ係ル發明ニ付出願公告ノ時ヨリ特許權ノ效力ヲ生シタルモノト看做ス
特許局ハ出願公告ト同時ニ出願書類及其ノ附屬物件ヲ特許局ニ於テ竝命令ノ定ムル所ニ依リ出願書類及其ノ附屬物件ヲ其ノ他ノ場所ニ於テ公衆ノ閲覽ニ供スヘシ
特許局ハ出願人ノ請求ニ依リ出願公告ノ決定アリタル日ヨリ六月以內出願公告ヲ猶豫スルコトヲ得
軍事上祕密ヲ要スル發明ノ出願ニ付テハ出願公告ノ決定ヲ爲サスシテ査定ヲ爲スヘシ
第七十四條 出願公告アリタルトキハ何人ト雖出願公告ノ日ヨリ二月以內ニ特許局ニ特許異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
特許異議ノ申立ハ特許異議申立書ヲ提出シテ之ヲ爲シ理由ヲ之ニ記載スヘシ
利害關係人ハ特許異議ノ決定アル迄其ノ特許異議ニ參加スルコトヲ得
特許異議ノ參加ニ關シテハ審判ノ參加ニ關スル規定ヲ準用ス
第七十五條 特許異議ノ申立アリタルトキハ審査官ハ特許異議申立書ノ副本ヲ出願人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ答辯書提出ノ機會ヲ與フヘシ
審査官ハ前條第一項ニ規定スル特許異議申立期間及前項ノ期間ノ經過後特許異議ノ決定ヲ爲シ同時ニ其ノ出願ニ對シ特許スヘキヤ否ヤヲ査定スヘシ
特許異議ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ
特許異議ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
審査官ハ特許異議申立ノ結果必要アルトキハ特許發明ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ヲ命スルコトヲ得
第七十六條 特許異議ニ關シ爲シタル證據調ノ費用ニ付テハ審判ニ關スル費用ノ規定ヲ準用ス
第七十七條 特許異議ノ申立ナキトキハ審査官ハ査定ヲ爲スヘシ
第七十八條 出願公告後出願ノ拋棄、取下若ハ無效處分アリタルトキ、拒絕ノ査定若ハ審決確定シ若ハ判決アリタルトキ又ハ第五十八條第一項但書ノ場合ヲ除クノ外特許カ無效ト爲リタルトキハ第七十三條第三項ノ規定ニ依ル效力ハ初ヨリ生セサリシモノト看做ス
第七十九條 第十條又ハ第十一條ニ規定スル正當權利者ノ出願アリタルトキハ審査官ハ既ニ出願公告ヲ爲シタルモノニ付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトナク査定ヲ爲スヘシ
第八十條 第百條及第百十八條第一項ノ規定ハ審査ニ付之ヲ準用ス
第八十一條 査定ニハ理由ヲ附スヘシ
第八十二條 本法ニ規定スルモノノ外審査ニ關スル書類ニシテ送達スヘキモノ及送達ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第八十三條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許又ハ拒絕査定確定アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五章 審判、抗告審判及出訴

第八十四條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得
一 第五十七條ノ規定ニ依ル特許又ハ許可ノ無效
二 特許權ノ範圍ノ確認
前項第一號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第八條ノ規定ニ違反シ又ハ第五十七條第一項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス
第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得
第八十五條 前條第一項第一號ノ無效ノ審判ハ特許又ハ第五十三條ノ許可ノ登錄ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス
前項ニ規定スル期間ハ第五十七條第一項第五號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス
第八十六條 審判ノ請求ハ審判請求書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ
審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スヘシ
第八十七條 審判請求書カ法令ニ定メタル方式ニ違背シタル場合ニ於テハ審判長ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間內ニ欠缺ヲ補正スヘキコトヲ命スヘシ成規ノ手數料ヲ納付セサル場合亦同シ
請求人カ欠缺ノ補正ヲ爲サヽルトキハ審判長ハ決定ヲ以テ審判請求書ヲ却下スヘシ
前項ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ
第二項ノ決定ニ不服アル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
前項ノ即時抗告ニ付テハ民事訴訟法中即時抗告ニ關スル規定ヲ準用ス
抗告狀ニハ却下セラレタル審判請求書ヲ添附スヘシ
第八十八條 審判長ハ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘ其ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送達スヘシ
審判ニ關シテハ當事者ノ提出シタル書類ニ對シ相手方ヲシテ答辯書ヲ提出セシメ又ハ當事者ニ訊問書ヲ發シテ之ニ對スル意見書ヲ提出セシムルコトヲ得
第八十八條ノ二 不適法ナル審判ノ請求ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ被請求人ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘスシテ審決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得
第八十九條 審判ハ審判官三人ノ合議ニ依リ之ヲ行フ合議ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス
審判長ハ審判官中ノ上席者ヲ以テ之ニ充ツ
審判長ハ其ノ審判事件ニ關スル事務ヲ掌理ス
第九十條 審判官ハ各審判事件ニ付特許局長官之ヲ指定ス
審判官中審判ニ干與スルニ故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他ノ審判官ヲ以テ之ヲ補充ス
第九十一條 審判官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ノ干與ヨリ除斥セラル
一 審判官又ハ其ノ妻若ハ妻タリシ者カ事件ノ當事者、參加人若ハ特許異議申立人ナルトキ又ハナリシトキ
二 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族ナルトキ又ハナリシトキ
三 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ戸主若ハ家族ナルトキ
四 審判官カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ
五 審判官カ事件ノ當事者、參加人又ハ特許異議申立人ノ代理人ナルトキ又ハナリシトキ
六 審判官カ事件ニ付審査官、審判官又ハ判事トシテ査定、審決又ハ判決ニ干與シタルトキ
七 審判官カ事件ニ付直接ノ利害關係ヲ有スルトキ
第九十二條 除斥ノ原因アルトキハ當事者又ハ參加人ハ除斥ノ申立ヲ爲スコトヲ得
第九十三條 審判官ニ付審判ノ公正ヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者又ハ參加人ハ之ヲ忌避スルコトヲ得
當事者又ハ參加人ハ事件ニ付申述ヲ爲シタル後ハ審判官ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原因アルコトヲ知ラサリシトキ又ハ忌

許否ヲ決定ス

第九十五條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル決定ニ付之ヲ準用ス

第百條　審判ニ於テハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地區裁判所其ノ他區裁判所ノ事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ハ前二項ノ規定ニ依ル證據調ニ付之ヲ準用ス但シ審判官ハ過料ノ決定ヲ爲シ、勾引ヲ命シ又ハ保證金ヲ供託セシムルコトヲ得ス

第百一條　當事者又ハ參加人カ法定若ハ指定ノ期間內ニ手續ヲ爲サス又ハ期日ニ出頭セサルトキト雖審判長ハ審判ヲ進行スルコトヲ得

第百二條　審判ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ取下クルコトヲ得但シ答辯書ノ提出アリタル後ニ於テハ相手方ノ承諾ヲ要ス

第百三條　審判ニ於テハ當事者又ハ參加人ノ申立テサル理由又ハ取下ケタル理由ニ付テモ之ヲ審理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ニ付當事者又ハ參加人ニ期間ヲ指定シテ意見申立ノ機會ヲ與フヘシ

第百四條　審判官ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル二以上ノ審判ニ付其ノ審理又ハ審決ノ併合ヲ爲スコトヲ得

審判官ハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ併合ヲ爲シタルトキハ其ノ審判ノ分離ヲ爲スコトヲ得

第百五條　審判ノ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外審決ヲ以テ之ヲ終了ス

前項ノ審決ニハ理由ヲ附スヘシ

事件カ審決ヲ爲スニ熟シタルトキハ審判長ハ審理ノ終結ヲ當事者及參加人ニ通知スヘシ

審判長ハ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ終結ヲ通知シタル後ト雖申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ審理ノ再開ヲ爲スコトヲ得

審決ハ審理ノ終結ノ通知ヲ發シタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ爲スヘシ

第百六條　第四十九條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第百七條　第八十二條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第百八條　第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第九十八條、第九十九條及第百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第百九條　查定又ハ審判ノ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ第百六條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決及第百十九條第一項ノ規定ニ依ル費用ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百十條　第八十六條乃至第百一條及第百三條乃至第百八條ノ規定ハ抗告審判ニ付之ヲ準用ス但シ審判官ノ合議ハ三人又ハ五人ヲ以テ之ヲ爲シ第九十二條、第九十三條及第百一條ニ於テ當事者又ハ參加人トアルハ當事者、參加人又ハ特許異議申立人トス

第百十條ノ二　不適法ナル審判ノ請求ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ被請求人ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘスシテ抗告審判ノ審決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第百十條ノ三　抗告審判ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第百十條ノ四　抗告審判ノ請求スル權利ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ拋棄スルコトヲ得

抗告審判ヲ請求シタル後抗告審判請求權ヲ拋棄シタルトキハ抗告審判ノ請求ニ付テモ之ヲ取下ケタルモノト看做ス

第百十一條　抗告審判ニ於テハ審判請求ノ理由ヲ變更シ又ハ新ナル事實若ハ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第百十一條ノ二　審查又ハ審判ニ於テ爲シタル手續ハ抗告審判ニ於テモ其ノ效力ヲ有スル

第百十二條　審判ノ審決ニ不服ノ理由ヲ知リタル日ヨリ三十日以內ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

審決ノ確定又ハ審判ノ前ニ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ前項ニ規定スル期間ハ審決確定シ又ハ審判決アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審判、抗告審判又ハ出訴ノ手續ニ於テ當事者カ法律上代理人カ送達ニ依リ審決又ハ審判決アリタルコトヲ知リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審決確定シ又ハ審判決アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ再審ヲ請求スルコトヲ得ス

不服ノ理由カ審決確定シ又ハ審判決アリタル後ニ生シタルトキハ前項ニ規定スル期間ハ其ノ理由發生シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項及第四項ノ規定ハ不服ノ申立アル審決又ハ審判決カ前ニ爲サレタル確定審決又ハ審判ト低觸スルコトヲ理由トスル再審ノ請求ニ付之ヲ適用セス

第百二十三條　審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ノ請求及其ノ後ノ手續ニ付テハ本章ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外各其ノ審級ノ手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第百二十四條　第二條及第四百二十一條、第四百二十二條及第四百二十六條乃至第四百二十八條ノ規定ハ審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ニ關シ之ヲ準用ス

第百二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特許權ノ效力ヲ害スル確定審決又ハ審判ニ對シテハ再審ノ請求ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

一　特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ審判ノ登錄アリタルトキ何人ト雖同一事實及同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコト

第百二十六條　前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ審決確定シ又ハ審判ニ於テ必要アルトキハ民事又ハ刑事ノ訴訟手續ノ完結ニ至ル迄其ノ手續ヲ中止スルコトヲ得

民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許ニ關シ審決ノ確定又ハ審判ニ抗告ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第百二十七條　實施權ノ取得ノ審決確定シ又ハ審判決アリタル後再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ審判決アリタル場合ニ於テ再審請求ノ登錄前善意ニシテ帝國內ニ於テ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付原實施權ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十八條第三項及第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十八條　第三者カ請求人及被請求人ノ共謀ニ依リ其ノ第三者ノ權利又ハ利益ヲ詐害スル目的ヲ以テ審決又ハ審判決ヲ爲サシメタルコトヲ理由トシテ再審ノ請求アリタルトキハ其ノ審級ノ手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第百二十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　特許權ヲ侵害シタル者

二　許特權ヲ侵害スヘキ物ヲ輸入又ハ移入シタル者

三　特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル權利ヲ特許前ニ侵害シタル者

四　特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル權利ヲ侵害スヘキ物ヲ特許前ニ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第百三十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　許否ノ行爲ヲ以テ特許ヲ受ケ又ハ審決又ハ審判ノ確定シタル特許權ニ付其ノ特許權ノ範圍ニ在ラス

二　特許ニ係ラサル物又ハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三　特許ニ係ラサル物又ハ其ノ物又ハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

四　特許ニ係ラサル物又ハ特許ニ係ラサル方法ニ依リ製作シタル物ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ル旨ヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

五　特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ル旨ヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第百三十一條　前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特許權ヲ侵害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十二條　法律ニ依リ官署シタル證人、鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第百三十三條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル特許出願中ノ發明又ハ特許出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條　本法ニ於テ準用スル民事訴訟法第四百二十條ノ規定ハ再審ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第百三十五條　特許權ニ關スル訴ニ付テハ東京地方裁判所ノ專屬管轄トス

第百三十六條　第四十九條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第百三十七條　第八十二條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第百三十八條　第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第九十八條、第九十九條及第百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第百三十九條　查定又ハ審判ノ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ第百六條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決及第百十九條第一項ノ規定ニ依ル費用ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百四十條　第八十六條乃至第百一條及第百三條乃至第百八條ノ規定ハ抗告審判ニ付之ヲ準用ス但シ審判官ノ合議ハ三人又ハ五人ヲ以テ之ヲ爲シ第九十二條、第九十三條及第百一條ニ於テ當事者又ハ參加人トアルハ當事者、參加人又ハ特許異議申立人トス

第百四十條ノ二　不適法ナル審判ノ請求ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ被請求人ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘスシテ抗告審判ノ審決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第百四十條ノ三　抗告審判ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第百四十條ノ四　抗告審判ヲ請求スル權利ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ拋棄スルコトヲ得

抗告審判ヲ請求シタル後抗告審判請求權ヲ拋棄シタルトキハ抗告審判ノ請求ニ付テモ之ヲ取下ケタルモノト看做ス

第百四十一條　抗告審判ニ於テハ審判請求ノ理由ヲ變更シ又ハ新ナル事實若ハ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第百四十一條ノ二　審查又ハ審判ニ於テ爲シタル手續ハ抗告審判ニ於テモ其ノ效力ヲ有スル

第百四十二條　審判ニ關スル費用ノ額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第百四十三條　第八十二條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第百四十四條　第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第九十八條、第九十九條及第百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第百四十五條　查定又ハ審判ノ審決ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百四十六條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百四十七條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ノ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

第百四十八條　利害關係人ハ審理ノ終結ニ至ル迄其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

第百四十九條　參加ノ申請ハ參加申請書ヲ提出スルコトヲ得

參加ノ申請アリタルトキハ審判ニ依リ其ノ許可又ハ不許ノ決定ヲ爲スヘシ

第百五十條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百五十一條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ノ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

第百五十二條　利害關係人ハ審理ノ終結ニ至ル迄其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

第百五十三條　參加ノ申請ハ參加申請書ヲ提出スルコトヲ得

參加ノ申請アリタルトキハ審判ニ依リ其ノ許可又ハ不許ノ決定ヲ爲スヘシ

第百五十四條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百五十五條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ノ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第百五十六條　第四十九條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第百五十七條　第八十二條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第百五十八條　第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第九十八條、第九十九條及第百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第百五十九條　查定又ハ審判ノ審決ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百六十條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百六十一條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ノ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第百六十二條　利害關係人ハ審理ノ終結ニ至ル迄其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

第百六十三條　參加ノ申請ハ參加申請書ヲ提出スルコトヲ得

參加ノ申請アリタルトキハ審判ニ依リ其ノ許可又ハ不許ノ決定ヲ爲スヘシ

第百六十四條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百六十五條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ノ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第百六十六條　第四十九條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第百六十七條　第八十二條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第百六十八條　第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第九十八條、第九十九條及第百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第百六十九條　查定又ハ審判ノ審決ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

訴スルコトヲ得

第百十七條　特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ審判決ノ登錄アリタルトキ何人ト雖同一事實及同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコト

第百十八條　審判又ハ抗告審判ニ於テ必要アルトキハ民事又ハ刑事ノ訴訟手續ノ完結ニ至ル迄其ノ手續ヲ中止スルコトヲ得

民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許ニ關シ審決ノ確定又ハ審判ニ抗告ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第百十九條　審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ負擔ハ職權ニ依リ別段ノ裁定アル場合ヲ除クノ外其ノ事件ノ審決ヲ以テ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ事情ニ依リ其ノ額ヲ亦之ヲ定ムルコトヲ得

審決、審判又ハ決定ヲ以テ審判、抗告審判又ハ出訴ニ關スル費用ノ負擔ノミヲ定メタルトキハ其ノ額ハ請求ニ依リ特許局長官之ヲ決定ス

費用ノ負擔及額ニ關シテハ動令ヲ以テ之ヲ定ム

第百二十條　審判、抗告審判又ハ抗告審判ニ於テハ費用ノ額ノ決定效本法ニ規定スル補償金額ノ確定ノ決定及審決ハ强制執行ニ關シテハ民事訴訟法第五百五十九條第一號ノ規定ニ依ル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局官吏之ヲ付與ス

第六章　再審

第百二十一條　左ニ揭ケル審判若ハ抗告審判又ハ出訴ニ付爲シタル確定審決又ハ判決ニ對シテハ再審ノ請求ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

一　特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力、特許權ノ範圍又ハ實施權ノ取得ニ關スル審判

二　前號ノ審判ノ審決ニ對スル抗告審判

三　前號ノ抗告審判ノ審決ニ對スル出訴

民事訴訟法第四百二十條ノ規定ハ再審ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第百二十二條　再審ハ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヨリ三十日以內ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

審決ノ確定又ハ判決ノ前ニ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ前項ニ規定スル期間ハ審決確定シ又ハ審判決アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審判、抗告審判又ハ出訴ノ手續ニ於テ當事者カ法律ノ代理セラレサリシコトヲ理由トシテ再審ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ニ規定スル期間ハ當事者又ハ其ノ法律上代理人カ送達ニ依リ審決又ハ判決アリタルコトヲ知リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ再審ヲ請求スルコトヲ得ス

不服ノ理由カ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニ生シタルトキハ前項ニ規定スル期間ハ其ノ理由發生シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項及第四項ノ規定ハ不服ノ申立アル審決又ハ判決カ前ニ爲サレタル確定審決又ハ判決ト低觸スルコトヲ理由トスル再審ノ請求ニ付之ヲ適用セス

第百二十三條　審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ノ請求及其ノ後ノ手續ニ付テハ本章ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外各其ノ審級ノ手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第百二十四條　第二條及第四百二十一條、第四百二十二條及第四百二十六條乃至第四百二十八條ノ規定ハ審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ニ關シ之ヲ準用ス

第百二十五條　左ニ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特許權ノ效力ヲ害スル確定審決又ハ審判ニ對シテハ再審ノ請求ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

一　特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ審判ノ登錄アリタルトキ何人ト雖同一事實及同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコト

第百二十六條　前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ審決確定シ又ハ審判ニ於テ必要アルトキハ民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許ニ關シ審決ノ確定又ハ審判ニ抗告ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第百二十七條　實施權ノ取得ノ審決確定シ又ハ審判決アリタル後再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ審判決アリタル場合ニ於テ再審請求ノ登錄前善意ニシテ帝國內ニ於テ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付原實施權ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十八條第三項及第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十八條　第三者カ請求人及被請求人ノ共謀ニ依リ其ノ第三者ノ權利又ハ利益ヲ詐害スル目的ヲ以テ審決又ハ審判決ヲ爲サシメタルコトヲ理由トシテ再審ノ請求アリタルトキハ其ノ審級ノ手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第百二十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　特許權ヲ侵害シタル者

二　許特權ヲ侵害スヘキ物ヲ輸入又ハ移入シタル者

三　特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル權利ヲ特許前ニ侵害シタル者

四　特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル權利ヲ侵害スヘキ物ヲ特許前ニ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第百三十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　許否ノ行爲ヲ以テ特許ヲ受ケ又ハ審決又ハ審判ノ確定シタル特許權ニ付其ノ特許權ノ範圍ニ在ラス

二　特許ニ係ラサル物又ハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三　特許ニ係ラサル物又ハ其ノ物又ハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

四　特許ニ係ラサル物又ハ特許ニ係ラサル方法ニ依リ製作シタル物ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ル旨ヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

五　特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ル旨ヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第百三十一條　前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特許權ヲ侵害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十二條　法律ニ依リ官署シタル證人、鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第百三十三條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル特許出願中ノ發明又ハ特許出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條　本法ニ於テ準用スル民事訴訟法第四百二十條ノ規定ハ再審ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第百三十五條　特許權ニ關スル訴ニ付テハ東京地方裁判所ノ專屬管轄トス

第百三十六條　第四十九條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第百三十七條　第八十二條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第百三十八條　第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第九十八條、第九十九條及第百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第百三十九條　查定又ハ審判ノ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ第百六條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決及第百十九條第一項ノ規定ニ依ル費用ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百四十條　第八十六條乃至第百一條及第百三條乃至第百八條ノ規定ハ抗告審判ニ付之ヲ準用ス但シ審判官ノ合議ハ三人又ハ五人ヲ以テ之ヲ爲シ第九十二條、第九十三條及第百一條ニ於テ當事者又ハ參加人トアルハ當事者、參加人又ハ特許異議申立人トス

第百四十條ノ二　不適法ナル審判ノ請求ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ被請求人ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘスシテ抗告審判ノ審決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第百四十條ノ三　抗告審判ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第百四十條ノ四　抗告審判ヲ請求スル權利ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ拋棄スルコトヲ得

抗告審判ヲ請求シタル後抗告審判請求權ヲ拋棄シタルトキハ抗告審判ノ請求ニ付テモ之ヲ取下ケタルモノト看做ス

第百四十一條　抗告審判ニ於テハ審判請求ノ理由ヲ變更シ又ハ新ナル事實若ハ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第百四十一條ノ二　審查又ハ審判ニ於テ爲シタル手續ハ抗告審判ニ於テモ其ノ效力ヲ有スル

第百四十二條　審判ニ關スル費用ノ額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第百四十三條　第八十二條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第百四十四條　第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第九十八條、第九十九條及第百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第百四十五條　查定又ハ審判ノ審決ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百四十六條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百四十七條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ノ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第百四十八條　利害關係人ハ審理ノ終結ニ至ル迄其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

第百四十九條　參加ノ申請ハ參加申請書ヲ提出スルコトヲ得

參加ノ申請アリタルトキハ審判ニ依リ其ノ許可又ハ不許ノ決定ヲ爲スヘシ

第百五十條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百五十一條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ノ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第百五十二條　利害關係人ハ審理ノ終結ニ至ル迄其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

第百五十三條　參加ノ申請ハ參加申請書ヲ提出スルコトヲ得

參加ノ申請アリタルトキハ審判ニ依リ其ノ許可又ハ不許ノ決定ヲ爲スヘシ

第百五十四條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百五十五條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ノ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第百五十六條　第四十九條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第百五十七條　第八十二條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第百五十八條　第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第九十八條、第九十九條及第百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第百五十九條　查定又ハ審判ノ審決ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百六十條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百六十一條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ノ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第百六十二條　利害關係人ハ審理ノ終結ニ至ル迄其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

第百六十三條　參加ノ申請ハ參加申請書ヲ提出スルコトヲ得

參加ノ申請アリタルトキハ審判ニ依リ其ノ許可又ハ不許ノ決定ヲ爲スヘシ

第百六十四條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ決定アル迄審判手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百六十五條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ノ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ代ヘ書面ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得

第百六十六條　第四十九條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第百六十七條　第八十二條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第百六十八條　第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第九十八條、第九十九條及第百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第百六十九條　查定又ハ審判ノ審決ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

訴訟法第二百六十七條第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虚僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第百三十四條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第百三十四條ノ二　特許局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第百三十四條ノ三　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第百三十五條　辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ特許ニ關シ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第百三十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百三十七條　舊法ニ依ル特許、特許權ノ改訂又ハ分割ノ許可、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ特許ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第百三十八條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ其ノ出願ニ係ル發明カ本法ニ依ル特許出願ニ係ル發明ニ牴觸スルトキハ其ノ發明者ハ之ヲ先ニ發明ヲ爲シタル者ト看做ス

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル補償金額ニ對スル不服申立ノ期間ニ付亦同シ

第百三十九條　特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者ノ發明ヲ本法施行前第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ二年以內ニシテ本法施行ノ日ヨリ六月以內ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ本法施行前第四條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

第百四十條　舊法ニ依ル使用權ハ第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ト看做ス

第百四十一條　本法施行前發生シタル特許權ニ關シテハ舊法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第百四十二條　特許カ舊法施行中無效ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第三十五條乃至第三十七條ノ規定及同法第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十三條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

特許カ舊法施行前無效ト爲リタル場合ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セス

第百四十三條　舊法施行前發生シタル實施權ニ關シテハ第五十一條第二項ノ規定ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第百四十四條　舊法ニ依ル特許權ノ存續期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ヲ經過シタル特許料及追加特許料ニ付亦前項ニ同シ

第百四十五條　特許料又ハ追加特許料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ特許又ハ追加特許ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ特許料又ハ追加特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル特許料又ハ追加特許料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ特許料又ハ追加特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間內ニ特許料又ハ追加特許料ヲ追納セサルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ特許權又ハ追加特許權ハ消滅シタルモノト看做ス

第百四十六條　舊法ニ依ル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ニ關シテハ本法施行後ニ特許又ハ許可アリタル場合ト雖舊法第四十九條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍內ニ於テ同條ニ揭クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ特許又ハ許可カ同條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第百四十七條　前條ノ規定ニ依ル無效ノ審判ハ本法施行前登錄セラレタル特許又ハ許可ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

附　則（昭和四年四月法律第四十七號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年九月勅令第二百八十九號ヲ以テ昭和四年十月一日ヨリ施行）

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル效力ヲ妨ケス

第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同條ニ揭クル事由ヲ生シタル委任代理ニシテ本法施行前代理權消滅ノ登錄ヲ受ケサリシモノ又ハ其ノ屆出ヲ爲ササリシモノニモ之ヲ適用ス

本法施行前抗告事件ニ付決定ヲ受ケタル者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシテ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前從前ノ規定ニ依リ過料ニ處スヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限リ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

●特許法等改正法律施行期日

大正十年十二月
勅令第四百五十九號

朕大正十年法律第九十六號特許法改正法律、同年法律第九十七號實用新案法改正法律、同年法律第九十八號意匠法改正法律、同年法律第九十九號商標法改正法律及辨理士法ノ施行期日ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

大正十年法律第九十六號、同年法律第九十七號、同年法律第九十八號、同年法律第九十九號及辨理士法ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

●特許法施行令

大正十年十二月
勅令第四百六十號
改正　昭和四年九第二九〇號

朕特許法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

特許法施行令

第一章　軍事上祕密ヲ要スル發明

第一條　主務大臣カ軍事上祕密ヲ要スト認メタル發明ニ付特許ノ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ發明ノ明細書及圖面其ノ他祕密ヲ要スル物件ヲ密封シ封印シテ特許局長官ニ之ヲ差出スヘシ

特許權者カ軍事上祕密ヲ要スル特許發明ニ付特許法第五十三條ノ許可ノ審判ノ請求ヲ爲ス場合亦前項ニ同シ

第二條　特許局長官ハ前條第一項ノ規定ニ依ラサル特許ノ出願アリタル場合ニ於テ其ノ發明カ軍事上祕密ヲ要スルモノト認メタルトキハ遲滯ナク之ヲ主務大臣ニ移牒シ意見ヲ求ムヘシ

第三條　第一條ノ出願又ハ請求アリタルトキハ特許局長官ハ特ニ審査官又ハ審判官一人ヲ指定シ之ヲ審査又ハ審判セシム

特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ許可スヘシトノ審決確定シタルトキハ特許局長官ハ出願又ハ請求ニ係ル書類及物件ヲ密封シ之ニ封印スヘシ

拒絕ノ査定若ハ審決確定シ又ハ許可セストノ審決確定シタルトキハ特許局長官ハ出願又ハ請求ニ係ル書類及物件ヲ密封シ封印シテ主務大臣ニ之ヲ交付スヘシ

第四條　前條ノ規定ハ第一條第一項ノ規定ニ依ラサル特許ノ出願アリタル場合ニ於テ其ノ發明カ軍事上祕密ヲ要スル爲主務大臣ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五條　第三條第二項ノ規定又ハ前條ニ依リ準用スル同項ノ規定ニ依リ密封シタル書類及物件ハ主務大臣ノ請求又ハ承諾アリタル場合ヲ除クノ外之ヲ開封スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ開封シタル書類及物件ハ特許局長官更ニ之ヲ密封シ封印スヘシ

第六條　主務大臣ハ前條第一項ニ規定スル書類及物件ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル書類及物件ハ主務大臣更ニ密封シ封印シテ之ヲ還付スヘシ

第七條　軍事上祕密ヲ要スル特許發明ニ對スル審判又ハ抗告審判ノ請求ハ主務大臣密封シタル書類及物件ノ開封ヲ承諾シタル場合ニ限リ之ヲ受理スルコトヲ得

前項ノ審判又ハ抗告審判ノ審決ニハ理由ヲ附セス

第八條　軍事上祕密ヲ要スル特許發明ニ關スル審判又ハ抗告審判ノ口頭審理ハ之ヲ公開セス

第九條　軍事上祕密ヲ要スル特許發明カ祕密ニスルノ必要ナキニ至リタルトキハ主務大臣ハ其ノ旨ヲ特許局長官ニ通知スヘシ

前項ノ通知アリタルトキハ特許局長官ハ其ノ特許發明ヲ特許公報及特許發明明細書ニ記載スヘシ

第二章　特許權ノ存續期間ノ延長

第十條　重要ナル發明ノ特許權者カ正當ノ事由ニ依リ其ノ特許權ノ存續期間內ニ其ノ發明ヨリ生スヘキ相當ノ利益ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ存續期間ノ延長ヲ出願スルコトヲ得

第十一條　存續期間ノ延長ヲ出願スル者ハ存續期間滿了ノ日前六月乃至一年內ニ願書ニ特許發明ノ重要ナル事由、其ノ發明ノ實施ノ狀況、其ノ發明ニ關スル收支計算及相當ノ利益ヲ得サリシ事由ヲ詳記シタル書面ヲ添附シ特許局長官ヲ經由シテ之ヲ商工大臣ニ差出スヘシ

願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ出願人記名捺印スヘシ

一　特許番號及發明ノ名稱
二　出願人ノ氏名名稱及住所
三　延長ノ期間

第十二條　特許局長官ハ意見書ヲ作リ之ヲ前條ノ願書ニ添ヘ商工大臣ニ差出スヘシ

第十三條　存續期間延長ノ出願ニ付テハ商工大臣ハ五人又ハ七人ノ審査委員ヲ命シ之ヲ審査セシムヘシ

第十四條　前條ノ審査ヲ終リタルトキハ商工大臣ハ出願ノ許否ヲ決定スヘシ

決定ニハ理由ヲ附スヘシ

商工大臣ハ決定ヲ爲シタルトキハ決定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十五條　商工大臣ハ出願ニ係ル期間ヲ短縮シ又ハ制限ヲ附シテ出願ヲ許可スルコトヲ得

第十六條　軍事上祕密ヲ要スル發明ニ係ル特許權ニシテ國ニ屬スルモノニ付主務大臣カ其ノ存續期間ノ延長ヲ出願シタルトキハ商工大臣ハ前六條ノ規定ニ拘ラス其ノ出願ヲ許可スヘシ

軍事上祕密ヲ要スル發明ニ係ル特許權ニシテ國ニ屬セサルモノニ付存續期間延長ノ出願アリタル場合ニ於テ主務大臣カ其ノ延長ヲ必要ト認メタルトキ亦前項ニ同シ

第十七條　存續期間延長ノ許可アリタルトキハ特許局長官ハ之ヲ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付スヘシ

第三章　審判其ノ他ノ手續ニ關スル費用

第十八條　民事訴訟法第八十九條乃至第九十六條、第九十八條第一項第二項、第九十九條、第百一條、第百二條及第百四條ノ規定ハ特許法第百十五條第二項ノ規定ニ依ルヘキ場合ヲ除キ審判及抗告審判ノ費用竝ニ出訴ノ費用ニ關スル各當事者、參加人及參加申請人ノ負擔及其ノ額ニ付之ヲ準用ス但シ民事訴訟法第百四條第二項ノ規定ニ依リ準用スル同法第百條第二項及第三項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　特許異議、特許法第五十三條ノ許可ニ付テノ許可異議又ハ此等ノ異議ノ參加ニ關シ生シタル證據調ノ費用ノ負擔ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二十條　前二條ノ費用ノ額ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第二十一條　第十八條及前條ノ規定ハ再審ノ費用ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第二百七十九號、明治四十二年勅令第二百九十八號、同年勅令第二百九十九號及同年勅令第三百一號ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和四年九月勅令第二百九十號）

本令ハ昭和四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●特許法施行規則

大正十年十二月
農商務省令第三十三號
改正　大正一一年一二第三〇號、昭和四年九
商工省令第六號

特許法施行規則左ノ通定ム

特許法施行規則

第一章　總則

第一條　特許局ニ對シテ爲ス出願、請求其ノ他ノ手續ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

書面ハ一件每ニ一通ヲ作リ之ニ差出人ノ住所又ハ居所及差出ノ年月日ヲ記載シ差出人記名捺印スヘシ

第二條　書面ハ日本語ヲ以テ之ヲ認ムヘシ

委任狀、國籍證明書其ノ他ノ書類ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモノニハ其ノ譯文ヲ添附スヘシ

第三條　特許局ニ書面ヲ差出ス者ハ相手方ニ送付スル爲必要ナル員數ノ副本ヲ差出スヘシ但シ相手方數人アル場合ニ於テ特許法第二十一條第一項但書ノ代表者アルトキハ其ノ代表者ノ數ニ應スル副本ヲ差出スヲ以テ足ル

第四條　特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ承繼人タルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第四條ノ二　出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者カ其ノ手續ヲ爲スニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第五條　代理人カ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第六條　特許法第十七條又ハ第二十一條第二項ニ規定スル居出ヲ爲ス者ハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第七條　外國人カ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ國籍ヲ證スル書面及萬國工業所有權保護同盟條約國又ハ帝國ト特許ニ關シ相互保護ヲ約セシ國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ナル場合ニ在リテハ尙同盟國中ノ一國ノ版圖內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所ヲ有スルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

前項ノ外國人カ法人ナルトキハ其ノ法人タルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第八條　前五條ノ規定ニ依リ差出スヘキ證明書ハ同時ニ數箇ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ一ノ手續ニ付之ヲ差出シ其ノ他ノ手續ニ付テハ其ノ旨ヲ表示シテ其ノ差出ヲ省略スルコトヲ得

第九條　他ノ事件ニ付特許局ニ對シ既ニ證明書ヲ差出シタル者ハ前六條ノ場合ニ於テ其ノ事項ニ變更ナキトキハ其ノ謄本ヲ以テ證明書ニ代フルコトヲ得但シ特許局長官必要ト認ムルトキハ證明書ノ差出ヲ命スルコトヲ得

第十條　特許局ニ對シ特許權又ハ特許出願後其ノ出願ニ關シ書類其ノ他ノ物件ヲ差出ス者ハ之ニ其ノ特許番號又ハ願書番號及發明ノ名稱ヲ表示シ審判、抗告審判又ハ再審ノ請求後其ノ請求ニ關シ書類其ノ他ノ物件ヲ差出ス者ハ之ニ審判番號又ハ抗告審判番號ヲ表示スヘシ

第十一條　特許局ニ對シテ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續カ特許法若ハ本則ニ定メタル方式ニ違背シタル場合、其ノ手續ニ付代理權ヲ證スル書面ヲ差出サス若ハ成規ノ手數料ヲ納付セサル場合又ハ特許局ニ差出シ

タル書類、雛形若ハ見本カ不明瞭若ハ不完備ナル場合ニ於テハ特許局長官ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外期間ヲ指定シテ其ノ訂正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ要旨ヲ變更スルモノハ此ノ限ニ在ラス

出願公告ノ決定アリタル後ニ於テハ出願人ハ特許法第七十五條第五項ノ命令ニ依ル場合ヲ除クノ外出願ニ關スル書類、雛形又ハ見本ヲ訂正シ又ハ補充スルコトヲ得ス

第十二條　前條ノ規定ノ適用ニ關シテハ獨立ノ特許出願ヲ追加ノ特許出願ヲ獨立ノ特許出願ニ變更シ又ハ明細書ニ記載シタル事項ノ範圍内ニ於テ特許請求ノ範圍ヲ增減變更スルハ其ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス

第十三條　審査、審判、抗告審判又ハ再審ニ關シ審判長又ハ審査官必要ト認ムルトキハ當事者、特許異議申立人又ハ參加人ニ對シ期間ヲ指定シテ雛形又ハ見本ノ差出ヲ命スルコトヲ得

第十四條　特許局ニ差出シタル雛形又ハ見本ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ差出ノ際其ノ旨ヲ申出ツヘシ

前項ノ雛形若ハ見本又ハ特許局ニ差出シタル證據物件ハ特許局ヨリ還付ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ其ノ受取ノ手續ヲ爲スヘシ

差出人カ第二項ノ申出又ハ前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ特許局長官ハ其ノ雛形若ハ見本又ハ證據物件ヲ處分スルコトヲ得

第十五條　特許局長官、審判長又ハ審査官ハ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許法又ハ本則ニ依リ其ノ指定シタル期日又ハ期間ヲ變更スルコトヲ得

第十六條　特許法第二十四條第二項ニ規定スル請求ヲ爲ス者ニ交付スヘキ旨ヲ官報及特許公報ニ公告シ且特許局ノ掲示板ニ掲示シ公示送達ニ依ルヘキ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ受繼アリタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第三十三條　中斷又ハ中止シタル出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ手續ヲ受繼クヘキ者カ其ノ受繼ヲ怠リタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ期間ヲ指定シテ受繼ヲ命スヘシ

前項ノ期間内ニ受繼ナキトキハ特許局長官又ハ審判長ハ期間滿了ノ日ニ於テ其ノ受繼アリタルモノト看做スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ各當事者ニ通知スヘシ

第三十四條　書類ノ謄本ニハ其ノ末尾ニ原本ト相違ナキコトヲ認證スル旨ヲ記載シ特許局官吏之ニ記名捺印スヘシ

書類ノ謄本ノ交付ヲ申請スル者カ其ノ書類ヲ差出シタルトキハ之ヲ用ヰテ謄本ヲ作成スルコトヲ得

第三十六條　特許局長官必要ト認ムルトキハ特許權者又ハ特許法第四十一條ノ規定ニ依ル實施權者ニ對シ特許發明實施ノ狀況ノ報告ヲ命スルコトヲ得

第三十六條ノ二　關東州内ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ハ帝國内ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ラシテ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ且特許權及特許ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得

第二十二條ノ規定ハ關東州内ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ニ對シテ爲ス送達ニ付之ヲ適用セス

第二章　出願

第三十七條　特許ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ明細書及必要ナル圖面ヲ添ヘ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ書類及圖面ニハ各其ノ副本一通ヲ添附スヘシ獨逸差出スヘキ書類及圖面ニ付亦同シ

出願人發明者ニ非サル場合ニ於テハ願書ニ發明者ノ氏名及住所ヲモ記載スヘシ

第三十七條ノ二　出願人カ特許ヲ受クルノ權利ノ信託ヲ受ケタル者ナル場合ニ於テハ願書ニ倘特許登錄令第六十條第一項ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ信託ノ受託者カ出願人名義變更届ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　發明ノ名稱
二　發明ノ性質及目的ノ要領
三　圖面ノ略解
四　發明ノ詳細ナル說明
五　發明相互ノ關係
六　特許請求ノ範圍

發明ノ名稱ハ其ノ發明ノ內容ヲ簡明ニ表示スヘシ

發明ノ性質及目的ノ要領ニハ其ノ發明ノ特徵及直接ノ效果ヲ簡明ニ記載スヘシ

發明ノ詳細ナル說明ニハ其ノ發明ノ構成、作用、效果及實施ノ態樣ヲ記載スヘシ

發明相互ノ關係ニハ追加ノ特許出願ニ在リテハ其ノ原發明ノ改良又ハ擴張ノ態樣ヲ、他ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル發明ノ特許出願ニ在リテハ其ノ實施ノ態樣ヲ、特許法第七條但書ノ規定ニ依リ特許出願ニ在リテハ特許請求ノ範圍ニ付發明ノ牽連スル態樣ヲ記載スヘシ

特許請求ノ範圍ニハ發明ノ構成ニ缺クヘカラサル事項ヲ記載スヘシ

第三十九條　數人共同シテ特許ヲ出願シ又ハ特許法第十二條第三項ニ規定スル名義變更ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ出願人又ハ届出人ノ權利ニ付持分ノ定アルトキ、特許法第四十四條第二項ノ同意アルトキ又ハ同法第四十七條若ハ民法第二百五十六條第一項但書ニ依ル請求ヲ爲ス者ニ交付スヘキ旨ヲ官報及特許公報ニ公告シ且特許局ノ掲示板ニ掲示シ公示送達ニ依ルヘキ旨ヲ通知スヘシ

第十七條　特許願書又ハ差出スヘキ期日若ハ期間ノ定アル書類若ハ物件ノ郵便ニ依ル差出ハ郵便物受領證ニ依リテ差出シタル日時ヲ證シタル場合ニ在リテハ其ノ日時ニ於テ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ消印記號ニ記載シタル日時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ郵便物ニシテ郵便物受領證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證スルコト能ハサルモノ又ハ消印記號ナキカ若ハ其ノ不明ナルモノハ特許局カ之ヲ受領シタル日時ニ於テ差出ノ效力ヲ生ス

第十八條　前條ノ郵便物ヲ除クノ外書類又ハ物件ノ差出ハ特許局カ之ヲ受領シタル日時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第十九條　審査、審判、抗告審判又ハ再審ニ關スル書類ニシテ法令ニ送達スヘシトノ規定アルモノ、期日若ハ期間ヲ指定セルモノ又ハ送達ニ依リ期間ノ進行ヲ始ムルモノハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郵便ニ依リ又ハ特許局ノ使ヲシテ之ヲ送達ス

民事訴訟法第百六十五條乃至第百六十八條及第百七十六條ノ規定ハ送達ニ付之ヲ準用ス

第二十條　郵便ニ依リ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ遞信省令、朝鮮總督府令、臺灣總督府令、關東廳令又ハ樺太廳令ノ定ムル特別ノ手續ニ依ル但シ審査ニ關スル書類ニ付テハ書留郵便ニ依ルコトヲ得

特許局ノ使ヲシテ以テ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ民事訴訟法第百六十九條、第百七十一條及第百七十七條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スヘキ場所ノ知レサル場合又ハ前條ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公示送達ニ依ルヘキ旨ヲ通知スヘシ

公示送達ハ送達スヘキ書類ヲ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ官報及特許公報ニ公告シ且特許局ノ掲示板ニ掲示シ公示送達ハ官報公告ノ日ヨリ二十日ヲ經過スルニ依リテ其ノ效力ヲ生ス

同一事件ニ付同一人ニ對シテ爲ス公示送達ニ付テハ官報及特許公報ノ公告ハ之ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許局ノ掲示板ニ掲示シタル日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第二十二條　特許法第十六條ニ規定スル代理人ノ存セサル場合ニ於テ帝國内ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル場合ニ對シテ爲ス送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郵便ニ付シタル日ニ於テ送達アリタルモノト看做ス

第二十三條　特許局長官又ハ審判長特許法第二十八條ノ規定ニ依リ承繼人ニ對シ手續ヲ續行セムトスルトキハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第二十四條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ死亡シタルトキハ相續人、相續財産管理人其ノ他法令ニ依リ手續ヲ續行スヘキ者カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ル間ハ手續ヲ受繼クコトヲ得ス

第二十四條ノ二　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權若ハ之ニ關スル權利カ破產財團ニ屬スルトキハ其ノ手續ハ破產管財人カ之ヲ受繼キ又ハ破產手續ノ解止アルマテ之ヲ中斷ス

第二十五條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ再審ノ當事者タル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

第二十六條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ能力ヲ失ヒ又ハ法定代理人カ死亡シ若ハ其ノ代理權カ消滅シタルトキハ法定代理人又ハ本人カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

第二十六條ノ二　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者タル受託者ノ信託ノ任務終了シタルトキハ新受託者カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

第二十六條ノ三　一定ノ資格ヲ有スル者カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ同一ノ資格ヲ有スル者カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス當事者死亡シタル場合亦同シ

第二十七條　第二十四條第一項、第二十四條ノ二及前三條ノ規定ハ委任ニ因ル代理人ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　削除

第二十九條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ委任ニ因ル代理人カ死亡シ又ハ能力ヲ失ヒタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ本人又ハ代理人カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中止スルコトヲ得

第三十條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ事者カ不定期間ノ障礙ニ因リ手續ヲ續行スルコト能ハサルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ障礙ノ止ムマテ其ノ手續ヲ中止スルコトヲ得

第三十條ノ二　前二條ノ規定ニ依リ手續ヲ中止シタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ其ノ旨ヲ各當事者ニ通知スヘシ

第三十一條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ手續ノ中斷及中止ハ期間ノ進行ヲ止メ及中斷又ハ中止ノ終リタル後更ニ全期間ノ進行ヲ始ムル效力ヲ有ス

特許局長官、審判長又ハ審査官ハ中斷及中止ノ間其ノ事件ニ關スル手續ヲ續行スルコトヲ得ス

第三十二條　中斷又ハ中止シタル出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ手續ノ受繼ハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ特許局ニ差出シテ之ヲ爲

スヘシ

前項ノ受繼アリタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第三十三條　中斷又ハ中止シタル出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ手續ヲ受繼クヘキ者カ其ノ受繼ヲ怠リタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ期間ヲ指定シテ受繼ヲ命スヘシ

前項ノ期間内ニ受繼ナキトキハ特許局長官又ハ審判長ハ期間滿了ノ日ニ於テ其ノ受繼アリタルモノト看做スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ各當事者ニ通知スヘシ

第三十四條　書類ノ謄本ニハ其ノ末尾ニ原本ト相違ナキコトヲ認證スル旨ヲ記載シ特許局官吏之ニ記名捺印スヘシ

書類ノ謄本ノ交付ヲ申請スル者カ其ノ書類ヲ差出シタルトキハ之ヲ用ヰテ謄本ヲ作成スルコトヲ得

第三十六條　特許局長官必要ト認ムルトキハ特許權者又ハ特許法第四十一條ノ規定ニ依ル實施權者ニ對シ特許發明實施ノ狀況ノ報告ヲ命スルコトヲ得

第三十六條ノ二　關東州内ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ハ帝國内ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ラシテ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ且特許權及特許ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得

第二十二條ノ規定ハ關東州内ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ニ對シテ爲ス送達ニ付之ヲ適用セス

第二章　出願

第三十七條　特許ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ明細書及必要ナル圖面ヲ添ヘ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ書類及圖面ニハ各其ノ副本一通ヲ添附スヘシ獨逸差出スヘキ書類及圖面ニ付亦同シ

出願人發明者ニ非サル場合ニ於テハ願書ニ發明者ノ氏名及住所ヲモ記載スヘシ

第三十七條ノ二　出願人カ特許ヲ受クルノ權利ノ信託ヲ受ケタル者ナル場合ニ於テハ願書ニ倘特許登錄令第六十條第一項ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ信託ノ受託者カ出願人名義變更届ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　發明ノ名稱
二　發明ノ性質及目的ノ要領
三　圖面ノ略解
四　發明ノ詳細ナル說明
五　發明相互ノ關係
六　特許請求ノ範圍

發明ノ名稱ハ其ノ發明ノ內容ヲ簡明ニ表示スヘシ

發明ノ性質及目的ノ要領ニハ其ノ發明ノ特徵及直接ノ效果ヲ簡明ニ記載スヘシ

發明ノ詳細ナル說明ニハ其ノ發明ノ構成、作用、效果及實施ノ態樣ヲ記載スヘシ

發明相互ノ關係ニハ追加ノ特許出願ニ在リテハ其ノ原發明ノ改良又ハ擴張ノ態樣ヲ、他ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル發明ノ特許出願ニ在リテハ其ノ實施ノ態樣ヲ、特許法第七條但書ノ規定ニ依リ特許出願ニ在リテハ特許請求ノ範圍ニ付發明ノ牽連スル態樣ヲ記載スヘシ

特許請求ノ範圍ニハ發明ノ構成ニ缺クヘカラサル事項ヲ記載スヘシ

第三十九條　數人共同シテ特許ヲ出願シ又ハ特許法第十二條第三項ニ規定スル名義變更ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ出願人又ハ届出人ノ權利ニ付持分ノ定アルトキ、特許法第四十四條第二項ノ同意アルトキ又ハ同法第四十七條若ハ民法第二百五十六條第一項但書ニ依ル請求ヲ爲ス者ニ交付スヘキ旨ヲ官報及特許公報ニ公告シ且特許局ノ掲示板ニ掲示シ公示送達ニ依ルヘキ旨ヲ通知スヘシ

第十七條　特許願書又ハ差出スヘキ期日若ハ期間ノ定アル書類若ハ物件ノ郵便ニ依ル差出ハ郵便物受領證ニ依リテ差出シタル日時ヲ證シタル場合ニ在リテハ其ノ日時ニ於テ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ消印記號ニ記載シタル日時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ郵便物ニシテ郵便物受領證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證スルコト能ハサルモノ又ハ消印記號ナキカ若ハ其ノ不明ナルモノハ特許局カ之ヲ受領シタル日時ニ於テ差出ノ效力ヲ生ス

第十八條　前條ノ郵便物ヲ除クノ外書類又ハ物件ノ差出ハ特許局カ之ヲ受領シタル日時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第十九條　審査、審判、抗告審判又ハ再審ニ關スル書類ニシテ法令ニ送達スヘシトノ規定アルモノ、期日若ハ期間ヲ指定セルモノ又ハ送達ニ依リ期間ノ進行ヲ始ムルモノハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郵便ニ依リ又ハ特許局ノ使ヲシテ之ヲ送達ス

民事訴訟法第百六十五條乃至第百六十八條及第百七十六條ノ規定ハ送達ニ付之ヲ準用ス

第二十條　郵便ニ依リ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ遞信省令、朝鮮總督府令、臺灣總督府令、關東廳令又ハ樺太廳令ノ定ムル特別ノ手續ニ依ル但シ審査ニ關スル書類ニ付テハ書留郵便ニ依ルコトヲ得

特許局ノ使ヲシテ以テ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ民事訴訟法第百六十九條、第百七十一條及第百七十七條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スヘキ場所ノ知レサル場合又ハ前條ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公示送達ニ依ルヘキ旨ヲ通知スヘシ

公示送達ハ送達スヘキ書類ヲ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ官報及特許公報ニ公告シ且特許局ノ掲示板ニ掲示シ公示送達ハ官報公告ノ日ヨリ二十日ヲ經過スルニ依リテ其ノ效力ヲ生ス

同一事件ニ付同一人ニ對シテ爲ス公示送達ニ付テハ官報及特許公報ノ公告ハ之ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許局ノ掲示板ニ掲示シタル日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第二十二條　特許法第十六條ニ規定スル代理人ノ存セサル場合ニ於テ帝國内ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル場合ニ對シテ爲ス送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郵便ニ付シタル日ニ於テ送達アリタルモノト看做ス

第二十三條　特許局長官又ハ審判長特許法第二十八條ノ規定ニ依リ承繼人ニ對シ手續ヲ續行セムトスルトキハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第二十四條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ死亡シタルトキハ相續人、相續財産管理人其ノ他法令ニ依リ手續ヲ續行スヘキ者カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ル間ハ手續ヲ受繼クコトヲ得ス

第二十四條ノ二　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權若ハ之ニ關スル權利カ破產財團ニ屬スルトキハ其ノ手續ハ破產管財人カ之ヲ受繼キ又ハ破產手續ノ解止アルマテ之ヲ中斷ス

第二十五條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ再審ノ當事者タル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

第二十六條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ能力ヲ失ヒ又ハ法定代理人カ死亡シ若ハ其ノ代理權カ消滅シタルトキハ法定代理人又ハ本人カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

第二十六條ノ二　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者タル受託者ノ信託ノ任務終了シタルトキハ新受託者カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

第二十六條ノ三　一定ノ資格ヲ有スル者カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ同一ノ資格ヲ有スル者カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス當事者死亡シタル場合亦同シ

第二十七條　第二十四條第一項、第二十四條ノ二及前三條ノ規定ハ委任ニ因ル代理人ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　削除

第二十九條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ委任ニ因ル代理人カ死亡シ又ハ能力ヲ失ヒタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ本人又ハ代理人カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中止スルコトヲ得

第三十條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ事者カ不定期間ノ障礙ニ因リ手續ヲ續行スルコト能ハサルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ障礙ノ止ムマテ其ノ手續ヲ中止スルコトヲ得

第三十條ノ二　前二條ノ規定ニ依リ手續ヲ中止シタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ其ノ旨ヲ各當事者ニ通知スヘシ

第三十一條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ手續ノ中斷及中止ハ期間ノ進行ヲ止メ及中斷又ハ中止ノ終リタル後更ニ全期間ノ進行ヲ始ムル效力ヲ有ス

特許局長官、審判長又ハ審査官ハ中斷及中止ノ間其ノ事件ニ關スル手續ヲ續行スルコトヲ得ス

第三十二條　中斷又ハ中止シタル出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ手續ノ受繼ハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ特許局ニ差出シテ之ヲ爲

第三十三條ノ二　出願人カ特許ヲ受クルノ權利ノ信託ヲ受ケタル者ナル場合ニ於テハ願書ニ倘特許登錄令第六十條第一項ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ信託ノ受託者カ出願人名義變更届ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　發明ノ名稱
二　發明ノ性質及目的ノ要領
三　圖面ノ略解
四　發明ノ詳細ナル說明
五　發明相互ノ關係
六　特許請求ノ範圍

發明ノ名稱ハ其ノ發明ノ內容ヲ簡明ニ表示スヘシ

發明ノ性質及目的ノ要領ニハ其ノ發明ノ特徵及直接ノ效果ヲ簡明ニ記載スヘシ

發明ノ詳細ナル說明ニハ其ノ發明ノ構成、作用、效果及實施ノ態樣ヲ記載スヘシ

發明相互ノ關係ニハ追加ノ特許出願ニ在リテハ其ノ原發明ノ改良又ハ擴張ノ態樣ヲ、他ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル發明ノ特許出願ニ在リテハ其ノ實施ノ態樣ヲ、特許法第七條但書ノ規定ニ依リ特許出願ニ在リテハ特許請求ノ範圍ニ付發明ノ牽連スル態樣ヲ記載スヘシ

特許請求ノ範圍ニハ發明ノ構成ニ缺クヘカラサル事項ヲ記載スヘシ

第三十九條　數人共同シテ特許ヲ出願シ又ハ特許法第十二條第三項ニ規定スル名義變更ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ出願人又ハ届出人ノ權利ニ付持分ノ定アルトキ、特許法第四十四條第二項ノ同意アルトキ又ハ同法第四十七條若ハ民法第二百五十六條第一項但書ニ依ル請求ヲ爲ス者ニ交付スヘキ旨ヲ官報及特許公報ニ公告シ且特許局ノ掲示板ニ掲示シ公示送達ニ依ルヘキ旨ヲ通知スヘシ

第十七條　特許願書又ハ差出スヘキ期日若ハ期間ノ定アル書類若ハ物件ノ郵便ニ依ル差出ハ郵便物受領證ニ依リテ差出シタル日時ヲ證シタル場合ニ在リテハ其ノ日時ニ於テ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ消印記號ニ記載シタル日時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ郵便物ニシテ郵便物受領證ニ依リテ其ノ差出シタル日時ヲ證スルコト能ハサルモノ又ハ消印記號ナキカ若ハ其ノ不明ナルモノハ特許局カ之ヲ受領シタル日時ニ於テ差出ノ效力ヲ生ス

第十八條　前條ノ郵便物ヲ除クノ外書類又ハ物件ノ差出ハ特許局カ之ヲ受領シタル日時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第十九條　審査、審判、抗告審判又ハ再審ニ關スル書類ニシテ法令ニ送達スヘシトノ規定アルモノ、期日若ハ期間ヲ指定セルモノ又ハ送達ニ依リ期間ノ進行ヲ始ムルモノハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郵便ニ依リ又ハ特許局ノ使ヲシテ之ヲ送達ス

民事訴訟法第百六十五條乃至第百六十八條及第百七十六條ノ規定ハ送達ニ付之ヲ準用ス

第二十條　郵便ニ依リ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ遞信省令、朝鮮總督府令、臺灣總督府令、關東廳令又ハ樺太廳令ノ定ムル特別ノ手續ニ依ル但シ審査ニ關スル書類ニ付テハ書留郵便ニ依ルコトヲ得

特許局ノ使ヲシテ以テ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ民事訴訟法第百六十九條、第百七十一條及第百七十七條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スヘキ場所ノ知レサル場合又ハ前條ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公示送達ニ依ルヘキ旨ヲ通知スヘシ

公示送達ハ送達スヘキ書類ヲ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ官報及特許公報ニ公告シ且特許局ノ掲示板ニ掲示シ公示送達ハ官報公告ノ日ヨリ二十日ヲ經過スルニ依リテ其ノ效力ヲ生ス

同一事件ニ付同一人ニ對シテ爲ス公示送達ニ付テハ官報及特許公報ノ公告ハ之ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許局ノ掲示板ニ掲示シタル日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第二十二條　特許法第十六條ニ規定スル代理人ノ存セサル場合ニ於テ帝國内ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル場合ニ對シテ爲ス送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郵便ニ付シタル日ニ於テ送達アリタルモノト看做ス

第二十三條　特許局長官又ハ審判長特許法第二十八條ノ規定ニ依リ承繼人ニ對シ手續ヲ續行セムトスルトキハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第二十四條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ死亡シタルトキハ相續人、相續財産管理人其ノ他法令ニ依リ手續ヲ續行スヘキ者カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ル間ハ手續ヲ受繼クコトヲ得ス

第二十四條ノ二　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權若ハ之ニ關スル權利カ破產財團ニ屬スルトキハ其ノ手續ハ破產管財人カ之ヲ受繼キ又ハ破產手續ノ解止アルマテ之ヲ中斷ス

第二十五條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ再審ノ當事者タル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

第二十六條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者カ能力ヲ失ヒ又ハ法定代理人カ死亡シ若ハ其ノ代理權カ消滅シタルトキハ法定代理人又ハ本人カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

第二十六條ノ二　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者タル受託者ノ信託ノ任務終了シタルトキハ新受託者カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス

第二十六條ノ三　一定ノ資格ヲ有スル者カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ同一ノ資格ヲ有スル者カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中斷ス當事者死亡シタル場合亦同シ

第二十七條　第二十四條第一項、第二十四條ノ二及前三條ノ規定ハ委任ニ因ル代理人ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　削除

第二十九條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ委任ニ因ル代理人カ死亡シ又ハ能力ヲ失ヒタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ本人又ハ代理人カ其ノ手續ヲ受繼クマテノ之ヲ中止スルコトヲ得

第三十條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ事者カ不定期間ノ障礙ニ因リ手續ヲ續行スルコト能ハサルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ障礙ノ止ムマテ其ノ手續ヲ中止スルコトヲ得

第三十條ノ二　前二條ノ規定ニ依リ手續ヲ中止シタルトキハ特許局長官又ハ審判長ハ其ノ旨ヲ各當事者ニ通知スヘシ

第三十一條　出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ手續ノ中斷及中止ハ期間ノ進行ヲ止メ及中斷又ハ中止ノ終リタル後更ニ全期間ノ進行ヲ始ムル效力ヲ有ス

特許局長官、審判長又ハ審査官ハ中斷及中止ノ間其ノ事件ニ關スル手續ヲ續行スルコトヲ得ス

第三十二條　中斷又ハ中止シタル出願、審判、抗告審判又ハ再審ノ手續ノ受繼ハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ特許局ニ差出シテ之ヲ爲

爲スヘシ

第五十三條　特許法第四十九條ニ規定スル審判ノ請求書ニハ第五十一條ニ揭ケル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ倘補償金額ノ計算ニ關スル書類ヲ添附スヘシ

一　實施ヲ要スル特許發明ノ特許番號及名稱

二　實施セラルヘキ特許發明又ハ登錄實用新案ノ特許番號又ハ登錄番號及名稱竝其ノ特許又ハ登錄ノ年月日

第五十四條　特許法第五十三條ノ審判ヲ請求スル場合ニ於テハ請求書ニ訂正シタル明細書又ハ圖面ヲ添附スヘシ

第三十七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

特許法第五十三條第二項ノ審判ヲ請求スル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ請求書ニ倘其ノ追加ノ特許權ノ特許番號及附隨スヘキ特許權ヲ表示スヘシ

第五十五條　特許局長官審判又ハ抗告審判ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ニ番號ヲ附シ其ノ番號及其ノ事件ニ付指定シタル審判官ノ氏名ヲ當事者ニ通知スヘシ審判官ニ變更アリタルトキ亦同シ

第五十六條　審判又ハ抗告審判ノ請求書、答辯書其ノ他審判又ハ抗告審判ニ關シ特許局ニ差出ス書面ニハ必要ナル證據方法ヲ記載シ證據物件アルトキハ之ヲ添附スヘシ

前項ノ證據物件カ書面ナル場合ニ在リテハ倘其ノ謄本ヲ、其ノ他ノモノナル場合ニ在リテハ倘其ノ副面又ハ雛形若ハ見本ヲ特許局及相手方ノ數ニ應シテ差出スヘシ但シ雛形又ハ見本ヲ差出ス場合ニ於テハ之ニ其ノ圖面一通ヲ、其ノ圖面ヲ調製スルコト能ハサルトキハ說明書ヲ添附スヘシ

第五十七條　口頭審理ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ審判長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者、特許異議申立人及參加人ニ通知スヘシ

第五十八條　審判又ハ抗告審判ニ於テ職權ヲ以テ證據調ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ當事者ニ通知スヘシ

第五十九條　口頭審理ニ於テハ調書ヲ作リ審判長及之ヲ作リタル官吏之ニ記名捺印スヘシ

第六十一條　審判又ハ抗告審判ノ請求ノ取下アリタルトキハ特許局長官ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第六十一條ノ二　抗告審判請求權ノ拋棄アリタルトキハ特許局長官ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ出訴前出訴權ノ拋棄アリタル場合亦同シ

第六十二條　審決又ハ決定アリタルトキハ特許局長官ハ其ノ謄本ヲ當事者、特許異議申立人、參加人及參加申請人ニ送達スヘシ

第六十三條　審決ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ記名捺印スヘシ

一　審判番號又ハ抗告審判番號

二　當事者、參加人及代理人ノ氏名名稱及住所又ハ居所

三　審判事件又ハ抗告審判事件ノ表示

四　當事者及參加人ノ申立及理由ノ要領

五　審決ノ主文及理由

六　審決ノ年月日

查定ニ對スル抗告審判ノ審決ニハ倘出願公告ノ年月日ヲ記載スヘシ

特許法第五十三條第二項ノ許可ノ審決ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ノ特許番號及附隨スヘキ特許權ヲ主文中ニ表示スヘシ

第六十四條　參加ノ許否決定ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ記名捺印スヘシ

一　審判番號又ハ抗告審判番號

二　當事者及代理人ノ氏名名稱及住所又ハ居所

三　參加申請人及代理人ノ氏名名稱及住所

四　決定ノ主文及理由

五　決定ノ年月日

第六十五條　削除

第六十六條　特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ受ケタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無效トスル審決アリタル場合ニ於テ特許局長官必要ト認ムルトキハ其ノ旨ヲ特許法第十一條ニ規定スル正當權利者ニ通知スヘシ

第六十七條　審判、抗告審判又ハ出訴ノ費用ノ額ノ決定ヲ受ケムトスル者ハ請求書ニ必要ナル員數ノ費用計算書及其ノ費用ヲ要シタルコトヲ證スル書面ヲ添ヘノ上特許局長官ニ差出スヘシ

第六十八條　第四十五條、第四十六條、第四十七條第二項及第四十九條ノ規定ハ查定ニ對スル抗告審判ニ關シ之ヲ準用ス

第四十六條ノ規定ハ特許法第五十三條ノ許可ノ審判及抗告審判ニ關シ之ヲ準用ス

第六十九條　本章ノ規定ハ再審ニ關シ之ヲ準用ス

第五章　特許證、特許標記及特許料

第七十條　特許證ハ別記書式ニ依リ之ヲ作リ明細書及必要ナル圖面ヲ添附スヘシ

第七十一條　特許證亡失シ又ハ毀損シタルトキハ特許證主ハ其ノ事由ヲ疏明シテ特許證ノ再下付ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ毀損ニ因ル場合ニ於テハ其ノ特許證ヲ差出スヘシ

第七十二條　特許證ノ再下付アリタルトキハ舊特許證ハ之ヲ無效トス此ノ場合ニ於テハ特許局長官ハ官報及特許公報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

特許法第五十三條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ特許證ヲ下付シタルトキ亦前項ニ同シ

第七十三條　特許標記ニハ物ノ特許發明ニ在リテハ「特許」ノ文字及其ノ特許番號ヲ、方法ノ特許發明ニ在リテハ「方法特許」ノ文字及其ノ特許番號ヲ表示スヘシ

特許法第六十四條第四項ノ場合ニ於テハ特許標記ニハ前項ニ依ル記載ニ「一部」ノ文字ヲ加フヘシ

第七十四條　特許料ハ左ノ各號ニ定ムル期間內ニ之ヲ納付スヘシ

一　特許法第六十五條第一項ノ第一年乃至第三年分ノ特許料、同條第三項ノ特許料又ハ同條第六項ノ規定ニ依リ正當權利者ノ納付スヘキ特許料ハ特許スヘシトノ查定若ハ審決確定シ又ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三十日

二　削除

三　特許法第六十五條第五項ノ特許料ハ許可ノ審決確定シ又ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三十日

四　追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタル場合ニ於テ特許法第六十五條第六項ノ規定ニ依リ納付スヘキ特許料ハ獨立ノ特許權ト爲リタル日ヨリ三十日

前項ノ期間ハ三十日內ヲ限リ請求ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得

第七十五條　特許料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第七十六條　特許法第六十六條第二項ノ規定ニ依リ特許料ノ納付ノ猶豫又ハ減免ヲ請求スル者ハ請求書ニ所轄市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ證明書ニハ請求人ノ職業、財產及納稅額ヲ記載スヘシ

第七十七條　特許證主特許料ヲ納付セサルトキハ特許局長官ハ其ノ旨ヲ特許權ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ノ全員ニ通知スヘシ

附　則

第七十八條　本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十九條　特許法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第八十條　特許法第百三十八條ノ規定ニ依リ爲スヘキ處理ニ付テハ仍特許法施行細則ニ依ル

附　則（大正十一年十二月農令第三十號）

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和四年九月商令第六號）

本令ハ昭和四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別記

第一號書式

特許第何號

特許證

國籍（外國人ノ場合）

住所（居所）　氏　名（名稱）

發明者　何縣何誰

發明ノ名稱　何々

出願公告　年月日

前記發明ハ特許スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名印

第二號書式

特許第何號（原特許番號）

特許證（追加ノ特許證）

國籍（外國人ノ場合）

住所（居所）　氏　名（名稱）

發明者　何縣何誰

發明ノ名稱　何々

存續期間　自年月日至年月日

第何號特許（追加ノ特許）ニ係ル前記發明ニ付特許法第五十三條第一項ノ規定ニ依リ明細書（圖面）ノ訂正ヲ許可スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名印

第三號書式

特許第何號（原特許番號）ノ一（二、三）

特許證（追加ノ特許證）

國籍（外國人ノ場合）

住所（居所）　氏　名（名稱）

發明者　何縣何誰

發明ノ名稱　何々

存續期間　自年月日至年月日

第何號特許（追加ノ特許）ニ係ル前記發明ニ付特許法第五十三條第一項ノ規定ニ依リ明細書（圖面）ノ訂正ヲ許可スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名印

第四號書式

特許第何號

特許證

追加ノ特許證

國籍（外國人ノ場合）

住所（居所）　氏　名（名稱）

發明者　何縣何誰

發明ノ名稱　何々

原特許權存續期間　自年月日至年月日

前記發明ハ追加ノ特許トシテ特許スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名印

第五號書式

特許第何號（原特許番號）

特許證（追加ノ特許證）

國籍（外國人ノ場合）

住所（居所）　氏　名（名稱）

發明者　何縣何誰

發明ノ名稱　何々

延長ノ期間　自年月日至年月日

前記特許權（追加ノ特許權）ノ存續期間延長ノ許可アリタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名印

●特許登錄令

大正十年十二月勅令第四百六十一號

改正　大正一一年一二第五一七號

脫特許登錄令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布

セシム

特許登錄令

第一章　總則

第一條　特許ニ關スル登錄ハ左ニ揭ケル事項ニ付之ヲ爲ス

一　特許權及實施權竝之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限又ハ特許法第四十條ノ制限

二　特許ノ效力、特許法第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決

三　特許法第十六條第三項ニ規定スル代理人ノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅

第二條　假登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一　登錄ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ

二　前條第一號ニ揭ケル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セムトスルトキ但シ其ノ請求權ハ始期附又ハ停止條件附ナルコト其ノ他將來ニ於テ確定スヘキモノナルコトヲ妨ケス

第三條　豫告登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一　登錄原因ノ無效又ハ取消ニ依ル登錄ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタルトキ但シ登錄原因ノ取消ニ依ル訴ニ付テハ其ノ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ場合ニ限ル

二　特許ノ效力、特許法第五十三條ノ許可ノ效力、特許權ノ範圍若ハ實施權ノ取得ニ關スル審判若ハ再審ノ請求アリタルトキ又ハ特許若ハ實施權許與ノ請求アリタルトキ又ハ實施權許與ノ取消ノ請求アリタルトキ

第四條　左ニ揭ケル事項ノ登錄ハ附記ニ依リテノミ之ヲ爲ス

一　登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ更正

二　質權ノ移轉

三　一部抹消登錄ノ回復

第五條　左ニ揭ケル事項ノ登錄ハ登錄上利害關係ヲ有スル第三者ノ申請書ニ登錄上利害關係ヲ有スル第三者ノ承諾書若ハ其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキニ限リ附記ニ依リテノミ之ヲ爲ス

一　特許法第四十四條ノ制限ノ變更

二　特許權以外ノ權利ノ變更

三　登錄ノ更正

第六條　特許權又ハ之ニ關スル權利ニ關シ登錄シタル權利ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル登錄ノ前後ハ登錄用紙中同區ニ爲シタル登錄ニ付テハ順位番號ニ依リ別區ニ爲シタル登錄ニシテ受付番號アルモノニ付テハ受付番號ニ依ル

第七條　附記登錄ノ順位ハ主登錄ノ順位ニ依リ附記登錄間ノ順位ハ其ノ前後ニ依ル

第八條　假登錄ヲ爲シタルモノニ付本登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ順位ハ假登錄ノ順位ニ依ル

第九條　詐欺又ハ强迫ニ依リテ登錄ノ申請ヲ妨ケタル第三者ハ登錄ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第十條　他人ノ爲登錄ヲ申請スル義務アル者ハ其ノ登錄ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス但シ其ノ登錄ノ原因カ自己ノ登錄ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　特許發明ノ明細書及圖面竝特許信託原簿ノ之ヲ特許原簿ノ一部ト看做ス

審決ノ原本又ハ判決ノ謄本ニ依リ第一條第二號ニ揭ケル事項ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ原本又ハ謄本ノ之ヲ特許原簿ノ一部ト看做ス

第十二條　特許原簿及受付簿ノ樣式竝其ノ記載ニ關スル手續ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十三條　特許原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ罔復ニ關スル手續ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二章　登錄手續

第一節　通則

第十四條　登錄ハ決令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請又ハ囑託ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ依ル登錄ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請ニ依ル登錄ニ

關スル規定ヲ準用ス

第十五條　左ニ掲クル事項ノ登錄ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

一　特許權ノ設定、特許ノ無效、拋棄ニ依ラサル特許權ノ消滅又ハ訴願ノ裁決若ハ再審ノ確定審決若ハ判決ニ依ル特許權ノ回復

二　特許權ノ存續期間ノ延長、特許法第四十條ノ制限又ハ特許法第六十條ノ規定ニ依ル特許權ノ變更

三　特許法第五十三條ノ許可又ハ其ノ許可ノ無效若ハ回復

四　特許ノ效力、特許法第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決

五　特許法第四十一條ノ規定ニ依ル實施權許與、其ノ許與ノ取消、訴願ノ裁決ニ依ル實施權ノ回復又ハ確定審決若ハ判決ニ依ル實施權ノ設定若ハ消滅

第十六條　登錄ノ申請ハ登錄權利者及登錄義務者之ヲ爲スヘシ但シ申請書ニ登錄義務者ノ承諾書ヲ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得

第十七條　判決又ハ相續其ノ他ノ一般承繼ニ依ル登錄ノ申請ハ登錄權利者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得

第十八條　登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ノ申請ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得

第十九條　特許法第十六條第三項ニ規定スル登錄ノ申請ハ本人又ハ受任者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得代理人ノ表示ノ變更又ハ代理人ノ表示若ハ代理權ノ更正ノ登錄ノ申請ニ付亦同シ

第二十條　假登錄ハ第十六條ノ場合ヲ除クノ外假登錄權利者ノ申請ニ依リ假登錄義務者ノ住所若ハ居所又ハ特許法第二十二條ノ規定ニ依ル財產所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ遲滯ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ特許局ニ之ヲ囑託スヘシ

前項ノ假處分命令ハ假登錄權利者カ假登錄原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スヘシ

第一項ノ申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　官廳又ハ公署ハ其ノ爲シタル處分ニ基ク處分ノ制限ノ登錄又ハ其ノ抹消登錄ヲ遲滯ナク特許局ニ囑託スヘシ公賣其ノ他法令ノ規定ニ依ル處分ニ基ク權利移轉ノ登錄ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ當該官廳又ハ公署ハ登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正又ハ相續其ノ他ノ一般承繼ニ依ル權利移轉ノ登錄ヲ特許局ニ囑託スヘシ

第二十二條　特許法第四十條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ特許權ヲ收用シ又ハ特許發明ヲ實施スル場合ニ於テハ主務官廳ハ特許權移轉ノ登錄又ハ實施權設定ノ登錄ヲ特許局ニ囑託スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　第三條第一號ニ掲クル訴ヲ受理シタル裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ訴狀ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ其ノ豫告登錄ヲ特許局ニ囑託スヘシ

第三條第二號ニ掲クル請求アリタルトキハ職權ヲ以テ其ノ豫告登錄ヲ爲ス

第二十四條　登錄ノ申請書ハ一件每ニ一通ヲ作リ之ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シ申請人記名捺印スヘシ

一　特許番號及發明ノ名稱竝登錄ノ目的カ特許權以外ノ權利ニ關スル場合ニ於テハ尙其ノ權利ノ表示

二　申請人ノ氏名名稱及住所又ハ居所竝代理人ニ依リテ申請スル場合ニ於テハ尙其ノ氏名名稱及住所又ハ居所

三　申請人カ外國人ナル場合ニ在リテハ其ノ國籍及萬國工業所有權保護同盟條約國又ハ帝國ト特許ニ關シ相互保護ヲ約セシ國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ナル場合ニ在リテハ尙同盟國中ノ一國ノ版圖內ニ於ケル住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所

四　登錄原因及其ノ日附

五　登錄ノ目的

六　年月日

第二十五條　數箇ノ特許權、實用新案權若ハ意匠權又ハ之ニ關スル權利ヲ目的トスル質權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ登錄原因カ同一ナルトキハ同一ノ申請書ヲ以テ登錄ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ處分ノ制限ノ登錄ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　登錄ノ申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一　登錄原因ヲ證スル書面

二　削除

三　登錄原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

四　申請人カ外國人ナル場合ニ在リテハ其ノ國籍ヲ證スル書面及萬國工業所有權保護同盟條約國又ハ帝國ト特許ニ關シ相互保護ヲ約セシ國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ナル場合ニ在リテハ尙同盟國中ノ一國ノ版圖內ニ住所又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所ヲ有スルコトヲ證スル書面

五　申請人カ外國法人ナル場合ニ在リテハ其ノ法人タルコトヲ證スル書面

六　代理人又ハ代表者ニ依リテ登錄ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

特許法第十六條第三項ノ規定ニ依リ登錄ヲ受ケタル代理人又ハ同法第十七條若ハ第二十一條第一項但書ノ規定ニ依リ屆出テタル代理人若ハ代表者カ其ノ權限內ニ於テ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ第一項第六號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

登錄原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ第一項第三號乃至第五號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第二十七條　債權者カ民法第四百二十三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ第二十四條ニ掲クル事項ノ外債權者ノ氏名名稱及住所又ハ居所竝代位原因ヲ記載シ債權者之ニ記名捺印シ且前條第一項各號ニ掲クル書面ノ外代位原因ヲ證スル書面ヲ之ニ添附スヘシ但シ登錄上代位原因明ナル場合ニ於テハ之ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第二十八條　登錄原因ニ登錄ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

第二十九條　登錄權利者カ多數ナル場合ニ於テ登錄原因ニ持分ノ定アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スヘシ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ一部移轉ノ登錄ヲ申請スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ特許法第四十四條第二項ノ同意、同法第四十七條ノ契約又ハ民法第二百五十六條第一項但書ノ契約アルトキハ申請書ニ之ヲ記載スヘシ

第三十條　抹消シタル登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第三十一條　左ノ場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スル戶籍若ハ登記簿ノ謄本若ハ抄本又ハ之ニ準スヘキ書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

一　登錄原因カ相續其ノ他ノ一般承繼ナルトキ

二　申請人カ登錄權利者又ハ登錄義務者ノ相續人其ノ他ノ一般承繼人ナルトキ

三　登錄名義人ノ表示ノ變更又ハ更正ノ登錄ヲ申請スルトキ

第三十二條　數箇ノ申請書ニ依リ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ第二十六條第一項第一號乃至第五號又ハ前條ノ書面カ一通ナルトキハ一ノ申請書ニ之ヲ添附シ他ノ申請書ニハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

他ノ事件ニ付特許局ニ對シ既ニ第二十六條第一項第三號乃至第五號又ハ前條ノ書面ヲ差出シタル者ハ其ノ事項ニ變更ナキトキハ

申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ更ニ其ノ書面ヲ申請書ニ添附セサルコトヲ得但シ特許局長官必要ト認ムルトキハ其ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三十三條　申請書ニ第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ其ノ第三者ヲシテ申請書ニ記名捺印セシメ其ノ書面ノ添附ニ代フルコトヲ得

第三十四條　削除

第三十五條　削除

第三十六條　左ノ場合ニ於テハ登錄ノ申請ハ之ヲ却下ス

一　事件カ登錄スヘキモノニ非サルトキ

二　申請書カ方式ニ適合セサルトキ

三　第二十四條第一號ノ事項カ特許原簿ト符合セサルトキ

四　第三十一條第二號ニ規定スル書面ヲ添附スル場合ヲ除クノ外申請書ニ掲クル登錄義務者ノ表示カ特許原簿ト符合セサルトキ

五　申請人カ登錄名義人ナル場合ニ於テ其ノ表示カ特許原簿ト符合セサルトキ

六　代理人又ハ代表者ノ表示カ特許原簿又ハ屆出ト符合セサルトキ

七　申請書ニ掲クル事項カ登錄原因ヲ證スル書面ト符合セサルトキ

八　申請書ニ必要ナル書面ヲ添附セサルトキ

九　登錄稅ヲ納付セサルトキ

前項ノ規定ニ依ル却下ニハ理由ヲ附スヘシ

第三十七條　行政區劃又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ特許原簿ニ記載シタル行政區劃又ハ其ノ名稱ハ之ヲ變更シタルモノト看做ス大字若ハ字又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキ亦同シ

第三十八條　登錄ヲ完了シタル後其ノ登錄ニ付錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ハ第二十七條ノ場合ニ於テハ債權者ニ對シテモ亦之ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル通知ハ登錄權利者、登錄義務者又ハ債權者カ多數ナル場合ニ於テハ其ノ一人ニ對スル通知ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三十九條　前條ノ場合ニ於テ登錄ノ錯誤又ハ遺漏カ特許局ノミノ過誤ニ出テタルトキハ登錄上利害關係ヲ有スル第三者アル場合ヲ除クノ外遲滯ナク其ノ登錄ノ更正ヲ爲シ其ノ旨ヲ登錄權利者及登錄義務者ニ通知スヘシ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條　特許權又ハ之ニ關スル權利ニシテ工場財團又ハ之ニ準スヘキモノニ屬スルコトノ登錄アルモノニ付變更、制限又ハ消滅アリタルトキハ特許局ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ管轄登記所又ハ之ニ準スヘキモノニ通知スヘシ

第二節　特許權及實施權ニ關スル登錄手續

第四十一條　特許權移轉ノ登錄又ハ特許權ノ登錄名義人ノ表示ノ變更若ハ更正ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ追加ノ特許權又ハ特許法第四十九條ノ規定ニ依ル實施權アルトキハ同時ニ其ノ追加ノ特許權又ハ實施權ニ付テモ同一事項ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同一ノ申請書ヲ以テ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第四十二條　特許權ノ制限附移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ制限ヲ記載シ尙登錄原因ニ報酬又ハ其ノ支拂時期ノ定アルトキハ亦之ヲ記載スヘシ

第四十三條　實施權ノ設定、保存又ハ移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ範圍ヲ記載シ尙登錄原因ニ報酬若ハ其ノ支拂時期ノ定アルトキ又ハ特許法第五十一條第二項ノ承諾アルトキハ亦之ヲ記載スヘシ

實施權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ特許發明實施ノ事業ト共ニ移轉スルトキハ申請書ニ之ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三節　質權ニ關スル登錄手續

第四十四條　質權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質權ノ目的タル權利及債權額ヲ記載シ尙登錄原因ニ存續期間、辨濟期、利息、違約金若ハ賠償額ニ關スル定若ハ民法第三百四十六條但書ノ規定ニ依ル定アルトキ又ハ債權ニ條件ヲ附シタルトキハ亦之ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ質權設定者カ債務者ニ非サルトキハ申請書ニ債務者ヲ表示スヘシ

質權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ質權カ債權ト共ニ移轉スルヤ否ヤヲ記載スヘシ

第四十五條　一定ノ金額ヲ目的トセサル債權ノ擔保タル質權ノ設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ債權ノ價額ヲ記載スヘシ

第四十六條　債權ノ一部讓渡又ハ代位辨濟ニ依ル質權移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ讓渡又ハ代位辨濟ノ目的タル債權額ヲ記載スヘシ

第四十七條　未登錄ノ制限附移轉ノ特許權若ハ未登錄ノ實施權又ハ之ヲ目的トスル質權ニ關スル登錄ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ官廳又ハ公署カ未登錄ノ權利ニ關スル登錄ヲ特許局ニ囑託スル場合ニ於テハ裁判ニ依リテ其ノ權利ヲ證スルコトヲ要セス

第四節　抹消ニ關スル登錄手續

第四十八條　特許權又ハ之ニ關スル權利ノ拋棄ニ依ル登錄ノ抹消ハ登錄名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第四十九條　登錄シタル權利カ或人ノ死亡ニ依リテ消滅シタル場合ニ於テ申請書ニ其ノ死亡ヲ證スル戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ之ニ準スヘキ書面ヲ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十條　登錄權利者カ登錄義務者ノ行方ノ知レサルニ依リ登錄ノ抹消ヲ申請スルコト能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請書ニ其ノ謄本ヲ添附シ登錄權利者ノミニテ登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請書ニ債權證書又ハ元本ノ受取證書及登錄セラレタル債務ノ辨濟證書ヲ添附シタルトキハ登錄權利者ノミニテ質權ニ關スル登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十一條　假登錄ノ抹消ハ假登錄名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登錄名義人ノ承諾書又ハ其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登錄上利害關係ヲ有スル者ノミニテ假登錄ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第五十二條　登錄ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ登錄上利害關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第五十三條　第三條第一號ノ豫告登錄アリタル場合ニ於テ訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判カ確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審裁判所ハ遲滯ナク囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登錄ノ抹消ヲ特許局ニ囑託スヘシ

第三條第二號ノ豫告登錄アリタル場合ニ於テ審判若ハ再審ノ請求ヲ却下シタル決定確定シタルトキ、請求ヲ否認シタル審決確定シ若ハ判決アリタルトキ、請求ノ取下アリタルトキ又ハ請求ノ拋棄アリタルトキハ職權ヲ以テ豫告登錄ヲ抹消ス實施權許與ノ請求若ハ特許若ハ實施權許與ノ取消ノ請求ヲ却下シタルトキ又ハ請求ノ取下アリタルトキ亦同シ

第五節　信託ニ關スル登錄手續

第五十四條　特許權又ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄ニ付テハ受託者ヲ登錄權利者トシ委託者ヲ登錄義務者トス

第五十五條　信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財產ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請

スルコトヲ得

前項ニ規定ハ信託法第二十七條ノ規定ニ基ク信託財産ノ復舊ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條　受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第二十七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ尚登錄ノ目的タル特許權又ハ之ニ關スル權利カ信託財産ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五十七條　信託ノ登錄ノ申請ハ信託ニ依ル特許權ノ移轉又ハ特許權ニ關スル權利ノ設定若ハ移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ受益者又ハ委託者カ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條　受託者更迭ノ場合ニ於テ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ移轉ノ登錄ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ更迭ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第五十九條　受託者ノ任務カ死亡、破産、禁治産、準禁治産又ハ裁判所若ハ主務官廳ノ解任命令ニ依リテ終了シタルトキハ前條ノ登錄ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務カ解散ニ依リテ終了シタルトキ亦同シ

第六十條　信託ノ登錄ノ申請書ニハ第二十四條ニ揭クル事項ノ外左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　委託者、受託者及受益者ノ氏名、名稱及住所又ハ居所並信託管理人アル場合ニハ其ノ氏名、名稱及住所又ハ居所

二　信託ノ目的

三　信託財産ノ管理方法

四　信託終了ノ事由

五　其ノ他信託ノ條項

前項ノ場合ニ於テ抹消ニ係ル權利ヲ目的トスル第三者ノ權利ニ關スル登錄アルトキハ當該登錄用紙中相當ノ事項欄ニ其ノ第三者ノ權利ノ表示ヲ爲シ何權利ノ登錄ヲ抹消スルニ依リテ其ノ抹消ヲ爲ス旨ヲ記載シ其ノ登錄ヲ朱抹スヘシ

追加ノ特許權ニ付抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ追加ノ特許權カ附隨スル特許權ノ登錄用紙中當該追加ノ特許權ノ特許番號ヲ朱抹スヘシ

第十五條　回復ノ登錄ヲ爲スニハ其ノ原因、日時及回復ヲ爲ス旨ヲ記載シタル後抹消ニ係ル登錄ト同一ノ登錄ヲ爲スヘシ

第十六條　表示欄、事項欄又ハ代理人欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ末尾ニ登錄年月日ヲ記載シ登錄官吏之ニ捺印スヘシ

第十七條　表示欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縱線ヲ劃シ事項欄ニ登錄ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃シ餘白ヲ分界スヘシ

第十七條ノ二　特許原簿ノ登錄用紙中同一事項欄ニ同一順位ヲ以テ設定又ハ移轉ノ登錄ヲ爲シタルトキハ事項欄ニ縱線ヲ劃シ餘白ヲ分界スヘシ

第十七條ノ三　特許原簿ニ信託ノ登錄ヲ爲ストキハ特許信託番號ヲ記載スヘシ

第十八條　登錄用紙中或欄カ登錄又ハ記載ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新ニ登錄用紙ヲ起シ特許番號欄又ハ特許信託番號欄ニ前用紙ノ特許番號ヲ轉寫シ且前用紙ノ登錄ニ付テハ其ノ左側ニ「第二」ノ文字ヲ記載シ且前用紙ヲ編綴セル特許原簿又ハ特許信託原簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ登錄ヲ爲シタル權利ニ關スル登錄アルトキハ其ノ登錄ニモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第十九條　前條ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第二節　職權ニ依ル登錄手續

第二十條　職權ニ依ル登錄ハ其ノ原因ノ發生シタル順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ但シ特許權ノ設定、特許法第五十三條第二項ノ許可及特許權存續期間延長ノ登錄ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

特許料ノ納付ノ猶豫又ハ免許ノ處分アリタル場合ニ於テハ前項但書ノ規定ノ適用ニ關シテハ其ノ處分ノ順序ヲ以テ料金納付ノ順序ト看做ス

第二十一條　特許權設定ノ登錄ヲ爲スニハ特許番號欄ニ特許番號ヲ表示欄ニ出願日附、出願公告アリタルモノニ付テハ其ノ日附、願書番號、特許發明ノ名稱、査定若ハ審決確定シタル旨及其ノ日附並特許法第十一條ノ規定ニ依リ特許權ノ設定シタル場合ニ在リテハ尚其ノ旨、無效トナリタル特許ノ特許番號、其ノ登錄ノ日附及其ノ出願公告アリタルモノニ付テハ其ノ日附ヲ記載シ但特許權ノ設定、特許法第五十三條第二項ノ許可及特許權存續期間延長ノ登錄ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　登錄又ハ記載スヘキ事項ハ仍其ノ欄ニ登錄又ハ記載スヘシ

第六條　特許登錄令第二十七條但書ノ場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第七條　實權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ先順位ノ實權ノ登錄アルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八條　登錄稅法第十一條第三號又ハ第六號ニ規定スル事項ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ課稅標準ノ價格ヲ記載スヘシ

第八條ノ二　登錄稅法施行規則第四條第一項及特許權存續期間延長ノ登錄ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

特許料ノ納付ノ猶豫又ハ免許ノ處分アリタル場合ニ於テハ前項但書ノ規定ノ適用ニ關シテハ其ノ處分ノ順序ヲ以テ料金納付ノ順序ト看做ス

第二十一條　特許權設定ノ登錄ヲ爲スニハ特許番號欄ニ特許番號ヲ表示欄ニ出願日附、出願公告アリタルモノニ付テハ其ノ日附、願書番號、特許發明ノ名稱、査定若ハ審決確定シタル旨及其ノ日附並特許法第十一條ノ規定ニ依リ特許權ノ設定シタル場合ニ在リテハ尚其ノ旨、無效トナリタル特許ノ特許番號、其ノ登錄ノ日附及其ノ出願公告アリタルモノニ付テハ其ノ日附ヲ記載シ但特許權ノ設定、特許法第五十三條第二項ノ許可及特許權存續期間延長ノ登錄ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　追加ノ特許權設定ノ登錄ヲ爲スニハ前條ノ規定ニ依ル外表示欄ニ原特許權ノ特許番號、其ノ登錄ノ日附、其ノ出願公告アリタルモノニ付テハ其ノ日附及其ノ追加ノ特許ナル旨ヲ記載スヘシ

第二十三條　追加ノ特許權カ獨立ノ特許權トナリタルトキハ表示欄ニ出願日附、願書番號、許可アリタル旨、其ノ日附及延長ノ期間並制限ヲ附シタル旨、其ノ日附及延長ノ期間並制限ヲ記載スヘシ

第二十四條　特許權存續期間延長ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ出願日附、願書番號、許可アリタル旨、其ノ日附及延長ノ期間並制限ヲ附シタル旨、其ノ日附及延長ノ期間並制限ヲ記載スヘシ

第二十五條　特許法第四十條ノ規定ニ依リ存續期間ノ延長ヲ爲シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十六條　特許法第五十三條第一項ノ許可ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決アリタル旨及其ノ日附並特許番號ヲ記載シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十七條　特許法第五十三條第一項ノ許可ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決アリタル旨及其ノ日附並特許番號ヲ記載シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ乙特許權ノ登錄用紙中表示欄ニ確定審決若ハ判決ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第二十九條　特許法第四十條ノ規定ニ依リ存續期間ノ延長ヲ爲シタル旨ヲ記載スヘシ

第三十條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第三十一條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十二條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十三條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十四條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十五條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十六條　特許法第五十三條第一項ノ許可ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決アリタル旨及其ノ日附並特許番號ヲ記載シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十七條　特許法第五十三條第一項ノ許可ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決アリタル旨及其ノ日附並特許番號ヲ記載シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ乙特許權ノ登錄用紙中表示欄ニ確定審決若ハ判決ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第二十九條　特許法第四十條ノ規定ニ依リ存續期間ノ延長ヲ爲シタル旨ヲ記載スヘシ

第三十條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第三十一條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十二條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十三條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十四條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十五條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十六條　特許法第五十三條第一項ノ許可ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決アリタル旨及其ノ日附並特許番號ヲ記載シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十七條　特許法第五十三條第一項ノ許可ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決アリタル旨及其ノ日附並特許番號ヲ記載シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ乙特許權ノ登錄用紙中表示欄ニ確定審決若ハ判決ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第二十九條　特許法第四十條ノ規定ニ依リ存續期間ノ延長ヲ爲シタル旨ヲ記載スヘシ

第三十條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第三十一條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十二條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十三條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十四條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十五條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十六條　特許法第五十三條第一項ノ許可ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決アリタル旨及其ノ日附並特許番號ヲ記載シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

前項ニ揭クル事項ハ職權ヲ以テ特許信託原簿ニ之ヲ登錄スヘシ

第六十一條　裁判所カ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ遲滯ナク特許信託原簿ノ登錄ヲ特許局ニ囑託スヘシ主務官廳カ信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同シ

第六十二條　前條ノ規定ニ依ル裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條　裁判所カ信託財産ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク特許信託原簿ノ記載ヲ特許局ニ囑託スヘシ

前項ノ規定ハ主務官廳カ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條　第六十二條又ハ第五十九條ノ場合ニ於テ特許原簿ノ登錄ヲ爲シタルトキハ特許局ハ職權ヲ以テ特許信託原簿ノ登錄ヲ爲スヘシ

第六十五條　第五十八條、第五十九條及第六十一條乃至第六十三條ノ場合ヲ除クノ外第六十條第一項ニ揭クル事項ノ變更ニ關スル登錄ハ委託者又ハ委託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第二十七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス

第六十六條　第六十二條ノ規定ニ依ル裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタルトキハ特許局ハ職權ヲ以テ特許信託原簿ノ登錄ヲ爲スヘシ

第六十七條　信託財産ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利カ移轉ニ依リ信託財産ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登錄抹消ノ申請ハ移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リ信託財産ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條　第四十一條ノ規定ハ特許權ノ信託ノ登錄若ハ其ノ抹消又ハ第六十三條第一項ニ揭クル事項ノ變更ニ之ヲ準用ス

第六十九條　第六十二條ノ規定ニ依ル裁判所又ハ主務官廳カ信託ニ關シ登錄ヲ爲シタルトキハ特許局ハ職權ヲ以テ特許信託原簿ノ登錄ヲ爲スヘシ

第七十條　特許信託原簿ニハ信託財産ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利カ移轉ニ依リ信託財産ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登錄抹消ノ申請ハ移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十一條　本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十二條　舊特許原簿ハ之ヲ本令ニ依ル特許原簿ト看做ス

第七十三條　舊令ニ依リ爲シタル登錄ニ關スル處分及手續ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第七十四條　特許法第百三十八條第一項ノ規定ニ依ル處理ニ關スル登錄ニ付テハ仍舊令ニ依ル

第七十五條　本令施行ノ際現ニ繫屬スル登錄ニ關スル處分及手續ニ付テハ仍舊令ニ依ル

第七十六條　舊特許法第五十五條ニ依ル實施權ノ保存ノ登錄ニ付テハ仍舊令ニ依ル

附　則（大正十一年十二月勅令第五百十七號）

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特許登錄令施行規則

大正十年十二月
農商務省令第三十九號
改正　大正十一年一二第二九號　昭和二年四商令第四號

特許登錄令施行規則左ノ通改正ス

特許登錄令施行規則

第一章　登錄ニ關スル帳簿

第一條　特許原簿ハ第一號樣式ニ、特許信託原簿ハ第一號ノ二樣式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第二條　特許原簿ハ一特許權ニ付一用紙ヲ備フ

特許信託原簿ハ信託財産ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利ニ付各一用紙ヲ備フ

第三條　受付簿ハ第二號樣式ニ依リ每年之ヲ作ルヘシ

第四條　特許原簿ノ特許番號欄ニハ特許番號ヲ記載スヘキ事項ハ仍其ノ欄ニ登錄又ハ記載スヘシ

第六條　特許登錄令第二十七條但書ノ場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第七條　實權設定ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テ先順位ノ實權ノ登錄アルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八條　登錄稅法第十一條第三號又ハ第六號ニ規定スル事項ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ課稅標準ノ價格ヲ記載スヘシ

第八條ノ二　登錄稅法施行規則第四條第一項及特許權存續期間延長ノ登錄ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

特許料ノ納付ノ猶豫又ハ免許ノ處分アリタル場合ニ於テハ前項但書ノ規定ノ適用ニ關シテハ其ノ處分ノ順序ヲ以テ料金納付ノ順序ト看做ス

第二十一條　特許權設定ノ登錄ヲ爲スニハ特許番號欄ニ特許番號ヲ表示欄ニ出願日附、出願公告アリタルモノニ付テハ其ノ日附、願書番號、特許發明ノ名稱、査定若ハ審決確定シタル旨及其ノ日附並特許法第十一條ノ規定ニ依リ特許權ノ設定シタル場合ニ在リテハ尚其ノ旨、無效トナリタル特許ノ特許番號、其ノ登錄ノ日附及其ノ出願公告アリタルモノニ付テハ其ノ日附ヲ記載シ但特許權ノ設定、特許法第五十三條第二項ノ許可及特許權存續期間延長ノ登錄ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　追加ノ特許權設定ノ登錄ヲ爲スニハ前條ノ規定ニ依ル外表示欄ニ原特許權ノ特許番號、其ノ登錄ノ日附、其ノ出願公告アリタルモノニ付テハ其ノ日附及其ノ追加ノ特許ナル旨ヲ記載スヘシ

第二十三條　追加ノ特許權カ獨立ノ特許權トナリタルトキハ表示欄ニ出願日附、願書番號、許可アリタル旨、其ノ日附及延長ノ期間並制限ヲ附シタル旨、其ノ日附及延長ノ期間並制限ヲ記載スヘシ

第二十四條　特許權存續期間延長ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ出願日附、願書番號、許可アリタル旨、其ノ日附及延長ノ期間並制限ヲ附シタル旨、其ノ日附及延長ノ期間並制限ヲ記載スヘシ

第二十五條　特許法第四十條ノ規定ニ依リ存續期間ノ延長ヲ爲シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十六條　特許法第五十三條第一項ノ許可ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決アリタル旨及其ノ日附並特許番號ヲ記載シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十七條　特許法第五十三條第一項ノ許可ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決アリタル旨及其ノ日附並特許番號ヲ記載シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ乙特許權ノ登錄用紙中表示欄ニ確定審決若ハ判決ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第二十九條　特許法第四十條ノ規定ニ依リ存續期間ノ延長ヲ爲シタル旨ヲ記載スヘシ

第三十條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

第三十一條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十二條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十三條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十四條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十五條　特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ノ存續期間ヲ延長シタル場合ニ於テハ其ノ乙特許權ニ關スル權利ノ登錄ニ付テモ亦同一ノ記載ヲ爲スヘシ

第三十六條　特許法第五十三條第一項ノ許可ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決アリタル旨及其ノ日附並特許番號ヲ記載シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ存續期間ヲ延長シタル旨ヲ記載スヘシ

甲特許權ト共ニ確定審決若ハ判決又ハ制限ノ目的タル旨ヲ記載シ甲特許權ノ登錄用紙中表示欄ニ其ノ登錄ニ係ル事項ノ表示ヲ爲シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ乙特許權ト共ニ確定審決若ハ判決又ハ制限ノ目的ト爲リタル旨ヲ記載スヘシ

第二十九條 第二十七條ノ場合ニ於テ登錄名義人カ登錄上乙特許權ニ關シ其ノ權利ナキトキ又ハ許可ノ審決確定若ハ判決前ニ其ノ權利ノ消滅ヲ當該登錄名義人カ承認シタルコトヲ證スル書面若ハ其ノ者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ差出シタルトキハ甲特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ登錄ニ係ル事項ノ表示ヲ爲シ且其ノ旨ヲ記載スヘシ此ノ場合ニ於テハ乙特許權ノ登錄用紙中ニ其ノ權利ニ關スル事項ヲ轉寫スルコトヲ要セス

第二十七條ノ場合ニ於テ甲特許權カ前項ニ規定スル場合ニ該當スルトキハ甲特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ登錄ニ係ル權利及乙特許權ノ表示ヲ爲シ且特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ其ノ權利ヲ特許第何號ノ登錄用紙ニ移シタル旨ヲ記載シ其ノ登錄ヲ朱抹スヘシ

前二項ノ規定ハ原特許ノ登錄用紙中表示欄ニ記載シタル事項カ甲特許權又ハ乙特許權ノミニ關スルモノナル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ原特許ノ登錄用紙中代理人欄ニ特許登錄令第一條第三號ニ揭クル事項ノ登錄アルトキハ乙特許權ノ登錄用紙中代理人欄ニ之ヲ轉寫スヘシ

第三十一條 第二十七條ノ場合ニ於テ原特許ノ登錄用紙中追加ノ特許權ノ特許番號ノ記載アルトキハ乙特許權ノ登錄用紙中追加特許番號欄ニ之ヲ轉寫スヘシ但シ追加ノ特許權カ許可ノ確定審決又ハ判決ニ依リ乙特許權ノミニ對スルモノト爲リタル場合ニ在リテハ甲特許權ノ登錄用紙中追加ノ特許權ノ特許番號ヲ朱抹シ甲特許權ノミニ對スルモノト爲リタル場合ニ在リテハ乙特許權ノ登錄用紙ニ之ヲ轉寫スルコトヲ要セス

前項ノ場合ニ於テハ當該追加ノ特許權ノ登錄用紙中表示欄ニ其ノ原特許權ノ變更ノ登錄ヲ爲スヘシ

第三十二條 前五條ノ規定ハ特許法第五十三條第二項ノ許可ニ依リ特許權ヲ三以上ノ特許權ト爲シタル場合ノ登錄ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 特許ノ效力、特許法第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判、抗告審判又ハ判決ノ番號、審決確定シ又ハ判決アリタル旨、其ノ日附及確定審決又ハ判決ノ要旨ヲ記載シ再審ノ確定審決又ハ判決ノ登錄ヲ爲ス場合ニ在リテハ尙之ニ反スル確定審決又ハ判決ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第三十四條 特許法第四十一條ノ規定ニ依ル實施權ノ許與ノ登錄ヲ爲スニハ實施セラルヘキ發明ノ特許權ノ登錄用紙中丙區事項欄ニ處分又ハ訴願ノ裁決ノ年月日、實施權ノ範圍、補償金額及其ノ支拂時期竝實施權者ノ氏名名稱及住所ヲ記載スヘシ

第三十五條 前條ノ規定ハ特許法第四十九條ノ規定ニ依ル實施權設定ノ登錄ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ登錄ヲ爲ストキハ實施ヲ要スル發明ノ特許權ノ登錄用紙中丙區事項欄ニ前條ニ揭クル事項ノ外實施セラルヘキ發明ノ特許權ノ特許番號及其ノ特許權カ實施權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第三十六條 特許カ無效ト爲リ又ハ拋棄ニ依ル場合ヲ除クノ外特許權カ消滅シタルトキハ其ノ特許權ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第三十七條 特許法第五十三條ノ許可カ無效ト爲リタルトキハ其ノ許可ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第三十八條 特許法第五十三條第二項ノ許可カ無效ト爲リタル場合ニ於テハ乙特許權ノ登錄用紙中其ノ登錄ヲ朱抹シ甲特許權ノ登錄用紙中第二十七條乃至第三十一條ノ規定ニ依リ記載シタル事項ハ之ヲ朱抹シ第二十九條第二項第三項及第三十一條但書ノ規定ニ依リ朱抹シタル事項ニシテ消滅ニ係ラサルモノハ之ヲ相當欄ニ回復シ且乙特許權タリシ部分ノミニ關スル旨ヲ記載シ第二十九條第一項第三項及第三十一條但書ノ規定ニ依リ乙特許權ノ登錄用紙ニ轉寫セサリシ事項ハ之ヲ相當欄ニ表示シ且許可ノ無效ニ依リ甲特許權タリシ部分ノミニ關スルモノト爲リタル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲特許權ノ登錄用紙中許可ノ登錄後ニ爲シタル登錄アルトキハ相當欄ニ其ノ事項ノ表示ヲ爲シ且甲特許權タリシ部分ノミニ付登錄アリタルモノナル旨ヲ記載シ乙特許權ノ登錄用紙中許可ノ登錄後ニ爲シタル登錄アルトキハ甲特許權ノ登錄用紙中相當欄ニ之ヲ移シ且許可ノ無效ノ審決確定シ又ハ判決アリタル旨、其ノ日附及乙特許權タリシ部分ノミニ付登錄アリタルモノナル旨ヲ記載スヘシ

第三十九條 前條ノ場合ニ於テ許可ノ登錄後甲特許權又ハ乙特許權ニ對スル追加ノ特許權ノ登錄アリタルトキハ當該追加ノ特許權ノ登錄用紙中表示欄ニ其ノ原特許權ノ變更ノ登錄ヲ爲スヘシ

第四十條 前二條ノ規定ハ特許權ヲ三以上ノ各別ノ特許權ト爲ス許可ノ登錄アリタル後其ノ許可カ無效ト爲リタル場合ノ登錄ニ付之ヲ準用ス

第四十一條 訴願ノ裁決、取消處分又ハ確定審決若ハ裁決ニ依リ實施權カ消滅シタルトキハ其ノ實施權ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第四十二條 訴願ノ裁決又ハ再審ノ確定審決若ハ判決ニ依ル特許權ノ回復、特許法第五十三條ノ許可ノ回復又ハ訴願ノ裁決ニ依ル實施權ノ回復アリタルトキハ回復ノ登錄ヲ爲スヘシ

第四十三條 特許登錄令第三條第二號ノ豫告登錄ヲ爲スニハ表示欄ニ審判又ハ再審ノ請求アリタル場合ニ在リテハ審判又ハ再審ノ請求書受付ノ年月日、審判又ハ抗告審判番號及一定ノ申立ヲ、其ノ他ノ請求アリタル場合ニ在リテハ請求書受付ノ年月日及其ノ請求アリタル旨ヲ記載スヘシ但シ實施權ニ關スル豫告登錄ハ丙區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

第四十四條 信託財產ニ屬スル特許ヲ受クル權利ニ付第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ同一順位ヲ以テ信託ノ登錄ヲ爲スヘシ

實施ヲ要スル發明ノ特許權カ信託財產ニ屬スル場合ニ於テ第三十五條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲ストキ亦前項ニ同シ

第四十四條ノ二 第二十三條、第二十七條、第三十二條、第三十六條乃至第四十二條及前條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テ特許權又ハ之ニ關スル權利カ信託財產ニ屬スルトキハ同時ニ特許信託原簿ノ登錄ヲ爲スヘシ

第三節 申請及囑託ニ依ル登錄手續

第四十五條 登錄申請書ノ提出アリタルトキハ受付簿ニ受付年月日、受付番號、特許番號、登錄ノ目的及申請人ノ氏名名稱ヲ記載シ申請書ニ受付ノ年月日及受付番號ヲ記載スヘシ

前項ノ受付番號ハ受付ノ順序ニ依リ之ヲ附スヘシ同一ノ特許權ニ關シ同時ニ數個ノ申請アリタルトキハ同一ノ受付番號ヲ附スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ申請人カ多數ナルトキハ申請書ニ揭クル代表者又ハ筆頭者ノ氏名名稱及他ノ人員ノ數ヲ記載スヘシ

第四十六條 受付番號ハ每年之ヲ更新スヘシ

第四十七條 登錄ハ受付番號ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第四十五條第二項ノ規定ニ依リ同一ノ受付番號ヲ附シタルモノニシテ同一ノ事項欄ニ登錄ヲ爲スヘキモノニ付テハ同一ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第四十八條 表示欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受付ノ年月日、受付番號、登錄原因、其ノ日附及登錄ノ目的ヲ記載スヘシ

事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受付ノ年月日、受付番號、登錄權利者ノ氏名名稱及住所、登錄原因、其ノ日附竝登錄ノ目的其ノ他申請書ニ揭クル事項ニシテ登錄スヘキ權利ニ關スルモノヲ記載スヘシ

特許登錄令第二十七條、第五十六條又ハ第六十五條第二項ニ規定スル申請ニ依リ事項欄ニ登錄ヲ爲スニハ前項ニ揭クル事項ノ外債權者又ハ受益者若ハ委託者ノ氏名名稱及住所竝代位原因ヲ記載スヘシ

代理人欄ニ登錄ヲ爲スニハ申請書受付ノ年月日、受付番號、代理人ノ氏名名稱及住所、登錄原因、其ノ日附竝登錄ノ目的其ノ他申請書ニ揭クル事項ニシテ代理權ニ關スルモノヲ記載スヘシ

第四十九條 登錄シタル質權ノ順位ノ讓渡又ハ拋棄ニ依ル變更登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ質權ノ登錄ノ順位番號ノ左側ニ變更登錄ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第五十條 特許登錄令第二十五條ニ規定スル質權ノ設定ノ登錄ハ其ノ各特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ且其ノ登錄中ニ他ノ特許權、實用新案權若ハ意匠權又ハ之ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利カ共ニ質權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第五十一條 前條ノ登錄アリタル後其ノ一ノ特許權、實用新案權若ハ意匠權又ハ之ニ關スル權利ヲ目的トスル質權ノ消滅ノ登錄ヲ爲シタルトキハ他ノ特許權ノ登錄用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ノ表示ヲ爲シ且其ノ權利ヲ目的トスル質權カ消滅シタル旨ヲ記載シ前條ノ規定ニ依リ爲シタル登錄中消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十二條 特許登錄令第四十七條ニ規定スル申請又ハ囑託ニ依リ登錄ヲ爲ストキハ登錄用紙中相當區事項欄ニ權利者ノ氏名名稱及住所竝裁判又ハ囑託ニ依リ何權利ノ登錄ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第五十三條 特許登錄令第二十一條第一項ニ規定スル權利移轉ノ登錄ヲ爲シタルトキハ同條ニ規定スル處分ノ制限ノ登錄ヲ抹消シ公賣處分ニ依ル場合ニ於テ其ノ權利ヲ目的トスル質權ノ登錄アルトキハ尙其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ權利ノ信託ノ登錄アルトキハ尙其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第五十四條 特許登錄令第二十二條ニ規定スル特許權移轉ノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ特許權以外ノ權利ニ關スル登錄又ハ其ノ特許權若ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄アルトキハ其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第五十四條ノ二 第四十四條ノ二ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 假登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

第五十六條 假登錄ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登錄ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縱線ヲ劃スヘシ

第五十七條 假登錄ヲ爲シタル後本登錄ノ申請アリタルトキハ假登錄ノ左側ノ餘白ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ假登錄ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同シ

第五十八條 特許登錄令第三條第一號ニ依ル豫告登錄ハ登錄用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲スヘシ

第五十九條 登錄ヲ完了シタルトキハ登錄原因ヲ證スル書面ニ特許番號、申請書受付ノ年月日、受付番號、順位番號、登錄年月日及登錄濟ノ旨ヲ記載シ特許局ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登錄權利者ニ還付スヘシ但シ申請書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附スルコト能ハサルモノノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ登錄權利者又ハ第二項ニ規定スル債權者、受益者若ハ委託者ニ登錄原因ヲ證スル書面ニ記載スヘキ事項登錄ノ原因及其ノ日附竝登錄ノ目的ヲ通知スヘシ

特許登錄令第二十七條、第五十六條又ハ第六十五條第二項ニ規定スル申請ニ依リ登錄ヲ完了シタルトキハ前項ノ規定ニ依リ登錄權利者ニ還付スヘキ書面ハ之ヲ債權者又ハ受益者若ハ委託者ニ還付スヘシ此ノ場合ニ於テハ登錄權利者ニ前項但書ニ揭クル事項及債權者又ハ受益者若ハ委託者ノ氏名名稱ヲ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ登錄義務者ニ特許番號、登錄權利者ノ氏名名稱、登錄ノ原因及其ノ日附、登錄ノ目的、登錄年月日竝登錄濟ノ旨ヲ通知スヘシ但シ登錄義務者カ共有者ノ一人ナル場合ニ於テハ尙他ノ共有者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第六十條 削除

第六十一條 削除

第六十二條 特許登錄令第四十七條第二項ニ規定スル登錄ヲ完了シタルトキハ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ表示、登錄原因、其ノ日附、登錄權利者ノ氏名名稱及住所、登錄ノ目的及登錄濟ノ旨ヲ特許權者、制限附移轉ノ特許權者及特許權以外ノ權利者ニ通知スヘシ

第六十二條ノ二 特許登錄令第五十五條、第五十八條、第五十九條、第六十五條第一項又ハ第六十七條ニ規定スル申請ニ依リ登錄ヲ爲シタルトキハ前條ニ揭クル事項ヲ受益者ニ通知スヘシ

附 則

第六十三條 本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條 特許登錄令第五十九條乃至第六十一條ノ規定ニ依リ舊特許登錄令ニ依ル場合ニ於ケル登錄手續ニ付テハ仍舊則ニ依ル

第六十五條 舊特許登錄令附則第二項ニ規定スル舊特許原簿ニ登錄セラレタル權利ニ關シ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ新特許原簿中相當欄ニ舊特許原簿中抹消ニ係ラサル登錄ヲ移シ且其ノ末尾ニ舊特許原簿第何册第何丁ヨリ移シタル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ舊特許原簿中相當欄ニ新特許原簿第何册第何丁ニ移シタル旨ヲ記載シ其ノ登錄ヲ朱抹スヘシ

附 則（大正十一年十二月農令第二十九號）

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

特許番號	
表題部	表示番號
	表示欄
甲區	順位番號
	事項欄
乙區	順位番號
	事項欄
丙區	順位番號
	事項欄
丁區	順位番號
	事項欄
代理人欄	
特許料金欄	
追加特許番號欄	

第一號ノ二様式

特許信託番號	信託財産 表示番號	信託財産 表示欄	信託ノ當事者及條項 表示番號	信託ノ當事者及條項 事項欄

第二號様式

備考	申請人ノ氏名名稱	登錄ノ目的	特許番號	受付番號	受付年月日

●辨理士法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行スルノ件

大正十一年一月
勅令第九號

朕辨理士法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

辨理士法ハ之ヲ朝鮮及臺灣ニ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●辨理士法

大正十年四月
法律第百號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル辨理士法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

辨理士法

第一條　辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關シ特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條　左ノ條件ヲ具フル者ハ辨理士タル資格ヲ有ス

一　帝國臣民又ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト
二　帝國内ニ住所ヲ有スルコト
三　辨理士試驗ニ合格シタルコト

辨理士試驗ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第三號ニ規定スル條件ヲ要セスシテ辨理士タル資格ヲ有ス

一　辨理士法ニ依リ辨理士タル資格ヲ有スル者
二　高等試驗ノ行政科試驗若ハ司法科試驗又ハ判事檢事登用試驗ニ合格シタル者
三　特許局ニ於テ高等官ニ在職シテ二年以上審判又ハ審査ノ事務ニ從事シタル者

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ辨理士試驗委員ノ銓衡ニ依リ第二條第一項第三號ニ規定スル條件ヲ要セスシテ辨理士タル資格ヲ有ス

一　學位ヲ有スル者
二　帝國大學ノ學部又ハ之ト學科程度同等以上ト認ムル内外國ノ學校ニ於テ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者
三　特許局ニ於テ判任以上ノ官ニ在職シテ五年以上審査ノ事務ニ從事シタル者

第五條　左ニ掲クル者ハ辨理士タルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
二　前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第二十二條、特許法第百二十九條、第百三十條、第百三十三條若ハ第百三十五條、實用新案法第二十七條、第二十八條、第三十一條若ハ第三十三條、意匠法第二十六條、第二十七條、第三十條若ハ第三十二條又ハ商標法第三十四條、第三十五條若ハ第三十八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
三　破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
四　業務停止ノ期間中業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者又ハ業務禁止ノ處分アリタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過セサル者

第六條　特許局ニ辨理士登錄簿ヲ備ヘ辨理士ニ關スル事項ヲ登錄ス

辨理士タラムトスル者ハ辨理士登錄簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス

辨理士ノ登錄ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　辨理士ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ登錄料トシテ二十圓ヲ納付スヘシ

第八條　辨理士ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事件ニ付其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

一　相手方ノ代理人トシテ取扱ヒタル事件
二　裁判所又ハ特許局ニ在職中取扱ヒタル事件

第九條　辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關スル事項ニ付裁判所ニ於テ本人ト共ニ出頭シテ本人ノ爲演述ヲ爲スコトヲ得其ノ演述ハ本人卽時ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキニ限リ本人自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依リ帝國臣民ニ非サル辨理士出頭シテ演述ヲ爲サムトスルトキハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　辨理士ハ特許局所在地ニ辨理士會ヲ設立スヘシ

辨理士會ハ支部ヲ設クルコトヲ得

第十一條　辨理士會ハ辨理士ノ風紀ヲ保持シ業務ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第十二條　辨理士會ハ法人トス

第十三條　辨理士會ハ農商務大臣之ヲ監督ス

第十四條　辨理士會ハ會則ヲ設ケ役員ニ關スル事項、會議ニ關スル事項、辨理士ノ風紀保持ニ關スル事項、謝金及手數料ニ關スル事項其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル事項ヲ規定スヘシ

會則ハ特許局長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ會則ノ變更ニ付亦同シ

第十五條　辨理士會ノ設立ノ手續、機關ノ組織及監督ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　辨理士ハ辨理士會ニ加入シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第十七條　辨理士本法又ハ辨理士會ノ會則ニ違反スル行爲アルトキハ農商務大臣ハ辨理士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

辨理士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　辨理士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一　譴責
二　五百圓以下ノ過料
三　一年以内業務ノ停止
四　業務ノ禁止

第十九條　辨理士會ハ辨理士ニ對シ懲戒ノ必要アリト認メタルトキハ特許局長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ申告スヘシ

第二十條　農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依ル辨理士會ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ辨理士懲戒委員會ヲ招集ス

第二十一條　過料ヲ完納セサルトキハ特許局長官ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル執行ニ付之ヲ準用ス

第二十二條　辨理士又ハ辨理士タリシ者故ナク其ノ業務上知得シタル發明者、考案者、特許出願者又ハ登錄出願者ノ發明、考案又ハ事務上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

附　則

第二十三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　特許辨理士令及特許辨理士組合規則ハ之ヲ廢止ス

第二十五條　本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年以上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第二十六條　第五條第一號ニ該當スル者ヲ除クノ外舊特許法第九十二條、第九十三條若ハ第九十七條、舊實用新案法第二十二條、第二十三條若ハ第二十七條、舊意匠法第二十四條、第二十五條若ハ第二十九條又ハ舊商標法第二十三條、第二十四條若ハ第二十八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ハ辨理士タルコトヲ得ス但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル資格ヲ有スル者ハ辨理士タル資格ヲ有スル者ト看做ス

第二十八條　本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル者ハ辨理士ト看做ス

第二十九條　特許辨理士登錄簿ハ辨理士登錄簿ト看做ス

第三十條　第十六條ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ起算シ六月間之ヲ適用セス

●辨理士法施行令

大正十年十二月
勅令第四百六十六號
改正　昭和八年七第二〇〇號

朕辨理士法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

辨理士法施行令

第一章　辨理士試驗

第一條　辨理士試驗ハ毎年一回東京ニ於テ之ヲ行フ其ノ期日及場所ハ商工大臣之ヲ定メ豫メ官報ヲ以テ公告ス

第二條　辨理士試驗ハ辨理士試驗委員之ヲ行フ

辨理士試驗委員ハ委員長一人常任委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ外必要アルトキハ試驗施行毎ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　委員長、常任委員及臨時委員ハ特許局高等官、司法省高等官及辨理士ノ中ヨリ商工大臣之ヲ命ス

第四條　委員長ハ常任委員及臨時委員ヲ監督シ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第五條　辨理士法第五條又ハ第二十六條ノ規定ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第六條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ第八條第二項ノ規定ニ依リ選擇シタル科目ヲ記載シ履歷書ヲ添附シ之ヲ委員長ニ差出スヘシ

第七條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ手數料トシテ十圓ヲ納付スヘシ

手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

手數料ハ願書ヲ取下ケタルトキ又ハ試驗ヲ受ケサルトキト雖之ヲ還付セス

第八條　試驗ハ筆記及口述トシ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

一　特許、實用新案、意匠及商標ニ關スル法令及條約類
二　民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法及國際私法
三　應用理學及應用化學

筆記試驗ハ受驗者ノ選擇ニ依リ前項第一號及第二號ノ科目又ハ同項第一號及第三號ノ科目ニ付之ヲ行フ

口述試驗ハ第一項第一號ノ科目ニ付之ヲ行フ

第九條　不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケムトシタル者ハ其ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス試驗合格決定後發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

第十條　試驗合格者ヲ定ムル方法ハ辨理士試驗委員ノ議定スル所ニ依ル

第十一條　試驗合格者ニハ合格證書ヲ授與ス

第十二條　試驗合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二章　辨理士ノ登錄

第十三條　辨理士ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ氏名、住所及事務所ヲ記載シ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附シ之ヲ特許局長官ニ差出スヘシ

第十四條　登錄料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第十五條　特許局長官ハ辨理士ノ登錄ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ登錄ヲ拒否シタルトキハ申請人ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ規定ニ依ル登錄ノ拒否ノ通知ニハ理由ヲ附スヘシ

第十六條　登錄ノ拒否ノ通知ヲ受ケタル者其ノ拒否ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十七條　特許局長官ハ辨理士登錄簿ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　氏名及住所
二　事務所
三　登錄ノ年月日
四　辨理士會加入及脫退ノ年月日
五　懲戒

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長官ハ辨理士ノ登錄ヲ抹消スヘシ

一　登錄抹消ノ申請アリタルトキ
二　死亡シタルトキ
三　辨理士タル資格ヲ具ヘサルカ又ハ具ヘサルニ至リタルトキ

第十九條　特許局長官ハ前條第三號ノ規定ニ依リ登錄ヲ抹消シタルトキハ登錄ヲ抹消セラレタル者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ規定ニ依ル通知ニハ理由ヲ附スヘシ

第二十條　前條ノ通知ヲ受ケタル者登錄ノ抹消ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十一條　特許局長官ハ辨理士ノ登錄又ハ其ノ抹消若ハ回復ヲ爲シタルトキハ官報、特許公報、實用新案公報、意匠公報及商標公報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第二十二條　辨理士ハ其ノ氏名、住所又ハ事務所ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ特許局長官ニ屆出ツヘシ

辨理士死亡シタルトキハ其ノ相續人又ハ親族ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ特許局長官ニ屆出ツ

ヘシ

第三章　辨理士會

第二十三條　辨理士會ハ每年定期總會ヲ開ク

辨理士會ハ必要アル場合ニ於テハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

總會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會務ニ付議決ス

第二十四條　辨理士會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　理事　若干人

二　常議員　若干人

理事ハ會則ノ定ムル所ニ依リ辨理士會ヲ代表シ會務ヲ執行ス

常議員ハ會務執行ノ狀況ヲ監査シ會則ノ定ムル事項ニ付審議ス

理事及常議員ハ總會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ選任ス

第二十五條　辨理士會ハ商工大臣又ハ特許局長官ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

辨理士會ハ商工大臣又ハ特許局長官ニ建議スルコトヲ得

第二十六條　辨理士會ハ左ノ事項ヲ遲滯ナク特許局長官ニ報告スヘシ

一　會員ノ加入及脫退

二　役員ノ選任及解任

三　總會ノ決議

四　特許局長官ニ於テ報告ヲ求メタル事項

第二十七條　商工大臣ハ總會ノ決議又ハ役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ又ハ役員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第四章　辨理士懲戒委員會

第二十八條　辨理士懲戒委員會ハ委員長一人委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス

委員會ニ豫備委員四人ヲ置ク

委員長ハ特許局長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員及豫備委員ハ內各二人ハ特許局高等官ノ中ヨリ、其ノ他ノ委員及豫備委員ハ辨理士ノ中ヨリ商工大臣之ヲ命ス

第二十九條　委員會ノ議事ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第三十條　委員長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員之ヲ代理ス

委員中闕員アルトキ、事故アル者アルトキ又ハ委員長ヲ代理スル者アルトキハ委員長ノ指名シタル豫備委員之ヲ代理ス

第三十一條　委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス但シ補闕ノ爲命セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第三十二條　委員會ニ書記三人ヲ置ク

書記ハ特許局判任官ノ中ヨリ商工大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第三十三條　辨理士法第十九條ノ規定ニ依ル申告ハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十四條　委員會ノ招集ア リタルトキハ委員長ハ懲戒スヘキ行爲及證據ヲ示シテ其ノ旨ヲ本人ニ通知シ且期間ヲ指定シテ之ニ辯明ノ機會ヲ與フヘシ

第三十五條　委員會ハ必要アリト認ムルトキハ口頭審理ノ期日ヲ定メ本人ノ出頭ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ本人ハ他人ヲシテ辯護セシメ又ハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

第三十六條　辨理士會カ辨理士法第十九條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル場合ニ於テハ委員會ハ前條ノ期日ヲ辨理士會ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ辨理士會ハ其ノ代表者ヲシテ口頭審理ニ出頭シテ辯論ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條　委員長、委員及豫備委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ干與スルコトヲ得ス

第三十八條　委員會ノ審理手續ハ委員會之ヲ定ム

第三十九條　委員會議決ヲ爲シタルトキハ委員長ハ直ニ其ノ旨ヲ商工大臣ニ報告スヘシ

附　則

第四十條　本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

特別辨理士試驗規則ハ之ヲ廢止ス

第四十一條　商工大臣ハ辨理士會ノ設立ニ關スル事務ヲ行ハシムル爲本令施行後三十日以內ニ辨理士中ヨリ三十人ノ設立委員ヲ選任スヘシ

第四十二條　設立ニ關スル事務ハ設立委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第四十三條　設立委員ハ選任ノ日ヨリ六十日以內ニ設立總會ヲ招集スヘシ

第四十四條　設立總會ニ於テハ辨理士會ノ會則ヲ議定シ役員ヲ選任スヘシ

第四十五條　設立總會ノ議事ハ出席シタル辨理士ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

附　則（昭和八年七月勅令第二百號）

本令ハ昭和八年法律第十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉韓國特許辨理士令ニ依ル登錄ハ特許辨理士令ニ依ル登錄ト看做スノ件

明治四十三年八月

勅令第三百三十九號

脫朝鮮ニ於ケル特許辨理士ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

韓國特許辨理士令ニ依ル登錄ハ特許辨理士令ニ依ル登錄ト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉工業所有權戰時法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行ノ件

大正六年九月

勅令第百四十三號

脫朝鮮及臺灣ニ工業所有權戰時法施行等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　工業所有權戰時法第五條ノ規定ニ依リ帝國ニ於テ享有スル專用權ノ效力ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ及フモノトス

第二條　帝國臣民カ工業所有權戰時法第五條ノ規定ニ依リ帝國ニ於テ享有スル專用權ノ效力ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ及フモノトス

第三條　工業所有權戰時法中ノ罰ニ關スル規定ハ帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ對シ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉工業所有權戰時法施行規則

大正六年九月

農商務省令第二十二號

工業所有權戰時法施行規則左ノ通定ム

第一條　專用ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書面ヲ添附シ農商務大臣ニ申請書ヲ差出スヘシ

一　發明、實用新案又ハ意匠ノ明細書、圖面及圖案

二　事業計畫書及收支豫算書

三　申請人カ當該特許發明ニ付利害關係ヲ有スルトキハ其ノ關係ヲ證スルニ足ル書面

四　法人ニ在リテハ定款竝最近ノ財產目錄及貸借對照表

第二條　專用免許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當該特許發明ノ特許番號、名稱、特許ノ年月日及特許權者ノ氏名又ハ名稱及住所

二　專用セムトスル期間

三　事業期ヲ定メタルトキハ其ノ事業期

四　當該特許發明ノ專用ヲ必要トスル理由

專用免許申請ノ手數料ヲ收入印紙ヲ申請書ニ貼付シ之ヲ納付スヘシ

第三條　專用免許ノ申請カ繫屬スル場合ニ於テ當該特許發明ニ付專用免許ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ最先ニ爲サレタル申請ノ公告ノ日ヨリ三十日內ニ之ヲ爲スヘシ

第四條　專用免許ノ申請アリタル場合ニ於テ當該特許發明ニ付利害關係ヲ有スル者ハ最先ニ爲サレタル申請ノ公告ノ日ヨリ三十日內ニ限リ其ノ申請ノ許否ニ關シ意見書ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ得

第五條　專用免許ノ申請アリタルトキハ特許局長ハ意見書ヲ作リ之ヲ申請書ニ添附スヘシ

第六條　左ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其ノ旨ヲ官報及公報ニ公告スヘシ

一　特許又ハ商標登錄取消ノ處分アリタルトキ

二　專用免許ノ申請アリタルトキ

三　專用免許ノ申請ニ付許否ノ處分アリタルトキ

四　專用權ノ消滅シタルトキ

第七條　敵國人ニ非サル者ノ出願、請求若ハ出訴又ハ特許權若ハ商標權ニシテ其ノ利益カ主トシテ敵國人ニ歸スルモノニ付テハ前六條ノ規定ヲ準用ス

第八條　戰爭終了ノ際ニ於ケル必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　本法ニ依ル專用權ヲ侵害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◉工業所有權戰時法施行期日

大正六年九月

勅令第百四十號

脫工業所有權戰時法施行期日ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

工業所有權戰時法ハ大正六年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

◉工業所有權戰時法施行令

大正六年九月

勅令第百四十一號

脫工業所有權戰時法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

工業所有權戰時法施行令

第一條　工業所有權戰時法ニ依ル特許又ハ商標登錄ノ取消ハ職權ヲ以テ特許發明ノ專用免許ハ申請ニ因リ農商務大臣之ヲ爲ス

前項ノ規定ニ依ル處分ハ時局ノ關係ニ於テ軍事上又ハ公益上必要アルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條第一項ノ規定ニ依ル處分ハ農商務部內ノ高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ農商務大臣ノ命シタル五人又ハ七人ノ調査委員ノ審査ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第三條　專用ノ免許ハ同時ニ免許ヲ爲シ又ハ既ニ爲シタル免許ノ趣旨ニ反セサルトキニ限リ數人ニ對シ各別ニ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　專用ノ免許ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第五條　專用權ハ登錄ニ依リ發生ス

第六條　專用權ノ讓渡ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條　專用權者ハ每年二月末日迄ニ前年ニ於ケル當該特許發明ノ實施報告書及收支計算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ別ニ事業期ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ事業期終了後二月內ニ之ヲ差出スヘシ

第八條　專用料額ノ決定アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ專用權者ニ通知スヘシ

第九條　專用權者ハ每年ニ月末日迄ニ前年ニ於ケル當該特許發明ノ實施報告書及收支計算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ別ニ事業期ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ事業期終了後二月內ニ之ヲ差出スヘシ

專用權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付亦前項ニ同シ

第六條　專用ノ免許ヲ申請スル者ハ一件毎ニ手數料五十圓ヲ納付スヘシ

第七條　專用權者ハ農商務大臣カ第一條第三項ノ調査委員ノ審査ヲ經テ定メタル標準ニ依リ專用料ヲ納付スヘシ

前項ノ標準ハ當該特許發明ノ實施ニ依ル生產物ノ價額ノ百分ノ三乃至十ノ範圍內ニ於テ之ヲ定ム但シ特別ノ事由アルトキハ之ニ依ラサルコトヲ得

第八條　農商務大臣ハ何時ニテモ專用權者ヲシテ其ノ事業若ハ財產ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ事業若ハ財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第九條　前三條ノ規定ハ國ノ專用ニ付之ヲ適用セス

第十條　專用權者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ專用ノ免許ヲ取消スコトヲ得

一　正當ノ事由ナクシテ專用權發生ノ日ヨリ三月內ニ當該特許發明ノ實施ノ準備ニ著手セサルトキ

二　當該特許發明ノ適當ニ實施セサルトキ

三　專用免許ノ條件ニ違反シタルトキ

四　專用料ノ納付ヲ怠リタルトキ

五　第八條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス、不正ノ報告ヲ爲シ又ハ檢査ヲ妨ケタルトキ

農商務大臣ハ軍事上又ハ公益上必要ト認ムルトキハ專用ノ免許ヲ取消スコトヲ得

附　則

本令ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉工業所有權戰時法施行規則

大正六年九月

農商務省令第二十二號

工業所有權戰時法施行規則左ノ通定ム

第一條　專用ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書面ヲ添附シ農商務大臣ニ申請書ヲ差出スヘシ

一　發明、實用新案又ハ意匠ノ明細書、圖面及圖案

二　事業計畫書及收支豫算書

三　申請人カ當該特許發明ニ付利害關係ヲ有スルトキハ其ノ關係ヲ證スルニ足ル書面

四　法人ニ在リテハ定款竝最近ノ財產目錄及貸借對照表

第二條　專用免許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當該特許發明ノ特許番號、名稱、特許ノ年月日及特許權者ノ氏名又ハ名稱及住所

二　專用セムトスル期間

三　事業期ヲ定メタルトキハ其ノ事業期

四　當該特許發明ノ專用ヲ必要トスル理由

專用免許申請ノ手數料ヲ收入印紙ヲ申請書ニ貼付シ之ヲ納付スヘシ

第三條　專用免許ノ申請カ繫屬スル場合ニ於テ當該特許發明ニ付專用免許ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ最先ニ爲サレタル申請ノ公告ノ日ヨリ三十日內ニ限リ其ノ申請ノ許否ニ關シ意見書ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ得

第四條　專用免許ノ申請アリタル場合ニ於テ當該特許發明ニ付利害關係ヲ有スル者ハ最先ニ爲サレタル申請ノ公告ノ日ヨリ三十日內ニ限リ其ノ申請ノ許否ニ關シ意見書ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ得

第五條　專用免許ノ申請アリタルトキハ特許局長ハ意見書ヲ作リ之ヲ申請書ニ添附スヘシ

第六條　左ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其ノ旨ヲ官報及公報ニ公告スヘシ

一　特許又ハ商標登錄取消ノ處分アリタルトキ

二　專用免許ノ申請アリタルトキ

三　專用免許ノ申請ニ付許否ノ處分アリタルトキ

四　專用權ノ消滅シタルトキ

第七條　專用權者ハ每年二月末日迄ニ前年ニ於ケル當該特許發明ノ實施報告書及收支計算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ別ニ事業期ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ事業期終了後二月內ニ之ヲ差出スヘシ

專用權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付亦前項ニ同シ

第六條　專用ノ免許ヲ申請スル者ハ一件毎ニ手數料五十圓ヲ納付スヘシ

第七條　專用權者ハ農商務大臣カ第一條第三項ノ調査委員ノ審査ヲ經テ定メタル標準ニ依リ專用料ヲ納付スヘシ

前項ノ標準ハ當該特許發明ノ實施ニ依ル生產物ノ價額ノ百分ノ三乃至十ノ範圍內ニ於テ之ヲ定ム但シ特別ノ事由アルトキハ之ニ依ラサルコトヲ得

第八條　農商務大臣ハ何時ニテモ專用權者ヲシテ其ノ事業若ハ財產ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ事業若ハ財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第九條　前三條ノ規定ハ國ノ專用ニ付之ヲ適用セス

第十條　專用權者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ專用ノ免許ヲ取消スコトヲ得

一　正當ノ事由ナクシテ專用權發生ノ日ヨリ三月內ニ當該特許發明ノ實施ノ準備ニ著手セサルトキ

二　當該特許發明ノ適當ニ實施セサルトキ

三　專用免許ノ條件ニ違反シタルトキ

四　專用料ノ納付ヲ怠リタルトキ

五　第八條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス、不正ノ報告ヲ爲シ又ハ檢査ヲ妨ケタルトキ

農商務大臣ハ軍事上又ハ公益上必要ト認ムルトキハ專用ノ免許ヲ取消スコトヲ得

附　則

本令ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉工業所有權戰時法施行規則

大正六年九月

農商務省令第二十二號

工業所有權戰時法施行規則左ノ通定ム

第一條　專用ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書面ヲ添附シ農商務大臣ニ申請書ヲ差出スヘシ

一　發明、實用新案又ハ意匠ノ明細書、圖面及圖案

二　事業計畫書及收支豫算書

三　申請人カ當該特許發明ニ付利害關係ヲ有スルトキハ其ノ關係ヲ證スルニ足ル書面

四　法人ニ在リテハ定款竝最近ノ財產目錄及貸借對照表

第二條　專用免許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當該特許發明ノ特許番號、名稱、特許ノ年月日及特許權者ノ氏名又ハ名稱及住所

二　專用セムトスル期間

三　事業期ヲ定メタルトキハ其ノ事業期

四　當該特許發明ノ專用ヲ必要トスル理由

專用免許申請ノ手數料ヲ收入印紙ヲ申請書ニ貼付シ之ヲ納付スヘシ

第三條　專用免許ノ申請カ繫屬スル場合ニ於テ當該特許發明ニ付專用免許ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ最先ニ爲サレタル申請ノ公告ノ日ヨリ三十日內ニ限リ其ノ申請ノ許否ニ關シ意見書ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ得

第四條　專用免許ノ申請アリタル場合ニ於テ當該特許發明ニ付利害關係ヲ有スル者ハ最先ニ爲サレタル申請ノ公告ノ日ヨリ三十日內ニ限リ其ノ申請ノ許否ニ關シ意見書ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ得

第五條　專用免許ノ申請アリタルトキハ特許局長ハ意見書ヲ作リ之ヲ申請書ニ添附スヘシ

第六條　左ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其ノ旨ヲ官報及公報ニ公告スヘシ

一　特許又ハ商標登錄取消ノ處分アリタルトキ

二　專用免許ノ申請アリタルトキ

三　專用免許ノ申請ニ付許否ノ處分アリタルトキ

四　專用權ノ消滅シタルトキ

第六條　工業所有權戰時法ニ依ル商標ノ登錄ノ取消ニ關シテハ本令中特許ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條　專用權ノ變更又ハ專用免許ノ條件ノ附加、變更若ハ除去ノ登錄ニ付テハ特許登錄令ヲ準用ス

附　則

本令ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●工業所有權戰時法登錄令施行規則

大正六年九月
農商務省令第二十三號

工業所有權戰時法登錄令施行規則左ノ通定ム

第一條　工業所有權戰時法登錄令ニ依ル特許ノ取消ニ關スル事項ハ特許原簿ノ表示欄ニ之ヲ記載シ專用免許ノ申請、專用權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限若ハ消滅又ハ專用免許ノ條件ノ附加、變更若ハ除去及專用權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ關スル事項ハ特許原簿ノ丙區事項欄ニ之ヲ記載スヘシ

第二條　職權ニ因ル登錄ハ處分、屆出又ハ申請アリタル順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第三條　特許ノ取消アリタルトキハ原及其ノ年月日ヲ記載シ特許權ノ表示、表示番號及特許番號ヲ朱抹スヘシ

第四條　專用免許申請ノ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、申請者ノ氏名又ハ名稱及住所竝申請ノ要旨ヲ記載スヘシ

第五條　專用權設定ノ登錄ヲ爲スニハ專用權者ノ氏名又ハ名稱及住所、免許アリタル旨及其ノ日附、專用料ノ期間、條件ヲ附シタルトキハ其ノ條件竝專用料ノ標準ヲ記載スヘシ

第六條　讓渡ニ因ル專用權移轉ノ登錄ヲ爲スニハ讓渡認可申請書受附ノ年月日、受附番號、專用權ノ表示、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱及住所、認可アリタル旨及其ノ日附竝登錄ノ目的ヲ記載スヘシ

相續ニ因ル專用權ノ移轉ノ屆出アリタルトキハ其ノ年月日、受附番號、專用權ノ表示、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱及住所、原因、其ノ日附竝登錄ノ目的ヲ記載スヘシ

第七條　專用權ノ變更又ハ專用免許ノ條件ノ附加、變更若ハ除去ノ登錄ヲ爲スニハ專用權ノ表示、原因及其ノ日附ヲ記載シ專用權ノ登錄ヲ朱抹スヘシ

抛棄ニ因ル專用權消滅ノ登錄ヲ爲スニハ前項ニ記載シタル事項ノ外屆書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ

第八條　商標ノ登錄ニ關シテハ本則中特許ノ取消ニ關スル規定及明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登錄ニ關スル件施行規則第八條ノ規定ヲ準用ス

第九條　工業所有權戰時法登錄令ニ依ル登錄ニ關シテハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外特許登錄令施行規則ヲ準用ス

附　則

本則ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件

大正九年一月
勅令第九號

脫工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件特許權ヲ有スル者又ハ其ノ承繼人ニシテ本令施行ノ際現ニ特許權ノ效力ヲ有スルモノハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ抹消ス

●平和條約ノ實施ニ伴フ流通證券及工業所有權ニ關スル件

大正九年三月
法律第一號

脫帝國議會ノ協賛ヲ經タル平和條約ノ實施ニ伴フ流通證券及工業所有權ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第三百一條第二項ノ期間ハ六月トシ同條約第三百七條第一項ノ期間ハ一年トス

第二條　同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第三百七條第二項ノ規定ニ依リ效力ヲ同復シタル特許權、實用新案權若ハ意匠權又ハ之ニ關スル一切ノ權利ノ效力ハ其ノ同復前當該ノ發明、考案又ハ意匠ニ付權利ヲ取得シ又ハ實施ヲ開始シタル者及其ノ承繼人竝其ノ權利又ハ實施ニ依リ製作シタル物ニ及ホス

第三條　前二條ノ規定ノ適用ヲ受クル事項ト同樣ノ事項ニシテ同盟及聯合國ト獨逸國以外ノ國トノ平和條約ニ基クモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前二條ノ規定ヲ準用スルコトヲ得之ヲ準用シ難キ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約實施ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特許法、意匠法及實用新案法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件

明治四十三年八月
勅令第三百三十六號

改正　大正二年一二第五一八號

脫玆ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ特許法、意匠法及實用新案法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條　本令施行前特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ノ效力ハ朝鮮ニ於テ同一ノ事項ニ付特許權、意匠權又ハ實用新案權ニ及ホサルモノトス

第二條　韓國特許令、韓國意匠令又ハ韓國實用

許發明ニ付專用ヲ免許シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　工業所有權戰時法施行令又ハ本則ノ規定ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ特許局長ヲ經由スヘシ

附　則

本則ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●工業所有權戰時法登錄令

大正六年九月
勅令第百四十二號

脫工業所有權戰時法登錄令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

工業所有權戰時法登錄令

第一條　左ニ揭ケル事項ニ關スル登錄ハ本令ニ依ル

一　工業所有權戰時法ニ依ル特許ノ取消

二　專用免許ノ申請、專用權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限若ハ消滅又ハ專用免許ノ條件ノ附加、變更若ハ除去

三　專用權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅

第二條　特許ノ取消アリタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

第三條　專用免許ノ申請アリタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

第四條　左ノ場合ニ於テハ特許局長ハ特許原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

一　專用ノ免許アリタルトキ

二　專用權讓渡ノ認可アリタルトキ

三　相續ニ因ル專用權ノ移轉ノ屆出アリタルトキ

四　職權ニ因ル專用權ノ變更アリタルトキ

五　專用免許ノ條件ノ附加、變更又ハ除去アリタルトキ

六　專用權ノ存續期間滿了シタルトキ、專用權抛棄ノ屆出又ハ專用免許ノ取消アリタルトキ其ノ他專用權ノ消滅シタルトキ

第五條　第三條ノ規定ニ依ル登錄ハ專用免許ノ申請ノ却下又ハ取下アリタルトキハ特許局長之ヲ扶助スヘシ

●工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件

大正九年一月
勅令第九號

脫工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件特許權ヲ有スル者又ハ其ノ承繼人ニシテ本令施行ノ際現ニ特許權ノ效力ヲ有スルモノハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ看做ス

前項ノ特許權、意匠權又ハ實用新案權ノ效力ハ本令施行前同一ノ事項ニ付特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ヲ有スル者アル場合ニ於テハ朝鮮以外ニ及ハサルモノトス

第三條　本令施行ノ際同一人ニシテ同一發明ニ付特許法及韓國特許令ニ依リ發生シタル特許權ヲ有スルトキハ其ノ存續期間ノ短キモノハ消滅スルモノトス

第四條　特許法ニ依リ發生シタル特許權ノ效力ハ朝鮮ニ於テ、第二條第一項ノ規定ニ依ル特許權ノ效力ハ朝鮮以外ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一　本令施行ノ際現ニ其ノ發生實施ノ事業ヲ爲シ若ハ設備ヲ有スル者又ハ其ノ承繼人ノ特許發明ノ實施

二　本令施行ノ際現存スル物及前號ニ依リ製作シタル物

第五條　韓國特許令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ特許法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第六條　前三條ノ規定ハ意匠又ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第七條　韓國特許令、韓國意匠令及韓國實用新案令ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十四年三月帝國議會承諾）

●特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手數料ノ件

大正十年十二月
勅令第四百六十五號

改正　大正一年一二第五一八號

脫明治四十二年勅令第三百三號特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手數料ノ件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　特許法、實用新案法、意匠法若ハ商標法又ハ之ニ基キテ發スル勅令ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一	特許出願	每一件　十圓
二	追加ノ特許出願	每一件　五圓
三	特許異議ノ申立又ハ特許法第五十三條ノ許可ニ付テノ許可異議ノ申立	每一件　五圓
四	特許異議又ハ特許法第五十三條ノ許可ニ付テノ許可異議ノ參加申請	每一件　三圓
五	特許出願人ノ名義變更屆	每一件　三圓
六	追加ノ特許出願人ノ名義變更屆	每一件　五圓
七	特許證複本ノ申請	每一件　三圓
八	追加ノ特許證複本ノ申請	每一件　三圓
九	特許權存續期間延長ノ出願	每一件　五十圓
十	特許ノ取消ノ請求	每一件　二十圓
十一	實施權許與ノ取消請求	每一件　二十圓
十二	實施權許與ノ取消請求	每一件　二十圓
十三	特許出願公告猶豫ノ請求	每一件　三圓
十四	實用新案登錄出願	每一件　三圓
十五	實用新案ノ登錄異議ノ申立又ハ實用新案法第十四條ノ許可ニ付テノ許可異議ノ申立	每一件　三圓
十六	實用新案ノ登錄異議又ハ實用新案法第十四條ノ許可ニ付テノ許可異議ノ參加申請	每一件　二圓
十七	實用新案登錄出願人ノ名義變更屆	每一件　二圓
十八	實用新案登錄證複本ノ申請	每一件　三圓
十九	實用新案登錄出願公告猶豫ノ請求	每一件　二圓
二十	意匠登錄出願	每一件　二圓
二十一	意匠チ祕密ニセムトスルノ請求	每一件　二圓
二十二	意匠登錄出願人ノ名義變更屆	每一件　一圓
二十三	意匠登錄證複本ノ申請	每一件　一圓
二十四	商標又ハ標章ノ登錄出願	每一件　七圓
二十五	團體標章ノ登錄出願	每一件　三十圓
二十六	商標、標章又ハ團體標章ノ登錄異議ノ申立	每一件　五圓
二十七	商標、標章又ハ團體標章ノ登錄異議ノ參加申請	每一件　三圓
二十八	商標又ハ標章ノ登錄出願人ノ名義變更屆	每一件　三圓
二十九	團體標章登錄出願人ノ名義變更屆	每一件　十五圓
三十	商標權又ハ標章權存續期間更新ノ登錄出願	每一件　十圓
三十一	團體標章權存續期間更新ノ登錄出願	每一件　五十圓
三十二	法定期間延長ノ請求	每一件　一圓
三十三	期間ノ懈怠ノ結果チ免レムトスル請求	每一件　三圓
三十四	證明ノ申請	每一件　一圓
三十五	書類ノ謄本ノ申請	謄本一枚ニ付二十錢歐文書類ハ百語ニ付二十錢百語ニ滿タサルモノハ亦同シ但シ書類中圖面アルトキハ其ノ部分ニ關シテハ圖面調製ノ例ニ依ル
		寫眞ニ依ル場合ニ於テハ四ツ切一枚ニ付五圓以下ニ於テ特許局ノ定ムル所ニ依ル
三十六	圖面ノ調製ノ申請	圖面一枚ニ付一圓以上三十圓以下ニ於テ特許局ノ定ムル所ニ依ル但シ寫眞ニ依ル場合ニ於テハ四ツ切一枚ニ付五圓以下トス
三十七	書類ノ閱覽又ハ謄寫ノ申請	每一件　一時間二十五錢一時間ニ滿タサルモノハ亦同シ
三十八	實用新案又ハ意匠ノ登錄出願ノ査定ニ對スル抗告審判ノ請求	每一件　十二圓
三十九	審判、抗告審判ノ請求又ハ再審ノ請求	每一件　二十圓
四十	審判、抗告審判又ハ再審ノ參加申請	每一件　五圓
四十一	卽時抗告	每一件　二圓
四十二	費用額決定ノ請求	每一件　一圓
四十三	費用額決定又ハ補償金額ノ確定ノ決定若ハ審決ノ執行力アル正本ノ請求	每一件　一圓
	受託者カ信託ニ依リ前項ニ揭ケル手續チ爲ストキハ前項ニ規定スル手數料ノ外尙第一號、第二號、第五號、第六號、第二十四號、第二十五號、第二十八號又ハ第二十九號ノ場合ニ在リテハ每一件ニ圓チ、第十四號、第十七號、第二十號又ハ第二十二號ノ場合ニ在リテハ每一件五拾錢チ手數料トシテ納付スヘシ	
第二條	前條第二十號乃至第二十二號ニ規定	

スル手數料ハ自己ノ登錄意匠ニ類似スル意匠ニ付テハ各其ノ半額トス

第三條　前二條ノ規定ハ國力出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス

第四條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

特許法第百三十八條第一項、實用新案法第三十六條第一項、意匠法第三十五條第一項及商標法第四十一條第一項ノ規定ニ依ル手續ニ關スル手數料ニ付テハ仍舊令ニ依ル

附　則（大正十一年十二月勅令第五百十八號）

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉特許出願ニ關スル明細書及圖面調製標準

大正十年十二月
農商務省告示第四百十號

明治四十二年農商務省告示第四百二十五號左ノ通改正シ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

特許、實用新案、意匠及商標ニ關スル明細書、圖面、雛形、見本及商標ノ印版ノ調製心得

第一　特許出願ニ關スル明細書及實用新案登錄出願ニ關スル說明書ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ

一　明細書及說明書ハ美濃紙二ツ折ニシテ凡ソ其ノ上部ニ三「センチメートル」（曲尺一寸）、下部ニ二・四「センチメートル」（曲尺一寸八分）、左ニ〇・六「センチメートル」（二分）右ニ三「センチメートル」（一寸）ノ餘白ヲ存シ楷書又ハ行書ニテ鮮明ニ十二行ニ二十四字詰ニ記載スヘシ

二　明細書及說明書中圖面ト對照シテ說明スルモノアルトキハ其ノ指示スヘキ部分ニ適當ナル名稱及符號ヲ用ウヘシ

第二　特許出願又ハ實用新案登錄出願ニ關スル圖面ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ但シ圖面ノ副本ハ寫眞又ハ青色寫眞ヲ用ウルコトヲ得

一　圖面ハ縹水引美濃紙、覆寫紙（トレーシングペーパー）又ハ布（トレーシングクロース）ヲ用ヰ凡ソ其ノ上部ニ一・七「センチメートル」（曲尺九分）、下部ニ二・一「センチメートル」（七分）、左ニ〇・六「センチメートル」（二分）、右ニ五・五「センチメートル」（二寸八分）ヲ餘シ縱二二・八「センチメートル」（曲尺七寸五分）、橫一三・六「センチメートル」（四寸五分）以內ノ面內ニ製圖法ニ則リ濃墨ニテ鮮明ニ之ヲ記載スヘシ但シ特ニ細密ヲ要スルモノハ縱又ハ橫ノ長サヲ二倍ト爲スコトヲ得

二　圖面ニハ中心線ヲ用ウルコトヲ得ス但シ說明ニ必要ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　截斷面ヲ現ハスニハ平行線ヲ濃墨ヲ以テ斜ニ引クヘシ其ノ截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ヲ異ニシタル斜線ヲ用ウヘシ

四　截斷面ヲ現ハスニハ平行線ヲ濃墨ヲ以テ斜ニ引クヘシ其ノ截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ヲ異ニシタル斜線ヲ用ウヘシ

五　截斷面圖ノ必要アル場合ニハ他圖ニ於テ其ノ斷面ニ相當スル部分ニ鎖線ヲ引キテ其ノ如何ナル部分ナルカヲ示スコトヲ要ス

六　凹凸ノ部分ヲ明瞭ナラシムル爲圖面ニ陰影ヲ施ス必要アルトキハ線ヲ用ヰ濃墨ニテ鮮明ニ畫クヘシ射影ハ成ルヘク施スヘカラス若シ其ノ必要アル場合ニ於テハ線ヲ用ヰ濃墨ニテ畫クヘシ

七　圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ番號ヲ附シ又一部分ニシテ數圖ニ亙ルモノアルトキハ必ス同一ノ符號ヲ用ウヘシ但シ番號及符號ハ濃墨ニテ明瞭ニ之ヲ記スヘシ

八　符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサルトキハ其ノ部分ヨリ少シク離シテ之ヲ記シ他線ト判然區別シ得ヘキ線ヲ以テ其ノ部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル部分ト符號トヲ記スヘカラス已ムヲ得サルトキハ其ノ部分ニ限リ陰ヲ施サス

九　圖面ノ各葉ニハ出願人記名捺印スヘシ

第三　特許及實用新案ニ關シテ差出スヘキ雛形又ハ見本ハ堅牢ナル材料ヲ用ヰ三〇・三「センチメートル」（曲尺一尺）立方以內ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四　意匠登錄ノ出願ニ關スル圖面ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ

一　圖面ハ縹水引美濃紙、覆寫紙又ハ布（トレーシングクロース）ヲ用ヰ凡ソ其ノ上部ニ一・八「センチメートル」（曲尺六分）、下部ニ一・二「センチメートル」（四分）、左ニ〇・六「センチメートル」（二分）、右ニ四・二「センチメートル」（一寸四分）ヲ餘シ縱二四・二「センチメートル」（曲尺八寸）、橫一四・五「センチメートル」（四寸八分）ノ面內ニ鮮明ニ之ヲ記載スヘシ

二　紙面ニ貼附シタル寫眞ヲ差出シ圖面ノ差出ニ代フル場合ニ於テハ前號ノ例ニ準シ之ヲ貼附スヘシ但シ寫眞ニハ臺紙ヲ附スヘカラス

三　紙面ニ貼付シタル雛形又ハ見本ヲ差出シ圖面ノ差出ニ代フル場合ニ於テハ紙面ノ上部ニ一・八「センチメートル」（曲尺六分）、下部ニ一・二「センチメートル」（四分）、左ニ〇・六「センチメートル」（二分）、右ニ四・二「センチメートル」（一寸四分）ヲ餘シ縱二四・二「センチメートル」（曲尺八寸）、橫一四・五「センチメートル」（四寸八分）以內ノ面內ニ其ノ雛形又ハ見本ヲ貼附スヘシ

四　圖面ノ各葉ニハ出願人記名捺印スヘシ

第五　意匠ニ關シテ差出スヘキ雛形又ハ見本ハ三〇・三「センチメートル」（曲尺一尺）立方以內ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第六　商標見本ハ强靭ナル紙料ヲ用ヰ其ノ長サ及幅ハ各二〇「センチメートル」（曲尺七寸六分）以內ノ面內ニ容易ニ變色又ハ褪色セサル繪具ヲ以テ之ヲ鮮明ニ

第七　特許出願ニ關スル權利ニ關スル特許公報ハ特許原簿ノ一部トシテ之ヲ保存スヘシ

第八條　特許出願ノ一箇ノ願書ニ依リ二箇以上ノ發明ニ付特許ヲ受ケントスル場合ニ於テハ其ノ一箇ノ發明ヲ主タル發明トシ其ノ他ノ發明ヲ從タル發明トス

第九條　第一條第一項ノ期間內ニ爲シタル申請ニ依ル登錄ノ完了セサル間ニ於テ滅失シタル特許原簿ニ登錄アリタル特許權又ハ之ニ關スル權利ニ關シ新ニ登錄ヲ爲スヘキトキハ第六條ノ規定ニ準シ假設特許原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ登錄濟證ニ假設特許原簿ニ登錄シタル旨ヲ記載スヘシ

第一條第一項ノ期間內ニ爲シタル申請ニ依ル登錄完了シタルトキハ商工大臣ノ其ノ旨ヲ告示ス

第十條　假設特許原簿ニ爲シタル登錄ハ登錄回復ノ申請ニ依ル登錄ノ完了後遡リテ之ヲ特許原簿ニ移スヘシ此ノ場合ニ於テ回復シタル登錄アルトキハ新登錄ノ順位番號欄ニハ回復シタル登錄ノ順序ヲ追ヒテ新ナル順位番號ヲ記載シ其ノ左側ニ假設特許原簿ニ於ケル順位番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登錄ノ末尾ニ假設特許原簿第何冊何丁ヨリ登錄ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ登錄官吏之ニ捺印スヘシ

特許原簿ニ登錄ヲ移シタルトキハ假設特許原簿ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第十一條　假設特許原簿ノ登錄ヲ特許原簿ニ移シタルトキハ登錄權利者ニ對シ本登錄濟證ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若シ回復登錄ヲ移シタル登錄ト紙觸スルトキハ當事者ニ對シ同時ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

登錄權利者カ本登錄濟證ノ下付ヲ申請スル場合ニ於テハ假設特許原簿ニ於ケル登錄ノ登錄濟證ヲ提出スヘシ

第十二條　登錄回復ノ手續ニ付テハ本則ニ規定スルモノノ外特許登錄令及特許登錄令施行規則ニ依ル

第十三條　通知ニ依リテ爲シタル登錄ノ回復手續ニ付テハ申請ニ依ル登錄回復ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉特許登錄令第十三條ノ規定ニ依ル滅失特許原簿回復規則

大正十二年十月
農商務省令臨第九號

敬正　大正一四年農商令第四號

特許登錄令第十三條ノ規定ニ依リ滅失特許原簿回復規則左ノ通定ム

第一條　特許原簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ商工大臣ハ三月ヨリ少カラサル期間ヲ定メ其ノ期間內ニ登錄ノ回復ヲ申請スル者ハ仍其ノ特許原簿ニ於ケル順位ヲ有スヘキ旨ヲ告示ス

前項ノ規定ニ依リ商工大臣ノ定メタル期間經過後ニ於テハ每一件三圓ノ手數料ヲ納付シテ登錄ノ回復ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第二條　前條ノ場合ニ於テハ登錄權利者ノミニテ登錄ノ回復ヲ申請スルコトヲ得

第三條　登錄回復ノ申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ但シ登錄回復ノ目的カ特許權ニ關スル權利ニ關スルトキハ第一號乃至第三號及第七號ノ事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

一　特許出願ノ年月日

二　願書番號

三　出願公告ノ年月日

四　登錄年月日

五　順位番號

六　受付年月日及受付番號

七　最近ニ納付シタル特許料及其ノ納付ノ年月日

第四條　登錄回復ノ申請書ニハ特許證、登錄濟證、特許權存續期間延長許可決定書又ハ專用兌許ニ關スル指令書及特許料ノ領收書ヲ添附スヘシ

滅失、紛失其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ前項ノ書類ヲ添附スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面及登錄通知書、特許原簿ノ謄本又ハ抄本、特許公報其ノ他證憑トナルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五條　登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ明細書及圖面ニ表示シ且其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ明細書及圖面ハ特許原簿ニ其ノ旨ヲ明細書ニ記載シタルモノヲ援用スル旨ヲ申請書ニ表示シテ其ノ添附ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許原簿ニ其ノ旨ヲ記載シ且其ノ援用セラレタル特許發明明細書ハ特許原簿ノ一部トシテ之ヲ保存スヘシ

第六條　第一條ノ規定ニ依ル登錄回復ノ申請ハアリタル場合ニ於テ登錄回復ノ手續ニ付テハ本令ニ規定スルモノノ外意匠登錄規則ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉滅失シタル實用新案原簿ノ回復ニ關スル件

大正十二年十月
農令臨第七號

滅失シタル實用新案原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通

◉滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件

大正十二年十月
農令臨第八號

滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通

◉滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル件

大正十二年十月
農令臨第九號

滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通

手續ニ付テハ滅失特許原簿回復規則ヲ準用ス

第二條　商標權ニ關スル登錄ノ回復ヲ申請スル者ハ申請書ニ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品及其ノ類別ヲ記載シ圖面三通ヲ添附スヘシ

第三條　登錄回復ノ手續ニ付テハ本令ニ規定スルモノノ外商標登錄規則ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル件

大正十二年十月
農令臨第十號

滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル手續ニ付テハ滅失特許原簿回復規則ヲ準用ス

第二條　商標權ニ關スル登錄ノ回復ヲ申請スル者ハ申請書ニ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品及其ノ類別ヲ記載シ圖面三通ヲ添附スヘシ

第三條　商標ノ申請書ニハ一商標每ニ其ノ商標ヲ相接スル二色ヲ分明ニ區別スル必要アル場合ニハ境界線ヲ用ウルコトヲ要ス

尙其ノ商標ヲ構成スルモノト認ムヘキ寫眞ノ點又ハ地紋ヲ以テ色ヲ施シタル部分ヲ顯ハスコトヲ得ス

◉特許法施行規則等ニ依ル請求、申請及屆出ニ關スル手數料

大正十年十二月
農令第三十七號

敬正　大正一二年三月第五號

特許法施行規則、實用新案法施行規則、意匠法施行規則及商標法施行規則ノ件左ノ通定ム

第一條　特許法施行規則、實用新案法施行規則、意匠法施行規則又ハ商標法施行規則ニ依リ請求、申請又ハ屆出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　特許證再下付ノ請求　每一件　五圓

二　追加ノ特許證再下付ノ請求　每一件　三圓

三　實用新案登錄證再下付ノ請求　每一件　二圓

四　意匠登錄證再下付ノ請求　每一件　二圓

五　意匠法施行規則第六條ノ規定ニ依ル請求　每一件　一圓

六　商標權又ハ標章權ニ關スル商標法施行規則第七條第一項但書ノ請求　每一件　二圓

七　團體標章權ニ關スル商標法施行規則第七條第一項但書ノ請求　每一件　十圓

八　商標、標章又ハ商標法施行規則第五條ノ屆出　每一件　二圓

九　十四條第二項又ハ實用新案法施行規則第七條、意匠法施行規則第十一條若ハ商標法施行規則第十六條ノ規定ニ

項ヲ記載スヘシ但シ登錄回復ノ目的カ特許權ニ關スル權利ニ關スルトキハ第一號乃至第三號及第七號ノ事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

一　特許出願ノ年月日

二　願書番號

三　出願公告ノ年月日

四　登錄年月日

五　順位番號

六　受付年月日及受付番號

七　最近ニ納付シタル特許料及其ノ納付ノ年月日

第四條　登錄回復ノ申請書ニハ特許證、登錄濟證、特許權存續期間延長許可決定書又ハ專用兌許ニ關スル指令書及特許料ノ領收書ヲ添附スヘシ

滅失、紛失其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ前項ノ書類ヲ添附スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面及登錄通知書、特許原簿ノ謄本又ハ抄本、特許公報其ノ他證憑トナルヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五條　登錄ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ明細書及圖面ニ表示シ且其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ明細書及圖面ハ特許原簿ニ其ノ旨ヲ明細書ニ記載シタルモノヲ援用スル旨ヲ申請書ニ表示シテ其ノ添附ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許原簿ニ其ノ旨ヲ記載シ且其ノ援用セラレタル特許發明明細書ハ特許原簿ノ一部トシテ之ヲ保存スヘシ

第六條　第一條ノ規定ニ依ル登錄回復ノ申請ハアリタル場合ニ於テ登錄回復ノ手續ニ付テハ本令ニ規定スルモノノ外意匠登錄規則ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉滅失シタル實用新案原簿ノ回復ニ關スル件

大正十二年十月
農令臨第七號

滅失シタル實用新案原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通

手續ニ付テハ滅失特許原簿回復規則ヲ準用ス

第二條　意匠權ニ關スル登錄ノ回復ヲ申請スル者ハ申請書ニ其ノ意匠ヲ現ハスヘキ物品及其ノ類別ヲ記載シ圖面三通ヲ添附スヘシ

第三條　登錄回復ノ手續ニ付テハ本令ニ規定スルモノノ外意匠登錄規則ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件

大正十二年十月
農令臨第八號

滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　滅失シタル意匠原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通

手續ニ付テハ滅失特許原簿回復規則ヲ準用ス

第二條　意匠權ニ關スル登錄ノ回復ヲ申請スル者ハ申請書ニ其ノ意匠ヲ現ハスヘキ物品及其ノ類別ヲ記載シ圖面三通ヲ添附スヘシ

第三條　登錄回復ノ手續ニ付テハ本令ニ規定スルモノノ外意匠登錄規則ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル件

大正十二年十月
農令臨第九號

滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　滅失シタル商標原簿ノ回復ニ關スル手續ニ付テハ滅失特許原簿回復規則ヲ準用ス

第二條　商標權ニ關スル登錄ノ回復ヲ申請スル者ハ申請書ニ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品及其ノ類別ヲ記載シ圖面三通ヲ添附スヘシ

第三條　商標ノ申請書ニハ一商標每ニ其ノ商標ヲ

標見本五通ヲ添附シ商標ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ色ヲ記載シ著色シタル商標見本五通ヲ添附スヘシ

第四條　外國登録商標トシテ登録ヲ受ケタル商標權ニ關スル登録ノ回復ニ付テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ本國ノ登録證又ハ其ノ商標及指定商品カ本國ノ登録ニ係ルモノナルコト竝本國ノ登録年月日ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條　商標法第二十七條又ハ第三十三條ノ團體標章ノ登録ノ回復ヲ申請スル場合ニハ申請書ニ特許局長官ノ認可シタル定款ヲ添附スヘシ

第六條　登録回復ノ手續ニ付テハ本令ニ規定シタルモノノ外大正十年勅令第四百六十四號及商標登録規則ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　意匠

●意匠法

大正十年四月
法律第九十八號
改正　昭和四年四第四九號、八年三第一〇號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル意匠法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　物品ニ關シ形狀、模樣若ハ色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ意匠ニ付意匠ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條　左ニ掲クル意匠ニ付テハ之ヲ登録セス

一　菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀又ハ模樣ヲ有スルモノ

二　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

三　世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

第三條　本法ニ於テ意匠ノ新規ト稱スルハ意匠カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一　登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用ヰラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二　登録出願前帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

意匠ニシテ自己ノ登録意匠ノミニ類似スルモノハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

第四條　同一又ハ類似ノ意匠ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登録シ協議調ハサルトキハ共ニ登録セス

第五條　意匠登録出願者ハ命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ意匠ヲ現スヘキ物品ヲ指定スヘシ

第六條　意匠登録出願者ハ登録ノ日ヨリ三年以内其ノ意匠ヲ祕密ニセムコトヲ請求スルコトヲ得

第七條　實用新案登録出願者カ其ノ實用新案登録出願ヲ其ノ出願ニ係ル意匠ニ付テノ意匠登録出願ニ變更シタルトキハ其ノ意匠登録出願ハ實用新案登録出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ實用新案登録出願ニ付登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　意匠權ハ登録ニ依リ發生ス

意匠權者ハ其ノ登録意匠ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

自己ノ登録意匠ニ類似スル意匠ノ意匠權ハ最先ニ發生シタル意匠權ト合體スルモノトス

意匠權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權若ハ商標權ト抵觸スル場合又ハ登録意匠カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登録實用新案ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ意匠權者ハ實用新案權者ノ實施許諾又ハ商標權者ノ許諾アルニ非サレハ其ノ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得ス

第九條　意匠登録出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

一　同一又ハ類似ノ意匠ニ付テハ本令ニ規定シタルモノノ外大正十年勅令第四百六十四號及商標登録規則ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　意匠

●意匠法

大正十年四月
法律第九十八號
改正　昭和四年四第四九號、八年三第一〇號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル意匠法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　物品ニ關シ形狀、模樣若ハ色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ意匠ニ付意匠ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條　左ニ掲クル意匠ニ付テハ之ヲ登録セス

一　菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀又ハ模樣ヲ有スルモノ

二　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

三　世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

第三條　本法ニ於テ意匠ノ新規ト稱スルハ意匠カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一　登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ若

ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第十條　登録ノ無效審判請求ノ登録前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國内ニ於テ其ノ意匠ノ實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

一　同一又ハ類似ノ意匠ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無效ト爲リタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原意匠權者

二　登録ヲ無效ト同一又ハ類似ノ意匠ニ付正當權利者ノ爲ニ登録ヲ受ケタル原意匠權者ニ於ケル登録ヲ受ケタル場合

三　前二號ニ掲クル場合ニ於テ其ノ無效ト爲リタル意匠權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登録ヲ受ケタル者但シ實施權ヲ登録ナキモ第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

意匠登録出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠權ト抵觸スル實用新案權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登録ヲ受ケタル者ハ其ノ登録意匠ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有スル但シ原實施權カ登録ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

意匠權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十一條　意匠登録出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠權ト抵觸スル實用新案權ヲ有スル者ハ其ノ意匠ニ付原權利ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第十二條　意匠權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第十三條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタルトキハ前項ノ十年ノ期間ハ無效ノ登録ニ付テハ其ノ登録出願ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十三條　意匠權者ハ他人ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登録意匠ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ意匠ニ付通常實施權ヲ有スル者ハ其ノ登録意匠ニ付通常實施權ヲ有ス

前項ノ規定ニ依リ登録實用新案又ハ登録意匠ニ付通常實施權ヲ必要トスル相手方ノ登録意匠ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ裁判所ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル意匠登録出願中ノ考案又ハ意匠登録出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ二　第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル民事訴訟法第二百六十七條第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事ヲシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條ノ二　特許局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條ノ三　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十二條　辨理士ニ非サシテ特許局ニ對シ意匠ニ關シ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　舊法ニ依リ意匠ノ登録、處分及ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ之ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人、鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル意匠登録出願中ノ考案又ハ意匠登録出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ二　第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル民事訴訟法第二百六十七條第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事ヲシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條ノ二　特許局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條ノ三　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、作用、販賣又ハ擴布シタル者

二　他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、作用、販賣又ハ擴布シタル者

三　他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ意匠ノ登録ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二　登録意匠ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ヲ包裝ノ類ニ意匠登録標記ヲ附シ又ハ意匠標記ヲ附シ表示ヲ爲シタル者

三　登録意匠ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ意匠登録標記ヲ附シ又ハ意匠登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者

四　登録意匠ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登録意匠ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十八條　第二十六條第一項ニ掲クル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ之ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人、鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル意匠登録出願中ノ考案又ハ意匠登録出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ二　第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル民事訴訟法第二百六十七條第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事ヲシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條ノ二　特許局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條ノ三　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、作用、販賣又ハ擴布シタル者

二　他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、作用、販賣又ハ擴布シタル者

三　他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ意匠ノ登録ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二　登録意匠ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ヲ包裝ノ類ニ意匠登録標記ヲ附シ又ハ意匠標記ヲ附シ表示ヲ爲シタル者

三　登録意匠ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ意匠登録標記ヲ附シ又ハ意匠登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者

四　登録意匠ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登録意匠ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十八條　第二十六條第一項ニ掲クル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ之ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人、鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル意匠登録出願中ノ考案又ハ意匠登録出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ二　第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル民事訴訟法第二百六十七條第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事ヲシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條ノ二　特許局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十一條ノ三　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

九條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十七條　意匠ノ登錄カ第一條乃至第三十六條ノ二、第三十七條第三項、第三十七條ノ二、第三十八條第二項、第三十九條乃至第四十三條、第四十七條乃至第五十三條、第五十五條乃至第六十九條、第七十一條、第七十二條、第七十三條第二項、第七十四條第二項、第七十五條及第七十七條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

第十二條　本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　意匠法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第十四條　意匠法第三十五條ノ規定ニ依リ爲スヘキ處理ニ付テハ仍意匠法施行細則ニ依ル

附　則（大正十一年十二月農令第三十二號）

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和四年九月商令第八號）

本令ハ昭和四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

登錄第何號

意匠登錄證

國籍（外國人ノ場合）

住所（居所）

氏　名（名稱）

第二號書式

類似意匠登錄第何號

類似意匠登錄證

國籍（外國人ノ場合）

住所（居所）

氏　名（名稱）

案出者　何縣何誰

意匠ノ名稱　何々

登錄請求ノ範圍　何々

意匠ヲ現スヘキ物品　何々

前記意匠ハ登錄スヘキモノト確定シタリ仍テ意匠原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名印

第二號書式

類似意匠登錄第何號

類似意匠登錄證

國籍（外國人ノ場合）

住所（居所）

氏　名（名稱）

案出者　何縣何誰

意匠ノ名稱　何々

登錄請求ノ範圍　何々

意匠ヲ現スヘキ物品　何々

前記意匠ハ登錄スヘキモノト確定シタリ仍テ意匠原簿ニ登錄シ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名印

第三號書式

登錄第何號（原登錄番號）ノ二（三）

意匠登錄證

國籍（外國人ノ場合）

住所（居所）

氏　名（名稱）

案出者　何縣何誰

意匠ノ名稱　何々

登錄請求ノ範圍　何々

意匠ヲ現スヘキ物品　何々

意匠權存續期間　自年月日　至年月日

何年何月何日前記ノ物品ニ限リ意匠權分割移轉ノ登錄ヲ爲シタリ仍テ本證ヲ下付ス

年　月　日

特許局長官　氏　名印

●意匠登錄規則

大正十年十二月農商務省令第四十一號

意匠登錄規則左ノ通定ム

意匠ニ關スル登錄ニ付テハ特許登錄

第一條　意匠ニ關スル登錄ニ付テハ特許登錄令施行規則ヲ準用ス

第二條　意匠原簿ハ別記樣式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第三條　意匠原簿ノ表題部中第一區ニハ意匠權、第二區ニハ類似ノ意匠權ニ關スル事項ヲ記載ス

第四條　意匠權設定ノ登錄ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外表示欄ニ意匠ヲ現スヘキ物品ノ類別及物品ヲ記載スヘシ

第五條　類似ノ意匠權設定ノ登錄ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外類似ノ意匠ニ關スル旨及其ノ基ヲ爲シ尙表示欄ニ類似ノ意匠ヲ現スヘキ物品ノ類別及物品ヲ記載スヘシ

前條ノ規定ニ準シ最先ニ發生シタル意匠權ノ登錄用紙ニ之ヲ爲シ尙表示欄ニ類似ノ意匠ナル旨及其ノ番號ヲ記載スヘシ

第六條　意匠權分割移轉ノ登錄ヲ爲スニハ特許登錄令施行規則第二十七條乃至第三十二條ノ規定ニ準シ其ノ登錄ヲ爲スヘシ但シ各登錄用紙中表示欄ニ爲スヘキ意匠權ノ表示ハ第四條及第五條ノ規定ニ準シ之ヲ爲シ尙移轉シタル意匠權ノ登錄用紙中甲區事項欄ニ登錄權利者ノ氏名名稱及住所ヲ記載スヘシ

（別記樣式）

登錄第一區	第二區	表題部	甲區	乙區	丙區	丁區
番號	表示番號	表示欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄
番號	表示番號	表示欄	順位番號	事項欄	順位番號	事項欄

代理人欄　意匠料金欄

●意匠ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件

大正十年十二月勅令第四百六十三號

脫意匠ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登錄ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　意匠ニ關スル審判、抗告審判、出訴及再審ニ關スル費用ニ付テハ特許法施行令第三章ヲ準用ス

第二條　意匠ニ關スル登錄ニ付テハ特許登錄令ヲ準用ス

第三條　意匠法第十六條ノ規定ニ依ル移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ移轉ニ係ル物品ヲ記載スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第二百九十五號ハ之ヲ廢止ス

第二十四類　他類ニ屬セサル物品

第十一條　特許法施行規則第一條乃至第三十六條ノ二、第三十七條第三項、第三十七條ノ二、第三十八條第二項、第三十九條乃至第四十三條、第四十七條乃至第五十三條、第五十五條乃至第六十九條、第七十一條、第七十二條、第七十三條第二項、第七十四條第二項、第七十五條及第七十七條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　意匠法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第十四條　意匠法第三十五條ノ規定ニ依リ爲スヘキ處理ニ付テハ仍意匠法施行細則ニ依ル

附　則（大正十一年十二月農令第三十二號）

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條　意匠權分割移轉ノ登錄ヲ爲スニハ特許登錄令施行規則第二十七條乃至第三十二條ノ規定ニ準シ其ノ登錄ヲ爲スヘシ但シ各登錄用紙中表示欄ニ爲スヘキ意匠權ノ表示ハ第四條及第五條ノ規定ニ準シ之ヲ爲シ尙移轉シタル意匠權ノ登錄用紙中甲區事項欄ニ登錄權利者ノ氏名名稱及住所ヲ記載スヘシ

前項ノ登錄ヲ完了シタルトキハ分割移轉スヘキ部分ノ權利ニ對スル登錄證ヲ作リ之ヲ登錄權利者ニ下付スヘシ

附　則

本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年農商務省令第四十七號ハ之ヲ廢止ス

スヘキ場合ニ限リ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

附　則（昭和八年三月法律第十號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和八年七月勅令第九十九號ヲ以テ昭和八年八月一日ヨリ施行）

●意匠法施行規則

大正十年十二月

農商務省令第三十五號

改正　大正十一年一二第三二號　昭和四年九第八號

意匠法施行規則左ノ通定ム

第一條　意匠ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ第十條ニ定ムル類別毎ニ願書ヲ作リ之ニ圖面四通及必要ナル說明書ヲ添ヘ特許局ニ差出スヘシ但シ圖面ノ中二通ハ登錄ヲ受クル際之ヲ差出スコトヲ妨ケス

願書ニハ意匠ノ名稱及登錄請求ノ範圍ヲ記載シ自己ノ登錄意匠又ハ出願中ノ意匠ニ類似スル意匠ノ登錄出願ノ場合ニ在リテハ尙之ト類似スル意匠ヲ表示スヘシ

登錄請求ノ範圍ニハ意匠カ物品ノ形狀、模樣若ハ色彩又ハ其ノ結合ノ孰レニ係ルカヲ記載スヘシ

第二條　出願人ハ意匠ノ登錄出願ニ於テ錯誤ニ因リ二以上ノ類別ノ下ニ又ハ二以上ノ物品ヲ指定シタルトキハ願書ヲ訂正シ之ヲ一以上ノ出願ト爲スコトヲ得

第三條　意匠法第七條ノ規定ニ依リ實用新案登錄出願ヲ意匠登錄出願ニ變更セムトスル者ハ新ナル出願ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ實用新案登錄出願ニ付差出シタル圖面カ變更ヲ要セサルモノナルトキハ其ノ圖面ヲ以テ第一條第一項ニ規定スル圖面ニ充ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四條　意匠法第六條ノ規定ニ依リ意匠ヲ祕密ニセムコトヲ請求スル者ハ其ノ登錄出願ノ際圖面其ノ他ノ物件ヲ密封シ「祕密意匠」ト朱書シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

第五條　前條ノ規定ニ依リ意匠ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ第十條ニ定ムル類別毎ニ願書ヲ作リ之ニ圖面四通及必要ナル說明書ヲ添ヘ特許局ニ差出スヘシ但シ圖面ノ中二通ハ登錄ヲ受クル際之ヲ差出スコトヲ妨ケス

願書ニハ意匠ノ名稱及登錄請求ノ範圍ヲ記載シ自己ノ登錄意匠又ハ出願中ノ意匠ニ類似スル意匠ノ登錄出願ノ場合ニ在リテハ尙之ト類似スル意匠ヲ表示スヘシ

登錄請求ノ範圍ニハ意匠カ物品ノ形狀、模樣若ハ色彩又ハ其ノ結合ノ孰レニ係ルカヲ記載スヘシ

第六條　意匠ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ第十條ニ定ムル類別毎ニ願書ヲ作リ之ニ圖面四通及必要ナル說明書ヲ添ヘ特許局ニ差出スヘシ但シ圖面ノ中二通ハ登錄ヲ妨ケス

願書ニハ意匠ノ名稱及登錄請求ノ範圍ヲ記載シ自己ノ登錄意匠又ハ出願中ノ意匠ニ類似スル意匠ノ登錄出願ノ場合ニ在リテハ尙之ト類似スル意匠ヲ表示スヘシ

登錄請求ノ範圍ニハ意匠カ物品ノ形狀、模樣若ハ色彩又ハ其ノ結合ノ孰レニ係ルカヲ記載スヘシ

第七條　意匠登錄ヲ受ケムトスル者ハ第十條ニ定ムル類別毎ニ願書ヲ作リ之ニ圖面四通及必要ナル說明書ヲ添ヘ特許局ニ差出スヘシ但シ圖面ノ中二通ハ登錄ヲ妨ケス

願書ニハ意匠ノ名稱及登錄請求ノ範圍ヲ記載シ自己ノ登錄意匠又ハ出願中ノ意匠ニ類似スル意匠ノ登錄出願ノ場合ニ在リテハ尙之ト類似スル意匠ヲ表示スヘシ

登錄請求ノ範圍ニハ意匠カ物品ノ形狀、模樣若ハ色彩又ハ其ノ結合ノ孰レニ係ルカヲ記載スヘシ

第八條　意匠登錄ノ願書ニハ意匠ノ名稱及登錄請求ノ範圍ヲ記載シ自己ノ登錄意匠又ハ出願中ノ意匠ニ類似スル意匠ノ登錄出願ノ場合ニ在リテハ尙之ト類似スル意匠ヲ表示スヘシ

登錄請求ノ範圍ニハ意匠カ物品ノ形狀、模樣若ハ色彩又ハ其ノ結合ノ孰レニ係ルカヲ記載スヘシ

第九條　意匠法第二十條第一項ノ第一年乃至第三年分ノ登錄料、同條第二項ノ登錄料又ハ意匠法第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第六十五條第六項ノ規定ニ依リ正當權利者ノ納付スヘキ登錄料ハ登錄スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ納付スヘシ

第十條　意匠登錄出願者ハ左ノ類別ニ從ヒ意匠ヲ現ハスヘキ物品ヲ指定スヘシ

第一類　被服及被服地

衣服、袴、帶、襟、頭巻、肩掛、涎掛、手袋、足袋等

第二類　頭飾、服飾及裝身具

櫛、簪、根掛、胸飾、頸飾、釦鈕、指環、徽章等

第三類　携帶品

紙入、貨幣入、名刺入、煙草入、煙管、煙管筒、手提鞄等

第四類　傘、杖及鞭

第五類　化粧用品及衞生具

石鹼、紙石鹼、化粧刷毛、齒刷子、垢摺、鏡等

第六類　家具、室內及屋外ノ裝飾品

棚、箪笥、机、椅子、卓子、甕臺、衝立、暖爐、火鉢、花瓶、旗、幕等

第七類　飮食器及庖廚具

膳、椀、皿、鉢、杯、菓子器、箸、茶器、珈琲具、罎瓶、土瓶、鍋、釜、「バケツ」、手桶等

第八類　穀物

穀通、油圍、花莚等

第九類　文房具

硯、筆筒、文鎭、水滴、印材、肉池、硯箱、筆、墨、「インキ」壺、「ペン軸」等

第十類　燈器

燭臺、手燭、燈籠、洋燈、瓦斯燈、電燈、提燈、燈蓋、火屋等

第十一類　時計及計器

懷中時計、置時計、掛時計、腕時計、羅針器、寒暖計、晴雨計、度量衡器等

第十二類　建築物ノ附屬品

障子、襖、扉、欄間、棚子、引手、釘隱、樞等

第十三類　他類ニ屬セサル織物、編物、組物及其ノ製品

紗、紗手巾、卓被、「レース」、羽織紐、帶締紐、時計紐、飾總等

第十四類　冠物

帽子、頭巾、笠等

第十五類　履物及其ノ附屬品

下駄、草履、靴、鼻緒、爪掛等

第十六類　扇及團扇

第十七類　樂器、玩具及遊戲具

第十八類　菓子及其ノ他ノ食用品

第十九類　容器及包裝

場、籠、箱、紙袋、紙牌等

第二十類　車輛及其ノ附屬品

人力車、自轉車、自動車、「タイヤー」、鎖車等

第二十一類　紙、皮革及他類ニ屬セサル其ノ製品

紋紙、紋革、摺革紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、書簡箋、書簡筒等

第二十二類　他類ニ屬セサル金屬製品及石材製品

第二十三類　他類ニ屬セサル木、竹、骨、角、齒牙、甲殼類ノ製品

第三款　實用新案

第三條　意匠法第十六條ノ規定ニ依ル移轉ノ登錄ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ移轉ニ係ル物品ヲ記載スヘシ

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

實用新案法

大正十年四月
法律第九十七號
改正　昭和四年四月四八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル實用新案法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

實用新案法

第一條　物品ニ關シ形狀、構造又ハ組合ヘセル考案ニシテ實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ型ニ付實用新案ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第二條　左ニ揭クル實用新案ニ付テハ之ヲ登錄セス

一　菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀ヲ有スルモノ

二　秩序若ハ風俗ヲ素リ又ハ衞生ヲ害スルノ虞アルモノ

第三條　本法ニ於テ實用新案ノ新規ト稱スルハ實用新案カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一　登錄出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用ヰラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二　登錄出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

第四條　同一又ハ類似ノ實用新案ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ登錄ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登錄シ協議調ハサルトキハ共ニ登錄セス

第五條　特許出願ノ特許出願者カ其ノ特許出願ヲ實用新案登錄出願ニ變更シタルトキハ其ノ實用新案登錄出願ハ特許出願又ハ意匠登錄出願ノ時ニ於之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ特許出願又ハ意匠登錄出願ニ付特許又ハ登錄スヘカラストノ査定ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　實用新案權ハ登錄ニ依リ發生ス實用新案權者ハ其ノ登錄實用新案ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スル特許法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五　登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シ又ハ第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

第十四條ノ許可カ同條第二項又ハ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

登錄又ハ第十四條ノ許可ハ實用新案權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第十七條　特許局ニ實用新案原簿ヲ備ヘ實用新案權及實施權竝之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　登錄スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ實用新案原簿ニ登錄シ實用新案登錄證ヲ下付ス第十四條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第十九條　特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登錄實用新案ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上祕密ヲ要スル登錄實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　實用新案ノ登錄ヲ受クル者又ハ登錄證主ハ登錄料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一　第一年乃至第三年　每年　七圓
二　第四年乃至第六年　每年　十五圓
三　第七年乃至第十年　每年　二十五圓

第二十一條　實用新案登錄ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム

第二十二條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ揭クル事項ヲ付之ヲ請求スルコトヲ得

一　第十六條ノ規定ニ依リ登錄又ハ許可ノ取消ヲ請求スルトキ

二　實用新案權カ第一號乃至前號ニ揭クル無效ノ審判ニ於テ補償金ノ請求ヲ認メラレタルトキ

第二十四條　第十六條ノ規定ニ依ル登錄又ハ許可ノ取消ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號ニ該當スルトキニ限リ無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前條第一項第一號ノ無效ノ審判ハ實用新案ノ登錄又ハ第十四條ノ許可ノ登錄ノ日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル期間ハ第十六條第一項第五號ニ該當スルノ理由ニ依ル無效ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スル日ヨリ起算ス

第二十四條　第十一條ノ審判ノ審決ニ於テハ補償金額ニ付テハ亦之ヲ審決スヘシ

第二十五條　査定又ハ審判ノ審決ニ不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決及第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第百十九條第一項ノ規定ニ依ル費用ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　特許法第六條、第十條乃至第三十三條、第三十六條、第四十條、第四十四條、第四十五條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第六十四條、第六十五條、第六十六條乃至第六十九條、第七十一條乃至第八十三條、第八十六條乃至第九十五條、第百十條、第百十六條、第百十八條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　他人ノ登錄實用新案ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者

二　他人ノ登錄實用新案ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スル特許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反シタル者

三　他人ノ登錄實用新案ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ實用新案ノ登錄ヲ受ケタル者

二　登錄實用新案ニ係ラサル物品ヲ實用新案登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三　登錄實用新案ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ實用新案登錄標記ヲ附シ又ハ實用新案登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者

四　登錄實用新案ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ物品ヲ登錄實用新案ニ係ル物品ニシテ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十九條　第二十七條第一項ニ揭クル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條　法律ニ依リ宣誓シタル證人、鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ノ確定前ニ自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十一條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル實用新案登錄出願中ノ考案又ハ實用新案登錄出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條ノ二　第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル民事訴訟法第二百六十七條第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十二條　特許局ヨリ證人又ハ鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十二條ノ二　特許局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十二條ノ三　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ實用新案ニ關シ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十四條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　舊法ニ依ル實用新案ノ登錄、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ實用新案ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第三十六條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル實用新案登錄ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前竝逢ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル補償金額ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ其ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スル實用新案權ハ之ヲ專有ス

實用新案權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル特許權若ハ意匠權ト牴觸スル場合又ハ登錄實用新案カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル特許登錄又ハ意匠登錄ノ存續期間滿了後ニ於テ其ノ實施ニ付相當ノ注意ヲ爲サヽリシトキハ實用新案權者ハ特許權者又ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得ス

第七條　實用新案登錄出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ實用新案登錄出願ニ係ル物品ニ付實用新案ノ實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄實用新案ニ付事業ノ目的タル實用新案範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第八條　登錄ノ無效審判請求ノ登錄前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國內ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄實用新案範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

一　同一又ハ類似ノ實用新案ニ對スル二以上ノ登錄中其ノ一カ無效ト爲リタル場合ニ於テ無效登錄ヲ受ケタル原實用新案權者

二　登錄ヲ無效トシ同一又ハ類似ノ實用新案ニ付正當權利者ノ爲ニ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テ無效登錄ヲ受ケタル原實用新案權者

三　前二號ニ揭クル場合ニ於テ其ノ無效ト爲リタル實用新案權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登錄ヲ受ケタル者但シ實施權カ登錄ナキモ第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

第十條　登錄ノ無效審判請求ノ登錄前善意ニシテ實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ實施ノ範圍內ニ於テ其ノ實用新案ニ付通常實施權ヲ有ス

第十一條　實用新案權者ハ他人ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ニ付實施ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ相手方ノ登錄實用新案ニ付實施ノ許諾ヲ求メタルトキハ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ノ許諾ヲ拒ミタルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施セラルル者其ノ實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ノ許諾ヲ拒ミタルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ノ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルコトヲ得ス但シ審決又ハ判決ニ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ其ノ實施ヲ爲スコトヲ得

第十二條　前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ノ支拂ヲ爲スヘシ

第十三條　登錄實用新案ノ實施權ハ之ヲ登錄スルニ非サレハ其ノ實用新案權ヲ爾後取得シタル者及其ノ實用新案權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第七條乃至第九條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄ヲナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十一條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第十四條　實用新案權者ハ登錄實用新案ノ實施ニ付詳細ナル說明書カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ揭クル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ圖面又ハ說明書ノ訂正ノ許可ヲ審判ヲ請求スルコトヲ得

一　登錄請求範圍ノ減縮

二　誤記ノ訂正

三　不明瞭ナル記載ノ釋明

前項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ幾部カ登錄出願ノ際獨立シテ新規ノ實用新案ナルコトヲ要ス

第十五條　前條ノ場合ニ於テハ登錄請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス

第十六條　登錄カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三　登錄カ登錄ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ登錄ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

實用新案權者ハ前二項ノ規定ニ依リ實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九條　實用新案登錄出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ實用新案權ト牴觸スル特許權又ハ意匠權ノ存續期間滿了後ニ於テ其ノ實施ニ付相當ノ注意ヲ爲サヽリシトキハ實用新案權者ハ特許權者又ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得ス

第十條　實用新案權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ノ爲ニ登錄ヲ爲シタルトキハ前項ノ十年ノ期間ハ無效之ヲ起算ス

第十一條　實用新案權者ハ他人ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登錄實用新案ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施セラルル者其ノ實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ノ許諾ヲ拒ミタルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十二條　前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルコトヲ得ス但シ審決又ハ判決ニ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ其ノ實施ヲ爲スコトヲ得

第十三條　登錄實用新案ノ實施權ハ之ヲ登錄スルニ非サレハ其ノ實用新案權ヲ爾後取得シタル者及其ノ實用新案權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第七條乃至第九條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄ヲナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十一條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第十四條　實用新案權者ハ登錄實用新案ノ實施ニ付詳細ナル說明書カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ揭クル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ圖面又ハ說明書ノ訂正ノ許可ヲ審判ヲ請求スルコトヲ得

一　登錄請求範圍ノ減縮

二　誤記ノ訂正

三　不明瞭ナル記載ノ釋明

前項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ幾部カ登錄出願ノ際獨立シテ新規ノ實用新案ナルコトヲ要ス

第十五條　前條ノ場合ニ於テハ登錄請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス

第十六條　登錄カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三　登錄カ登錄ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ登錄ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

額ニ對スル不服申立ノ期間ニ付亦同シ

第三十七條　本法施行前發生シタル實用新案權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同號ノ規定ヲ準用シ第七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十八條　實用新案ノ登録カ舊法施行中無效ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ準用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十九條　舊法ニ依ル實用新案ノ登録ニ關シテハ本法施行後ニ登録ヲ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登録カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第四十條　前條ノ規定ニ依ル無效ノ審判ハ本法施行前爲サレタル實用新案ノ登録ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

附　則（昭和四年四月法律第四十八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年九月勅令第二百八十九號ヲ以テ昭和四年十月一日ヨリ施行）

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル效力ヲ妨ケス

第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同條ニ掲クル事由ヲ生シタル委任代理ニ付テ本法施行前代理權消滅ノ登録ヲ受ケサリシモノ又ハ其ノ屆出ヲ爲ササリシモノニモ之ヲ適用ス

本法施行前抗告事件ニ付決定ヲ受ケタル者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシテ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前從前ノ規定ニ依リ過料ニ處スヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限リ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

●實用新案法施行規則

大正十年十二月　農商務省令第三十四號
改正　大正一一年一二第三一號、昭和四年九第七號

實用新案法施行規則左ノ通改正ス

實用新案法施行規則

第一條　實用新案ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ圖面及說明書ヲ添ヘ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

第二條　說明書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　實用新案ノ名稱
二　圖面ノ略解
三　實用新案ノ性質、作用及效果ノ要領
四　考案相互ノ關係
五　登録請求ノ範圍

考案相互ノ關係ニハ他ノ特許發明、登録實用新案又ハ登録意匠ノ實施スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル實用新案ノ登録出願ニ付其ノ實施ノ態樣ヲ記載スヘシ

登録請求ノ範圍ニハ實用新案カ物品ノ形狀、構造又ハ組合ハセノ孰レニ係ルカヲ記載スヘシ

第三條　實用新案法第五條ノ規定ニ依リ特許出願又ハ意匠登録出願ヲ實用新案登録出願ニ變更セムトスル者ハ新ナル出願ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許出願又ハ意匠登録出願ニ付差出シタル圖面カ變更ヲ要セサルモノナルトキハ第一條ニ規定スル圖面ノ提出ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ願書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四條　實用新案登録證ハ別記書式ニ依リ之ヲ作リ圖面及說明書ヲ添附スヘシ

第五條　實用新案登録ノ標記ニハ「登録新案」ノ文字及其ノ登録番號ヲ表示スヘシ

第六條　實用新案法第二十條ノ第一年乃至第三年分ノ登録料又ハ實用新案法第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第六十五條第六項ノ規定ニ依リ正當權利者ノ納付スヘキ登録料ハ登録スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三十日内ニ之ヲ納付スヘシ

第七條　特許法施行規則第一條乃至第三十六條ノ二、第三十七條第二項第三項、第三十七條ノ二、第三十八條第二項、第三十九條乃至第四十三條、第四十五條乃至第五十三條、第五十四條第一項、第五十五條乃至第六十九條、第七十一條、第七十二條、第七十三條第二項、第七十四條第二項、第七十五條乃至第七十七條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

第八條　本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條　實用新案法第三十六條ノ規定ニ依リ爲スヘキ處理ニ付テハ仍舊則ニ依ル

附　則（大正十一年十二月農令第三十一號）

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和四年九月商令第七號）

本令ハ昭和四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別記

第一號書式

登録第何號
實用新案登録證
國籍（外國人ノ場合）
住所（居所）
氏　名（名稱）
考案者　何縣何誰
實用新案ノ名稱　何々
前記實用新案ハ登録スヘキモノト確定シタリ仍テ實用新案原簿ニ登録シ本證ヲ下付ス
年　月　日
特許局長官　氏　名　印

第二號書式

登録第何號
實用新案登録證
國籍（外國人ノ場合）
住所（居所）
氏　名（名稱）
考案者　何縣何誰
實用新案ノ名稱　何々
存續期間　自年月日　至年月日
第何號登録ニ係ル前記實用新案ノ說明書（圖面）ニ付實用新案法第十四條ノ規定ニ依リ訂正ヲ許可スヘキモノト確定シタリ仍テ實用新案原簿ニ登録シ本證ヲ下付ス
年　月　日
特許局長官　氏　名　印

●實用新案ノ登録ニ關スル件

大正十年十二月　農商務省令第四十號

實用新案ノ登録ニ關スル件左ノ通定ム

實用新案ニ關スル登録ニ付テハ特許登録令施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年農商務省令第四十九號ハ之ヲ廢止ス

●軍事上秘密ヲ要スル實用新案竝實用新案ノ審判其ノ他ノ手續ノ費用及登録ニ關スル件

大正十年十二月　勅令第四百六十二號

朕軍事上秘密ヲ要スル實用新案竝實用新案ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登録ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　軍事上秘密ヲ要スル實用新案ニ付テハ特許法施行令第一章ヲ準用ス

第二條　實用新案ニ關スル審判、抗告審判、出訴及再審竝登録異議、實用新案法第十四條ノ許可ニ付テノ許可異議及此等ノ異議ノ參加ニ關スル費用ニ付テハ特許法施行令第三章ヲ準用ス

第三條　實用新案ニ關スル登録ニ付テハ特許

登録令ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第二百九十七號ハ之ヲ廢止ス

第四款　商標

●商標法

大正十年四月　法律第九十九號
改正　昭和四年四第五〇號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商標法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商標法

第一條　自己ノ生産、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ專用セムトスル者ハ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得

登録ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形若ハ記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條　左ニ掲クル商標ニ付テハ之ヲ登録セス
一　菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ
二　國旗、軍旗、勳章、褒章、記章又ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ
三　白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「ジェネヴァ」十字ノ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ
四　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ
五　他人ノ肖像、氏名名稱又ハ商號ヲ有スルモノ但シ其ノ他人ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス
六　同一又ハ類似ノ商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ
七　政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ外國ニ於ケル官設若ハ官許ノ博覽會ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ其ノ圖形ヲ使用セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス
八　取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラルル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ
九　他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ
十　登録失效ノ日ヨリ一年ヲ經過セサル他人ノ商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ、但シ其ノ他人ノ商標カ登録失效前一年以上使用セサリシモノナル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
十一　商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルモノ

商標ノ要部ト認メラルルノ虞アル部分カ分離シテハ前條第二項ニ規定スル特別顯著ノ要件ヲ具備セサル爲又ハ前項第六號ニ該當スル爲登録ヲ受クルコトヲ得サルモノナル場合ト雖出願人カ其ノ部分自體ニ付權利ヲ要求セサル旨ヲ申出テタルトキハ其ノ商標ヲ登録ス

第三條　同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ相類似スルモノ又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ同一ノモノ若ハ相類似スルモノハ聯合ノ商標トシテ出願シタル場合ニ限リ之ヲ登録ス

第四條　同一又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ノ登録出願カ競合スルトキハ最先ノ出願者ニ限リ登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登録シ協議調ハサルトキハ共ニ登録セス

政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品シタル商品ニ使用シタル商標ニ付其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ商標ノ使用者カ其ノ商標ノ登録ヲ出願シタルトキハ其ノ開會ノ日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ前項ニ規定スル出品ニ付豫メ屆出ツヘキコトヲ規定シタル場合ニ於テ其ノ屆出ヲ怠リタル者ニ付之ヲ適用セス

第二項ニ掲クル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル商品ニ使用スル商標ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　商標登録出願者ハ命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第六條　商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リ之ヲ移轉スルコトヲ得

商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ノ承繼ハ承繼人カ出願人名義ノ變更ヲ屆出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ屆出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條　商標權ハ登録ニ依リ發生ス

商標權者ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ付其ノ商標ヲ專用スルノ權利ヲ有ス

商標權カ其ノ登録商標ノ使用ノ態樣ニ依リ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル意匠權ト牴觸スル場合ニ於テハ商標權者ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ態樣ニ於テ登録商標ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條　商標權ノ效力ハ普通ニ使用セラルル方法ヲ以テ自己ノ氏名名稱若ハ商號又ハ其ノ商品ノ普通名稱、産地、品位、品質、效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス但シ商標登録後惡意ヲ以テ氏名名稱又ハ商號ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

商標權ノ效力ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ權利ヲ要求セサル旨ヲ申出テタル部分自體ニ及ハス

第九條　他人ノ登録商標ノ登録出願前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ標章ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ他人ノ商標ノ登録ニ拘ラス其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業又ハ業務ト共ニ其ノ標章ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ商標權者ハ標章使用者ニ對シ商品ノ混同ヲ防クニ適當ナル表示ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十條　商標權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二十年ヲ以テ終了ス

第十一條　前條ノ存續期間ハ更新登録ノ出願ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ更新登録ノ出願ニ係ル商標カ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號又ハ第十一號ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リ之ヲ移轉スルコトヲ得

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第十三條　商標權ハ商標權者カ其ノ營業ヲ廢止シタル場合ニ於テハ消滅ス

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタル商標ノ商標權ハ其ノ本國ニ於ケル商標權消滅シタル場合ニ於テハ消滅ス

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スヘシ
一　商標權者正當ノ理由ナクシテ帝國内ニ於テ登録ノ日ヨリ一年間其ノ商標ヲ使用セサリシトキ又ハ引續キ三年間其ノ商標ノ使用ヲ中止シタルトキ但シ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品中其ノ一ニ使用シ又ハ聯合ノ商標中其ノ一ヲ使用シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外移轉アリタル日ヨリ一年以內ニ商標權移轉ノ登錄ヲ申請セサルトキ

外國ノ登錄商標トシテ登錄ヲ受ケタル商標ニ付テハ前項第一號ノ規定ヲ適用セス

第十五條　商標權者故意ニ其ノ登錄商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消スヘシ

前項ノ規定ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消サレタル者ハ取消ノ審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　商標ノ登錄カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄カ第一條乃至第四條又ハ前條第二項ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三　登錄カ商標ノ登錄出願ヨリ生シタル權利ノ承繼人ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四　登錄カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五　登錄カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

商標權存續期間更新ノ登錄カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄カ第十一條但書ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ商標權者ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ハ商標權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第十七條　特許局ニ商標原簿ヲ備ヘ商標權ノ設定、移轉、變更、消滅其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　登錄スヘシトノ查定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登錄ス

第十九條　特許局ハ商標公報ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他登錄商標ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

第二十條　商標ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ毎件一時ニ三十圓ヲ納付スヘシ

商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ毎件一時ニ五十圓ヲ納付スヘシ

第二十一條　商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム

第二十二條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ揭クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一　第十四條、第十五條又ハ第三十一條ノ規定ニ依ル商標ノ登錄ノ取消

二　第十六條ノ規定ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ノ無效

三　商標權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第二條第一項第五號第八號乃至第十號、第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前條第一項第二號ノ無效ノ審判ハ登錄ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但シ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號第十一號、第十一條但書、第十五條第二項又ハ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條又ハ第三十三條ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　特許法第十三條、第十六條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第四十五條、第五十八條第一項第三項、第六十八條、第七十一條、第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項、第七十四條乃至第七十七條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃至第百五條、第百七條、第百九條乃至第百十五條ノ二、第百十七條乃至第百二十四條及第百二十八條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス但シ第七十三條第一項第二項第四項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ商標權存續期間更新ノ登錄出願ニ付之ヲ準用セス

第二十五條　登錄無效ノ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登錄前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ登錄商標ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ登錄商標カ再審ニ依リ登錄ヲ回復シタル商標ニ牴觸スル爲第二條第一項第九號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依リ其ノ登錄ヲ無效トセラレタル場合ニ於テモ其ノ商標ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業ト共ニ其ノ商標ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　營利ヲ目的トセサル業務ニ係ル商品ノ標章ヲ專用セムトスル者ハ標章ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

前項ノ標章ハ之ヲ商標ト看做シ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十七條　同業者及密接ノ關係ヲ有スル營業者ノ設立シタル法人ニシテ團體員ノ營業上ノ共同ノ利益ヲ增進スルヲ目的トスルモノハ其ノ團體員ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ標章ヲ專用セシムル爲其ノ標章ニ付團體標章ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

團體標章ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ商標ト看做シ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ受ケムトスル法人ハ其ノ定款ニ於テ其ノ團體標章ノ使用ニ關スル事項ヲ定メ特許局長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第二十九條　團體標章權ノ侵害ニ因ル損害賠償請求權ハ團體員ニ生シタル損害ヲモ包含ス

第三十條　第二十七條ノ法人ノ合併又ハ分割ノ場合ニ於テ一ノ法人カ他ノ法人ニ團體標章ノ登錄出願ヨリ生シタル權利又ハ團體標章權ヲ移轉セムトスルトキハ特許局長官ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ取消スヘシ

一　法人カ團體員ヲシテ第二十八條又ハ前條ノ規定ニ依リ特許局長官ノ認可ヲ受ケタル定款ノ規定ニ違反シテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ其ノ使用ヲ放任シタルトキ

二　法人カ團體員ニ非サル者ヲシテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ團體員ニ非サル者ノ使用ヲ放任シタルトキ

前項ノ規定ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ取消サレタル法人ハ取消アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ團體標章ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第十六條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　團體標章ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ毎件一時ニ百圓ヲ納付スヘシ

團體標章權存續期間更新ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ毎件一時ニ百五十圓ヲ納付スヘシ

第三十三條　前六條ノ規定ハ公法人カ其ノ地域內ニ於ケル營業者ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ專用セシムル爲團體標章ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　他人ノ登錄商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

二　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ交付シ若ハ販賣シ又ハ其ノ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

三　他人ノ登錄商標ヲ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ僞造又ハ模造シタル者

四　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル同一又ハ類似ノ商品ヲ交付、販賣ノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

五　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

六　他人ノ登錄商標ヲ僞造若ハ模造スルノ目的又ハ僞造若ハ模造セシムルノ目的ヲ以テ其ノ用具ヲ製作、交付、販賣又ハ所持スル者

七　同一又ハ類似ノ商品ニ關シ他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用ヰル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第三十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ商標若ハ商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二　登錄ヲ受ケサル商標ニシテ商標登錄標記ヲ附シ若ハ商標登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

三　登錄ヲ受ケサル商標ニシテ商標登錄標記ヲ附シ若ハ商標登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ營業ニ用ヰル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第三十六條　法律ニ依リ宣誓シタル證人、鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十六條ノ二　第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル民事訴訟法第二百六十七條第二項又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲シタル者カ特許局ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條ノ二　特許局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ命ニ從ハサルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條ノ三　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十八條　辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ商標ニ關シ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十九條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條　舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ商標ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第四十一條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル商標若ハ商標權存續期間更新ノ登錄出願又ハ商標登錄ノ取消ニ關スル事項ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第四十二條　舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ニ關シテハ本法施行後ニ登錄カ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍內ニ於テ同條ニ揭クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登錄カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ此ノ場合ニ於テ舊法附則第二項ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同項ノ規定ノ適用ノ範圍內ニ於テ同項ニ揭クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四十三條　登錄カ舊法第一條又ハ第二條第五號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル前條ノ無效ノ審判ハ本法施行前爲サレタル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

登錄カ舊法第二條第八號第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル前條ノ無效ノ審判ハ商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄カ商標公報ニ揭載セラレタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十四條　本法施行前舊法第二十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其ノ罪ヲ論セス

附　則（昭和四年四月法律第五十號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年九月勅令第二百八十九號ヲ以テ昭和四年十月一日ヨリ施行）

本法ハ本法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リ生シタル效力ヲ妨ケス

第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十七條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前同條ニ揭クル事由ヲ生シタル委任代理ニシテ本法施行前代理權消滅ノ登錄ヲ受ケサリシモノ又ハ其ノ屆出ヲ爲ササリシモノニモ之ヲ適用ス

本法施行前抗告事件ニ付決定ヲ受ケタル者ハ仍從前ノ規定ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

本法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル手續ニシテ本法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前從前ノ規定ニ依リ過料ニ處スヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ本法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限リ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ規定ノ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

昭和九年三月法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商標法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商標法中左ノ通改正ス

第二條第一項第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二ノ二　工業所有權保護同盟條約國ノ國ノ紋章、旗章其ノ他ノ徽章（國旗ヲ除ク）ニシテ主務大臣ノ指定スルモノト同一又ハ類似ノモノ

同條同項第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三ノ二　工業所有權保護同盟條約國ノ官ノ監督用又ハ證明用ノ印章又ハ記號ニシテ主務大臣ノ指定スルモノト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノノ

第二十三條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號第十一號、第十一條但書、第十五條第二項若ハ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條若ハ第三十三條ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル場合又ハ惡意ヲ以テ登錄ヲ受ケタル商標ノ登錄ニ付第二條第一項第八號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前爲サレタル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ノ無效ノ審判ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●商標法施行規則

大正十年十二月
農商務省令第三十六號
改正　大正一一年一二第三三號、昭和四年九

第九號

商標法施行規則左ノ通定ム

商標法施行規則

第一條　商標ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ第十五條ニ定ムル類別毎ニ願書ヲ作リ之ニ商標見本五通及必要ナル說明書ヲ添ヘ特許局ニ差出スヘシ

商標ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ願書ニ其ノ色ヲ指定シ願書ノ副本一通及著色シタル商標見本五通ヲ差出スヘシ

聯合ノ商標ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ願書ニ之ト聯合スヘキ商標ニ表示スヘシ

第二條　出願人ハ商標ノ登錄出願ニ於テ錯誤ニ因リ二以上ノ類別ニ亙ル二以上ノ商品ヲ指定シタルトキハ願書ヲ訂正シ之ヲ二以上ノ出願ト爲スコトヲ得

第三條　數人共同シテ商標ノ登錄ヲ出願スル場合ニ於テハ營業ヲ共ニスルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第四條　外國ノ登錄商標トシテ商標ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ願書ニ其ノ本國ノ登錄證又ハ其ノ商標及指定商品カ本國ノ登錄ニ係ルモノナルコト竝本國ノ登錄年月日ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條　商標法第四條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ博覽會ノ開會前三月内ニ其ノ旨ヲ特許局ニ届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定シ商標見本ヲ添附スヘシ

第六條　商標法第六條第三項ニ規定スル名義變更ノ届出ヲ爲ス者ハ届書ニ營業ト共ニスルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第七條　商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ其ノ期間滿了ノ日前三月乃至一年内ニ願書ヲ特許局ニ差出スヘシ但シ期間滿了ノ日ヨリ三十日前ニ限リ遲滯ノ事由ヲ前項ノ願書ニハ商標見本五通及營業ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

外國ノ登錄商標トシテ登錄ヲ受ケタル商標ノ商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ其ノ商標權カ現ニ本國ニ於テ存續スルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第八條　聯合ノ商標ヲ登錄スヘシトノ査定又ハ審決ノ主文中ニハ之ト聯合スル商標ノ登錄番號又ハ願書番號ヲ記載スヘシ

第九條　商標法第二十八條、第三十條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ特許局長官ノ認可ヲ受クヘキ定款又ハ之ニ準スヘキ書面ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　團體標章ヲ使用スル者ノ範圍ニ關スル事項

二　團體標章ノ使用ノ條件及之ニ違反シタル者ニ對スル制裁ニ關スル事項

三　團體標章權ノ侵害ニ因ル各使用者ノ損害ノ補償ニ關スル事項

四　其ノ他團體標章ノ使用ニ關シ必要ト認ムル事項

第十條　出願公告ノ決定ヲ受ケタル者ハ三十日内ニ於テ特許局長官カ指定シタル期間内商標ノ印版一箇ヲ特許局ニ差出スヘシ

商標ノ印版ニ關スル登錄異議申立ノ結果商標ニ變更アリタルトキハ登錄料納付ノ際新ニ印版一箇ヲ差出スヘシ

商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受ケル者ハ登錄料納付ノ際商標ノ印版一箇ヲ差出スヘシ

第十一條　前條ノ規定ニ依リ差出スヘキ印版ハ木版、細網版其ノ他活版印刷ニ適スルモノニシテ其ノ長サ及幅各十「センチメートル」（曲尺三寸三分）以内、厚サ二・四「センチメートル」（曲尺九分九厘二毛）ノモノナルコトヲ要ス但シ文字ヨリ成ル商標ノ印版ノ長サ及幅ハ各六・五「センチメートル」（曲尺二寸一分四厘五毛）以内トスヘシ

印版ハ一箇ノ直角四邊形ノ版面ニ彫刻シテ之ヲ作ルヘシ

第十二條　特許法施行規則第十四條ノ規定ハ商標ノ印版ニ付之ヲ準用ス

第十三條　商標法第二十條ノ登錄料ハ登錄スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三十日内ニ之ヲ納付スヘシ

第十四條　商標法第十八條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シタルトキハ特許局長官ハ其ノ旨ヲ出願人ニ通知スヘシ

第十五條　商標登錄出願者ハ左ノ類別ニ從ヒ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第一類　化學品、藥劑及醫療補助品

酸類、鹽類、亞爾加里、漂白粉、樹脂、膠、磷、酒精、鞣革劑、染里設林、規那鹽、莫見比涅、丁幾劑、含利列、苦劑、水劑、浸劑、丸藥、膏藥、散藥、錠藥、煉藥、生藥、藥油、香精、石灰、硫黃、鏽水、磨香、打粉、食鹽、艾、墨機、防腐劑、防臭劑、驅蟲劑、繃帶、綿紗、綿撮絲、脫脂綿、海綿、「オブラート」、氷囊、氷枕等

第二類　染料、顏料、媒染料及塗料

藍玉、藍靛、紫根、紅、朱丹、綠青、群青、洋紫、鉛白、胡粉、金銀粉、藤黃、染齒料、綠礬、明礬、漆、假漆、「ペイント」、漉、靴墨、革油、防鏽料、防水料、耐火塗料等

第三類　香料及他類ニ屬セサル化粧品

香水、香油、香袋、髮膏、白粉、化粧下等

第四類　石鹼

齒磨及他類ニ屬セサル洗料

齒磨粉、煉齒磨、齒磨液、洗粉、洗糠、洗液等

第六類　他類ニ屬セサル金屬及其ノ半加工品

銑鐵、鍛鐵、銅鐵、條鐵、鐵葉、軌條、鐵板、鐵線、銅板、銅線、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、アルミニューム」、「ニッケル」、水銀、卑金屬ノ合金等

第七類　他類ノ屬セサル金屬製品

鑄物、打物、彫鏤品、編物、琺瑯鐵器、銅箔、錫箔等

第八類　利器及尖刃器

鑢、鋸、鑿、錐、鉸、鉞、小刀、剃刀、庖丁、鉈、鐏、針、魚串、釘、蒐嘴等

第九類　貴金屬、其ノ模造物、「アリダニヤ、メタル」及他類ニ屬セサル其ノ製品

金、銀、白金、四分一、紫銅其ノ他貴金屬ノ合金、製品、「モール」、金箔、銀箔、彫鏤品等

第十類　寶玉類、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品

金剛石、珊瑚、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉、彫鏤品等

第十一類　鑛物類

第十二類　石材、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品

大理石、花崗石、人造石、砥石等

第十三類　漆喰及土砂ノ類

漆喰、「セメント」、石膏、土瀝青、土砂、火山灰等

第十四類　他類ニ屬セサル陶器、磁器、七寶製品、土器、瓦及煉瓦ノ類

第十五類　玻璃竝他類ニ屬セサル玻璃製品及硝子質品

玻璃板、玻璃管、玻璃壜、玻璃球等

第十六類　護謨、「エボナイト」、「ガタペルチヤ」、「ラバーサブスチチュート」及他類ニ屬セサル其ノ軟質製品

第十七類　他類ニ屬セサル機械器具及其ノ各部竝各種ノ調帶、「ホース」及「パッキング」

汽罐、汽機、織機、紡績機、裁縫機、印刷機、揚水機、消火器、醬水器、「バルア」、「コック」、皮革調帶、護謨調帶、綿布調帶、護謨「ホース」、「布「ホース」、「アスベスト」、パッキング」等

第十八類　理化學、醫術、測定、寫眞、教育用ノ器械器具、眼鏡及算數器ノ類竝其ノ各部

試驗管、外科用器械、齒科用具、度量衡器、感光膜、活動寫眞映畫、製圖器、體操用器具、望遠鏡、顯微鏡等

第十九類　農工器具

墾、鋤、鎌、稻扱、桑扱、唐箕、耙、釘拔、鐵槌、繩墨、鉉廻シ、「スコップ」、「ショーベル」、鶴嘴等

第二十類　車輛、船舶其ノ他運搬用機械器具及其ノ各部

荷車、馬車、人力車、自動車、自轉車、小兒用車、航空機、鐵道車、車輪「ダイヤー」、「サドル」、「ペダル」等

第二十一類　時計竝其ノ各部及附屬品

第二十二類　樂器、蓄音機竝其ノ各部及附屬品

「ピヤノ」、「オルガン」、「ヴアイオリン」、「マンドリン」等、三絃、胡弓、琵琶、月琴、木琴、笛、「ハーモニカ」、撥、樂器絲、蓄音機、音譜盤、蓄音機用針等

第二十三類　銃砲、彈丸及爆發物類

大砲、小銃、獵銃、短銃、火藥、綿火藥、「ダイナマイト」、雷管、煙火、水雷等

第二十四類　雜類

第二十五類　眞綿、木綿綿、麻、羽及毛ノ類竝其ノ半加工品

第二十六類　生絲、絹絲、人造絹絲、野蠶絲、天蠶絲、金絲及銀絲

第二十七類　綿絲

第二十八類　毛絲

第二十九類　麻絲及第二十六類乃至第二十八類ニ屬セサル絲類

第三十類　綿織物

第三十一類　木綿織物

第三十二類　毛織物

第三十三類　麻織物

第三十四類　第三十類乃至第三十三類ニ屬セサル織物

第三十五類　他類ニ屬セサル絲類ノ編物、組物、撚物、「レース」、「ドロン」、「ウオーク」刺繍品及各種ノ紐類

第三十六類　被服手巾、卸鉗及裝身用「ヒルノ」類

衣服、冠、帽子、「カラ」、「カフス」、領飾、襟襯衣、「ブボン」下、胴締、手袋、足袋、「ハンカチーフ」、手拭、「タオル」、袱紗、風呂敷、甲馳、「カフス」、ボタン」、「ネックタイ」、「ピン」、「ブローチ」等

第三十七類　寢具及他類ニ屬セサル室内裝置品

寢臺、蒲團、枕、蚊帳、座蒲團、屏風、額、卓被、窓掛、敷物等

第三十八類　日本酒類及其ノ模造品

清酒、味淋、白酒、燒酎、濁酒、直シ等

第三十九類　第三十八類ニ屬セサル各種ノ酒類及其ノ模造品

葡萄酒、「シヤンパン」、麥酒、「ブランデイ」、「ベルモット」、「ウヰスキー」等

第四十類　氷及清涼飲料類

曹達水、「ラムネ」、「サイダー」、果實、「シラップ」、果實液等

第四十一類　醬油「ソース」及酢ノ類

第四十二類　砂糖及蜜ノ類

白砂糖、黑砂糖、「ザラメ」、氷砂糖、糖蜜、蜂蜜等

第四十三類　菓子及麵麭ノ類

干菓子、蒸菓子、掛ケ物、「ビスケット」、「カステーラ」、「ドロップス」、「アイスクリーム」、飴、餅、砂糖漬、炒豆等

第四十四類　茶、珈琲、「ココア」及珈琲入角砂糖ノ類竝其ノ模造品

第四十五類　他類ニ屬セサル食料品及加味品

肉類、越幾斯類、卵、鰹節、海苔、昆布、荒布、佃煮、味噌、醬物、甘酒、漬物、胡椒等

第四十六類　煙草

第四十七類　穀菜類、種子、果物、穀粉、澱粉及其ノ製品

米、麥、粟、黍、稗、豆、蕎、乾瓢、球根、麵種、「モヤシ」、「ペーキングパウダー」、「イースト」、パウダー」、麥粉、葛粉、粉類、湯葉、豆腐、豆乳、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等

第四十八類　燻草類

第四十九類　燻草具及袋物

煙管、煙草入、煙管筒、薄荷「パイプ」、紙入、貨幣入、名刺入、信玄袋、「オペラバツグ」等

第五十類　紙及他類ニ屬セサル其ノ製品

日本紙、西洋紙、板紙、壁紙、油紙、澁紙、書簡筒、張文匣、一閑張、帳簿、水引等

第五十一類　文房具

筆、墨、印肉、印材、「インキ」、印刷「インキ」、石筆、鉛筆、萬年筆、「ペン」、「ペン」軸、硯、「インキ壺、文鎭、筆筒、筆架、石盤、紙綴具、鉛筆削、「プロッター」、「シース」等

第五十二類　皮革、其ノ模造品及他類ニ屬セサル其ノ製品竝各種ノ鞄類

毛皮、柔革、擬革紙、擬革布、馬具、革文匣、締革、「キャットゲット」等

第五十三類　固形燃料類

石炭、「コークス」、薪、炭、附木、懷爐灰等

第五十四類　齒磨ノ類

第五十五類　油脂及蠟ノ類

石油、菜子油、魚油、鯨脂、木蠟、蜜蠟、蠟燭等

第五十六類　肥料

干鰯、餌粕、油粕、肉粉、骨粉、血粉、糠、燐酸肥料、調合肥料、硫酸安母尼亞等

第五十七類　木竹材、籐、木皮、竹皮及經木ノ類

第五十八類　他類ニ屬セサル木、竹、籐、木皮、竹皮類ノ製品、其ノ漆塗品及蒔繪品ノ類

指物、挽物、曲物、編物、組物、補、經木眞田等

第五十九類　骨、角、齒牙及甲殼ノ類、他類ニ屬セサル其ノ製品及其ノ模造品、他類ニ屬セサル「エボナイト」製品及「ガタペルチヤ」ノ硬質製品竝「セルロイド」及他類ニ屬セサル其ノ製品

第六十類　藁、草及他類ニ屬セサル其ノ製品

麥稈、麻表、莚、蓆、笠、繩、麥稈眞田等

第六十一類　傘、洋傘、杖、靴、下駄、草履、雪駄、鼻緒、爪掛等

第六十二類　扇子及團扇ノ類

第六十三類　燈器及其ノ各部

洋燈、燭臺、提燈、火屋、燈蓋、瓦斯「バーナー」、瓦斯「マントル」、燭心等

第六十四類　頭飾品、調髮具及「リボン」ノ類、造花竝刷子類

櫛、笄、簪、「ヘヤピン」、「ヘヤネツト」、手絡、根掛、髮止、髷形、元結、髷、附髷、入毛、髮志、髮掛「リボン」、裝飾「リボン」、齒刷子、化粧刷毛、埃取刷子等

第六十五類　玩具及運動競技具

鞠、碁、將棋、人形、獨樂、弓、球突具、抑繪、骨牌、野球具、庭球具、卓球具、擊劍柔道具等

第六十六類　圖畫、寫眞及印刷物類

附　則（大正十一年十二月農令第三十三號）

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和四年九月商令第九號）

本令ハ昭和四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●商標登録規則

大正十年十二月農商務省令第四十二號

商標登録規則左ノ通定ム

第一條　商標ニ關スル登録ニ付テハ特許登録令施行規則ヲ準用ス

第二條　商標原簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第三條　商標原簿ノ聯合商標登録番號欄ニハ其ノ登録商標ニ聯合スヘキ商標ノ登録番號ヲ記載ス

第四條　商標權設定ノ登録ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外表示欄ニ商標ヲ使用スル商品ノ類別及商品竝外國ノ登録商標ナル場合ニ在リテハ尚其ノ旨ヲ記載スヘシ

第五條　聯合ノ商標權設定ノ登録ヲ爲スニハ特許登録令第二條ノ規定ニ準シ其ノ登録ヲ爲スヘシ但シ各登録用紙中表示欄ニ爲スヘキ商標權ノ表示ハ第四條ノ規定ニ準シ之ヲ爲シ尚移轉シタル商標權ノ登録用紙中甲區事項欄ニ登録權利者ノ氏名名稱及住所ヲ記載スヘシ

第六條　商品ノ一部抹消ノ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ變更ノ登録ヲ爲スヘシ

第七條　聯合ノ商標權ノ一部ニ付キ登録ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外表示欄ニ登録商標ヲ使用スル商品ノ類別及商品竝外國ノ登録商標ナル場合ニ在リテハ尚其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八條　特許登録令施行規則第二十七條乃至第三十二條ノ規定ニ準シ其ノ登録ヲ爲スヘシ但シ各登録用紙中表示欄ニ爲スヘキ商標權ノ表示ハ第四條ノ規定ニ準シ之ヲ爲シ尚移轉シタル商標權ノ登録用紙中甲區事項欄ニ登録權利者ノ氏名名稱及住所ヲ記載スヘシ

第九條　商品ノ一部抹消ノ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ變更ノ登録ヲ爲スヘシ

第十條　本則ハ商標法第二十六條ノ標章又ハ同法第二十七條若ハ第三十三條ノ團體標章ニ關スル登録ニ付之ヲ準用ス

附　則

本則ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年農商務省令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

（別記様式）

登録番號	表示番號	表示欄	順位番號	事項欄	代理人欄	聯合商標登録番號欄

●商標ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登録ニ關スル件

大正十年十二月勅令第四百六十四號

朕商標ニ關スル審判其ノ他ノ手續ノ費用及登録ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　商標ニ關スル審判、抗告審判、出訴及再審竝登録異議及其ノ參加ニ關スル費用ニ付テハ特許法施行令第三章ヲ準用ス

第二條　商標ニ關スル登録ニ付テハ特許登録令ヲ準用ス

第三條　商標權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ譲渡ト共ニスルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

商標法第十二條第二項ノ規定ニ依ル移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ移轉ニ係ル商品ヲ記載スヘシ

聯合ノ商標權ノ移轉ノ登録又ハ其ノ商標權ノ登録名義人ノ表示ノ變更若ハ更正ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ同時ニ他ノ商標權ニ付テモ同一事項ノ登録ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同一ノ申請書ヲ以テ登録ヲ申請スルコトヲ得

第四條　譲渡ノ廢止ニ依ル商標權ノ登録ノ抹消ハ登録名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

商標法第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ノ一部ニ係ル譲渡ノ廢止ニ依ル登録ノ一部抹消ノ場合ニ於テハ申請書ニ其ノ譲渡ノ廢止ニ係ル商品ヲ記載スヘシ

第五條　本令ハ商標法第二十六條ノ標章又ハ同法第二十七條若ハ第三十三條ノ團體標章ニ關スル登録ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第二百九十六號ハ之ヲ廢止ス

●商標法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件

明治四十三年八月勅令第三百三十一號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ商標法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條　本令施行ノ際同一人ニシテ同一商品ニ使用スヘキ類似商標ニ付商標法及韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ヲ有スル場合ニ於テハ其ノ商標ハ聯合商標トス

第二條　商標法ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮ニ於テ、韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮以外ニ於テ本令施行後六月間ハ其ノ商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル商品ヲ交付若ハ販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三條　商標カ商標法第二條第四號又ハ第五號ニ該當スル場合ニ於テハ商標法ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮ニ於テ、韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮以外ニ於テ其ノ效力ヲ有セス

第四條　明治四十三年勅令第三百三十六號第一條乃至第三條及第五條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第五條　韓國商標令ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十四年三月帝國議會承諾）

●關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件

明治四十四年五月勅令第百六十七號

朕關東州ニ於ケル帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　帝國臣民カ帝國ニ於テ享有スル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ效力ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ及フモノトス

第二條　特許法、意匠法、商標法、實用新案法及著作權法中ノ罰ニ關スル規定ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ對シ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ明治四十四年五月二十八日ヨリ之ヲ施行ス

第十章　度量衡

●朝鮮度量衡令

大正十五年二月制令第六號

朝鮮度量衡令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

第一條　度量衡ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス

メートルハ嚴解シツツアル純粹ノ水ノ氷ノ温度ニ於ケル國際メートル原器ノ示ス所ノ長トスキログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス

第二條　メートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルメートル原器ニ依リ、キログラム條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リ之ヲ現示ス

第三條　朝鮮總督ハ前條ノ原器ニ依リ製作シタル檢定原器ヲ以テ前條ノ原器ニ代用ス

檢定原器ハ朝鮮總督之ヲ保管ス

第四條　度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度

ミクロン　メートルノ百萬分ノ一

メートルノ千分ノ一

センチメートル　メートルノ百分ノ一

デシメートル　メートルノ十分ノ一

メートル

キロメートル　千メートル

面積

平方ミリメートル　平方メートルノ百萬分ノ一

平方センチメートル　平方メートルノ一萬分ノ一

平方デシメートル　平方メートルノ百分ノ一

平方メートル

平方キロメートル　百萬平方メートル

量

立方センチメートル　立方メートルノ百萬分ノ一

立方デシメートル　立方メートルノ千分ノ一

立方メートル

衡

ミリグラム　キログラムノ百萬分ノ一

グラム　キログラムノ千分ノ一

キログラム

トン　千キログラム

前項ニ規定スル度量衡又ハ其ノ倍數若ハ分數ニ依ル度量衡ニシテ土地又ハ液體ノ計量其ノ他特殊ノ場合ニ用フルモノノ名稱命位ニ關シテハ朝鮮總督之ヲ定ム

第五條　温度、密度、壓力、工率其ノ他ノ狀態及能率ノ計量ノ單位ニシテ度量衡ニ依リテ定ムルモノ又ハ度量衡及度量衡ニ非サル他ノ單位ニ依リテ定ムルモノニ關シテハ朝鮮總督之ヲ定ム

第六條　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依ラサル度量衡又ハ計量ノ單位ハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外販引上又ハ證明上ニ之ヲ用フルコトヲ得ス

第七條　度量衡器ノ製作及販賣ハ政府ニ專屬ス

政府ハ特ニ指定スル者ニ度量衡器ノ販賣ヲ委託スルコトヲ得

第八條　度量衡器ノ修覆、輸入又ハ移入ハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　政府ノ製作、修覆、輸入又ハ移入シタル度量衡器ニハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外證印ヲ附ス

第十條　政府以外ノ者度量衡器ノ修覆、輸入又ハ移入ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外政府ノ檢定ヲ受クヘシ

政府ノ檢定ニ合格シタル度量衡器ニハ檢定證印ヲ附ス

第十一條　度量衡法ニ依ル檢定證印アル度量衡器ノ輸入又ハ移入ヲ爲ス場合ニハ前二條ノ規定ハ之ヲ適用セス但シ朝鮮總督ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　度量衡器ニ非サルモノ及左ノ各號ノ一ニ該當スル度量衡器ハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外取引上又ハ證明上ニ於ケル度量衡ノ計量ニ之ヲ使用シ又ハ使用ニ供スル爲之ヲ所持スルコトヲ得ス

一　第九條ノ證印又ハ檢定證印ナキモノ

二　修覆ヲ爲シタル後其ノ檢定ヲ受ケス又ハ檢定ニ合格セサルモノ

三　變造シタルモノ

四　朝鮮總督ノ定ムル公差以上ノ狂ヲ生シタルモノ

五　朝鮮總督ノ定ムル構造ヲ具備セサルモノ

至リタルモノ

度量衡法ニ依ル檢定證印又ハ同法ニ依ル檢定ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ檢定證印又ハ檢定ト看做ス

第十三條　度量衡ニ依ル正味量ノ實量ヲ超過スル品ニシテ其ノ表記正味量カ實量ヲ超過スルモノハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外之ノ定ムル場合ヲ除クノ外販引上又ハ證明上之ヲ用フルコトヲ得ス

ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲之ヲ所持スルコトヲ得ス

商品ノ度量衡ニ依ル量目ノ表記ハ正味量ノ表記ニ非サルコト明ナル場合ヲ除クノ外之ヲ度量衡ニ依ル正味量ノ表記ト看做ス

第十四條　度量衡器ノ委託販賣、修覆、輸入、移入、第九條ノ證印、檢定、取締及使用ノ制限竝度量衡ノ計量ノ取締ニ關シテハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十五條　當該官吏度量衡器ノ取締又ハ度量衡ノ計量ノ取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ店舖、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得

當該官吏臨檢ノ際度量衡ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ朝鮮間接國稅犯則者處分令ヲ準用ス

第十六條　當該官吏ハ第十二條第一項各號ノ一ニ該當スルモノヲ破毀シ、其ノ證印ヲ除去シ若ハ消印ヲ附シ又ハ第十三條第一項ニ該當スルモノノ正味量ノ表記ヲ更正シ若ハ消去シ其ノ他取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條　度量衡器ノ委託販賣ノ指定又ハ第八條ノ許可ヲ受ケタル者本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ當該官廳ノ命ニ從ハサルトキハ朝鮮總督ハ其ノ指定又ハ許可ヲ取消スコトヲ得

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十二條第一項又ハ第十三條第一項ノ規定ニ違反シタル者

二　度量衡ノ計量ヲ僞ルノ目的ヲ以テ不正ニ度量衡器ヲ使用シタル者

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　私ニ度量衡器ノ製作又ハ變造ヲ爲シタル者

二　委託販賣ノ指定ヲ受ケスシテ度量衡器ノ販賣ヲ爲シタル者

三　第八條ノ規定ニ違反シタル者

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第六條ノ規定ニ違反シタル者

二　當該官吏ノ訊問ニ對シ答辯ヲ拒ミ若ハ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者

第二十一條　度量衡器ノ委託販賣ノ指定若ハ第八條ノ許可ヲ受ケタル者、業務上取引若ハ證明ノ爲度量衡器ヲ使用スル者又ハ度量衡ニ依ル正味量ノ表記アル商品ヲ販賣スル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條　度量衡器ノ委託販賣ノ指定若ハ第八條ノ許可ヲ受ケタル者、業務上取引若ハ證明ノ爲度量衡器ヲ使用スル者又ハ度量衡ニ依ル正味量ノ表記アル商品ヲ販賣スル者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ヲ科スルコトヲ得ス

第二十四條　第七條乃至第十二條、第十四條乃至前條ノ規定ハ朝鮮總督ノ指定スル計量器ニ之ヲ準用ス

第二十五條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ明治三十三年法律第五十二號ニ依ル

第二十六條　本令中罰則ニ關スル規定ハ公務所ニ之ヲ適用セス

附　則

第二十七條　本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム（大正十五年三月總令第二十二號ヲ以テ大正十五年四月一日ヨリ施行）

第二十八條　隆熙三年法律第二十六號度量衡法及明治四十二年統監府令第二十三號ハ之ヲ廢止ス

第二十九條　從來慣用ノ度量衡ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ當分ノ內仍之ヲ用フルコトヲ得

第三十條　從前ノ規定ニ依リ附シタル證印又ハ檢印ハ之ヲ第九條ノ證印又ハ檢定證印ト看做ス

第三十一條　從前ノ規定ニ依ル度量衡器委託販賣者ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ朝鮮總督ノ定ムル期間之ヲ第七條第二項ノ規定ニ依ル指定ヲ受ケタル者ト看做ス

第三十二條　從前ノ規定ニ依リ度量衡器ノ修理ノ特許ヲ受ケ本令施行ノ際現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ朝鮮總督ノ定ムル期間之ヲ第八條ノ規定ニ依ル修覆ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三十三條　從前ノ規定ニ依リ度量衡器ノ移入販賣ニ付特許ヲ受ケ本令施行ノ際販賣ノ爲所持スル度量衡器ニ限リ朝鮮總督ノ定ムル期間仍其ノ販賣ヲ繼續スルコトヲ得第二十四條ノ規定ニ依ル計量器ノ指定ノ際其ノ計量器ノ販賣ノ業ヲ營ム者カ販賣ノ爲所持スル計量器ニ付亦同シ

●朝鮮度量衡令施行規則

大正十五年三月
總令第二十五號
改正　昭和五年一一第九二號、八年一〇第一一一號、九年四第四一號

朝鮮度量衡令施行規則左ノ通定ム

朝鮮度量衡令施行規則

第一條　土地又ハ液體ノ計量其ノ他特殊ノ場合ニ用フル度量衡ニ付テハ朝鮮度量衡令第四條第一項ノ規定ニ依ルノ外尙其ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度
- 土地又ハ水面ノ面積
  - アール　百平方メートル
  - ヘクタール　百アール
- 海面ニ於ケル長
  - 海里　千八百五十二メートル

量
- 液體、瓦斯體、粒狀物又ハ粉狀物ノ量
  - ミリリットル　リットルノ千分ノ一
  - デシリットル　リットルノ十分ノ一
  - リットル　立方デシメートル
  - ヘクトリットル　百リットル
  - キロリットル　千リットル

噸
- 船舶ノ積量　三百五十三分ノ千立方メートル

衡
- 寶石ノ重量
  - カラット　二百ミリグラム

第二條　朝鮮度量衡令第五條ノ規定ニ依リ計量ノ單位ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　力ノ單位ハメガダインス

メガダインハ一キログラムノ質量ノ物體ニ働クトキ一秒ニ付每秒十メートルノ速度ノ增加ヲ與フル力ヲ謂フ

力ノ單位ニハ重量キログラムヲ用フルコトヲ得一重量キログラムハ之ヲ〇・九八メガダイントス

二　壓力ノ單位ハバールトス

バールハ一メガダインノ力ヲ一平方センチメートルノ面積ニ受クル壓力ヲ謂フ

壓力ノ單位ニハ平方センチメートルニ付重量キログラムヲ用フルコトヲ得平方センチメートルニ付一重量キログラムハ之ヲ〇・九八バールトス

バールハ之ヲ氣壓ト稱スルコトヲ得

三　仕事ノ單位ハジュールトス

ジュールハ一メガダインノ力ニ抵抗シテ十センチメートルノ長タケ物體ヲ動カストキ爲サルル仕事ヲ謂フ

仕事ノ單位ニハキログラムメートルヲ用フルコトヲ得一キログラムメートルハ之ヲ九・八ジュールトス

四　工率ノ單位ハキロワットトス

キロワットハ一秒ニ付千ジュールノ工率ヲ謂フ

五　密度ノ單位ハ一氣壓ニ於テ四度ノ溫度ヲ有スル純粹ノ水ノ密度トス

六　溫度ノ單位ハ度トス

度ハ一定ノ體積ヲ保タシメツツ一定質量ノ完全瓦斯ノ溫度ヲ融解シツツアル純粹ノ水ノ氷ノ溫度ヨリ一・〇一三三氣壓ニ於テ沸騰スル純粹ノ水ノ蒸氣ノ溫度迄變セシムル間ニ於テ生スル壓力ノ增加ノ百分ノ一ノ壓力ヲ其ノ完全瓦斯ニ生スル溫度ヲ謂フ

融解シツツアル純粹ノ水ノ氷ノ溫度ハ之ヲ零度トス

度ハ之ヲ攝氏度ト稱スルコトヲ得

前項第一號及第四號ニ於テ秒トハ平均太陽日ノ八萬六千四百分ノ一ヲ謂フ

第一項第六號ノ規定ニ依ル溫度ノ單位ハ攝氏零度ノトキ一・三三三三氣壓ヲ有スル定體積水素溫度計ニ依リ之ヲ表示ス

第三條　前條ニ規定スル計量ノ單位ノ倍數及分數ノ名稱ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　力
- 重量グラム　一重量グラムハ重量キログラムノ千分ノ一トス
- 重量ミリグラム　一重量ミリグラムハ重量キログラムノ百萬分ノ一トス

二　壓力
- ミリバール　一ミリバールハバールノ千分ノ一トス

三　仕事
- キロジュール　一キロジュールハ千ジュールトス
- キロワット時　一キロワット時ハ三千六百キロジュールトス

四　工率
- ワット　一ワットハキロワットノ千分ノ一トス

第四條　液體ノ密度ヲ計量スル「ボーメ」度及「トワッテル」度ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

一　「ボーメ」度

重液用　$d=\frac{144.3}{144.3-B}$

輕液用　$d=\frac{144.3}{134.3+B}$

右算式中Bハ「ボーメ」度、dハ之ニ對スル密度ナリ

二　「トワッテル」度　$d=\frac{200+n}{200}$

右算式中nハ「トワッテル」度、dハ之ニ對スル密度ナリ

第五條　第一條及朝鮮度量衡令第四條第一項ニ規定スル度量衡中其ノ名稱ノ略字ヲ定ムルコト左ノ如シ

	名稱	略字	
度	ミクロン	μ	
	ミリメートル	mm	又ハ粍
	センチメートル	cm	又ハ糎
	デシメートル	dm	
	メートル	m	又ハ米
	キロメートル	km	又ハ粁
	アール	a	
	ヘクタール	ha	
	海里	浬	
量	立方センチメートル	cc	
	ミリリットル	ml	又ハ竓
	デシリットル	dl	又ハ竕
	リットル	l	又ハ立
	ヘクトリットル	hl	又ハ竡
	キロリットル	kl	又ハ竏
噸		T	又ハ屯
衡	ミリグラム	mg	又ハ瓱
	グラム	g	又ハ瓦
	キログラム	kg	又ハ瓩
	トン	t	又ハ瓲
	カラット	ct	

計量器ニ表記スヘキ計量ノ單位ノ名稱ハ其ノ種類ニ從ヒ左ノ略字ヲ用フルコトヲ得

	名稱	略字	
力	重量キログラム	KG.W	（衡ノ名稱ト混同ノ虞ナキ場合ニ於テハKGヲ用フルコトヲ得）
	重量グラム	G.W	（衡ノ名稱ト混同ノ虞ナキ場合ニ於テハGヲ用フルコトヲ得）
壓力	バール又ハ氣壓	Bar 又ハ Atm	
	ミリバール	M.Bar	
	平方センチメートルニ付重量キログラム	KG.Pr.□cm	
仕事	ジュール	J	
溫度	度又ハ攝氏度	℃	（單ニ攝氏度ニ依ル目盛ナルコトヲ表記スル場合ニ於テハCヲ用フルコトヲ得）

前項ニ揭クル以外ノ略字ト雖慣行ノモノハ之ヲ用フルコトヲ得

生絲纖度檢定器ニ表記スヘキ生絲纖度ノ名稱ハDノ略字ヲ用フルコトヲ得

第六條　酒精ト水トノ混合液及純蔗糖ノ水溶液ノ含有成分ノ百分率ヲ密度ニ依リ表ハス場合ニ於テハ其ノ百分率ニ相當スル密度ノ値ハ第一表及第二表ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

第七條　朝鮮度量衡令第二十四條ノ計量器左ノ如シ

一　晴雨計以外ノ計壓器

二　浮秤

三　物體ノ膨脹ニ依ル溫度計

四　生絲纖度檢定器

五　乳脂計

第八條　第二條及第三條ノ規定ニ依ル單位ニ依リ計量スヘキ狀態又ハ能率ト異ナル狀態又ハ能率ニ關シテハ任意ノ計量ノ單位ヲ用フルコトヲ得

第九條　晴雨計、浮秤ニ非サル密度計量器及物體ノ膨脹ニ依ラサル溫度計ハ取引上又ハ證明上ニ於ケル壓力、密度又ハ溫度ノ計量ニ之ヲ使用シ又ハ使用ニ供スル爲所持スルコトヲ得

第十條　輸出又ハ輸入ニ係ル商品ニ關シテハ第一條乃至第三條又ハ朝鮮度量衡令第四條ノ規定ニ依ラサル度量衡又ハ計量ノ單位ト雖之ヲ用フルコトヲ得但シ輸入ニ係ル商品ヲ販賣スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規程ハ輸入ニ係ル商品ヲ更ニ輸出スル目的ヲ以テ販賣スル場合ニハ之ヲ適用セス

第十一條　政府ノ販賣スル度量衡器及計量器ノ種類、名稱及價格ハ之ヲ告示ス

第十二條　度量衡器又ハ計量器ノ委託販賣ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スヘシ

一　販賣所ノ位置

二　販賣目論見書

三　履歷書

四　戶籍謄本

第十三條　政府度量衡器又ハ計量器ノ委託販賣ノ指定ヲ爲シタルトキハ委託販賣ノ指定ヲ受ケタル者（以下單ニ委託販賣者ト稱ス）ニ對シ第三表ニ依ル保證金ノ納付ヲ命ズベシ

政府必要アリト認ムルトキハ保證金ノ增額ヲ命ジ又ハ保證人ヲ立テシムルコトヲ得

前二項ノ保證金ハ國債證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十三條ノ二　政府度量衡器又ハ計量器ノ委託販賣ノ指定ヲ爲シタルトキハ委託證ヲ下付ス

第十四條　委託販賣者其ノ販賣所ノ位置ヲ變更セムトスルトキ又ハ委託販賣ヲ休止セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條　委託販賣者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遲滯ナク朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

一　委託證ヲ紛失シタルトキ

二　委託販賣者氏名（姓名ヲ含ム以下同シ）ヲ變更シタルトキ

第十六條　委託品汚損シ、毀損シ、亡失シ其ノ他故障ヲ生シタルトキハ委託販賣者ハ遲滯ナク其ノ旨朝鮮總督ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ損害ノ賠償ヲ命スルコトアルヘシ

第十七條　委託販賣者委託ノ解除ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ委託證及委託品現在高明細書ヲ添附シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條　委託販賣者死亡シタルトキハ戶主又ハ家族ヨリ遲滯ナク委託證及委託品現在高明細書ヲ具シ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第十九條　委託販賣者ハ政府ノ定ムル價格ヲ以テスルニ非サレハ度量衡器又ハ計量器ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二十條　委託販賣者ハ每月ノ度量衡器又ハ計量器ノ販賣高ヲ翌月十日迄ニ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第二十一條　委託販賣者納付金ヲ納入期日迄ニ納入セサルトキハ日步三錢ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵スルコトアルヘシ

前項ノ納付金ハ別ニ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十二條　委託販賣者前條ノ納付金ヲ納入期日迄ニ納入セサルトキ、前條ノ遲延利息ヲ納入セサルトキ又ハ第十六條第二項ノ損害ノ賠償ヲ爲ササルトキハ保證金ヲ以テ之ヲ補塡スルコトアルヘシ

第二十三條　委託販賣者ハ桿秤ノ緒紐又ハ錘絲ノ修覆ヲ依頼セラレタル場合ニ在リテハ六年ノ末日トシ其ノ桿秤ノ緒紐又ハ錘絲ノ修覆ヲ營ムコトヲ得

前項ノ業ヲ營マントスル者ハ朝鮮總督ノ指定スル講習ヲ受ケ其ノ修了ノ證書ヲ得タル者ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第二十四條　委託販賣者ハ正當ノ事由アリテ委託販賣ノ取次ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ依頼ヲ受ケタル場合ニ於テ委託販賣者ハ其ノ修覆料ノ一割以上ヲ手數料トシテ請求スルコトヲ得ス

第二十五條　委託販賣ノ委託ノ期間ハ五年トス

第二十六條　朝鮮度量衡令第八條ノ規定ニ依リ修覆ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スヘシ

一　營業者及技術監督者ノ履歴

二　修覆セムトスル度量衡器又ハ計量器ノ種類

三　營業所ノ位置及工場ノ略圖

四　修覆ノ用ニ供スル主タル機械ノ名稱及員數

第二十七條　度量衡器又ハ計量器ノ修覆ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

修覆者ハ前條第四號ノ事項又ハ技術監督者ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第二十八條　修覆ノ許可ノ期間ハ五年トス

第二十八條ノ二　修覆者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及許可證ヲ具シ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第二十八條ノ三　修覆者死亡シタルトキハ戸主又ハ家族ヨリ遲滯ナク許可證ヲ具シ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第二十九條　修覆者ニ於テ修覆シタル度量衡器又ハ計量器ニ付一定ノ記號ヲ附スヘシ

前項ノ記號ハ豫メ其ノ樣式ヲ定メ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ前項ノ記號ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第三十條　委託販賣者又ハ修覆者ニシテ桿秤ノ緒紐又ハ錘絲ノ修覆ヲ依頼セラレタル場合ニ在リテハ六年ノ末日トシ其ノ桿秤ノ緒紐又ハ錘絲ノ修覆ヲ營ムコトヲ得ス

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ度量衡器又ハ計量器ノ檢定ヲ受クルコトヲ要セス但シ第二號ノ場合ニ於テハ豫メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

一　水量メートルニシテ檢定ノ有效期間內ニ在ルモノヲ修覆シタルトキ

二　特殊ノ種類又ハ構造ノ度量衡器又ハ計量器ニシテ朝鮮總督ノ指定スルモノヲ輸入、移入又ハ修覆シタルトキ

三　輸入又ハ移入ノ目的ノ計量器ノ種類、個數、構造及用途

四　製作者ノ氏名又ハ名稱及住所

五　通關セムトスル稅關名

前項ノ申請書ニ付テハ明治四十三年朝鮮總督府令第五號ヲ適用セズ

第三十二條ノ二　度量衡法ニ依ル檢定證印アル度量衡器若ハ計量器ヲ分解シテ輸入若ハ移入シタル場合又ハ同法ニ依ル檢定證印アル一ミリグラム以下ノ重量ヲ感ズル秤ヲ輸入若ハ移入シタル場合ニ於テハ更ニ政府ノ檢定ヲ受クヘシ

第三十三條　度量衡器又ハ計量器ニシテ業務ニ關係ナキ自己ノ專用ニ供スルモノニ限リ政府ノ許可ヲ受ケシテ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得

第三十四條　度量衡器又ハ計量器ノ檢定ノ一部ハ別ニ定ムル所ニ依リ道知事ヨシテ之ヲ行ハシム

第三十五條　檢定ヲ行ヒタル度量衡器又ハ計量器左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ合格トス

一　第四表ノ種類ニ屬シ朝鮮總督ノ別ニ定ムル構造ノ規定ニ適合シ且其ノ器差第五表ノ公差ヲ超エサルモノ

特殊ノ種類又ハ構造ノモノニ在リテハ特ニ朝鮮總督ノ定ムル規定ニ適合スルモノ

第三十六條　瓦斯メートル及水量メートルニ附シタル證印ノ有效期限ハ其ノ證印ヲ附シタル月ノ翌月一日ヨリ起算シ瓦斯メートルハ前項ノ檢査ニ合格セサル水量メートルハ之ヲ取引上又ハ證明上ニ於ケル度量衡ノ計量ニ使用スルコトヲ得ス

第三十八條　證印又ハ檢定證印アル度量衡器又ハ計量器ニシテ檢定ニ合格セサルトキハ其ノ證印若ハ檢定證印ヲ除去シ又ハ消印ヲ附ス

第三十九條　度量衡器又ハ計量器ヲ所有又ハ所持スル者ハ何人ト雖其ノ檢定ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ申請者ヲシテ檢定ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第四十條　度量衡器又ハ計量器ニシテ土地又ハ建物等ニ取附ケラレタル場合其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テ度量衡器又ハ計量器ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受ケムトスル者ハ其ノ所在地、種類、個數及其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スヘシ

第四十一條　證印又ハ檢定證印ヲ附スヘキ部分左ノ如シ但シ之ニ依リ難キトキハ便宜ノ部分ニ之ヲ附ス

一　度量衡器

甲　度量衡器

目盛ノ各段ノ一端又ハ裏面（帶狀麻製ノモノハ廠ノ部分）及分離シ得ル構造ノモノニ在リテハ其ノ各部分ノ中央部

乙　計量器

イ　桝及化學用量器

全量ヲ表記シタル傍及金屬製桝又ハ木製桝ニシテ注口ヲ附シタルモノニ在リテハ其ノ注口

ロ　斗概　切口

ハ　瓦斯メートル　乾式ノモノニ在リテハ上板ノ連接部、濕式ノモノニ在リテハ前板何前金メートルニ在リテハ前金拂裝置ノ連接部

ニ　水量メートル　外函ノ上部、副管ヲ設ケタルモノニ在リテハ各メートルノ外函ノ上部

丙　衡器

イ　天秤、上皿天秤及十分秤　桿ノ中央部又ハ其ノ附近

ロ　臺秤　秤ノ末端、秤量ヲ表記シタル傍、

ニ在リテハ五年ノ末日トシ水量メートルニ在リテハ六年ノ末日トス

左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ度量衡器又ハ計量器ノ檢定ヲ受クルコトヲ要セス但シ第二號ノ場合ニ於テハ豫メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

一　桿秤ノ緒紐又ハ錘絲ヲ以テ組成シタル度量衡器又ハ計量器ノ一部ヲ修覆シタルトキ

二　修覆セムトスル度量衡器又ハ計量器ノ種類

三　營業所ノ位置及工場ノ略圖

四　修覆ノ用ニ供スル主タル機械ノ名稱及員數

第二十七條　度量衡器又ハ計量器ノ修覆ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

修覆者ハ前條第四號ノ事項又ハ技術監督者ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第二十八條　修覆ノ許可ノ期間ハ五年トス

第二十八條ノ二　修覆者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及許可證ヲ具シ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第二十八條ノ三　修覆者死亡シタルトキハ戸主又ハ家族ヨリ遲滯ナク許可證ヲ具シ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第二十九條　修覆者ニ於テ修覆シタル度量衡器又ハ計量器ニ一定ノ記號ヲ附スヘシ

前項ノ記號ハ豫メ其ノ樣式ヲ定メ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ前項ノ記號ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第三十條　委託販賣者又ハ修覆者ニシテ桿秤ノ緒紐又ハ錘絲ノ修覆ヲ依頼セラレタル場合ニ在リテハ六年ノ末日トシ其ノ桿秤ノ緒紐又ハ錘絲ノ修覆ヲ營ムコトヲ得ス

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ度量衡器又ハ計量器ノ檢定ヲ受クルコトヲ要セス但シ第二號ノ場合ニ於テハ豫メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

一　水量メートルニシテ檢定ノ有效期間內ニ在ルモノヲ修覆シタルトキ

二　特殊ノ種類又ハ構造ノ度量衡器又ハ計量器ニシテ朝鮮總督ノ指定スルモノヲ輸入、移入又ハ修覆シタルトキ

三　輸入又ハ移入ノ目的ノ計量器ノ種類、個數、構造及用途

四　製作者ノ氏名又ハ名稱及住所

五　通關セムトスル稅關名

前項ノ申請書ニ付テハ明治四十三年朝鮮總督府令第五號ヲ適用セズ

第三十二條ノ二　度量衡法ニ依ル檢定證印アル度量衡器若ハ計量器ヲ分解シテ輸入若ハ移入シタル場合又ハ同法ニ依ル檢定證印アル一ミリグラム以下ノ重量ヲ感ズル秤ヲ輸入若ハ移入シタル場合ニ於テハ更ニ政府ノ檢定ヲ受クヘシ

第三十三條　度量衡器又ハ計量器ニシテ業務ニ關係ナキ自己ノ專用ニ供スルモノニ限リ政府ノ許可ヲ受ケシテ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得

第三十四條　度量衡器又ハ計量器ノ檢定ノ一部ハ別ニ定ムル所ニ依リ道知事ヨシテ之ヲ行ハシム

第三十五條　檢定ヲ行ヒタル度量衡器又ハ計量器左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ合格トス

一　第四表ノ種類ニ屬シ朝鮮總督ノ別ニ定ムル構造ノ規定ニ適合シ且其ノ器差第五表ノ公差ヲ超エサルモノ

特殊ノ種類又ハ構造ノモノニ在リテハ特ニ朝鮮總督ノ定ムル規定ニ適合スルモノ

第三十六條　瓦斯メートル及水量メートルニ附シタル證印ノ有效期限ハ其ノ證印ヲ附シタル月ノ翌月一日ヨリ起算シ瓦斯メートルハ前項ノ檢査ニ合格セサル水量メートルハ之ヲ取引上又ハ證明上ニ於ケル度量衡ノ計量ニ使用スルコトヲ得ス

第三十八條　證印又ハ檢定證印アル度量衡器又ハ計量器ニシテ檢定ニ合格セサルトキハ其ノ證印若ハ檢定證印ヲ除去シ又ハ消印ヲ附ス

第三十九條　度量衡器又ハ計量器ヲ所有又ハ所持スル者ハ何人ト雖其ノ檢定ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ申請者ヲシテ檢定ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第四十條　度量衡器又ハ計量器ニシテ土地又ハ建物等ニ取附ケラレタル場合其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テ度量衡器又ハ計量器ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受ケムトスル者ハ其ノ所在地、種類、個數及其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スヘシ

第四十一條　證印又ハ檢定證印ヲ附スヘキ部分左ノ如シ但シ之ニ依リ難キトキハ便宜ノ部分ニ之ヲ附ス

一　度量衡器

甲　度量衡器

目盛ノ各段ノ一端又ハ裏面（帶狀麻製ノモノハ廠ノ部分）及分離シ得ル構造ノモノニ在リテハ其ノ各部分ノ中央部

乙　計量器

イ　桝及化學用量器

全量ヲ表記シタル傍及金屬製桝又ハ木製桝ニシテ注口ヲ附シタルモノニ在リテハ其ノ注口

ロ　斗概　切口

ハ　瓦斯メートル　乾式ノモノニ在リテハ上板ノ連接部、濕式ノモノニ在リテハ前板何前金メートルニ在リテハ前金拂裝置ノ連接部

ニ　水量メートル　外函ノ上部、副管ヲ設ケタルモノニ在リテハ各メートルノ外函ノ上部

丙　衡器

イ　天秤、上皿天秤及十分秤　桿ノ中央部又ハ其ノ附近

ロ　臺秤　秤ノ末端、秤量ヲ表記シタル傍、

休ミノ把手ノ中央部、比例螺旋ノ緊著部及增錘臺ノ上面

ハ　上皿桿秤

桿ノ末端及增錘臺ノ上面

ニ　棹秤

直點ノ傍又ハ桿ノ末端及皿附ノモノニ在リテハ其ノ皿

ホ　自働秤

目盛盤又ハ其ノ緣及桿ガ外部ニ現レタルモノニ在リテハ其ノ桿

ヘ　分銅、錘及增錘

上面又ハ側面

二　計量器

甲　計壓器

「アルドン」管又ハ波狀板ヲ用ヒタルモノニ在リテハ其ノ上部又ハ側面ノ金屬片ノ部分、連通管ノモノ及浮ヲ用ヒタルモノニ在リテハ目盛面ノ上部

乙　浮秤

胴部又ハ目盛面ノ上部

丙　溫度計

板附ノモノニ在リテハ目盛板及管ノ上部、板附以上ノモノニ在リテハ目盛面ノ上部

丁　生絲繅度檢定器

檢尺器ニ在リテハ絲枠ノ絲受ノ部分及回轉器ノ目盛盤檢位衡ニ在リテハ目盛面

戊　乳脂計

目盛面ノ上部

第四十二條　朝鮮度量衡令第九條ノ證印、檢定證印及消印ハ樣式第一號ニ依ル

第四十三條　有效期限ヲ表示スル證印ハ瓦斯メートルニ在リテハ前條ノ證印ノ下ニ、水量メートルニ在リテハ其ノ裏面ノ樣式第二號ニ依リ年月ノ數字ヲ附記スルモノトス

第四十四條　水銀溫度計ニハ證印ヲ附シタル年ノ數字ヲ附記ス

第四十五條　衡器ノ檢定ノ場合ニ於テ證印又ハ檢定證印ヲ附シタル板狀分銅、錘、增錘又ハ增錘臺ニハ更ニ檢定證印ヲ附セサルコトアルヘシ

第四十六條　木製枡ハ穀用枡ニ非サレハ之ヲ穀類ノ計量ニ使用スルコトヲ得ス

木製枡ハ穀用枡ニ非サレハ之ヲ液類ノ計量ニ使用スルコトヲ得ス

第四十七條　十リットル以上ノ穀類ヲ計量スル場合ニハ全量十リットル未滿ノ枡ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十八條　枡ヲ以テ穀類ヲ計量スル場合ニ於テハ圓壔形斗概ヲ使用スルコトヲ要ス

第四十九條　水平ヲ定ムル裝置アル秤又ハ檢位衡ハ其ノ量ヲ水平ニ爲スニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十條　直點又ハ標點ヲ調整スル裝置アル秤又ハ檢位衡ハ其ノ直點又ハ標點ヲ調整スルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條　度量衡器又ハ計量器ノ取締ハ之ヲ分チテ第一種取締ト第二種取締トス

第一種取締ト雖業務上取引若ハ證明ニ使用シ又ハ使用ニ供スル爲所持スル度量衡器又ハ計量器ニ付檢査ヲ行フヲ謂ヒ第二種取締ト雖其ノ他ノ取締ヲ謂フ

第五十二條　度量衡器若ハ計量器ノ取締又ハ度量衡ノ計量ノ取締ハ道知事之ヲ行フ

朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ官吏ヲシテ度量衡器若ハ計量器ノ取締又ハ度量衡ノ計量ノ取締ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第五十三條　道知事第一種取締ヲ執行スル場合ハ區域ヲ定メ度量衡器又ハ計量器ノ使用者ニ對シ豫メ日時及場所ヲ指定シテ檢査ヲ受クヘキ度量衡器又ハ計量器ノ提出ヲ命スヘシ此ノ場合ニ於テハ豫メ區域、日時及場所ヲ告示スヘシ

前項ノ規定ハ度量衡器又ハ計量器ニシテ公務所ニ於テ使用スルモノ、土地若ハ建物ニ取附ケ使用スルモノ、運搬シ難キモノ又ハ道知事ノ特ニ指定スルモノニハ之ヲ適用セス

第五十四條　第一種取締ニ於テ朝鮮度量衡令第十二條各號ノ一ニ該當セサルモノハ之ヲ合格トシ樣式第三號ニ依ル檢査消印ヲ附ス

液類ノ計量ニ使用スル枡ニシテ漏水スルニ至リタルモノ又ハ材料ヲ二重トシタル金屬製枡ニシテ其ノ內面漏水スルニ至リタルモノ

第五十五條　朝鮮度量衡令第十二條第四號ノ公差ハ第五表ノ公差ノ二分ノ三トス但シ自働秤及計壓器ニ在リテハ第五表ノ公差ノ二倍トス

第五十六條　朝鮮度量衡令第十二條第五號ノ構造ハ左ノ各號ノ一ニ該當セサルモノナルコトヲ要ス

臨檢、捜索及差押ニ關シテハ朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第六十一條　度量衡器若ハ計量器ノ取締又ハ度量衡ノ計量ノ取締ノ執行スル官吏ノ携帶スヘキ證票ハ樣式第四號ニ依ル

第六十二條　第十九條、第二十四條又ハ第五十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一　業務上取引又ハ證明ノ爲度量衡器ヲ使用スル場合ニ於テ第四十六條乃至第五十條ノ規定ニ違反シタル者

二　第二十三條第三項、第三十條又ハ第五十八條ノ規定ニ違反シタル者

三　第五十三條第一項ノ規定ニ依リ指定シタル日時及場所ニ度量衡器又ハ計量器ヲ提出セサリシ者

附　則

第六十四條　本令ハ朝鮮度量衡令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十五條　隆熙三年農商工部令第三號ハ之ヲ廢止ス

第六十六條　左ニ掲クル從來慣用ノ度量衡又ハ其ノ倍數若ハ分數ニ依ル度量衡ハ第八表ニ掲クル事務又ハ事業ニ付同表ニ掲クル事務又ハ事業ヲ行フ者ヲ雙方ノ當事者トスル場合ニ於テハ昭和十四年六月三十日迄其ノ他ノ場合ニ於テハ昭和十九年六月三十日迄ニ限リ仍之ヲ用フルコトヲ得

度

メートル法

デカメートル　十メートル
ヘクトメートル　百メートル
地積　アールノ百分ノ一
センチアール　アールノ百分ノ一
量　センチリットル　リットルノ百分ノ一
デカリットル　十リットル
衡　センチグラム　キログラムノ十萬分ノ一
デシグラム　キログラムノ一萬分ノ一
グラム　キログラムノ百分ノ一
デカグラム　キログラムノ十分ノ一
ヘクトグラム
尺貫法
度　尺　メートルノ百分ノ一
毛　尺ノ千分ノ一
厘　尺ノ百分ノ一
分

寸　尺ノ十分ノ一
尺　メートルノ三十三分ノ十尺
丈　六尺
間　三百六十尺
町　一萬二千九百六十尺
里
地積　歩　百分ノ一
勺　歩ノ十分ノ一
合　アールノ百二十一分ノ四
歩又ハ坪　三十歩
畝　三百歩
段　三千歩
町
量　勺　升ノ百分ノ一
合　升ノ十分ノ一　リットルノ千三百
升　三十一分ノ二千四百一
斗　十升
石　百升
衡　毛　貫ノ百萬分ノ一
厘　貫ノ十萬分ノ一
分　貫ノ一萬分ノ一
匁　貫ノ千分ノ一　キログラムノ四分ノ十五
貫
斤　鯨尺分の百分ノ一　鯨尺ノ十分ノ一　メートルノ六十六分ノ二十五
鯨尺寸　鯨尺ノ十分ノ一　鯨尺ノ六十六分ノ二十五
鯨尺尺　鯨尺ノ百分ノ一　鯨尺尺
鯨尺丈
ヤード、ポンド法
度　インチ　ヤードノ三十六分ノ一
フート　ヤードノ三分ノ一　メートルノ千二百五十分ノ千百四十三
ヤード　メートルノ千二百四十二分ノ千七百六十ヤード
チェーン　リットルノ六千六百五十二億五千九百十二萬百二十三
マイル　百萬分ノ一
量　ガロン

第七十一條　第五十五條ノ規定ハ第十九條ノ度量衡器ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ第五十五條中第五表トアルハ第七表トス

第七十二條　度量衡器又ハ計量器ニシテ第一條乃至第三條又ハ朝鮮度量衡令第四條第一項ノ規定ニ依ル度量衡又ハ計量ノ單位ノ目盛其ノ他ノ表示ナキモノハ昭和十九年六月三十日迄取引上又ハ證明上ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第七十三條　第六十六條ノ規定ニ依ル鯨尺ハ布帛類ヲ計量スル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第七十四條　五升以上ノ穀類ヲ計量スル場合ニ於テハ金量五升未滿ノ枡ヲ通用スルコトヲ得ス

第七十五條　朝鮮度量衡令第三十一條及第三十二條ノ期間ハ本令施行後五年、同令第三十三條ノ期間ハ本令施行後三年トス

第七十六條　本令施行前製作シ、輸入シ又ハ移入シタル計量器ニ付テハ大正十八年十二月三十一日迄朝鮮度量衡令第十二條ノ規定ヲ適用セス

第七十七條　本令施行前度量衡器販賣ノ委託ヲ受ケ現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ保證人アル場合ニ限リ大正十六年三月三十一日迄第十三條ノ規定ニ依ル保證金ノ納入ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十八條　第七十三條又ハ第七十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則（昭和五年十一月總令第九十二號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸入又ハ移入シタル水量メートルハ檢定證印ナキモノト雖昭和十五年三月三十一日迄之ヲ取引上又ハ證明上ニ於ケル度量衡ノ計量ニ使用シ又ハ使用ニ供スル爲所持スルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ使用中ノ水量メートルニシテ昭和九年三月三十一日迄ニ檢定ヲ受ケタルモノニ付テハ檢定ノ有效期限ヲ昭和十五年三月三十一日トス

附　則（昭和八年十月總令第百十一號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ委託販賣者ヲル者ニ對シ政府ハ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ本令第三表ニ依リ既納ノ保證金ノ增減ヲ命ズベシ

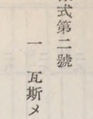
様式第一號

證印

打込印、押印、腐蝕印及摺附印

烙印

イ　直徑　十ミリメートル
ロ　同　七ミリメートル
ハ　同　五ミリメートル
ニ　同　四ミリメートル
ホ　同　三ミリメートル
ヘ　同　二ミリメートル



検定證印

打込印、押印、腐蝕印及摺附印

烙印

イ　直徑　十ミリメートル
ロ　同　七ミリメートル
ハ　同　五ミリメートル
ニ　同　四ミリメートル
ホ　同　三ミリメートル
ヘ　同　二ミリメートル

消印

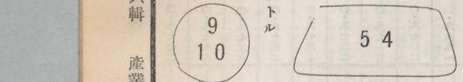
打込印

大　長徑　七ミリメートル
中　同　三ミリメートル
小　同　二ミリメートル

短徑　五ミリメートル
同　二ミリメートル
同　一、五ミリメートル

様式第二號

一　瓦斯メートル



數字ノ左方ハ年
右方ハ月ヲ示ス

二　水量メートル

數字ノ上方ハ年
下方ハ月ヲ示ス

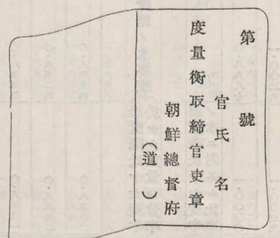
様式第三號

檢査濟印

大　直徑　十ミリメートル
中　同　五ミリメートル
小　同　三ミリメートル

數字ハ每年其ノ年ノ下位ノ數字ヲ用フ

様式第四號



第　號

官氏名

度量衡取締官吏章

朝鮮總督府
（道　）

第一表　酒精ト水トノ混合液（溫度攝氏十五度ノトキニ於ケル容積百分率ニ依ル）

酒精百分率	密度	溫度攝氏十五度ノ水ニ對スル比重	酒精百分率	密度	溫度攝氏十五度ノ水ニ對スル比重
〇	〇.九九九一	一.〇〇〇〇	九	〇.八八七〇	〇.九八七九
一	〇.九九七六	〇.九九八五	一〇	〇.八八五八	〇.九八六七
二	〇.九九六一	〇.九九七〇	一一	〇.八八四六	〇.九八五五
三	〇.九九四七	〇.九九五六	一二	〇.八八三五	〇.九八四四
四	〇.九九三三	〇.九九四二	一三	〇.八八二四	〇.九八三三
五	〇.九九一九	〇.九九二八	一四	〇.八八一三	〇.九八二二
六	〇.九九〇六	〇.九九一五	一五	〇.八八〇二	〇.九八一一
七	〇.九八九四	〇.九九〇三	一六	〇.八七九二	〇.九八〇一
八	〇.九八八二	〇.九八九一	一七	〇.九八一八	〇.九七九一

一八	〇・九七七二	〇・九七八一
一九	〇・九七六二	〇・九七七一
二〇	〇・九七五二	〇・九七六一
二一	〇・九七四二	〇・九七五一
二二	〇・九七三二	〇・九七四一
二三	〇・九七二二	〇・九七三一
二四	〇・九七一二	〇・九七二一
二五	〇・九七〇二	〇・九七一一
二六	〇・九六九一	〇・九七〇〇
二七	〇・九六八〇	〇・九六八九
二八	〇・九六六九	〇・九六七八
二九	〇・九六五八	〇・九六六七
三〇	〇・九六四七	〇・九六五六
三一	〇・九六三五	〇・九六四四
三二	〇・九六二三	〇・九六三二
三三	〇・九六一一	〇・九六二〇
三四	〇・九五九九	〇・九六〇八
三五	〇・九五八六	〇・九五九五
三六	〇・九五七三	〇・九五八二
三七	〇・九五五九	〇・九五六八
三八	〇・九五四五	〇・九五五四
三九	〇・九五三〇	〇・九五三九
四〇	〇・九五一四	〇・九五二三
四一	〇・九四九八	〇・九五〇七
四二	〇・九四八二	〇・九四九一
四三	〇・九四六五	〇・九四七四
四四	〇・九四四九	〇・九四五七
四五	〇・九四三二	〇・九四四〇
四六	〇・九四一四	〇・九四二二
四七	〇・九三九六	〇・九四〇四
四八	〇・九三七八	〇・九三八六
四九	〇・九三五九	〇・九三六七
五〇	〇・九三四〇	〇・九三四八
五一	〇・九三二一	〇・九三二九
五二	〇・九三〇一	〇・九三〇九
五三	〇・九二八一	〇・九二八九
五四	〇・九二六一	〇・九二六九
五五	〇・九二四〇	〇・九二四八
五六	〇・九二一九	〇・九二二七
五七	〇・九一九八	〇・九二〇六
五八	〇・九一七七	〇・九一八五
五九	〇・九一五五	〇・九一六三
六〇	〇・九一三三	〇・九一四一
六一	〇・九一一一	〇・九一一九
六二	〇・九〇八八	〇・九〇九六
六三	〇・九〇六五	〇・九〇七三
六四	〇・九〇四二	〇・九〇五〇
六五	〇・九〇一九	〇・九〇二七
六六	〇・八九九五	〇・九〇〇三
六七	〇・八九七一	〇・八九七九
六八	〇・八九四八	〇・八九五六
六九	〇・八九二四	〇・八九三二
七〇	〇・八八九九	〇・八九〇七
七一	〇・八八七四	〇・八八八二
七二	〇・八八四八	〇・八八五六
七三	〇・八八二三	〇・八八三一
七四	〇・八七九七	〇・八八〇五
七五	〇・八七七一	〇・八七七九
七六	〇・八七四五	〇・八七五三
七七	〇・八七一八	〇・八七二六
七八	〇・八六九一	〇・八六九九
七九	〇・八六六四	〇・八六七二
八〇	〇・八六三六	〇・八六四四
八一	〇・八六〇九	〇・八六一七
八二	〇・八五八一	〇・八五八九
八三	〇・八五五三	〇・八五六一
八四	〇・八五二四	〇・八五三二
八五	〇・八四九四	〇・八五〇二
八六	〇・八四六四	〇・八四七二
八七	〇・八四三四	〇・八四四二
八八	〇・八四〇三	〇・八四一一
八九	〇・八三七一	〇・八三七九
九〇	〇・八三三九	〇・八三四六
九一	〇・八三〇五	〇・八三一二
九二	〇・八二七〇	〇・八二七七
九三	〇・八二三五	〇・八二四二
九四	〇・八一九八	〇・八二〇五
九五	〇・八一六一	〇・八一六八
九六	〇・八一二二	〇・八一二九
九七	〇・八〇八〇	〇・八〇八七
九八	〇・八〇三六	〇・八〇四三
九九	〇・七九八九	〇・七九九六
一〇〇	〇・七九四〇	〇・七九四七

第二表　純蔗糖ノ水溶液（温度攝氏十七度半ノトキニ於ケル重量百分率ニ依ル）

純蔗糖百分率	密度	温度攝氏十七度半ノ水ニ對スル比重
〇	〇・九九八七	一・〇〇〇〇
一	一・〇〇二六	一・〇〇三九
二	一・〇〇六五	一・〇〇七八
三	一・〇一〇四	一・〇一一七
四	一・〇一四四	一・〇一五七
五	一・〇一八四	一・〇一九七
六	一・〇二二四	一・〇二三七
七	一・〇二六四	一・〇二七八
八	一・〇三〇五	一・〇三一八
九	一・〇三四六	一・〇三五九
一〇	一・〇三八七	一・〇四〇一
一一	一・〇四二九	一・〇四四二
一二	一・〇四七〇	一・〇四八四
一三	一・〇五一三	一・〇五二六
一四	一・〇五五五	一・〇五六九
一五	一・〇五九八	一・〇六一二
一六	一・〇六四一	一・〇六五五
一七	一・〇六八四	一・〇六九八
一八	一・〇七二八	一・〇七四二
一九	一・〇七七二	一・〇七八六
二〇	一・〇八一七	一・〇八三一
二一	一・〇八六一	一・〇八七五
二二	一・〇九〇六	一・〇九二〇
二三	一・〇九五二	一・〇九六六
二四	一・〇九九七	一・一〇一二
二五	一・一〇四三	一・一〇五八
二六	一・一〇九〇	一・一一〇四
二七	一・一一三六	一・一一五一
二八	一・一一八三	一・一一九八
二九	一・一二三一	一・一二四五
三〇	一・一二七八	一・一二九三
三一	一・一三二六	一・一三四一
三二	一・一三七五	一・一三八九
三三	一・一四二三	一・一四三八
三四	一・一四七二	一・一四八七
三五	一・一五二二	一・一五三七
三六	一・一五七二	一・一五八七
三七	一・一六二二	一・一六三七
三八	一・一六七二	一・一六八七
三九	一・一七二三	一・一七三八
四〇	一・一七七四	一・一七九〇
四一	一・一八二六	一・一八四一
四二	一・一八七八	一・一八九三
四三	一・一九三〇	一・一九四六
四四	一・一九八三	一・一九九八
四五	一・二〇三六	一・二〇五一
四六	一・二〇八九	一・二一〇五
四七	一・二一四三	一・二一五九
四八	一・二一九七	一・二二一三
四九	一・二二五二	一・二二六八
五〇	一・二三〇七	一・二三二三
五一	一・二三六二	一・二三七八
五二	一・二四一七	一・二四三四
五三	一・二四七三	一・二四九〇
五四	一・二五三〇	一・二五四六
五五	一・二五八七	一・二六〇三
五六	一・二六四四	一・二六六〇
五七	一・二七〇一	一・二七一八
五八	一・二七五九	一・二七七六
五九	一・二八一八	一・二八三四
六〇	一・二八七六	一・二八九三
六一	一・二九三六	一・二九五二
六二	一・二九九五	一・三〇一二
六三	一・三〇五五	一・三〇七二
六四	一・三一一五	一・三一三二
六五	一・三一七六	一・三一九三
六六	一・三二三七	一・三二五四
六七	一・三二九八	一・三三一五
六八	一・三三六〇	一・三三七七
六九	一・三四二二	一・三四三九
七〇	一・三四八四	一・三五〇二
七一	一・三五四七	一・三五六五
七二	一・三六一一	一・三六二八
七三	一・三六七四	一・三六九二
七四	一・三七三八	一・三七五六
七五	一・三八〇三	一・三八二一
七六	一・三八六八	一・三八八六
七七	一・三九三三	一・三九五一
七八	一・三九九八	一・四〇一七
七九	一・四〇六四	一・四〇八三
八〇	一・四一三一	一・四一四九
八一	一・四一九七	一・四二一六
八二	一・四二六五	一・四二八三
八三	一・四三三二	一・四三五一
八四	一・四四〇〇	一・四四一九
八五	一・四四六八	一・四四八七
八六	一・四五三六	一・四五五五
八七	一・四六〇五	一・四六二四
八八	一・四六七五	一・四六九四
八九	一・四七四四	一・四七六三
九〇	一・四八一四	一・四八三四
九一	一・四八八五	一・四九〇四
九二	一・四九五五	一・四九七五
九三	一・五〇二六	一・五〇四六
九四	一・五〇九八	一・五一一七
九五	一・五一六九	一・五一八九
九六	一・五二四二	一・五二六一
九七	一・五三一四	一・五三三四
九八	一・五三八七	一・五四〇七
九九	一・五四六〇	一・五四八〇
一〇〇	一・五五三三	一・五五五三

第三表　度量衡器計量器委託販賣者保證金

一年販賣高	保證金額	一年販賣高	保證金額
三百圓以下ノモノ	一〇〇圓	五千圓以下ノモノ	一、五九〇圓
五百圓以下ノモノ	一七〇	六千圓以下ノモノ	一、八五〇
千圓以下ノモノ	三三〇	七千圓以下ノモノ	二、一〇〇
二千圓以下ノモノ	六七〇	八千圓以下ノモノ	二、三四〇
三千圓以下ノモノ	一、〇〇〇	九千圓以下ノモノ	二、五五〇
四千圓以下ノモノ	一、三〇〇	一萬圓以下ノモノ	二、七五〇

一萬圓ヲ超過シタル場合ニ於テハ一萬圓迄ヲ增ス毎ニ保證金二千圓ヲ加フ

備考　一年ノ販賣高ハ委託販賣指定ノ場合ニ在リテハ指定申請書添附ノ販賣目論見書記載ノ金額ヲ、其ノ翌年以降ニ在リテハ第二十條ニ規定スル販賣高報告書記載ノ金額ヲ查定ノ上算定ス

第四表　度量衡器

（一）度器		
直尺	曲リ尺	疊尺
卷尺	鏈尺	縮尺
（二）量器		
（イ）枡		
全量		二十ミリリットル
		五十ミリリットル
		一デシリットル
		二デシリットル
		五デシリットル
		一リットル
		二リットル
		五リットル
		十リットル
		二十リットル
（ロ）斗概		
圓壔狀		
板狀		
（ハ）化學用量器		
全量		五十立方センチメートル
		百立方センチメートル
		二百立方センチメートル
		二百五十立方センチメートル
		五百立方センチメートル
		千立方センチメートル
出用	「メスフラスコ」	二千立方センチメートル
		五千立方センチメートル
		一萬立方センチメートル
受用	「メスフラスコ」	二萬五千立方センチメートル
		五萬立方センチメートル
		十萬立方センチメートル
全量ノモノ目盛アルモノ	「ピペット」	一立方センチメートル以上二百立方センチメートル以下各種
全量及其以下ノ目盛アルモノ	「ビュレット」	五立方センチメートル以上百立方センチメートル以下各種
「メスシリンドル」		五立方センチメートル以上二千立方センチメートル以下各種
（ニ）瓦斯メートル		
（ホ）水量メートル		
（三）衡器		
（イ）秤		
天秤	上皿天秤	臺秤（秤量二十キログラム以上各種）
上皿棹秤（秤量二十キログラム未滿各種）		
自働秤	十分秤	棹秤
		臺秤
（ロ）分銅		
重量		一ミリグラム
		二ミリグラム
		五ミリグラム
		十ミリグラム
		二十ミリグラム
		五十ミリグラム
		百ミリグラム
		二百ミリグラム
		五百ミリグラム
		一グラム
		二グラム
		五グラム
		十グラム
		二十グラム
		五十グラム
		百グラム
		二百グラム
		五百グラム
		一キログラム
		二キログラム
		五キログラム
		十キログラム
		二十キログラム
（ハ）錘		
定量錘	定量增錘	〇・〇一カラット
		〇・〇二カラット
		〇・〇五カラット
		〇・一カラット
		〇・二カラット
		〇・二五カラット
		五カラット
		十カラット
		二十カラット
		五十カラット
		百カラット
定量錘		一ミリムラム
		二ミリムラム
		五ミリムラム
		十ミリムラム
		二十ミリムラム
		五十ミリムラム
		百ミリムラム
		二百ミリムラム
		五百ミリムラム
		一グラム
		二グラム
		五グラム
		十グラム
		二十グラム
		五十グラム
		百グラム
		二百グラム
		五百グラム
		一キログラム
		二キログラム
		五キログラム
		十キログラム
		二十キログラム
計量器		
（一）計歷器		
歷力計	眞空計	聯成計

（二）浮秤		
（三）溫度計		
（四）生絲纖度檢定器		
（イ）檢尺器		
（ロ）檢位衡		
（ハ）纖度分銅		
重量		〇・〇一纖度
		〇・〇二纖度
		〇・〇五纖度
		〇・一纖度
		〇・二纖度
		〇・二五纖度
		〇・五纖度
		一纖度
（五）乳脂計		

第五表　度量衡器及計量器ノ公差

度量衡器

（一）度器ノ公差

全長ノ公差

種類	全長	公差
直尺、曲リ尺及疊尺	二分ノ一ミリメートル未滿	〇、五ミリメートル
	五デシメートル以上一メートル以下	
	一メートル超エタルモノ	全長五デシメートル迄ヲ增ス毎ニ全長五デシメートル未滿ノモノノ公差ニ〇・二五ミリメートルヲ加ヘ三ミリメートルニ至リテ止ム
卷尺及鏈尺	五デシメートル以下	
	五デシメートル超エタルモノ	全長一メートル迄ヲ增ス毎ニ全長一メートル以下ノモノノ公差ニ〇・三ミリメートルヲ加ヘ三センチメートルニ至リテ止ム

縮尺二分ノ一ミリメートル以下ノ目盛アル直尺、曲リ尺及疊尺

全長	公差
五デシメートル未滿	〇・二五ミリメートル
五デシメートル以上一メートル以下	全長五デシメートル迄ヲ增ス毎ニ全長五デシメートル未滿ノモノノ公差ニ〇・二五ミリメートルヲ加ヘ三ミリメートルニ至リテ止ム

鏈尺及銅鐵製卷尺

全長	公差
一メートル以下	〇・七ミリメートル
一メートル超エタルモノ	全長一メートル迄ヲ增ス毎ニ全長一メートル以下ノモノノ公差ニ一・五ミリメートルヲ加ヘ一・五デシメートルニ至リテ止ム

銅鐵製卷尺

全長	公差
一メートル以下	〇・二五ミリメートル
一メートル超エタルモノ	全長一メートル迄ヲ增ス毎ニ全長五デシメートル未滿ノモノノ公差ニ〇・二五ミリメートルヲ加ヘ三ミリメートルニ至リテ止ム

分長ノ公差

種類	分長	公差
全長二十メートル未滿ノ度器	全長ノ二分ノ一未滿	全長ノ公差ノ二分ノ一
	全長ノ二分ノ一以上全長ノ四分ノ一未滿	全長ノ公差
	全長ノ四分ノ一未滿	全長ノ公差ノ四分ノ一
全長二十メートル以上ノ度器	全長ノ二分ノ一未滿	全長ノ公差ノ二分ノ一
	全長ノ二分ノ一以上全長ノ四分ノ三未滿	全長ノ公差ノ四分ノ三
	全長ノ四分ノ三以上	全長ノ公差

（二）量器ノ公差

（イ）枡

全量ノ公差

種	分	公差
陶器、磁器、琺瑯塗リ枡以外ノモノ	全量二十ミリリットル以下	全量ノ五十分ノ一
	二十ミリリットル超二デシリットル以下	全量ノ百分ノ一
	二デシリットル超二リットル以下	全量ノ百五十分ノ一
	二リットル超十リットル以下	全量ノ二百五十分ノ一
	十リットル超二十リットル以下	全量ノ四百分ノ一
陶器、磁器、琺瑯塗リ枡	全量二十ミリリットル以下	全量ノ百五十分ノ四
	二十ミリリットル超二デシリットル以下	全量ノ三百分ノ四
	二デシリットル超二リットル以下	全量ノ四百五十分ノ四
	二リットル超十リットル以下	全量ノ七百五十分ノ四
	十リットル超二十リットル以下	全量ノ千二百分ノ四

分量ノ公差

分量	公差
全量ノ二分ノ一未滿	全量ノ公差ノ二分ノ一
全量ノ二分ノ一以上	全量ノ公差

（ロ）化學用量器

全量ノ公差

受用「メスフラスコ」	出用「メスフラスコ」	全量公差	全量公差	全量公差	全量公差
		十立方センチメートル 〇・〇二	五十立方センチメートル 〇・一	二立方センチメートル以下 〇・〇一	十立方センチメートル以下 〇・〇八
		二十五立方センチメートル 〇・〇三	百立方センチメートル以上二百五十立方センチメートル 〇・二	十立方センチメートル以下 〇・〇二	三十立方センチメートル以下 〇・一二
		五十立方センチメートル 〇・〇五	二百五十立方センチメートル以上五百立方センチメートル 〇・三	三十立方センチメートル以下 〇・〇三	五十立方センチメートル以下 〇・二
		百立方センチメートル以上二百五十立方センチメートル 〇・一	五百立方センチメートル以下 〇・六	五十立方センチメートル以下 〇・〇五	百立方センチメートル以下 〇・四
		千立方センチメートル 〇・一五	千立方センチメートル 〇・三	百立方センチメートル以下 〇・一	二百立方センチメートル以下 〇・八
		二千立方センチメートル 〇・五	二千立方センチメートル 一・	二百立方センチメートル以下 〇・二	五百立方センチメートル以下 二・
					千立方センチメートル以下 四・
					二千立方センチメートル以下 八・

分量ノ公差

分量	公差
全量ノ二分ノ一未滿	全量ノ公差ノ二分ノ一
全量ノ二分ノ一以上	全量ノ公差

（八）瓦斯メートル

表ハス量ノ百分ノ二

（ニ）水量メートル

表ハス量ノ百分ノ四

（三）衡器ノ公差

（イ）秤

種類	秤量ノ公差	種類	種類	種類	種類
天秤	秤量ノ二千分ノ一	臺秤	秤量ノ公差ノ二分ノ一	秤量ノ五分ノ一以下ノ重量ノ公差	秤量ノ五分ノ一以下ノ重量ノ公差
	感量ニ相當スル重量	秤量ノ公差ノ二分ノ一	秤量ノ公差以下ノ目盛アル臺秤	秤量ノ公差以下ノ目盛アル上皿桿秤	秤量ノ公差以下ノ目盛アル自働秤
	秤量ノ公差ノ二分ノ一	秤量ノ公差以下ノ重量ニ於テ感スル天秤	最小目盛ノ表ハス重量	最小目盛ノ表ハス重量ノ二分ノ一	最小目盛ノ表ハス重量
	感量ニ相當スル重量	秤量ノ公差ニ於テ秤量ノ公差以下ノ重量ニ感スル上皿天秤及十分秤	秤量ノ千分ノ一	秤量ノ五百分ノ一	秤量ノ二百分ノ一
	秤量ノ公差ノ二分ノ一	秤量ノ公差ニ於テ秤量ノ公差以下ノ重量ニ感スル上皿天秤及十分秤	秤量ノ公差ノ二分ノ一	秤量ノ公差ノ二分ノ一	秤量ノ公差ノ二分ノ一
	秤量ノ千分ノ一		上皿桿秤	上皿桿秤	
	秤量ノ二百分ノ一		秤量ノ二百分ノ一	秤量ノ二百分ノ一	
	秤量又ハ掛量ノ公差以下ノ目盛アル桿秤		秤量ノ公差以下ノ目盛アル桿秤		

（ロ）分銅

重量	公差	重量	公差	重量	公差	重量	公差
五ミリグラム以下 〇・一ミリグラム	百ミリグラム 〇・四ミリグラム	〇・一カラット	〇・二ミリグラム	〇・二五カラット	〇・三ミリグラム	十カラット	三・ミリグラム
二十ミリグラム以下 〇・二ミリグラム	二百ミリグラム 〇・六ミリグラム	〇・〇三カラット	〇・〇四カラット	〇・五カラット	〇・六ミリグラム	二十カラット	四・ミリグラム
五十ミリグラム 〇・三ミリグラム	五百ミリグラム 一・	〇・〇五カラット	〇・〇六カラット	一カラット	一・二ミリグラム	二十五カラット	五・ミリグラム
		〇・一カラット	〇・一二カラット	二カラット	二・四ミリグラム	五十カラット	一〇・ミリグラム
		〇・二カラット	〇・二五カラット	五カラット	三・ミリグラム	百カラット	一五・ミリグラム

重量一グラム以上ノモノノ公差ハ重量百ミリグラム、二百ミリグラム又ハ五百ミリグラムチ十倍シ又ハ之チ十倍スル毎ニ百ミリグラム、二百ミリグラム又ハ五百ミリ

グラムノ公差チ其ノ倍數毎ニ五倍ス

（八）錘

定量	錘	公差
定量增錘	重量ト掛量トノ比カ五十分ノ一若ハ五分ノ一ノモノ又ハ其ノ比カ之ト異ナルモノニシテ重量四百グラム以下ノモノ	重量ノ二千分ノ一
	重量ト掛量トノ比カ五十分ノ一又ハ五分ノ一ニ非サルモノニシテ重量四百グラム超エタルモノ	重量ノ五千分ノ一 重量四百グラムノモノノ公差ニ四百グラムチ超エタル重量ノ一萬分ノ一チ加フ

計量器ノ公差

（一）計壓器ノ公差

偏心型又ハ自記型ノモノニ非サルモノ	最大壓力ノ二十五分ノ一以下ノ目盛アルモノ	最小目盛ノ表ハス壓力ノ二分ノ一
	最大壓力ノ二十五分ノ一チ超エタル目盛アルモノ	最大壓力ノ五十分ノ一
偏心型又ハ自記型ノモノ	最大壓力ノ十分ノ一以下ノ目盛アルモノ	最小目盛ノ表ハス壓力ノ二分ノ一
	最大壓力ノ十分ノ一チ超エタル目盛アルモノ	最大壓力ノ二十分ノ一

（二）浮秤ノ公差

最小目盛ノ表ハス値

（三）溫度計ノ公差

表ハス溫度ノ目盛ニ接スル最小目盛ノ値

（四）生絲纖度檢定器ノ公差

（イ）檢尺器

絲枠ノ周ノ長	四ミリメートル
回轉器	一回ノ計量ニ付絲枠ノ一回轉ノ二分ノ一

（ロ）斗概

圓壔狀	板狀

（三）衡器

公差

〇・二五纖度チ超エタル目盛アルモノ　一二・五ミリグラム

〇・二五纖度以下ノ目盛アルモノ　最小目盛ノ表ハス重量

（八）纖度分銅

公差	公差
〇・〇一纖度	二纖度
〇・〇二纖度	五纖度
〇・〇五纖度	十纖度
〇・一纖度	二十纖度
〇・二纖度	五十纖度
〇・二五纖度	百纖度
〇・五纖度	二百纖度
一纖度	〇・三

第六表　度量衡器

（甲）尺貫法度量衡器

（一）度器

直尺	曲リ尺	疊尺	巻尺	鯨尺	縮尺

（二）量器

（イ）枡

全量

二分ノ一勺	一勺	二勺	五勺	一合	二合	二合五勺	五合
一升	二升	五升	一斗	二斗	二斗五升	三斗	五斗

（ロ）斗概

圓壔狀	板狀

（三）衡器